

長野原一本松遺跡(6)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第40集

— 本文編 —

2013

国 土 交 通 省
公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集

長野原一本松遺跡(6)

ハツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第40集

— 本文編 —

2013

国 土 交 通 省
公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



5・95区全景(上空より)

口絵 2



5・95区調査区状況(北より)



95区 住居検出状況(南より)



95-19号住居跡(南より)



95-3号掘立柱建物跡(南より)



5-8号住居跡埋裏



95-12号住居跡遺物出土状況(南より)



装身具(5-155号住居跡)



装身具(95-5号住居跡)

序

長野原一本松遺跡は、山間を深く刻んで流れる吾妻川を望む段丘上に営まれた遺跡です。当事業団により、平成6年度よりダム工事に係わる発掘調査が本格的に開始されました。

本遺跡は、ハツ場ダム建設に伴う発掘調査として実施された最初の遺跡であり、平成20年度までの足かけ15年に涉って継続的に調査が実施され、群馬県内においても有数な、縄文時代中期を中心とした大規模な環状集落遺跡であることが明らかになりました。

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成20年度をもって一応の終了となり、発掘された多量の遺構・遺物の整理作業が随時行われ、これまでに発掘調査報告書として5冊が刊行されております。

本書『長野原一本松遺跡(6)』は、平成16年度に調査された遺構・遺物の報告となります。調査対象部は環状集落の北側部分にあたり、多くの住居跡、土坑、配石遺構等が発見されております。また大型の掘立柱建物跡が複数検出され、当時の集落景観を考える上でも貴重な資料を提供するものです。

整理作業は、平成17・19・20年度調査分を残すのみとなりました、今後は最終のまとめを行い遺跡の性格を明らかにすべく、調査成果を刊行の予定です。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡内、ひいては群馬県における縄文時代研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成25年3月

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団


理事長 須田 榮 一



例 言

1. 本書はハッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、長野原一本松遺跡の発掘調査報告書である。すでに刊行された報告書の内容は以下のとおりである。
[長野原一本松遺跡1] 2002……平成6～8年度調査成果の報告
[長野原一本松遺跡2] 2007……平成9～11年度調査成果の報告
[長野原一本松遺跡3] 2008……平成12・13年度調査成果の報告
[長野原一本松遺跡4] 2008……平成14年度調査成果の報告
[長野原一本松遺跡5] 2009……平成15年度調査成果の報告
本書(6)は平成16年度調査成果の報告である。
2. 長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字一本松1005-1、1006、1007-1、1007-2、1011、1056、1057-1、1057-2、1070、1071、字久之桐1101に所在する。
3. 発掘調査はハッ場ダム建設工事に伴うもので、建設者(現国土交通省)の委託を受け、群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。
4. 平成16年度の発掘調査期間と調査体制は以下のとおりである。
発掘調査期間 平成16年4月1日～平成16年12月28日
発掘調査面積 16,698㎡
発掘調査担当者 小野和之・柏木一男・原 信行・篠原正洋・瀧川仲男・山川剛史・佐藤享彦
遺跡掘削工事請負 歴史の杜
委託 地上測量 株式会社 測研
5. 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。
整理期間 平成20年度 平成20年5月1日～平成21年3月31日
平成21年度 平成21年4月1日～平成22年3月31日
平成22年度 平成22年12月1日～平成23年3月31日
平成23年度 平成23年9月1日～平成24年3月31日
平成24年度 平成24年4月1日～平成25年3月31日
整理担当 山口逸弘(平成20・22・23年度) 小野和之(平成20～24年度)
6. 本書作成の担当は以下のとおりである。
編集担当 小野和之
本文執筆 山口逸弘 遺物観察表(95区縄文土器)
小野和之 本文および遺物観察表(95区縄文土器を除く)
デジタル編集 齊田智彦
遺物写真撮影 佐藤元彦
保存処理 関 邦一
整理補助員 新保純子 井草峯子 中嶋公江 安ヶ川京美 足立やよい 日野亮子 関 裕子
唐沢美恵子 鈴木理佐
7. 石材鑑定 渡辺弘幸(甘楽郡甘楽町立新屋小学校)

8. 出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
9. 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する。(敬称略)
- 国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、白石光男、富田孝彦、大工原豊

凡 例

1. 長野原一本松遺跡における遺構測量は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いている。
真北方向角は $+0^{\circ}18'38.58''$ (東偏)である。
遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示す。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。
3. 付図を含む遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。
遺構全体図(付図1) 1/200 遺構全体図(付図2) 1/1000 遺構別全体図 1/400
住居跡 1/60 竈・埋甕 1/30 焼土・埋甕 1/20 土坑 1/40または
掘立柱建物 1/60または 1/80 配石 1/40または 1/60 その他は図中に明記
4. 遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。
 - ・土器 1/3または 1/4 土製円盤 1/2
 - ・石器 石皿、台石、丸石等の大型品 1/4または 1/6 打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石等 1/3
石鏃、石錐等 1/1 石核 1/2 垂飾品等の小型品 1/2
 - ・鉄製品・銭貨 1/2
5. 遺構・遺物図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。
遺構 焼土 

- 遺物 石器使用痕  赤彩土器 

 - ・遺物写真の縮率は原則として遺物図とほぼ同じである。
 - ・遺構の計測値単位は原則cmを使用、遺物についても同様である。また石器の重量単位はgを用いた。

目 次

口絵

序

例言・凡例

目次

挿図目次

表目次

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

第1節 発掘調査に至る経緯…………… 1

第2節 発掘調査の方法…………… 2

第3節 基本層序…………… 3

第4節 発掘調査の経過…………… 5

第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 地理的環境…………… 8

第2節 歴史的環境…………… 8

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構・遺物の概要…………… 13

第2節 縄文時代の遺構と遺物…………… 15

1. 住居跡…………… 15

2. 掘立柱建物跡…………… 362

3. 埋糞…………… 390

4. 焼土…………… 390

5. 炉…………… 393

6. 配石…………… 395

7. 土坑…………… 400

8. ビット…………… 448

9. 遺構外出土遺物…………… 480

(1) 土器・土製品…………… 480

(2) 石器・石製品…………… 480

出土遺物観察表…………… 531

第3節 平安時代以降の遺構と遺物

1. 焼土…………… 692

2. 土坑…………… 695

3. 溝・石列…………… 698

4. 出土遺物…………… 718

出土遺物観察表…………… 718

第4章 東中学校進入路 (12区)

第1節 調査経過と調査方法…………… 720

第2節 検出された遺構と遺物…………… 720

遺構一覧表…………… 722

第5章 まとめ

第1節 縄文時代

1. 住居…………… 730

2. 掘立柱建物跡…………… 735

3. 石器…………… 738

自然科学分析編…………… 741

報告書抄録

奥付

挿図目次

第1図	長野県一本松道神位置図	1	第59図	5-153号住居跡出土遺物4	66
第2図	グリッド設定図	2	第60図	5-153号住居跡出土遺物5	67
第3図	基本編序	4	第61図	5-154号住居跡1	68
第4図	長野県一本松道跡調査区及び経通図	7	第62図	5-154号住居跡2	69
第5図	周辺の道跡	折り込み	第63図	5-154号住居跡出土遺物1	70
第6図	長野県一本松道跡全体図	14	第64図	5-154号住居跡出土遺物2	71
第7図	5-8号住居跡1	16	第65図	5-155号住居跡1	72
第8図	5-8号住居跡2	17	第66図	5-155号住居跡2	73
第9図	5-8号住居跡出土遺物1	17	第67図	5-155号住居跡3	74
第10図	5-8号住居跡出土遺物2	18	第68図	5-155号住居跡出土遺物1	75
第11図	5-8号住居跡出土遺物3	19	第69図	5-155号住居跡出土遺物2	76
第12図	5-8号住居跡出土遺物4	20	第70図	5-155号住居跡出土遺物3	77
第13図	5-146号住居跡	21	第71図	5-155号住居跡出土遺物4	78
第14図	5-146号住居跡出土遺物1	22	第72図	5-155号住居跡出土遺物5	79
第15図	5-146号住居跡出土遺物2	23	第73図	5-155号住居跡出土遺物6	80
第16図	5-147号住居跡	24	第74図	5-155号住居跡出土遺物7	81
第17図	5-147号住居跡出土遺物	25	第75図	5-155号住居跡出土遺物8	82
第18図	5-148号住居跡1	26	第76図	5-155号住居跡出土遺物9	83
第19図	5-148号住居跡2	27	第77図	5-155号住居跡出土遺物10	84
第20図	5-148号住居跡出土遺物	28	第78図	5-156号住居跡1	85
第21図	5-149号住居跡1	29	第79図	5-156号住居跡2	86
第22図	5-149号住居跡2	30	第80図	5-156号住居跡3	87
第23図	5-149号住居跡出土遺物1	31	第81図	5-156号住居跡出土遺物1	88
第24図	5-149号住居跡出土遺物2	32	第82図	5-156号住居跡出土遺物2	89
第25図	5-149号住居跡出土遺物3	33	第83図	5-156号住居跡出土遺物3	90
第26図	5-150号住居跡1	34	第84図	5-156号住居跡出土遺物4	91
第27図	5-150号住居跡2	35	第85図	5-156号住居跡出土遺物5	92
第28図	5-150号住居跡3	36	第86図	95-5号住居跡1	93
第29図	5-150号住居跡4	37	第87図	95-5号住居跡2	94
第30図	5-150号住居跡出土遺物1	38	第88図	95-5号住居跡3	95
第31図	5-150号住居跡出土遺物2	39	第89図	95-5号住居跡出土遺物1	96
第32図	5-150号住居跡出土遺物3	40	第90図	95-5号住居跡出土遺物2	97
第33図	5-150号住居跡出土遺物4	41	第91図	95-5号住居跡出土遺物3	98
第34図	5-150号住居跡出土遺物5	42	第92図	95-5号住居跡出土遺物4	99
第35図	5-150号住居跡出土遺物6	43	第93図	95-5号住居跡出土遺物5	100
第36図	5-150号住居跡出土遺物7	44	第94図	95-5号住居跡出土遺物6	101
第37図	5-150号住居跡出土遺物8	45	第95図	95-12号住居跡1	102
第38図	5-150号住居跡出土遺物9	46	第96図	95-12号住居跡2	103
第39図	5-150号住居跡出土遺物10	47	第97図	95-12号住居跡出土遺物1	104
第40図	5-150号住居跡出土遺物11	48	第98図	95-12号住居跡出土遺物2	105
第41図	5-150号住居跡出土遺物12	49	第99図	95-12号住居跡出土遺物3	106
第42図	5-151号住居跡1	50	第100図	95-12号住居跡出土遺物4	107
第43図	5-151号住居跡2	51	第101図	95-12号住居跡出土遺物5	108
第44図	5-151号住居跡出土遺物	51	第102図	95-13号住居跡1	109
第45図	5-152号住居跡1	52	第103図	95-13号住居跡2	110
第46図	5-152号住居跡2	53	第104図	95-13号住居跡3	111
第47図	5-152号住居跡3	54	第105図	95-13号住居跡出土遺物1	112
第48図	5-152号住居跡出土遺物1	55	第106図	95-13号住居跡出土遺物2	113
第49図	5-152号住居跡出土遺物2	56	第107図	95-13号住居跡出土遺物3	114
第50図	5-152号住居跡出土遺物3	57	第108図	95-13号住居跡出土遺物4	115
第51図	5-152号住居跡出土遺物4	58	第109図	95-13号住居跡出土遺物5	116
第52図	5-152号住居跡出土遺物5	59	第110図	95-13号住居跡出土遺物6	117
第53図	5-153号住居跡1	60	第111図	95-13号住居跡出土遺物7	118
第54図	5-153号住居跡2	61	第112図	95-13号住居跡出土遺物8	119
第55図	5-153号住居跡3	62	第113図	95-14号住居跡1	120
第56図	5-153号住居跡出土遺物1	63	第114図	95-14号住居跡2	121
第57図	5-153号住居跡出土遺物2	64	第115図	95-14号住居跡3	122
第58図	5-153号住居跡出土遺物3	65	第116図	95-14号住居跡4	123

第1170#	95-14号住居跡出土遺物(1)	124	第1800#	95-20号住居跡出土遺物(9)	186
第1180#	95-14号住居跡出土遺物(2)	125	第1810#	95-20号住居跡出土遺物(10)	187
第1190#	95-14号住居跡出土遺物(3)	126	第1820#	95-20号住居跡出土遺物(11)	188
第1200#	95-14号住居跡出土遺物(4)	127	第1830#	95-20号住居跡出土遺物(12)	189
第1210#	95-14号住居跡出土遺物(5)	128	第1840#	95-20号住居跡出土遺物(13)	190
第1220#	95-15号住居跡(1)	129	第1850#	95-20号住居跡出土遺物(14)	191
第1230#	95-15号住居跡(2)	130	第1860#	95-20号住居跡出土遺物(15)	192
第1240#	95-15号住居跡(3)	131	第1870#	95-20号住居跡出土遺物(16)	193
第1250#	95-15号住居跡出土遺物(1)	132	第1880#	95-21号住居跡	194
第1260#	95-15号住居跡出土遺物(2)	133	第1890#	95-21号住居跡出土遺物	194
第1270#	95-15号住居跡出土遺物(3)	134	第1900#	95-22号住居跡(1)	195
第1280#	95-15号住居跡出土遺物(4)	135	第1910#	95-22号住居跡(2)	196
第1290#	95-15号住居跡出土遺物(5)	136	第1920#	95-22号住居跡出土遺物	197
第1300#	95-15号住居跡出土遺物(6)	137	第1930#	95-23号住居跡(1)	198
第1310#	95-15号住居跡出土遺物(7)	138	第1940#	95-23号住居跡(2)	199
第1320#	95-15号住居跡出土遺物(8)	139	第1950#	95-23号住居跡出土遺物(1)	200
第1330#	95-16号住居跡(1)	140	第1960#	95-23号住居跡出土遺物(2)	201
第1340#	95-16号住居跡(2)	141	第1970#	95-23号住居跡出土遺物(3)	202
第1350#	95-16号住居跡出土遺物	141	第1980#	95-23号住居跡出土遺物(4)	203
第1360#	95-17号住居跡(1)	142	第1990#	95-23号住居跡出土遺物(5)	204
第1370#	95-17号住居跡(2)	143	第2000#	95-24号住居跡	205
第1380#	95-17号住居跡出土遺物(1)	144	第2010#	95-24号住居跡(2)	206
第1390#	95-17号住居跡出土遺物(2)	145	第2020#	95-24号住居跡(3)	207
第1400#	95-18号住居跡(1)	146	第2030#	95-24号住居跡出土遺物(1)	208
第1410#	95-18号住居跡(2)	147	第2040#	95-24号住居跡出土遺物(2)	209
第1420#	95-18号住居跡(3)	148	第2050#	95-25号住居跡(1)	210
第1430#	95-18号住居跡(4)	149	第2060#	95-25号住居跡(2)	211
第1440#	95-18号住居跡(5)	150	第2070#	95-25号住居跡出土遺物(1)	212
第1450#	95-18号住居跡(6)	151	第2080#	95-25号住居跡出土遺物(2)	213
第1460#	95-18号住居跡(7)	152	第2090#	95-26号住居跡	214
第1470#	95-18号住居跡出土遺物(1)	153	第2100#	95-26号住居跡出土遺物(1)	215
第1480#	95-18号住居跡出土遺物(2)	154	第2110#	95-26号住居跡出土遺物(2)	216
第1490#	95-18号住居跡出土遺物(3)	155	第2120#	95-27号住居跡	217
第1500#	95-18号住居跡出土遺物(4)	156	第2130#	95-27号住居跡出土遺物(1)	218
第1510#	95-18号住居跡出土遺物(5)	157	第2140#	95-27号住居跡出土遺物(2)	219
第1520#	95-18号住居跡出土遺物(6)	158	第2150#	95-28号住居跡	220
第1530#	95-18号住居跡出土遺物(7)	159	第2160#	95-28号住居跡出土遺物	221
第1540#	95-18号住居跡出土遺物(8)	160	第2170#	95-29号住居跡	222
第1550#	95-18号住居跡出土遺物(9)	161	第2180#	95-29号住居跡出土遺物(1)	223
第1560#	95-19号住居跡(1)	162	第2190#	95-29号住居跡出土遺物(2)	224
第1570#	95-19号住居跡(2)	163	第2200#	95-29号住居跡出土遺物(3)	225
第1580#	95-19号住居跡(3)	164	第2210#	95-30号住居跡(1)	226
第1590#	95-19号住居跡(4)	165	第2220#	95-30号住居跡(2)	227
第1600#	95-19号住居跡(5)	166	第2230#	95-30号住居跡(3)	228
第1610#	95-19号住居跡(6)	167	第2240#	95-30号住居跡(4)	229
第1620#	95-19号住居跡(7)	168	第2250#	95-30号住居跡(5)	230
第1630#	95-19号住居跡出土遺物(1)	169	第2260#	95-30号住居跡出土遺物(1)	231
第1640#	95-19号住居跡出土遺物(2)	170	第2270#	95-30号住居跡出土遺物(2)	232
第1650#	95-19号住居跡出土遺物(3)	171	第2280#	95-30号住居跡出土遺物(3)	233
第1660#	95-19号住居跡出土遺物(4)	172	第2290#	95-30号住居跡出土遺物(4)	234
第1670#	95-19号住居跡出土遺物(5)	173	第2300#	95-30号住居跡出土遺物(5)	235
第1680#	95-20号住居跡(1)	174	第2310#	95-30号住居跡出土遺物(6)	236
第1690#	95-20号住居跡(2)	175	第2320#	95-30号住居跡出土遺物(7)	237
第1700#	95-20号住居跡(3)	176	第2330#	95-30号住居跡出土遺物(8)	238
第1710#	95-20号住居跡(4)	177	第2340#	95-30号住居跡出土遺物(9)	239
第1720#	95-20号住居跡出土遺物(1)	178	第2350#	95-31号住居跡(1)	240
第1730#	95-20号住居跡出土遺物(2)	179	第2360#	95-31号住居跡(2)	241
第1740#	95-20号住居跡出土遺物(3)	180	第2370#	95-31・33号住居跡出土遺物	241
第1750#	95-20号住居跡出土遺物(4)	181	第2380#	95-32号住居跡	242
第1760#	95-20号住居跡出土遺物(5)	182	第2390#	95-32号住居跡(2)	243
第1770#	95-20号住居跡出土遺物(6)	183	第2400#	95-33号住居跡	244
第1780#	95-20号住居跡出土遺物(7)	184	第2410#	95-34号住居跡	245
第1790#	95-20号住居跡出土遺物(8)	185	第2420#	95-34号住居跡出土遺物	246

第243册	95-35号住居跡(1)	247	第306册	95-49号住居跡出土遺物	304
第244册	95-35号住居跡(2)	248	第307册	95-50号住居跡	305
第245册	95-35号住居跡出土遺物(1)	249	第308册	95-50号住居跡出土遺物	306
第246册	95-35号住居跡出土遺物(2)	250	第309册	95-51号住居跡	307
第247册	95-36号住居跡	251	第310册	95-51号住居跡出土遺物	308
第248册	95-37号住居跡	251	第311册	95-52号住居跡	309
第249册	95-36・37号住居跡出土遺物	252	第312册	95-52号住居跡(2)	310
第250册	95-38号住居跡	253	第313册	95-52号住居跡出土遺物	310
第251册	95-38号住居跡出土遺物(1)	254	第314册	95-53号住居跡	311
第252册	95-38号住居跡出土遺物(2)	255	第315册	95-53号住居跡出土遺物(1)	312
第253册	95-38号住居跡出土遺物(3)	256	第316册	95-53号住居跡出土遺物(2)	313
第254册	95-39号住居跡	257	第317册	95-53号住居跡出土遺物(3)	314
第255册	95-39号住居跡出土遺物	258	第318册	95-54号住居跡(1)	315
第256册	95-40号住居跡(1)	259	第319册	95-54号住居跡(2)	316
第257册	95-40号住居跡(2)	260	第320册	95-54号住居跡(3)	317
第258册	95-40号住居跡(3)	261	第321册	95-54号住居跡(4)	318
第259册	95-40号住居跡出土遺物	262	第322册	95-54号住居跡出土遺物(1)	319
第260册	95-41号住居跡(1)	263	第323册	95-54号住居跡出土遺物(2)	320
第261册	95-41号住居跡(2)	264	第324册	95-54号住居跡出土遺物(3)	321
第262册	95-41号住居跡出土遺物(1)	265	第325册	95-54号住居跡出土遺物(4)	322
第263册	95-41号住居跡出土遺物(2)	266	第326册	95-54号住居跡出土遺物(5)	323
第264册	95-41号住居跡出土遺物(3)	267	第327册	95-55号住居跡	324
第265册	95-42号住居跡	268	第328册	95-55号住居跡出土遺物	325
第266册	95-42号住居跡出土遺物	268	第329册	95-56号住居跡(1)	326
第267册	95-43号住居跡	269	第330册	95-56号住居跡(2)	327
第268册	95-43号住居跡出土遺物	269	第331册	95-56号住居跡(3)	328
第269册	95-44号住居跡(1)	270	第332册	95-56号住居跡(4)	329
第270册	95-44号住居跡(2)	271	第333册	95-56号住居跡(5)	330
第271册	95-44号住居跡(3)	272	第334册	95-56号住居跡(6)	331
第272册	95-44号住居跡(4)	273	第335册	95-56号住居跡出土遺物(1)	332
第273册	95-44号住居跡出土遺物(1)	274	第336册	95-56号住居跡出土遺物(2)	333
第274册	95-44号住居跡出土遺物(2)	275	第337册	95-56号住居跡出土遺物(3)	334
第275册	95-44号住居跡出土遺物(3)	276	第338册	95-56号住居跡出土遺物(4)	335
第276册	95-44号住居跡出土遺物(4)	277	第339册	95-56号住居跡出土遺物(5)	336
第277册	95-44号住居跡出土遺物(5)	278	第340册	95-56号住居跡出土遺物(6)	337
第278册	95-44号住居跡出土遺物(6)	279	第341册	95-56号住居跡出土遺物(7)	338
第279册	95-45号住居跡	280	第342册	95-56号住居跡出土遺物(8)	339
第280册	95-45号住居跡出土遺物	280	第343册	95-56号住居跡出土遺物(9)	340
第281册	95-46号住居跡	281	第344册	95-56号住居跡出土遺物(10)	341
第282册	95-46号住居跡出土遺物(1)	282	第345册	95-56号住居跡出土遺物(11)	342
第283册	95-46号住居跡出土遺物(2)	283	第346册	95-56号住居跡出土遺物(12)	343
第284册	95-46号住居跡出土遺物(3)	284	第347册	95-56号住居跡出土遺物(13)	344
第285册	95-47号住居跡(1)	284	第348册	95-57号住居跡(1)	345
第286册	95-47号住居跡(2)	285	第349册	95-57号住居跡(2)	346
第287册	95-47号住居跡(3)	286	第350册	95-57号住居跡(3)	347
第288册	95-47号住居跡(4)	287	第351册	95-57号住居跡(4)	348
第289册	95-47号住居跡出土遺物(1)	288	第352册	95-57号住居跡(5)	349
第290册	95-47号住居跡出土遺物(2)	289	第353册	95-57号住居跡出土遺物(1)	350
第291册	95-47号住居跡出土遺物(3)	290	第354册	95-57号住居跡出土遺物(2)	351
第292册	95-47号住居跡出土遺物(4)	291	第355册	95-57号住居跡出土遺物(3)	352
第293册	95-47号住居跡出土遺物(5)	292	第356册	95-57号住居跡出土遺物(4)	353
第294册	95-47号住居跡出土遺物(6)	293	第357册	95-57号住居跡出土遺物(5)	354
第295册	95-47号住居跡出土遺物(7)	294	第358册	95-57号住居跡出土遺物(6)	355
第296册	95-47号住居跡出土遺物(8)	295	第359册	95-58号住居跡(1)	356
第297册	95-48号住居跡(1)	296	第360册	95-58号住居跡(2)	357
第298册	95-48号住居跡(2)	297	第361册	95-58号住居跡出土遺物(1)	358
第299册	95-48号住居跡(3)	298	第362册	95-58号住居跡出土遺物(2)	359
第300册	95-48号住居跡出土遺物(1)	299	第363册	95-59号住居跡	359
第301册	95-48号住居跡出土遺物(2)	300	第364册	95-59号住居跡出土遺物	360
第302册	95-48号住居跡出土遺物(3)	301	第365册	95-60号住居跡	361
第303册	95-48号住居跡出土遺物(4)	302	第366册	95-60号住居跡出土遺物	361
第304册	95-48号住居跡出土遺物(5)	303	第367册	5・95区(福立柱建物跡全体群(縄文時代))	折込込み
第305册	95-49号住居跡	304	第368册	5-2号福立柱建物跡(1)	365

第369段	5-2号孤立柱建物跡②	366	第432段	95区土坑⑩	432
第370段	5-3号孤立柱建物跡	367	第433段	95区土坑⑪	433
第371段	5-2・3号孤立柱建物跡出土遺物	368	第434段	95区土坑⑫	434
第372段	5-4号孤立柱建物跡①	370	第435段	95区土坑⑬	435
第373段	5-4号孤立柱建物跡②	371	第436段	95区土坑⑭	436
第374段	5-4号孤立柱建物跡出土遺物①	372	第437段	95区土坑⑮	437
第375段	5-4号孤立柱建物跡出土遺物②	373	第438段	5区土坑出土遺物①	438
第376段	5-5号孤立柱建物跡①	374	第439段	5区土坑出土遺物②	439
第377段	5-5号孤立柱建物跡②	375	第440段	5区土坑出土遺物③	440
第378段	5-5号孤立柱建物跡出土遺物	375	第441段	5区土坑出土遺物④	441
第379段	5-8号孤立柱建物跡	376	第442段	5区土坑出土遺物⑤	442
第380段	95-3号孤立柱建物跡①	377	第443段	5区土坑出土遺物⑥	443
第381段	95-3号孤立柱建物跡②	378	第444段	5区土坑出土遺物⑦	444
第382段	95-3号孤立柱建物跡③	折り込み	第445段	5区土坑出土遺物⑧	445
第383段	95-3号孤立柱建物跡④	381	第446段	5区土坑出土遺物⑨	446
第384段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物①	382	第447段	5区土坑出土遺物⑩	447
第385段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物②	383	第448段	5区土坑出土遺物⑪	448
第386段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物③	384	第449段	95区土坑出土遺物①	449
第387段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物④	385	第450段	95区土坑出土遺物②	450
第388段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物⑤	386	第451段	95区土坑出土遺物③	451
第389段	95-3号孤立柱建物跡出土遺物⑥	387	第452段	95区土坑出土遺物④	452
第390段	95-4号孤立柱建物跡	388	第453段	95区土坑出土遺物⑤	453
第391段	95-4号孤立柱建物跡出土遺物	389	第454段	95区土坑出土遺物⑥	454
第392段	5-15号埋裏、95-1・3号埋裏、95-1号礎土	391	第455段	95区土坑出土遺物⑦	455
第393段	5-15号埋裏出土遺物	393	第456段	95区土坑出土遺物⑧	456
第394段	95-1・3号埋裏出土遺物	393	第457段	95区土坑出土遺物⑨	457
第395段	95-10~13号礎土	394	第458段	95区土坑出土遺物⑩	458
第396段	95-14~16号礎土	395	第459段	95区土坑出土遺物⑪	459
第397段	95-1・7号礎土出土遺物	396	第460段	95区土坑出土遺物⑫	460
第398段	95-10・11・13~16号礎土出土遺物	397	第461段	95区土坑出土遺物⑬	461
第399段	95-17号礎土・1・2号配石	398	第462段	95区土坑出土遺物⑭	462
第400段	95-17号础出土遺物	398	第463段	95区土坑出土遺物⑮	463
第401段	95-1・2号配石出土遺物	399	第464段	95区土坑出土遺物⑯	464
第402段	5・95区土坑全体図(縄文時代)	折り込み	第465段	95区土坑出土遺物⑰	465
第403段	5区土坑①	403	第466段	95区土坑出土遺物⑱	466
第404段	5区土坑②	404	第467段	95区土坑出土遺物⑲	467
第405段	5区土坑③	405	第468段	95区土坑出土遺物⑳	468
第406段	5区土坑④	406	第469段	95区土坑出土遺物㉑	469
第407段	5区土坑⑤	407	第470段	95区土坑出土遺物㉒	470
第408段	5区土坑⑥	408	第471段	95区土坑出土遺物㉓	471
第409段	5区土坑⑦	409	第472段	95区土坑出土遺物㉔	472
第410段	5区土坑⑧	410	第473段	95区土坑出土遺物㉕	473
第411段	5区土坑⑨	411	第474段	95区土坑出土遺物㉖	474
第412段	5区土坑⑩	412	第475段	5区ピット①	475
第413段	5区土坑⑪	413	第476段	5区ピット②	476
第414段	95区土坑①	414	第477段	5・95区ピット③	477
第415段	95区土坑②	415	第478段	95区ピット④	478
第416段	95区土坑③	416	第479段	95区ピット⑤	479
第417段	95区土坑④	417	第480段	5・95区ピット出土遺物	480
第418段	95区土坑⑤	418	第481段	5区遺構外出土土器①	481
第419段	95区土坑⑥	419	第482段	5区遺構外出土土器②	482
第420段	95区土坑⑦	420	第483段	5区遺構外出土土器③	483
第421段	95区土坑⑧	421	第484段	5区遺構外出土土器④	484
第422段	95区土坑⑨	422	第485段	5区遺構外出土土器⑤	485
第423段	95区土坑⑩	423	第486段	5・19区遺構外出土土器⑥	486
第424段	95区土坑⑪	424	第487段	95区遺構外出土土器①	487
第425段	95区土坑⑫	425	第488段	95区遺構外出土土器②	488
第426段	95区土坑⑬	426	第489段	95区遺構外出土土器③	489
第427段	95区土坑⑭	427	第490段	95区遺構外出土土器④	490
第428段	95区土坑⑮	428	第491段	95区遺構外出土土器⑤	491
第429段	95区土坑⑯	429	第492段	95区遺構外出土土器⑥	492
第430段	95区土坑⑰	430	第493段	95区遺構外出土土器⑦	493
第431段	95区土坑⑱	431	第494段	95区遺構外出土土器⑧	494

第495図	95区道構外出土土器⑨	495	第529図	95区道構外出土土器⑩	529
第496図	95区道構外出土土器⑩	496	第530図	95区道構外出土土器⑪	530
第497図	95区道構外出土土器⑪	497	第531図	5・95区全体図(平安時代以降)	折り込み
第498図	95区道構外出土土器⑫	498	第532図	5区礎土	696
第499図	95区道構外出土土器⑬	499	第533図	5・95区礎土	697
第500図	95区道構外出土土器⑭	500	第534図	5・6号地土出土遺物	698
第501図	95区道構外出土土器⑮	501	第535図	5区土坑(平安時代以降)(1)	699
第502図	95区道構外出土土器⑯	502	第536図	5区土坑(平安時代以降)(2)	700
第503図	95区道構外出土土器⑰	503	第537図	5区土坑(平安時代以降)(3)	701
第504図	5区道構外出土土器⑱	504	第538図	5区土坑(平安時代以降)(4)	702
第505図	5区道構外出土土器⑳	505	第539図	8・17・18区土坑(平安時代以降)	703
第506図	5区道構外出土土器㉑	506	第540図	18区土坑(平安時代以降)	704
第507図	5区道構外出土土器㉒	507	第541図	18・19区土坑(平安時代以降)	705
第508図	5区道構外出土土器㉓	508	第542図	19区土坑(平安時代以降)	706
第509図	5区道構外出土土器㉔	509	第543図	95区土坑(平安時代以降)(1)	707
第510図	5区道構外出土土器㉕	510	第544図	95区土坑(平安時代以降)(2)	708
第511図	5区道構外出土土器㉖	511	第545図	95区土坑(平安時代以降)(3)	709
第512図	5区道構外出土土器㉗	512	第546図	95区土坑(平安時代以降)(4)	710
第513図	95区道構外出土土器①	513	第547図	95区土坑(平安時代以降)(5)	711
第514図	95区道構外出土土器②	514	第548図	95区土坑(平安時代以降)(6)	712
第515図	95区道構外出土土器③	515	第549図	95区土坑(平安時代以降)(7)	713
第516図	95区道構外出土土器④	516	第550図	95区土坑(平安時代以降)(8)	714
第517図	95区道構外出土土器⑤	517	第551図	8・17～19区トレンチ及び土坑全体図	715
第518図	95区道構外出土土器⑥	518	第552図	5・1号石列、95-2号溝	716
第519図	95区道構外出土土器⑦	519	第553図	5・95区銅磁器	717
第520図	95区道構外出土土器⑧	520	第554図	5・95区金属製品	718
第521図	95区道構外出土土器⑨	521	第555図	12K(東中学校進入路)全体図	721
第522図	95区道構外出土土器⑩	522	第556図	住居全体図	731
第523図	95区道構外出土土器⑪	523	第557図	時期別全体図	732
第524図	95区道構外出土土器⑫	524	第558図	土坑全体図	733
第525図	95区道構外出土土器⑬	525	第559図	掘立柱建物跡全体図	737
第526図	95区道構外出土土器⑭	526	第560図	石器組成グラフ	739
第527図	95区道構外出土土器⑮	527	付図1	長野原一本松遺跡全体図(平成6～16年度)	
第528図	95区道構外出土土器⑯	528	付図2	5・95区長野原一本松遺跡全体図(平成16年度)	

表 目 次

表1	調査工程表	6	表4	出土遺物観察表(平安時代以降)	718
表2	周辺の道跡一覧表	12	表5	遺構一覧表	722
表3	出土遺物観察表(縄文時代)	531			

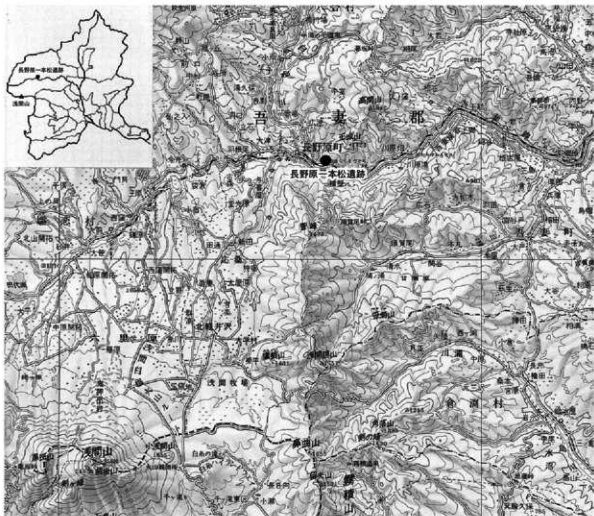
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

第1節 発掘調査に至る経緯

昭和27年に建設計画が発表された以降、国、県、地元との間で協議が行われて来たハッ場ダムであるが、平成4年に、群馬県と地元長野原町との間で「ハッ場ダム建設事業に係わる基本協定」及び「用地補償調査に関する協定」が締結され、ダム建設事業が本格的に始動した。

こうしたことを受け、国土交通省（元建設省）と群馬県教育委員会及び長野原町教育委員会で協議を重ね、「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の実施に関する協定書」を締結、平成6年4月には関東建設局と群馬県教育委員会教育長により発掘調査の受託契約が行われ、さらに群馬県教育委員会と群馬県埋蔵文化財調査事業団との間において発掘調査の受託契約が行われ発掘調査事業の開始となった。

長野原一本松遺跡の発掘調査は、平成6年より開始され、平成20年まで継続して調査を行った。平成16年度は、主に台地の南東部分および北西台地上部分の調査を実施、調査区としては5区の南側部分および95区に掛かる部分および、代替地の西側にあたる7・8区および17～19区にあたる。5・95区の調査では、環状集落中心部の構造の一端を明らかにすることができた。特に遺構の集中する範囲では重複する大小の住居跡と共に数多くの土坑が作られており、中期後半から後期に至る集落の変遷を伺い知ることができる。



第1図 長野原一本松遺跡位置図

国土地理院1/200,000「長野」使用

第2節 発掘調査の方法

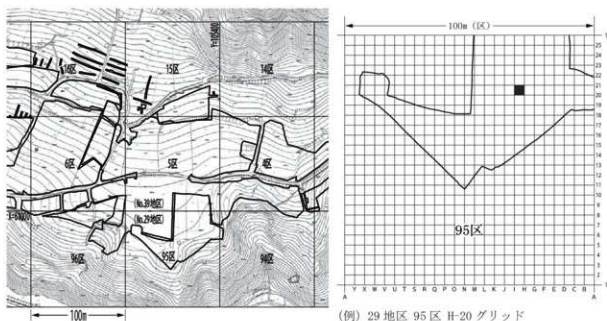
長野原一本松遺跡の発掘調査にあたっては、調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。測量方眼設定にあたっては、日本平面直角座標第Ⅸ系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3……と数字を付し25まで、西方向へはA・B・C……とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点（例えばA-1）を付け○区A-1と呼ぶこととした。（大グリッドの地区名は略）

なお、住居、土坑等の遺構番号については100m方眼の中グリッドである「区」毎に、1から付番し、前年度からの続き番号を使用している。このため年度をまたいで調査を行った同一遺構については先行調査時の番号を用いている。本書中の遺構名は5区1号住居跡は5-1号住居跡と記載した。

発掘調査の手順は、事前に調査対象区域を委託者側立ち会いの下で範囲および上物等の確認を行った。調査では、まず重機によって表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。場所により2ないし3面以上の調査が必要な場合があり、特に谷地部分については黒色土の堆積状況により表土除去時には注意を払った。

遺構確認作業後掘削に入り、新しい時代の遺構から掘り下げを行った。また黒色土の堆積が厚く遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、掘り下げを行った。遺物については遺構内のものは、極力出土位置に留めて掘削を行い、遺構等の確認ができな部分については、4m方眼のグリッド毎に取り上げを行った。



(例) 29地区 95区 H-20グリッド

第2図 グリッド設定図

第3節 基本層序

長野原一本松遺跡は、吾妻川左岸の上位河岸段丘上に立地する。この段丘は西に位置する浅間山起源の堆積物「応桑泥流」を、吾妻川が浸食して形成されたものと考えられている。この堆積物が、本遺跡の基盤層を成している。この「応桑泥流」下には泥流発生直前に降下したとされる、As - BP（浅間 - 板鼻褐色軽石）BP18,000年頃が、さらにその下位にはAT層（始良火山灰）BP25,000年頃が想定される。また、「応桑泥流」上層に堆積するローム中に観察される浅間山給源の軽石層は、浅間 - 白糸軽石（As - SP）、BP18,000年頃、およびAs - YP（浅間 - 板鼻黄色軽石）BP13,000年頃、As - YPK（浅間 - 草津黄色軽石）BP10,500年頃の各軽石層が確認されている。

本遺跡内で調査時の掘削深度内において、肉眼的に観察されるのは、As - YPKである。基本層序では、Ⅶ-1からⅦ-3層にあたる。このAs - YPK層中、Ⅶ-2層はほぼ純粋の軽石層で、発泡も良く（径10～50mm）、厚さも1～2mの堆積を見る。

Ⅵ層（ローム層）上位には黒褐色から黒色の土が堆積、遺跡の載る台地上においては、基本的に4ないし5層に分層される。Ⅰ層は表土層、現耕作土で厚さは20～30cmである。山林その他の場所では平均30cmの厚さである。Ⅱ層は部分的にAs - A（浅間 - A軽石、天明三年（1783年）降下）の混入が見られる。下位段丘上においては、この天明三年の噴火に伴い発生した泥流（天明泥流）によって覆われた畑跡や建物などが発見されている。本層は軽石の混入が見られるⅡ-1とⅡ-2とに分けられ、Ⅱ-2層上位には灰褐色を呈す、As - KK（浅間柏川テフラ、1,128年）の存在も確認されている。

本遺跡においては12区のトレンチ内において厚さ数cmの層が見られた。また、As - B（浅間B軽石、天仁元年（1108年）およびAs - C（浅間C軽石、4世紀初頭）の存在も想定されているが、降下軸が本地域から南に傾いていることから、明確には確認されていない。また、As - D（浅間D軽石、縄文中期）についても前者同様明確には確認されていない。

Ⅲ層は小軽石が僅かに混入する黒色土で、やや軟質である。この層において確認される遺構として陥し穴がある。平面形は楕円形で下部平面形は長方形を呈するものが多い、上部がロート状に大きく開く。

ⅡおよびⅢ層は比較的平坦な台地上では、ほぼ均一な層厚を示すが、谷地部、一部傾斜面部においては急激に厚さを増している。今次の調査においては95区の谷地部分がこれに相当する。

これと対照的に、一部急斜面部においては、表土下にⅡ・Ⅲ層をほとんど認めない状況がある。地形的な要素と多分に雨水等による自然作用が考えられる。

Ⅳ層は白色および黄色軽石を含む黒色土で、やや大粒の軽石も混入する。主に縄文時代の遺構確認面となるが、厚い部分においては遺物の出土が多いものの、遺構の検出については困難な状況もある。

Ⅴ層はいわゆるローム漸移層である。若干の軽石を含み、比較的締まった安定した層と言える。Ⅳ層が厚い場所においては縄文の遺構確認面となる。

以下、Ⅵ層はローム層で、Ⅵ-1（ソフトローム）、Ⅵ-2（ハードローム）に大別できる。長野原一本松遺跡における遺構の構築層である。

平成16年度の調査対象地である5区および95区については、台地の南端部にあたり、遺構の集中している比較的平坦な部分から谷に向かう斜面部にあたる。平坦部においては攪乱等も見られたが、比較的安定した状態で自然礫の混入なども無く、Ⅲ層を確認面とする陥し穴や、平安時代と思われる焼土遺構などを確認した。

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

縄文時代の遺構に関しては基本的にIV層で確認を行い、掘立柱建物跡に関しては、かなり上面において、炉等の検出を見た。



基本層序

台地部

- I層 現表土 As - Aを混入する耕作土。
- II - 1層 暗褐色土 色調やや茶色がかる。As - Aを多量混入し、I層に類似するが硬まり強い。
- II - 2層 黒褐色土 色調やや灰色がかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。土壌粒子が細かく、サラサラする。
- III層 黒色土 白色や黄色などの小軽石粒を微量混入する他は、全体的に混入物を殆ど含まない。硬まりなく軟質。
- IV層 黒褐色土 白色や黄色などを呈する粒径約1~5mm前後の小軽石粒やローム粒を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が看取される部分がある。
- V層 暗褐色土 ローム漸移層。軽石粒を微少量混入する。(一部にIV層との漸移的な層も含む。)
- VI層 黄褐色ローム (VI - 1層) : ソフトローム (VI - 2層) : ハードローム
- VII層 黄褐色砂質土 粒径約1~3mm前後の小軽石粒による砂質土。硬化しており、ブロック状の堆積部分も看取される。(VII - 2'層 As - Yf%、軽石の二次堆積層。台地部の特定範囲で確認される。)
- VIII層 As - Yf% (VIII - 1層) 赤褐色・黄褐色・灰白色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うもので、硬化しているアッシュ。 (VIII - 2層) 洗間 - 草津黄色軽石層。風化などにより、色調が白色がかる部分もある。粒径は概ね約10 - 50mm前後の幅が看取される。 (VIII - 3層) 橙色・赤褐色・灰色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うアッシュ。
- IX層 黄褐色ローム X層に類似するが、軽石の量が少ない。
- X層 黄褐色ローム ロームを主体に、軽石粒を多量混入する。
- XI層 黄褐色ローム 色調がやや白色がかる。As - BPと思われる軽石と小角礫を少量混入する。
- XII層 「応鹿沢流堆積物」 赤色・青色スコリアを多量混入する。

沢地部

- 1層 暗褐色土 色調がやや茶色がかる。現表土。
- 2層 黒色土 礫を少多量混入する。土質は、台地部のIII層に類似する。
- 3層 黒褐色土 植物質の遺伝子を多量混入する肥炭質土で、少量の湧水がある。
- 4層 礫層 小角礫を主体とする赤褐色土との混土層。赤褐色土は実質したロームで、台地部のVI層相当と思われる。
- 5層 砂礫層 砂礫を主体とする黒褐色土との混土層で湧水がある。

第3図 基本層序

第4節 発掘調査の経過

本節では調査経過の概略を記すこととする。調査は4月に開始し12月末で終了した。

4月

調査区内立木伐採後、調査開始、5区、96区の表土除去後遺構の確認作業を行う。調査区北西部、耕作等による攪乱多く見られる。焼土検出。

5月

Ⅲ層上面において陥し穴数基検出。黒色土中に多量の土器（大型品含む）及び石器出土。5区において住居、土坑を検出、重複多く調査難航。陥し穴調査継続。単独の埋喪等を検出。調査区の東側に作業道確保し調査を実施。

6月

住居跡は北端において重複する95-12・13号住居跡を検出、調査。12号住居、埋喪、床に伏せ甍出土。さらに8点の黒曜石原石まとまって出土。95-3号掘立柱確認、柱穴調査、柱痕明瞭。かに続き埋喪を検出。95-19号住居、柄鏡型の敷石住居と判明、主体部方形巡る周縁。小学生による体験発掘実施。

7月

5区の住居、堀方を残しほぼ終了。陥し穴と見られる5区土坑の調査終了。95-18・20号住居、上層に多量の土器、石器出土。重複住居と確認、20号が新。95-1号焼土調査、厚く堆積した焼土下に土坑、大型土器が潰れた状態で出土。5-4・5号掘立柱調査、4号は3カ所の地床炉を持つ可能性が出てきた。5号掘立柱は亀甲型を呈す。柱痕を残すもの、根巻き石の残るもの有り。

8月

95区住居および土坑の調査、住居、重複多く前後関係把握に努めるも、困難を伴う。南側の縁辺部調査に入る。引き続き谷地斜面部分の表土掘削、中段面に95-35号住居（後期）を検出。土器炉を有す。谷地部下位の調査を行う。黒色土の堆積厚く、遺物の出土も多い。翡翠大珠出土。

9月

95区住居ほぼ確認終了、谷地部分の掘り下げ、遺構の確認終了。作業道としていた調査区東側部分の掘削開始、遺構の確認を行う。住居、土坑多数検出。調査区南東部に数件の楕円形を呈す小型住居を確認。

10月

縁辺部の95区40～47号住居の調査を継続。谷地際に構築された住居については、南側はほとんど失われているものが多い。また、厚く堆積した黒色土の掘り下げを行ったところ、住居が確認されている。

11月

調査区内の遺構について、一部を残しほぼ掘り上げが終了したため、空撮による全景写真の撮影を行う。撮影後、住居の堀方調査を開始、その結果、多くの住居について炉の作り替えや拡張の痕跡が認められた。また、柱穴についても拡張前のものと思われるものが検出された。中には3回の建て替えないしは拡張の痕跡を残すものが認められた。貼り床を持つ住居も多かったが、部分的なものが多い。17・18・19区の調査。

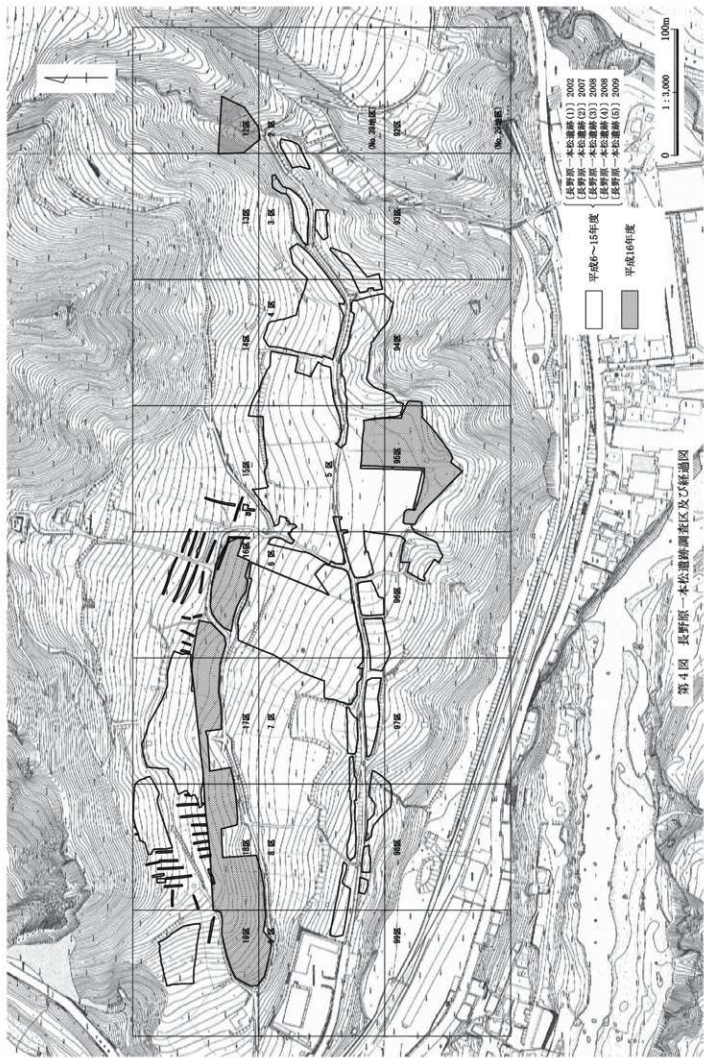
12月

遺構の検出ほぼ終了し、掘り方調査を進める。床下土坑の検出された住居も見られる。旧石器の試掘調査を実施。遺物の出土は見られなかった。12月17日にて調査終了。埋め戻し、撤収作業を行う。

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

表1 調査工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
5-8住										平8年度に一部調査
5-146住										埋蔵物出土
5-147住										
5-148住										
5-149住										
5-150住										陥し穴重複
5-151住										
5-152住										
5-153住										
5-154住										
5-155住										埋蔵
5-156住										入り口部に平石が成立 平14年度に一部調査
95-5住										埋蔵、伏魔出土、黒曜石類石
95-12住										
95-13住										
95-14住										
95-15住										埋蔵
95-16住										
95-17住										
95-18住										
95-19住										方形に陥る周縁
95-20住										埋蔵、大型住居
95-21住										
95-22住										
95-23住										
95-24住										
95-25住										
95-26住										
95-27住										
95-28住										
95-29住										
95-30住										
95-31住										
95-32住										
95-33住										
95-34住										
95-35住										
95-36住										小型構内形住居
95-37住										
95-38住										
95-39住										
95-40住										大型住居
95-41住										
95-42住										
95-43住										
95-44住										
95-45住										小型構内形住居
95-46住										
95-47住										
95-48住										
95-49住										円形に陥る周縁
95-50住										
95-51住										
95-52住										
95-53住										床面に炭化棟定
95-54住										掘土内に大量の輝石
95-55住										
95-56住										
95-57住										
95-58住										
95-59住										
95-60住										
5区竪立										4号竪立併、埋蔵あり
95区竪立										3号竪立併、埋蔵あり
5区埋蔵										
95区埋蔵										
5区焼土										
95区焼土										1号焼土内大型土器出土
5区土坑										1面に陥し穴9基
8区土坑										
17区土坑										
18区土坑										
19区土坑										
95区土坑										1面に陥し穴18基
東中道入跡										12区内、トレンチ調査
その他										



第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 地理的環境

長野原一本松遺跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡城の南西部に広がる町である。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を国道145号線が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬭恋方面に別れる。古くは草津道として川の右岸側を通過していた。

遺跡に立って周囲を臨むと南には川を隔てて須賀尾峠、丸岩を、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。いずれも現在も活発に活動している日本でも有数の活火山として知られている。

町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に源を発して東に流れ、町城のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第3紀層を深く刻んで吾妻渓谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

長野原一本松遺跡が乗る台地は吾妻川左岸の河岸段丘上で、左岸側にあっては比較的平坦で開けた場所でもある。

遺跡地の地形は北側の山から傾斜する台地がやや南傾斜を持つ舌状地形を為し、東西および南側が谷地形となっており、下位段丘面には現在 JR の長野原草津口駅、長野原町立東中学校等が、やはり比較的平坦な舌状地形となっている。吾妻川はこの台地の南を大きく迂回する形で流れている。

遺跡地内の地形をさらに詳細に見ると、集落の中心部分が位置する場所の標高は635m前後である。この集落のある舌状台地は南への張り出しに比して横幅を有す、東にもやや狭いながら同様の地形が見られるが、遺構の広がりはほとんど見られない。さらに東側には、この台地の東縁を区切る「とちのき沢」が谷を作り吾妻川に流れ込んでいる。この沢を隔てた東側が幸神遺跡である。

また、この付近は遺跡地の南側がかなり急崖であるのに対し、西側については平坦部分こそ幅狭となつてはいるが、比較的緩やかな傾斜をもって続いており、現在でも遺跡地に入る道路はこの場所の南側に沿って作られている。

遺跡の西側約500mには、六合村方面から流れ下る白砂川が吾妻川に合流しており、流れ込む支流としては大きな河川の一つである。

第2節 歴史的環境

長野原町における遺跡調査の先駆けは昭和29年に行われた湯場木遺跡が揚げられる。同遺跡では中期後半の竪穴住居1軒が調査されており、「湯場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。

その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩陰遺跡が鉄道工事に伴い調査が行われている。昭和62年からは八ッ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および町教育委員会によって行われ、183カ所の遺跡（包蔵地）が報告されている。

また、昭和63年の榑Ⅱ遺跡の調査をはじめとし多く発掘調査が町教育委員会によって行われている。平成6年からは、当事業団による八ッ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、本遺跡を初め、対岸の横壁中村遺跡、久々戸遺跡、林楯木遺跡、中棚遺跡等々新たな遺跡の調査が実施され、縄文時代から近世にかけての調査が行われ現在に至っている。

以下、長野原一本松遺跡周辺の主な遺跡を概観しておきたい。なお、地図上の細線は遺跡の範囲を、太線で囲まれた部分は各調査年次毎の調査区を示している。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。しかしながら表探採ながら横壁



第5図 周辺の遺跡

中村遺跡の石椀や川原畑石畑岩陰遺跡・林検木Ⅱ遺跡の草創期の土器群などが見つかっており、その存在の可能性は決して低くはないと思われる。

縄文時代

長野原一本松遺跡の南側を東流する吾妻川は、ハッ場地区を南北に分ける大きな自然的要因であったと考えられる。本遺跡を含め兩岸の上下段丘上、さらには川に注ぐ沢筋に面した場所に多くの遺跡が存在する。

先述したように草創期、早期の遺物に関しては近年の調査で発見が相次ぐようになってきた。林検木Ⅱ遺跡・立馬Ⅱ遺跡等で草創期後半の燃糸文土器や早期の押型文土器などが出土している。また岩陰遺跡等も知られ、石畑岩陰遺跡（注）などで多縄文系の土器が出土している。これらの遺跡では早期未から前期初頭の繊維土器なども見られる。右岸側の遺跡では現在のところ草創期、早期の遺跡はほとんど見られない。

前期については早期未から後半にかけての花積下層式、関山式、諸磯式土器等が出土している。

中期になると遺跡は拡大し、兩岸の比較的広い地を求めて居住するようになる。初頭から前半にかけての遺跡は林検木Ⅱ、立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡で住居、土坑が検出されている。横壁中村遺跡においてもわずかではあるが遺構の検出が見られる。中葉から後半になると遺跡数、遺構数は増え本遺跡と横壁中村遺跡は吾妻川を隔てて対峙する大集落となる。この時期の遺跡としては他に左岸では上ノ平Ⅰ遺跡が右岸では横壁中村遺跡の上流に接して位置する山根Ⅰ・Ⅲ遺跡があるもののその規模は前述した2遺跡に比すれば小規模である。平成21年度に調査が行われた林中原Ⅱ遺跡では、中期後半から後期にかけての弧状列石や住居跡が数多く検出され、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡に肩を並べる程の集落であることが判明した。当該遺跡では複数の墓坑内に土器と共に人骨が検出されるなど注目される。

後期に入ると前半くらいまでは長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡では引き続き集落の継続が見られ、林中原Ⅱ・上原Ⅰ・Ⅳ遺跡で住居等が見られる。晩期については長野原一本松遺跡ではほとんど見られないが、横壁中村遺跡では多くの遺物が見られる。左岸では下原Ⅱ遺跡、立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡で、右岸では久々戸遺跡で少量の土器が出土、やや下った川原湯勝沼遺跡では晩期末から弥生前期の甕棺墓等が検出されている。

弥生時代の遺跡は少ないものの、前期の遺物は川原湯勝沼遺跡で見られ、中期については横壁中村遺跡、立馬Ⅱ遺跡で出土している。平成22年度に調査を行った尾坂遺跡においても土坑等が検出されており、今後その数は増えてゆくものと考えられる。長野原一本松遺跡においても若干の前期の土器片が出土している。また、中期後半期の遺物は横壁中村遺跡、後期後半の遺物は下原Ⅱ遺跡において僅かながら出土が見られる。

古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていなかったが、下原遺跡、林中原遺跡で中期の住居跡が発見され注目される。古墳に関しては現在のところ確認はされていない。

奈良・平安時代の遺跡は長野原一本松、検木Ⅱ、花畑、立馬Ⅰ、三平Ⅰ、川原湯勝沼、横壁中村遺跡等で住居が検出されている。時期は9世紀から10世紀を中心としている。この時期の遺構の調査数は近年増しており、沢沼の奥まった場所にもかかわらず、集落が構成されている。

中世に関しては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、中棚Ⅱ遺跡等で遺構・遺物が検出されている。周辺に見られる城郭跡としては西に白砂川を隔てて長野原城が位置し、川を挟んだ南には柳沢城が位置している。

吾妻川左岸に位置する林城では城郭の一部、土橋、掘立柱建物等が調査された。近世の遺跡は兩岸の下位段丘において久々戸、尾坂、中棚、下原、川原湯勝沼遺跡等において天明三年の浅間山噴火に伴う泥流に埋まった建物や畑が検出されている。

・参考文献 長野原町教育委員会 1990「長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—」

第2章 地理的及び歴史的環境

表2 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書名
1	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡。大型の竪石建物、竪石住居などを検出。平安時代の住居、中世の竪石柱建物や多くの土器などが出土している。	平6～17・19～20年度、埋文事業調査調査 本稿は平16年度調査分の報告	③(財形探検)
2	本陣遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑、竪石。	平8・9・17年度埋文事業調査調査	
3	尾道遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・近世	天明3年産流下の竪・建跡跡。中世の竪石柱建物跡。縄文・平安時代の住居、土坑、弥生時代の土坑等。	平6・7・11・18・22年度、埋文事業調査調査	
4	御旗山石垣	長野原町林	縄文・弥生	石垣遺跡。		
5	峰つ沢石垣	長野原町林	縄文?	石垣遺跡。打石所出土。		
6	楯本1遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
7	楯本2遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落。前期、中世の住居。平安時代の住居跡	平11・12年度、埋文事業調査調査	
8	楯本3遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代中期～後期、弥生時代の住居群。	平9年度、埋文事業調査調査	
9	須賀原石垣	長野原町林	中世・近世	石垣遺跡。「須賀原」の守り土佐郡あり。		
10	一反石垣	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う土坑跡。近世木造、礎石。(旧大塚原宮跡)	平12年度、埋文事業調査調査	③
11	中柳1遺跡	長野原町林	縄文・平安	散布地		
12	中柳2遺跡	長野原町林	古墳	天明3年産流下の竪、および安永九年と考えられる埋没物等。	平11～13年度、埋文事業調査調査	③(財)
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明3年(1743)産流下の竪、中世の竪、古墳時代の遺物等。	平12・16年度、埋文事業調査調査	③
14	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住跡跡1、平安時代の住跡跡6、土坑6。	平15年度、町教委調査	古教委2004
15	林中1遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の竪石住居、竪石土器。	平15年度、町教委調査	
16	林中2遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住跡跡。竪石土器。	平9・12年度、埋文事業調査調査	
17	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
18	上原1遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の竪石住居跡。	平15年度、町教委調査	
19	上原2遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
20	上原3遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
21	上原4遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の竪石住居、竪石土器。	平15年度、埋文事業調査調査	
22	花原遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住跡跡。竪石土器。	平9・12年度、埋文事業調査調査	
23	林の跡跡	長野原町林	中世・近世	竪石(礎石)「林」(竪石)の遺物として検出された土器入られる。古墳の可能性も。	長野原町指定	
24	東原1遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、竪石。	平6・9年度、埋文事業調査調査	
25	東原2遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10年度埋文事業調査調査	
26	東原3遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
27	立馬1遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期～中期の住跡跡。弥生時代中期後半の土器片。	平13・14年度、埋文事業調査調査	③
28	立馬2遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期～後期の土器、石器、平安時代の住跡跡9、中世後半の住跡跡1、平安時代前期の竪石穴等。	平14・15年度、埋文事業調査調査	③
29	川原湯石垣遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代後期の埋没土器片、竪石土器出土。	平15・16年度、埋文事業調査調査	③
30	榎原前遺跡	長野原町榎原	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、竪石先頭部出土。	平6・7年度、埋文事業調査調査	
31	榎原中村遺跡	長野原町榎原	縄文・弥生平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡。縄文時代後期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺物・土器。	平8～17年度、埋文事業調査調査	③(財形探検)
32	山根1遺跡	長野原町榎原	縄文・平安	散布地、竪石、石器、石礫などの石器類出土。		
33	山根2遺跡	長野原町榎原	平安・近世	散布地。		
34	山根3遺跡	長野原町榎原	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑調査。	平10・13年度、埋文事業調査調査	
35	山根4遺跡	長野原町榎原	縄文・近世	石器出土		
36	西久保1遺跡	長野原町榎原	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出	平6・10・12年度、埋文事業調査調査	
37	西久保2遺跡	長野原町榎原	平安	散布地。		
38	西久保3遺跡	長野原町榎原	縄文	散布地。		
39	西久保4遺跡	長野原町榎原	縄文	天明産流下の竪。縄文時代の土坑等。	平23年度、埋文事業調査調査	
40	柳沢城跡	長野原町榎原	中世	別荘一帯跡とされる特殊な礎石、竪石、竪石、土坑などを検出。常滑、瀬戸、美濃、会州産。さらに平安朝磁土器出土。	平5年度、町教委調査	
41	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明3年産流下の竪、建跡跡。縄文時代の土器片。	平9・10・15年度、埋文事業調査調査	③(財)
42	内原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生平安	縄文時代中期後半～後期の住跡跡3軒・竪石2軒・土坑跡。弥生時代中期の土坑。平安時代の住跡跡10軒を検出。	平5年度、町教委調査	
43	楯本1遺跡	長野原町長野原	近世	天明産流下の竪跡、近世の陶磁器片。	平16年度、町教委調査	古教委2004
44	楯本2遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期の土器片、石器出土。		
45	楯本3遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の石器、石礫等出土。		
46	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土壇や竪石・礎石などが残る。長野原合戦の舞台となる。		
47	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明3年産流下の竪。	平成23年度、埋文事業調査調査	

参考文献

- ① 長野原町『長野原町誌』上巻 1976
- ② 長野原町『長野原町の自然』1988
- ③ 群馬県埋文文化財調査事業団『長野原一本松遺跡①』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第1集 2002
- ④ 群馬県埋文文化財調査事業団『ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第2集 2002
- ⑤ 群馬県埋文文化財調査事業団『久々戸遺跡・中柳2遺跡・下原遺跡・榎原中村遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第3集 2003
- ⑥ 群馬県埋文文化財調査事業団『久々戸遺跡②・中柳2遺跡②・西ノ上遺跡・土籠入遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第4集 2004
- ⑦ 群馬県埋文文化財調査事業団『榎原中村遺跡①』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第5集 2005
- ⑧ 群馬県埋文文化財調査事業団『川原湯石垣遺跡②』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第6集 2005
- ⑨ 群馬県埋文文化財調査事業団『榎原中村遺跡①』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第7集 2006
- ⑩ 群馬県埋文文化財調査事業団『立馬1遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第8集 2006
- ⑪ 群馬県埋文文化財調査事業団『上柳2遺跡・廣石入遺跡・一反石垣遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第9集 2006
- ⑫ 群馬県埋文文化財調査事業団『榎原中村遺跡①』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第10集 2006
- ⑬ 群馬県埋文文化財調査事業団『立馬1遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第11集 2006
- ⑭ 群馬県埋文文化財調査事業団『長野原一本松遺跡②』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第15集 2007
- ⑮ 群馬県埋文文化財調査事業団『長野原一本松遺跡③』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第19集 2008
- ⑯ 群馬県埋文文化財調査事業団『長野原一本松遺跡④』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第24集 2009
- ⑰ 群馬県埋文文化財調査事業団『長野原一本松遺跡⑤』ハッ場ダム建設工事に伴う埋文文化財発掘調査報告書第28集 2009

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構・遺物の概要

平成16年度の調査において検出された遺構数は、住居跡62軒（5区12軒、95区50軒）で、総て縄文時代である。土坑421基（5区161基、8区1基、17区1基、18区6基、19区3基、95区249基）で、縄文時代279基、他は平安時代以降に帰属するものである。掘立柱建物跡7棟（5区5棟、95区2棟）で、縄文時代である。屋外埋裏3基（5区2基、95区1基）、炉1基（95-17号炉）、配石2基でいずれも縄文時代である。その他、近世以降と思われる石列（地境の掘削溝）1基、溝1条を検出した。以下その概要を記す。

5・95区は接した区であり、最も遺構が密集して検出されている場所であるため、同範囲内の区として概要を記すこととする。調査区は比較的平坦部分で、南側は台地が張り出し、谷地となる。これまでの調査において検出された住居がほぼ環状に配されている部分の南東部にあたるため、多くの重複する住居および土坑が確認された。遺構の時期は中期後葉～後期前半である。通常の竪穴住居の他、竪穴型敷石住居跡4基、平地式住居1軒、さらには掘立柱建物跡が検出されている。

竪穴型敷石住居は主体部縁辺部に礫を集めて方形あるいは円形に配したものが検出された。掘立柱建物跡は、これまで比較的大型の掘立柱建物跡については、高床式が想定されることが多かったが、今回の調査で明らかに炉を伴うものが複数棟確認されたことから平地式、あるいは仮に高床を想定するとしても、検出された掘立柱建物跡についてはその多くが炉を有していたことを想定させるものである。形状は長方形、亀甲型が見られる。

土坑は、多くが縄文時代に比定されるが、平安時代以降に帰属すると考えられる大型の陥し穴も多く検出された。西側の8・17～19区で検出された土坑はほとんどが陥し穴であった。

屋外の単独埋裏の内2基は掘立柱建物跡に伴う可能性がある。焼土は縄文期のものと平安以降のものが混在していた。当初単独の焼土遺構として調査を行っていたものが、掘立柱建物跡の炉であることも確認されている。配石、炉としたものも検出された、両者は区別しがたいものがあり基本的に焼土を認めたものを炉とした。その他、95-3号掘立柱建物の北側部分に検出された列石は比較的大型の礫を含む石や土器が集中して出土している。やや大型の礫が東西に並んで検出されたことから列石とした。しかしながら、石の置き方や据え方などからいわず列石遺構ではなく、重複する95-3号掘立柱建物との関連が強いものと判断される。炉の北側と南側に比較的大型の礫が弧状に点在し、内側には多くの土器片や石器が出土している。遺構全体が、ほぼ95-3号掘立柱建物跡内に収まることから、本址に関連するものとして記載、遺物は95-3号掘立柱建物跡帰属のものとして記載をした。

調査区の東端部に比較的大型の石が一部直線的に検出され5-1号石列として調査を行ったが、東に延びていたであろう台地を人為的にカットしている場所であると考えられ、近現代の所産である。遺構として扱うものの、遺物に関しては遺構外の遺物として掲載する。

調査区の南端部は段丘崖となり大きく落ち込む、調査区の南端に一部この谷地部分が掛かり調査を行った。現状では比較的なだらかな傾斜を示し、黒色土の堆積が見られた。調査の結果、遺構の検出は見られず、ローム上面まで掘り下げた結果、黒色土中より若干の土器片、礫、石器が出土した。黒色土除去後の比高差は約7mである。主な出土遺物としては土器片、石器片の他ヒスイの大珠が出土している。



第6圖 長野県一本松遺跡全体図

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 住居跡

縄文時代の遺構は今次の調査で主体的に検出されており、その内訳は住居跡62軒（5区12軒、95区50軒）、掘立柱建物跡7棟（5区5棟、95区2棟）、土坑（5区150基、95区129基）、埋喪5基（5区2基、95区3基）、配石2基（95区2基）、焼土14基（5区3基、95区11基）、炉（95区1基）である。これらの遺構の時期は中期後葉から後期前半に収まる。なお、報告において一桁台の住居跡（5-8号住および95-5号住）は過年度にその一部を調査したため、重複を避けるために同番号とした。

住居跡 5区において12軒、95区において50軒の計62軒を調査した。時期は中期後葉から後期前半に比定される。今回の調査区は、これまでに調査を行った5区および95区の南東端にあたり、西側の平成14年度に調査を行った部分に接し、南側は遺跡が載る台地の縁辺部から南に落ち込む谷地部分を含む。

検出された、住居の分布を見ると、これまでの調査により径90m程の環状に配置される住居群の南東部分に当たることとなる。

住居の重複も顕著で、中期後半の住居については時的に近いものが複数軒重なって作られており、建て替えなども頻繁に行われていることが確認されている。炉は方形ないしは円形に川原石を組んでいるものが多く、石を持たない地床炉は少ない。また、周溝や柱穴が重なって検出されていることから建て替えや、拡張が行われた事が伺え、炉についても重複しているものも多く確認されている。炉の作り替えは住居の拡張に伴い北側にずれて新たに作られており、炉石の多くは再利用したものと見られる。

また、住居の規模などについても、柄鏡型を除いた住居の規模を見ると、7mを超えるものが見られる一方、径2m以下のものも散見され、そうした小型の一群は台地の南東端に集中している事も注意される。特に規模の小さい住居（95-36・39・45・55号住等）は南東に延びる根根の端部寄りに隣接して検出されている。長径2.0～2.3m、短径1.5～2.2mの楕円形を呈し、出土遺物はほとんど見られない。

柄鏡型の敷石住居は推定されるものも含め、5軒を検出した。張り出し部は南ないしは南東に延び、主体部の形状は円形、ないしは方形を呈す。何れも後期初頭と見られる。主体部の壁下に沿って多くの小礫が巡る95-19・48号住は注目される。

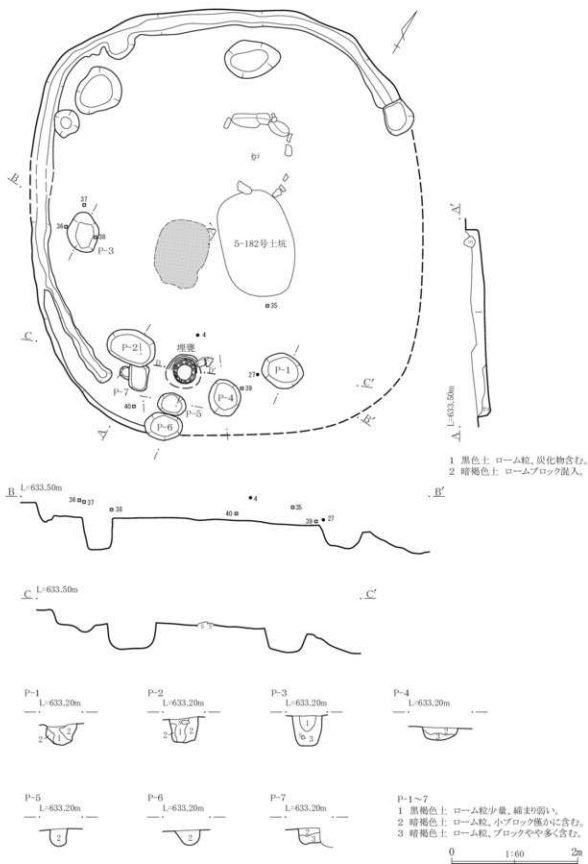
掘立柱建物跡も7棟を検出した。5区と95区にまたがったやや住居が希薄となる部分に、径約20mの範囲に軸方向を変えて構築されている。時期や柱穴の大きさなどに差異が見られることや、近接し過ぎていることなどから見て、時間差は見られるものの、これらが集落内において、重要な機能を有するものであったことは想像に難くない。また、5-4号および95-3号掘立柱建物跡は大型の総柱で、明らかに炉を伴っており新知見の遺構として注目される。

さらに、95-22号住居としたものは、掘り込みは無く、10本の柱穴が長方形に配され、石囲い炉を持つ平地式の住居であり、本遺跡においては類例の見られない遺構である。

以下、検出された住居について記述を行う。

5-8号住居跡（第7～12図：PL.4・126・127）

位置 D・E-5・6グリッドに位置する。重複 中央に5-182号土坑（陥し穴）が重複する。また、覆土上層に点在する焼土が確認されているが、時的的には後世のものと思われる。また、南東部分は近世の

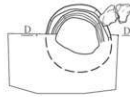


第7図 5-8号住居跡(1)

埋壳



埋壳掘り方



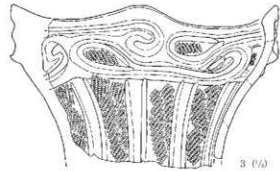
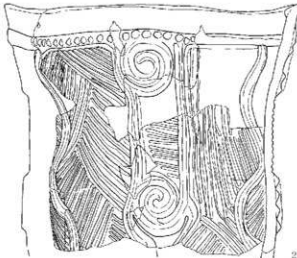
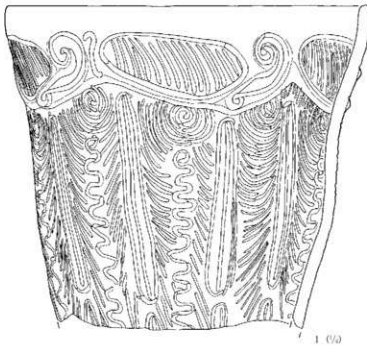
D. L=633.20m D'



- 1 暗黄褐色土 ロームブロック主体とする。
- 2 黒褐色土 褐色の小粒子多く含みや細まりあり。
- 3 黄褐色土 ロームを基調とし、VPK多く含む。
- 4 地山ローム。

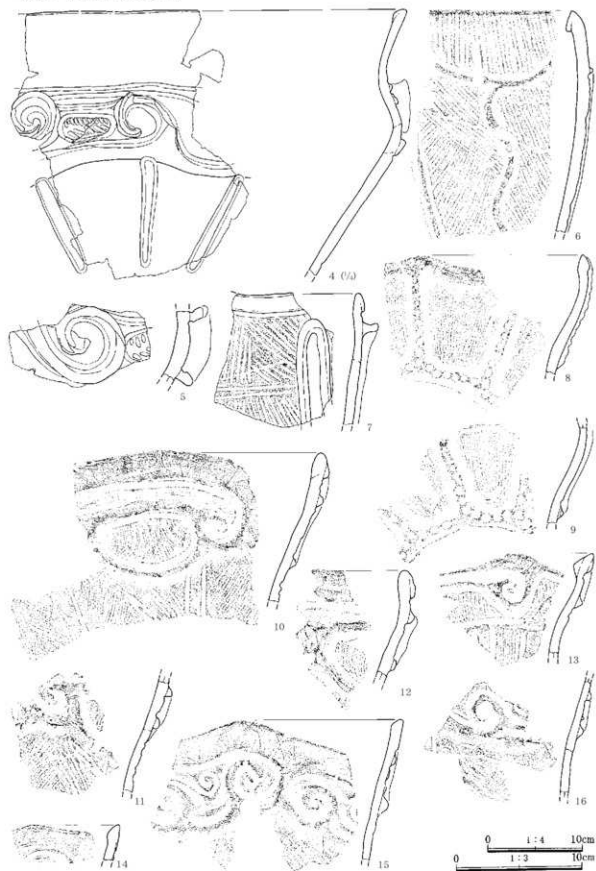
0 1:30 1m

第8図 5-8号住居跡2)

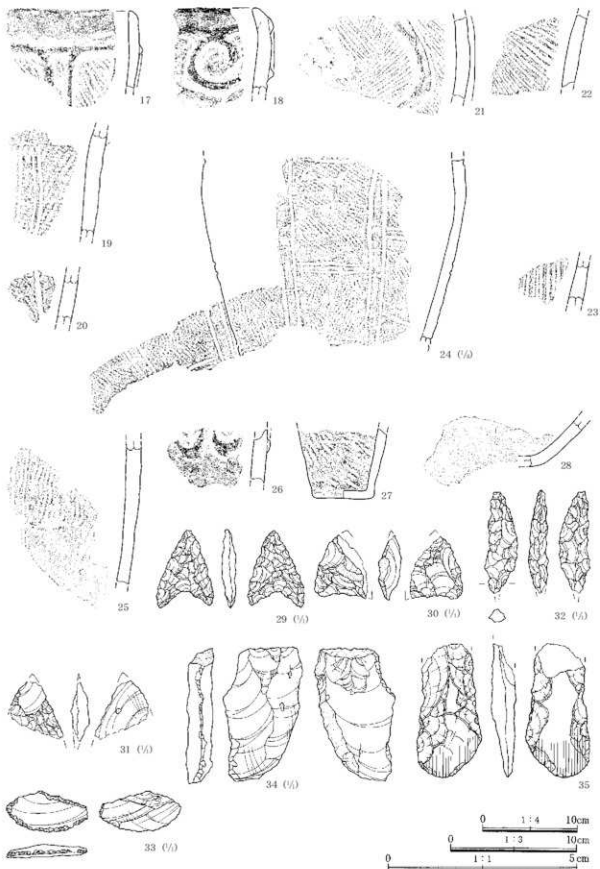


0 1:4 10cm

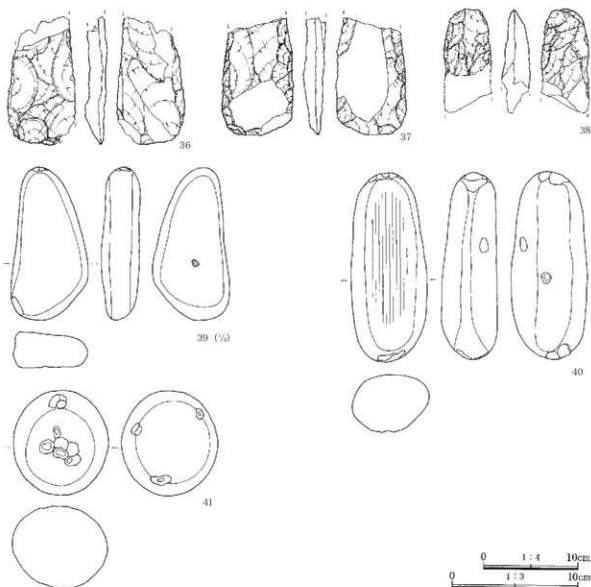
第9図 5-8号住居跡出土遺物1)



第10図 5-8号住居跡出土遺物(2)



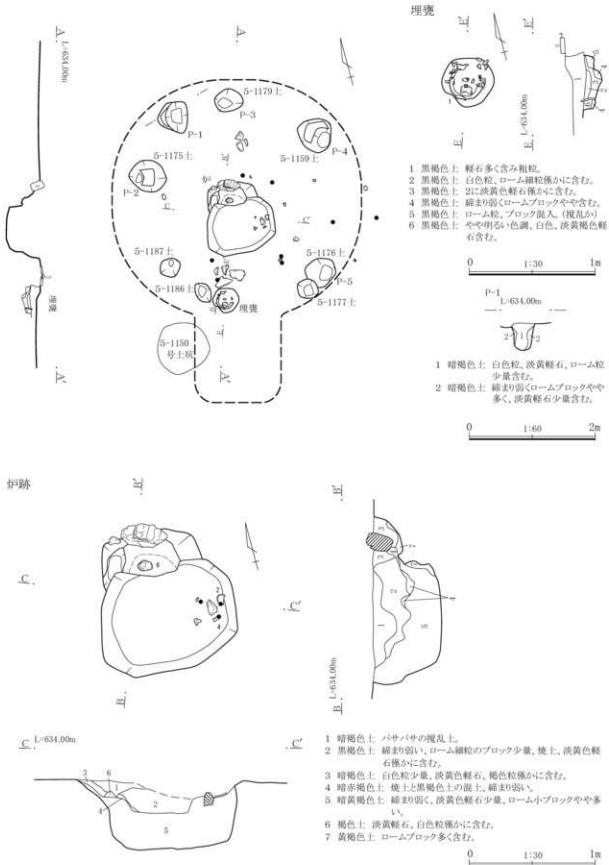
第11図 5-8号住居跡出土遺物(3)



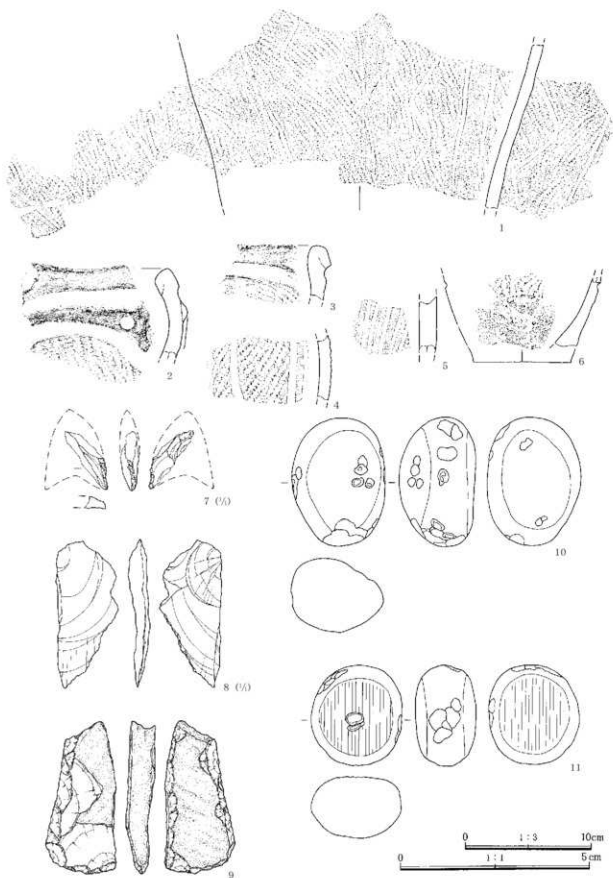
第12図 5-8号住居跡出土遺物(4)

掘削溝により一部削平を受けている。形状 やや隅丸の方形を呈す。規模 680×620×30cm。方位 N-32°-W。床面 壁周溝はほぼ全周していると思われるが、東側部分は削平されているために確認されなかった。床面は平坦で比較的締まっている状況が伺え、特に中央部分は硬く締まる。炉 平成8年度に北側約半分の調査を行った際方形の石組み炉が検出されている。柱穴 今次の調査では4本を検出、このうち柱穴と判断されたものは3本で、平成8年度に調査した北側の柱穴と合わせて7本と考えられる。柱穴と想定されるP-1～3は、いずれもやや楕円形を呈し、長径約70cm、短径約50cm、深さが50cmを測る。埋裏 入り口部に検出、底部を抜いた大型の深鉢が逆位に埋められていた。底部の欠け口部分は丁寧に面取りされており、床面とほぼ同レベルに据えられていた。掘方 幾つかの小ピットが検出されたものの、土坑等は見られない。出土遺物 住居全体の半分の調査で在ったため、点数はあまり多くない。埋裏の他、土器については覆土中より比較的大型の破片類を含め出土している。また、石器は石鏃や打製石斧、磨

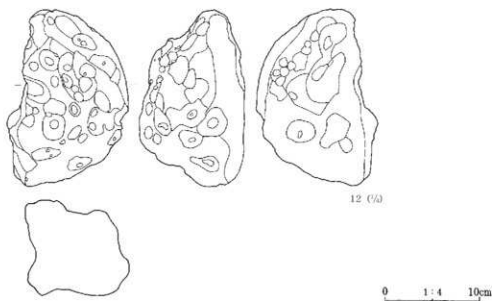
第2節 縄文時代の遺構と遺物



第13図 5-146号住居跡



第14図 5-146号住居跡出土遺物(1)



第15図 5-146号住居跡出土遺物(2)

石等が見られた。

時期・所見 平成8年度に北側部分の調査を実施、長野原一本松遺跡12002において報告されている。遺構図は、すでに報告済みの部分と接合したものである。今回は南側の残り約半分を調査した。南側入り口部に大型土器を逆位に据えた埋裏が検出された。底部を欠いている以外は完存し、欠口部は丁寧な面取りが施される。時期は出土した土器から中期後半である。

5-146号住居跡 (第13~15図：PL.4・127)

位置 H・1-3・4グリッドに位置する。 **重複** 複数の土坑および5-8号掘立柱建物跡が重複する。

形状 不明瞭であるが、柄鏡型の敷石住居であった可能性もある。 **規模** (500) × (400) ×。

方位 N-13°-E。 **床面** 一部に敷石が見られ、他の部分にはあまり硬化した部分は見られなかった。また、壁の立ち上がり、および周溝も確認できなかった。 **炉** 四隅に石を配した方形石組み炉と思われるが、北側の炉石以外は確認されなかった。古い土坑上に重なるように構築されていた。炉の底部には焼土が認められた。

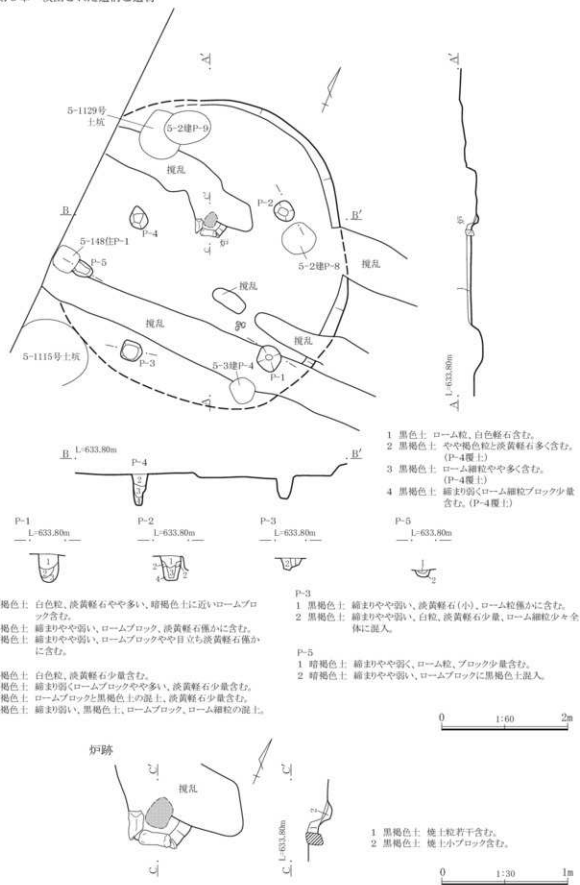
柱穴 住居の推定範囲内に検出された以下の土坑が柱穴と推定される。P-1 (5-1186土)、P-2 (5-1175土)、P-3 (5-1179土)、P-4 (5-1159土)、P-5 (5-1176土)、の5本柱穴と考えられる。径は30~40cmで深さは40cm前後を測る。 **埋裏** 炉の南側、扁平な礎の南に接して、深鉢の胴下半部分が埋められた状態で検出されている。 **掘方** 土坑等は検出されなかった。

出土遺物 遺構全体に削片が著しく、出土遺物はほとんど見られなかった。埋裏1はほぼ全周する深鉢の胴部である。石器に関してはスクレイパー、打製石斧、磨石等が僅かに見られたのみである。

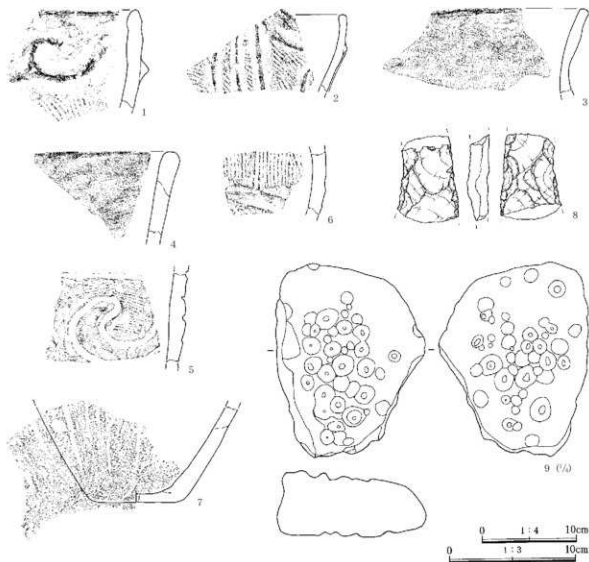
時期・所見 遺構上部は近世の掘乱により荒れた状況である。掘乱土を除いたところ、炉の一部と思われる焼土、および炉体土器が検出されたため住居と判断した。

炉体土器は底が抜かれた深鉢の下半部で底面に浅く埋められた状況である。炉の手前に扁平な礎が敷かれたように数枚検出されており、部分的な敷石を持った敷石住居であった可能性がある。炉体土器から、時期は中期後葉と見られる。

第3章 検出された遺構と遺物



第16図 5-147号住居跡



第17図 5-147号住居跡出土遺物

5-147号住居跡 (第16・17図: PL. 5・128)

位置 L-2・3, M・K-2グリッドに位置する。 **重複** 北側に5-2号掘立柱建物の一部(P-8およびP-9)が重複する。また、西側は5-148号住居跡と重複している。

形状 ほぼ円形を呈す。 **規模** (480) × (480) × 20cm。 **方位** -

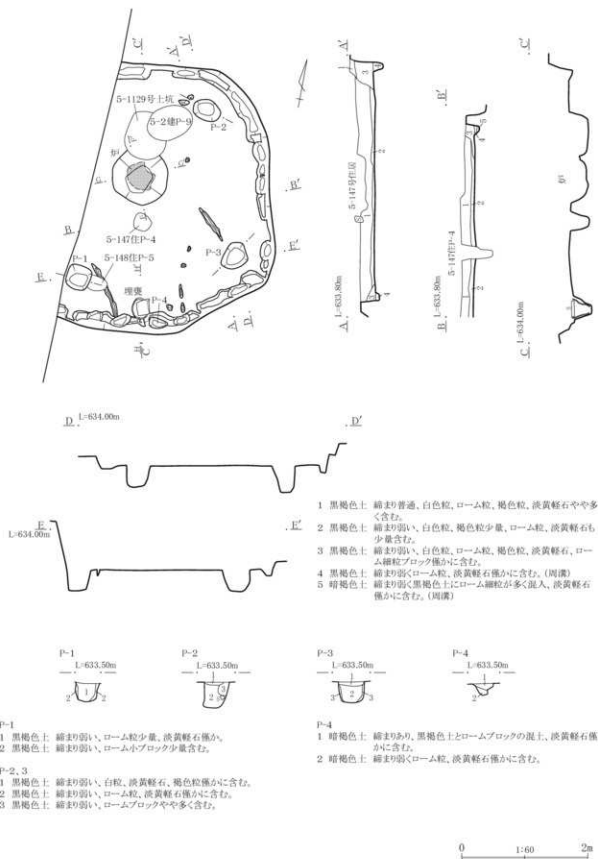
床面 南側には耕作溝が東西に走っており、かなり攪乱を受けた状況を示す。炉の周辺部および東側部分に一部分確認されているが、あまり硬く踏み固めた状況は看取されなかった。住居の南側に礫が集中して検出され、掘り下げたところ下にも重層して礫が出土し、最終的には径、深さともに25cm程の掘り込みとなった。柱穴の可能性も考えられたが、5-1120号土坑として報告を行った。

炉 ほぼ中央に検出された。礫を方形ないしは五角形に組んだものと思われるが、炉石を含め、北側を耕作溝により壊され、全容は不明である。やや小型の炉と思われる。炉底部中央に若干の焼土を認めた。

柱穴 主柱穴は6本か。 **埋嚢** 検出されなかった。 **掘方** 床下土坑等は見られなかった。

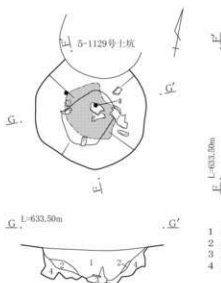
出土遺物 少ない。 **時期・所見** 西側は5-148号住居跡と重なり、これを切って構築される。遺構上部は削平が顕著で、遺存状態は極めて悪く出土遺物も少なかった。時期は中期後半と判断される。

第3章 検出された遺構と遺物

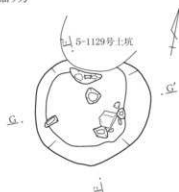


第18図 5-148号住居跡(1)

炉跡

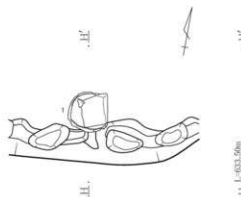


炉掘り方



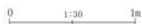
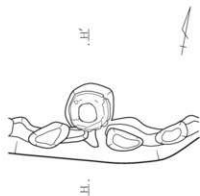
- 1 黒褐色土、細まり弱くローム粒、淡黄軽石少量、ローム小ブロック僅かに含む。
- 2 黒褐色土、細まり弱くローム粒多く、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土上焼土(明赤褐色土)の混土、細まり弱く淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土上ロームブロック、ローム粒の混土、淡黄軽石僅かに含む。

埋甕

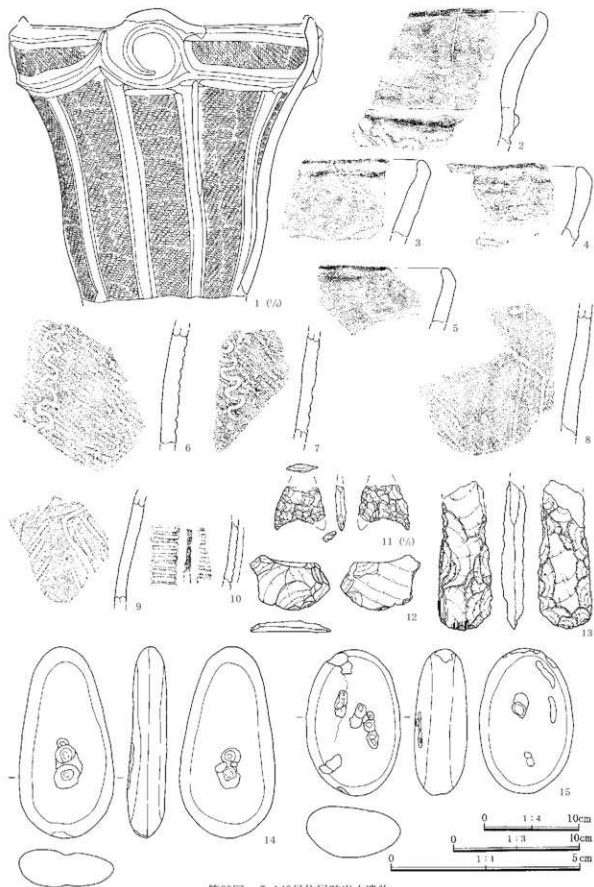


- 1 黒褐色土、細まり弱く褐色粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土上ローム粒の混土、細まり弱い。
- 3 暗褐色土、細まりあり、淡黄軽石、ローム粒僅かに含む。
- 4 褐色土、細まりあり、淡黄軽石僅かに含む。

埋甕掘り方



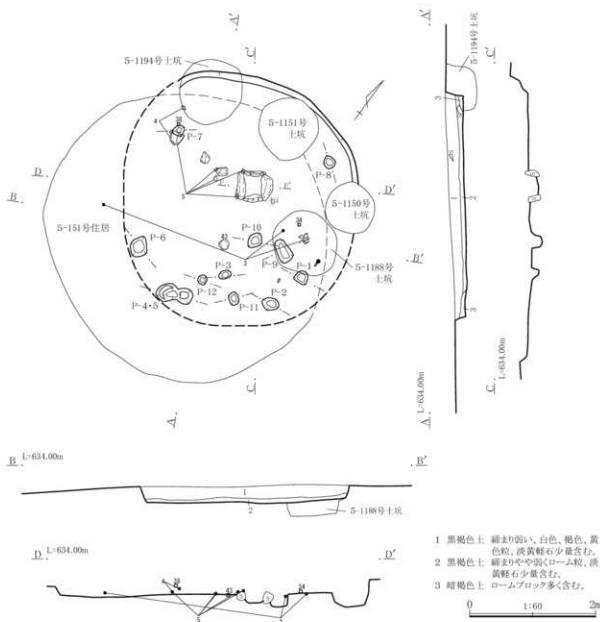
第19図 5-148号住居跡(2)



第20図 5-148号住居跡出土遺物

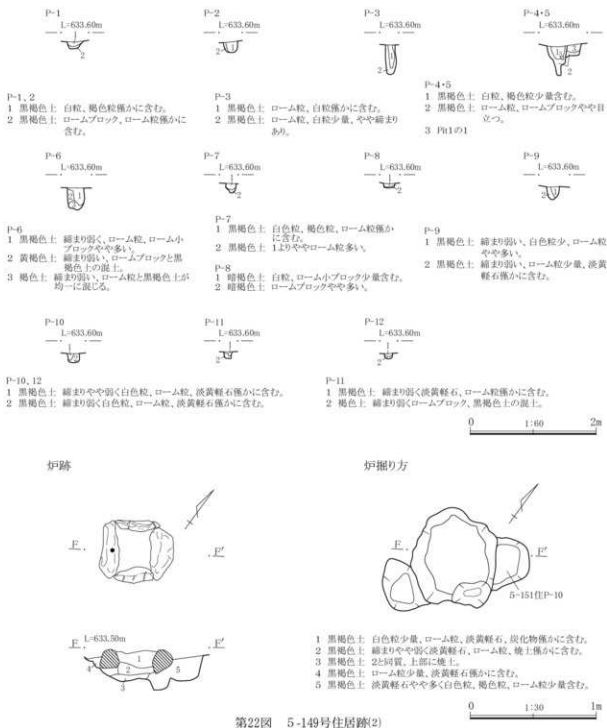
5-148号住居跡 (第18~20図: PL.5・6・128)

位置 L-2・3グリッドに位置する。 **重複** 5-147号住居跡の西側下位に重なる。また5-2号掘立柱建物跡の一部(P-9)が重複。遺存状態は比較的良好である。また、西側三分の1が調査区外となる。 **形状** 隅丸方形を呈すと見られ、入り口と想定される南辺中央部分が僅かに外側に張り出している。 **規模** 420×(290)×35cm。 **方位** N-11°-W。 **床面** 炬を中心に、かなり硬質な面を確認、特に炬の前部に硬質面が確認されている。壁下には、周溝が明瞭に掘り込まれ、周溝の底に小ピットが連続して検出された。入り口部には弧状の溝が内側に広がるように対になっており、右側の溝は途切れ途切りに検出された。 **炬** 径約90cm程の浅い落ち込みの中央部分に焼土が検出されている。炬石は見られず抜き取り痕も確認できなかったことから、地床炬と思われる。 **柱穴** 主柱穴は4本と思われ、このうち3本を確認、径50cm前後で、深さは約40cmである。北西に位置すると思われる1本は調査区外となる。



第21図 5-149号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

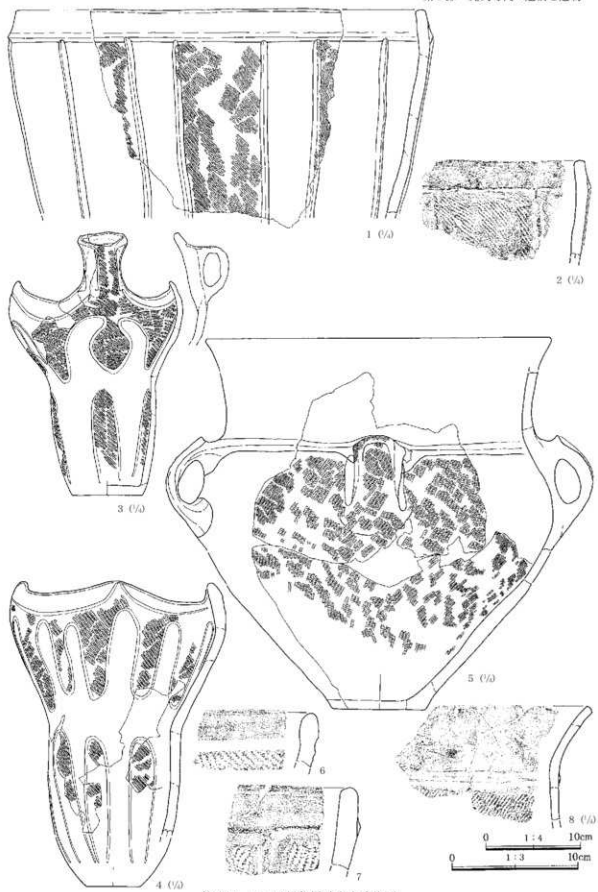


第22図 5-149号住居跡(2)

埋塞 入り口部に検出された。一辺20cm、厚さが3cm程のほぼ方形を呈す板状の礫が蓋として据えられ、底部を欠いた深鉢が正位状態で埋められていた。 **掘方** 貼り床、床下土坑等は見られなかった。

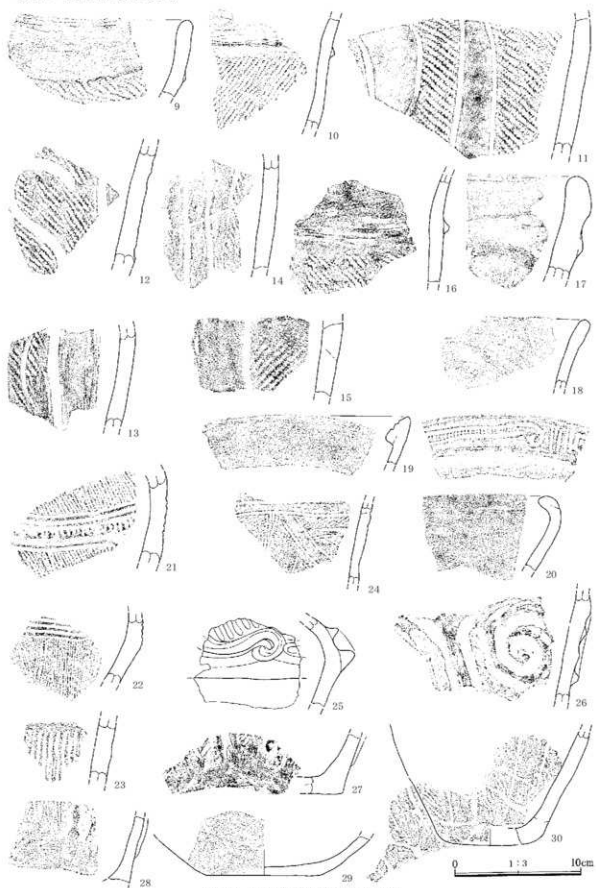
出土遺物 土器片、石器が多く出土している。

時期・所見 大きく5-147号住居が重なって構築されていたが、掘り込みが浅かったために床面等の確認は行うことができた。住居形状は隅丸の方形で、入り口部と思われる部分が僅かに突出する。また、石蓋を持つ埋塞、入り口施設に伴うピットや溝状の掘り込みを検出。時期は出土土器から中期後半と判断される。



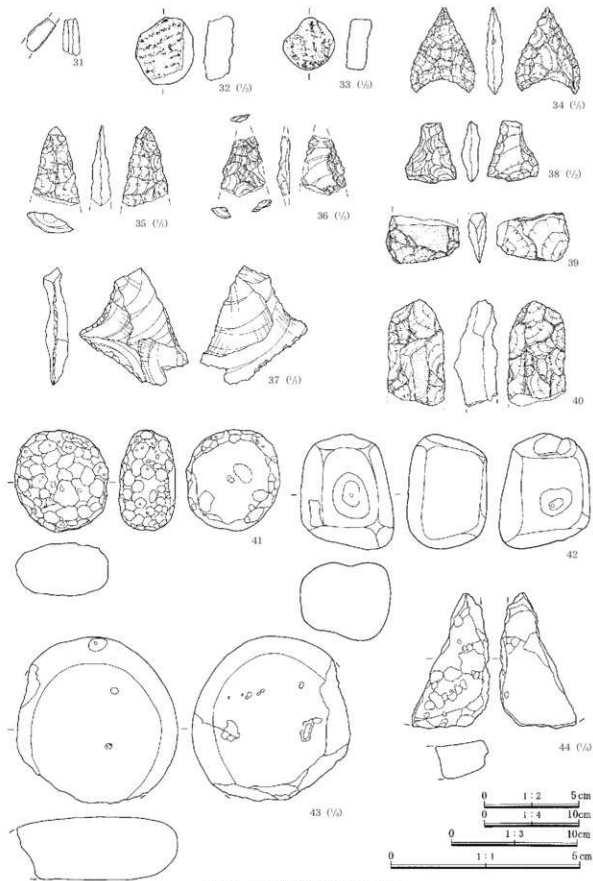
第23図 5-149号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第24図 5-149号住居跡出土遺物(2)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



第25図 5-149号住居跡出土遺物(3)

5-149号住居跡 (第21~25図: PL.6・129・130)

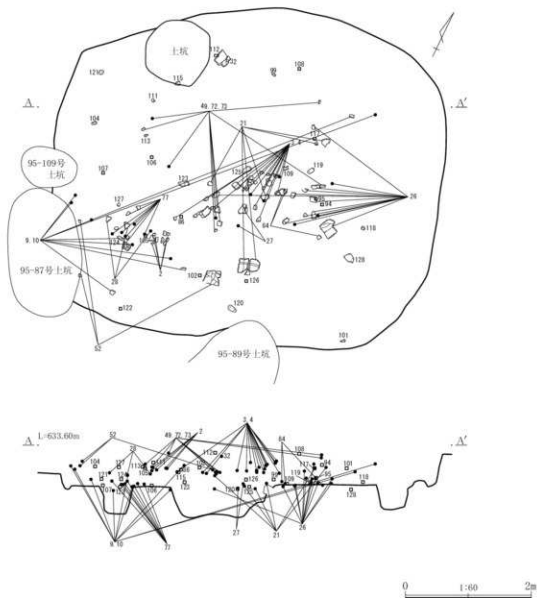
位置 I・J-2・3グリッドに位置する。 **重複** 5-151号住居跡の東側に重複する。複数の土坑5-1150・1151・1188・1194号土坑が実際に並んで掘り込まれている。

形状 円形を呈すものと思われる。 **規模** 400×(400)×28cm。 **方位** N-34°-W。

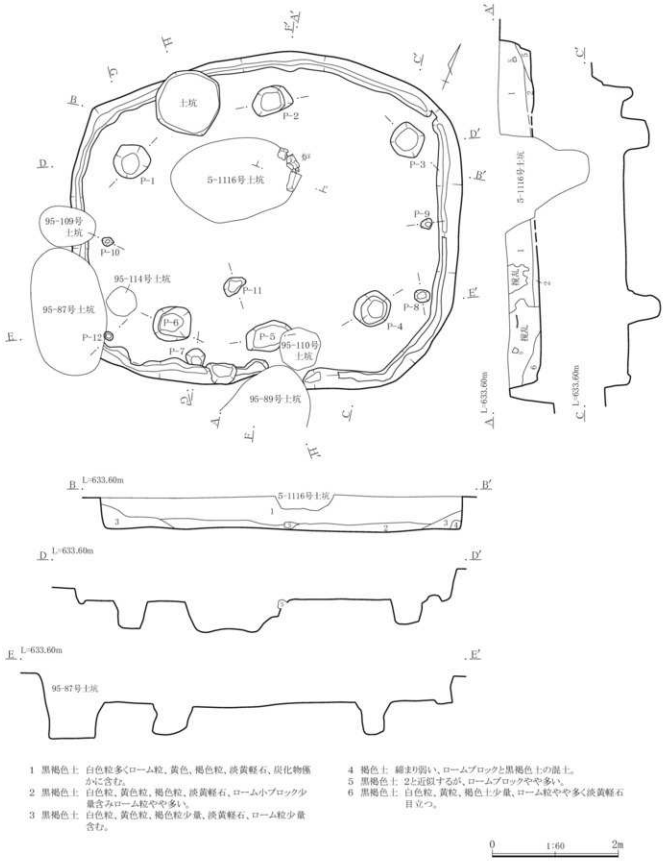
床面 凹凸が顕著、重複する5-151号住居の床面とほぼ同レベルである。このため重複部分については明確な床は確認できなかった。

炉 住居のほぼ中央に検出された。一辺約50cmと比較的小型である。4個の礫を方形に組んだ石囲い炉である。石は比較的大きな細長い礫を用いている。内部には若干の焼土が見られた。

柱穴 壁に沿って掘り込まれた6~8本のピットを検出したが、明確な対応関係は掴めなかった。径約20cmであるが、深さにはばらつきが目立つ。 **埋篋** 検出されなかった。 **掘方** 全体に凹凸が見られるが、



第26図 5-150号住居跡(1)

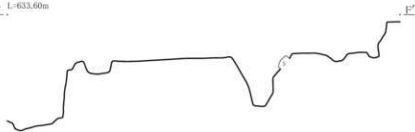


- | | |
|---|---|
| <p>1 黒褐色土 白色粒多くローム粒、黄色、褐色粒、淡黄軽石、炭化物僅小に含む。</p> <p>2 黒褐色土 白色粒、黄色粒、褐色粒、淡黄軽石、ローム小ブロック少量含みローム粒やや多い。</p> <p>3 黒褐色土 白色粒、黄色粒、褐色粒少量、淡黄軽石、ローム粒少量含む。</p> | <p>4 褐色土 細まり弱い、ロームブロックと黒褐色土の混土。</p> <p>5 黒褐色土 2と近似するが、ロームブロックやや多い。</p> <p>6 黒褐色土 白色粒、黄色粒、褐色土少量、ローム粒やや多く淡黄軽石目立つ。</p> |
|---|---|

第27図 5-150号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

E. L=633.60m



G. L=633.60m



H. L=633.60m



土坑

- 1 黒褐色土とローム粒の混土、淡黄軽石少量、上部やや硬化し下部は締まり弱い。(掘り床)
- 2 黒褐色土 締まりやや弱くローム粒やが多い。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックの混土、締まり弱く淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土 締まりやや弱くロームブロック、ローム粒や多く含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックの混土で締まり弱い。

P-1 L=633.10m



P-2 L=633.10m



P-3 L=633.10m



P-4 L=633.10m



P-5 L=633.10m



P-6 L=633.10m



P-7・周溝



P-4



- 1 黒褐色土 締まり弱く白色粒、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒、ローム小ブロック、淡黄軽石少量含む。
- 3 褐色土 黒褐色土ブロックとロームブロックの混土で淡黄軽石少量含む。

P-1, 2, 6

- 1 黒褐色土 締まり弱く白色粒、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒、ロームブロック(小)、淡黄軽石少量含む。
- 3 褐色土 締まり弱く黒褐色土とローム粒、ロームブロックの混土。

P-5

- 1 黒褐色土 ローム粒のみ少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含むブロック見られず。

P-3

- 1 黒褐色土 締まり弱い、白色粒、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックやや自立。
- 3 黒褐色土 ローム主体でやや軟質。

P-7・周溝

- 1 黒褐色土 ローム粒、炭化物、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒やや多く淡黄軽石少量含む。
- 3 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒、ローム小ブロック少量含む淡黄軽石僅かに含む。

P-8 L=633.10m



P-9 L=633.10m



P-10 L=633.10m



P-11 L=633.10m



P-12 L=633.10m



P-8

- 1 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒、ロームブロックやや多く淡黄軽石少量含む。

P-10

- 1 暗褐色土 締まり弱くロームブロックやや多く淡黄軽石少量含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱くロームブロック多く淡黄軽石僅かに含む。

P-9

- 1 黒褐色土 ローム小ブロック、淡黄軽石少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒と黒褐色土上の混土、淡黄軽石少量含む。
- 3 褐色土 2より黄色く黒褐色土2より少ない。

P-11

- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、YPK少量含む。

P-12

- 1 暗褐色土 ローム粒多くYPK少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、YPK少量含む。



第28図 5-150号住居跡(3)



貼り床、土坑等は検出されなかった。

出土遺物 比較的大型の土器片等が多く見られた。復元された土器は中期末に比定されるものである。石器は余り多くはなかった。石鏃、打製石斧、凹石の他石皿片が出土している。

時期・所見 5-151号住居跡の東側を大きく切って構築されている。床面高は本址のほうがやや高く作られている。時期は中期後半末である。

5-150号住居跡 (第26~41図; PL.7・130~137)

位置 5区と95区にまたがった、遺構集中箇所のほぼ中央、5H・I-1・2、95H・I-25グリッドに位置する。

重複 住居の中央および南西隅および南壁部分に後世の土坑(陥し穴)が掘り込まれている。また、95-4号掘立柱建物の一部重複している。

形状 僅かに長辺部が膨らんだ隅丸方形を呈す。掘り込みも深く壁の立ち上がりも垂直に近い。

規模 540×630×40cm。

方位 N-24°-W。短軸方向を主軸に持つ。

床面 比較的平坦で締まりは良い。壁下には上幅約20cmで、深く掘られた周溝がほぼ全周している。用途は不明であるが、P-6の東、P-7の北、P-3の西に浅いレンズ状の落ち込みが見られた。

炉 後世の5-1116号土坑(陥し穴)によりほとんど壊されていた、東側の炉石のみ僅かに残存。炉石は板状の自然礫を、深さ30cm程の掘方の壁に立てかけた状態であった。

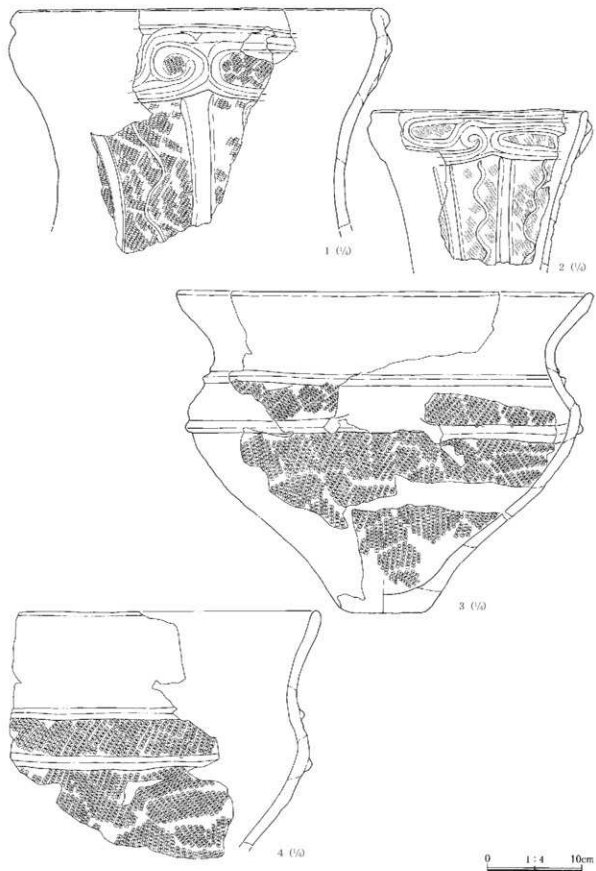
柱穴 各コーナーと長辺側中央に掘り込まれた6本柱穴か。径約60cm、深さは40cm前後である。P4の中からは礫が検出されている。

埋塞 検出されなかった。

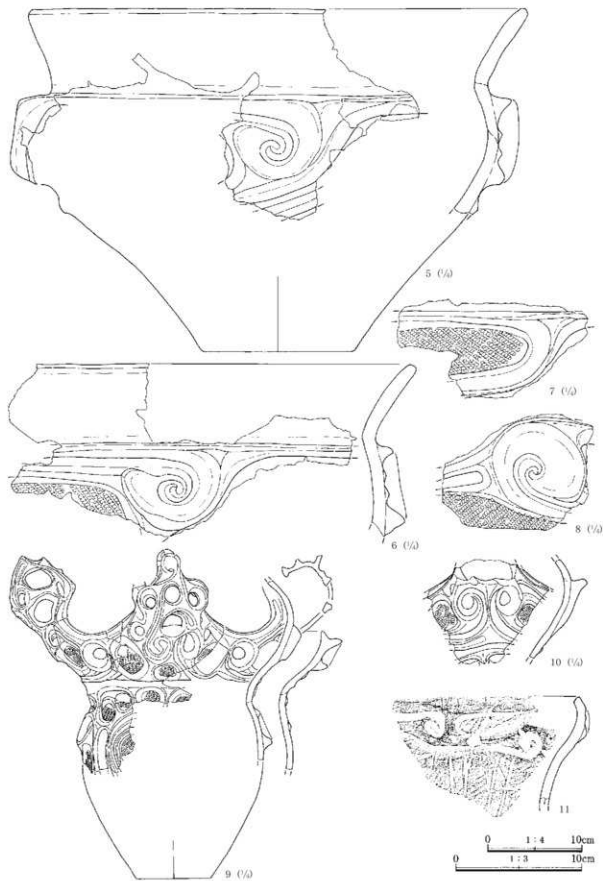
掘方 住居の北西側に僅かに陥没した円形部分が検出され、掘り下げたところ直径1m、深さ70cmのほぼ垂直に掘り込まれた土坑が検出された。土坑の上部には、断面観察で貼り床、および周溝の断面が認められたことから、本址に伴う床下土坑と判断される。内部より赤彩土器が出土している。覆土は黒色土にローム小ブロックが混じった軟質土である。

出土遺物 確認面から多くの土器片や石器が出土している。土器片はかなり大型なものも見られ、石器類は石鏃、打製石斧、磨石などが多く見られた。また、北壁際から黒曜石製の異形縦型石匙が出土している。

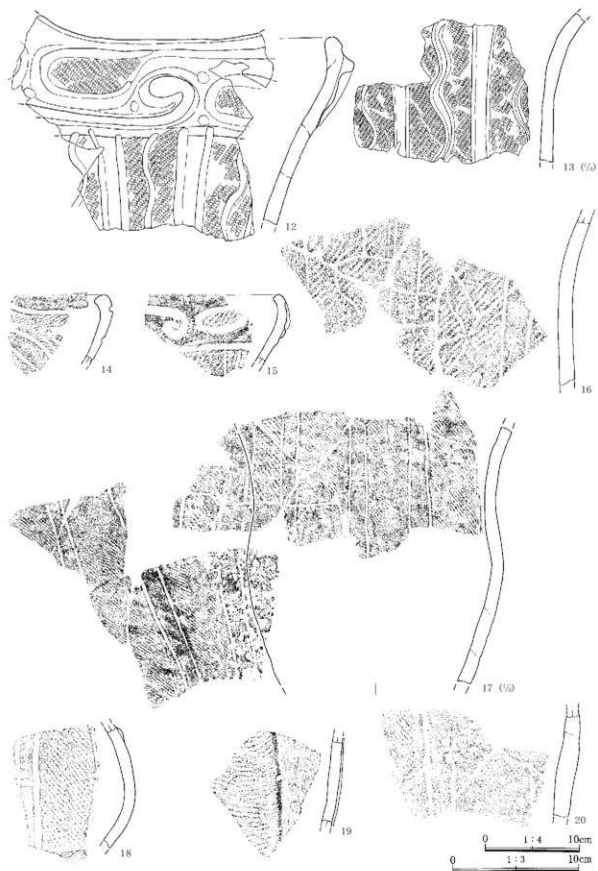
時期・所見 炉内からの出土土器から、時期は中期後半と考えられる。



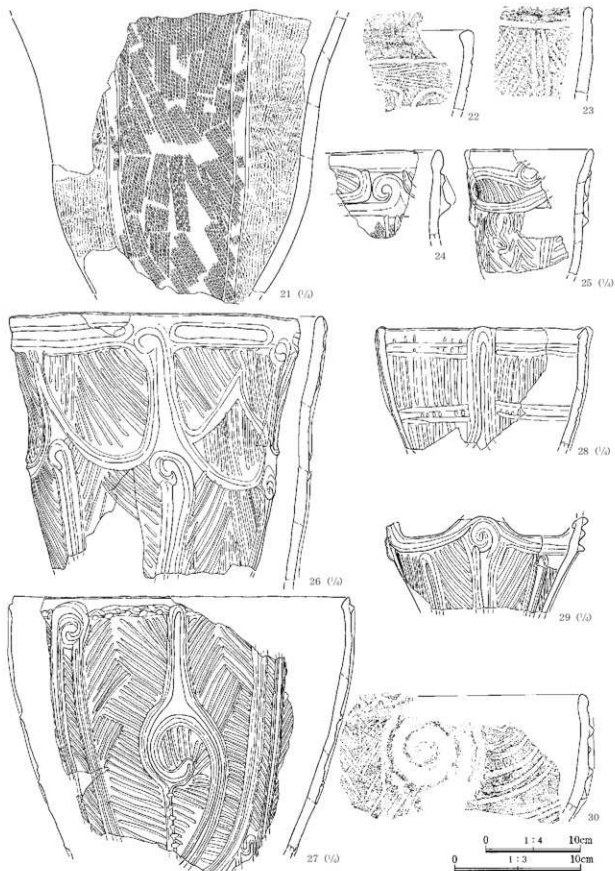
第30図 5-150号住居跡出土遺物(1)



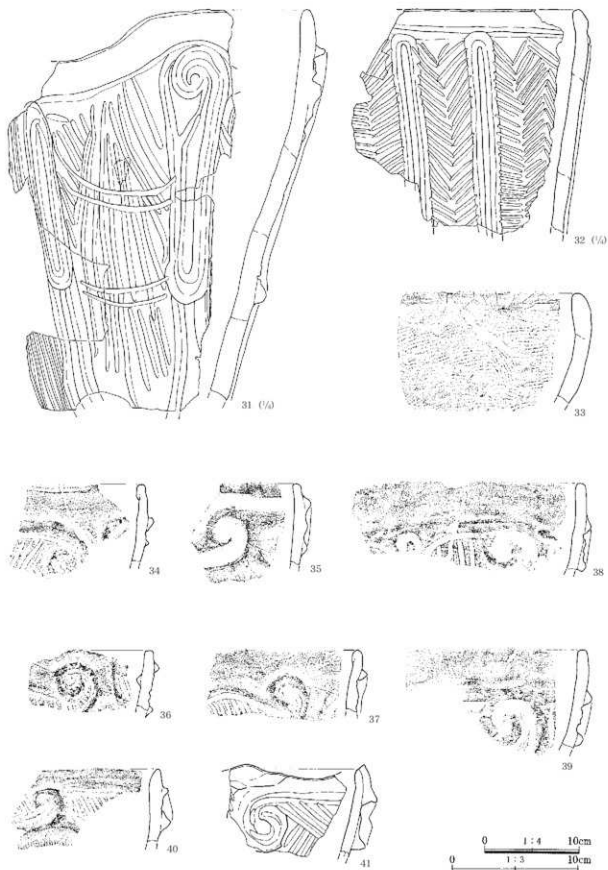
第31図 5-150号住居跡出土遺物(2)



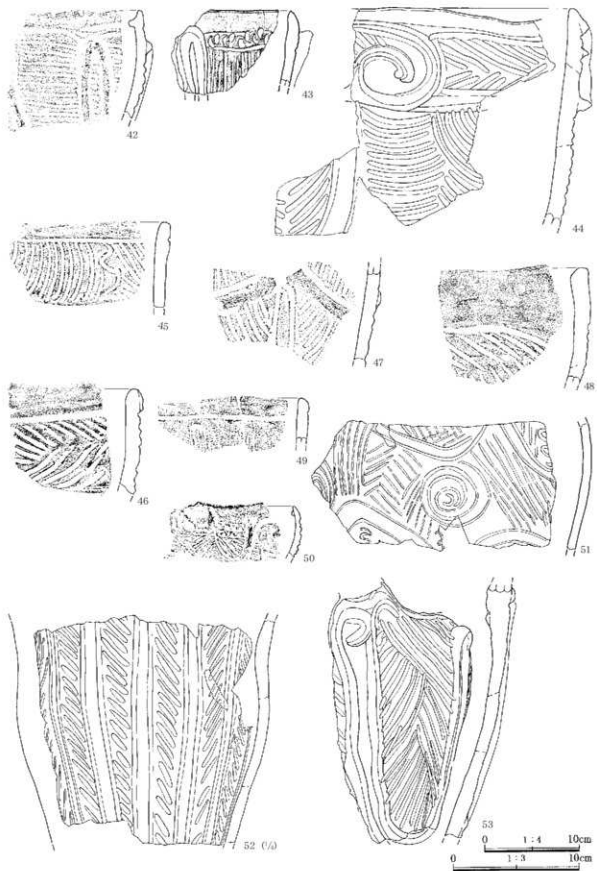
第32図 5-150号住居跡出土遺物(3)



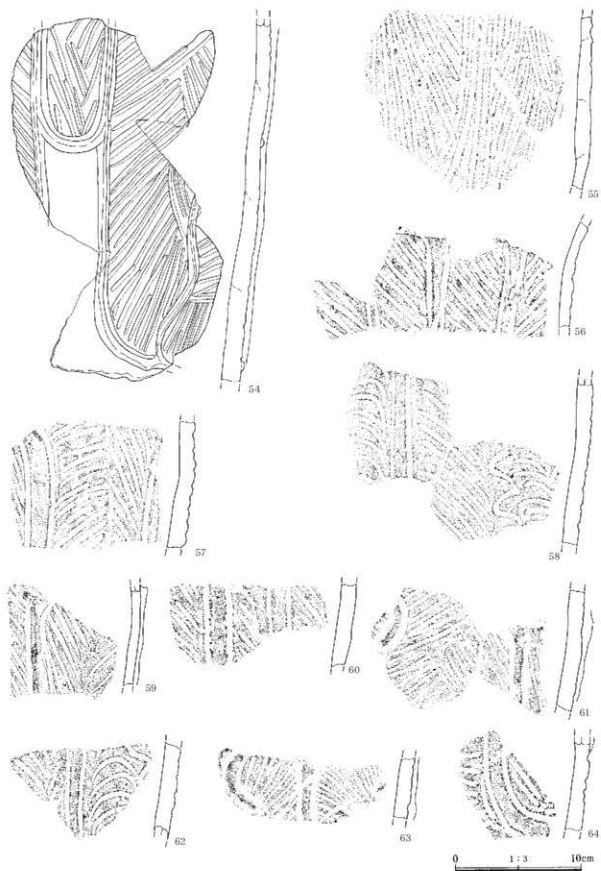
第33図 5-150号住居跡出土遺物(4)



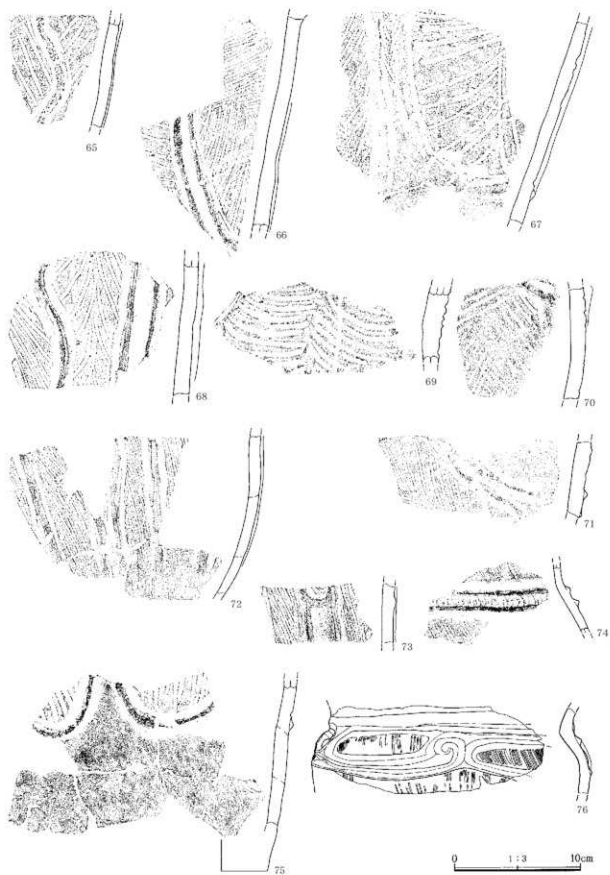
第34図 5-150号住居跡出土遺物(5)



第35図 5-150号住居跡出土遺物(6)

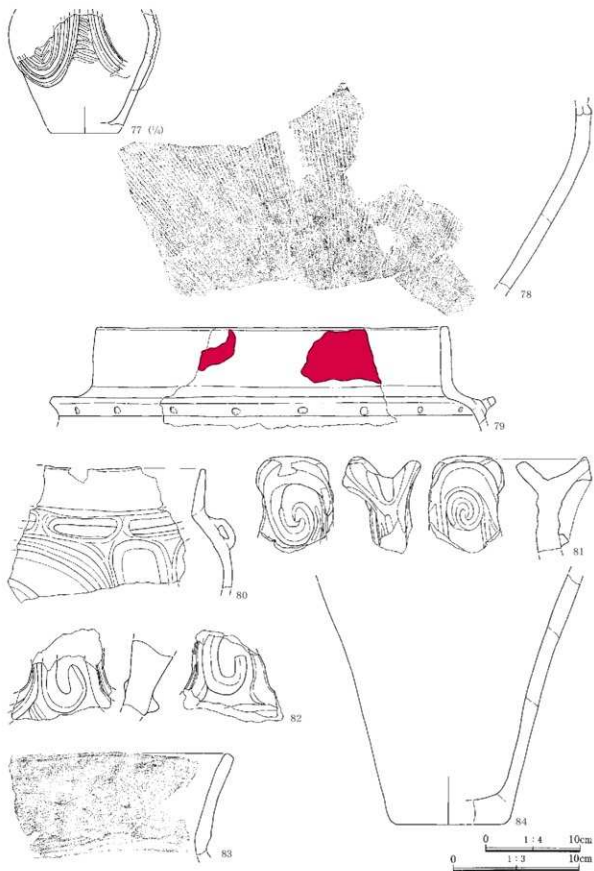


第36図 5-150号住居跡出土遺物(7)



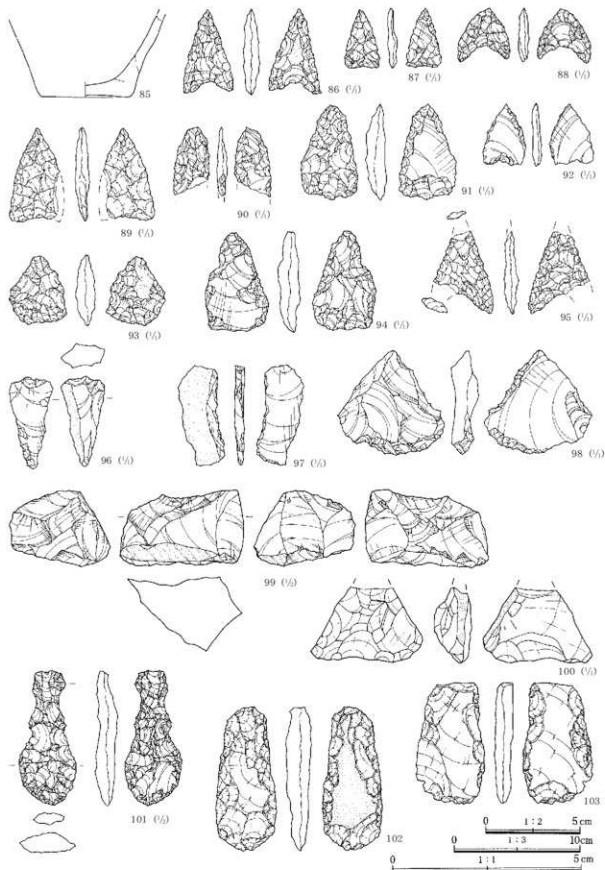
第37図 5-150号住居跡出土遺物(8)

第3章 検出された遺構と遺物

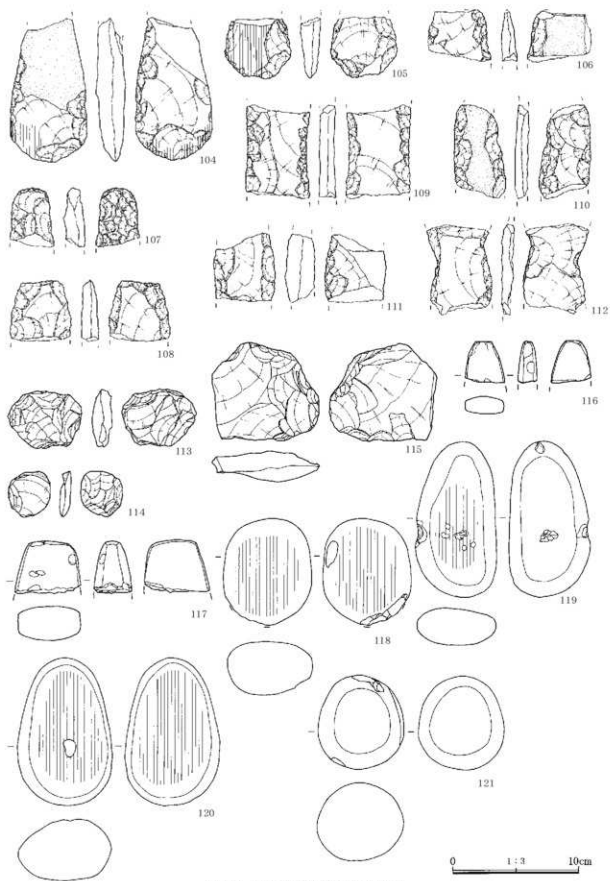


第38図 5-150号住居跡出土遺物(9)

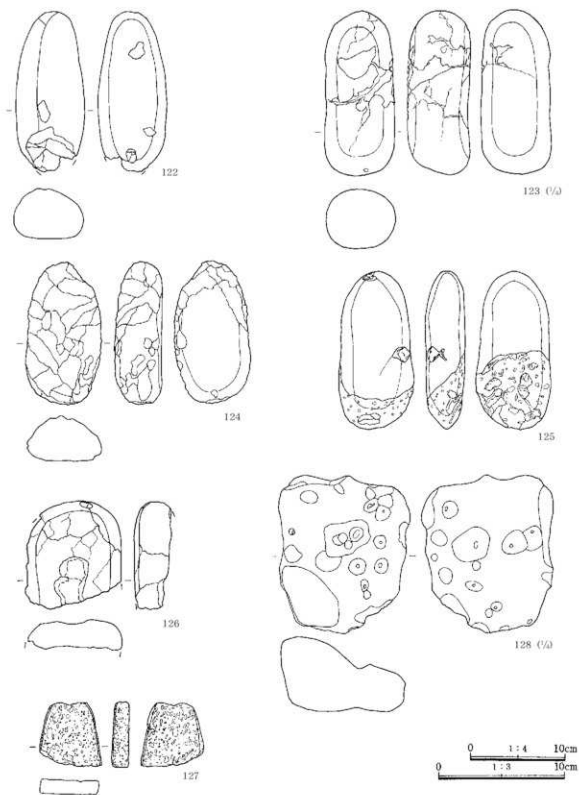
第2節 縄文時代の遺構と遺物



第39図 5-150号住居跡出土遺物(10)



第40図 5-150号住居跡出土遺物(1)

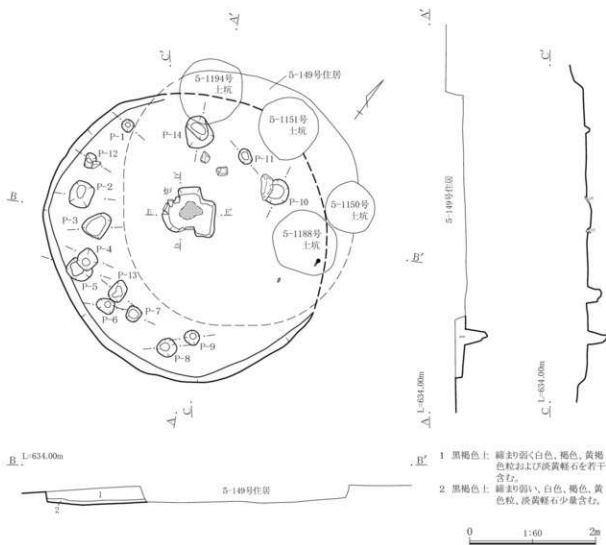


第41図 5-150号住居跡出土遺物(12)

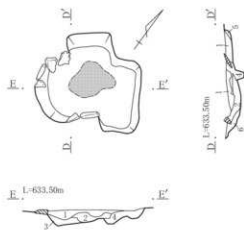
5-151号住居跡 (第42~44図: PL. 8・137)

位置 調査区北寄りの、1-2・3グリッドに位置する。 **重複** 北側に5-149号住居跡が重複、大きく重なっている。本址が古いと判断された。 **形状** ほぼ円形を呈す、東および北側は5-149号住居によ

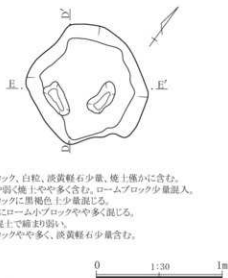
第3章 検出された遺構と遺物



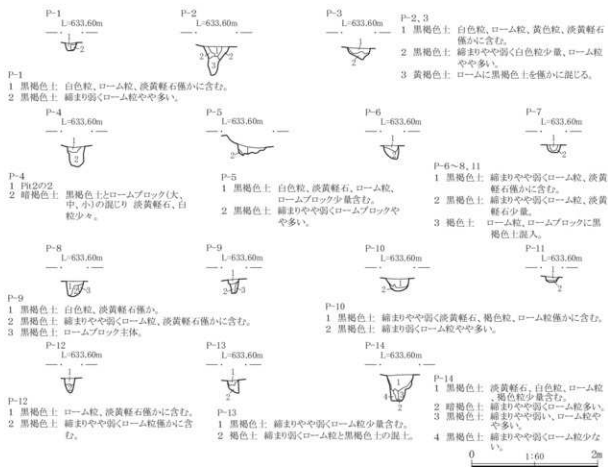
炉跡



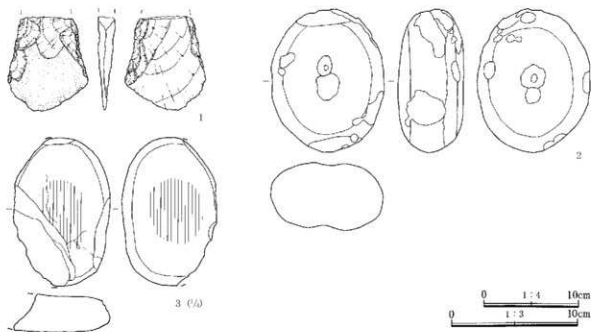
炉掘り方



第42図 5-151号住居跡(1)



第43図 5-151号住居跡(2)



第44図 5-151号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

り削平されるがレベリックには5-149号住の床面がやや高くなっている。規模 460×(460)×20cm。

方位 N-31°-W。 **床面** 全体にかなり平坦ではあるが、重複によるピットや細かい凹凸が多く見られる。中央部分にやや硬いローム面を認めるが小範囲である。周溝については確認されなかった。

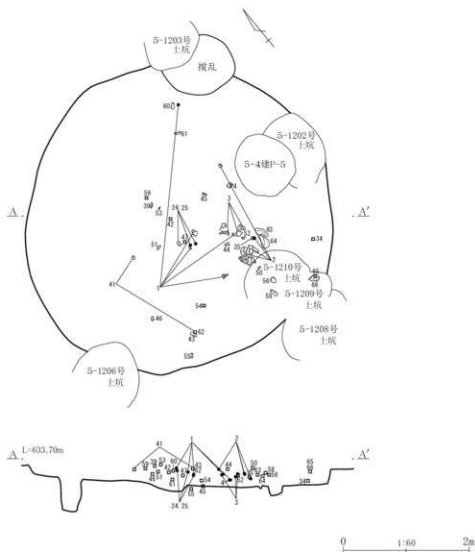
炉 長さ20cm程度の礫数個を楕円形に配した石囲い炉と判断されるが、かなり壊れた状態で、取り除かれた石も多いと思われる。炉の掘方は不定形で中央に焼土が検出されている。

柱穴 炉を中心に六角形に廻る六本柱と推定されるが、多くの小ピットが検出されており、重複する5-149号住居に帰属するものもあると思われる確定は難しい。 **埋壘** 検出されなかった。

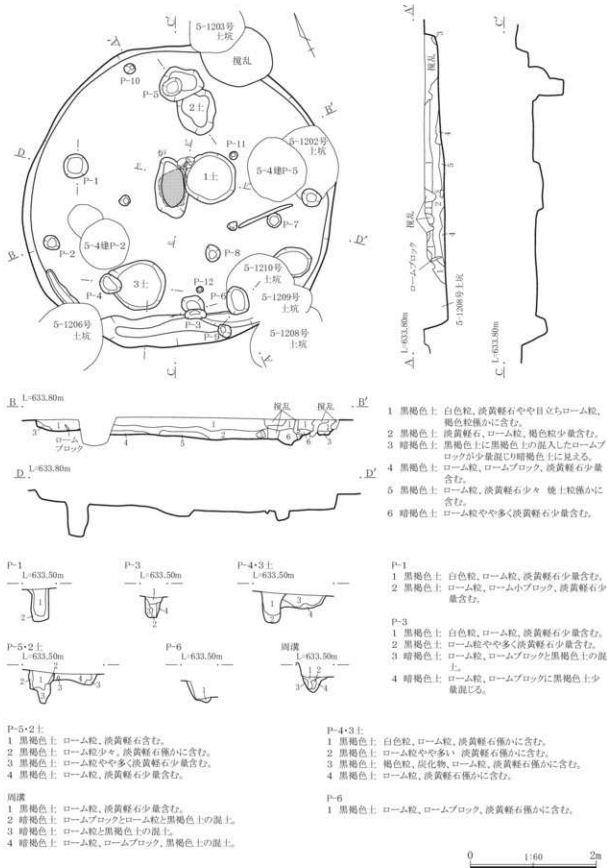
掘方 重複もあるため凹凸が顕著であった。床下土坑等は検出されなかった。

出土遺物 5-149号住居に大きく削られており、少なかった。土器はほとんど無く、石器3点のみである。

時期・所見 東側部分に重複する5-149号住居跡の床面はやや高くなっているため、本址の床および炉は削平を免れ、部分的にはあるが炉石等も残存していた。壁の立ち上がりは不明瞭であったが、形状は円形で掘り込みは浅い。出土遺物は極めて少なく、土器が無いために時期の判断は難しいが、中期後半か。



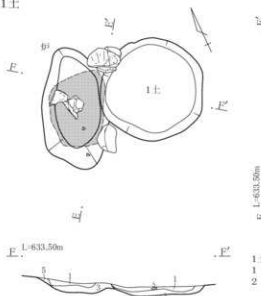
第45図 5-152号住居跡(1)



第46図 5-152号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

炉跡・1土



- 94
- 1 黒褐色土：締まりやや弱いローム粒、淡黄軽石盛りに含む。
 - 2 黒褐色土：1と近似するが焼土を稀かに含む。
 - 3 暗赤褐色土：黒褐色土と焼土粒の混土。
 - 4 褐色土：締まり弱いローム粒、ロームブロック、黒褐色土の混土。
 - 5 黒褐色土：締まり弱いローム粒、ローム小ブロック盛りに含む。

- 1土
- 1 黒褐色土：締まりやや弱い、ローム粒、炭化物盛りに、淡黄軽石少々。
 - 2 黒褐色土：締まりやや弱い、ローム粒、淡黄軽石少々。

第47図 5-152号住居跡(3)



5-152号住居跡 (第45~52図：PL・8・137~139)

位置 G・H-3グリッドに位置する。**重複** 複数の土坑の重複が見られる。いずれも本住居跡を切っけ堀り込まれている。5-4号掘立柱建物跡も重複しており、住居の上面には、重複する5-4号掘立柱建物跡の炉(5-7・8・9号焼土)が載っていた。また部分的の近現代と思われる攪乱坑も見られた。

本址は5-4号掘立柱建物跡の柱穴を調査する中で、柱穴の壁面に床面が掛かっていたことから確認された経緯がある。**形状** ほぼ円形を呈す。**規模** 495×485×30cm。**方位** 不明。

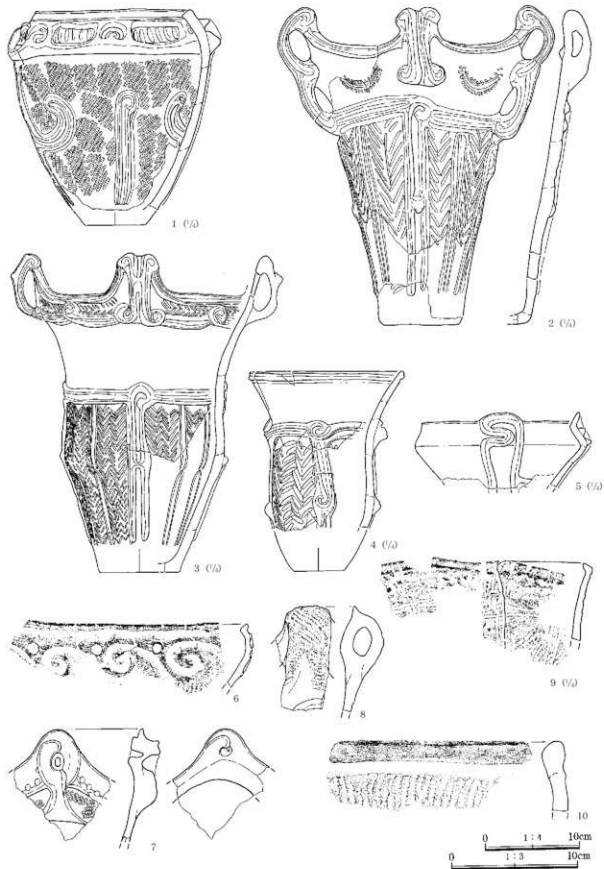
床面 全体に細かな凹凸が見られるが比較的硬質である。土坑の重複により、かなり荒れた状況であった。床の外縁、壁寄りには若干高まっている。南側の壁下に部分的ではあるが、幅約40cmのやや幅広の周溝が検出されている。**炉** ほぼ中央に構築、南北に長い長円形の掘り込み内に焼け方の比較的弱い焼土が検出されている。東側に掘られた円形の土坑が一部切っている。炉石は一石のみが北側に残るが被熱により割れていた。

柱穴 5ないしは6本と考えられる。壁面に廻るやや径の小さい一群か。比較的規模の大きなものは径30cm、深さは約50cmを測る。掘立柱建物の柱穴内に存在する可能性が高い。**埋塞** 検出されなかった。

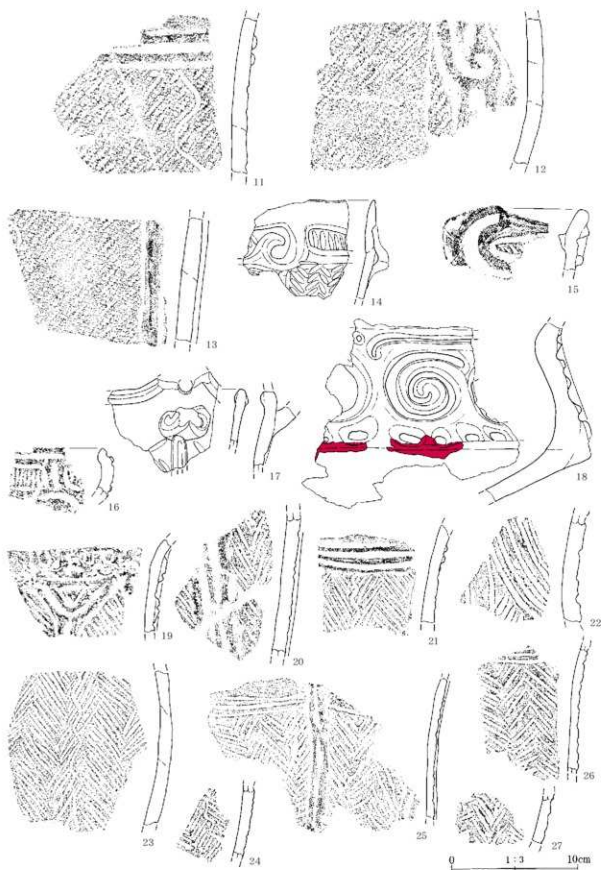
掘方 貼り床は確認できなかった。複数の落ち込みを認めたが、何れも浅く、明確な床下土坑と判断されたものは見られなかった。

出土遺物 中心部に集中する状況で若干の土器片、石器類が出土している。中央やや南よりに比較的大きな破片がまとまって出土している。石器の出土も比較的多く、石鎌、石錐、石匙、打製石斧、スクレイパー、打製石斧の他、磨石類も多く、多孔石の出土も見られる。

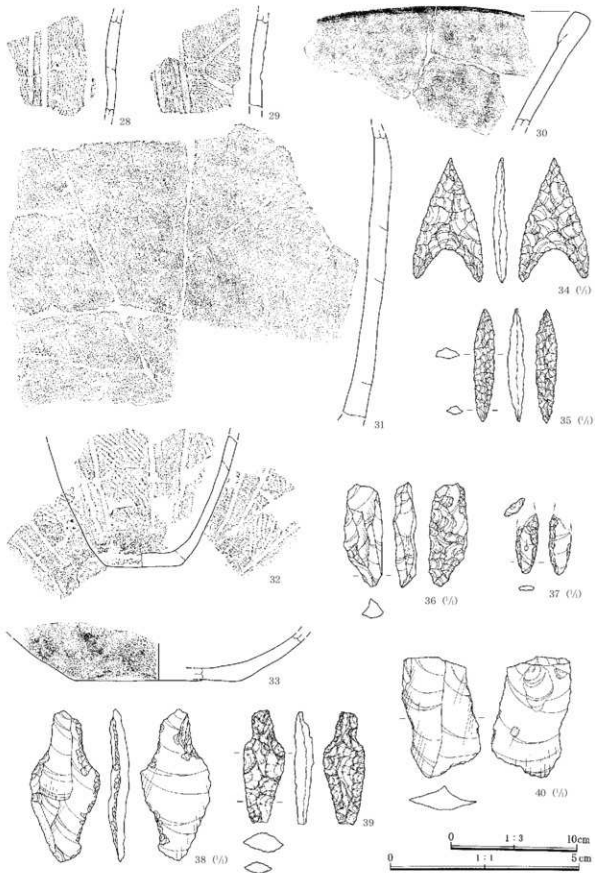
時期・所見 土坑等の重複が多いために遺構自体の遺存状態は悪かった。炉の南東側床面に、幅10cm、長さ90cmのスリット状の溝が検出されている。仕切り溝か。出土遺物は比較的多かった。土器は復元可能なものは信州系のものが多く見られる。時期は出土土器から中期後半と思われる。



第48図 5-152号住居跡出土遺物(1)

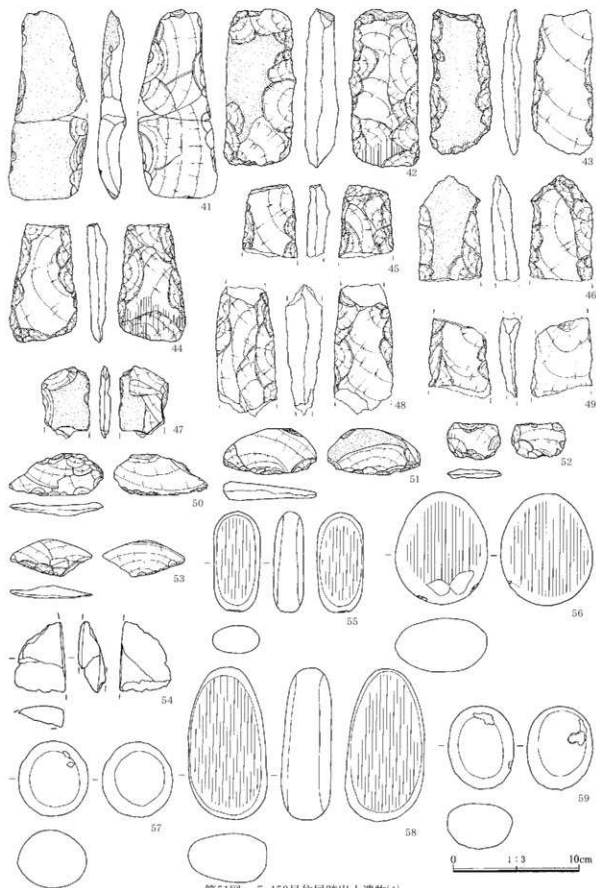


第49図 5-152号住居跡出土遺物(2)

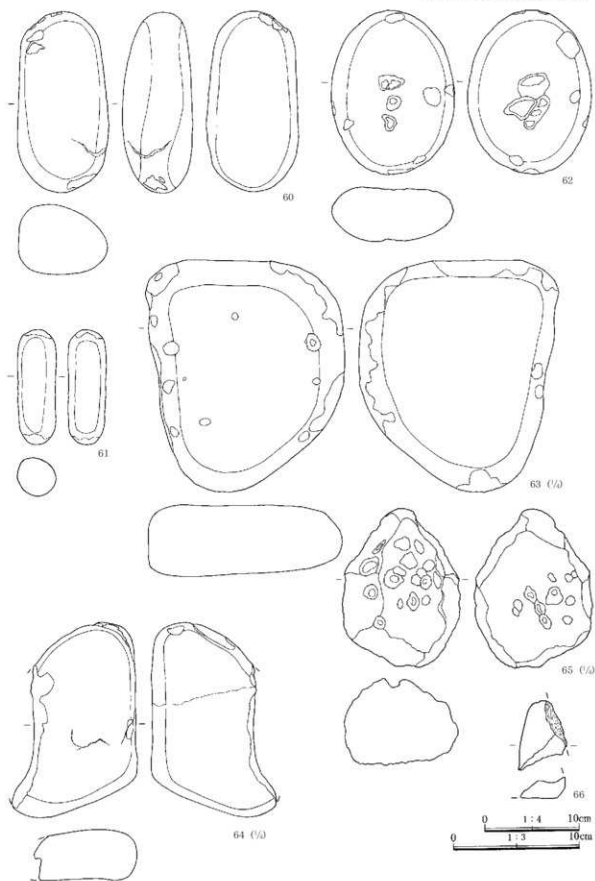


第50図 5-152号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第51図 5-152号住居跡出土遺物(4)



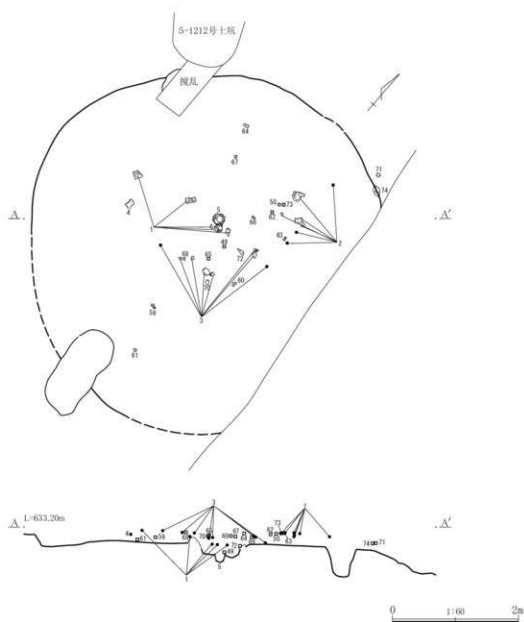
第52図 5-152号住居跡出土遺物(5)

5-153号住居跡 (第53~60図: PL.9・139~142)

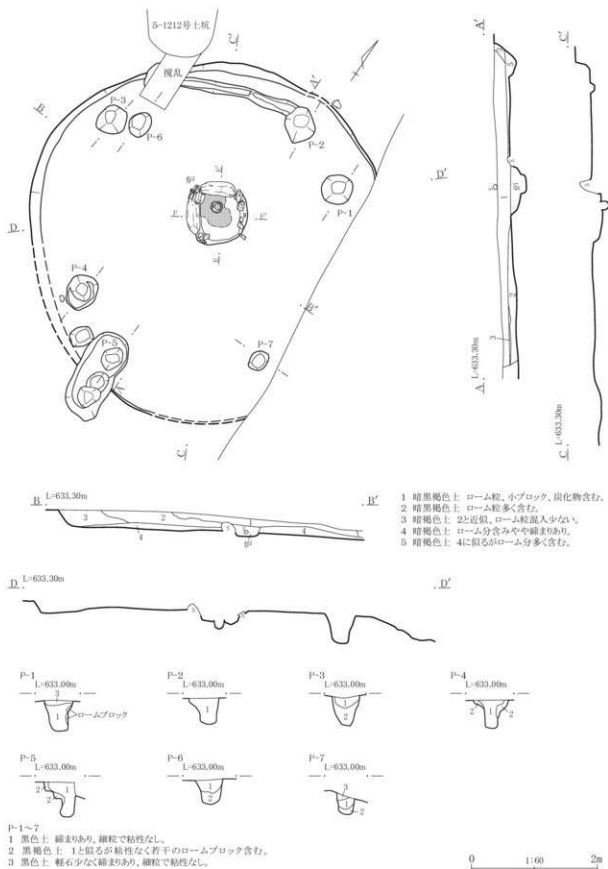
位置 5区調査区の東端部、D-2・3グリッドに位置する。**重葺** 東側は1号石列(近世)の掘削溝により一部が削られている。また遺構上面についても、東側の壁などは、ほとんど削平されてしまっている状況である。**形状** 円形を呈すと見られる。**規模** 570×(500)×30cm。

方位 N-25°-W。**床面** 炉を中心とした中央部は、比較的平坦で地山ローム面上に黒色土を若干入れ込み表面を硬く踏み固めた状況が看取されており、全体的に良く締まっている。東側は前述したように、近世の掘削溝に続く傾斜面により削平を受けている。北側の壁下には部分的ではあるが、長さ2m、幅20cm程の周溝が検出されている。

炉 住居中央やや北寄りに作られていた。長さ60~70cmの大きな礫を四角に組んだ石囲い炉であったと思われる。検出時には大きな炉石2石がL字に残っていた。東側の炉石は被熱により割れた状態で、炉内に破片



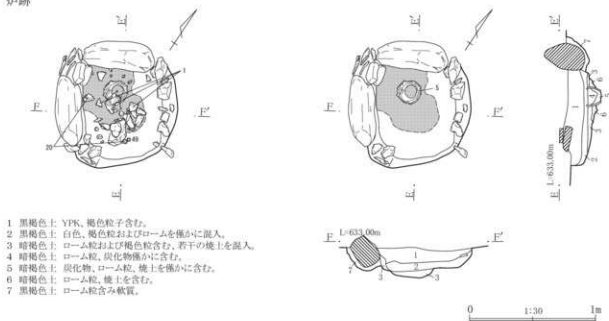
第53図 5-153号住居跡(1)



第54図 5-153号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

炉跡



- 1 黒褐色土 YPK, 褐色粒子含む。
- 2 黒褐色土 白色、褐色粒およびロームを僅かに混入。
- 3 暗褐色土 ローム粒および褐色粒含む、若干の焼土を混入。
- 4 暗褐色土 ローム粒、炭化物僅かに含む。
- 5 暗褐色土 炭化物、ローム粒、焼土を僅かに含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒、焼土を含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒含む軟質。

第55図 5-153号住居跡(3)

が落ち込んでいた。南側には石は見られず、抜き取られたものと考えられる。

内部からは割れた礫や土器片が多く検出されている。火床面には土器5が炉体土器として据えられていた。正位で深鉢の胴下半部を欠いていた。

柱穴 検出した柱穴は6本あるいは7本と考えられる。東側の削られた部分にも存在していたものと考えられる。いずれも径30~40cm、深さは30~50cmである。P-1および入り口部のP-7は掘方時に検出された。**埋裏** 検出されなかった。**掘方** 広い範囲ではなかったが、炉の周囲にロームが貼られた面が認められた。周囲には明確な貼り床等は認められなかった。床下土坑なども見られなかった。僅かにピットが確認されている。

出土遺物 全面に広がるように、比較的多くの土器や石器が出土している。石器は石鎌や石錐の他、打製石斧や磨製石斧の転用品などが出土している。73は発泡質の石を研磨したものであり、砥石か。74は石皿片である。

時期・所見 東側が一部削られてはいたが、南側の約半分は比較的残存状況は良好であった。炉は四隅に大きな礫を据えて構築される、一辺は約90cmである。残存していた石は2石であったがおそらく四方を囲った構造であったものと想定される。住居の建て替えなどは行われなかったと考えられる。

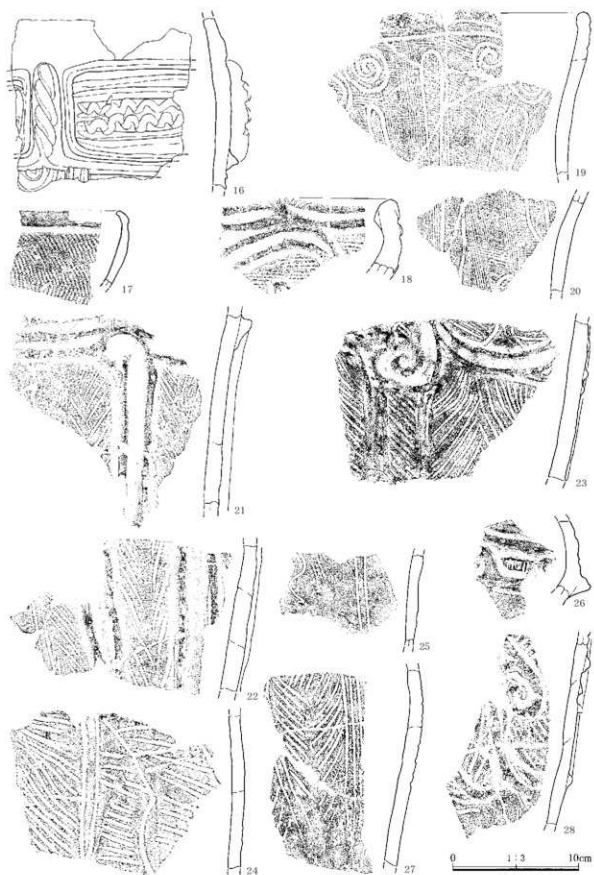
炉体土器等から時期は中期後半と判断される。出土土器は縄文を持つものがほとんど無く、隆帯、沈線文で飾る信州系を中心としている。

5-154号住居跡 (第61~64図：PL.9・142・143)

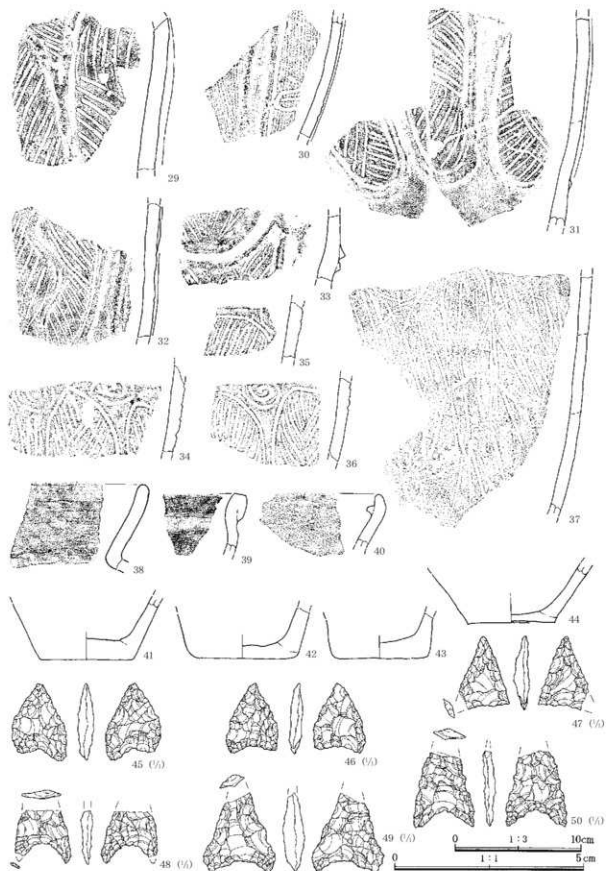
位置 F・G-2グリッドに位置する。**重複** 5-5号掘立柱建物の下に検出された。柱穴が重複し、本址を切っている。さらに、5-4号掘立柱建物跡の南東の柱穴も本址に重複し切っている。また、南東部分は近世以降と思われる焼乱坑で一部壊されている。以上のような状況であったため、遺構の残存状況はあ



第56図 5-153号住居跡出土遺物(1)

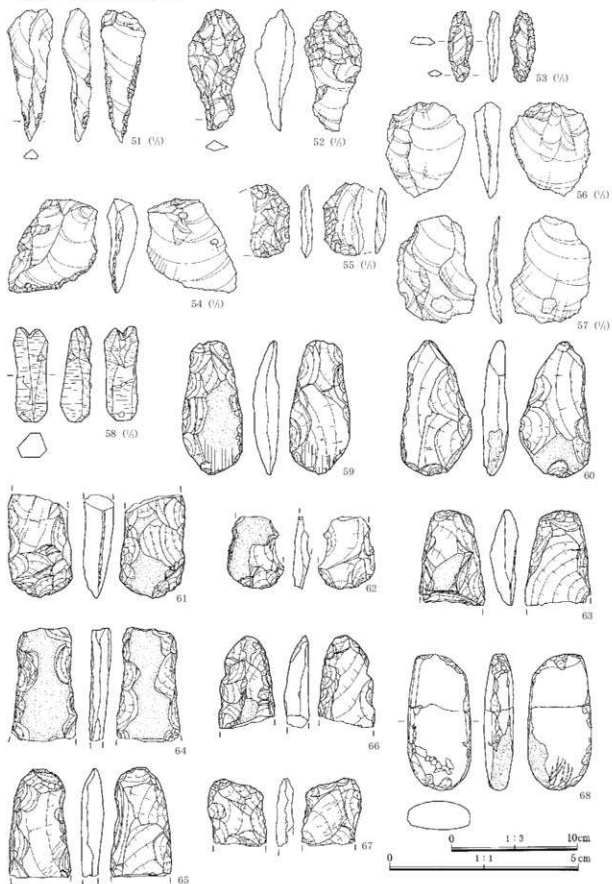


第57図 5-153号住居跡出土遺物(2)

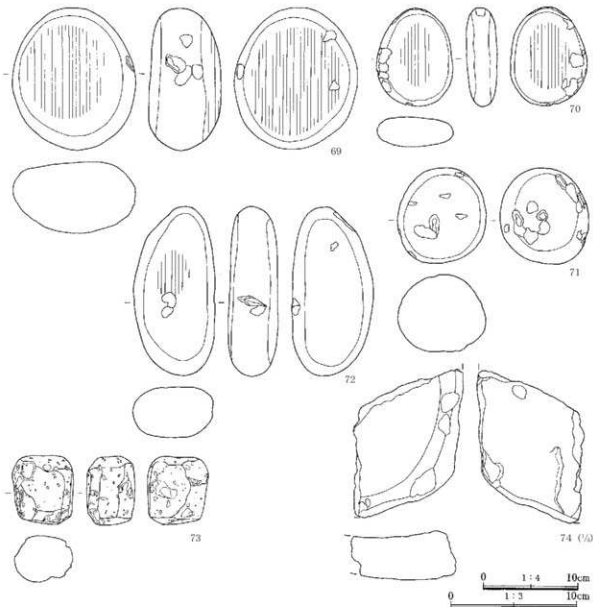


第58図 5-153号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第59図 5-153号住居跡出土遺物(4)



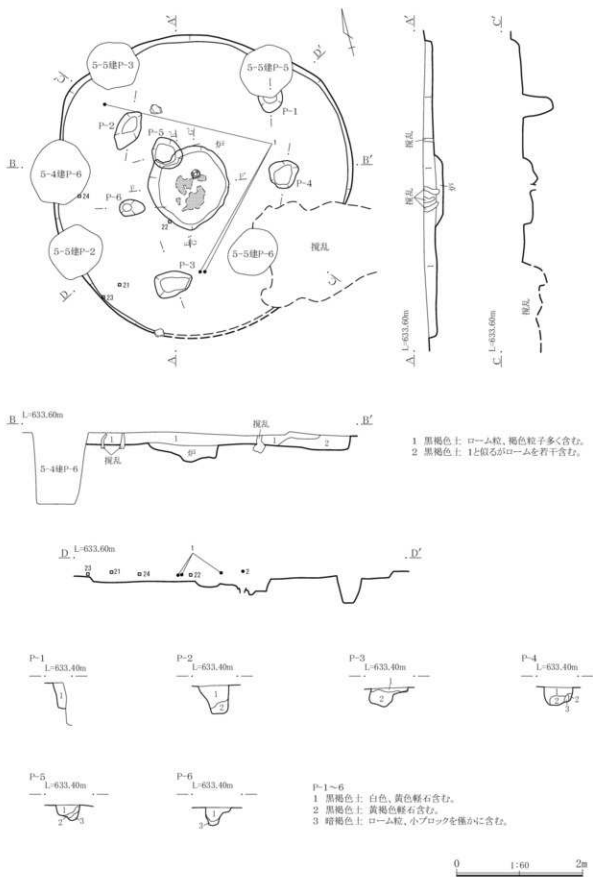
第60図 5-153号住居跡出土遺物(5)

まり良好ではなかった。 **形状** ほぼ円形を呈すと思われる。 **規模** 481×(470)×29cm。

方位 不明。 **床面** 掘立柱建物や土坑、さらには近世の攪乱等によりかなり壊された状況で、全体に凹凸が見られ、遺存状態は良くはなかったものの、炉の周囲は比較的平坦で、周囲にはローム混土を入れ、貼り床としていた。部分的にかなり締まった部分も見られた。遺構の掘り込み面(床相当面)はローム面までは達していなかった。周溝は検出されなかった。

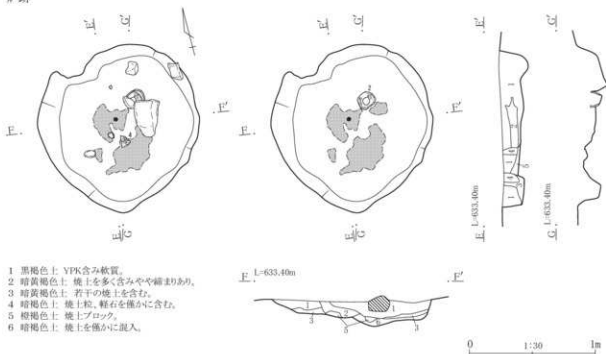
炉 ほぼ中央に検出されている。方形の石囲い炉かと思われるが、据えられた炉石等は見られなかった。径1.5m、深さ20cm程の、やや不定円形な掘方が確認された。炉覆土上位には、割れた比較的大きな礫が検出されており、炉石であった可能性がある。火床面の焼土は比較的浅い位置で広がっていた。色調は明るく、全体に良く締まっていた。炉内中央やや北に寄ったところに、小型の土器を転用した炉体土器2が据えられていた、周囲には焼土が検出されている。検出された焼土範囲、周囲がやや落ち込んだ掘方の形状などが

第3章 検出された遺構と遺物



第61図 5-154号住居跡(1)

炉跡



第62図 5-154号住居跡(2)

ら、据えられていた炉石を抜き取って行ったものと考えられる。

柱穴 6本と思われるが位置的に認定しがたいものもあり、P-1～3、および攪乱坑内に1本が想定される4本柱である可能性もある。北側の2本は比較的深く掘り込まれていた。これらの柱穴の径はいずれも40～50cmで、深さは30～45cm程である。

埋裏 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や床下土坑は見られない。P-5・6の2本が掘方時に検出されたが、柱穴とは思われない。

出土遺物 住居の南西側に比較的集中して検出されている。土器片に混ざって比較的大型でやや扁平な礫の出土が目立つ。出土した土器は炉体土器以外は小破片がほとんどである。石器も定型的なものはほとんど見られず、剥片利用のスクレイパー類が多い。

時期・所見 土坑、掘立柱建物等の重複が顕著で、遺存状態はあまり良くなかった。遺物が点在していた部分を掘り下げてゆく中で炉および硬化した床面が確認されたものである。炉の作り替えや、旧い柱穴等の検出は無かったことから、建て替えや拡張などの痕跡は確認されなかった。出土した炉体土器等から、時期は中期後半と見られる。

5-155号住居跡 (第65～77図：PL.10・143～148)

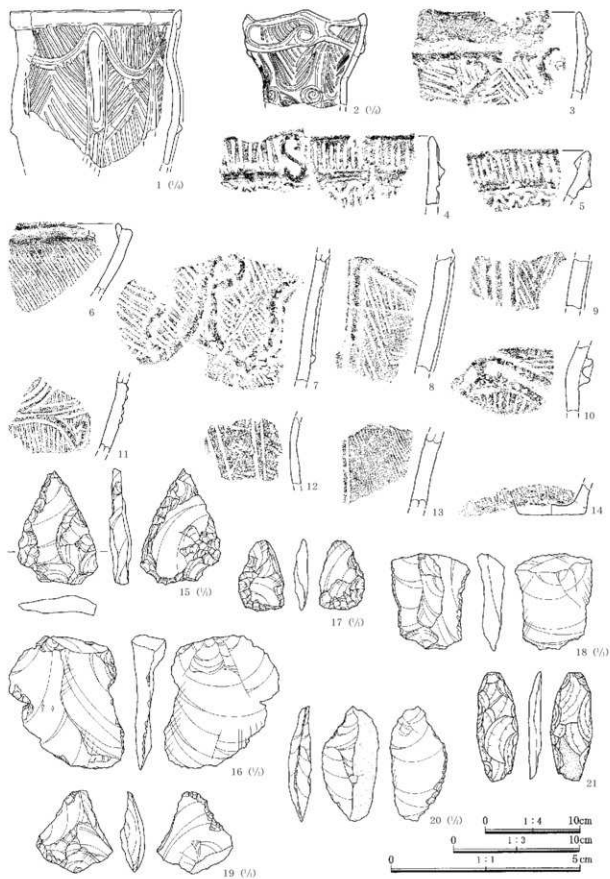
位置 調査区北寄り、F・G-3・4グリッドに位置する。 **重複** 南東側で一部5-156号住居跡と重なっており、これを切って作られている。北東部には近世以降の攪乱坑が見られる。

形状 ほぼ円形を呈すが、南側入り口部分が僅かに張り出す形状を呈す。

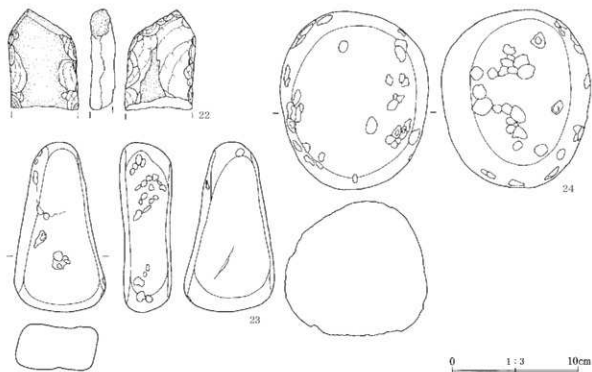
規模 640×580×40cm。 **方位** N-18°-W。

床面 掘り込んだローム面を平らにし踏み固めている。全面に細かな凹凸が在るが、比較的平坦で、炉の前

第3章 検出された遺構と遺物



第63図 5-154号住居跡出土遺物(1)



第64図 5-154号住居跡出土遺物(2)

面部分を中心に良く締まっている。南東の5-156号住居と重なる幅1m程の範囲には、ローム混じりの黒色土による貼り床が確認されている。他の部分はしっかりとしたローム面であるのに対し、この部分だけは他の遺構の覆土上にあり軟質であったことから、貼り床がなされたものと考えられる。壁下に沿って周溝がほぼ全周するが、入り口部は埋裏の手前で切れ、壁に向かっての。南西部分から南入り口部分に関しては二重に廻っており、部分的な拡張が行われたことが想定される。

炉 中央やや北寄りに作られる。炉の規模は長さ105cm、幅100cmで深さは50cmを測り、大きな角礫を四角に組んだ方形の大型石組み炉である。手前側の石は長さ85cm、幅は30cmで幅広の平坦面を上にして据えられている。手前側左右の角には、左側に棒状の礫134、右側には石棒135が縦に埋め込まれていた。炉の中には多くの土器片や礫が見られ、これらを取り除くと、火床面に口縁部を手前にやや傾いた状態で、炉体土器8が出土した。炉体土器は底部が抜かれており、火を受けた状況が伺える。また、手前の大きな石は表面が平らで平滑なことから、作業台として利用されていた可能性もある。

柱穴 廃絶時にはP-1~7の7本と考えられる。奥の柱穴P-1は、かなり大きく長径80cmの楕円形を呈し、中から丸石や土器片が出土している。他は径40cm前後で深さは約50cmである。P-8・9・11などは内側に廻っており、拡張前の柱穴であった可能性が高い。

埋裏 炉を通る中軸線上の南側入り口部に検出、口縁部を上にした深鉢11が埋められていた。口縁部分および底部を欠いた深鉢である。内部からは角礫1点が出土している。埋裏右脇には扁平な石が据えられていた。入り口に置かれた踏み石であろうか。

掘方 貼り床や床下土坑等は確認されなかった。床面部分においては、内側の周溝に対応すると考えられるP-8・9・10が検出されている。

出土遺物 覆土の上層部から中層部にかけて多くの土器、石器類が出土している。器形復元可能なものも多

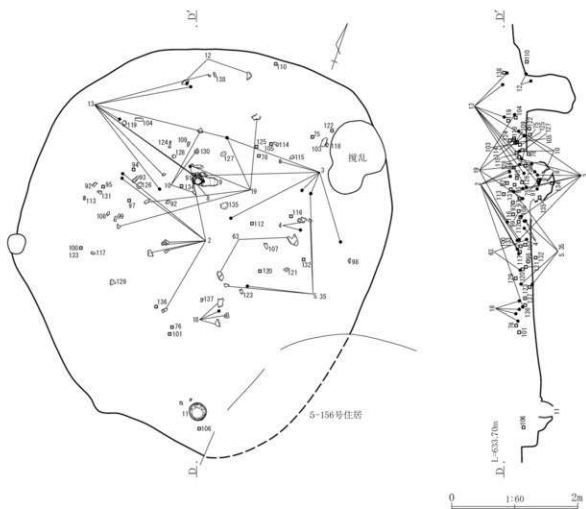
第3章 検出された遺構と遺物

く見られる。石器類も多く出土しており、石鎌をはじめとし、石匙や打製石斧が多く見られる。炉に据えられていた石棒の他にも、大型の石棒136なども出土している。覆土上位からではあるが、滑石製の垂飾品138が出土している。

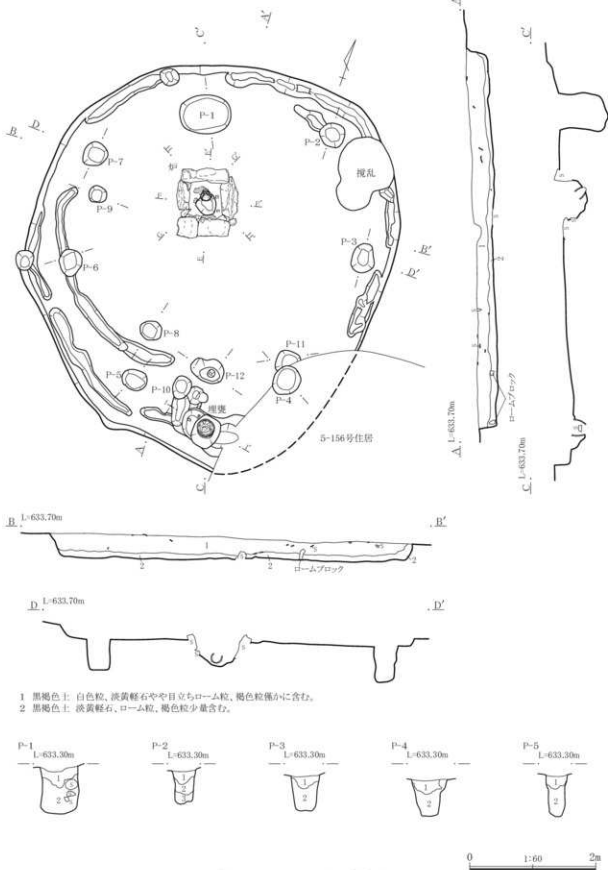
時期・所見 径6mを超える大型の住居である。遺存状態も良く、出土遺物も多かった。入り口部がやや突出する形状で入り口部には埋甕を伴う。一部重複する5-156号住居との床面比高差が20cm以上見られ、重複部分の床は部分的に貼り床がなされていた。入り口部には埋甕を持ち、脇には平らな石が置かれている。炉の作り替えは確認できなかったが、2重の周溝および内側に、これに対応する柱穴が検出されていることから、拡張が行われたものと考えられる。本址の時期は炉体土器や埋甕、他の出土土器等から中期後半と判断される。

5-156号住居跡 (第78～85図：PL.11・148～150)

位置 E・F-2・3グリッドに位置する。**重複** 北西側に位置する5-155号住居跡の南東部分が一部重複し、本址を切っている。**形状** ほぼ円形を呈すが、やや方形を意識した形状を呈す。また、南側入り口部が僅かに突出する。遺存状態は良好で、壁の高さは50cmを測る。



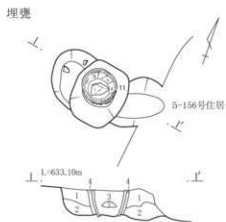
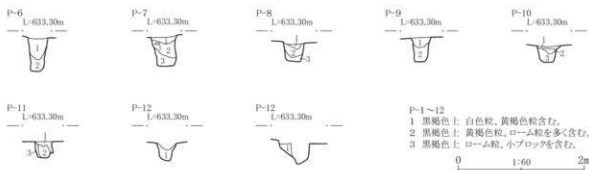
第65図 5-155号住居跡(1)



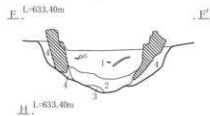
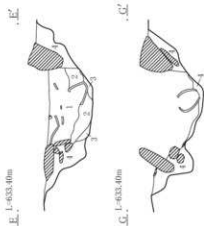
1 黒褐色土、白色粒、淡黄軽石や目立ちローム粒、褐色粒僅かに含む。
 2 黒褐色土、淡黄軽石、ローム粒、褐色粒少量含む。

第66図 5-156号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



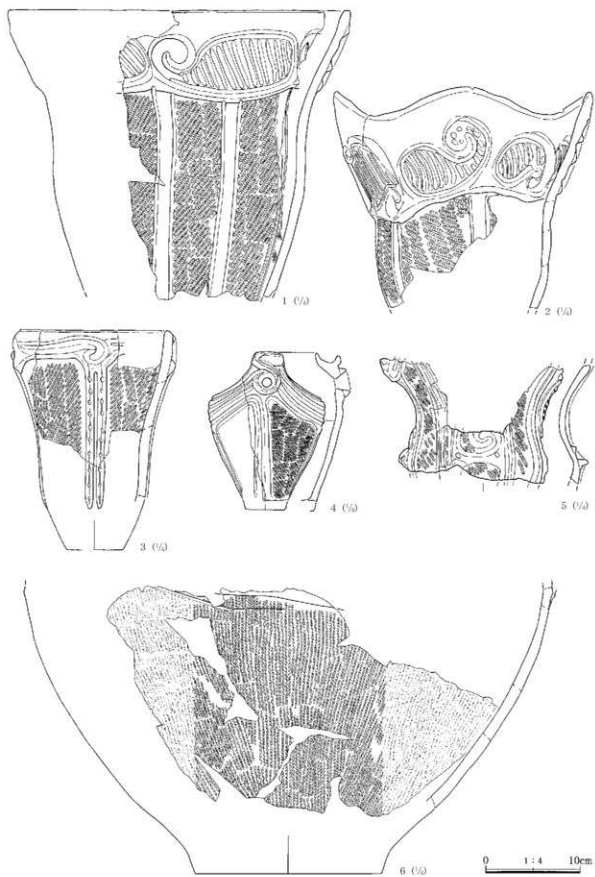
- 1 暗褐色土 ローム、YPK含みや砂りあり。
- 2 暗褐色土 1に比べYPK、ローム共に少なくやや粘性あり。
- 3 暗褐色土 ローム細粒を多く含む。
- 4 暗褐色土 ローム小ブロック含み砂り弱い。



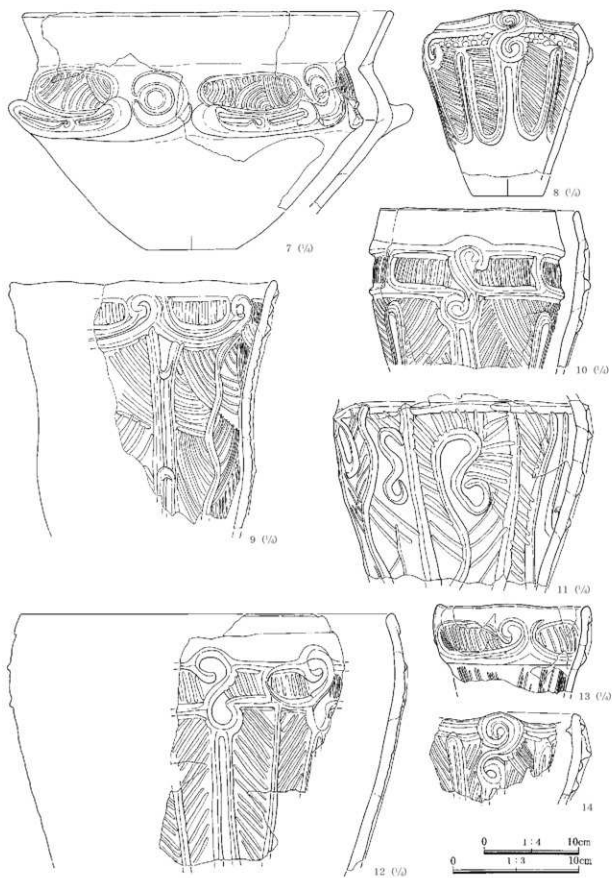
- 1 暗褐色土 YPK、黄褐色粒を含む。土器片、礫混入。
- 2 暗褐色土 YPK、黄褐色粒、若干の礫土粒、炭化物含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒や砂り含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

0 1:30 1m

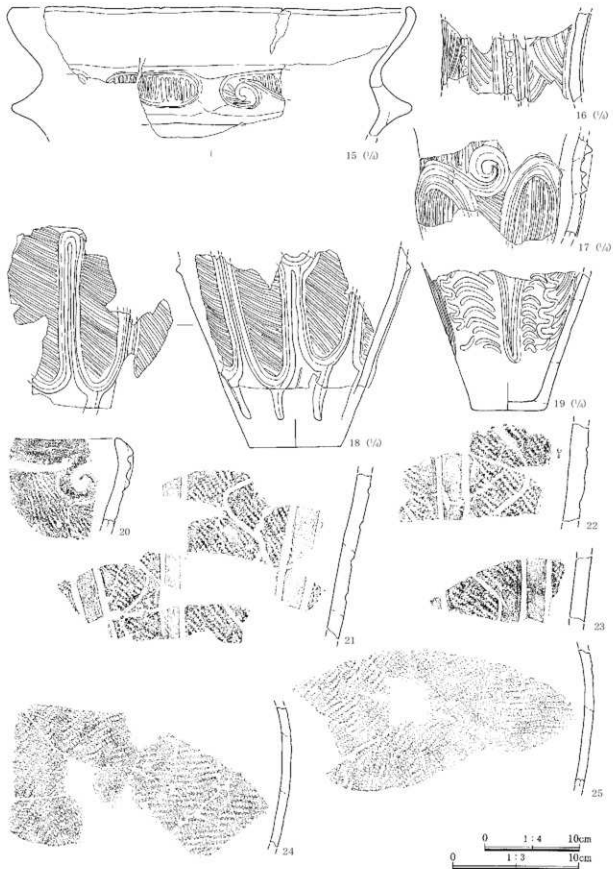
第67図 5-155号住居跡(3)



第68図 5-155号住居跡出土遺物(1)

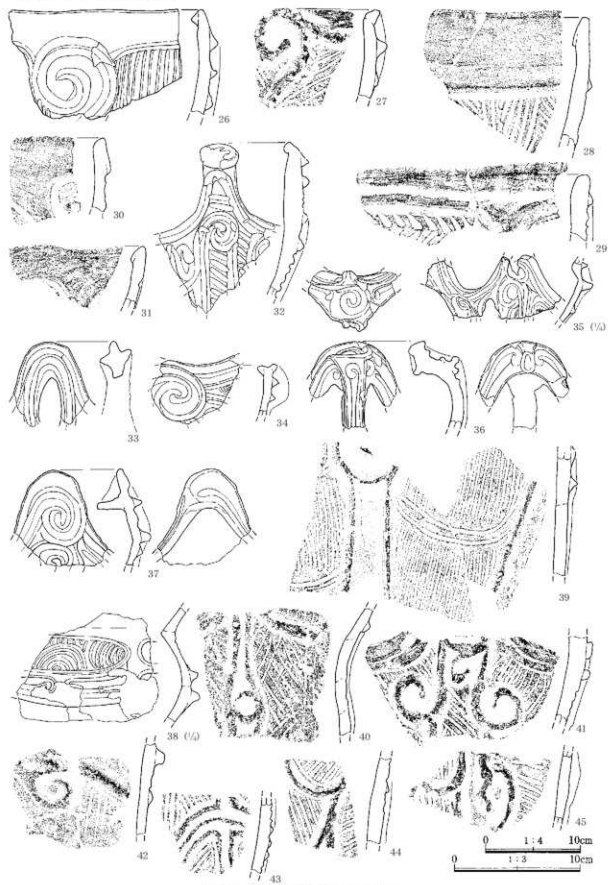


第69図 5-155号住居跡出土遺物(2)

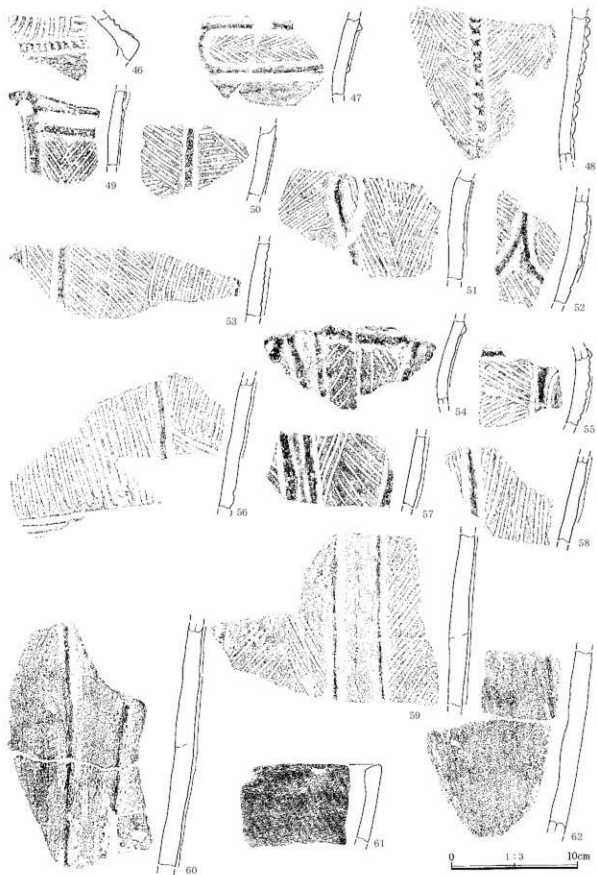


第70図 5-155号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

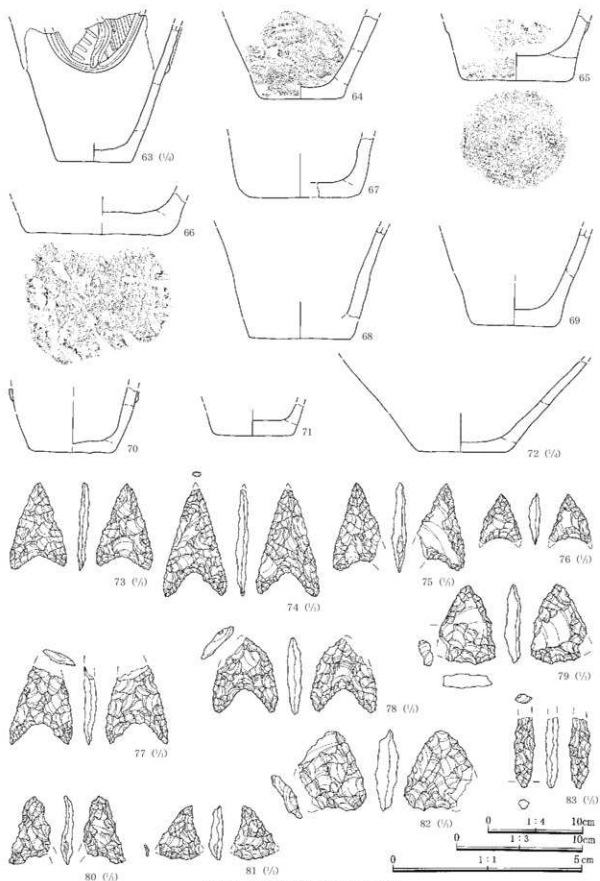


第71図 5-155号住居跡出土遺物(4)

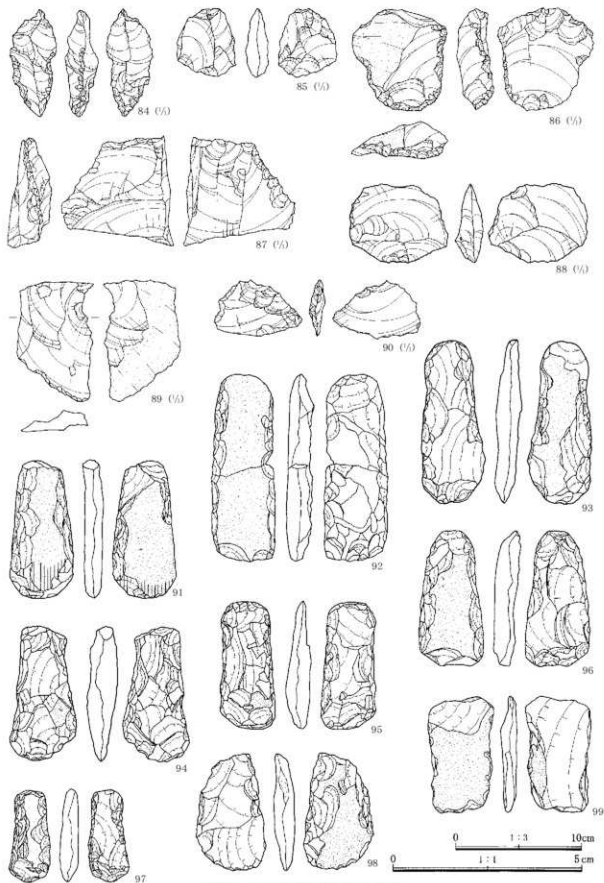


第72図 5-155号住居跡出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

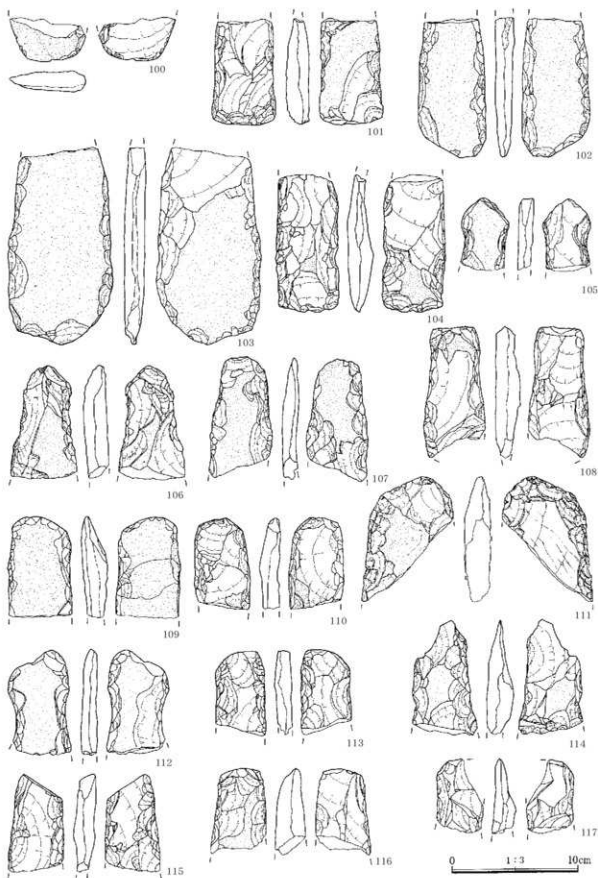


第73図 5-155号住居跡出土遺物(6)

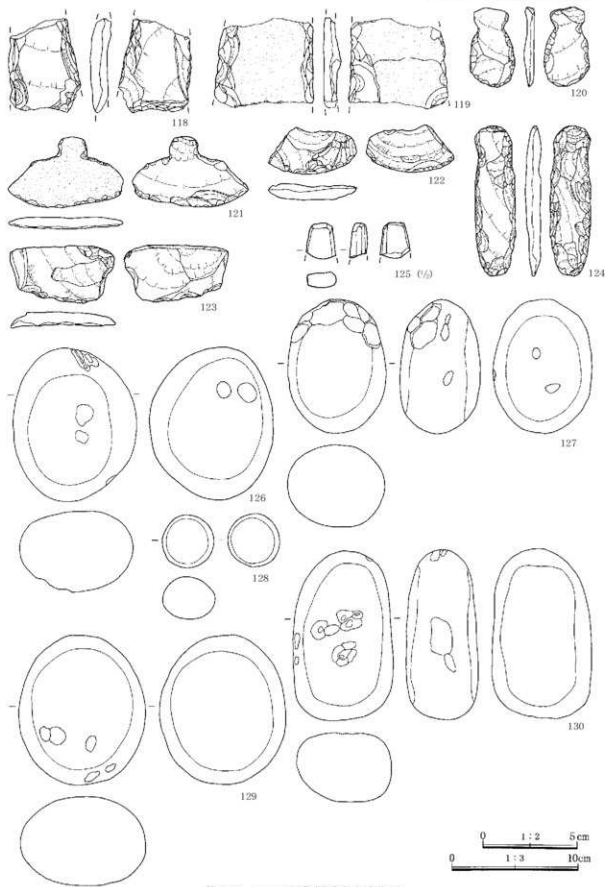


第74図 5-155号住居跡出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物

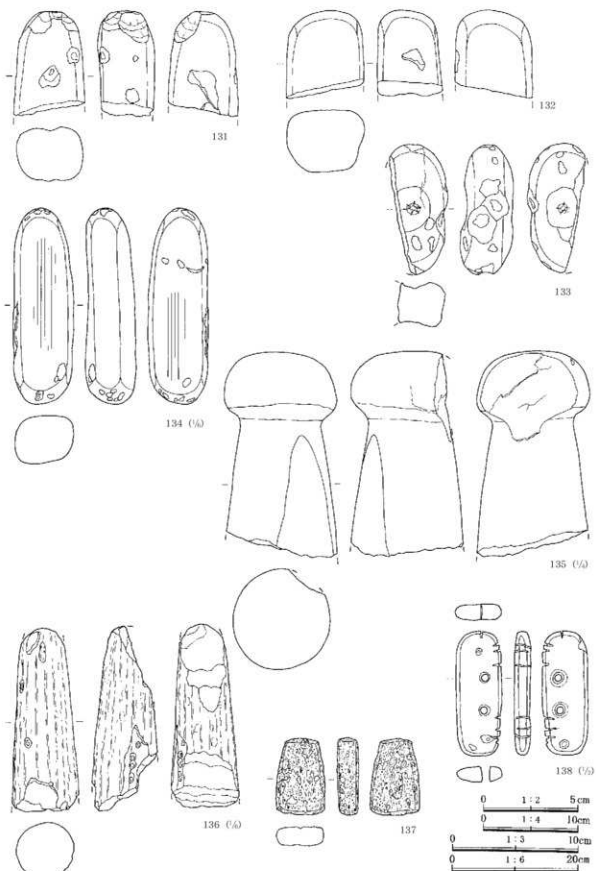


第75図 5-155号住居跡出土遺物(8)



第76図 5-155号住居跡出土遺物(9)

第3章 検出された遺構と遺物



第77図 5-155号住居跡出土遺物(10)

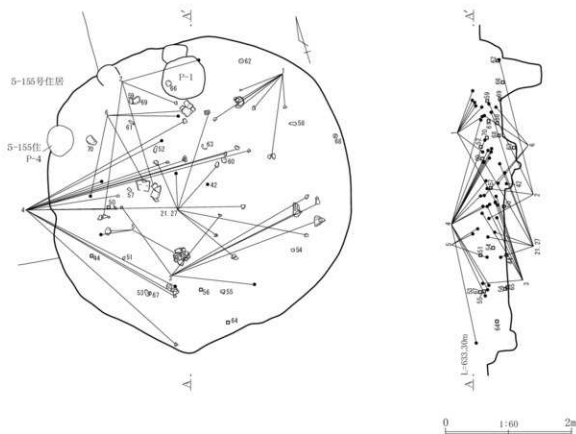
規模 500×480×60cm。 方位 N-15°-E。

床面 やや南側が下がっているが、ほぼ平坦で良く締まり、貼り床等は見られなかった。壁下には入り口部分を除いて周溝が全周している。また、突出する入り口部には壁から内側に延びた、平行する溝状の遺構が検出されており、左側の溝には大きな偏平な石が立てられた状態で据えられていた。埋め込まれている部分は極めて僅かである。当時立てられた状態で使用されていたかは不明であるが、検出した状態では、自立は不可能と思われ、何らかの支えがあったと思われる。このことを示唆するものとして、石の下に僅かにずれて土坑が確認されていることから、柱状の支えなどが想定される。

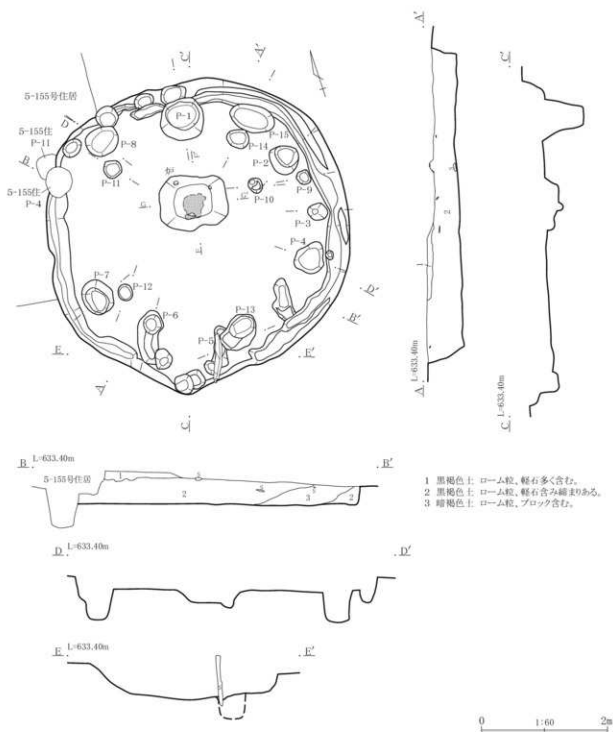
炉 住居中央やや奥に作られていた。石組み炉であったものと考えられるが、炉石は抜かれたものと思われ、残っていなかった。検出された掘方は、やや東西に長い長方形を呈し、規模は105×85cmで深さは約25cmである。炉石を据えた跡と思われる落ち込みも四方に確認されている。炉の中からは土器片や石器類が出土している。炉体土器は見られなかったが、掘方時、中央に小ピットが認められている。土器が据えられていた痕跡か。

柱穴 壁に沿って掘り込まれたP-1・2・4・13・7・8の6本か、奥壁寄りのP-1が最も大きく、径70cm、深さ65cmである。他は径50cm、深さ40～50cmである。これらの柱穴の内側に小ピットが巡るが建て替え等の痕跡は確認できなかった。 **埋壘** 検出されない。

掘方 明確な貼り床は確認されなかった。床下土坑と考えられるものは、北東壁際に検出されたP-15である。長円形で深さは70cm程あり、上部には厚さ約5cmのローム混じりの貼り床層が認められている。また、



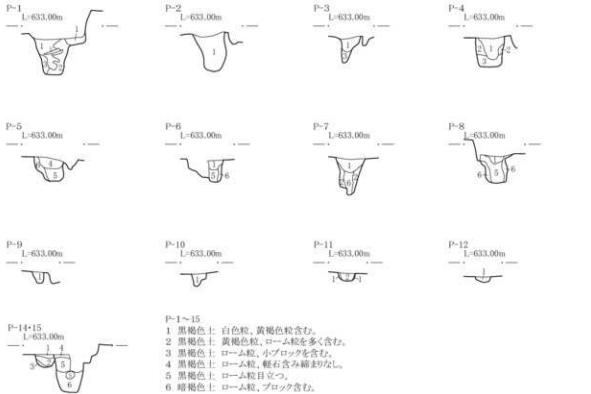
第78図 5-156号住居跡(1)



第79図 5-156号住居跡(2)

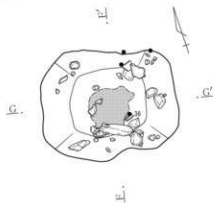
中からは複数の石が出土しており、壁面には土掘り具による掘削痕が明瞭に観察された。外周する柱穴の内側に浅い小ピットが検出されている。

出土遺物 覆土上層を中心に多くの礫や土器が出土している。土器の他、両面に組合せ渦巻き文様を持つ小型の鼓形耳栓42が出土している。石器は石鏃、石錐、打製石斧および磨石などが出土、両面に深い凹み穴を有す軽石製品68なども出土している。

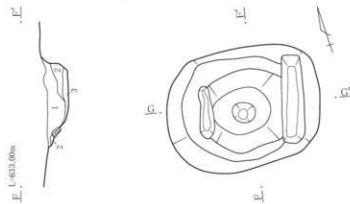


0 1:60 2m

炉跡



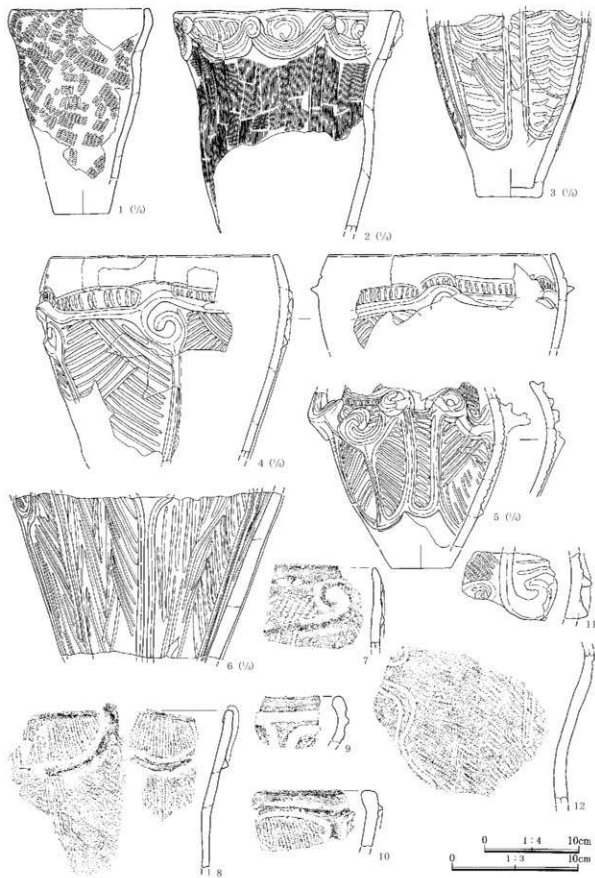
炉掘り方



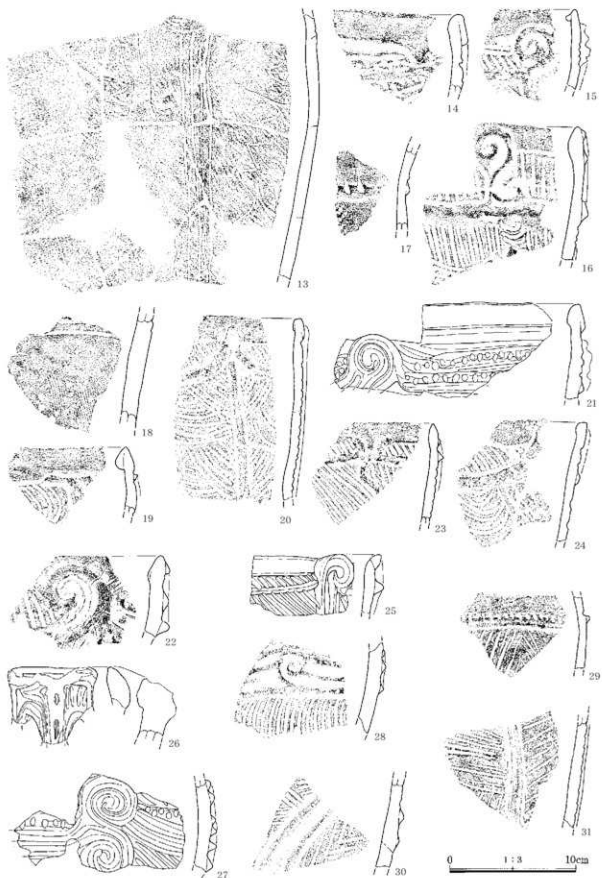
- 1 暗黒褐色土 少量のYPK, 黄褐色粒を含む。
 2 暗黒褐色土 YPK, 黄褐色粒, 若干の焼土粒, 炭化物含む。
 3 暗褐色土 焼土主体層。

0 1:30 1m

第80図 5-156号住居跡(3)

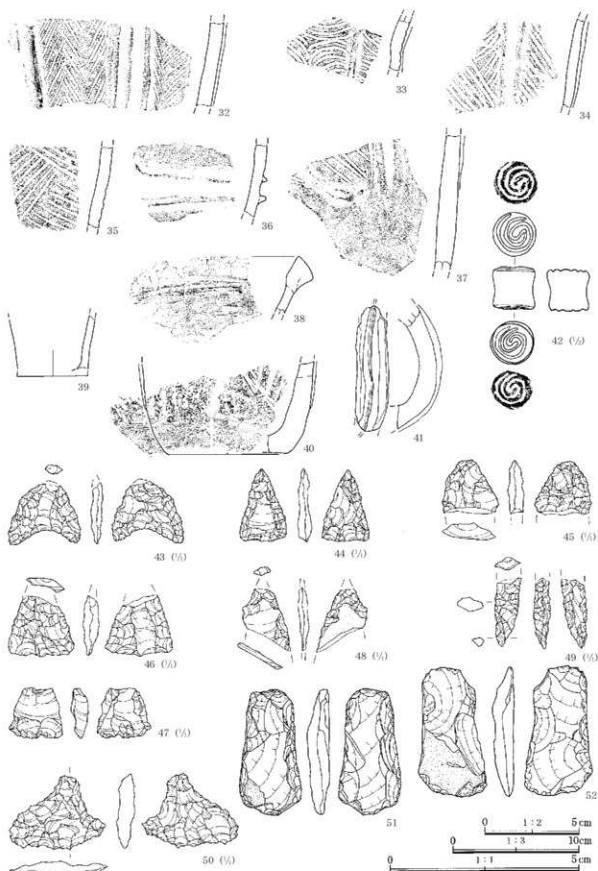


第81図 5-156号住居跡出土遺物(1)

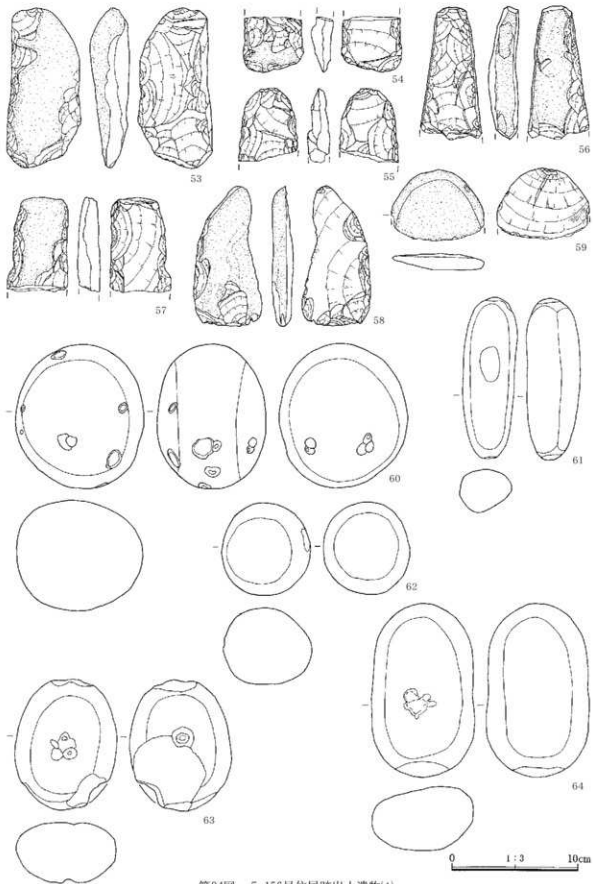


第82図 5-156号住居跡出土遺物(2)

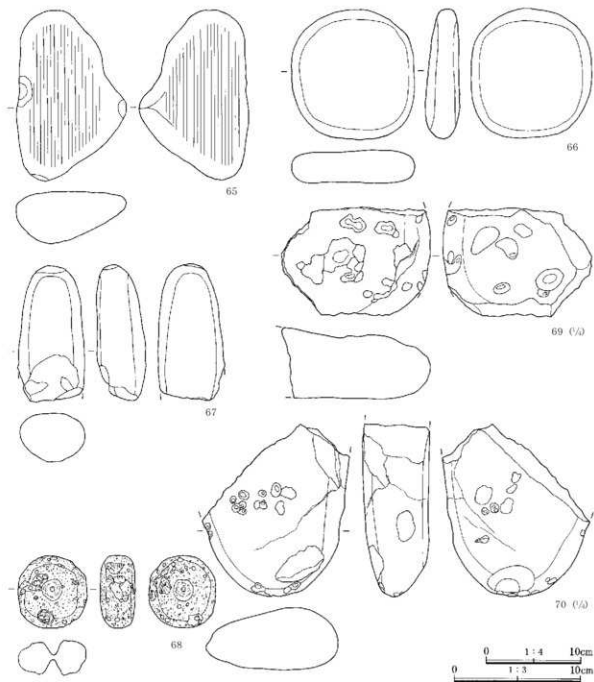
第3章 検出された遺構と遺物



第83図 5-156号住居跡出土遺物(3)

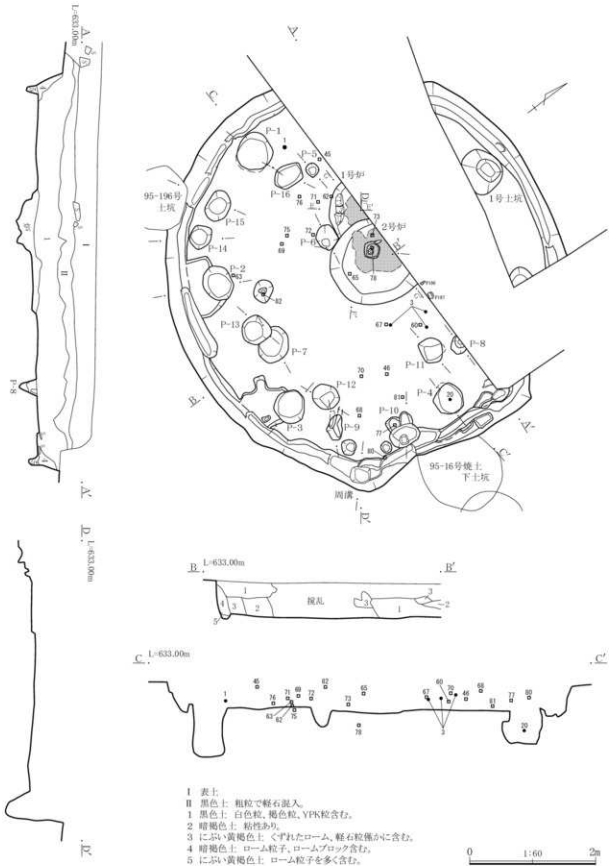


第84図 5-156号住居跡出土遺物(4)



第85図 5-156号住居跡出土遺物(5)

時期・所見 入り口部が僅かに突出するタイプで、平行する長さ50cm程の溝と小ビットが検出されている。入り口部に向かって右側の溝に、縦横約80cm、厚さが5cm程の大きな平石がほぼ垂直に立てられていた。この石は住居の確認面において上部がすでに見えていたもので、高さは80cmもあった。表面には目立った加工や使用の痕跡は見られなかった。出土状態が偶然の所産とは思わず、類例を当てる必要がある。住居の時期は出土土器から中期後半と考えられる。



第86図 95-5号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



… 第87図 95-5号住居跡(2) …

95-5号住居跡 (第86~94図; PL.12・151~153)

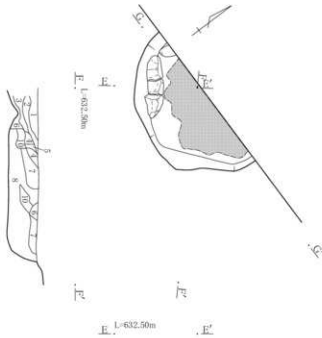
位置 M・N-17・18グリッドに位置する。 **重複** 平成14年度に北側の一部を調査している。この調査区境部分はL字型に未調査部が残る。 **形状** 円形を呈す。 **規模** 660×640×50cm。

方位 N-53°-W。 **床面** 炉の周辺南側部分については非常に硬く踏みしめられた状況を呈していた。周溝は南側部分がやや不明瞭であるがほぼ全周している。上幅約20cm、深さは15cmである。部分的に途切れる部分が見られる。

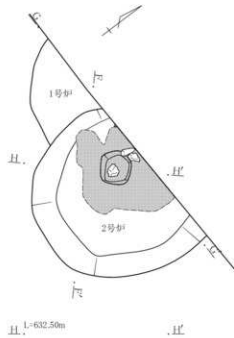
炉 住居のほぼ中央に新旧2基(1・2号)を確認。作り替えが行われたものと考えられる。西側の1号炉が新しい。いずれも北側は調査区外となっているために南半分のみ調査である。1号炉は掘方南にL字に炉石が検出されている。炉内には焼土が見られやや落ち込んでいる。2号炉は手前に在り1号炉が重複する。炉石は無く径1.3mの円形の比較的浅い落ち込みとして確認されている。底部に焼土が見られる。炉石は確認されなかった。

柱穴 壁に沿って廻る1号炉に対応するもの7本と、やや内側に廻る2号炉に伴う一群6(7)本が認められる。 **埋篋** 検出されず。 **掘方** 貼り床や床下土坑は見られず。

1号炉跡



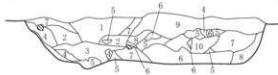
2号炉跡



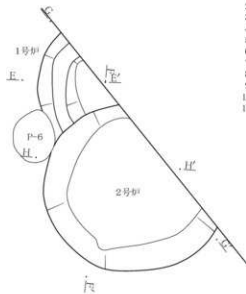
G. L. 632.50m



G.



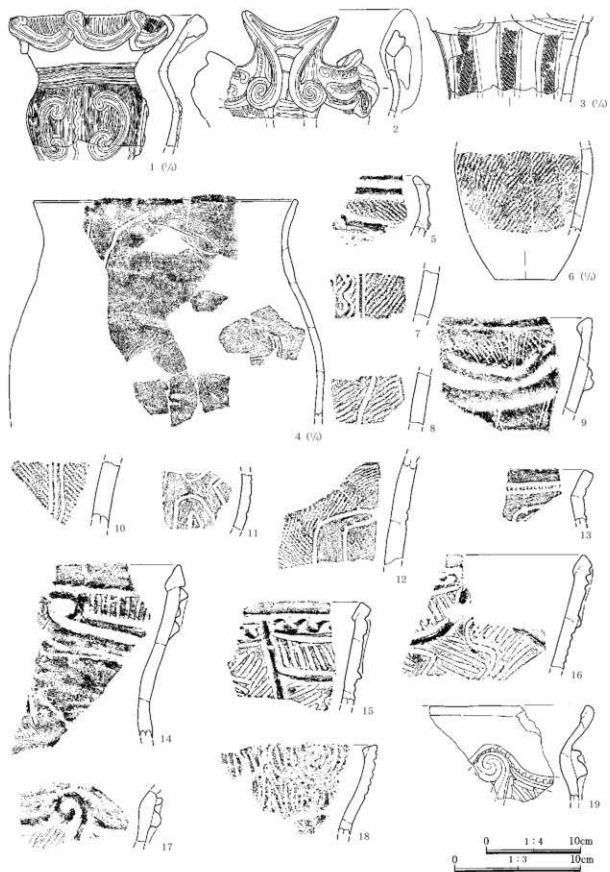
1・2号炉掘り方



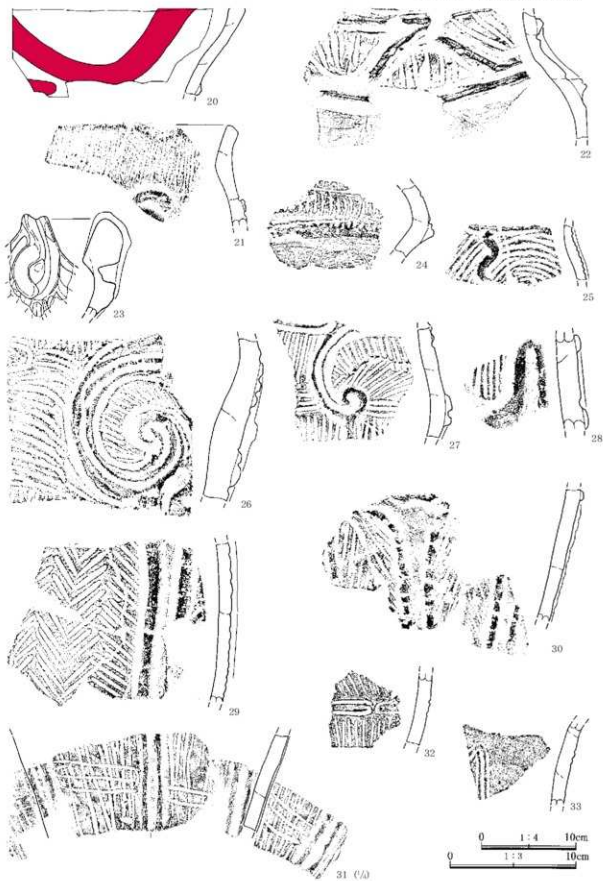
- 1 暗褐色土：炭化物を含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土：焼土粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土：ローム粒子を含む。
- 5 灰褐色土：熱を受けたローム。
- 6 黒褐色土：焼土粒を多く含む固い、ローム粒を少々含む。
- 7 赤暗褐色土：焼土ブロックを含む。
- 8 黒色土：ロームを少々含む。
- 9 暗褐色土：ローム粒を多く含む。
- 10 暗褐色土：焼土粒、ローム粒、炭化物を含む。
- 11 褐色土：焼土粒が少々混じる。

0 1:30 1m

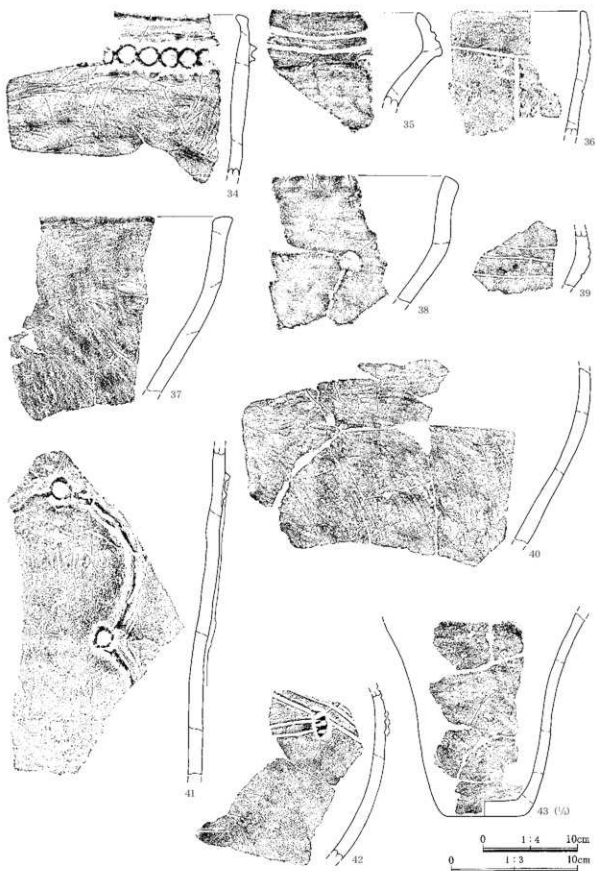
第88図 95-5号住居跡(3)



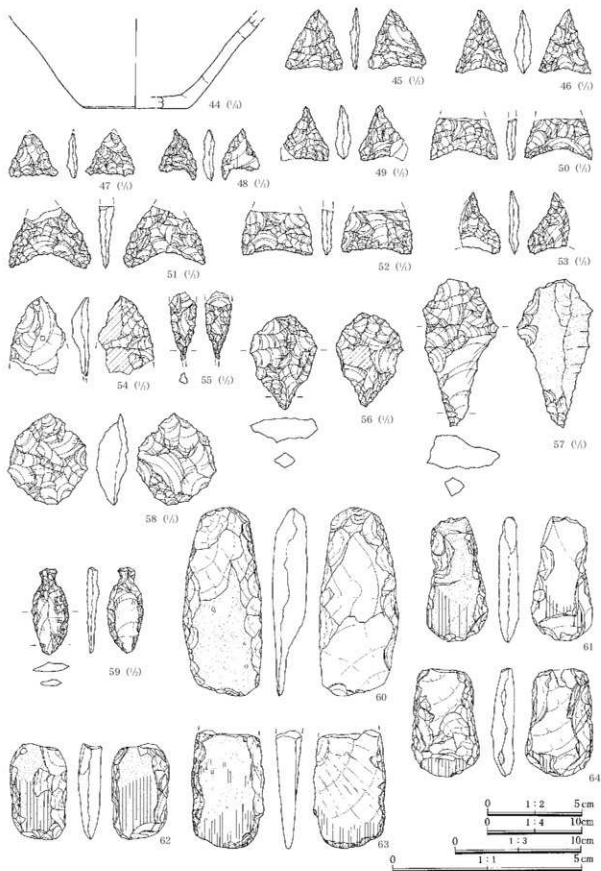
第89図 95-5号住居跡出土遺物(1)



第90図 95-5号住居跡出土遺物(2)

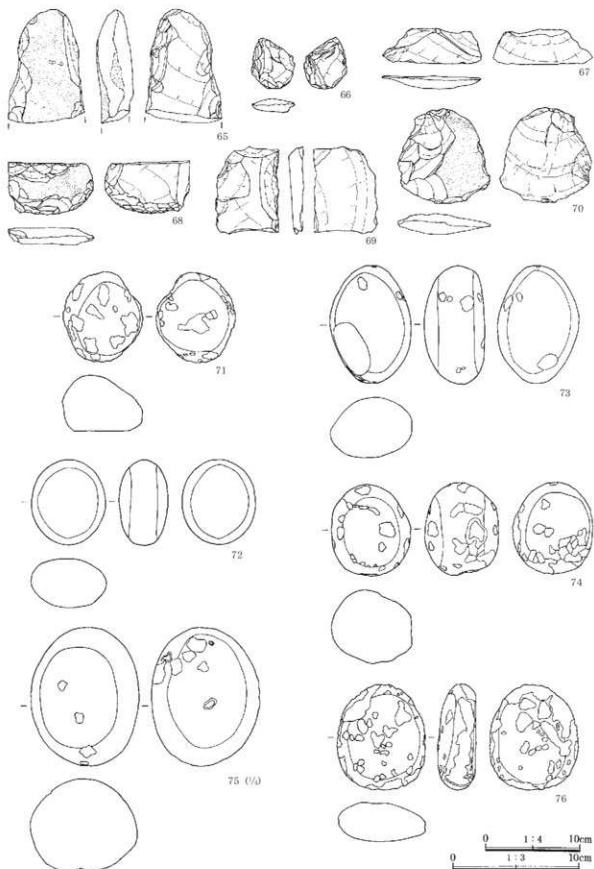


第91図 95-5号住居跡出土遺物③

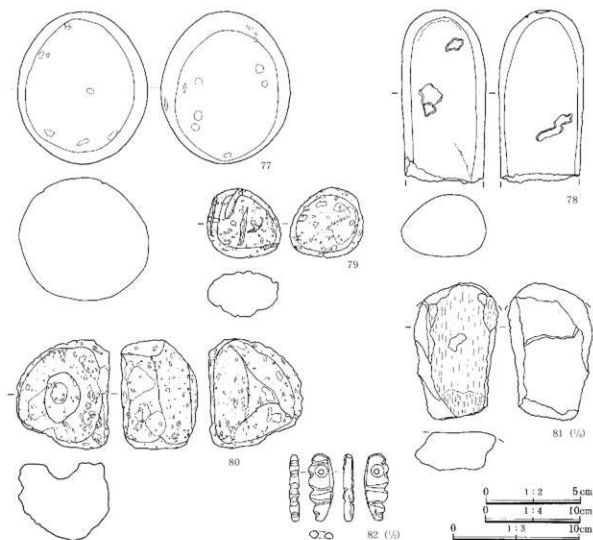


第92図 95-5号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第93図 95-5号住居跡出土遺物(5)



第94図 95-5号住居跡出土遺物(6)

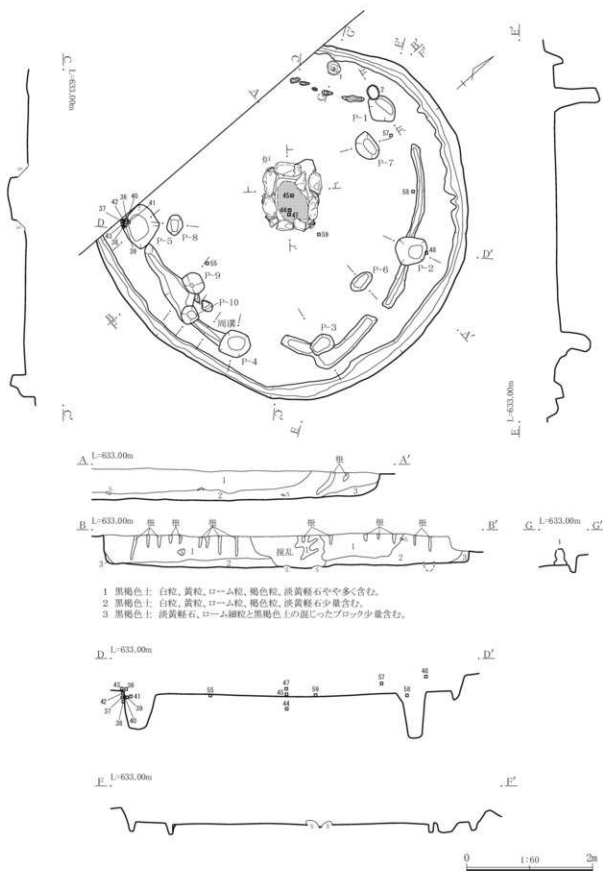
出土遺物 覆土中より比較的多くの土器および石器類が出土、石器については石鎌、石匙、打製石斧、磨石等が出土、蛇紋岩製の重飾品82が出土している。

時期・所見 新田2基の炉が確認されていることや、柱穴が2重に認められることから、立て替え(拡張)が行われているものと考えられる。平成14年度に北側のごく一部を調査している。間に一部調査できなかった部分があるが、遺構の残りは良好である。南東部に入り口を有すと思われる、僅かに外側に張り出す形を呈し、壁下には一対の小ピットが見られる。時期は中期後半と見られる。

95-12号住居跡 (第95~101図：PL.12・13・153~155)

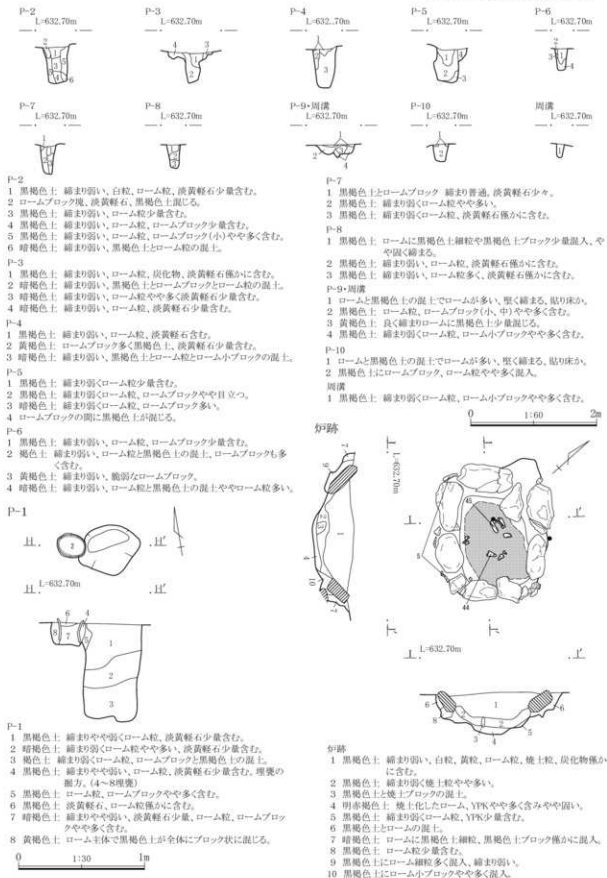
位置 調査区の西寄り、L・M-21・22グリッドに位置する。 **重複** 南に95-16号住居跡と重複し、これを切っている。住居の西側一部が調査区外となる。 **形状** 円形を呈す。

規模 (600)×570×25cm。 **方位** N-47°-W。 **床面** 平坦で良く締まる。特に炉の前面は堅くなっている。壁下に幅約20cm、深さ15~20cmの周溝が全周する。この内側にも柱穴間を繋ぐように周溝が検出されている。 **炉** 大小の川原石10点ほどを、長さ110cm、幅約90cmの長方形に配した石囲い炉である。深



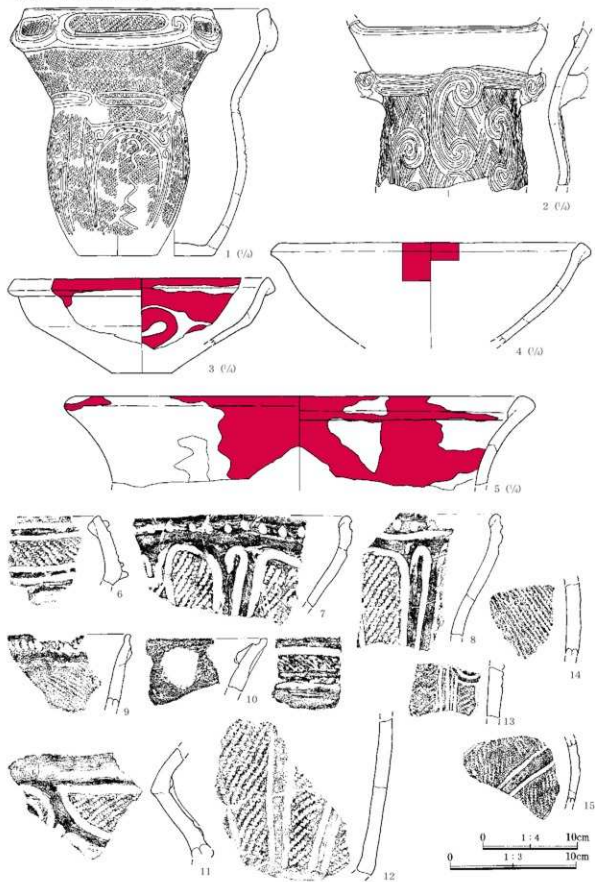
第95図 95-12号住居跡(1)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

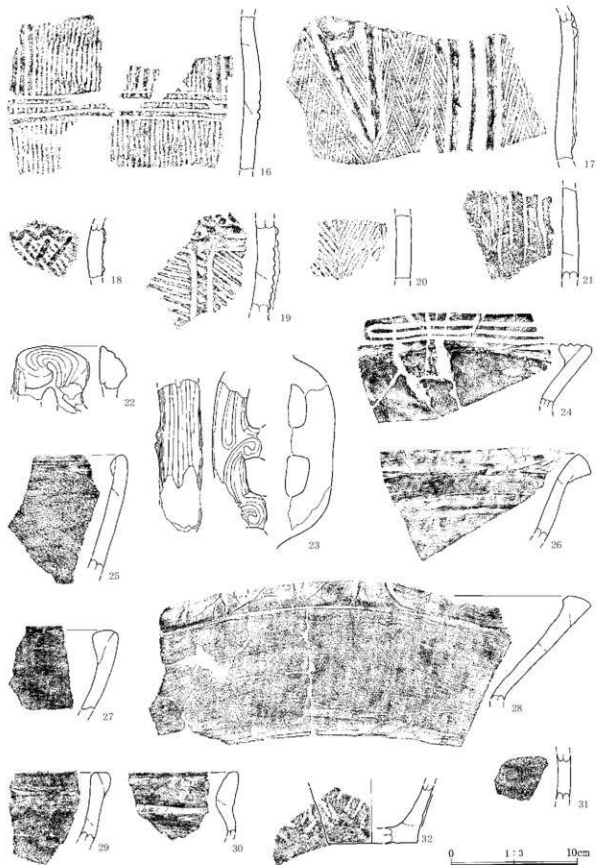


第96図 95-12号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

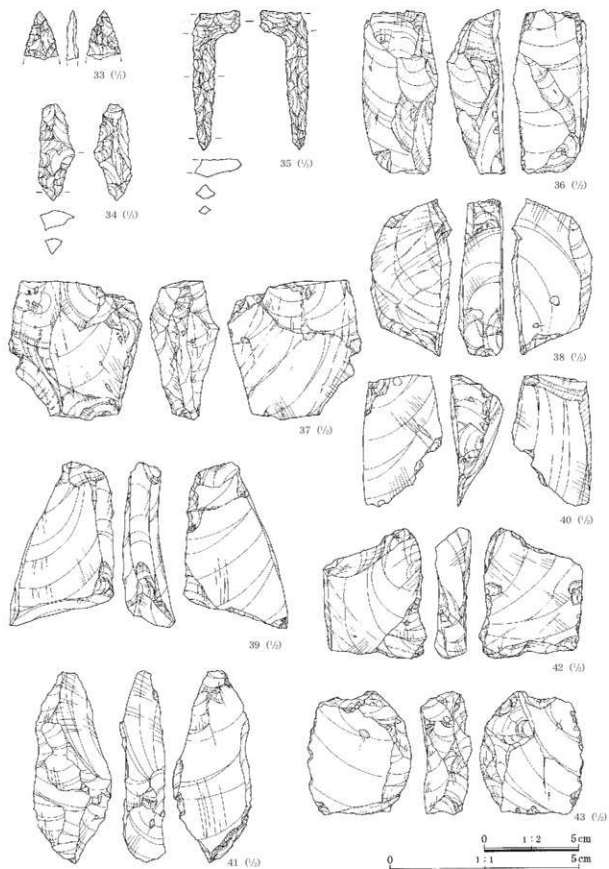


第97図 95-12号住居跡出土遺物(1)

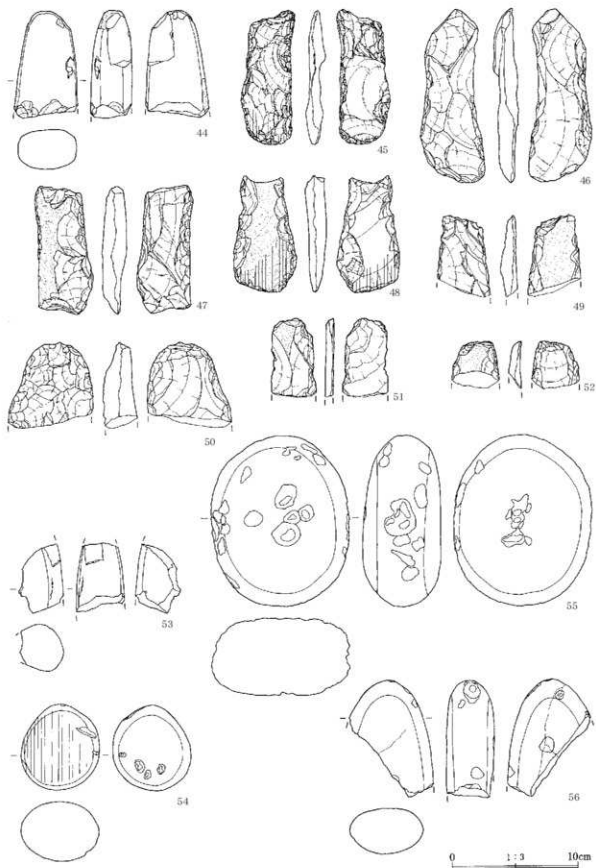


第98図 95-12号住居跡出土遺物2)

第3章 検出された遺構と遺物

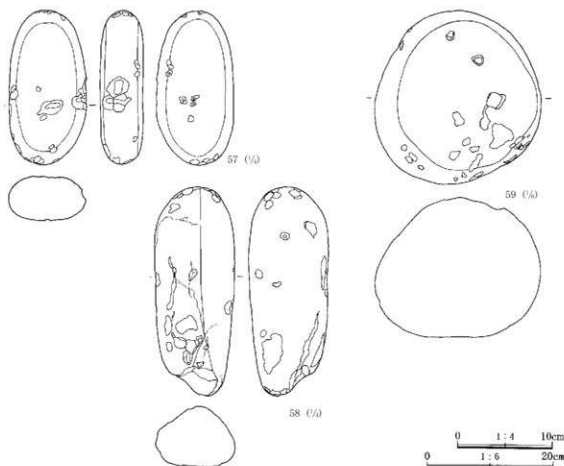


第99図 95-12号住居跡出土遺物(3)



第100図 95-12号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第101図 95-12号住居跡出土遺物(5)

さは約30cmである。炉石はやや斜めに据えられた状態で、被熱によるひび割れが顕著であった。一部炉石の隙間に土器片を入れ込んでいる。炉底面のロームが焼土化している。

柱穴 検出範囲においては、壁に沿って5本を検出した、西側の未調査部分にも存在することを想定すれば、6ないしは7本柱穴か。柱穴は径40～50cmで、深さは50～60cmを測り、柱を埋め込んだ後に上部にローム混じりの土を入れた状況が見られたものも看取されている。柱痕の観察されたものもある。

埋裏 柱穴P-1の西側に接して、口縁部まで埋め込まれた状態で2が検出されている。掘方は径25cm、深さは20cm程の円形の掘り込みである。埋裏の中から土器や石等は検出されていない。

掘方 貼り床等は見られず、内側に周溝を検出、幅15～20cm程で深さは深い部分では20cmを測る。部分的に切れており、柱穴に切られていた。また、この周溝の内側にはやや径の小さい柱穴と思われるピット（P-6～9）が廻っており、拡張前の柱穴と思われる。床下土坑等は見られなかった。

出土遺物 土器は床面に伏せられた1や埋裏2の他は、ほとんどが破片類で点数はあまり多くはなかった。石器類は石錐、石錐、打製石斧、磨石等である。また、柱穴P-5の脇に置かれた状態で黒曜石の石核8点（36～43）がまとまって出土しており注目される。

時期・所見 本址は西側の一部が調査区外にあるものの、検出された遺構の状態は良好であった。周溝および柱穴が内外二重に検出されていることから拡張が考えられる。炉については切り合い等は確認できなかったことから、規模の拡張と思われる。遺物については床面に伏せられたほぼ完形の土器と、埋裏の検出が特

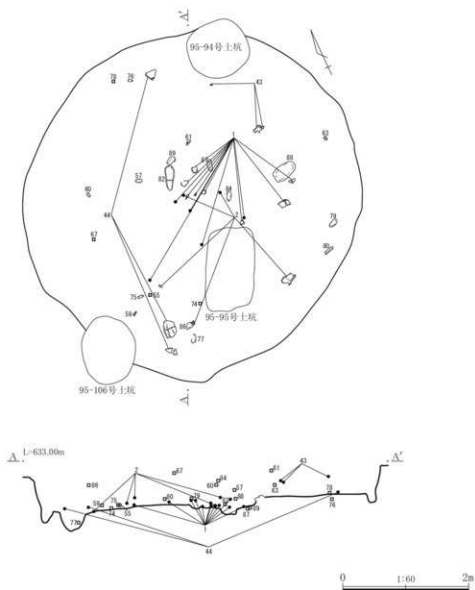
記される。また、柱穴の脇に出土した黒曜石石核（原石）8個は、重さ100g前後でいずれも角の部に細かな剥離が見られ、運搬途中に石同士が擦れ合って、角が削ぎ落ちたものと考えられる。遺構の時期は出土した埋裏等から中期後半の古段階と考えられる。

95-13号住居跡（第102～112図：PL.13・14・155～158）

位置 J・K-22・23グリッドに位置する。 **重複** 耕作による攪乱土を除去し精査を行っている中で畑を検出。北西側で95-42号住居跡の南部分を切っており、95-92（陥し穴）・94（95-3号掘立柱建物跡柱穴）・106号土坑が重複、本址を切っている。また、95-19号住居跡が東側に接している。

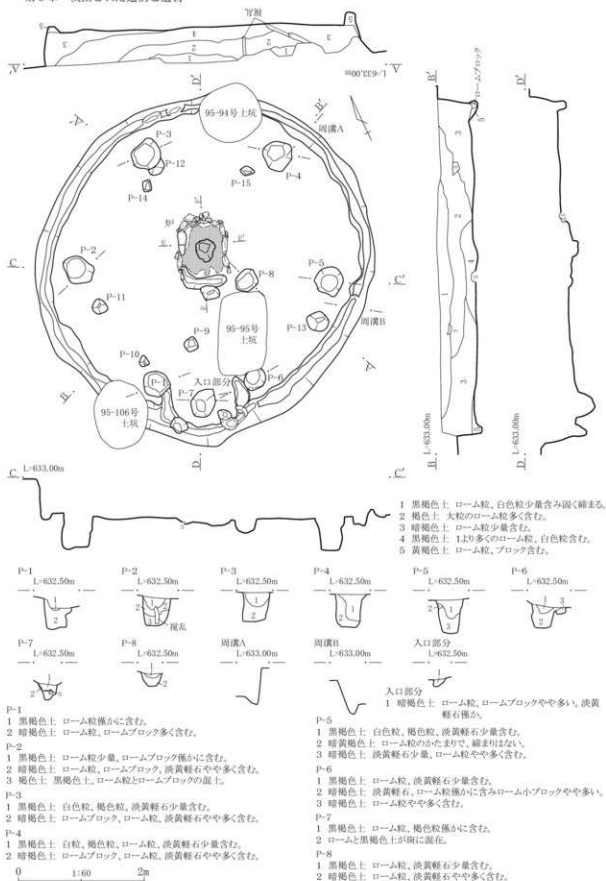
形状 ほぼ円形で、南西入り口部分が僅かに張り出す形状を呈す。 **規模** 550×540×56cm。

方位 N-25°-E。

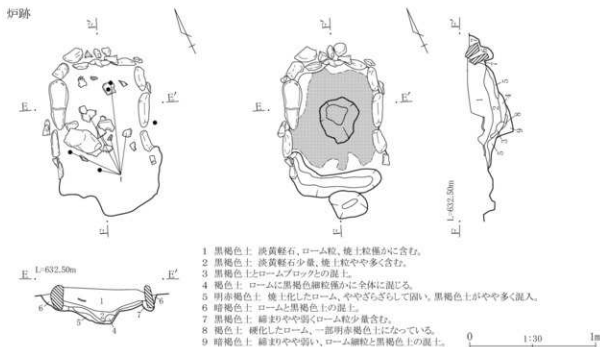


第102図 95-13号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第103図 95-13号住居跡(2)



第104図 95-13号住居跡(3)

床面 確認面から50cm程掘り下げた地山のローム面を床面としている。ほぼ平坦で、全体に堅く締まっており、炉の前面から入り口にかけては僅かに落ち込んでいる。幅20cm前後の周溝が壁に沿って全周しており、南側僅かに突出した入り口部分には、コの字状に溝が掘られ端部にはピットが掘り込まれている。

炉 住居のほぼ中央に作られている。長方形に大小の川原石を配した石囲い炉で、南部分には石が無く開口した形を呈していた。炉の中央部分は浅く落ち込んでおり、底部中央に小ピットが在り、周囲には硬く焼けた焼土が検出されている。炉の規模は長さ120cm、幅が約80cmである。なお、掘方調査を実施したところ石の無かった南側にL字状の掘り込みが検出された。おそらく構築時には南側にも、炉石が据えられたものと考えられる。

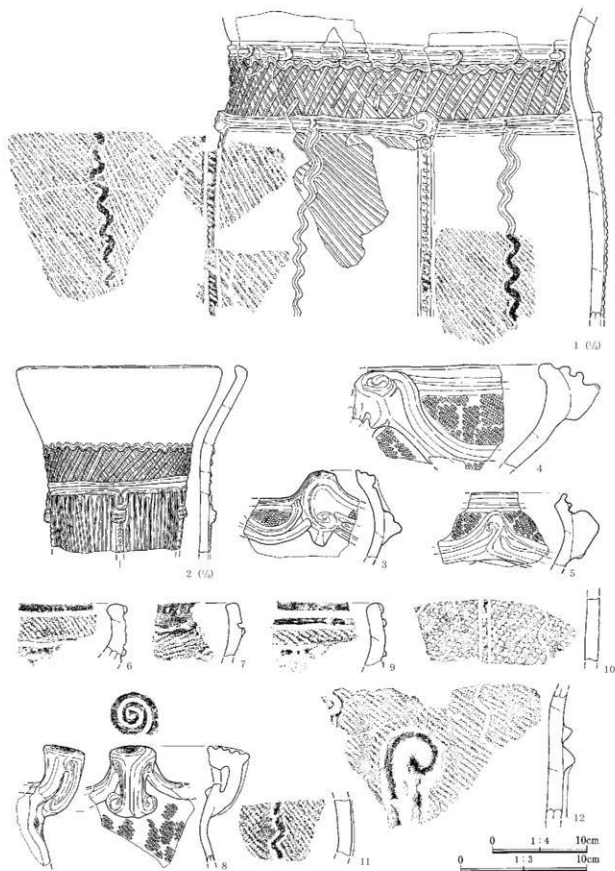
柱穴 壁下に沿って6本(P-1~6)を検出した。いずれもほぼ円形を呈しほぼ垂直に掘られており、しっかりとした掘方であった。径は40~50cm、深さは約50cmである。この他に径20cm前後で深さも20cmほどの小ピットが数基中央部および各柱穴の脇に確認されている。

また、入り口の張り出し部分の中央部に、径40cm、深さ25cmのピット、および手前に一對の小ピットが検出されており、何らかの施設に関連するものであろう。**埋壘** 検出されなかった。

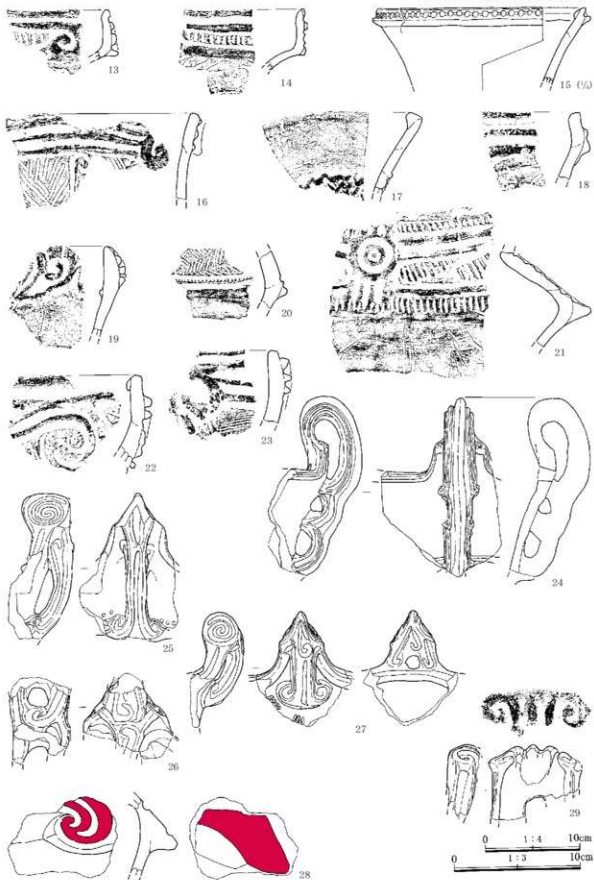
掘方 床は地山ロームを硬く踏みしめて構築か、出入り口と考えられる南側に溝状の掘り込みがあり、周溝内にピット2基を検出。炉を廻り小ピットが検出されたが、周溝等は検出されず拡張の痕跡は確認できなかった。また、床下土坑なども確認されなかった。

出土遺物 土器および石器類が中央からやや西寄りに多く出土しているが破片類が中心である。赤彩痕の見られる鉢の破片が複数出土している。石器は十数点の打製石斧と磨石および石皿片や使用痕のある大型の円礫が出土している。また、炉の周辺部においてクルミを主体とした炭化種実類がややまとまった状態で検出された。

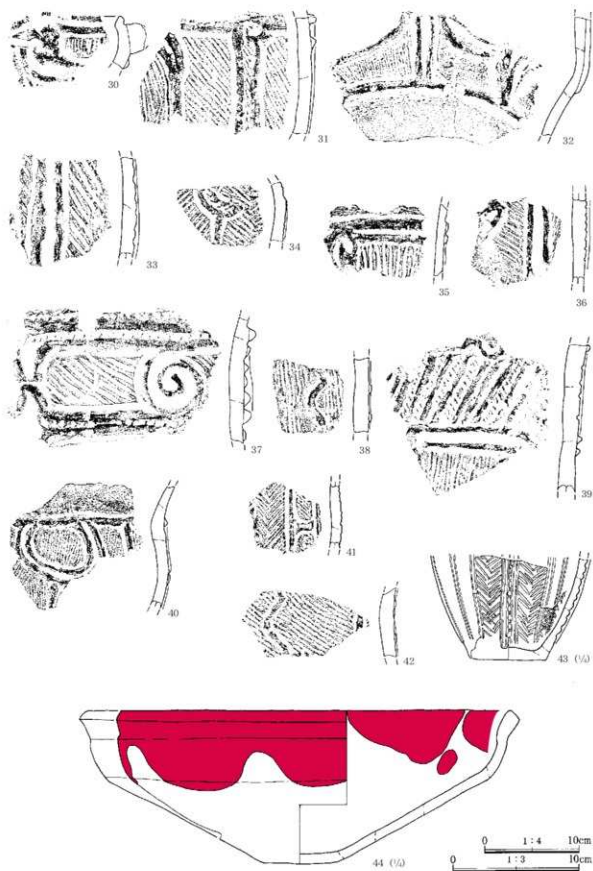
時期・所見 出入り口部は外側にやや張り出した形状を呈す。入り口施設に関連すると思われる、左右一對



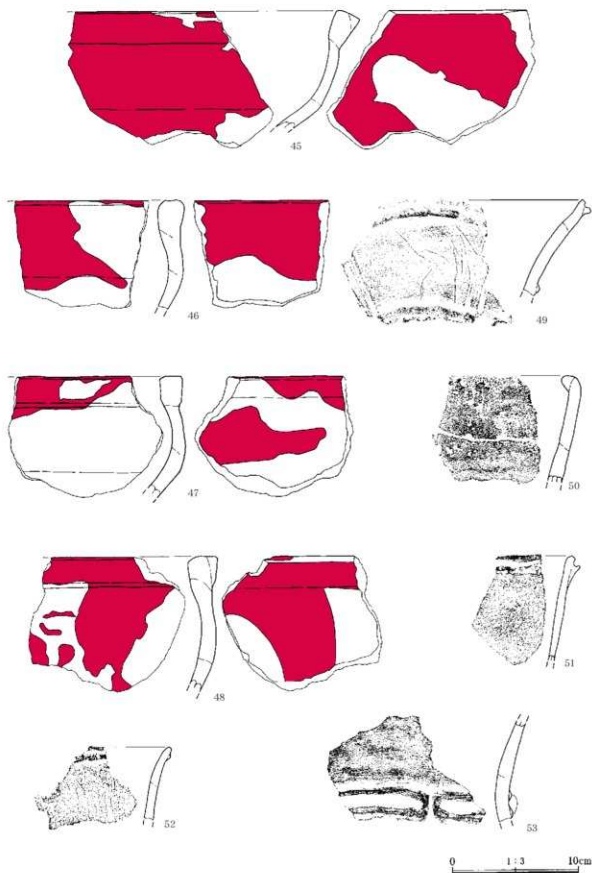
第105図 95-13号住居跡出土遺物(1)



第106図 95-13号住居跡出土遺物(2)

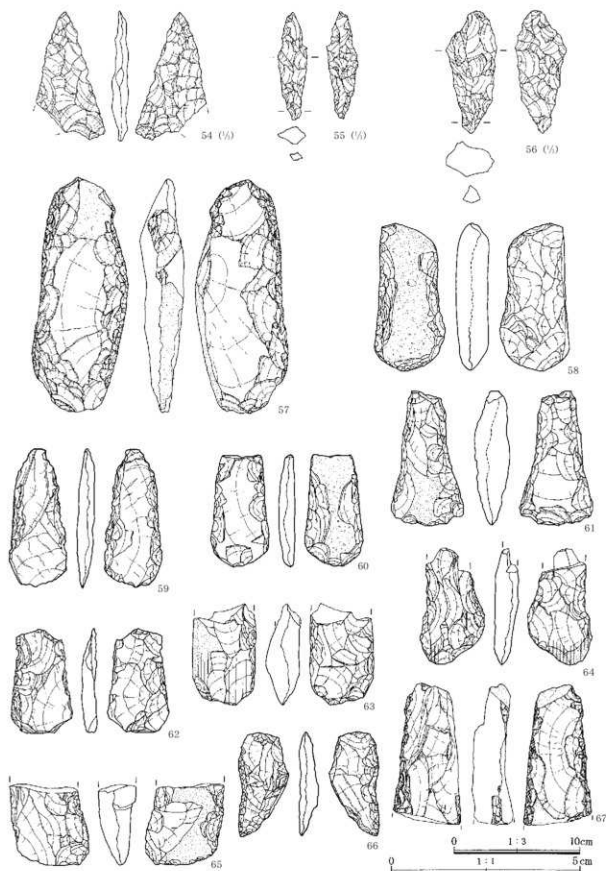


第107図 95-13号住居跡出土遺物(3)

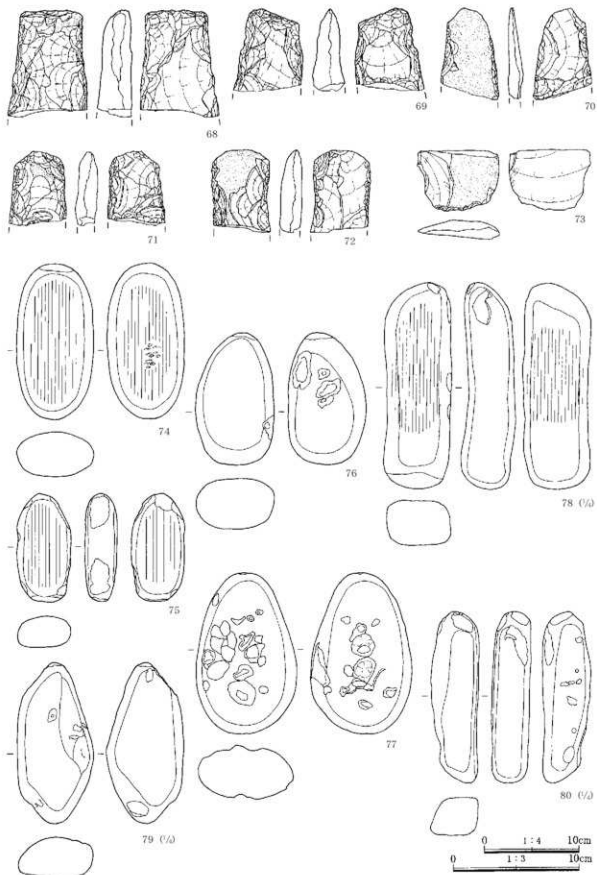


第108図 95-13号住居跡出土遺物(4)

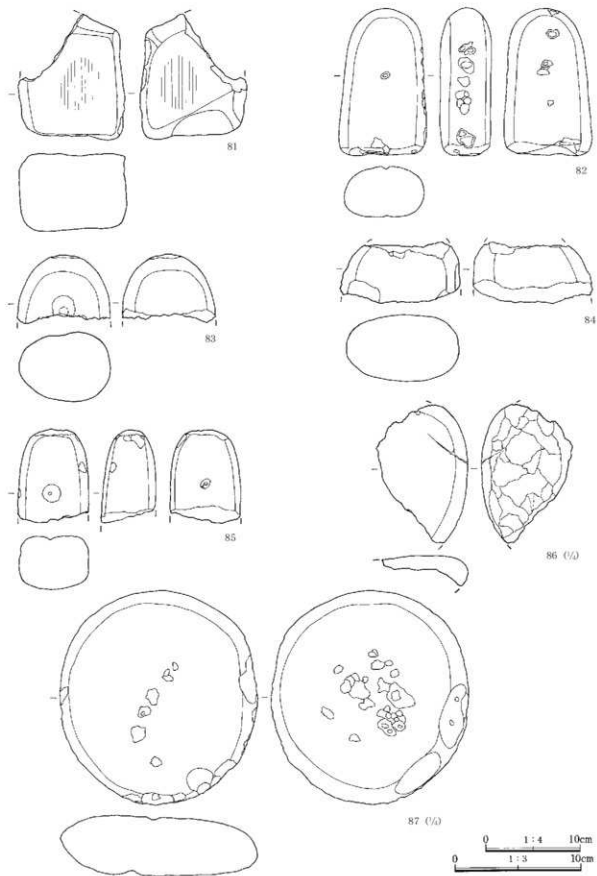
第3章 検出された遺構と遺物



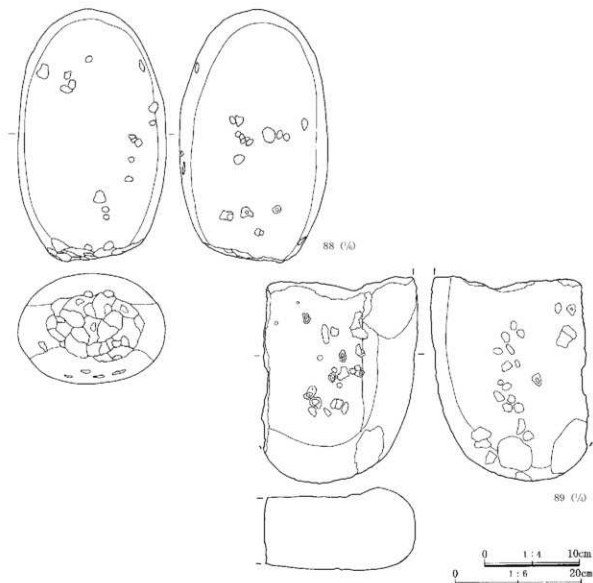
第109図 95-13号住居跡出土遺物(5)



第110図 95-13号住居跡出土遺物(6)



第111図 95-13号住居跡出土遺物(7)



第112図 95-13号住居跡出土遺物(8)

ずつ計4本の小ビットおよび中央にもビットが検出されている。このビットで囲まれた部分は南にやや傾斜を示し、出入り口として傾繁に踏みしめられた結果が、床面よりかなり下がっている状況であった。

時期は出土した土器等から中期後半と考えられる。

95-14号住居跡 (第113～121図：PL.14・15・159～161)

位置 調査区の西寄り、K・L-23～25グリッドに位置する。 **重複** 南東部に95-17号住居跡が重複し本址の一部を切っている。また、西側に位置する95-37号住居跡の東側の一部を切って構築されている。確認時には黒色土内に土器や石片が多く見られ、縄が張り出し部分を想定させるような状況で確認されていたため、掘り下げを行ったところ住居であることが判明した。 **形状** 円形を呈す。

規模 540×530×50cm。 **方位** N-24°-W。

床面 炉の南側がひときわ硬く締まる。全体にほぼ平坦であるが、炉の前面部分が他の場所にして僅かに低くなっている。壁下には所々一部が切れているものの、周溝がほぼ全周する。上幅は15～20cm。深さは

第3章 検出された遺構と遺物

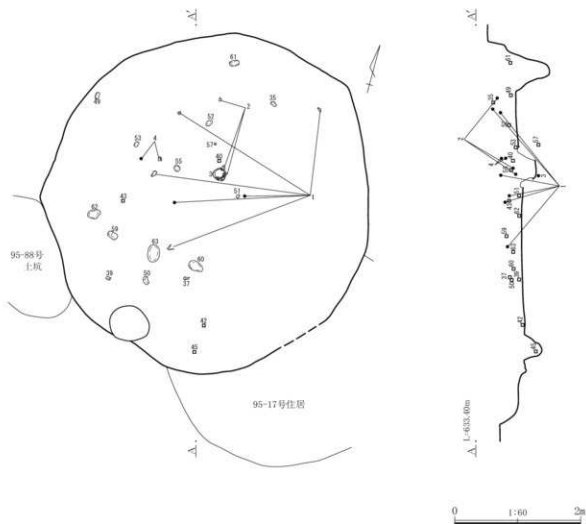
10cm前後である。

炉 石囲い炉で横長の五角形を呈し、一部東側の石が抜き取られている。炉石は手前側の最も大きなものは80cmの板状を呈す。他の石も50cm近くの大きな川原石を用いて作られている。炉の規模は長さ約100cm、幅は80cmを測る。深さ40cm程度に掘り込まれており、底面には焼土が検出されている。炉の南東寄りには、底部を抜いた深鉢3が炉体土器として据えられていた。掘方を行ったところ、南側に旧い炉の掘方が確認された、一辺約90cmを測る方形の掘り込みが確認され、底部には焼土が検出された。北側は新しい炉によって切られた状況であった。建て替え、あるいは拡張が行われたものと判断される。

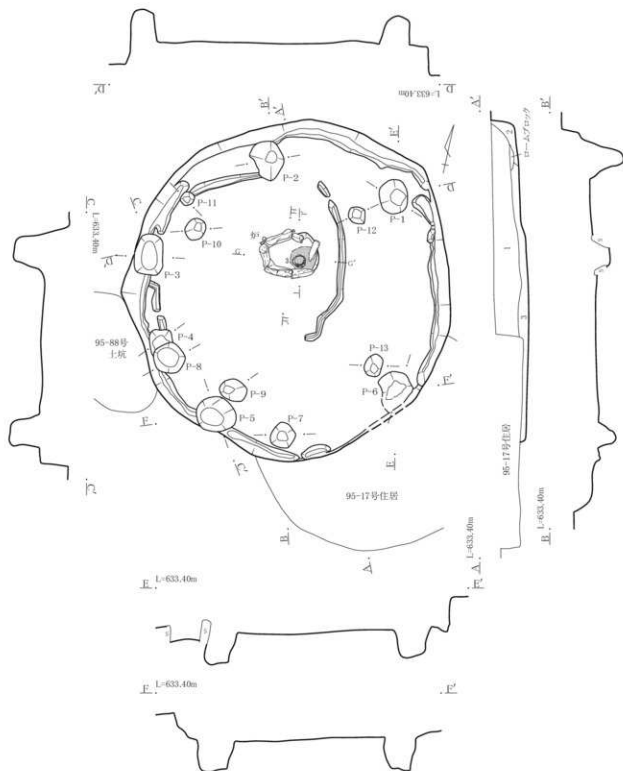
柱穴 壁に沿って廻る5本ないしは6本が想定される。他の住居と比較して、かなり壁に寄った位置に掘り込まれている。径は50～60cm、深さは約50cmである。

埋裏 検出されなかった。

掘方 炉の東側から北側に廻る一回り小さな周溝を検出したが間仕切りのものか、用途は不明である。壁際の柱穴の内側にやや小ぶりの小ピットが検出されている。径は30cm前後、深いものは約50cmを測り、かなりしっかりした掘方である。拡張前の柱穴と思われる。

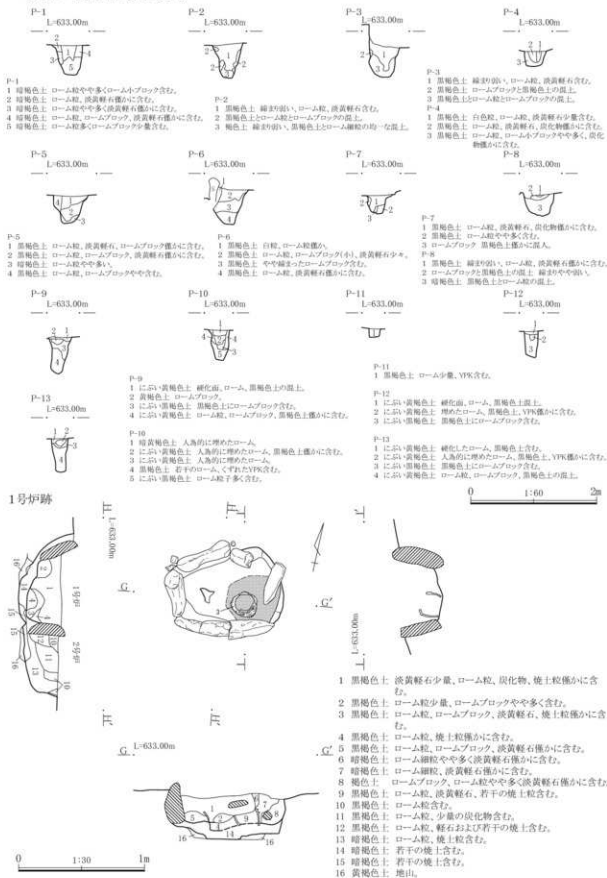


第113図 95-14号住居跡(1)

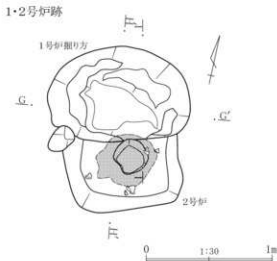


第114図 95-14号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第115図 95-14号住居跡(3)



第116図 95-14号住居跡(4)

95-15号住居跡 (第122～132図：PL.15・161～165)

位置 調査区の西寄り、L・M-23・24グリッドに位置する。**重複** 西側一部調査外に在り未調査である。北側は95-37号住居跡と重複。黒色土中に投げ入れられたように多量の土器片や、石器片、礫が集中している部分である。**形状** ほぼ円形を呈す。**規模** 510×(500)×50cm。

方位 N-4°-W。

床面 南側に周溝が半周する。北東部分に貼り床が認められ、全体に良く踏みしめられた状態である。炉を中心とした中央部がやや落ち込んだ状況を呈す。また炉の南には攪乱坑が見られる。周溝が南側の壁下のみ確認されており、これに連結して、入り口と思われる部分の両側が、僅かに内側方向に突起している。周溝の上幅は約20cmで深さは平均10cmである。

炉 中央やや北寄りに作られていた。方形に組まれた石囲い炉であったと見られるが、ほとんどの石は抜かれており、炉内には複数の大小の石が投げ込まれた状態で出土している。人為的に壊された様相を呈している。原位置を留めていると思われる石は、僅かに東および南側にのみ残る。また炉の火床面には焼土が厚く認められ、やや北寄りには深鉢の底部を欠いた炉体土器が置かれていた。炉の手前に長さ45cm、幅30cm程の大きな礫92が床面に埋め込んだように据えられていた。表面に凹みが観察され石皿として使用されたものと思われる。この石を取り除いたところ下部はやや落ち込んでおり焼土や土器片が検出されたことから、地床炉であったことが考えられる。

柱穴 壁に沿って廻る5本(P-1～4・6)を検出した。いずれもほぼ円形で、径50～70cm、深さ約50～60cmである。いずれもほぼ垂直に掘られており、底の部分は平らになっていた。奥壁に位置するP-3の上には平石が出土している。

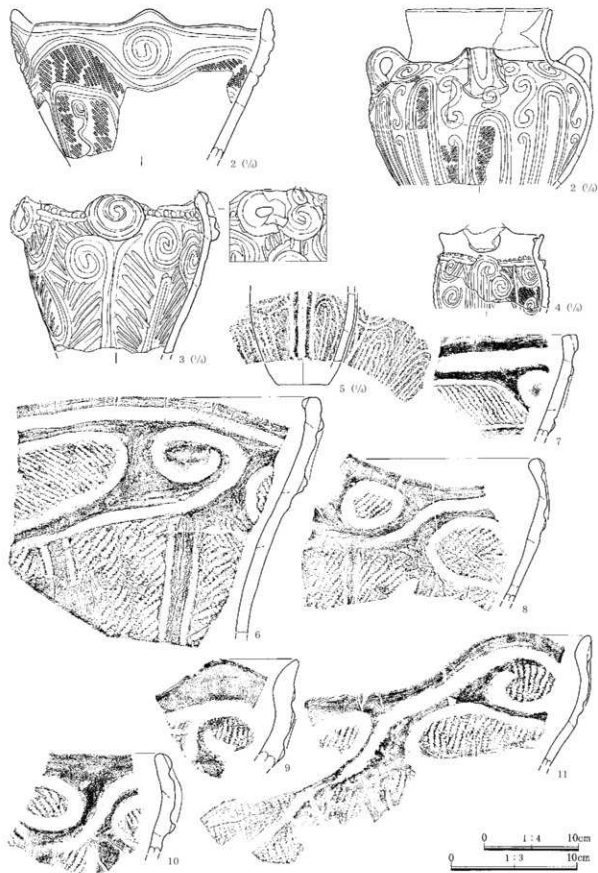
埋壘 南側の入り口部やや左側に寄った位置に、正位の埋壘が検出された。やや傾いた状態で、口縁部分の約半分を欠失していた。

掘方 床下土坑2基が検出された。北東隅にロームを貼った部分的な貼り床が見られ、これを掘り下げたところ下位に土坑1が掘り込まれていた。さらに反対側にもほぼ同規模の土坑2が検出された。土坑1は径約65cm、やや不定形で深さは約20cmである。土坑2はほぼ円形で径70cm、深さは20cm程である。上面に貼り床状のローム混土層が見られた。

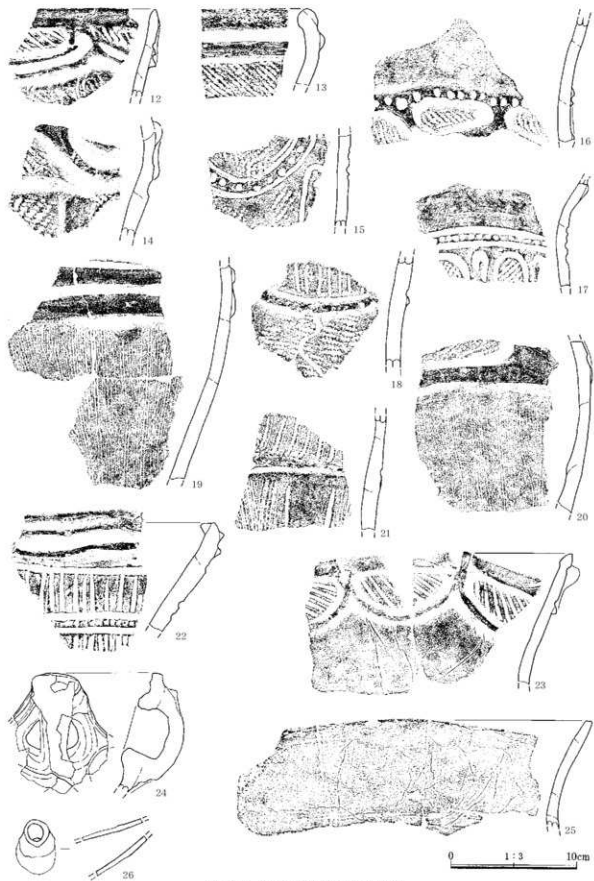
出土遺物 比較的中央部分に集中した状況が見られた。上層から中層にかけて多く出土しており、やや大型の破片も見られた。石器は石鎌、石錐、打製石斧および磨石類の出土が多く見られた。炉の上からやや大きな黒曜石片出土。**時期・所見** 南東壁は重複によって失われているものの、かなり遺存状態の良好な住居である。炉の南に埋められた旧い炉の掘方が検出されていることから、建て替え(拡張)が行われたものと判断される。

時期は炉体土器から中期後半と判断される。

第3章 検出された遺構と遺物

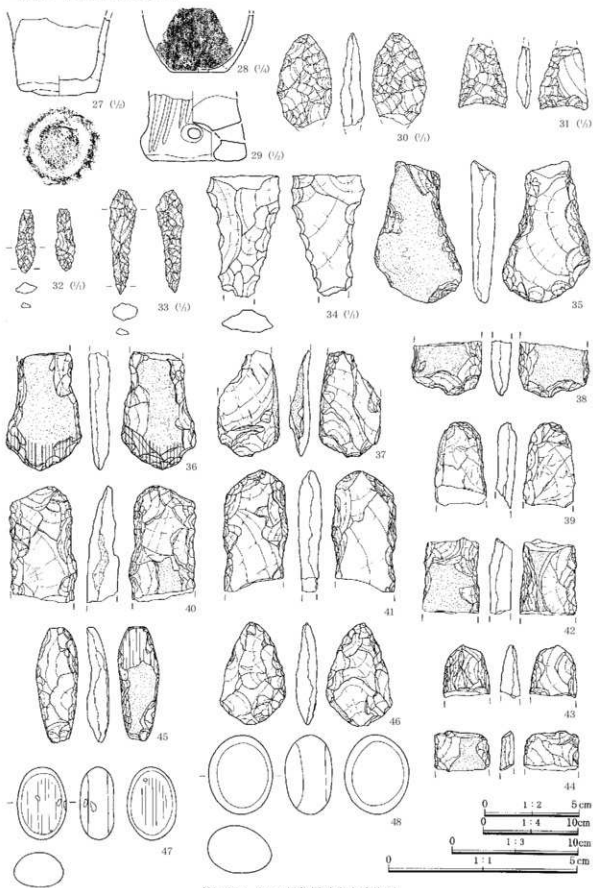


第117図 95-14号住居跡出土遺物(1)

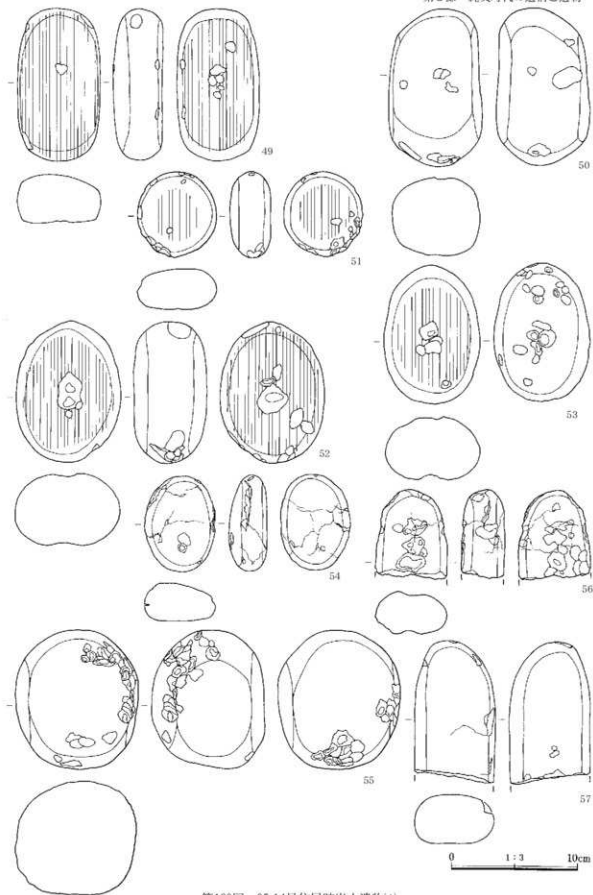


第118図 95-14号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

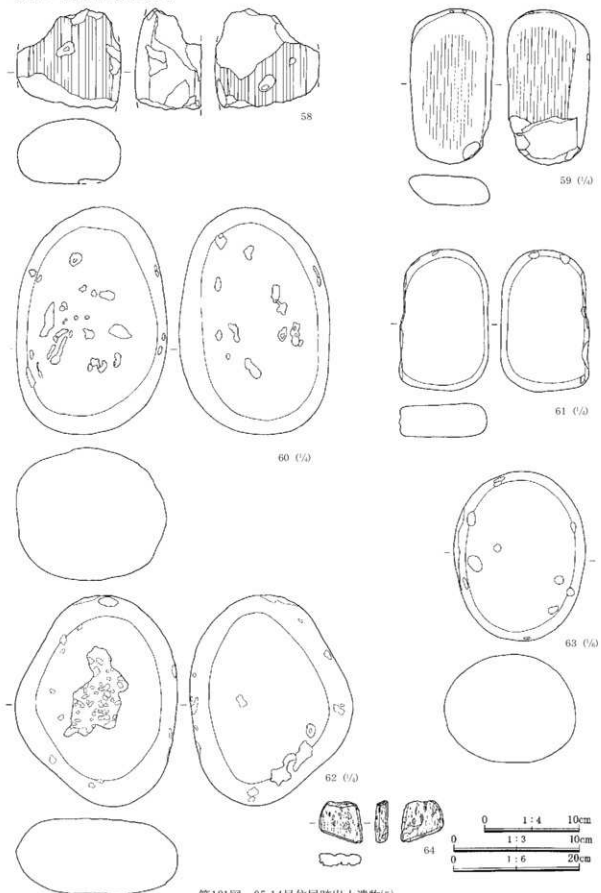


第119図 95-14号住居跡出土遺物(3)



第120図 95-14号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第121図 95-14号住居跡出土遺物(5)

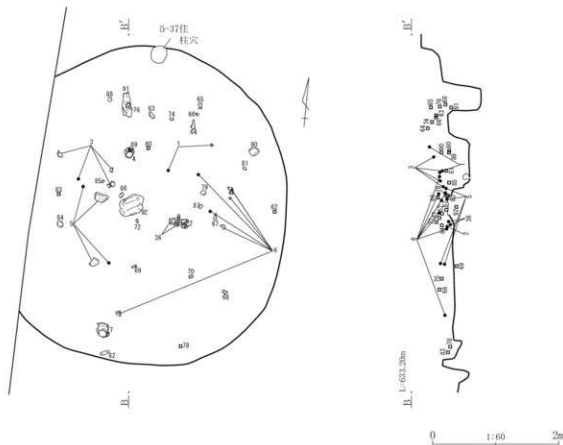
出土遺物 全面において多くの土器片および石器類が礫とともに出土している。覆土の上位および中位からのものが多かった。土器は埋裏の他、比較的大型の破片も多く見られる。石器も多く石鏃、打製石斧、磨石等が多く見られ、前述した炉の手前に据えられていた大型の石皿や、石棒91などがP-3の覆土上層部に倒れ込んだ状態で出土している。

時期・所見 西側の一部は調査区外となる。検出された部分の遺存状態は比較的良好である。住居南側には溝やピット等の入り口施設と埋裏が認められた。拡張や建て替えの痕跡は認められなかった。時期は出土した埋裏、炉体土器等から中期後半と判断される。

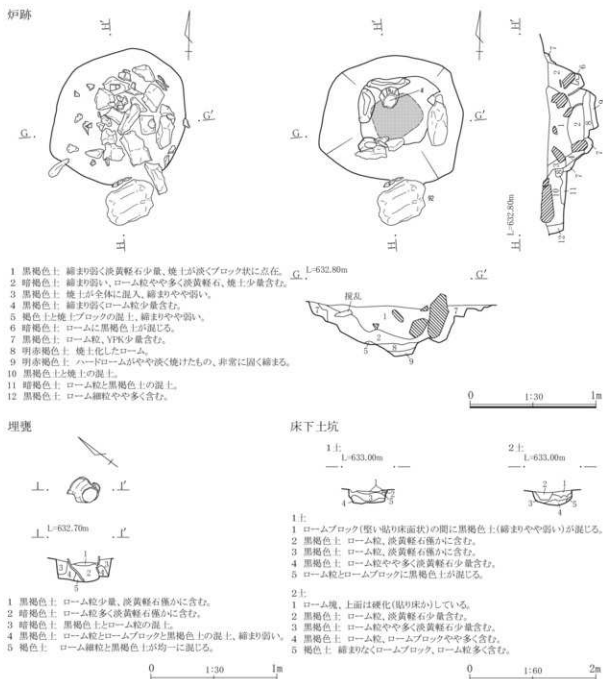
95-16号住居跡 (第133～135図：PL.16・165)

位置 調査区の西寄り、L-20・21グリッドに位置する。 **重複** 95-12号住居跡に北西部の4分の1ほどが壊されている。 **形状** やや小型の円形を呈す。 **規模** 350×(340)×20cm。

方位 N-24°-E。 **床面** 炉を中心に中央部分がやや下がっており、全体に硬化した部分はあまり見られなかった。南側の壁下に浅い周溝状の掘り込みを認めるが、長さも部分的であり。走行も壁と同調していないことから、別遺構の可能性はある。 **炉** 五角形に組まれた石囲い炉であるが、西側の一石は抜かれたものと考えられ、失われている。北側の炉石は大きく、他の石よりも10cm程高く突き出ている。炉の埋土中にはほとんど焼土や炭化物などは認められず、火床面に若干の焼土が見られたのみである。遺物の出土



第122図 95-15号住居跡(1)



第124図 95-15号住居跡(3)

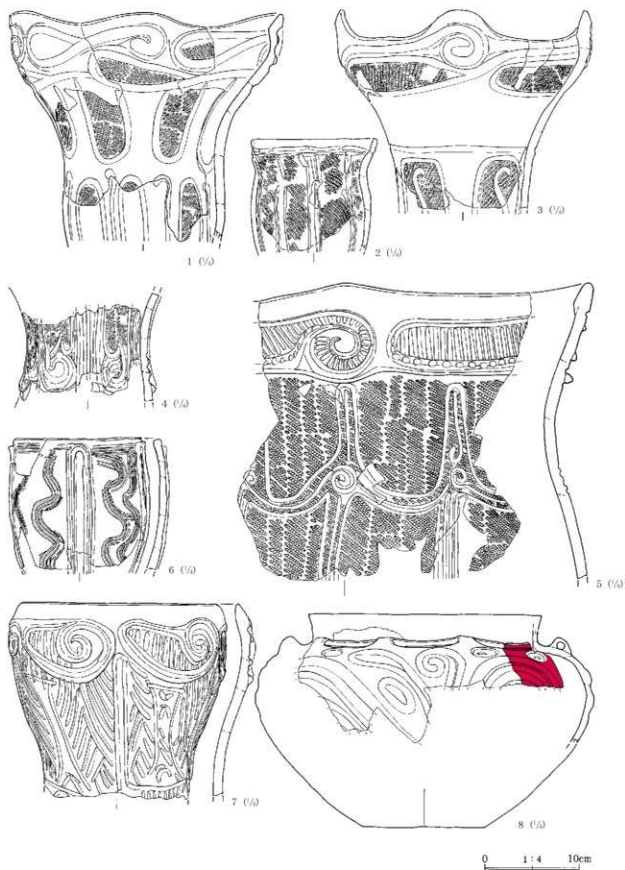
はほとんど見られなかった。 柱穴 壁に沿って7本を検出したが、明確な配置関係は掴めなかった。

埋壘 検出されなかった。 掘方 地山を掘り込んだ面を地床としており、明確な貼り床や、床下土坑などは確認されなかった。

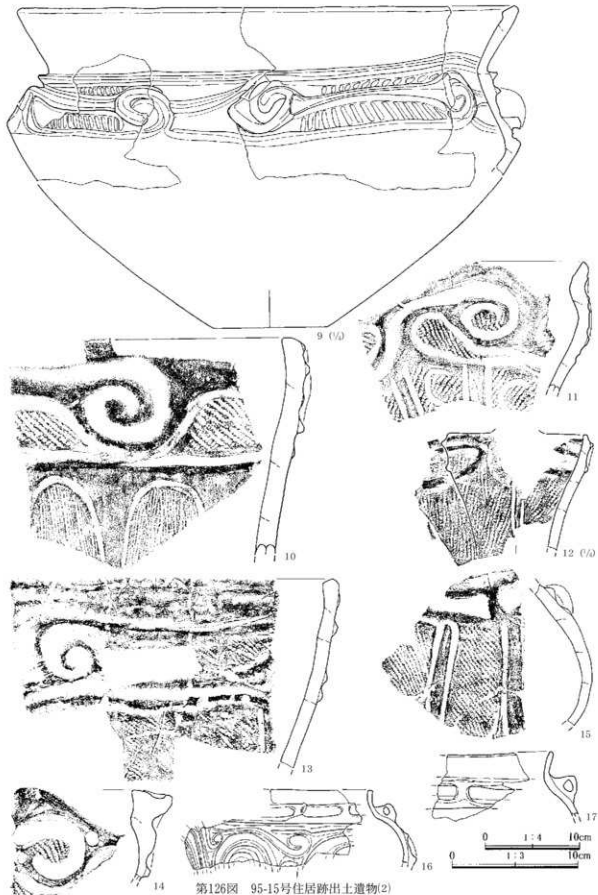
出土遺物 若干の土器片および数点の打製石斧片や磨石が出土している。遺物は炉の周囲に比較的集中する状況であった。石鏃、打製石斧片、磨石が僅かに検出されたのみであるが、比較的大型の石皿11(裏面には複数の凹み穴を有す)が炉石に転用された状態で出土している。

時期・所見 小型の円形を呈す住居で、北側が5-12号住居跡により削られている。壁の立ち上がりはやや

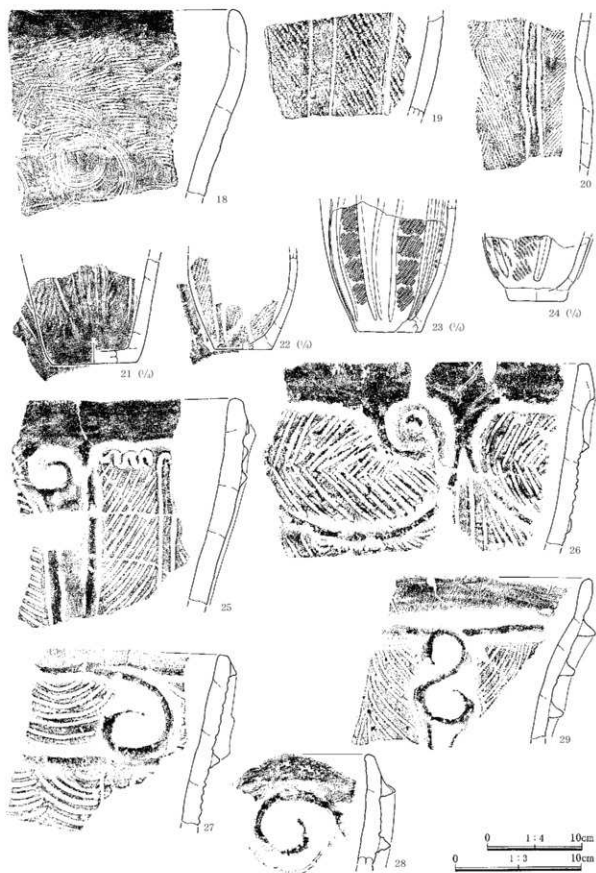
第3章 検出された遺構と遺物



第125図 95-15号住居跡出土遺物(1)



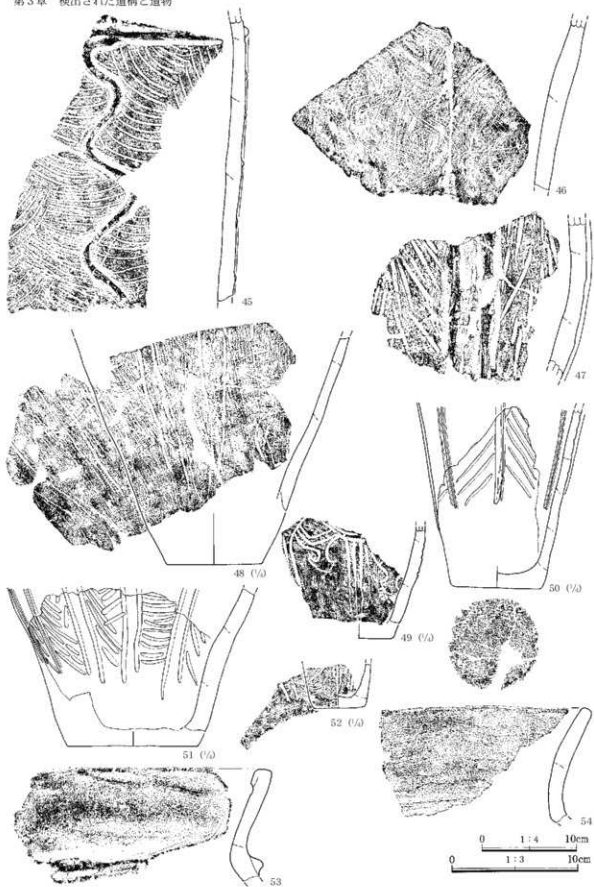
第126図 95-15号住居跡出土遺物(2)



第127図 95-15号住居跡出土遺物(3)

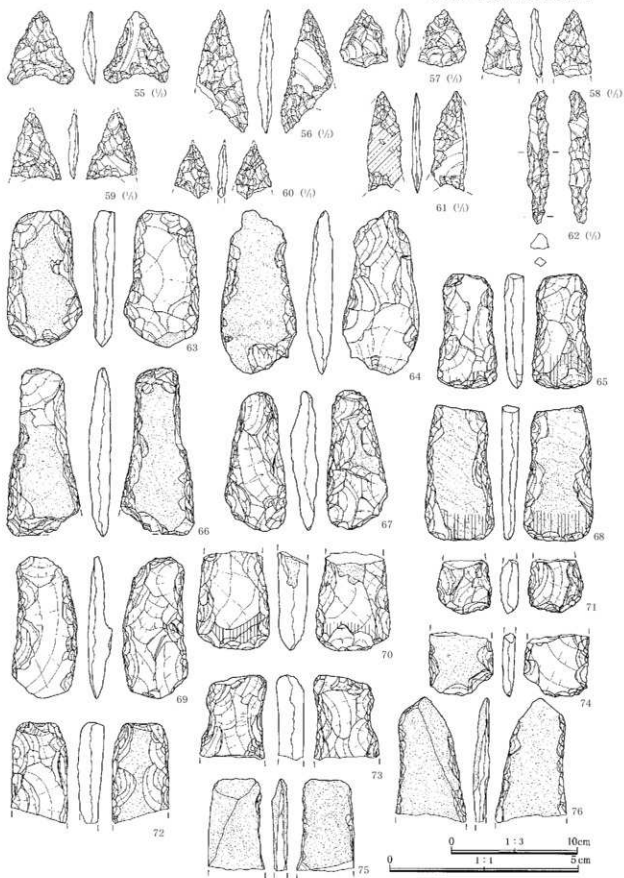


第128図 95-15号住居跡出土遺物(4)

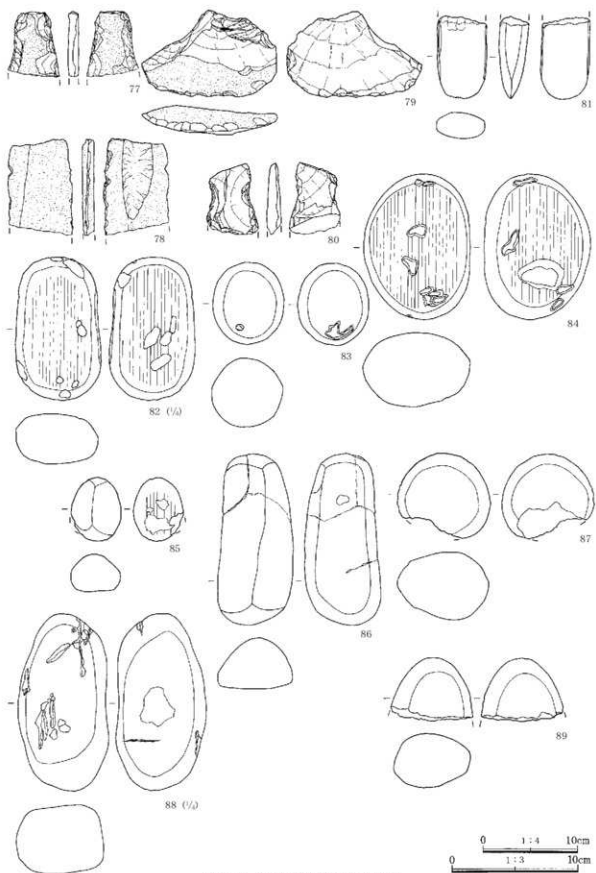


第129図 95-15号住居跡出土遺物(5)

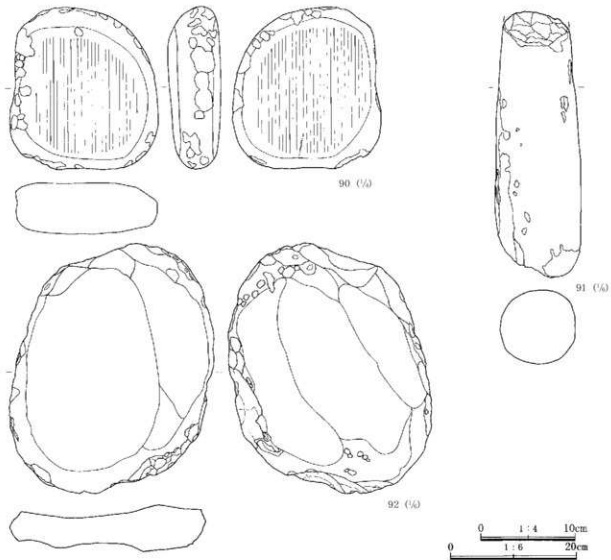
第2節 縄文時代の遺構と遺物



第130図 95-15号住居跡出土遺物(6)



第131図 95-15号住居跡出土遺物(7)



第132図 95-15号住居跡出土遺物(8)

不明瞭ながら、緩い傾斜を持っている状況が窺える。建て替えや拡張の痕跡は見られず、炉も焼土の検出状況から比較的短期間の使用後、廃棄されることが考えられる。出土遺物は土器、石器ともに少なく、時期も明確にし得なかったが、中期後半と判断される。

95-17号住居跡 (第136～139図：PL.16・165・166)

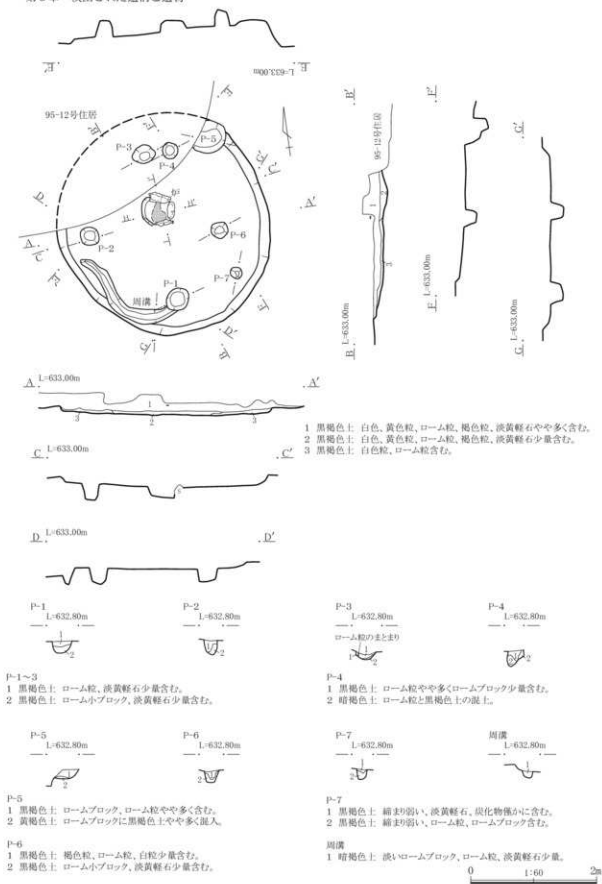
位置 調査区西寄り、K・L-23・24グリッドに位置する。 **重複** 95-14号住居の南東部に重複、さらに95-42号住居跡の北側に重複しこれら2軒を切って構築される。

形状 ほぼ円形を呈すと思われる。壁は重複部分以外については、ほぼ垂直の立ち上がりを持つ。

規模 (400)×380×30cm。 **方位** N-6°-E。

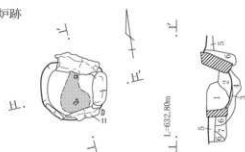
床面 全体にあまり堅くはなかった。炉の周囲にも踏みしめられた様子は看取できなかった。特に北西側の95-14号住居と重なる部分は、住居覆土上に床面を構築しているため、全体に僅かに沈下し、硬さも無かった。周溝等は確認されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



第133図 95-16号住居跡(1)

炉跡



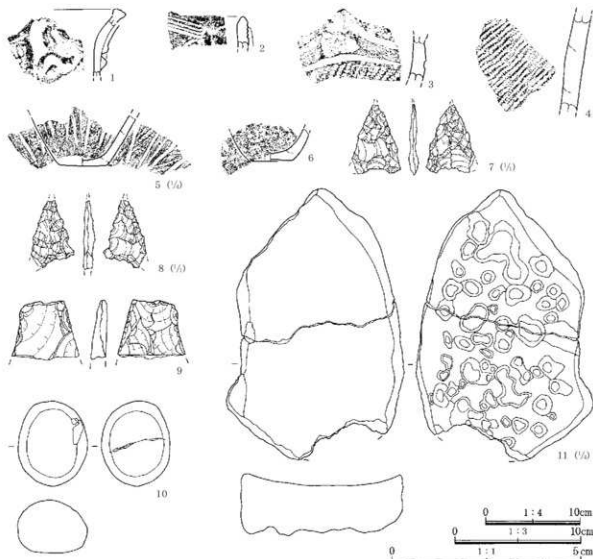
H. L=632.80m



- H. 1 黒褐色土: 白色粒、炭化物、淡黄軽石塵かに含む。
 2 暗褐色土: 細まり弱くローム粒やや多く、焼土粒塵かに含む。
 3 黒褐色土: 若干の焼土含む。
 4 暗褐色土: 黒褐色土、YPK少量。
 5 黒褐色土: ローム粒、YPK少量。
 6 暗褐色土: ロームブロック、ローム粒やや多く含む。
 7 黄褐色土: ローム小ブロック塵に黒褐色土少量混入。

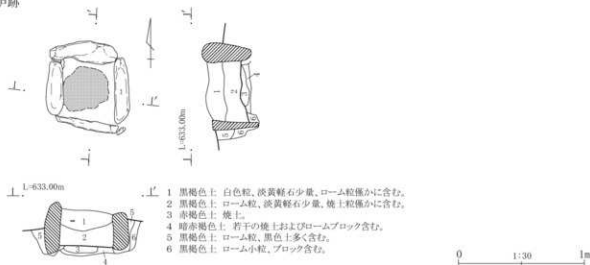


第134図 95-16号住居跡(2)



第135図 95-16号住居跡出土遺物

炉跡



第137図 95-17号住居跡(2)

炉 ほぼ中央に構築されている。4個の石を方形に組んだ石囲い炉である。規模は60×70cm程である。住居の規模に比してやや大きめの炉である。炉石は横長にしていずれも垂直に据えられている。被熱した状態で、内側には若干の煤が付着している。北側奥の石は他の石と比して厚みが見られ、頭がやや高く据えられている。炉内の火床面には良く焼けた焼土が認められた。埋土中からの遺物出土はほとんど見られず、炉体土器も見られなかった。

柱穴 主柱穴はP-1・3～5の4本と思われる。いずれも径約40cm、深さは40～50cmである。P-6は本址に帰属するものかは不明である。 **埋嚢** 検出されなかった。

掘方 貼り床や床下土坑等は見られなかった。下にある95-14号住居跡の南東壁ラインがちょうど炉の下に当たる。柱穴P-4は掘方を行う中で確認されている。掘方方面には、全体に弱い凹凸が見られたものの貼り床や、床下土坑等の検出は無かった。

出土遺物 住居の南西寄りにやや集中して見られた。若干の土器片とともに、石鏃、打製石斧片、磨石類が出土しており、これらに混じって比較的大きな礫が投げ込まれた状態で出土している。

時期・所見 南側半分が95-14号住居の南東側に重複、本址のほうが新しいが、床面がほぼ同レベルであったためにやや不明瞭であった。掘方等の調査では、建て替え、拡張の痕跡は見られなかった。時期は出土遺物から中期後半と判断される。

95-18号住居跡 (第140～155図：PL.17・18・166～170)

位置 G-I-24・25グリッドに位置する。 **重複** 南東部に大きく95-20号住居跡が重複し、本址の南東部分の3分の2以上を切って構築されている。ただし、床面の高さは、95-20号住居のほうが20cm程高かったため、本址床面の残存状況は比較的良かった。北壁部分に95-89号土坑(陥し穴)が重複し、北側壁の一部を壊している。さらに、東側には95-56号住居跡が接している。

形状 大型でほぼ円形を呈すが、南側入り口部が僅かに張り出す。

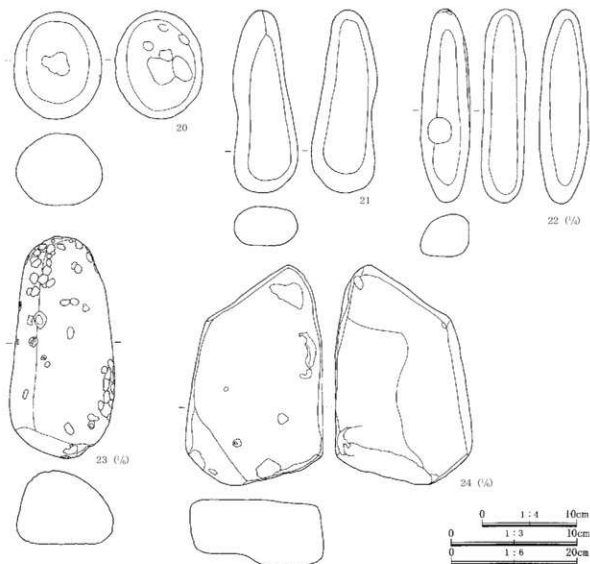
規模 760×700×60cm。 **方位** N-30°-E。

床面 炉の周囲は比較的堅調であるがその他はやや不明瞭である。床面自体の削平は受けてはいないもの

第3章 検出された遺構と遺物



第138図 95-17号住居跡出土遺物(1)



第139図 95-17号住居跡出土遺物(2)

の、上に重複する95-20号住の柱穴などは本址床面下にまで達していたために、全体的にはやや荒れた状況を呈していた。壁下に沿って周溝がほぼ全周する。上幅約20cm、深さは20～25cmを測る。

炉 中央やや北寄りに作られている。炉石は検出されず、ほぼ長方形に掘り込まれた掘方を検出した。現状での掘方の規模は1.7m×1.4mで深さは約30cmであるが、手前側がやや幅狭となり浅く手前に張り出した形状で、この張り出した部分にも若干の焼土が検出されていることから、炉の作り替えが考えられる。炉内には礫や土器片が多く投げ込まれた状況であった。火床面には焼土の広がりが見られた。

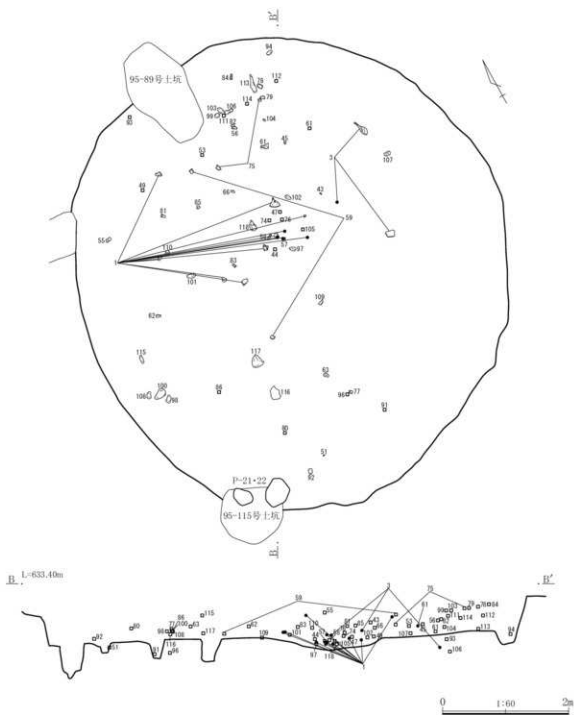
掘方時に炉石の一部と思われる礫や、石を据えたと思われる溝と側壁部に炉石を据えた掘方溝が確認されている。

柱穴 最終拡張時のものと思われるものは8本である。壁の内側1m程の位置に廻る。多くは長径約70cmの長円形で深さは40～60cmを測る。その他内側に廻るものや入り口部に小ピットを確認したが、拡張前のものと考えられる。南側の入り口部と想定される場所は一段落ち込んでおり、大小のピットが不規則な位置に検出されている。上に重複する住居の関連もあり、明確な入り口の遺構に伴うものの判別は明確にはし得な

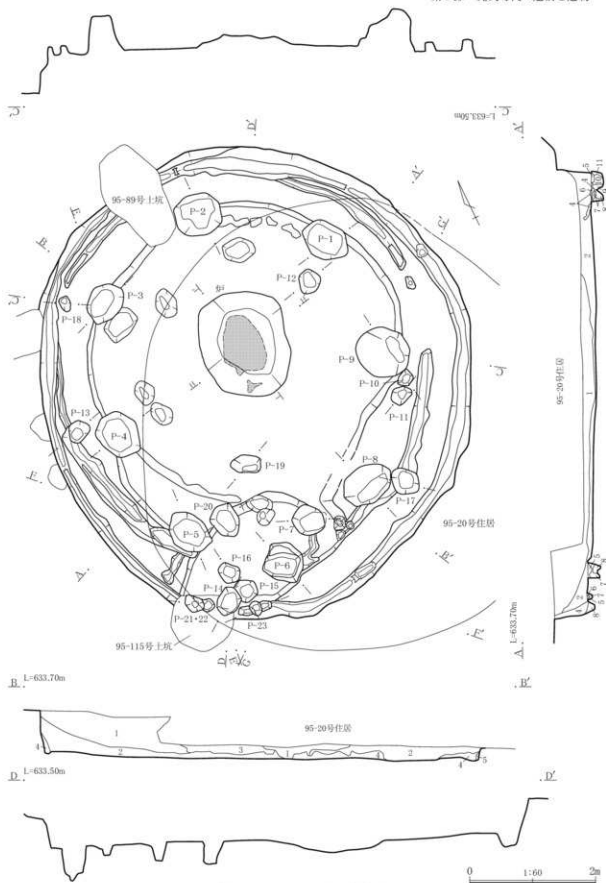
第3章 検出された遺構と遺物

かった。埋塞 検出されなかった。

掘方 外側の周溝に一部重なって内側に一条、さらに内側にも東側部分を除き、ほぼ一周する周溝が検出された。その内側には10本ほどの柱穴と思われるピットが廻らされており、建て替えあるいは拡張される前のものと考えられる。建て替えは2ないしは3回行われていると考えられる。1回目は外側全体に約1mほど大きく作り替え、2回目は南及び東側だけが1m程広げられ、結果的に住居の形状は僅かに南北が長い、長

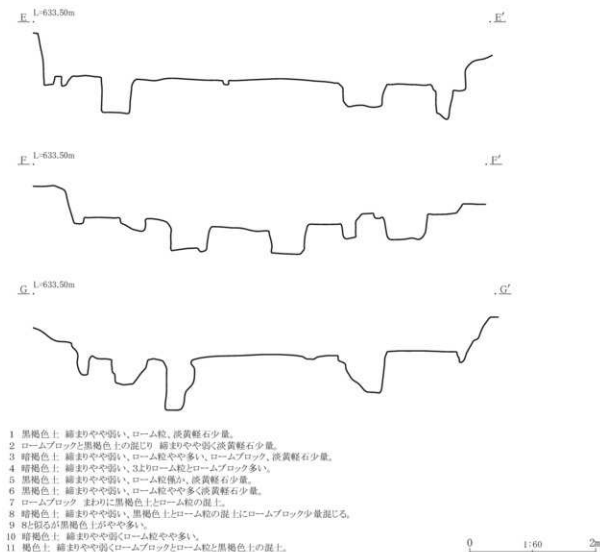


第140図 95-18号住居跡(1)



第141図 95-18号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



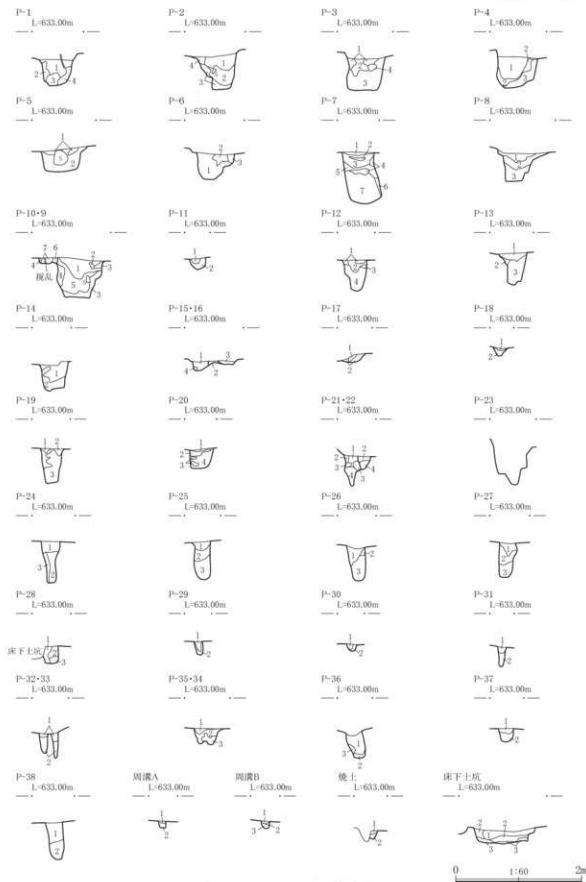
第142図 95-18号住居跡(3)

円形を呈している。炉はほぼ同位置において作り変えられているようで、おそらく規模を大きく作り替えたものと推定される。

出土遺物 土器類は破片が主である、石器はかなりの点数が出土している。土器については、重複により大きく壊されていたこともあり、本址に帰属すると判断されたものはあまり多くはない。

そんな中で1は細かく割れた状態ではあったが、炉内の破片を中心に接合している。石器は土器に比較して点数が多く、石鏃、石錐、打製石斧、磨石が出土している。さらに大型の多孔石、台石などの礎器類も目立つ。

時期・所見 当初本址に大きく重複し、上部を大きく切っていた95-20号住居跡の存在が確認できず、遺構の掘り下げを行ってゆく中で、重複関係が見られることを確認した。このため、覆土内出土の遺物については整理を行う中で分別を行った。掘方調査により、周溝が3重に廻ることや、炉の作り替えが見られることから、少なくとも2回以上の拡張が行われたものと判断される。時期は出土した土器から中期後半と判断される。



第143図 95-18号住居跡(4)

第3章 検出された遺構と遺物

P-1

- 1 黒褐色土：ロームブロック、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 褐色土：黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。
- 3 暗褐色土：黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。
- 4 暗褐色土：黒褐色土とローム粒、やや強いロームブロック僅かに含む。

P-2

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石、白色粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒やや多くローム小ブロック僅かに含む。
- 3 褐色土：ローム粒と黒黄色土の混土。
- 4 黒褐色土：ローム粒やや多く含む。

P-3

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量、炭化物僅かに含む。
- 2 暗褐色土：締まり弱いローム粒や多い。
- 3 褐色土：黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。
- 4 黄褐色土：ロームブロック含み締まりやや弱い。

P-4

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒やや多く淡黄軽石少量。
- 3 褐色土：黒褐色土とローム粒、ロームブロックとの混土。

P-5

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒多量（ロームブロックやや多く含む）。

P-6

- 1 黒褐色土：ローム粒やや多い、ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 3 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量含む。

P-7

- 1 黒褐色土とロームブロック、焼土粒の混土。締まりやや弱い。
- 2 黒褐色土とロームブロック、炭化物、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土：ローム粒やや多くロームブロック少量。
- 4 黄褐色土：ロームブロックに黒褐色土僅かに含む。
- 5 暗褐色土：締まり弱いローム粒、ロームブロックやや多い。
- 6 黒褐色土とロームブロックの混土。締まり弱い。
- 7 粘土質のオリーブ灰色土：淡黄軽石少量含む。

P-8

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土：ローム小ブロック少量、ローム粒やや多く含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロックと黒褐色土の混土。

P-10-9

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量。
- 2 ロームブロック
- 3 ロームブロックと黒褐色土の混土。
- 4 暗褐色土：ロームブロックと黒褐色土の混土で淡黄軽石僅かに含む。
- 5 黒褐色土：ローム粒、ローム小ブロック、淡黄軽石僅かに含む。
- 6 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量。
- 7 暗褐色土：ローム粒多量淡黄軽石少量。

P-11

- 1 黒褐色土：ローム粒やや多く淡黄軽石僅かに含む。
- 2 暗褐色土：黒褐色土、ローム粒、ロームブロックの混土。

P-12

- 1 暗褐色土：ローム粒、ロームブロック少量。
- 2 褐色土：ローム粒、ロームブロック、黒褐色土の混土。
- 3 暗褐色土：ローム粒多量（ロームブロック、淡黄軽石僅かに含む）。
- 4 褐色土：ローム粒、黒褐色土の混土、ロームブロックやや多く混入。

P-13

- 1 黒褐色土：ローム粒やや多く淡黄軽石少量。
- 2 暗褐色土：ローム粒、ロームブロックやや多い。
- 3 褐色土：黒褐色土、ロームの各ブロック混入。

P-14

- 1 黒褐色土：ローム粒やや多く淡黄軽石少量。
- 2 暗褐色土：ロームブロックとローム粒含み、黒褐色土混入。

P-15-16

- 1 黒褐色土：淡黄軽石、ローム粒少量。
- 2 黒褐色土：ロームブロック、淡黄軽石僅かに含む。
- 3 黒褐色土：ロームブロック、ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 4 暗褐色土：黒褐色土とローム粒の混土。

P-17

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒よりやや多く、淡黄軽石僅かに含む。

P-18

- 1 黒褐色土：白粒、ローム粒、淡黄軽石少量。
- 2 暗褐色土：ローム粒、ロームブロックやや多く含む。

P-19

- 1 黒褐色土：ローム粒、ロームブロック少量。
- 2 暗褐色土：黒褐色土とローム粒の混土。
- 3 黄褐色土：ローム粒とローム粒の混土。

P-20

- 1 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量。
- 2 黄褐色土：人為的に埋められたり、よく締まる、ローム塊と黒褐色土の混土。
- 3 ロームブロックに黒褐色土少量混じる。
- 4 黄褐色土：ロームブロックとローム粒に黒褐色土混じる。

P-21-22

- 周溝内のピット
- 1 褐色土：黒褐色土とローム粒の混土。
 - 2 褐色土：1とはほぼ同じだがやや黄色味帯びる。
 - 3 黄褐色土：ロームブロックと1の混土。
 - 4 褐色土：1にロームブロック混じる。

P-24-27

- 1 黒褐色土：人為的に埋めたローム、やや固く黒褐色土少量混じる。
- 2 黒褐色土：締まり弱いローム粒、ロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色土：締まり弱い、ローム粒、ロームブロックやや多く含む。

P-28

- 1 黒褐色土：ローム粒やや多い。
- 2 暗褐色土：ロームブロックと黒褐色土の混土。
- 3 暗褐色土：ローム粒と黒褐色土の混土。

P-29

- 1 黒褐色土：よく締まる、ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土：よく締まる、ロームブロック、ローム粒やや目立つ。

P-30

- 1 黒褐色土：締まりあり、ローム粒、YPK少量。
- 2 黒褐色土：締まりあり、ローム粒やや目立つ。

P-31-33

- 1 暗褐色土：ローム粒と黒褐色土の混土。
- 2 褐色土：ローム粒と黒褐色土の均一に含む。

P-35-34

- 1 ロームブロックではあったも 黒褐色土多い。
- 2 黒褐色土：ローム粒、ローム小ブロック多く含む。
- 3 暗褐色土：2と同質でロームブロックより多く含む。

P-36

- 1 黒褐色土：ローム粒、ロームブロックやや多く、炭化物僅かに含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒と黒褐色土はほぼ均一に混じる。
- 3 ロームブロックに黒褐色土が少量混じる。

P-37

- 1 黄褐色土：ローム主体で黒褐色土少量。
- 2 暗褐色土：ロームブロックとローム粒と黒褐色土の混土。

P-38

- 1 褐色土：硬化しているようで掘り出すとくずれやすい。ロームに黒褐色土混じる。
- 2 褐色土：締まりない脆弱、ロームに黒褐色土やや多く混入。

岡溝A

- 1 ロームにYPK少々はつてある 締まりやや強い、黒褐色土僅か。
- 2 ロームと黒褐色土の混土 締まりやや弱い、YPK僅か。

岡溝B

- 1 岡溝Aの1
- 2 黒褐色土上にローム粒多く混じる
- 3 岡溝Aの2

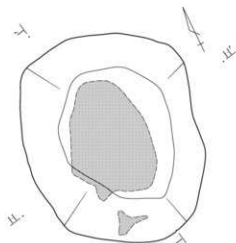
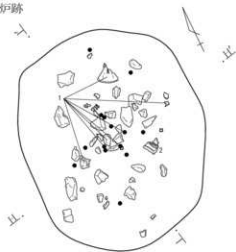
焼土

- 1 明赤褐色土に黒褐色土少々混じる、やや固くYPK含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒、ローム細粒やや多くYPK少量含む。

床下土坑

- 1 ロームブロックではつてある やや堅く、YPK少々、黒褐色土少々斑状に混入。
- 2 黒褐色土：ローム粒、ロームブロック(小)やや多くYPK少量含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック(小)、ローム粒多量YPK少量含む。

炉跡



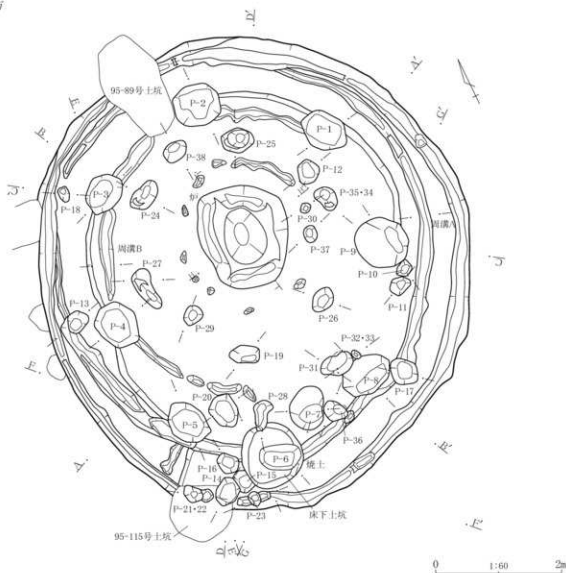
炉掘り方



- 1~5全体に締まりやや弱い。
 1 黒褐色土、ローム粒、焼土粒、淡黄軽石少量含む。
 2 黒褐色土と焼土粒とローム粒の混土。
 3 ロームと黒褐色土の混土、YPK少量含む。
 4 ロームブロックに黒褐色土少量混じる。
 5 暗褐色土(黒褐色土とローム粒の混土、やや黒褐色土の方が多い)
 6 明赤褐色土、焼土化したローム主体、黒褐色土少量。
 7 褐色土、ロームと黒褐色土少量混じる。

0 1:30 1m

第145図 95-18号住居跡(6)



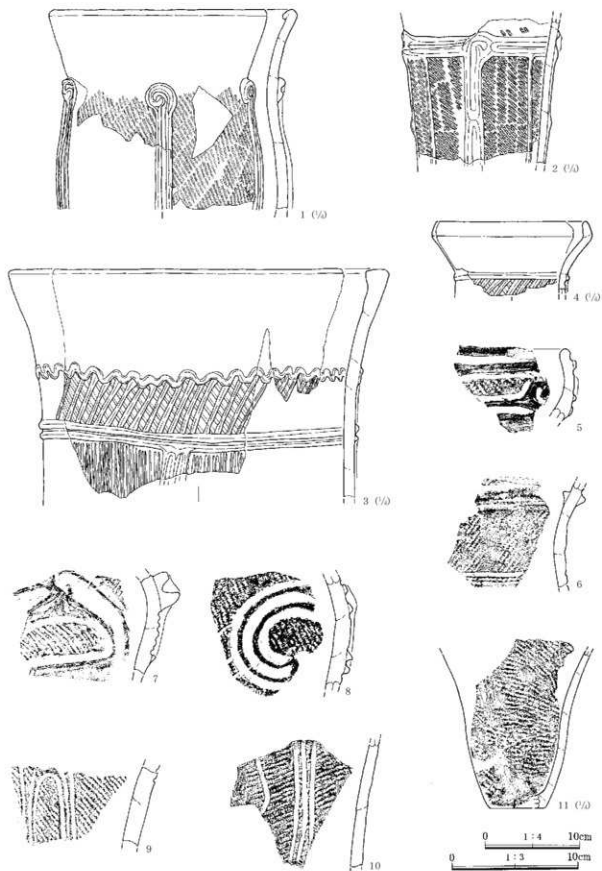
第146図 95-18号住居跡(7)

95-19号住居跡 (第156~167図: PL.18・19・170~172)

位置 1・J-21・22グリッドに位置する。 **重複** 95-30号住居跡の上に南側半分が大きく重複これを切って構築されている。また、5-1号焼土が北東角部分に重複、本址を切っている。西側には95-13号住居跡が接している。 **形状** 南側に張り出しを有す柄籠型で、主体部の形状は各辺がやや膨らんだ方形形状を呈すが、南側がややすぼまる形状となる。 **規模** 780×510×60cm。 **方位** N-18°-E。

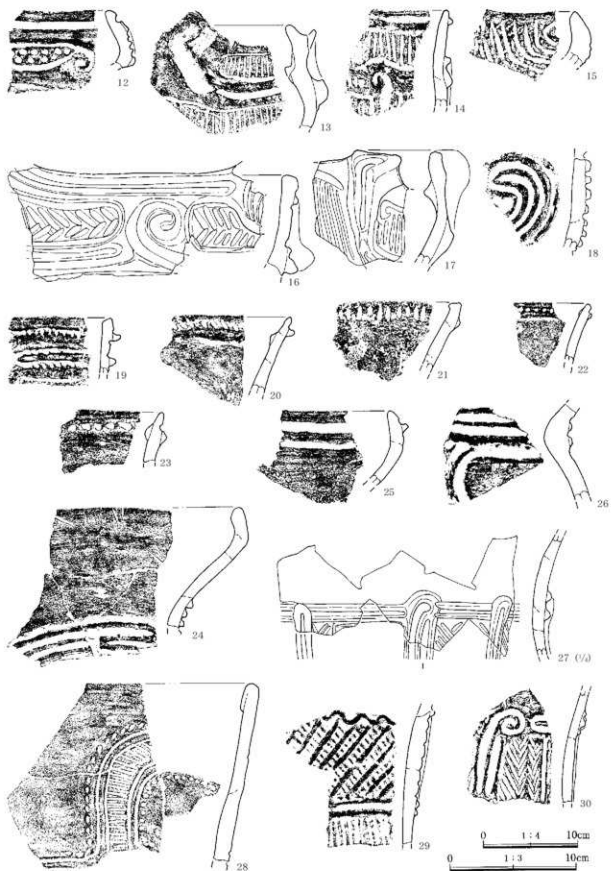
床面 主体部には敷石はほとんど見られなかった。四隅に小振りの石が点在する程度であった。柄部との接合部分に方形の石組み遺構が在り、その手前には大きな台形の石が敷かれ、そこから柄部に向かって平石が扇状に敷かれていた。主体部の壁下にほぼ方形に小礫群が廻らされていた。この礫群の内側四隅に平石が検出されている。張り出し部の周囲は多くの川原石がおよそU字状に廻るが、落ち込んだ状態で、その多くがかなり動いているものと考えられる。

炉 主体部中央に作られていた。ほぼ方形の石組炉である。炉石は南側を除き検出されているが部分的であ

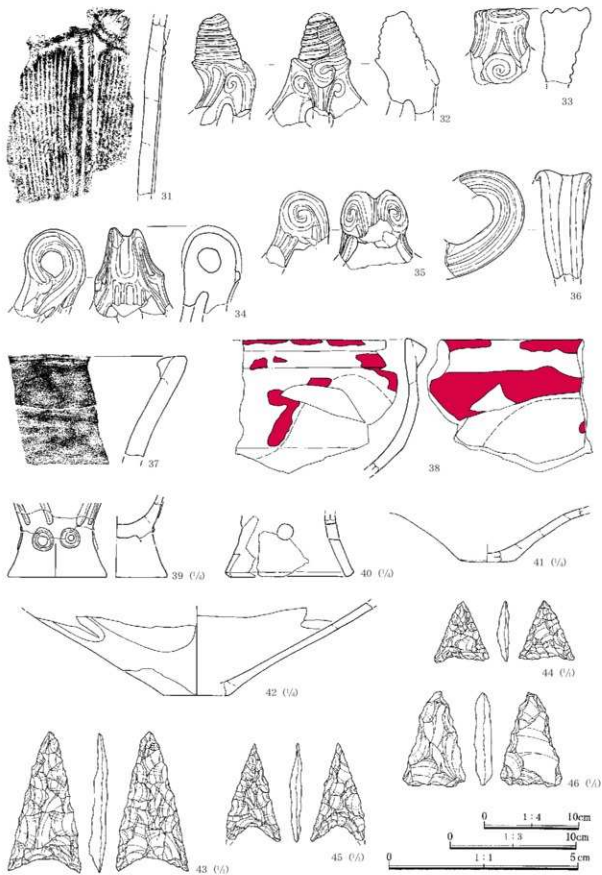


第147図 95-18号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

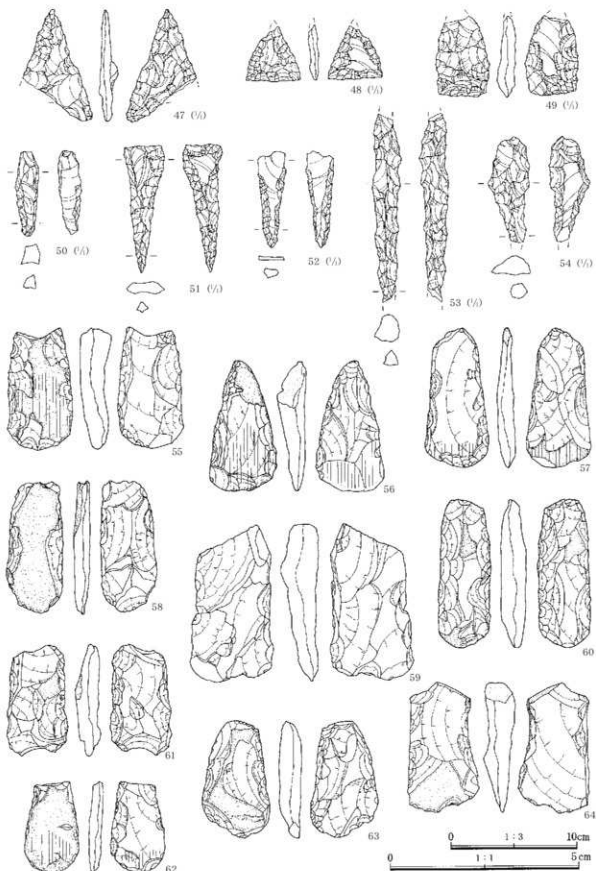


第148図 95-18号住居跡出土遺物(2)

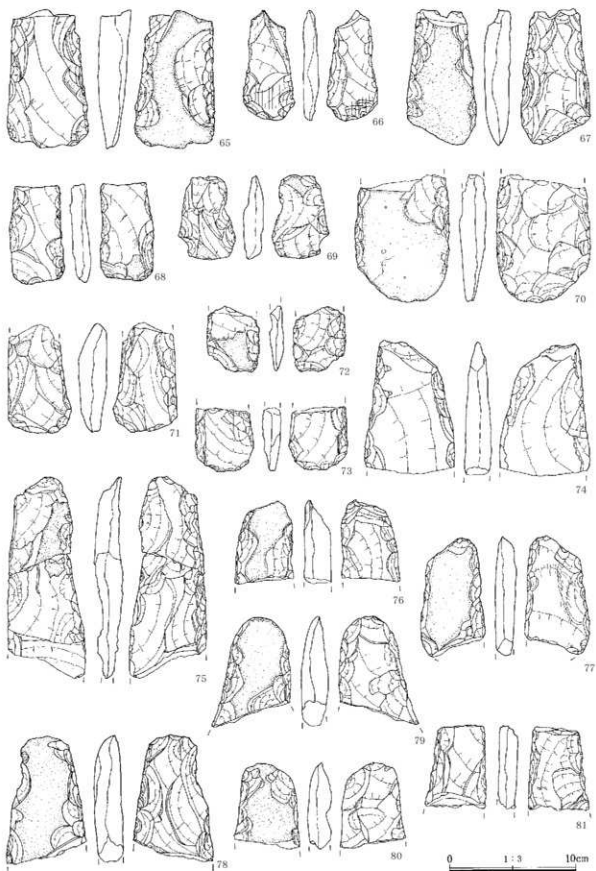


第149図 95-18号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

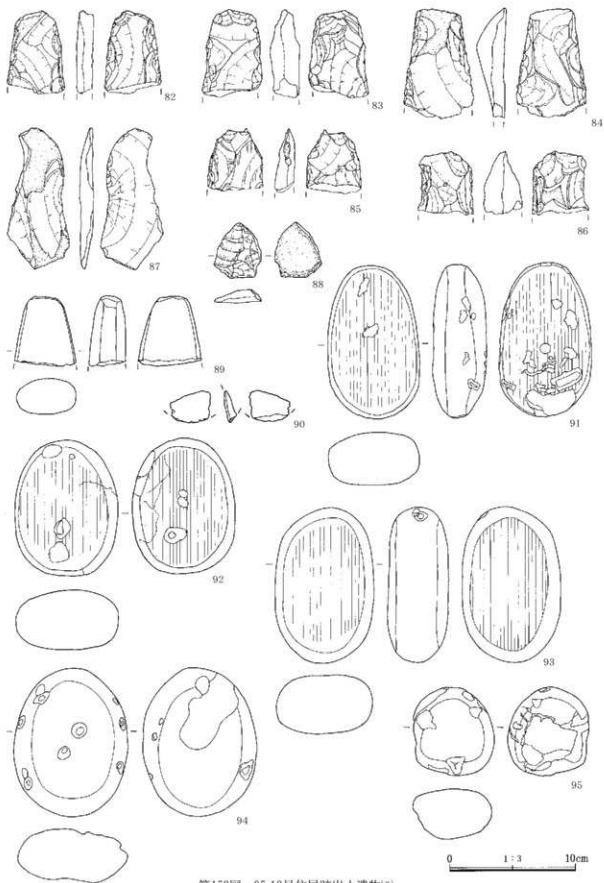


第150図 95-18号住居跡出土遺物(4)

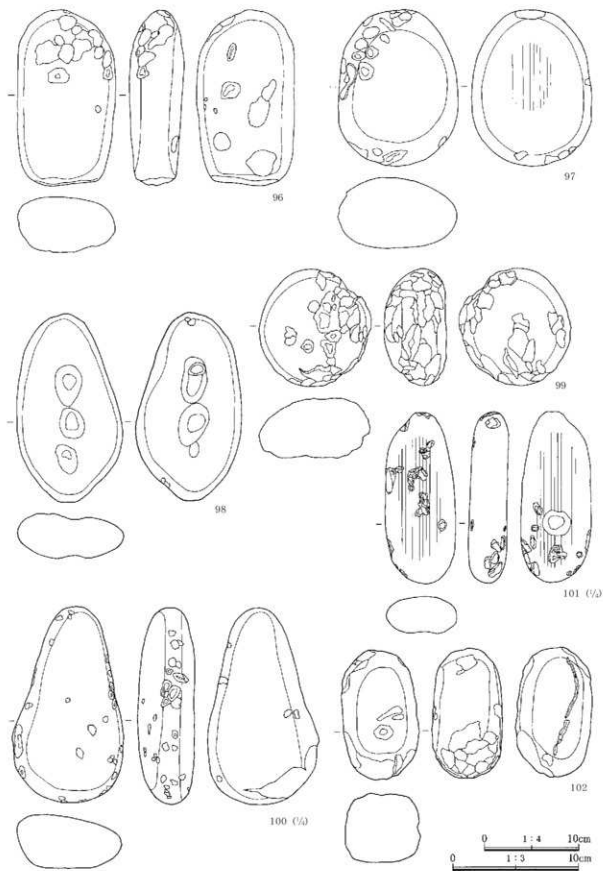


第151図 95-18号住居跡出土遺物(5)

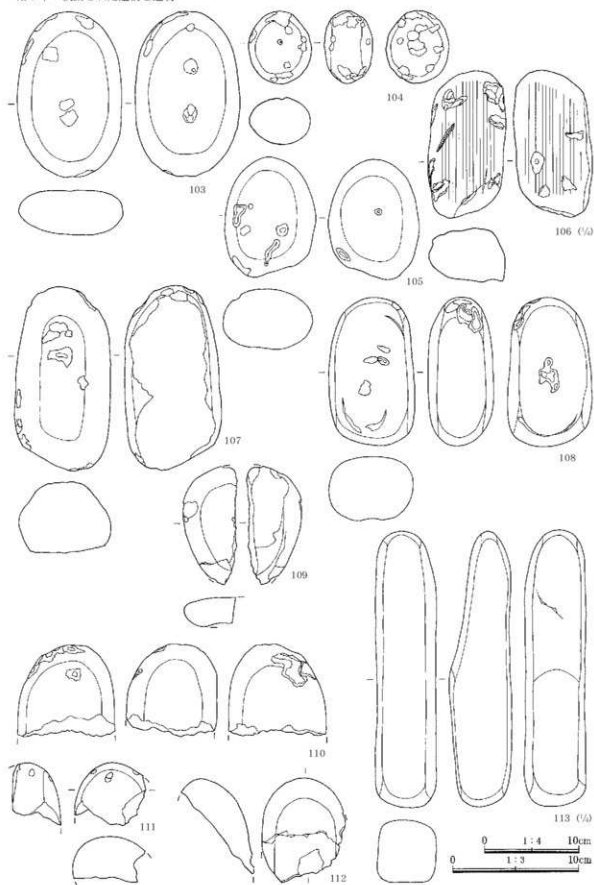
第3章 検出された遺構と遺物



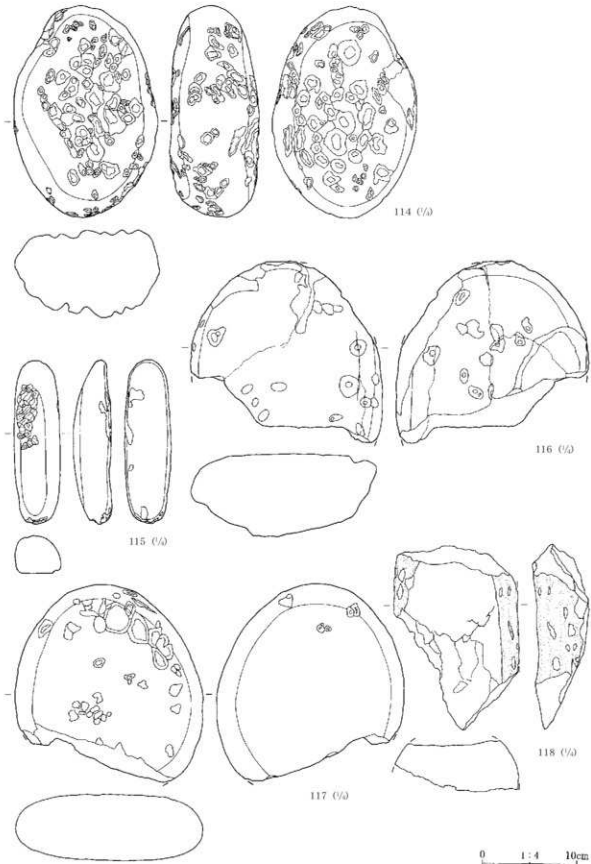
第152図 95-18号住居跡出土遺物(6)



第153図 95-18号住居跡出土遺物(7)



第154図 95-18号住居跡出土遺物(8)



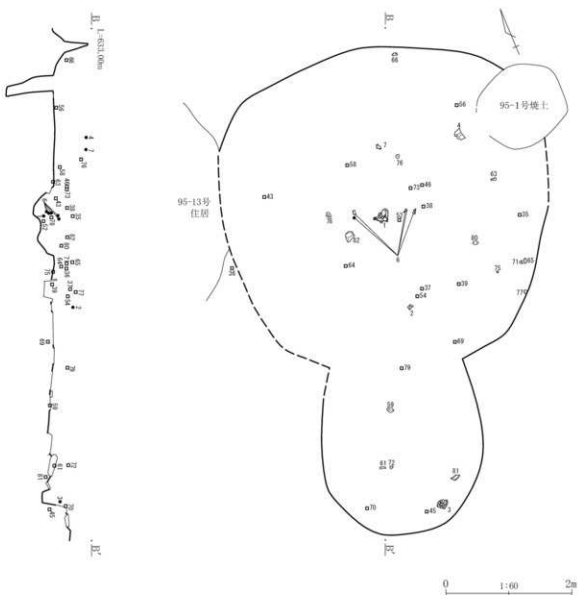
第155図 95-18号住居跡出土遺物(9)

第3章 検出された遺構と遺物

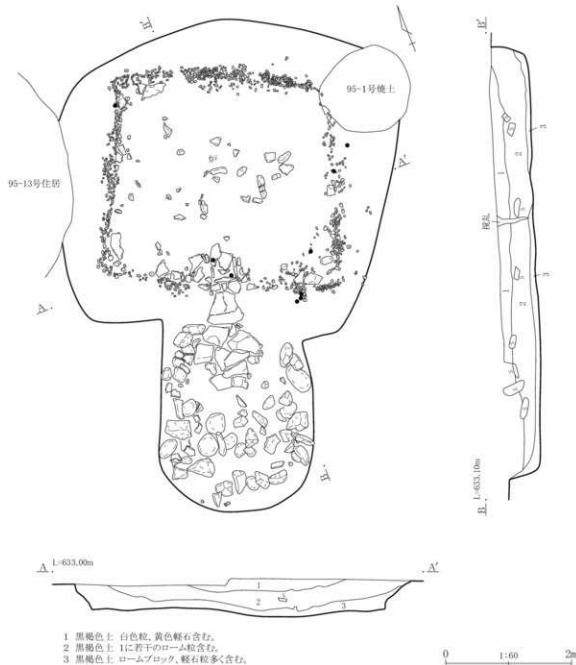
る。いずれも火を受け、ひび割れが顕著であった。炉内の埋土は軟質で、ローム粒、炭化物、焼土が多く混入していた。ほぼ完形の深鉢1が横倒しの状態で、中央部分から出土している。土器はかなり火を受けた様子で土器表面の劣化が進んでおり、煤の付着が顕著であった。なお、掘方調査で南側に張り出し部分が認められたことから、作り替えが行われたものと見られる。

柱穴 主体部壁下の四隅および中央部に7本、手前のコーナー内側に2本の計9本を検出した。径は20～30cm、深さは50～60cmで径に比して深く掘り込まれていた。これらの中には、柱痕が残るもの（7・8・10・11等）も見られる。P-9からはクルミと見られる炭化種実が出土している。接合部の台形を呈す平石の両脇には、いわゆる対ビットが検出されている。南北に長軸を持つ土坑が並んで掘り込まれていた。深さは約50cmを測る。 **埋嚢** 検出されていない。

掘方 炉の掘方調査を行った結果、南側に古い炉の掘方底部を確認し、さらに炉を囲うように北側に弧状の



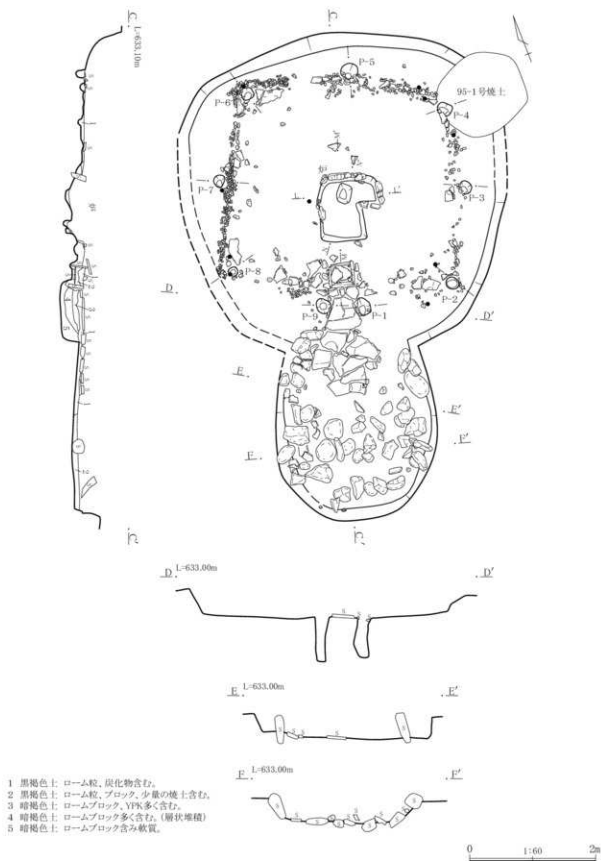
第156図 95-19号住居跡(1)



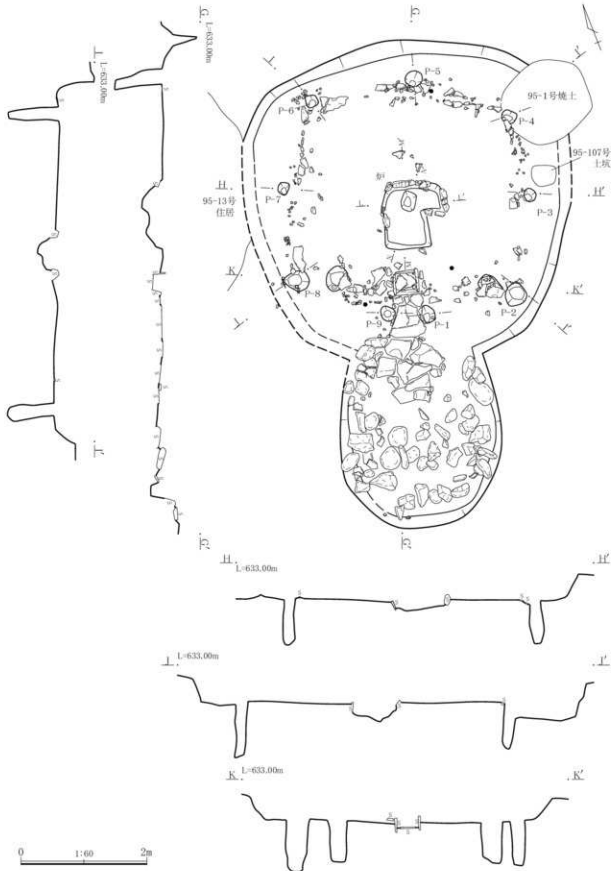
第157図 95-19号住居跡②

小ピット列が検出されたことから建て替え(拡張)が考えられる。また接合部に南北方向の楕円形を呈す対ピットが検出されている。住居の南側部分に関しては、95-30号住居跡の覆土上に構築されているために掘方面は明確にできなかった。また、方形に並べられていた小礫列のほぼ直下に幅30~40cmのコの字状に掘られた溝が確認されている。南側にも延びていたものと推定されるが、95-30号住居の覆土内に重複していたため明確に確認されなかった。

出土遺物 出土土器はあまり多くない。石器に関してはややまとまって出土している。石鎌、石錐、打製石斧類を中心に、磨石、さらには石皿の破片などが見られる。軽石製品や小型の磨製石斧も2点出土している。

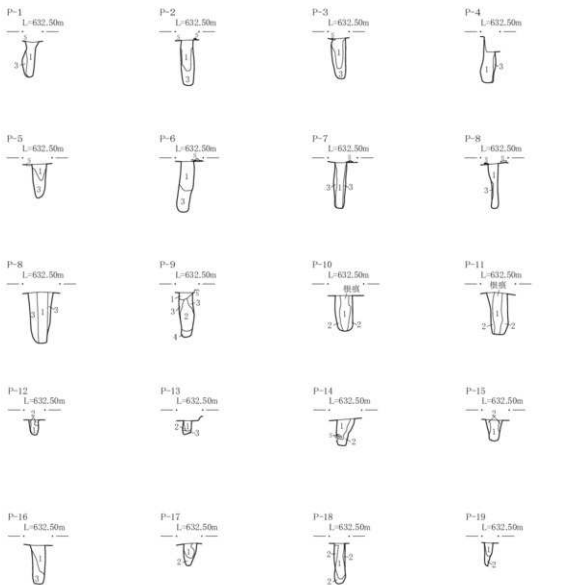


第158図 95-19号住居跡(3)



第159図 95-19号住居跡(4)

第3章 検出された遺構と遺物



P-1～11

- 1 黒色土 若干のローム粒子含む。
- 2 黒褐色土 1よりローム粒多く含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック地山ローム多く含む。

P-12～19

- 1 黒褐色土 ローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒などの混入物少ない。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

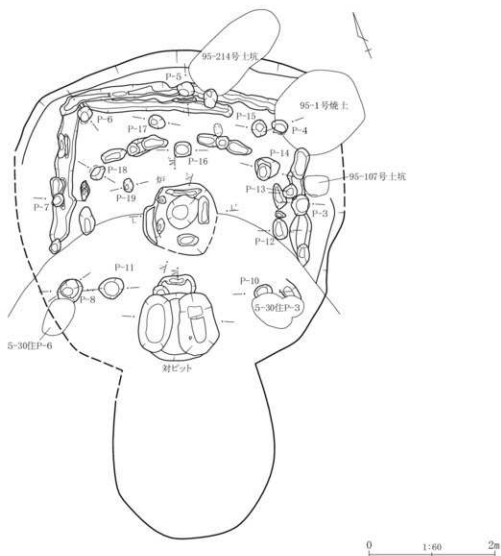
対ピット

- 1 黒褐色土 ロームブロック混入し軟質。
- 2 黄褐色土 ロームブロック主体とする。



第160図 95-19号住居跡(5)

掘り方



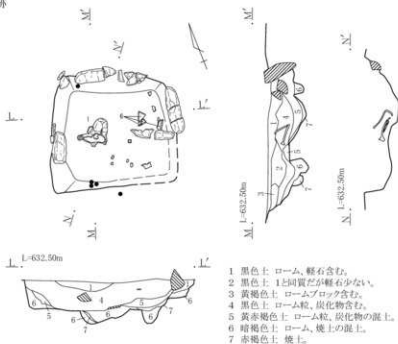
第161図 95-19号住居跡(6)

時期・所見 柄鏡型の敷石住居である。主体部に敷石はほとんど無く、主体部壁際に方形に小礫が並べられていた。95-48号住居にも同様の周溝遺構が確認されている。接合部に板状の石で作られた縦横約50cmの方形石組み遺構が検出されている。底にも平石が敷かれていた。検出時、石組み中にはやや空隙が認められ、また中に平石が落ち込んでいたことから蓋がされていたことが想定される。出土遺物は見られなかった。張り出し部については、比較的大きな川原石が乱雑な状況で検出されている。原位置を留めているものはほとんど見られなかったが、主体部との接合部分寄りの両脇のやや細長い石については、その出土状態から、縦に据えられていたものと見られる。

本址の堀方面の検出を行った結果、前述したように炉の北側から連続する弧状の周溝状ピット列が検出されていることから、当初は円形を基調とした住居であったことが考えられる。時期は出土土器から後期初頭に位置付けられる。

第3章 検出された遺構と遺物

炉跡



炉掘り方



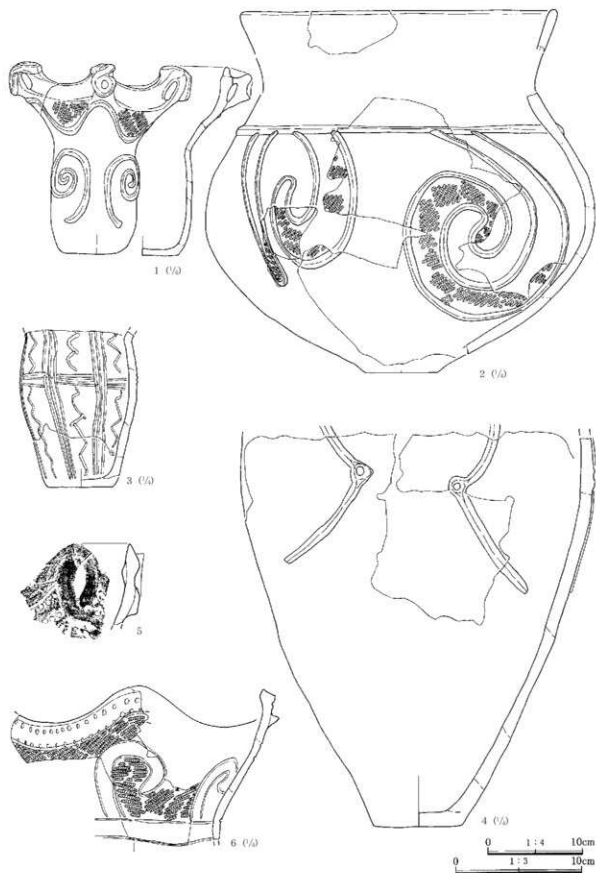
0 1:30 1m

第162図 95-19号住居跡(7)

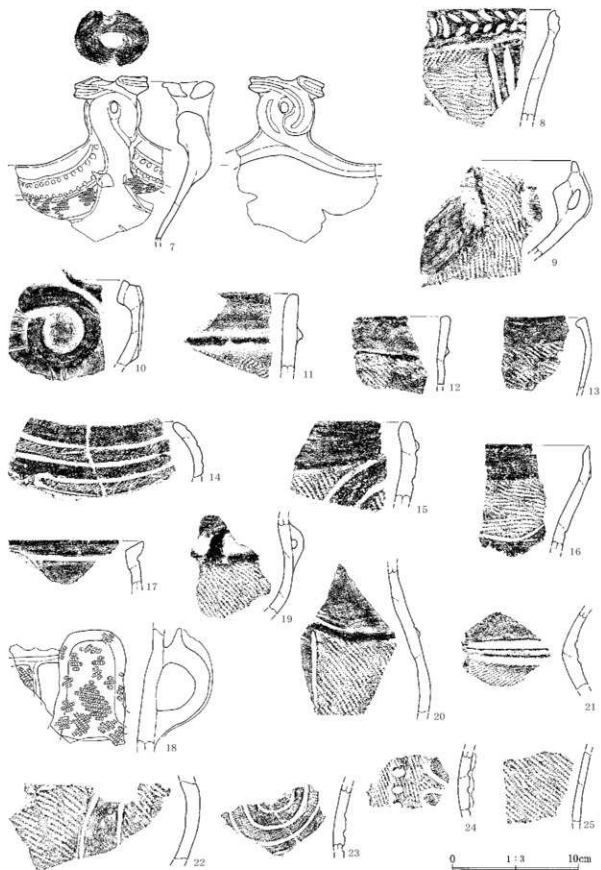
95-20号住居跡 (第168~187図: PL.20・172~180)

位置 G・H-23~25グリッドに位置する。 **重複** 大きく95-18号住居跡の南東部分に重複し、上部を壊して構築されている。さらに、北東部においても95-56号住居跡と僅かに重複しこれを切っている。また、南側から壁にかけ95-243・294・298・115号土坑の重複が見られる。 **形状** 大型ではぼ円形を呈すが、他の遺構と重複する部分に関しては、やや不明瞭な部分がある。 **規模** 720×700×50cm。

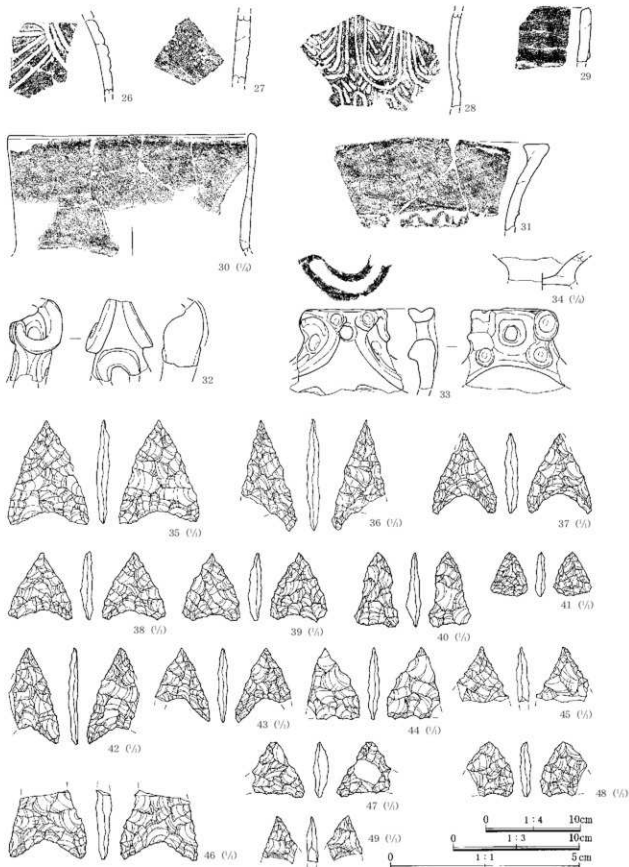
方位 N-26°-W。 **床面** 大きく95-18号住居跡と重複し床面を覆土中に構築しているため、北西側部分は明瞭ではなかったが、一部にロームの貼り床が確認されているが、全体に緩やかな凹凸が見られ、硬化面は見られない。周溝は確認されなかった。



第163図 95-19号住居跡出土遺物(1)

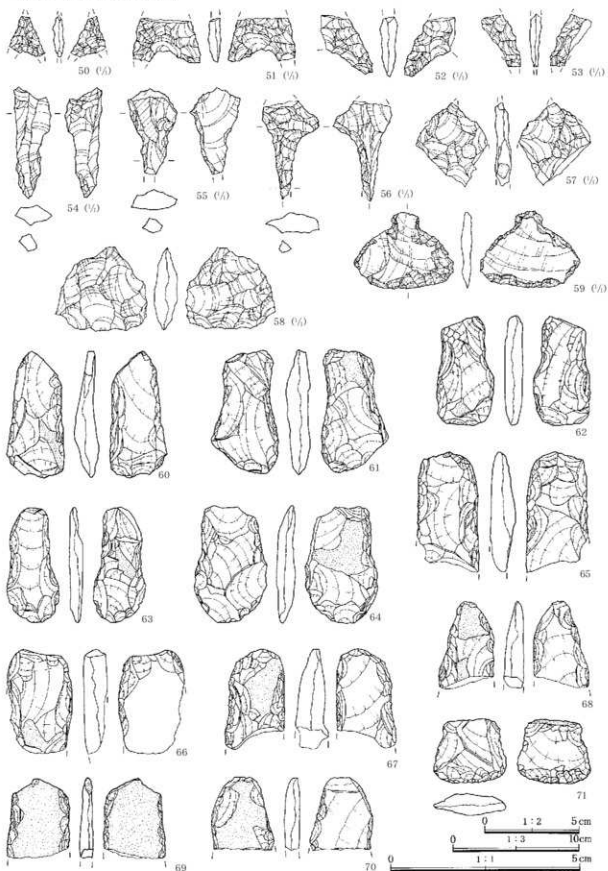


第164図 95-19号住居跡出土遺物(2)



第165図 95-19号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第166図 95-19号住居跡出土遺物(4)



第167図 95-19号住居跡出土遺物(5)

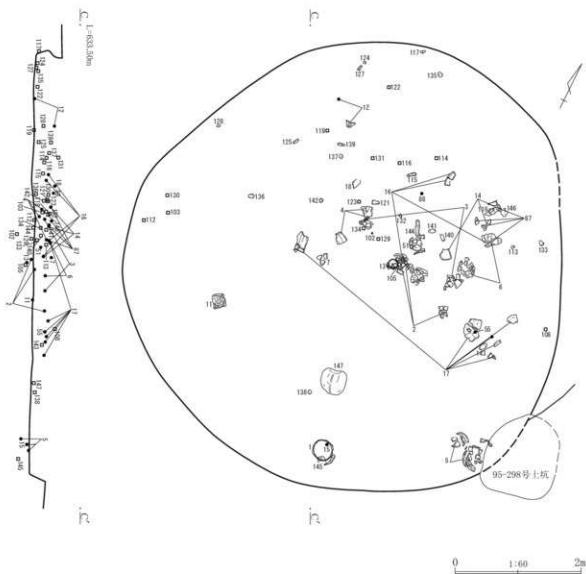
第3章 検出された遺構と遺物

炉 ほぼ中央に検出された、西にやや張り出した不正長方形を呈す。炉石は南側と西側の2石がほぼ原位置を留めていたのみで、他の石は落ち込んだ状態でかなり荒れた状況を呈していた。炉の掘方はやや東西に長い長方形を呈し礫、土器片に伴い焼土、炭化物が集積していた。また炉の南寄りの火床面には、深鉢13が口縁部を下にした状態で据えられていた。

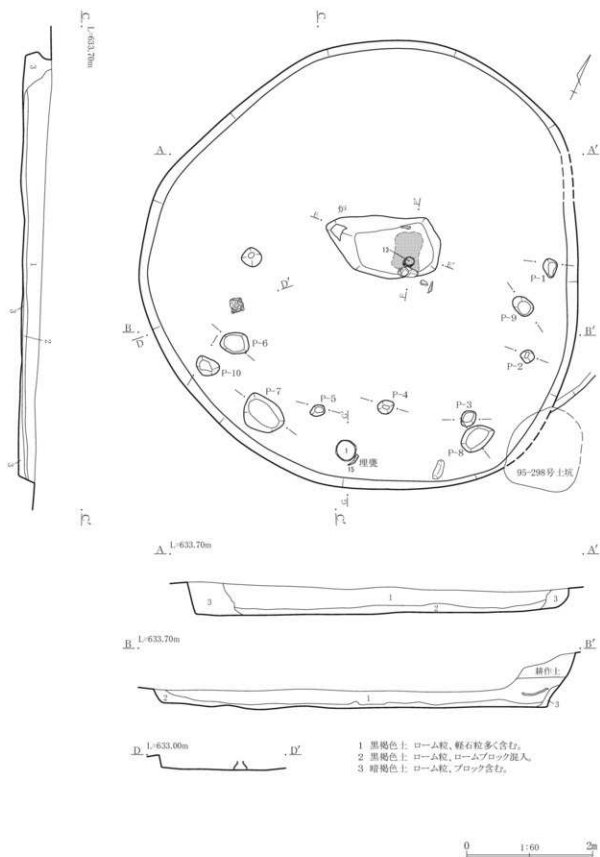
柱穴 柱穴と判断されたものは、重複の無かった南側に壁に沿って2本（P-7・8）を検出、北側については明確には検出できなかったが、95-18号住居跡の中に検出されているピットが想定されるが、確定には至らなかった。

埋裏 入り口部と想定される左側に、正位状態の埋裏1が検出されている。底部を欠いた深鉢を口縁部を上 に正位に埋めている。脇に土器片15が囲うように添えられ、さらに土器を固定するように脇や底の部分に複数の礫が入れ込まれていた。礫の中には磨石や石棒片が含まれていた。

掘方 重複の無かった部分において、複数の小ピット、および周溝の一部と見られる溝を検出したが、拡張

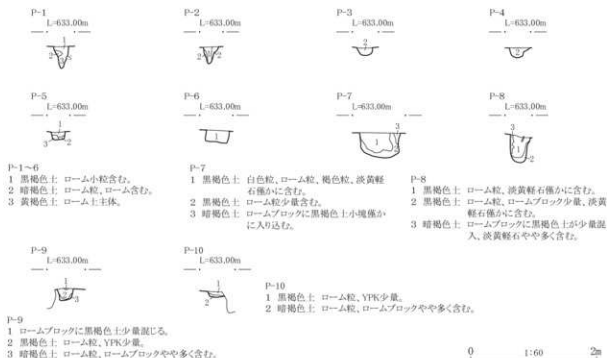


第168図 95-20号住居跡(1)



第169図 95-20号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第170図 95-20号住居跡(3)

前の遺構であるかは不明である。床下土坑等は確認されなかった。

出土遺物 中央から北東部分にかけ集中して出土している。比較的多くの土器や石器が含まれ、大きな礫も多く混在していた。土器はかなりの点数が出土、復元可能な大型品も多く見られた。床に伏せられた状態で出土した深鉢11なども見られた。石器も出土点数は多く、石鏃、打製石斧、磨石などの他、大型の砥石や台石などが出土している。

時期・所見 95-18号住居跡を大きく壊して構築されている。このため北側および東側の壁については重複等もあり、やや不明確な部分がある。大型の住居で、出土した土器は、他の住居に比して縄文系の割合が多い。時期は埋喪の時期から中期後半と判断される。

95-21号住居跡 (第188・189図：PL.21・180)

位置 U・V-18グリッドに位置する。**重複** 調査区のもっとも西側に位置している。南西側半分以上が調査区外となる。また複数の土坑(95-173・174・182・183号土坑)が重複。**形状** 北東側の一部分のみの検出で全容は不明だが、やや隅丸方形か。**規模** 不明。**方位** 不明。

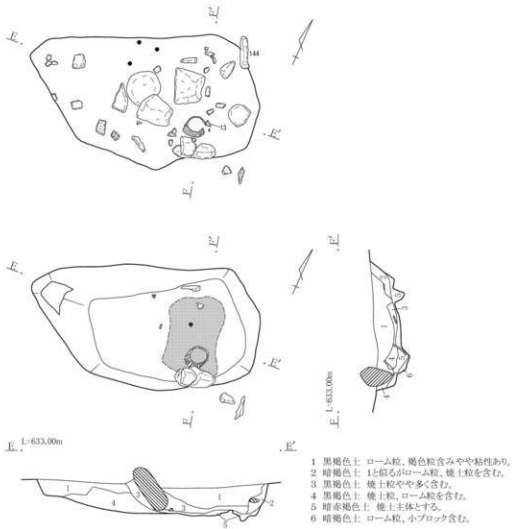
床面 土坑の重複が多く明確な床面は確認し得なかったが、部分的に貼り床されたロームが検出されている。また、上位部分のほとんどが削平されていたことから、壁の立ち上がりは見られず。住居認定の根拠となった周溝が、かろうじて東側に幅約20cmで廻る。**炉** 調査区外に在るとと思われる。

柱穴 3本を検出、P1と2は柱穴の可能性が高い。**埋喪** 検出されない。**掘方** 貼り床下に土坑が検出されたが本址との関連は不明である。

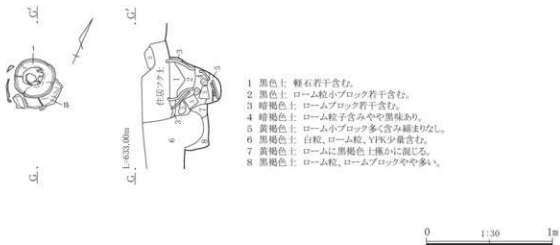
出土遺物 僅かに土器片、石器が見られたのみである。

時期・所見 上面をほとんど削られた上に、南西側半分以上は調査区外に在るため全容は不明である。時期については僅かに出土している土器から中期後半としておきたい。

炉跡

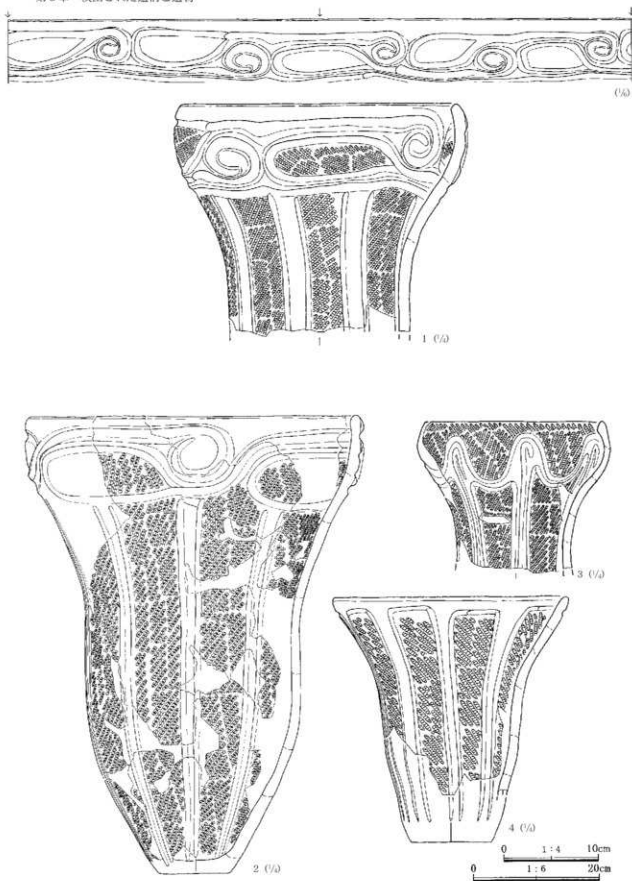


埋裏

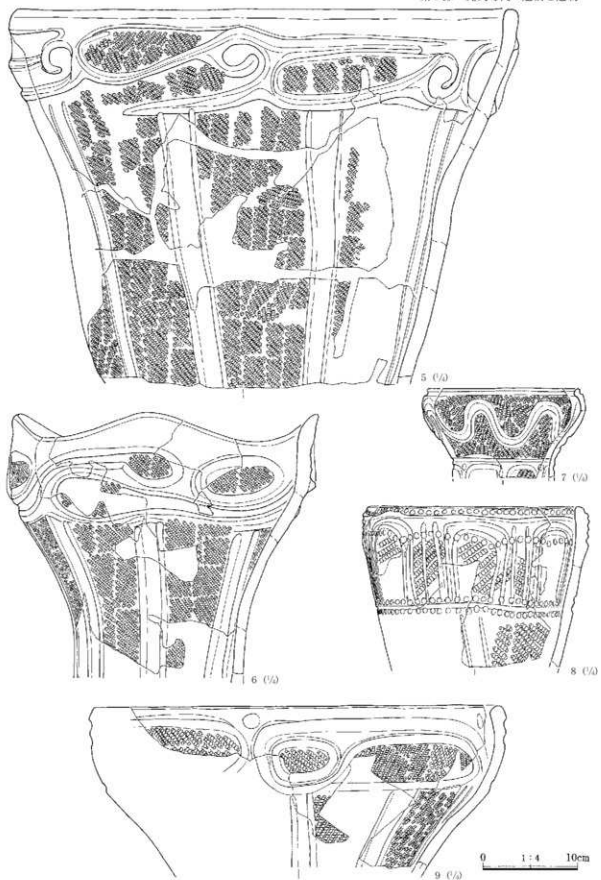


0 1:30 1m

第171図 95-20号住居跡(4)

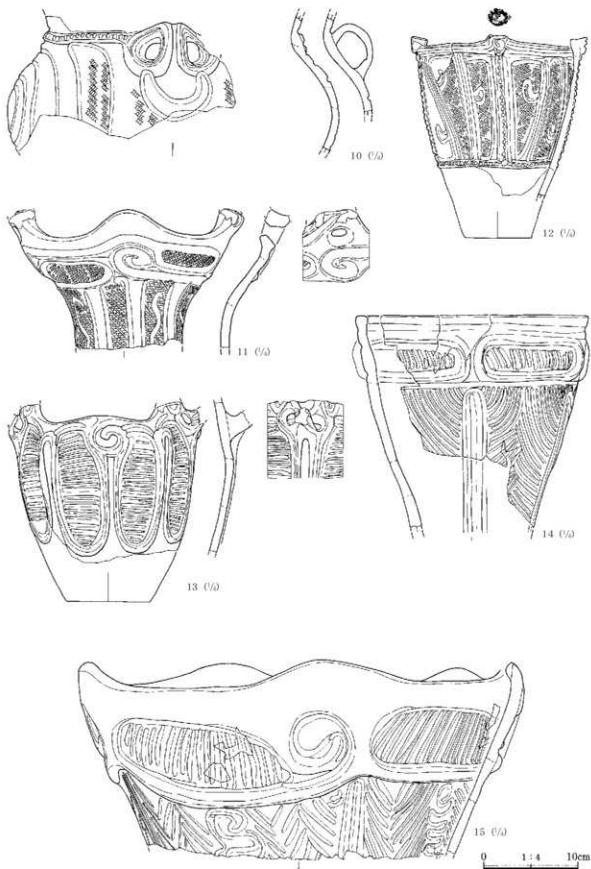


第172図 95-20号住居跡出土遺物(1)

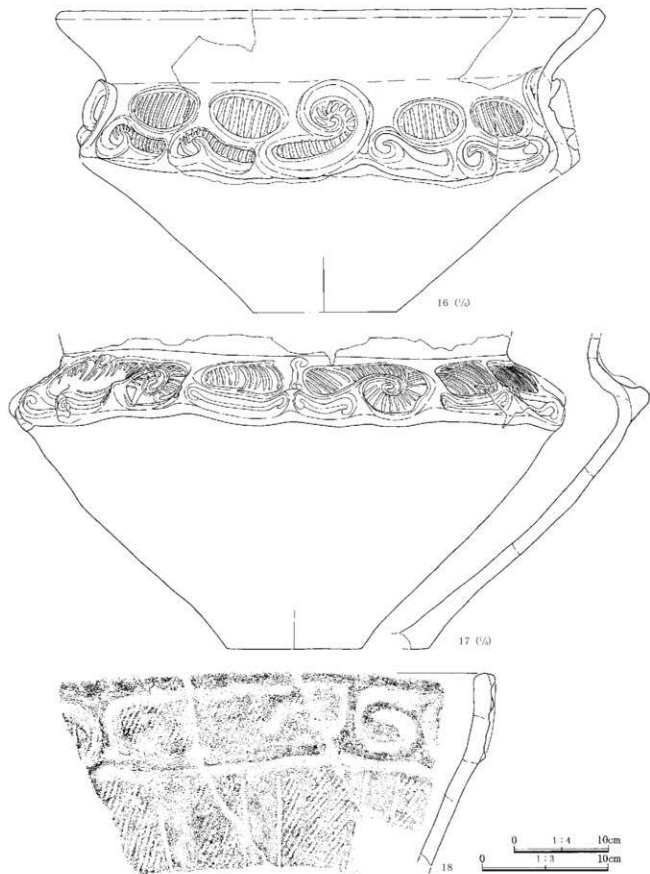


第173図 95-20号住居跡出土遺物(2)

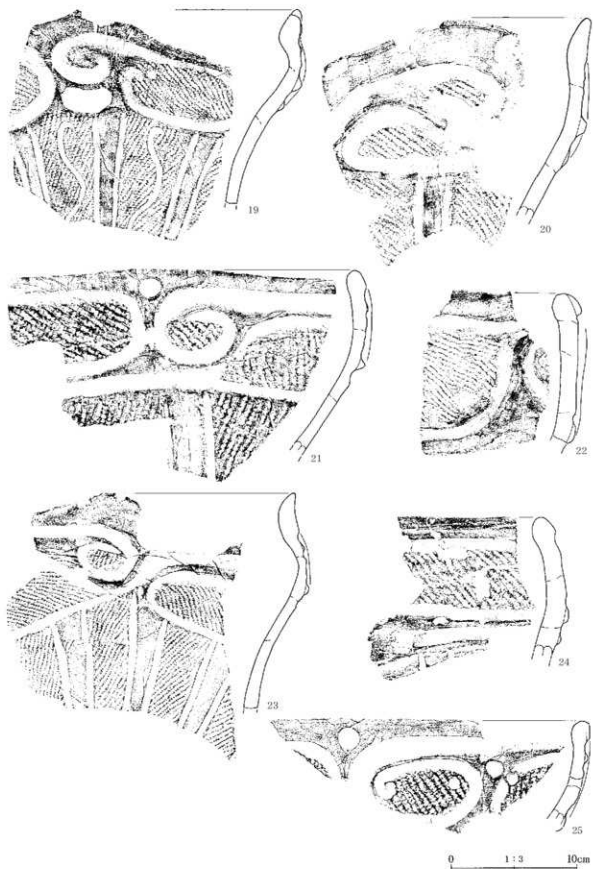
第3章 検出された遺構と遺物



第174図 95-20号住居跡出土遺物(3)



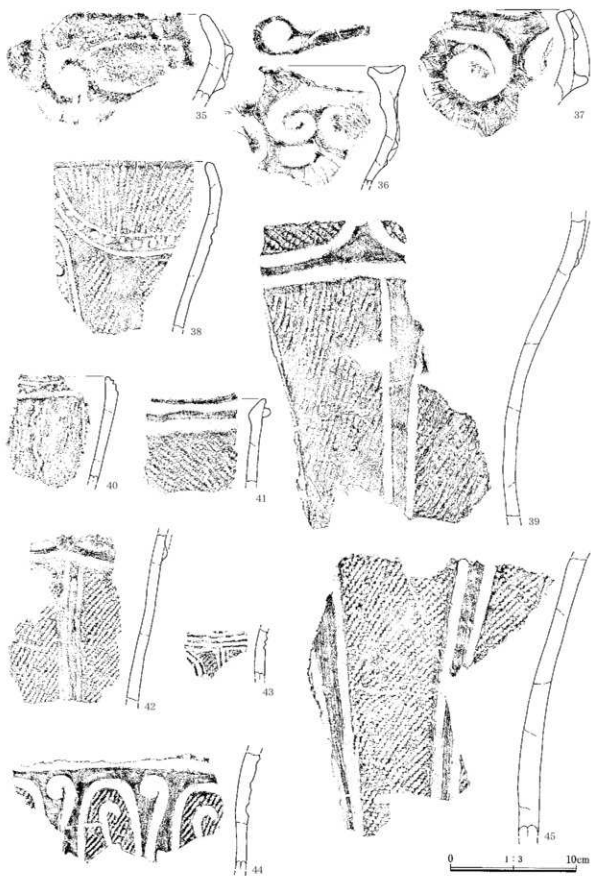
第175図 95-20号住居跡出土遺物(4)



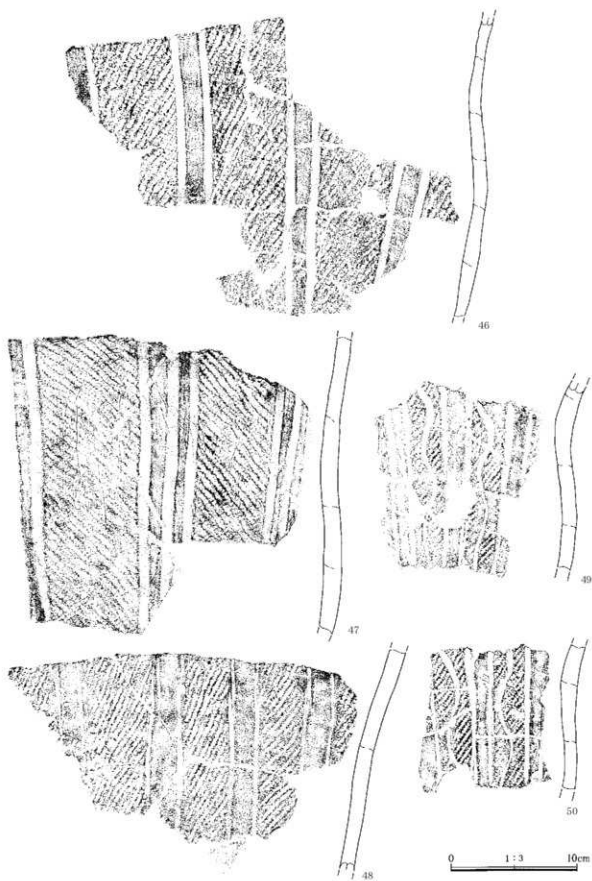
第176図 95-20号住居跡出土遺物(5)



第177図 95-20号住居跡出土遺物(6)

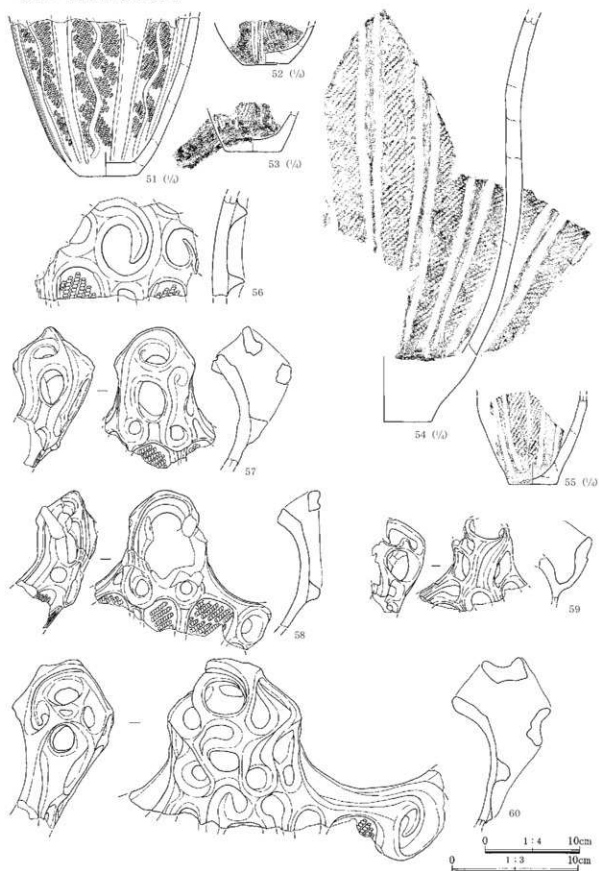


第178図 95-20号住居跡出土遺物(7)

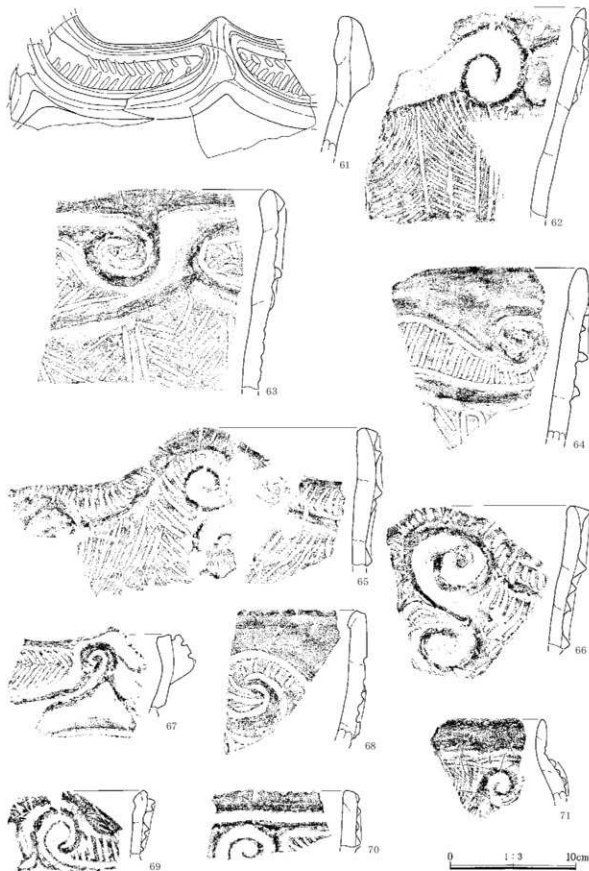


第179図 95-20号住居跡出土遺物(8)

第3章 検出された遺構と遺物

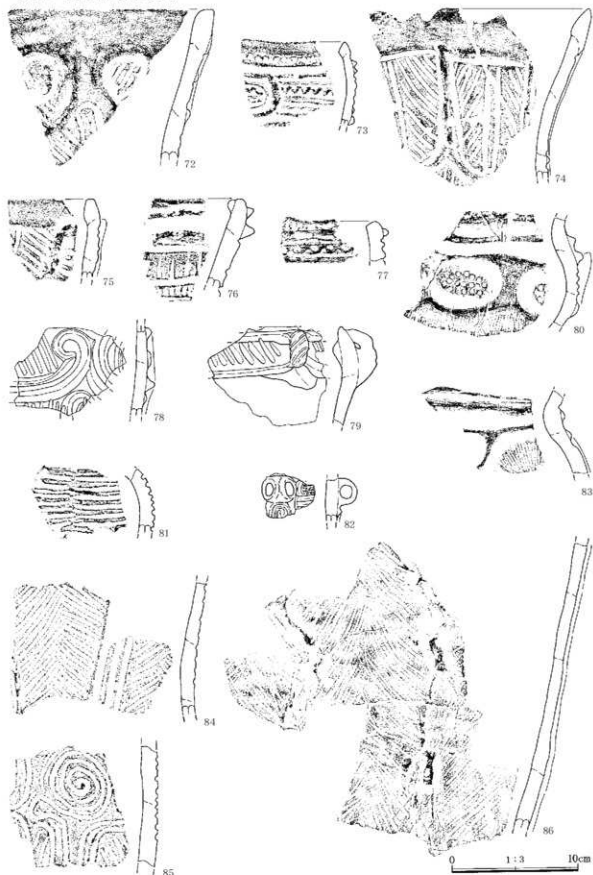


第180図 95-20号住居跡出土遺物(9)

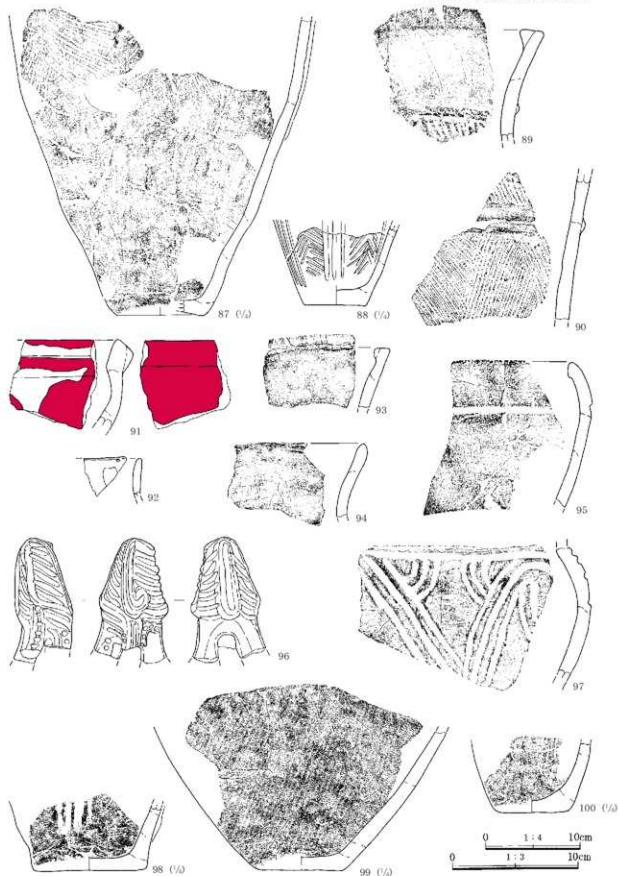


第181図 95-20号住居跡出土遺物(10)

第3章 検出された遺構と遺物

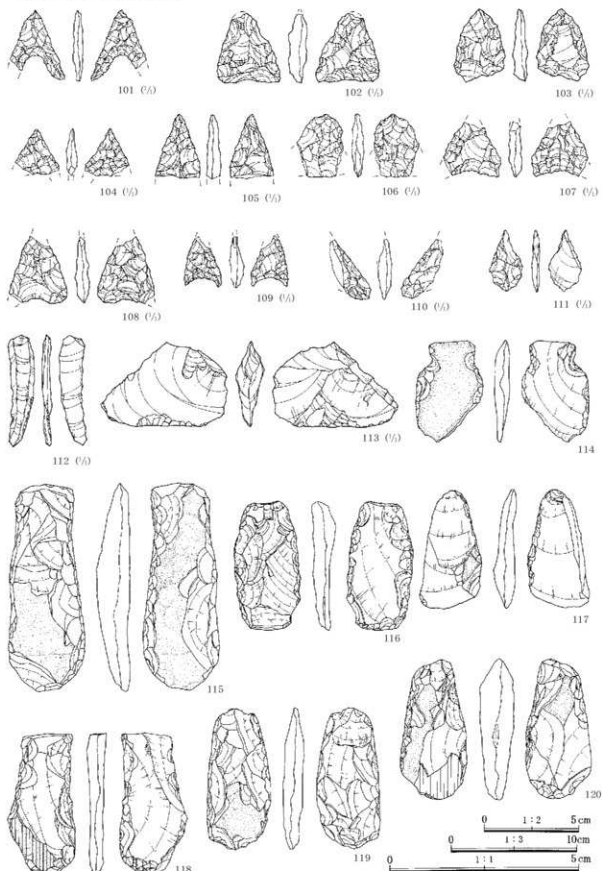


第182図 95-20号住居跡出土遺物(II)



第183図 95-20号住居跡出土遺物(12)

第3章 検出された遺構と遺物

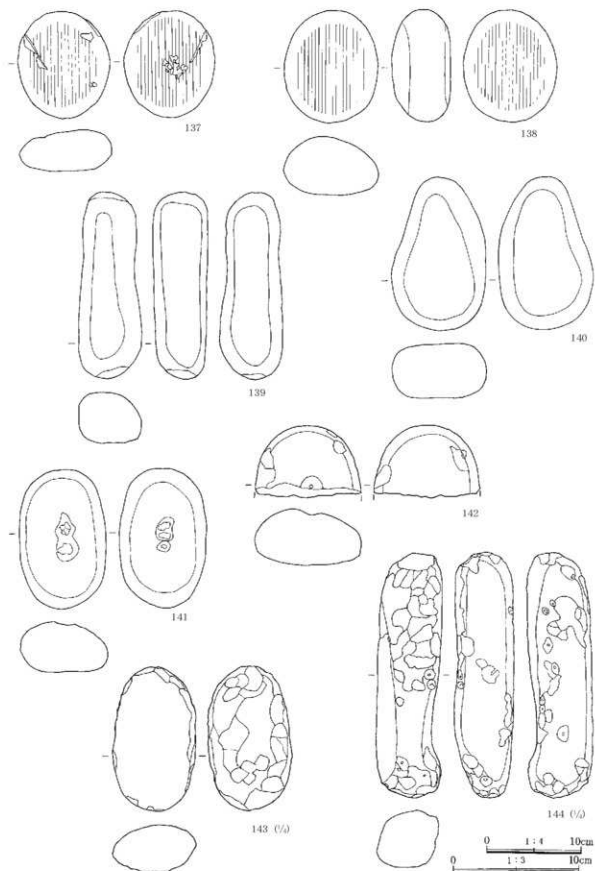


第184図 95-20号住居跡出土遺物(13)

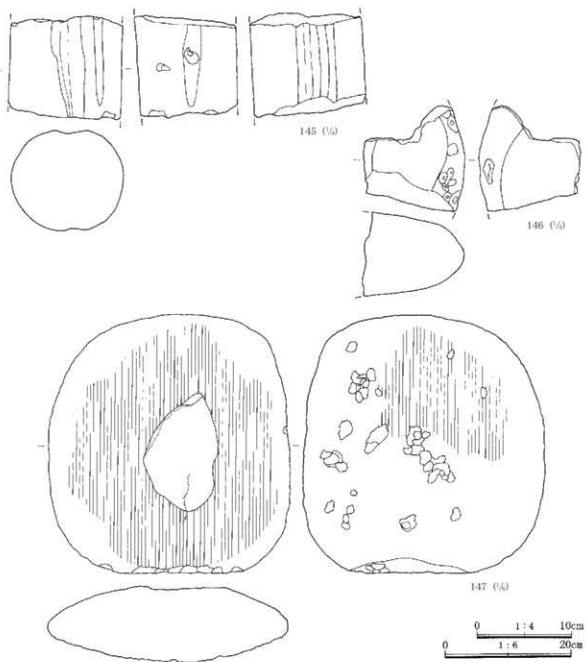


第185図 95-20号住居跡出土遺物(14)

第3章 検出された遺構と遺物



第186図 95-20号住居跡出土遺物(15)



第187図 95-20号住居跡出土遺物(6)

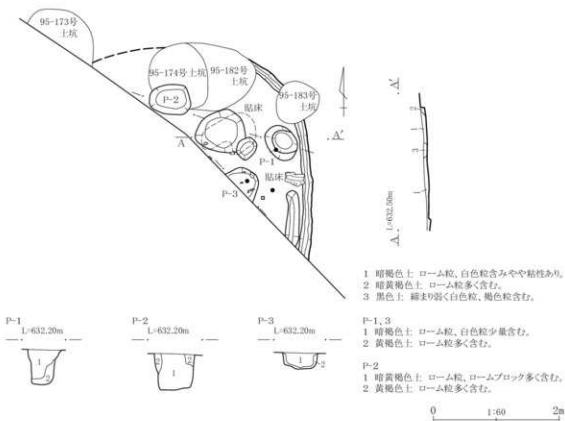
95-22号住居跡 (第190～192図：PL.21・180)

位置 Q～S-16・17グリッドに位置する。 **重複** 住居範囲に複数の土坑（95-180・198・199・200・201・203・205号土坑）が掘り込まれている。 **形状** 掘り込みを持たない平地式住居である。9本の柱穴が長方形に配され、中央やや北に石組み炉が構築されている。

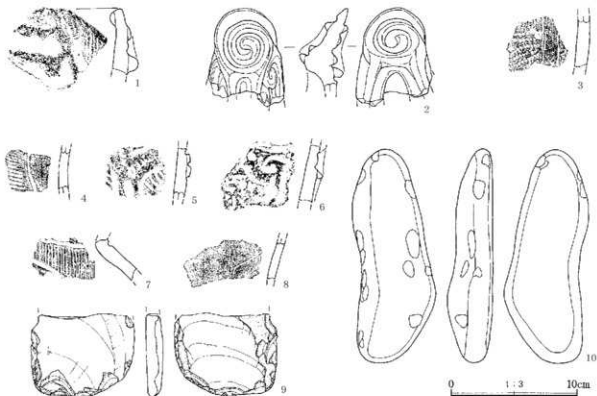
規模 540×360cm。 **方位** N-10°-E。

床面 僅かに中央部分から北側にかけて僅かに高くなっているが、全体的にはほぼ平坦で締まりがあり、特に炉の周辺部分で硬化が顕著である。

炉 住居の中央やや北寄りに作られている。角礫をほぼ方形に組んだ石囲い炉である。規模は90×80cm程で



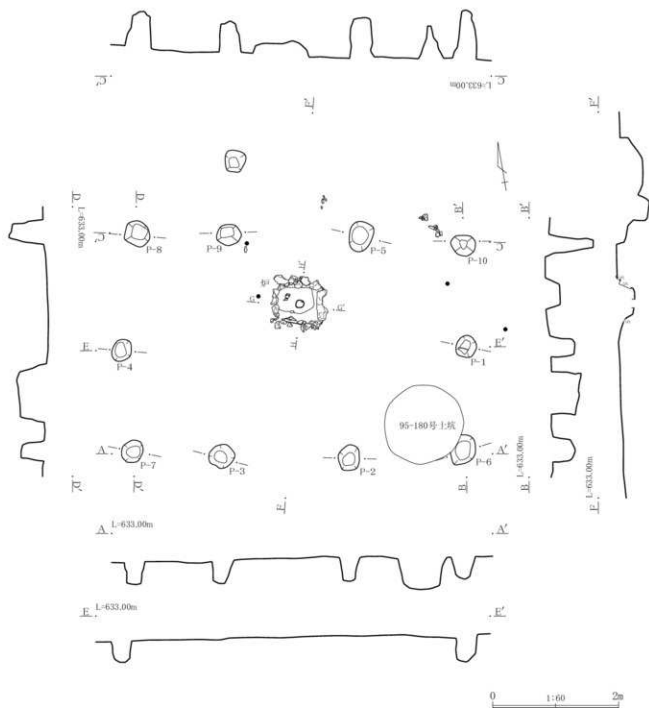
第188図 95-21号住居跡



第189図 95-21号住居跡出土遺物

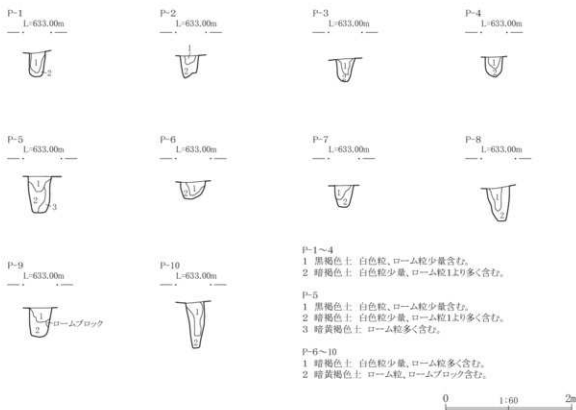
やや東西が長い。炉石はあまり規則的ではなくやや乱雑に組まれ、被熱により割れたものも多かった。炉床内には焼土が厚く見られ、ほぼ中央には口縁部を欠いた深鉢2が据えられていた。土器の欠け口はきれいに面取りされていた。

柱穴 長方形に並ぶ9本を検出、いずれもほぼ円形で径30~40cm、深さは浅いものが30cm、深いものは70cmを測る。北側の柱穴が概して深い。配列は南側、北側の東西に走る4本は中央部分がやや広く配置される。東および西側列は等間隔に配されている。西側中央の柱穴は僅かに外側にずれて掘り込まれている。

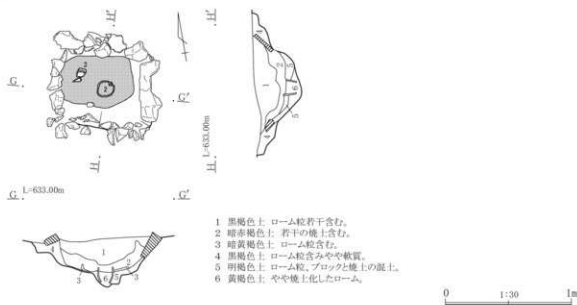


第190図 95-22号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



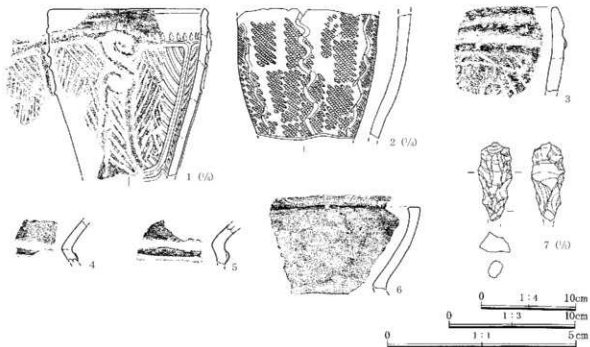
が跡



第191図 95-22号住居跡(2)

埋裏 検出されない。 **掘方** 平らに均したローム地山面を硬化させて床としており、貼り床や床下土坑等は検出されなかった。

出土遺物 掘り込みの無いことから極めて少なかった。石器は石錐が僅かに1点のみである。



第192図 95-22号住居跡出土遺物

時期・所見 いわゆる平地式住居である。形態的には掘立柱建物であるが、規模の違いや炉の形状などから本書で扱った他の掘立柱建物とは区別して住居跡とした。9本の柱穴が炉を囲んで長方形に配置されている。床面は堅くしっかりしており、掘り込みや周溝などは全く見られなかった。本遺跡においても類例のない、特異な建物である。時期は炉体土器から中期後半と判断される。

95-23号住居跡 (第193～199図：PL.22・181・182)

位置 O・P-17・18グリッドに位置する。 **重複** 北側約3分の1は調査区外にあり未調査である。東側部分に95-136・137・154号土坑が重複する。また、東側壁部分に95-139号土坑が重複している。

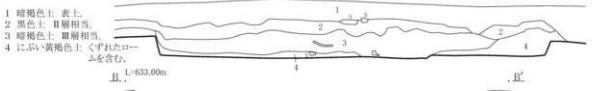
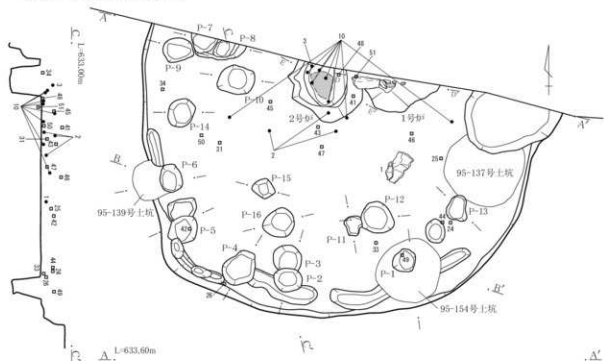
形状 南および西側の壁がやや直線的になっており、丸みの強い隅丸方形か。 **規模** 660×(400)×40cm。 **方位** N-5°-W。 **床面** 南側が僅かに高くなっているが、ほぼ平坦で中央部分は良く締まる。南壁下に部分的な周溝が検出されている。

炉 新旧2基が確認されたが、いずれも北側が調査区外に在るため全掘はならなかった。東側の1号炉が新しく、2号炉が古い。炉石については1号炉の西側に1石確認されているが、構築時の位置ではないと見られる。いずれの炉も深さ25cm程掘り下げており、下層には焼土が認められた。

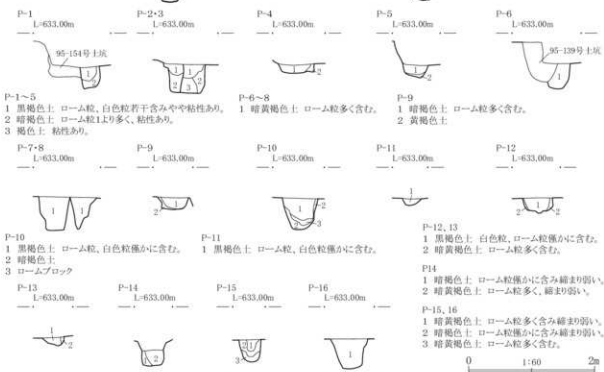
柱穴 壁下に廻る一群と西側にはやや内側に廻る一群がある。このことから炉の位置から住居は主に西側に大きく拡張されたものと推定される。また、東側に位置していた柱穴については重複する土坑に壊されてしまったものと考えられる。 **埋壁** 検出されなかった。 **掘方** 明確な貼り床や床下土坑は確認されない。

出土遺物 比較的多くの土器や石器類が出土している。遺物は炉を中心とした中央から、やや西側に集中する傾向が見られた。土器は大型の破片類も多く、床面に潰れた状態で出土した1などがある。石器類に関しては、石鏃、打製石斧などの他、大型の石棒片や軽石製品等が見られる。

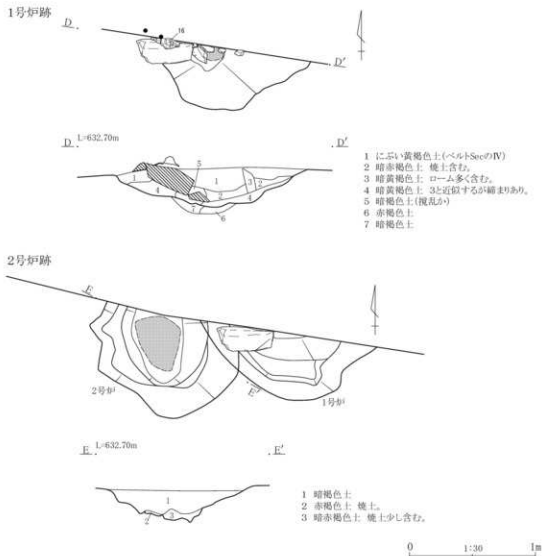
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 暗褐色土 表土。
- 2 黒色土 層相相当。
- 3 暗褐色土 層相相当。
- 4 に赤い黄褐色土：くずれたロームを含む。



第193図 95-23号住居跡(1)



第194図 95-23号住居跡(2)

時期・所見 北側半分は調査区外にあるため未調査である。新旧の炉が重複して確認されていることや、堀方調査により古い柱穴が確認されたことなどから建て替え、拡張したことが窺える。時期は出土遺物から中期後半である。

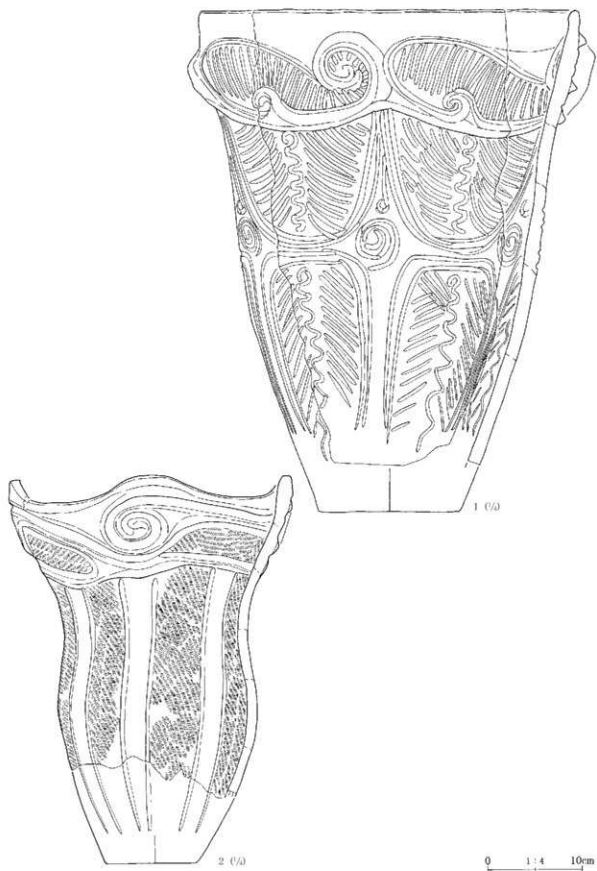
95-24号住居跡 (第200～204図：PL.22・182・183)

位置 調査区の南端、台地が舌状に張り出した頂上部、N・O-15・16グリッドに位置する。

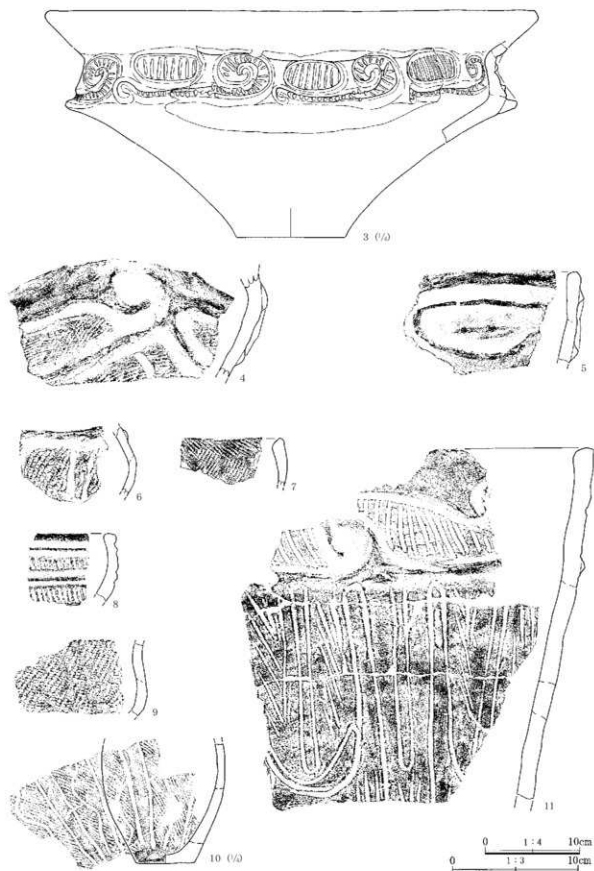
重複 表土が薄く、今回の調査区において最も高い場所である。全体にかなり削平を受けた状況である。95-157号土坑が北側に重複し本址を切っている。 **形状** 丸みのある隅丸長方形を呈す。

規模 (650)×600×19cm。 **方位** N-26°-E。

床面 ほぼ平坦で、地山ロームをそのまま堅く踏みしめて床面としている。周溝が長円形にほぼ全周すると思われる。北東部分が切れてはいるが、削平されたものと見られる。上幅は20～25cmで、深さは約15cmである。



第195図 95-23号住居跡出土遺物(1)

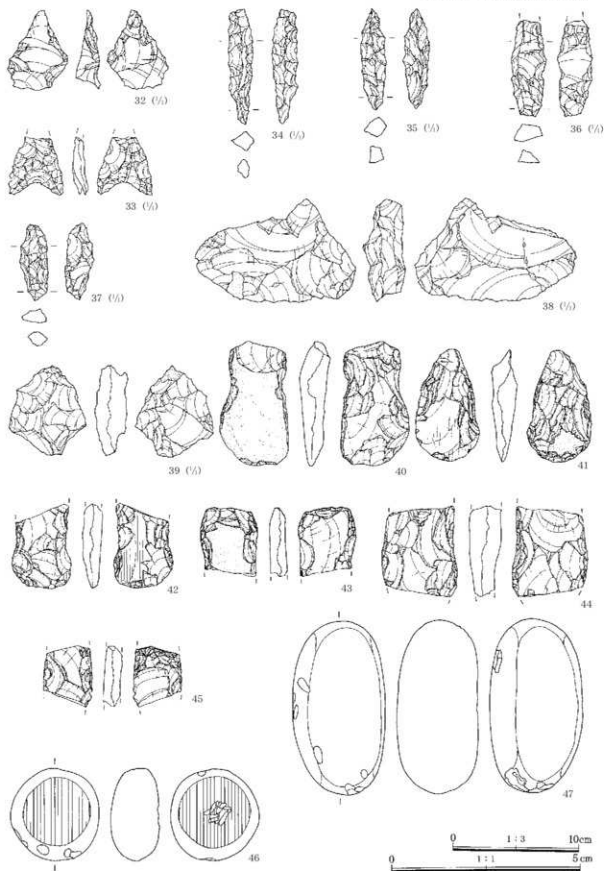


第196図 95-23号住居跡出土遺物(2)

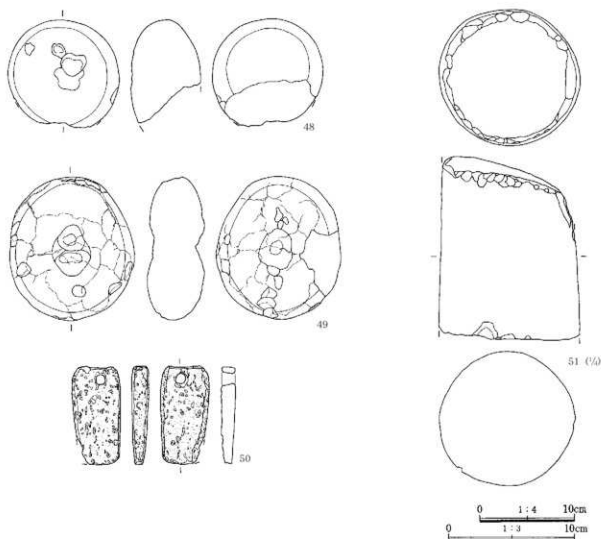


第197図 95-23号住居跡出土遺物(3)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



第198図 95-23号住居跡出土遺物(4)



第199図 95-23号住居跡出土遺物(5)

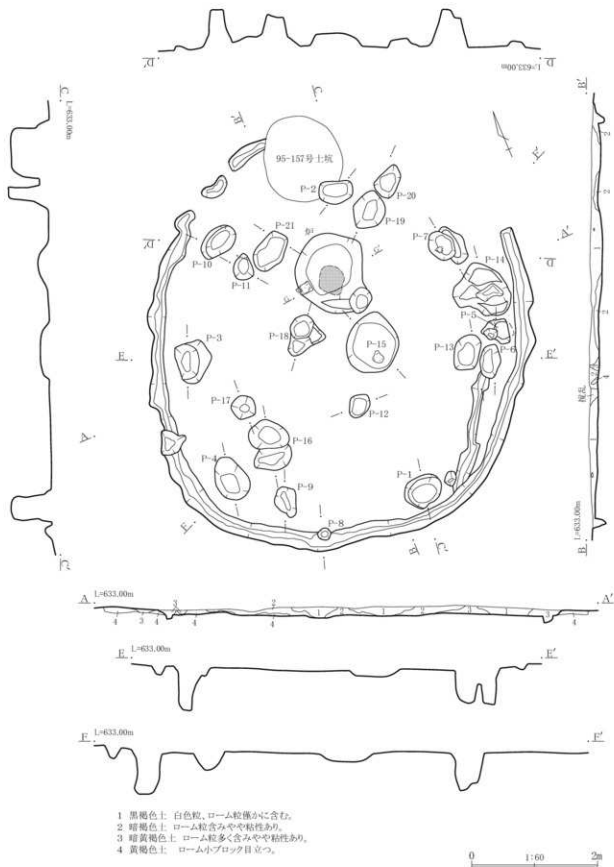
炉 やや北に寄った場所に作られている。掘方は隅丸の方形を呈す。規模は80×80cm。炉石は僅かに西側壁に斜めに据えられた平らな石のみが残る。掘り込みはおよそ30cmである。また南東部分が張り出した形状である。この部分はおそらく立て替え前の炉の掘方であろうと判断される。さらに、この南東側に円形の掘り込みP-15があり、下面に若干の焼土が認められることから、複数回の建て替え、あるいは重複も考えられる。

柱穴 廃絶時の柱穴はP4・3・10・2・7・6・1の7本と判断される。また前2回目の柱穴は6本か。

埋壁 検出されない。**掘方** 東側内側に部分的な周溝が検出された、また内側に廻るように建て替え前の柱穴も検出されている。貼り床や床下土坑は確認されなかった。

出土遺物 表土が薄く耕作等による上面の削平が著しく、土器類に関しては極めて少ない。小破片が10点ほどである。石器類もさほど多くはなかったが、石鏃が10点と比較的まとまっており、磨石等の出土も見られる。

時期・所見 谷に向かってやや突き出た突端部近くに検出された。地山のロームが比較的高くなっており表土である黒色土は20cmと薄い堆積であった。このため上部がかなり削平されており、掘り込みも極めて浅く



第200図 95-24号住居跡(1)

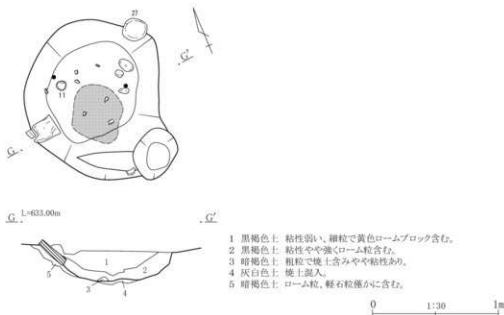
第3章 検出された遺構と遺物



0 1:60 2m

第201図 95-24号住居跡(2)

炉跡



第202図 95-24号住居跡(3)

遺存状態は良くなかった。形状は周溝がほぼ一周することから、かなり丸を持った隅丸の長方形とみられる。古い2基の炉の掘り方が確認されたことや、柱穴が2重に廻っていることから、少なくとも2回の建て替え(拡張)が行われたものと考えられる。出土遺物は少なかった。時期は中期後半と見られる。

95-25号住居跡 (第205～208図：PL.23・183・184)

位置 K～M-16・17グリッドに位置する。**重複** 南側に95-33号住居跡が重複。これを壊している。また、南部分に95-159号土坑が重複する。**形状** 東側部分が谷の傾斜部分にあり明確な形状はつかめなかったが、西側部分から円形と推定される。**規模** (560)×535×25cm。**方位** 不明。

床面 住居の西側は掘り込みが認められるものの、木の根が入り込んで攪乱された状態であり、東側半分は失われて不明である。西側壁下には部分的に周溝が見られる。

炉 ほぼ中央に作られていた。立木による攪乱を受けており、さらに95-140号土坑が重複、南側一部を壊している。規模(130)×110cm、深さが20cm程の楕円形の掘方が確認されている。底部に若干の焼土が残っていたことから炉跡と判断した。炉石は検出されなかった。また、炉の東側には床面上に厚さ数cmの焼土混土層の広がりが見られた。

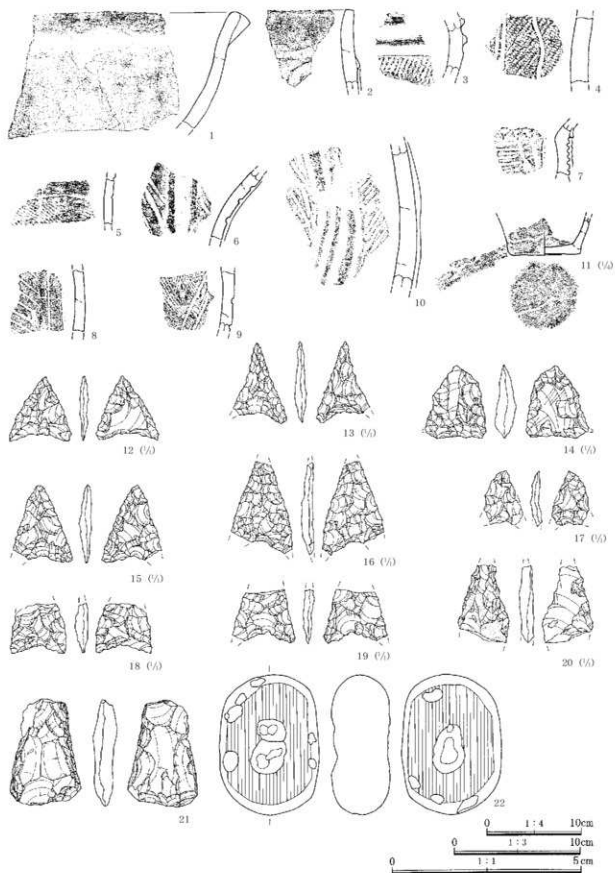
柱穴 4本ないしは6本柱穴か、主柱穴と思われるものは径30～40cmで深さは50～70cmを測る。但し東側については一部不明である。

埋壘 検出されない。**掘方** 貼り床や床下土坑等は見られない。

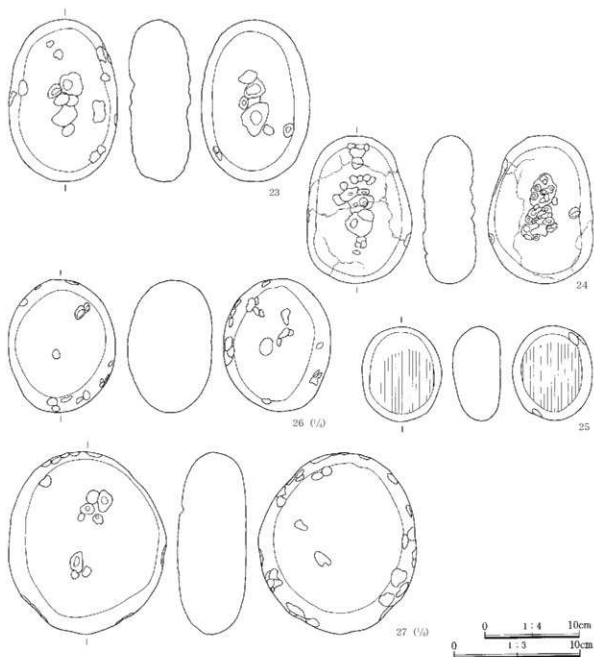
出土遺物 上部を削られていることもあり、土器は破片類を中心とし全体に散在する程度で数は少なかった。石器は僅かに石鏃が見られるのみであった。また、炉周辺の床面から炭化種実が20点以上出土している。

時期・所見 東側が大きく削平されており遺存状態が悪かった。炉に関しても重複土坑による削平や、木の根などの攪乱により良好な状態では検出できなかった。入り口方向に関しては確定できなかったが、炉の位置、地形的に見ておそらく東側の谷方向であったと考えられる。中期後半か。

第3章 検出された遺構と遺物



第203図 95-24号住居跡出土遺物(1)



第204図 95-24号住居跡出土遺物(2)

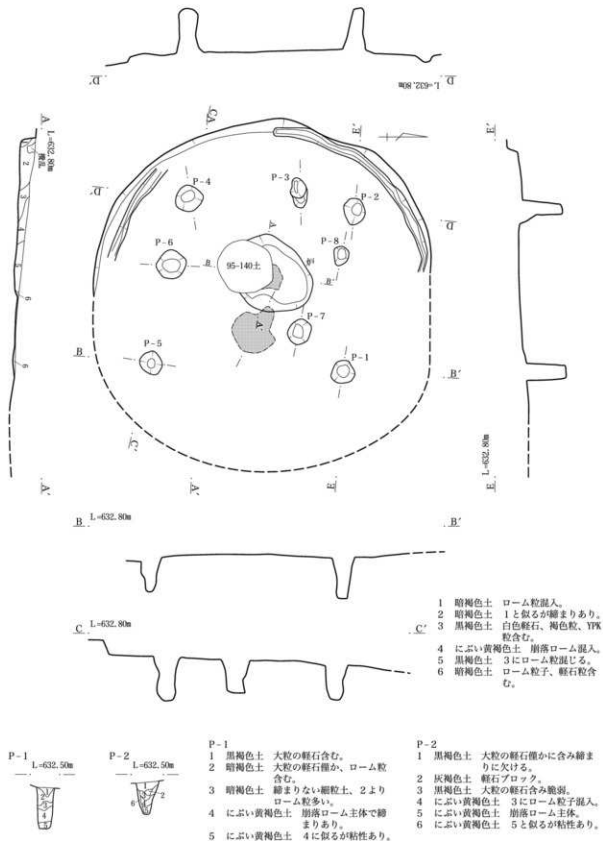
95-26号住居跡 (第209～211図：PL.23・184・185)

位置 調査区の西端、L・M-19グリッドに位置する。 **重複** 南側一部を掘乱溝に壊されており、西側約半分は調査区外にあり未調査である。 **形状** 円形を呈すものと思われる。

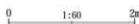
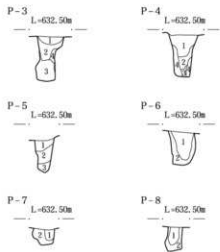
規模 (325) × (228) × 37cm。 **方位** N-15°-E。

床面 ほぼ平坦で炉の周囲は比較的縮まっている。東側および北側壁下に部分的な周溝が見られる。

炉 中央やや北寄りに位置する。5個の川原石で囲んだ石囲い炉である。石はいずれもやや斜めに置かれ、南に据えられた石はもっとも大きく扁平で、熱を受けたためか二つに割れていた。この石の左脇には磨石が



第205図 95-25号住居跡(1)



- P-3
 1 暗褐色土 締まりのない細粒土、ローム粒混入。
 2 暗褐色土 軽石、ローム粒含む。
 3 にぶい黄褐色土 ローム小ブロック含む。
 4 黄褐色土 ローム崩落土。

- P-4
 1 黒褐色土 径3～5cmの軽石、ローム粒混入。
 2 暗褐色土 径3～5cmの軽石僅か、ローム粒含む。
 3 黒褐色土 径3～5cmの軽石含み脆弱。
 4 にぶい黄褐色土 3に崩落ローム多く混入。

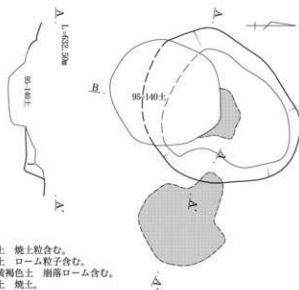
- P-5
 1 暗褐色土 軽石少量、細粒土含む。
 2 暗褐色土 1にローム粒少量含み締まりあり。
 3 暗褐色土 1にローム粒混入。

- P-6
 1 黒褐色土 締まり、粘性共に弱い。
 2 暗褐色土 締まり強くローム粒多く含む。

- P-7
 1 褐色土 ローム粒多く、YPK少量含む。
 2 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。

- P-8
 1 暗褐色土 ローム粒、YPK少量含む。
 2 褐色土 ローム粒多く、YPK少量含む。

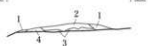
95



97

- 1 黒褐色土 焼土粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子含む。
 3 にぶい黄褐色土 崩落ローム含む。
 4 赤褐色土 焼土。

焼土
 Δ L=632.50m



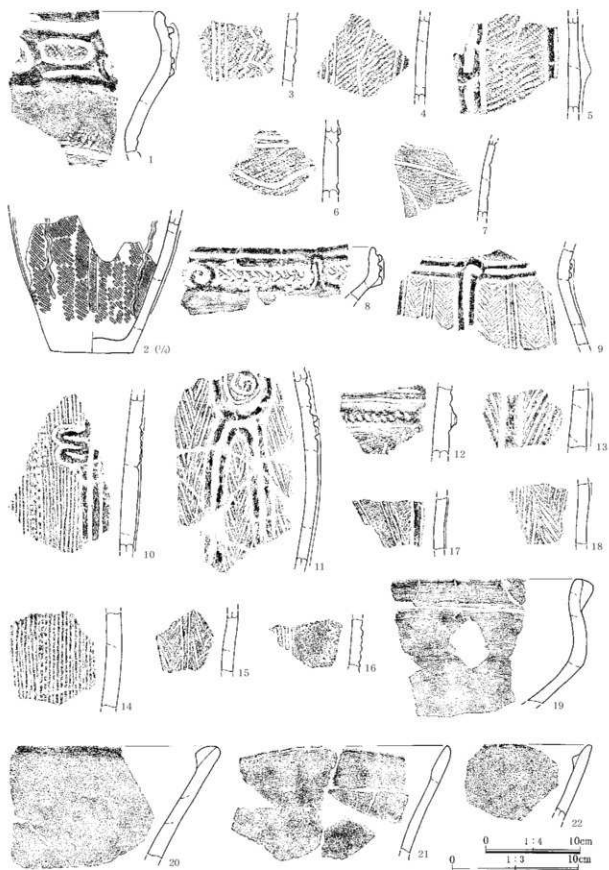
焼土

- 1 黒褐色土 ローム粒焼土粒若干含む。
 2 にぶい赤褐色土 黒褐色土に若干の焼土粒含む。
 3 黄褐色土 ロームブロック。
 4 黒色土

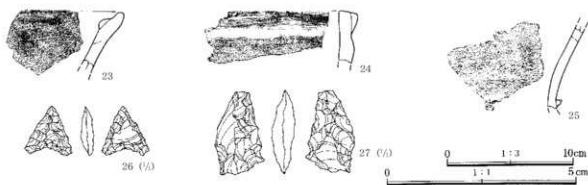
B L=632.50m



第206図 95-25号住居跡(2)



第207図 95-25号住居跡出土遺物(1)



第208図 95-25号住居跡出土遺物(2)

添えられたように置かれていた。炉の規模は縦横とも約60cmとあまり大きくはない。深さは20cm程で、底部には僅かながら焼土が認められた。

柱穴 調査範囲において2本を検出した。住居の大きさから4本か。入り口部には対になるように2本が位置する。**埋燬** 検出されなかった。**掘方** 貼り床や床下の遺構は認められない。拡張、建て替え等の痕跡も見られなかった。

出土遺物 覆土中から比較的多くの土器片や石器等が中央部分にまとまって出土しているが、床面から浮いた出土状態のものが多かった。土器は器形を復元できるものは少なかった。石器に関しては石鏃や磨石類が出土している。

時期・所見 遺構は西側半分近くが未調査で、南側も一部掘乱溝により失われてはいたものの、東および北側の壁は良好な立ち上がりを確認している。出土遺物は比較的多く、土器は信州系が主体であるが、器面の風化したものや、二次的に火を受けたと見られるものが目立つ。本址埋没過程のある時点で同時廃棄されたことも考えられよう。時期は中期後半である。

95-27号住居跡 (第212～214図：PL.24・185)

位置 I・J-23・24グリッドに位置する。**重複** 北西部に95-3号掘立柱建物の柱穴(95-100号土坑)が重複し本址を切っている。また95-248・255号土坑が重複する。

形状 小型の円形を呈すものと思われる。**規模** 310×300×30cm。**方位** N-15°-W。

床面 他の遺構との重複が著しく、検出した範囲は部分的であるが、ほぼ平らで大粒のローム粒が目立つ。硬さはあまり見られなかった。周溝は検出されなかった。

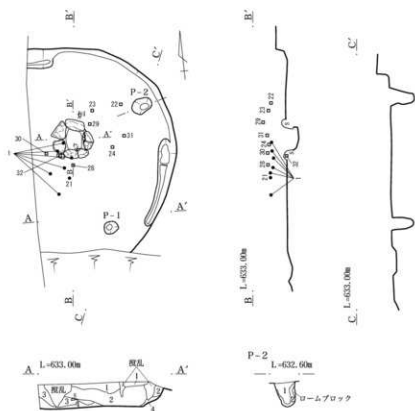
炉 ほぼ中央に作られている。川原石をほぼ円形に廻した石囲い炉である。いずれの石も外側に開くように掘えられている。また、礫の形状は不揃いで被熱により割れたものも見られる。規模は小さく約50×55cmで深さは20cm程である。炉内からの出土遺物はほとんど無く、底部には若干の焼土が見られた。

柱穴 4本柱穴と思われる。南側に並んで2本を検出、径は30cm程であるが深さは10cmと浅い。北側にも対になる柱穴が在ったものと思われるが、重複土坑により詳細は不明である。

埋燬 検出されなかった。

掘方 炉の南に接して円形の床下土坑が検出されている。径約100cm、深さは50cm程である。ほぼ垂直に掘り込まれ底は平らであった。炉と一部重なっており住居と同時期あるいは旧く位置付けられる。断面の観察から、覆土の多くは人為的に埋められたものと考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

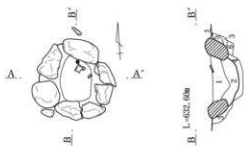


- 1 暗褐色土 軽石多く含む細粒土。
- 2 暗褐色土 白色軽石、褐色粒、YPK粒、炭化物含む。
- 3 暗褐色土 白色粒、褐色粒含む。
- 4 にぶい黄褐色土 3にルームブロック混入。

- P-2
- 1 黒色土 ローム粒若干含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック多く含む。



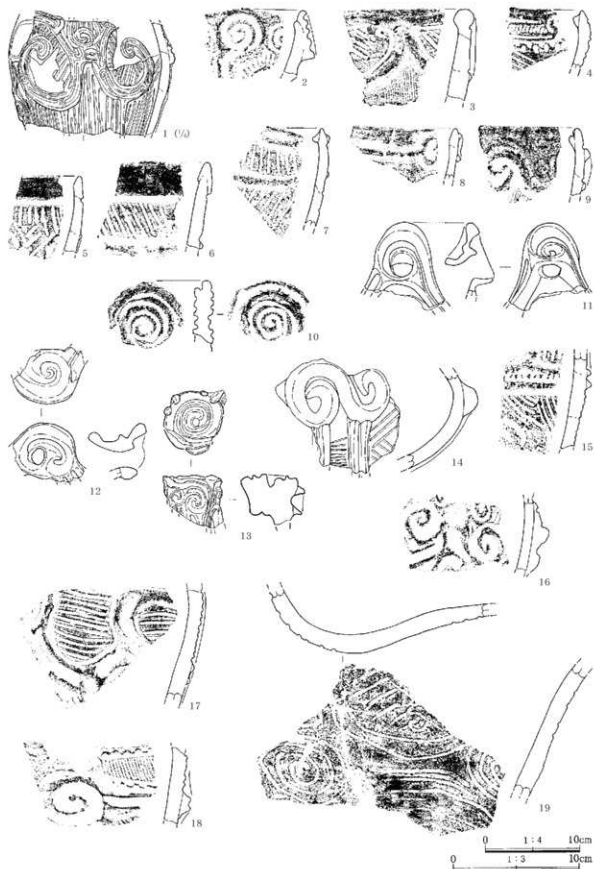
跡



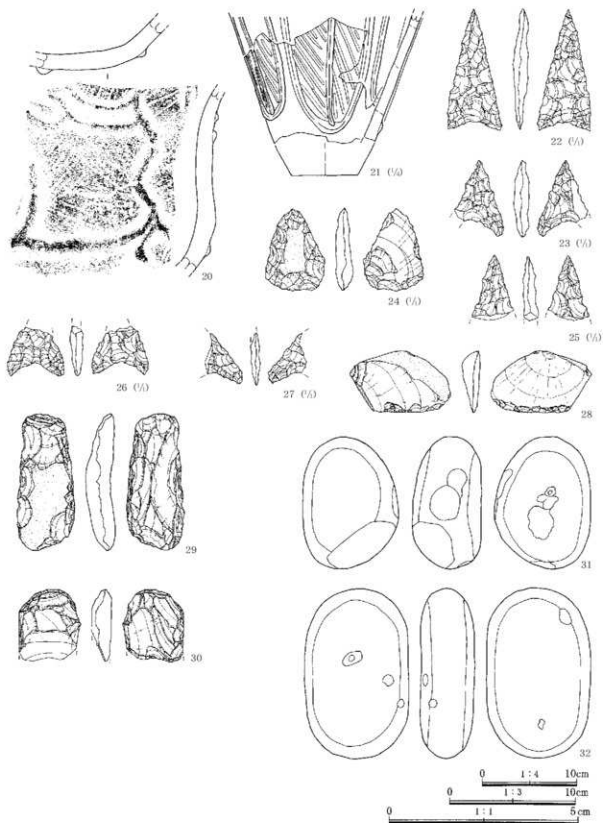
- 1 暗褐色土 ローム粒子若干含む。
- 2 明茶褐色土 ローム、少量の炭化物、焼土粒子含む。
- 3 にぶい黒褐色土 黒色粘質土、ローム粒子含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒、焼土粒含み締まる。
- 5 黒色細粒土
- 6 暗黄褐色土 黒色土、ローム粒含み締まりない。



第209図 95-26号住居跡



第210図 95-26号住居跡出土遺物(1)



第211図 95-26号住居跡出土遺物(2)

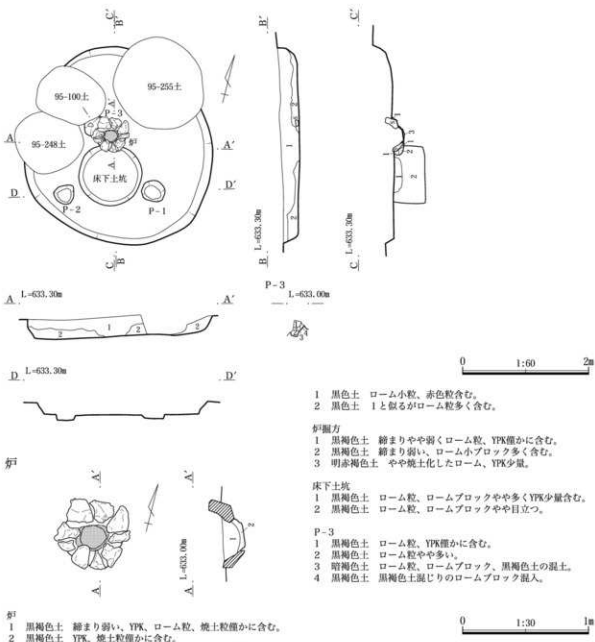
出土遺物 上層部に自然礫が多く見られた他には土器および石器の出土はあまり多くはなかった。土器は主に小片で、石器類は石錐や磨石、多孔石類が見られる。

時期・所見 土坑等の重複が顕著であるため、遺存状態はあまり良好ではなかったが、炬や壁の立ち上がりは比較的しっかりしている。小型の住居で時期は中期後半と考えられる。

95-28号住居跡 (第215・216図: PL.24・185)

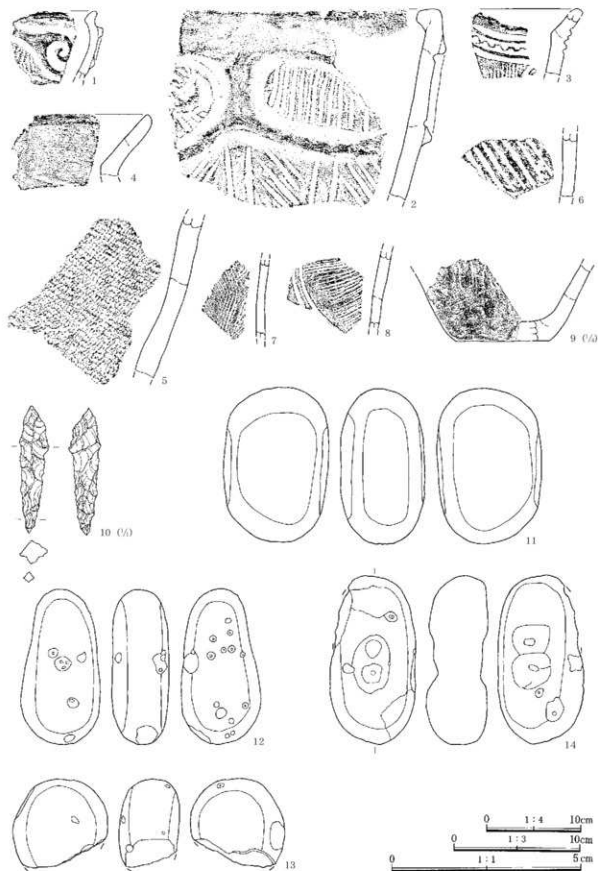
位置 K・L-17・18グリッドに位置する。 **重複** 西側部分に95-122・138号土坑および近世の土坑が重複、さらに北側は近代の攪乱溝により大きく壊されている。 **形状** 円形か。

規模 推定径6.00m。 **方位** 不明。 **床面** 明瞭な面は認められなかった。

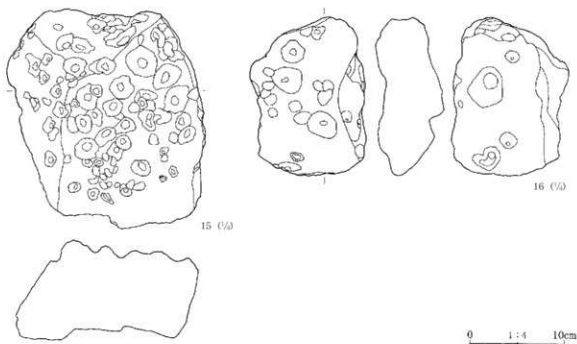


第212図 95-27号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第213図 95-27号住居跡出土遺物(1)



第214図 95-27号住居跡出土遺物(2)

炉 明確なものは検出されなかったが、住居推定範囲のほぼ中央に浅い凹みの底に僅かに焼けた痕跡を認めている。**柱穴** 擾乱を受けた部分は床面下まで大きく削平を受けていたために、確認されなかった。比較的残りの良かった南側部分に5本のピットを検出しているが、いずれも浅く、掘方も一定せず、明確な対応関係は不明である。**埋嚢** 検出されない。**掘方** 不明。

出土遺物 遺構自体ほとんど削平された状態で遺物は少なかった。数点の土器小片および打製石斧、磨石であった。

時期・所見 本址は北側と西側に部分的な弧状の立ち上がりが認められたことから住居を想定し検出を行った。北側を大きく擾乱溝に壊され、やや東に傾斜する場所に位置。上部をほとんど削られた状態であったことから規模、形状共に不明瞭な部分が多い。僅かな焼土痕を炉跡と想定した。時期は僅かに出土している土器から中期後半と想定しておきたい。

95-29号住居跡 (第217～220図：PL.24・25・186・187)

位置 H・I-20グリッドに位置する。**重複** 北東部分は近世の擾乱坑により壊されている。さらに北側で95-46号住居跡と重複、南側には95-50号住居跡が位置するが、いずれの住居よりも本址のほうが後出と考えられる。95-250号土坑は、主体部と推定される張り出し部のちょうど接合部に位置しており注意される。

形状 柱穴の配列から主体部が隅丸方形を呈す柄鏡型と推定される。**規模** (770) × (500) × 10cm。

方位 N-34°-W。**床面** 炉の周囲においても明確な面は確認できなかった。比較的遺存状況の良かった北西隅部分に外縁内側に沿って小竈が部分的に検出されている。炉周辺や張り出し想定部に敷石等は見られなかった。

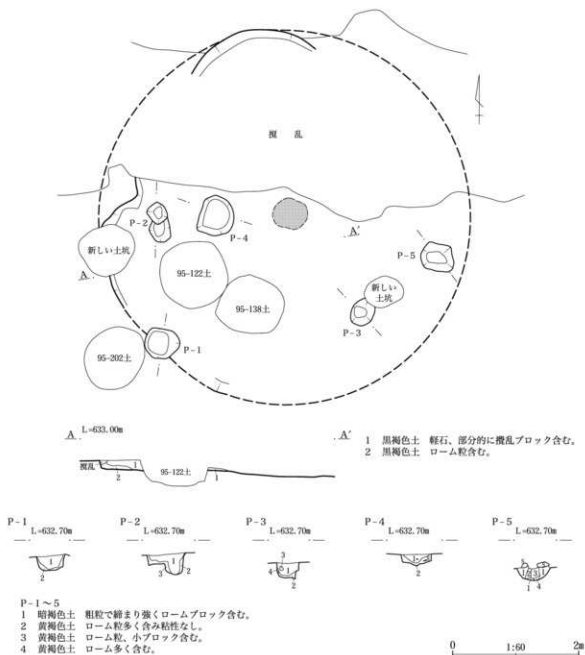
炉 比較的大きな川原石4石を長方形に組んで構築している。規模は90×70cmである。炉石は被熱によって

第3章 検出された遺構と遺物

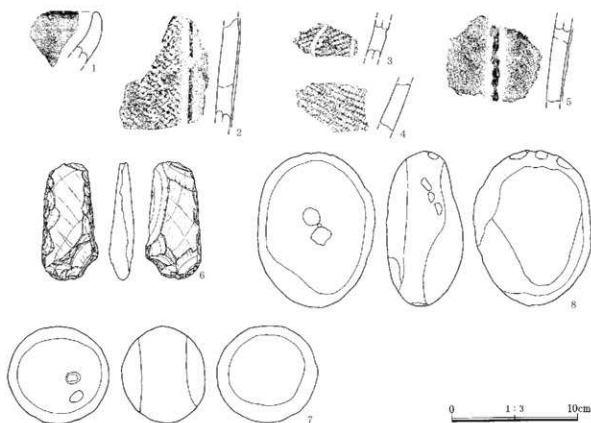
ひび割れが顕著であった。炉の底面には赤褐色焼土層の堆積が見られた。焼土化は弱い。

柱穴 床面調査時には一部しか確認できなかったが、掘方を行った結果、主体部の外周に沿って11本が確認できた。また張り出し推定部にも東西2本を検出した。径は20~30cm、それぞれの深さは削られているものもあるが、20~30cm程である。

埋裏 検出されなかった。 **掘方** 南側はかなり削平されていたこともあり、柱穴を確認した他には特に施設は見られなかった。 **出土遺物** 主体部の範囲内において土器の破片類を中心に比較的多く出土している。やや大きな破片1の他は小片が多かった。石器は石鏃、石錐類の他、10点ほどの磨石類が出土、その他に軽石製品が1点見られる。



第215図 95-28号住居跡



第216図 95-28号住居跡出土遺物

時期・所見 黒色土中に四角に組んだ石囲い炉および周囲に多くの土器片が見られたことから住居を想定し調査を行ったものである。炉、および主体部の北西部のみ残存するが、住居範囲については明確にし得なかったが、掘方時の柱穴の配列、北西部に検出された僅かな小礫の並びなどから、敷石こそ明確なものは無かったが、主体部が方形を呈す柄鏡型敷石住居の可能性が指摘できる。

炉の南に検出された95-280号土坑は長軸を東西にとる楕円形を呈しており、接合部に位置することなどから本址に関連する可能性がある。南の張り出し部が想定される場所は表土が浅く、やや南に下がる傾斜地に掛かっていたために、遺構に係る痕跡は確認されなかった。出土遺物はほとんどが小破片である。時期は後期初頭と考えられる。

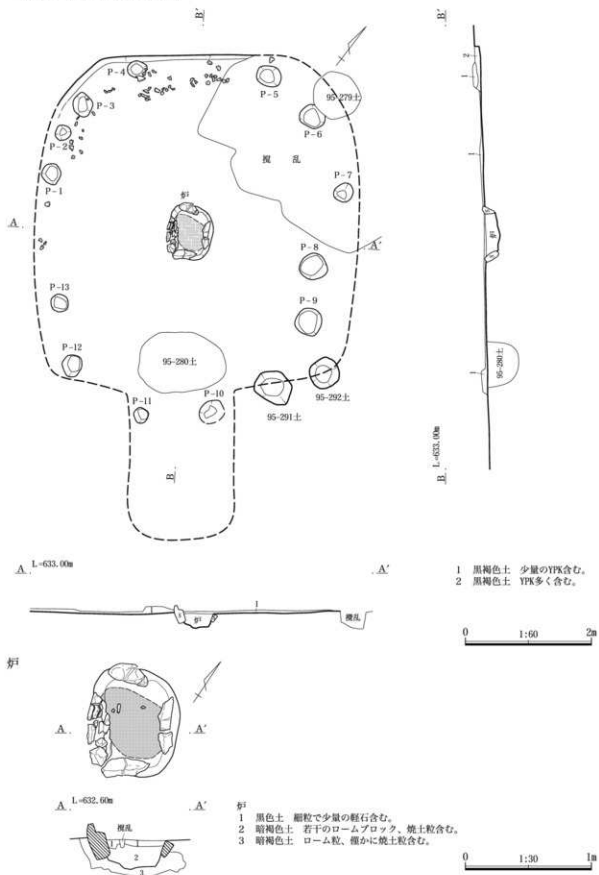
95-30号住居跡 (第221～234図：PL.25・26・187～191)

位置 1・J-21・22グリッドに位置する。 **重複** 95-19号住居跡が北側から中央部分にかけ、上に載る形で大きく重複している。また、95-259・260号土坑が住居内に重複している。

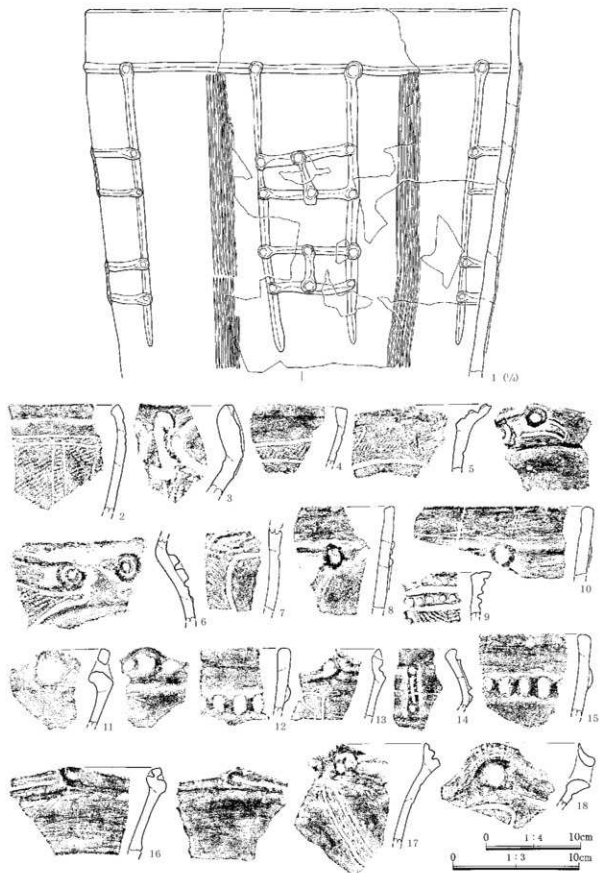
形状 円形を呈す。 **規模** 610×610×50cm。 **方位** N-32°-W。

床面 全体的にはほぼ平らで良く踏みしめられて硬くなっているが、炉の南側は95-19号住居跡の張り出し部の下に位置、このため掘方による落ち込みが見られる。壁下には幅約30cm、深さ20cm程の周溝がほぼ全周する。

炉 新旧2基が検出された。1号炉は中央やや北寄りに作られている。東側の一部を95-19号住居跡のピツ



第217図 95-29号住居跡

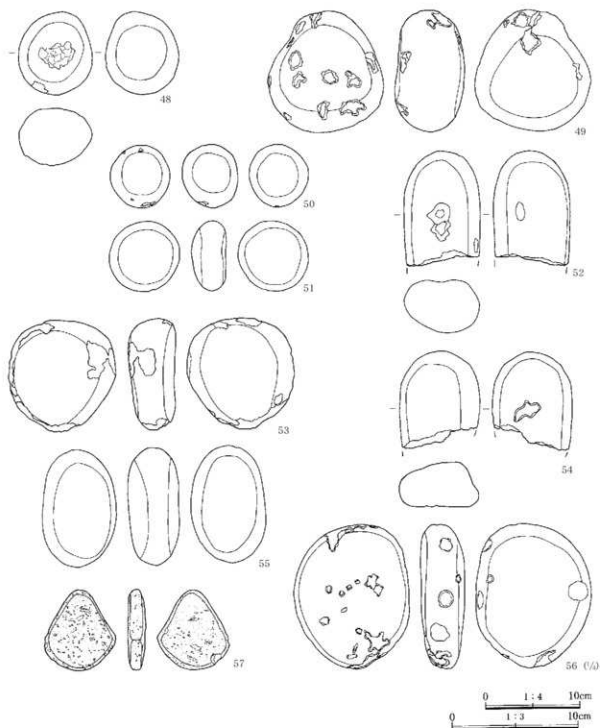


第218図 95-29号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第219図 95-29号住居跡出土遺物(2)



第220図 95-29号住居跡出土遺物(3)

トにより壊されている。四角に石を組んだ石組み炉と思われる、奥の炉石は二つの石が重なった状態で検出されている。他は抜き取られたものと考えられる。炉石には熱によるひび割れが見られた。掘方はほぼ方形で規模は110×110cm、深さは約30cmである。1号炉南東部分の下から古い炉（2号炉）が重複して検出された。西側は1号炉に大きく壊されているが、ほぼ方形の掘方が残っていた。深さは20cm程で下面には焼土が良く残っていた。

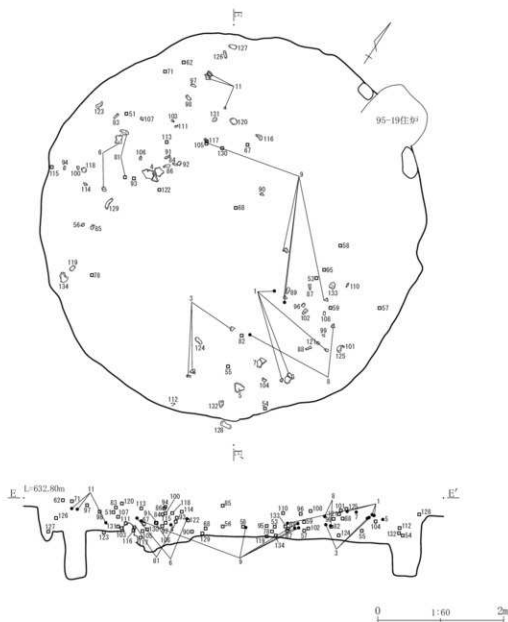
第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 少なくとも2回の建て替えが行われており、最終廃棄時の柱穴は7本（P1・3・5～9）と考えられる。やや長円形を呈し、径40～60cm、深さは70cm以上で深いものは1mを測る。建て替え前の柱穴はやはり7ないしは8本と思われ、その多くの断面上部に貼り床が看取されている。柱穴はやや内側2重に並んで検出されており、これらに伴うと思われる周溝も部分的にはあるが確認された。

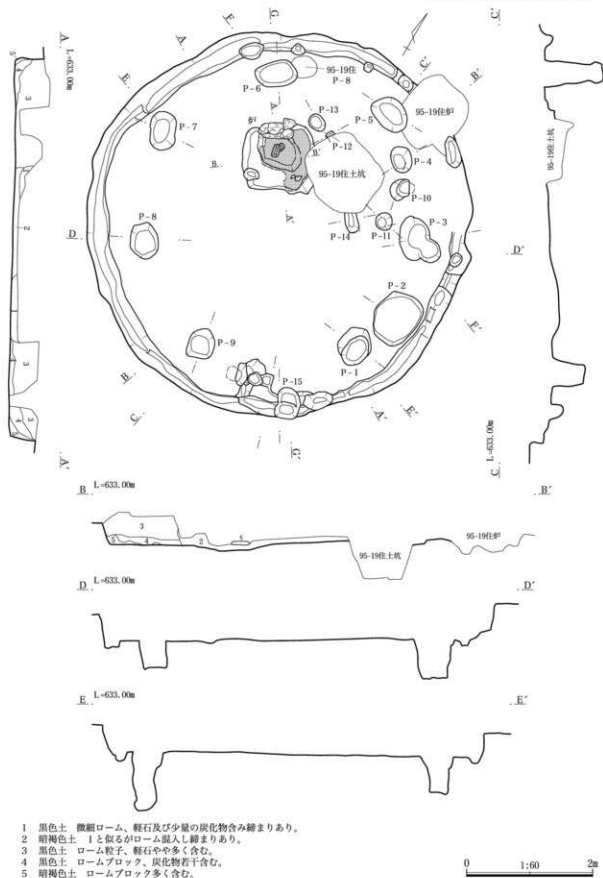
埋裏 検出されていない。

掘方 建て替え前の2号が、およびこれに伴う柱穴が検出されたほか、周溝の一部や入り口部の平行する溝やピットなどを認めた。

出土遺物 中央部分は重複住居（95-19住）が載っていたためにほとんど見られなかったが、重複の周辺部分では比較的多くの土器、石器類が出土している。土器は比較的遺存状態良好なものも見られる。



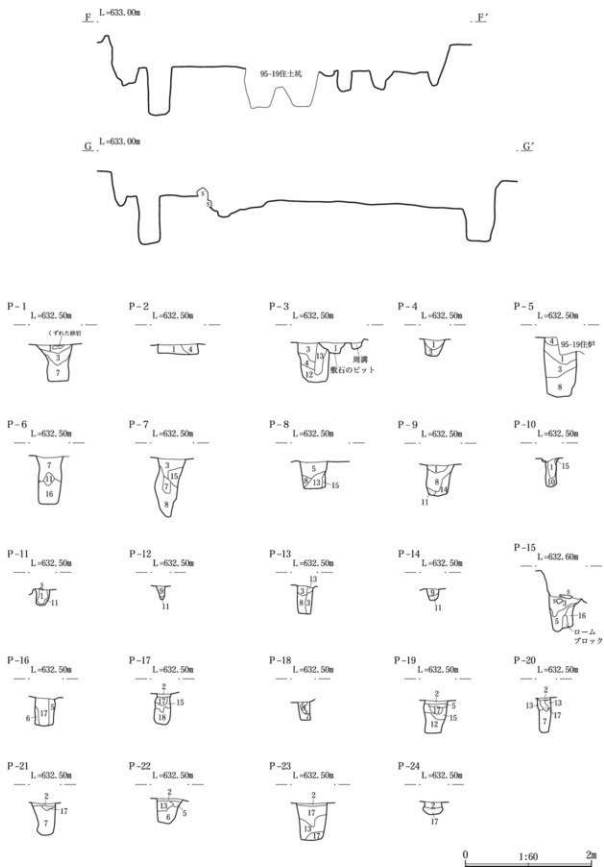
第221図 95-30号住居跡(1)



- 1 黒色土 微細ローム、軽石及び少量の炭化物含み締まりあり。
- 2 暗褐色土 1と似るがローム混入し締まりあり。
- 3 黒色土 ローム粒子、軽石や多く含む。
- 4 黒色土 ロームブロック、炭化物若干含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

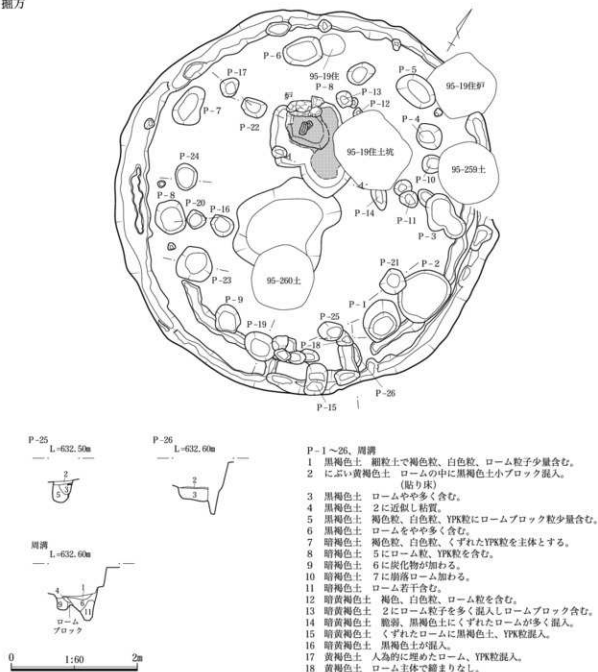
第222図 95-30号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第223図 95-30号住居跡(3)

掘方

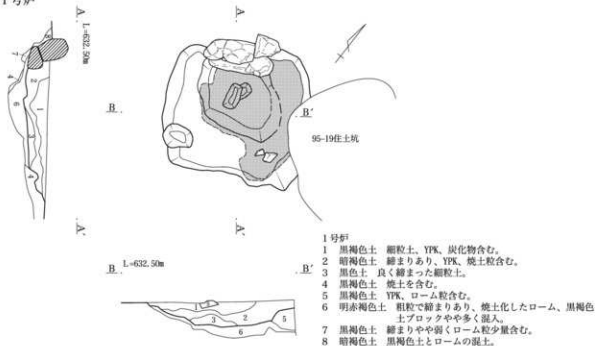


第224図 95-30号住居跡(4)

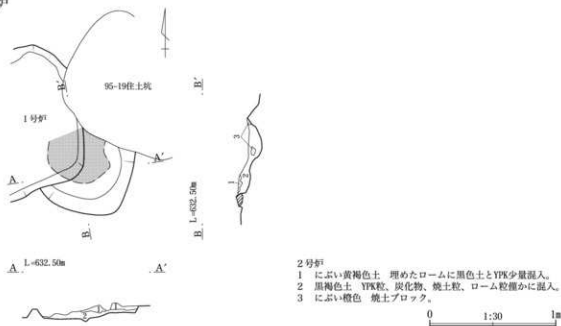
石器は石鏃、石錐、打製石斧をはじめ磨製石斧、磨石等80点以上が出土。また、小型の器状を呈す軽石製品も2点出土している。

時期・所見 後期の敷石住居が中に収まる形で大きく重複していたが、掘方が床面部分にまで達していなかったために、遺存状態はかなり良好であった。径6mを超える比較的大型の住居である。掘り込みも50cmを超えており残存状況は良好であった。重複して構築された2基の炉や2重に巡る柱穴から、建て替えが行われたことが判る。出土遺物はかなり多く、出土土器は信州系(曾利・唐草文)が主体を占めている。出土遺物から時期は中期後半である。

1号炉



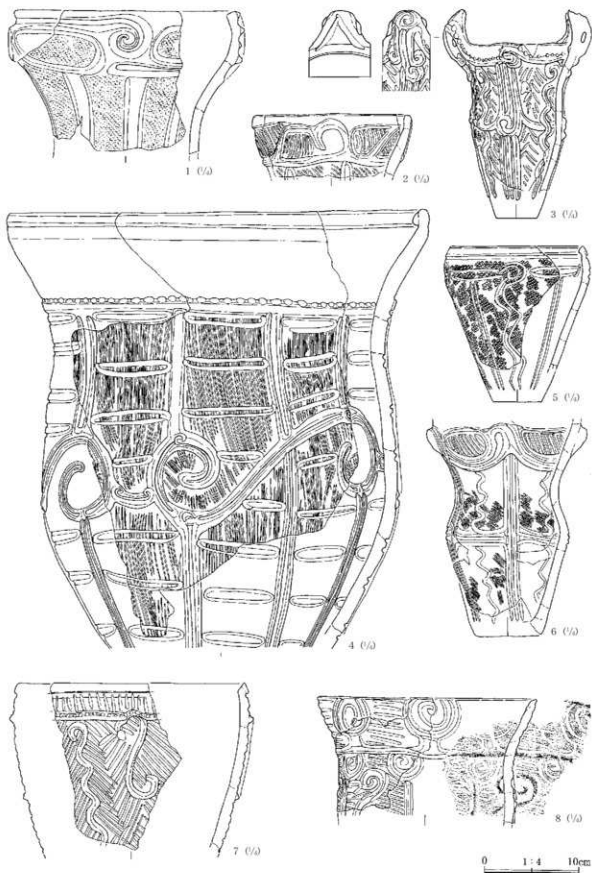
2号炉



第225図 95-30号住居跡(5)

95-31号住居跡 (第235~237図: PL.26・191)

位置 O・P-13・14グリッドに位置する。重複 南にやや張り出す尾根の端部に位置する。遺構は上部をかなり削平されており、壁の立ち上がりは確認されなかった。複数の土坑(柱穴と判断されるものもある)が重複。(95-128・129・132~135・141・143~147・149・150号土坑)、95-129・145号土坑以外は柱

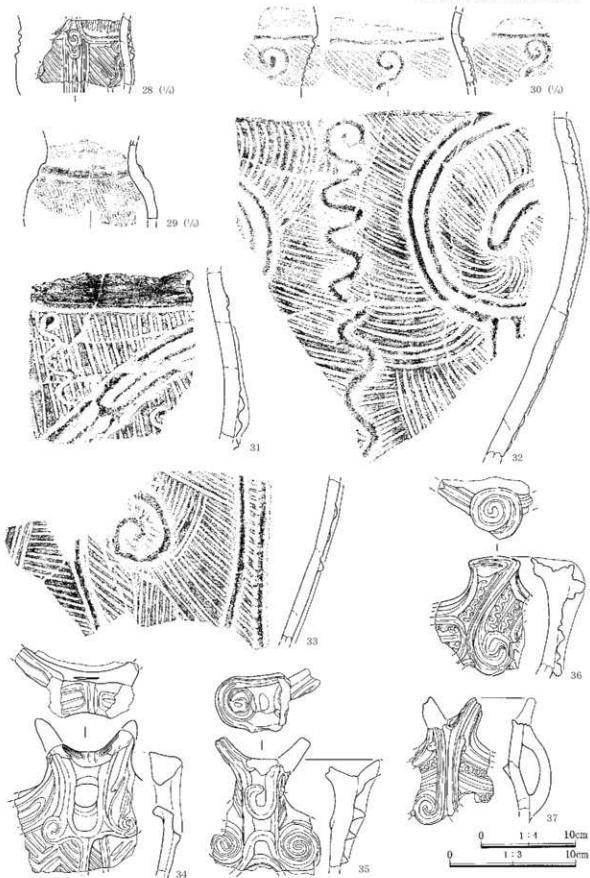


第226図 95-30号住居跡出土遺物(1)

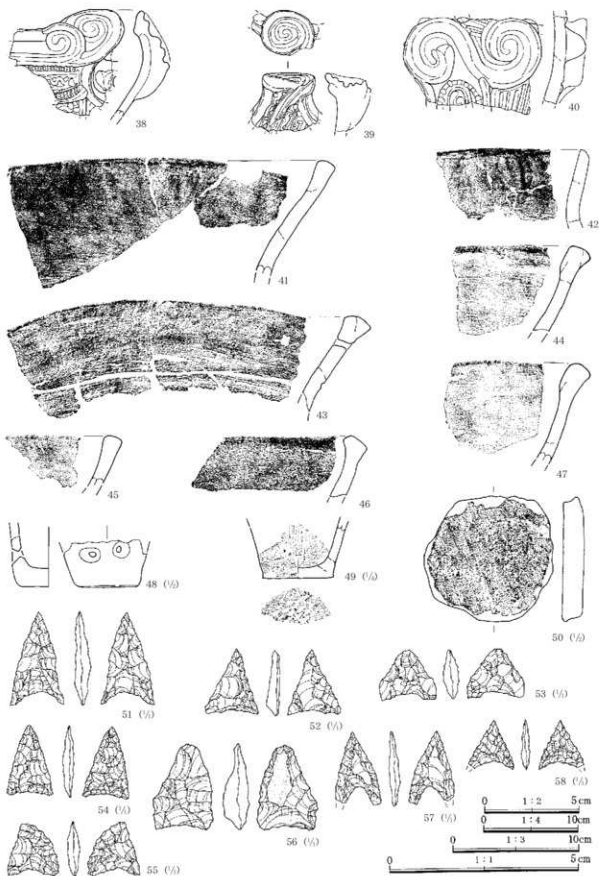
第3章 検出された遺構と遺物



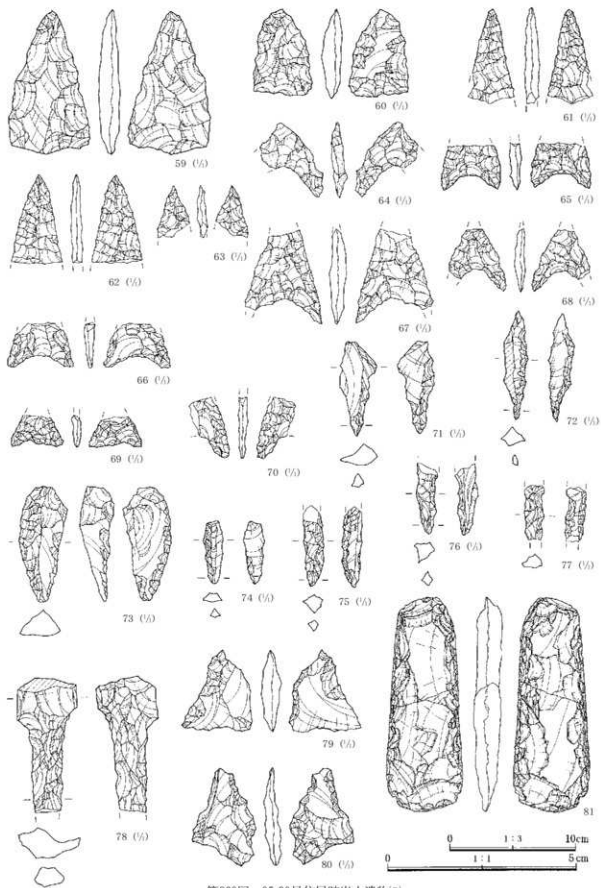
第227図 95-30号住居跡出土遺物(2)



第228図 95-30号住居跡出土遺物(3)

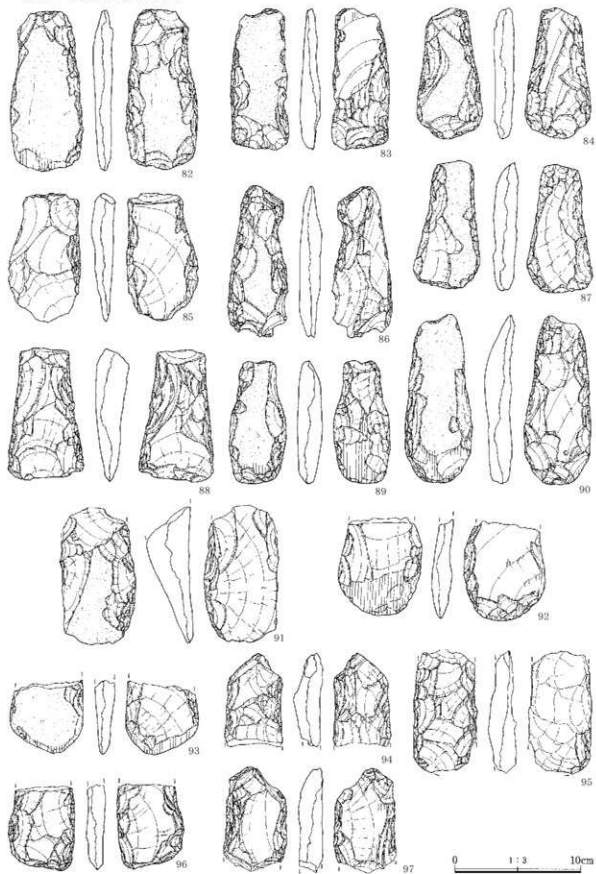


第229図 95-30号住居跡出土遺物(4)

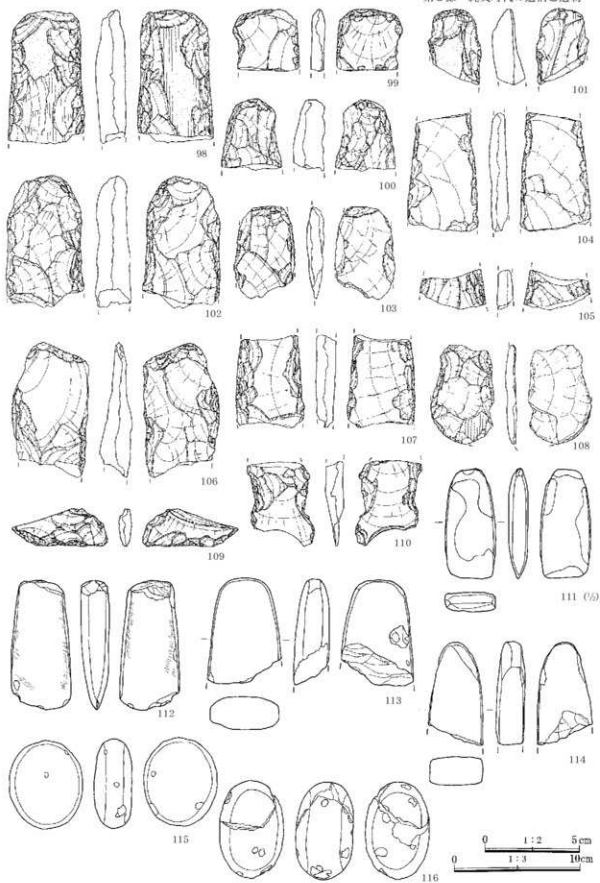


第230図 95-30号住居跡出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

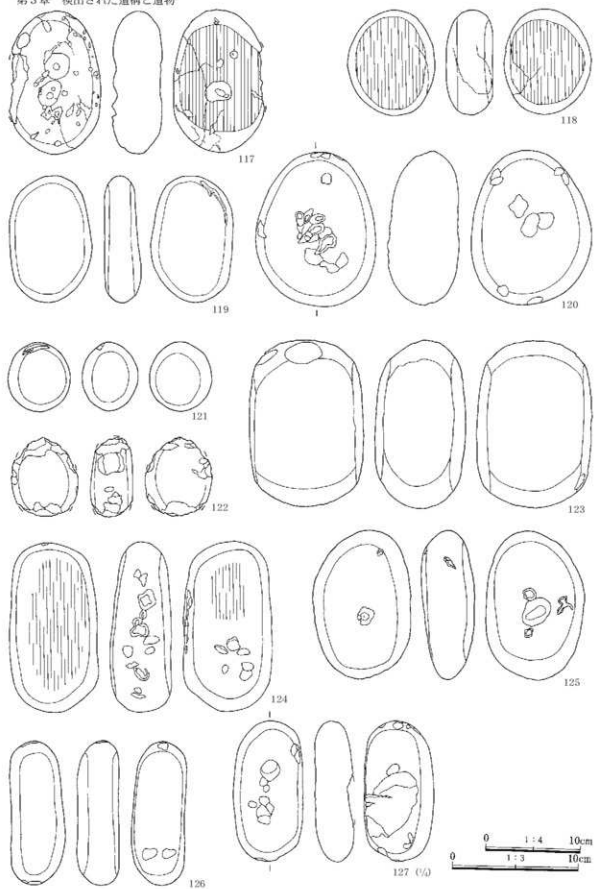


第231図 95-30号住居跡出土遺物(6)

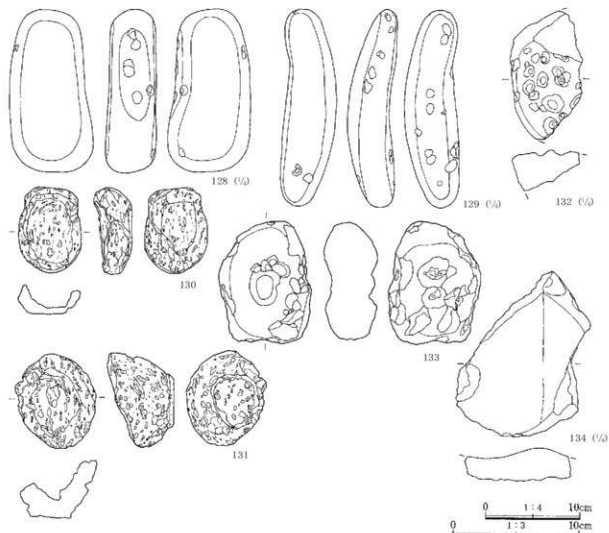


第232図 95-30号住居跡出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物



第233図 95-30号住居跡出土遺物(8)



第234図 95-30号住居跡出土遺物(9)

穴の可能性ある。形状 円形と思われる。規模 (660) × (650) × 0 cm。方位 不明。

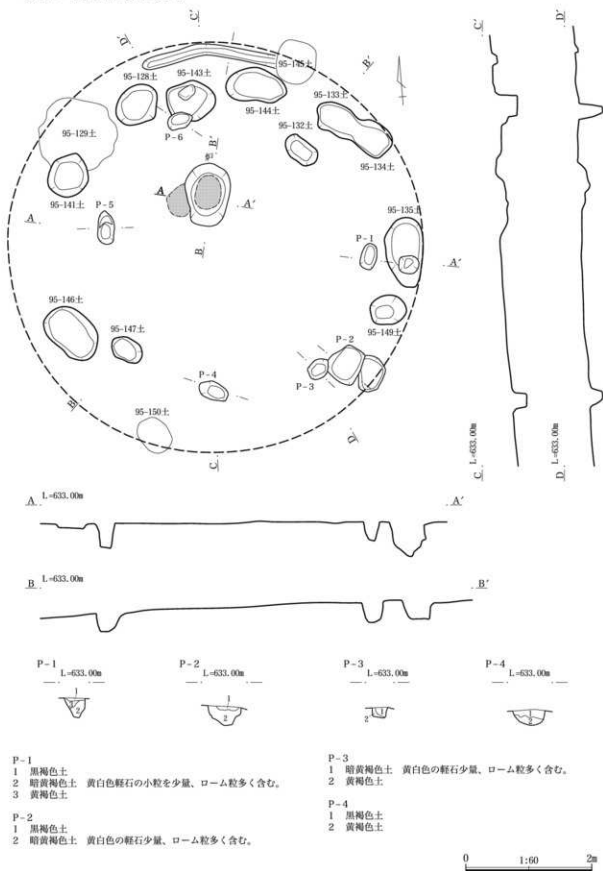
床面 南側半分以上を削平されていたが、炉の周囲にはやや締まった面が確認されている。北側に周溝が弧状に長さ2m程確認されている。

炉 ほぼ中央に位置するものと思われるが、上部は表土が浅いため削平されており、さらに近世以降と思われる新しい掘り込みにより、東側部分を壊されている。このため検出できたのは炉の掘方土坑と焼土のみであった。掘方の規模は1m×70cm程で深さは約20cmである。さらに掘方調査を行う中で、炉の西側にも焼土が検出されていることから、作り替えが行われたものと判断される。

柱穴 縁辺に沿って8～10本が廻るが、当初は土坑として調査を行った。推定範囲に沿って8本が廻り、さらに内側にもやや小振りの柱穴7本が検出されている。拡張後の柱穴と思われるものは128土(36)cm・133土(32)cm・134土(32)cm・135土(40)cm・141土(35)cm・143土(36)cm・144土(50)cm・146土(25)cm・150土(20)cm。拡張前・132土(35)cm・149土(20)cm・147土(30)cm。()内の数字は深さ。

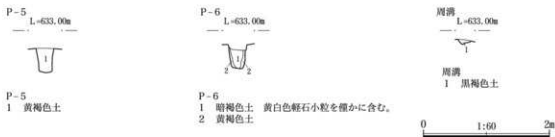
埋塞 見られない。掘方 貼り床、床下土坑等は見られず。

第3章 検出された遺構と遺物

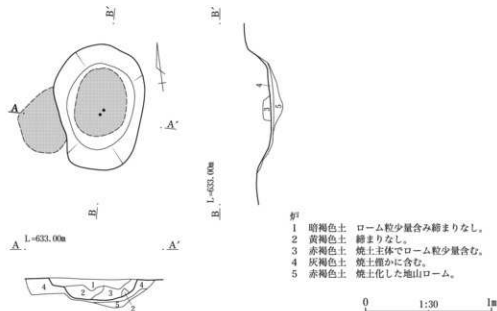


第235図 95-31号住居跡(1)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



53



第236図 95-31号住居跡(2)



第237図 95-31・33号住居跡出土遺物

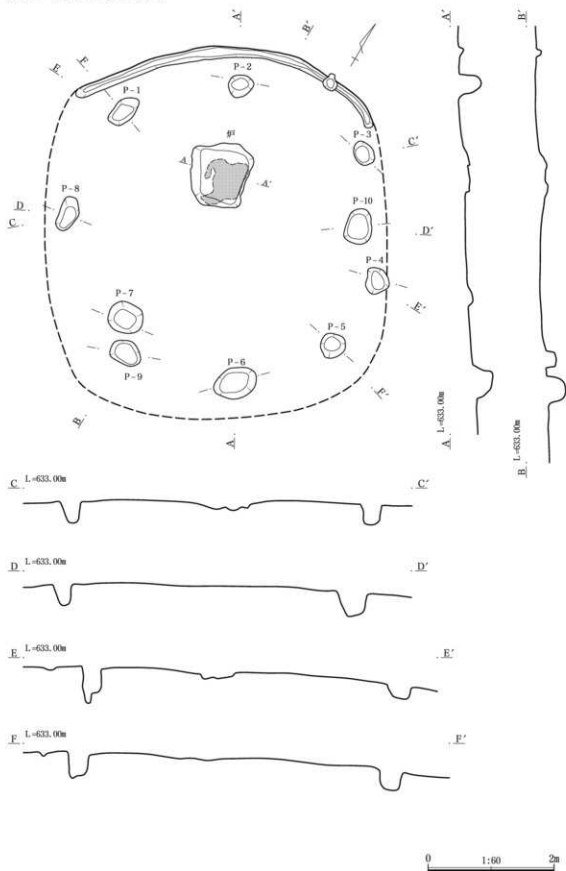
出土遺物 全体に削平を受けているために、ほとんど見られなかった、図示し得たのは1点のみである。

時期・所見 調査区内において最も南に位置する。削平が著しく壁の立ち上がりも確認できなかった。周溝、柱穴および炉の掘方などの検出であった。炉の作り替えが見られること、柱穴が2重に廻ることから2回以上の建て替え(拡張)が行われたものと判断される。時期は中期後半か。

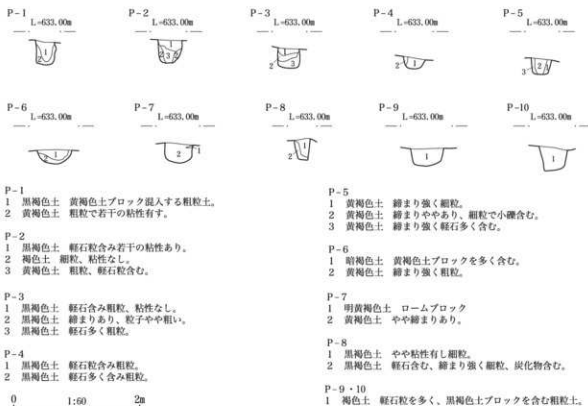
95-32号住居跡 (第238・239図: PL.26)

位置 南に張り出す尾根の突端部、M・N-13~15グリッドに位置する。 **重複** 無し。

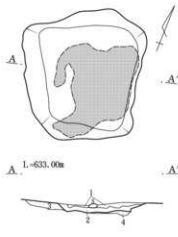
形状 周溝の形状、柱穴の配置からやや南北が長くなる隅丸長方形と思われる。上部は削平され、壁の立ち上がりは見られない。 **規模** (600) × (550) × 0 cm。 **方位** N-33°-W。



第238図 95-32号住居跡(1)



炉



炉

- 1 黒褐色土 やや粘性あり。
- 2 黒褐色土 焼土粒を多く含み赤味を帯びる。
- 3 暗黄褐色土 若干のローム粒、小ブロック含む。
- 4 黄褐色土 ローム含む。

第239図 95-32号住居跡(2)

床面 全体にかなり削平を受けていた。特に東、南側部分の削平は顕著であった。北西部辺には幅20cm、深さ10cm程の周溝の一部が弧状に検出されている。

炉 中央やや北西に寄った位置に構築されている。上部は削平されており炉石等は確認されず、掘方下部のみが残る。形状はやや不正な方形で、一辺は約1m、深さは10cm程であった。底面には凹凸が見られ若干の焼土が残る。作り替え等は確認されなかった。

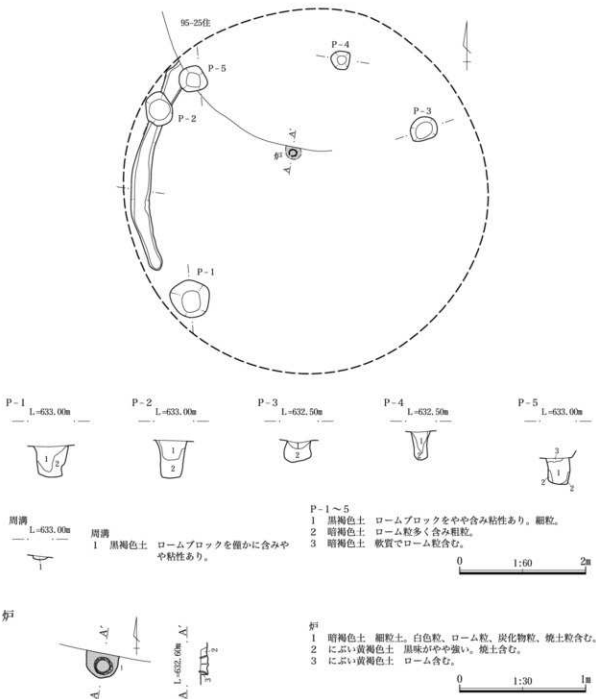
柱穴 推定される壁際に沿って8本が、いずれも円形または長円形を呈し、径30～50cm、深さ30～40cmを測

第3章 検出された遺構と遺物

る。

埋塞 検出されない。 **掘方** 貼り床、床下土坑等は見られない。 **出土遺物** 見られなかった。

時期・所見 調査区南舌状に張り出す部分の突端部に位置。削平が顕著で、北西部分に弧状の周溝、柱穴および炉が検出されたが壁の立ち上がりは確認できなかった。形状は北側に確認された壁と周溝の形状から、やや南北に長い隅丸方形と思われる。調査区内では95-31号住居と並んで最も南に位置する。時期は出土遺物が無いために確定はできないが、形状等から中期後半か。



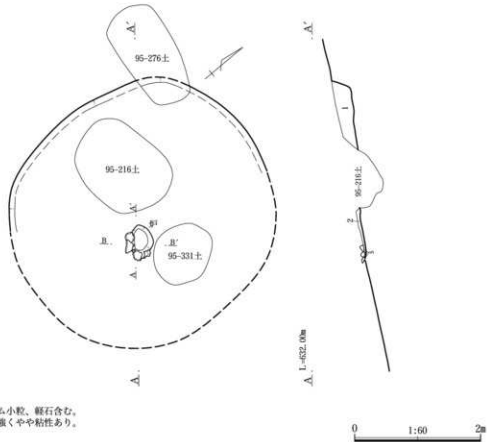
第240図 95-33号住居跡

95-33号住居跡 (第237・240図: PL.27・191)

位置 L・M-15-16グリッドに位置する。**重複** 南側に95-25号住居跡が重複、本址北側半分を切る。また東側、住居の推定範囲内に95-159号土坑が位置する。

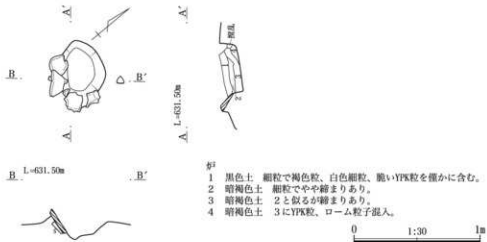
形状 円形か。**規模** (600) × (600) × 0 cm。**方位** 不明。

床面 北側は他の住居により大きく壊され、東および南側は削られているために、西側部分が僅かに残るのみである。西側に幅30cm、長さ3.5m程の弧状を呈す周溝が僅かに検出されている。



- 1 黒褐色土 ローム小粒、鮮石含む。
- 2 黒褐色土 黒味強くやや粘性あり。

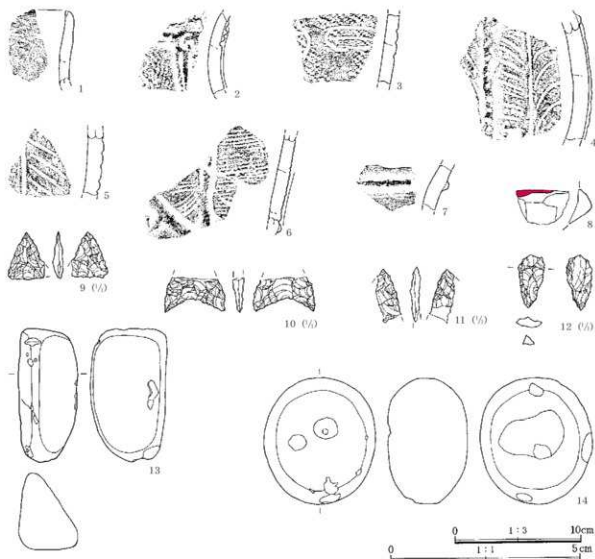
第237



- 1 黒色土 細粒で褐色粒、白色細粒、脆いYPK粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 細粒でやや粘りあり。
- 3 暗褐色土 2と似るが粘りあり。
- 4 暗褐色土 3にYPK粒、ローム粒子混入。

第241図 95-34号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第242図 95-34号住居跡出土遺物

炉 ほぼ中央に位置していたと考えられる。上部のほとんどが削られ炉石や形状等は不明である。深溝を逆位に据えた炉体土器1が焼土を伴って検出された。

柱穴 北西部の推定形内に沿って5本を検出した。径は30~40cm、深さは50~60cmである。南東部分は削られているために検出されなかった。 **埋壘** 検出されない。 **掘方** 不明。

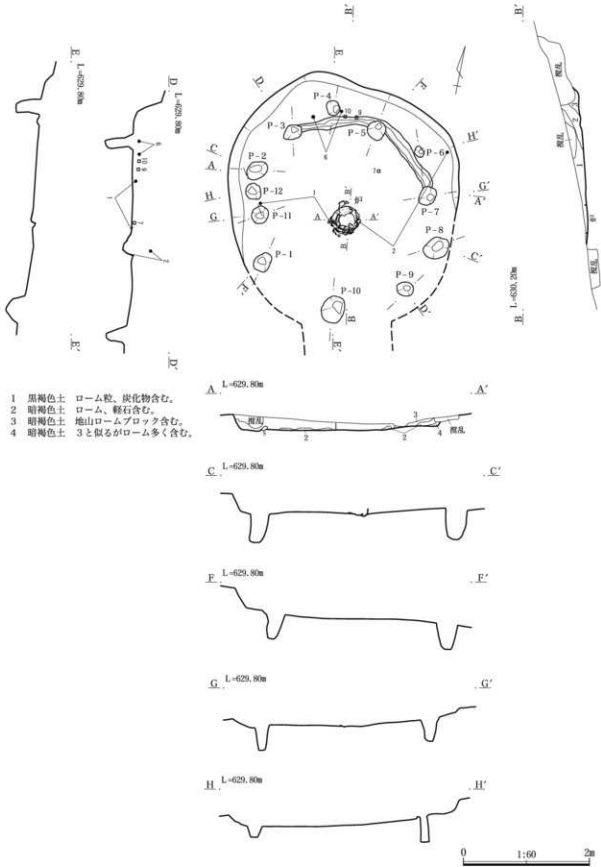
出土遺物 床面を含めほとんどが失われてたため、僅かに炉体土器1点のみである。

時期・所見 西側の周溝が弧状に残る、炉は掘方の下部と炉体土器が検出されているのみで、極めて残りの悪い住居である。時期は炉体土器より中期後半である。

95-34号住居跡 (第241・242図: PL.27・191)

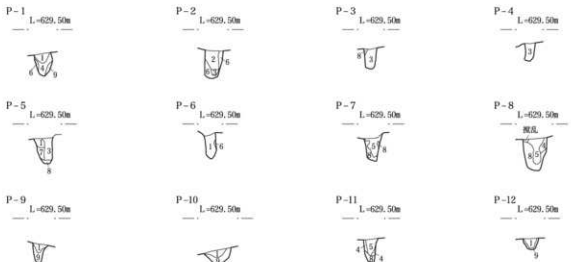
位置 南に開いた谷の落ち跡、I・J-17・18グリッドに位置する。 **重複** 北西部に95-276号土坑(陥し穴)の一部が重複、また住居内には95-216・331号土坑が重複している。

形状 ほぼ円形か。 **規模** (430) × (400) × 20cm。 **方位** N-50°-W。



第243図 95-35号住居跡(1)

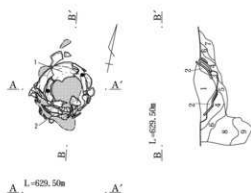
第3章 検出された遺構と遺物



P-1～12

- 1 黒褐色土 細粒土褐色粒、白色粒、くずれたYPK粒、黒色土、僅かなローム粒混入。
- 2 黒褐色土 1にローム粒、ローム小ブロック混入。
- 3 黒褐色土 ローム粒子により色がくすみ、YPK小粒、炭化物混入。
- 4 暗褐色土 黒褐色土にローム粒含む。
- 5 暗褐色土 1と似るがローム粒の混入やや多い。
- 6 にぶい黄褐色土 褐色粒、白色粒、YPK粒に多くのローム粒含む。
- 7 明黄褐色土 YPK粒層に多くのローム粒と僅かな黒色土含む。
- 8 黄褐色土 ローム多く、YPK混入。
- 9 にぶい黄褐色土 崩落ロームに黒色土僅かに混入。

炉



炉

- 1 黒褐色土 少量のロームブロック含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒、焼土ブロック含む。
- 3 黄褐色土 ローム粒、若干の焼土粒含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒黒色土ブロックの混土。
- 5 暗褐色土 若干のローム粒含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック、黒色土ブロック含む。
- 7 黒褐色土 少量のローム粒含む。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック、ローム粒含む。
- 9 暗黄褐色土 8と似るがやや粘性あり。

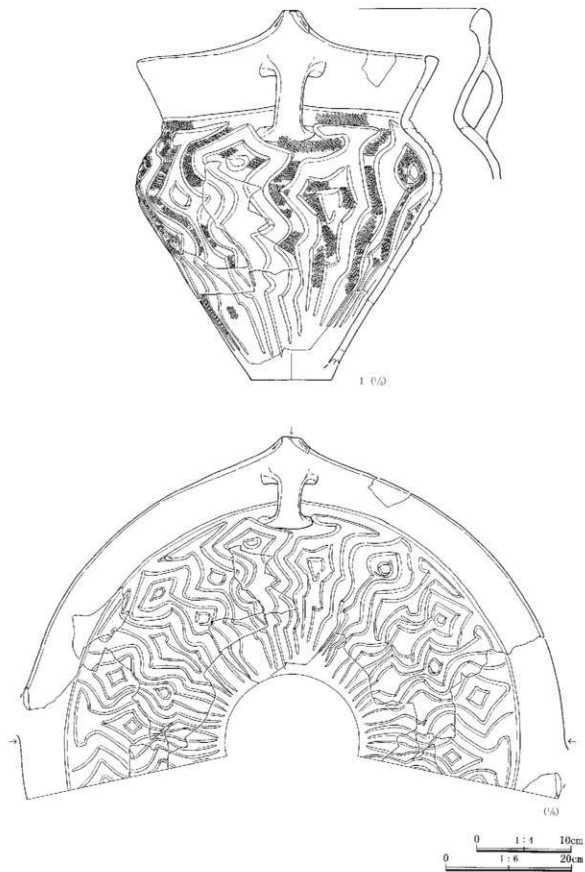
0 1:30 1m

第244図 95-35号住居跡(2)

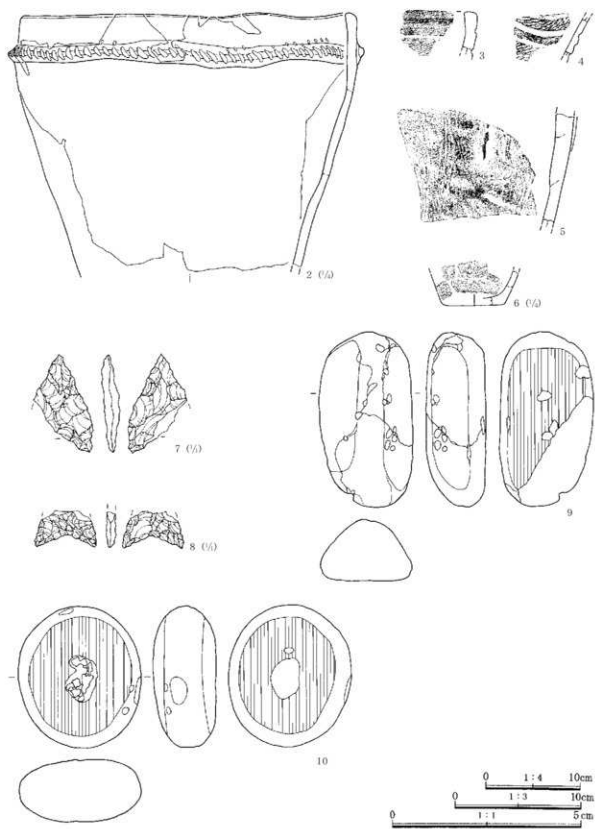
床面 斜面部に位置しており南東部分は大きく失われている。また炉の北西部も明確な面は確認されなかった。検出面はかなりの傾斜を持つ。**炉** 推定される住居の中央やや南に位置する。西および南に石が残る石囲炉である。炉内からは丸石が出土。掘えられた炉石の内側には若干の煤が見られるが、炉内部に焼土はほとんど認められなかった。**柱穴** 検出されない。**埋壘** 検出されない。

掘方 炉の東に接して95-331号土坑が検出されているが、本址よりも新しいものと考えられる。貼り床、床下土坑等は見られなかった。

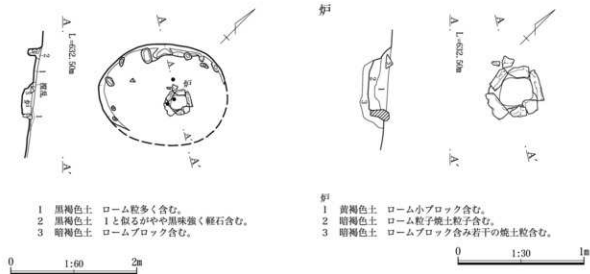
出土遺物 僅かであるが炉の周辺に見られた。10点程の土器片および石鏃、磨石である。



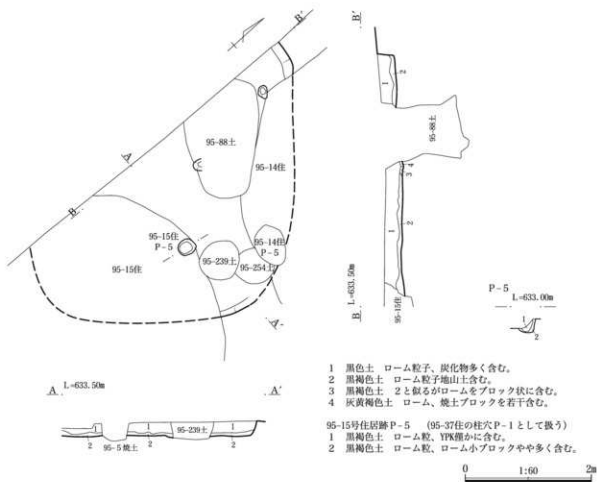
第245図 95-35号住居跡出土遺物(1)



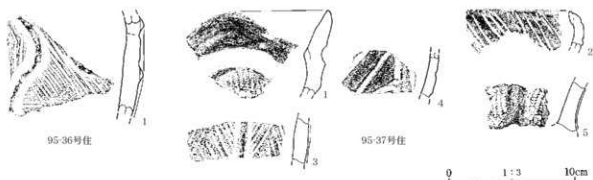
第246図 95-35号住居跡出土遺物(2)



第247図 95-36号住居跡



第248図 95-37号住居跡



第249図 95-36・37号住居跡出土遺物

時期・所見 斜面部分に構築されており、谷側半分以上は削られている。炉の北西に位置する95-216号土坑は本址よりも新しく形状も不定形であった。住居の掘り込みは黒色土中に在り、床面も明確にできなかった。炉と思われる遺構の存在から住居としたが、やや不確定な部分も見られる。時期は出土土器から中期後半と判断される。

95-35号住居跡 (第243～246図：PL.27・28・192)

位置 谷に向かう斜面部、E・F-16・17グリッドに位置する。**重複** 南側に95-240号土坑が重複。また、北壁部分、さらには炉の手前や南東に方形の近代以降と思われる掘り込みが見られる。

形状 矩形の楕円を呈しており、南に張り出しを有していた可能性が高い。**規模** (430)×380×40cm。**方位** N-31°-W。**床面** 硬く締まりほぼ平坦である。柱穴を繋ぐように直線的でややくの字状の周溝が検出されている。柱穴から壁までの外側部分はやや高まっている。

炉 ほぼ中央に位置する。4単位波状口縁深鉢の上半部を据えた土器炉である。土器は口縁部分が割れ周囲に崩れ落ちた状態で、部分的に土器片が2重に回された部分も見られた。土器はほぼ全周し、内部には焼土および炭化物が見られた。

柱穴 壁下に沿ってやや矩形に配置されている。径は30～40cm、深さは40～50cm程である。何本かには柱痕が認められた。**埋壘** 検出されなかった。

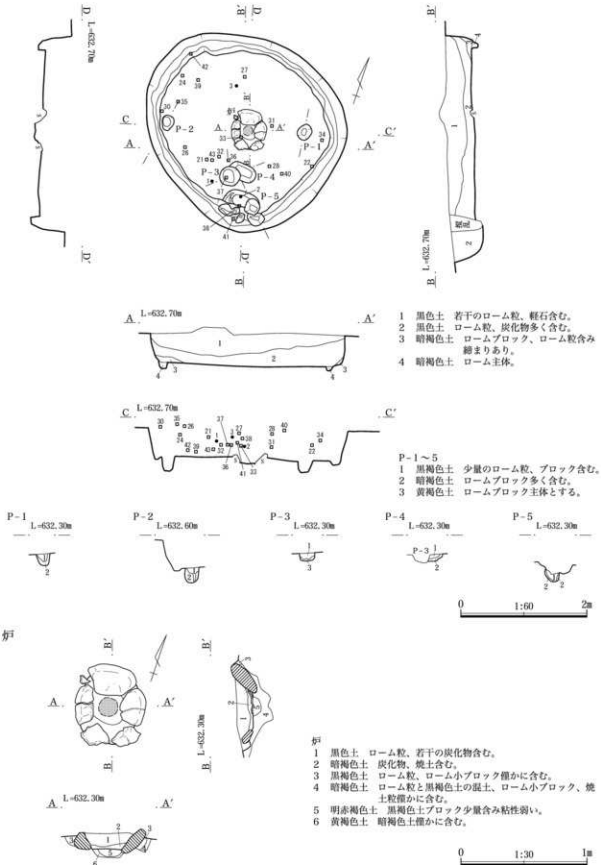
掘方 炉の脇に小ビットが検出されているが、本址との関連は不明である。貼り床や、床下土坑等は確認されなかった。**出土遺物** 炉に用いられた土器1および2の他に若干の破片類が見られたのみである。石器は石鏃、磨石がわずかに各2点の出土である。

時期・所見 南に下がる谷の斜面部中段に構築されている。今回の調査で検出した住居の中では最も標高の低い場所に作られたものである。深鉢の口縁部を据えた土器炉である。炉の脇に2、3点の平らな石が敷かれたように出土していることから、部分的な敷石がなされていたことも考えられる。

位置的に他の住居群と離れ、谷を下った位置にあり注意される遺構の在り方である、時期は出土した土器から後期前半と判断される。

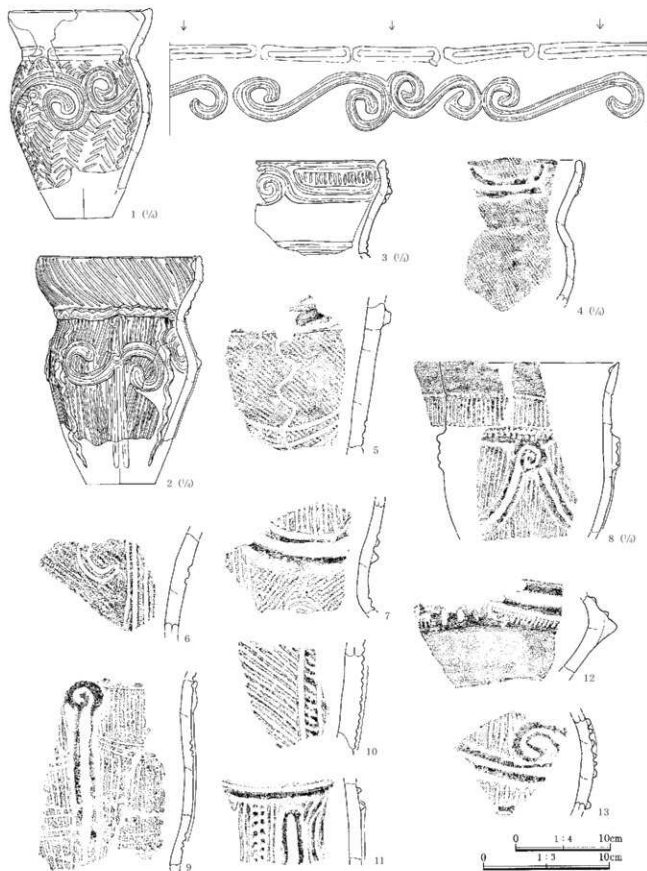
95-36号住居跡 (第247・249図：PL.28・192)

位置 調査区南東、C-20グリッドに位置する。**重複** 他の遺構との重複は見られないが、東側は削平されていた。**形状** 小楕円形を呈す。**規模** 210×(150)×10cm。

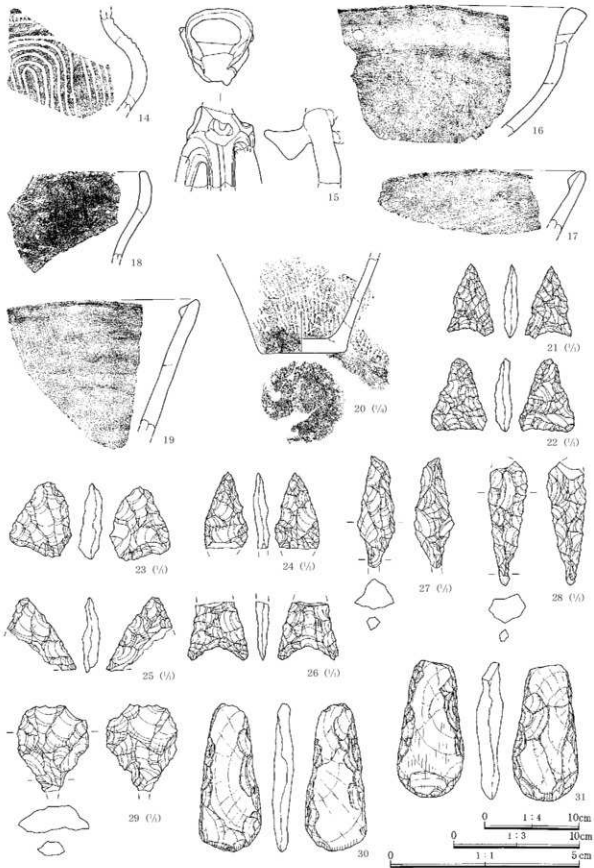


第250図 95-38号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

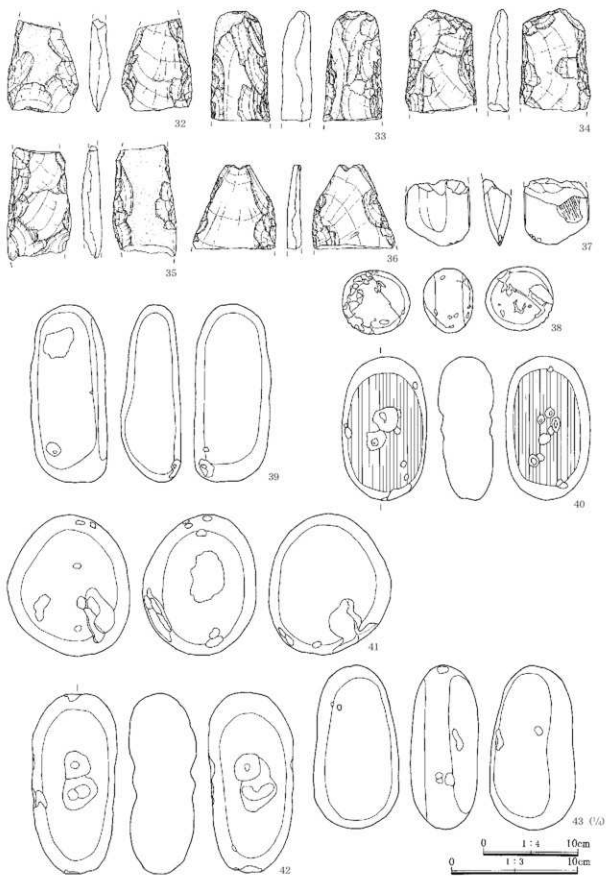


第251図 95-38号住居跡出土遺物(1)



第252図 95-38号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

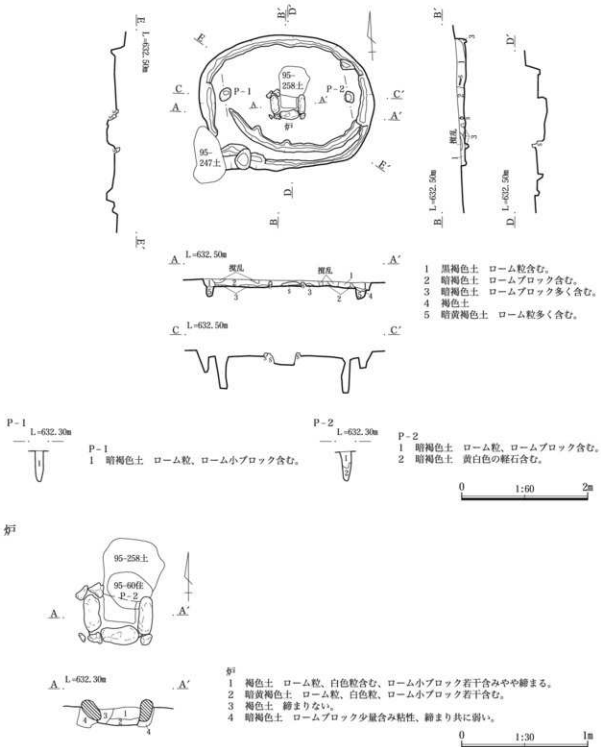


第253図 95-38号住居跡出土遺物(3)

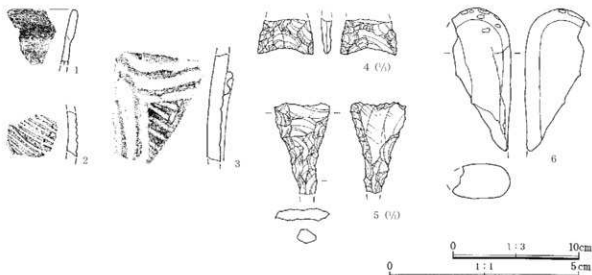
方位 N-52°-W。

床面 やや凹凸が見られるが比較的平坦で良く締まる。北西壁下には短い断続的な周溝が見られる。

炉 中央やや南東寄りに位置する。角礫数個を矩形に配す石圍い炉で、規模は50×45cm、深さは15cm程である。炉石の内側には煤が付着。炉内に焼土はほとんど見られなかった。



第254図 95-39号住居跡



第255図 95-39号住居跡出土遺物

柱穴 明確なもの確認できなかったが、壁際に径15~20cm、深さ10cm前後の小ピットが連続して見られた。**埋壘** 検出されない。**掘方** 炉の周囲に2基のピットが検出された。

出土遺物 土器片が僅かに1点出土しているのみである。石器は見られなかった。

時期・所見 調査区の南東に張り出す尾根の先端部に位置する。東に傾斜する場所に作られているため住居東側は削平されている。楕円形を呈す極めて小型の住居であり、今回の調査で検出された中でも最小である。本址の周囲には、ほぼ同規模、同形の小型の住居(95-39・45・55住)が検出されている。調査区の南東にやや張り出した場所に、ほぼ等間隔に配されていることから同時期の存在が考えられ、集落内における特異な在り方として注目される。時期は中期後半か。

95-37号住居跡(第248・249図:PL.28・192)

位置 調査区西端、L・M-23・24グリッドに位置する。**重複** 95-14・15号住居跡が北側および南側に重複、さらに西側半分は調査区外になる。また、住居内に95-88号土坑(陥穴)とその南にも、95-5・6号焼土(平安以降)が重複している。さらに、南東には95-239・254号土坑が重複しており、重複が著しい。**形状** 北および東にコーナー部分の壁が一部残っており、その形状から、やや隅丸方形を呈す形状と見られるが、詳細は不明である。

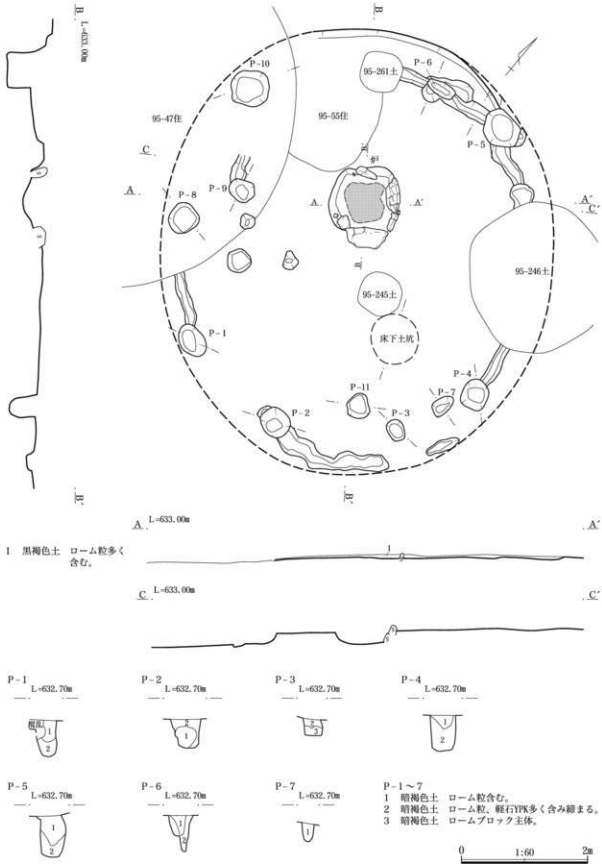
規模 大きさは不明であるが部分的に残る壁から想定して5.5m程か。一部残る壁の高さは約20cmである。

方位 不明。**床面** 一部重複を免れた中央部分については比較的平坦であるが、硬化面はほとんど見られない。**炉** 検出されなかった、西側の調査区外に在るものと考えられる。

柱穴 3本の小ピットが検出されているが明確には確定し得なかった。なお重複する95-15号住居のP-5としたものは本址の柱穴である可能性が高い、深さは約25cmである。**埋壘** 検出されない。

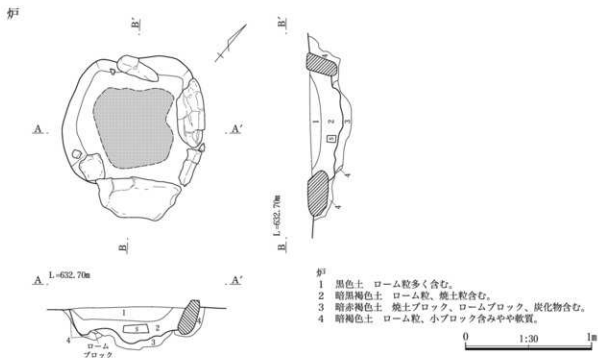
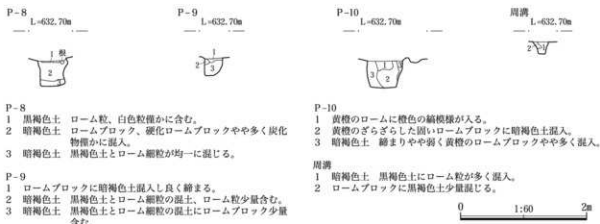
掘方 特に貼り床や掘り込みは認められない。**出土遺物** 僅かに土器、石片が出土しているのみである。

時期・所見 重複や未調査部分が多く、遺存状態は極めて悪い。炉も西側の調査区外に在ると推定される。住居のほぼ中央に95-5号焼土が位置しているが、時間的には新しく平安時代以降の所産と考えられる。住居の時期は中期後半か。



第256図 95-40号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第257図 95-40号住居跡(2)

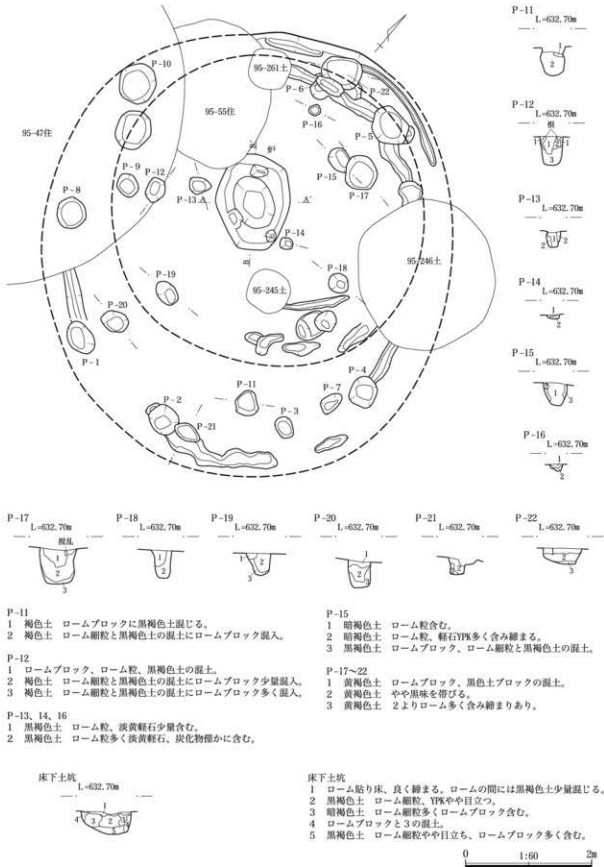
95-38号住居跡 (第250～253図：PL.28・29・192～194)

位置 J・K-19・20グリッドに位置する。 **重複** 覆土の最上部に95-3号焼土(平安以降)が重複する。 **形状** ほぼ円形であるが、入り口部がやや突出した形状を呈す。

規模 315×320×50cm。 **方位** N-15°-W。

床面 ほぼ平らで地山ローム面を硬く踏み固めている。幅約20cm、深さ10～20cmの周溝がほぼ全周するが、入り口部分は途切れている。南壁際の床面はやや落ち込み、入り口の施設に関係するものと思われる小ピットが検出されている。

炉 住居ほぼ中央に作られている。5個の川原石をほぼ方形に配した石組み炉である。北奥の石がやや大きく高く据えられている。炉石は上に向かって開く花びらのように斜めに据えられている。炉の規模は60cm×

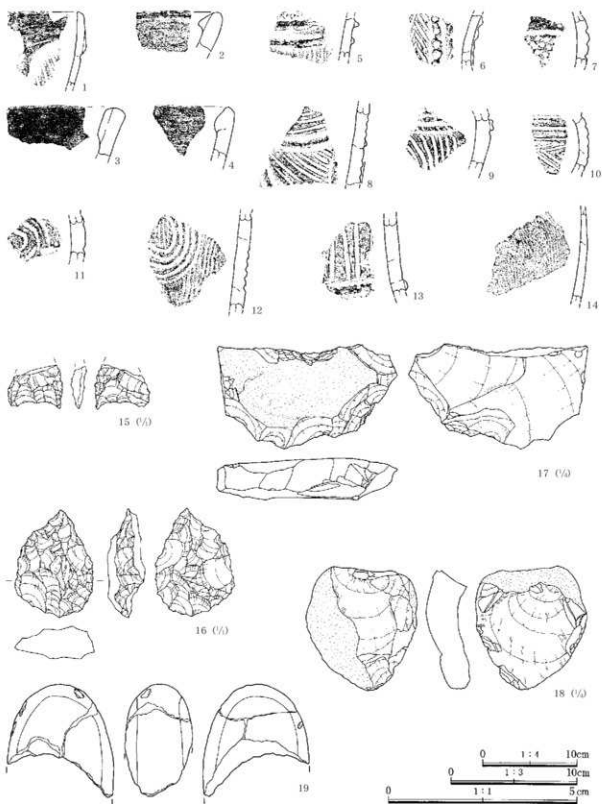


- P-11**
 1 褐色土 ロームブロックに黒褐色土混じる。
 2 褐色土 ローム細粒と黒褐色土の混土にロームブロック混入。
- P-12**
 1 ロームブロック、ローム粒、黒褐色土の混土。
 2 褐色土 ローム細粒と黒褐色土の混土にロームブロック少量混入。
 3 褐色土 ローム細粒と黒褐色土の混土にロームブロック多く混入。
- P-13, 14, 16**
 1 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石少量含む。
 2 黒褐色土 ローム粒多く淡黄軽石、炭灰物雜かに含む。

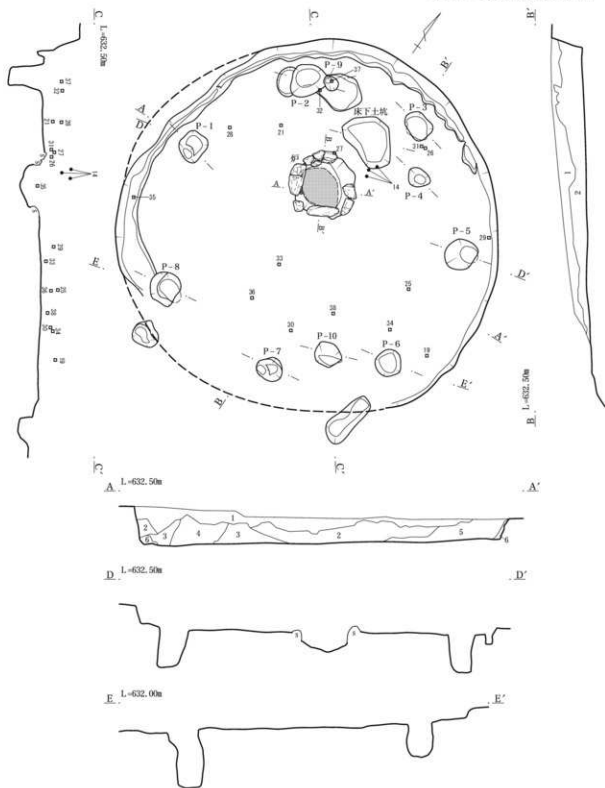
- P-15**
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、軽石YPK多く含む跡跡。
 3 黒褐色土 ロームブロック、ローム細粒と黒褐色土の混土。
- P-17-22**
 1 黄褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックの混土。
 2 黄褐色土 やや黒味を帯びる。
 3 黄褐色土 2よりローム多く含む跡跡あり。

- 床下土坑**
 1 ローム貼り床、良く跡跡る。ロームの間には黒褐色土少量混じる。
 2 黒褐色土 ローム細粒、YPKや目立つ。
 3 暗褐色土 ローム細粒多くロームブロック含む。
 4 ロームブロックと3の混土。
 5 黒褐色土 ローム細粒やや目立ち、ロームブロック多く含む。

第258図 95-40号住居跡(3)



第259図 95-40号住居跡出土遺物



- 1 暗褐色土 褐色粒、白色細粒、くずれたYPK含む細粒土。
- 2 暗褐色土 褐色粒、白色細粒、YPK小粒を含む。
- 3 暗褐色土 2より褐色粒が多く締まりあり。
- 4 暗褐色土 2と同じだが締まりに欠ける。
- 5 褐色土 2にローム粒多く混入。
- 6 黄褐色土 ローム主体土。

第260図 95-41号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



- P-1
- 1 暗褐色土 白色粒、ローム粒、淡白黄軽石少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒、小粒硬化ローム粒、淡白黄軽石少量含む。
 - 3 暗褐色土 中粒硬化ローム、淡白黄軽石や多く含む。
 - 4 暗褐色土 中粒硬化ローム、淡白黄軽石層かを含む。
 - 5 暗褐色土 淡白黄軽石(中、大粒)に暗褐色土混じる。



- P-2
- 1 暗褐色土 白粒、焼土粒、炭化物、小粒淡白黄軽石少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒、淡白黄軽石や多く含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒や多くローム小粒、淡白黄軽石少量含む。



- P-3
- 1 暗褐色土 ローム粒、硬化ローム粒、淡白黄軽石や多く含む。
 - 2 暗褐色土 1にロームブロックが混じる。
 - 3 暗褐色土 ローム粒、硬化ローム土、淡白黄軽石多く含む。



- P-4
- 1 黒褐色土 ローム粒、白粒、糖硬化ローム小粒少量含む。
 - 2 黒褐色土 淡白黄軽石や多く炭化物層かを含む。



- P-7
- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物層かを含む。
 - 2 暗褐色土 淡白黄軽石粒や多くローム粒少量含む。



- P-8
- 1 暗褐色土 ローム粒少量、硬化ローム粒や多い。
 - 2 暗褐色土に黒褐色土(根などの覆土)の混土。
 - 3 ロームブロックと暗褐色土の混土。
 - 4 淡白黄軽石(中、大粒)に暗褐色土混じる。



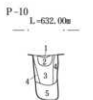
- P-5
- 1 暗褐色土 ローム粒、淡白黄軽石、炭化物層かを含む。
 - 2 暗褐色土 淡白黄軽石粒多く、硬化ロームや多い。



- P-6
- 1 暗褐色土 硬化ローム小粒、淡白黄軽石、ローム粒少量含む。
 - 2 暗褐色土 淡白黄軽石や多くローム粒、硬化ローム小粒少量含む。



- P-9
- 1 黒褐色土 小粒硬化ローム粒、淡白黄軽石小粒層かを含む。
 - 2 黒褐色土 ローム小ブロック、淡白黄軽石層かを含む。

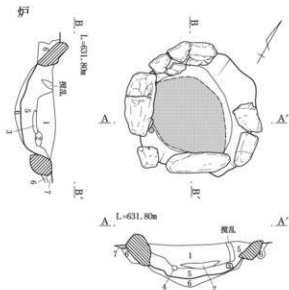


- P-10
- 1 暗褐色土 白粒、ローム粒、淡白黄軽石少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒、小粒硬化ローム粒、淡白黄軽石少量含む。
 - 3 暗褐色土 中粒硬化ローム、淡白黄軽石や多く含む。
 - 4 暗褐色土 中粒ローム粒、淡白黄軽石層かを含む。
 - 5 淡白黄軽石(中、大粒)に暗褐色土混じる。



- 床下土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム小ブロック多く含む。

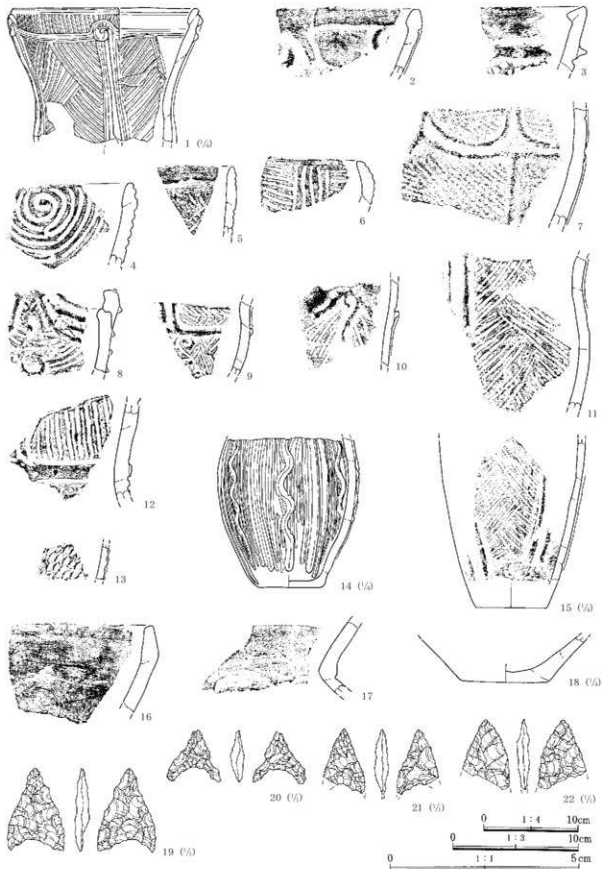
0 1:60 2m



- 炉
- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化物、淡白黄軽石、白色粒層かを含む。
 - 2 黒褐色土 焼土粒や多く炭化物少量含む。
 - 3 赤褐色土 焼土塊、淡白黄軽石層かを含む。
 - 4 赤褐色土 焼土塊、固くざらついた感焼。
 - 5 黒褐色土 焼土粒1よりも少なく炭化物層かを含む。白黄軽石目立つ。
 - 6 暗褐色土 ローム、黒色土の混土。
 - 7 黄褐色土 ロームブロック多く、締まりあり。

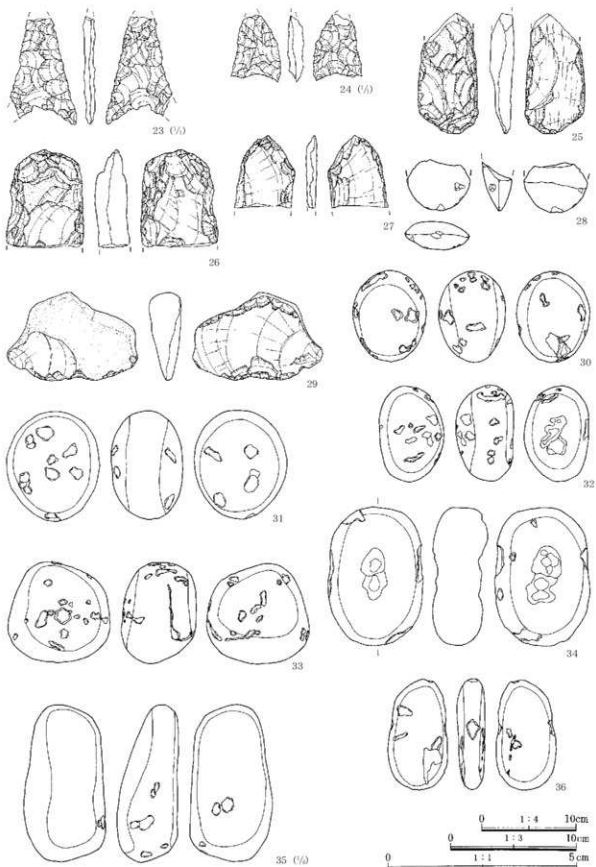
0 1:30 1m

第261図 95-41号住居跡(2)

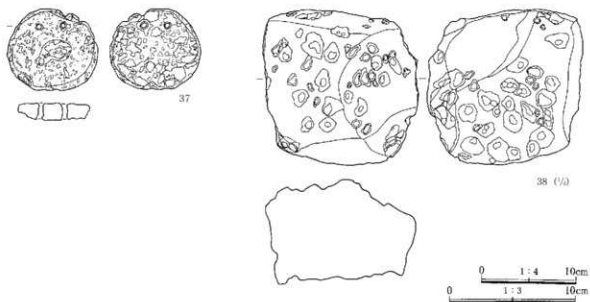


第262図 95-41号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第263図 95-41号住居跡出土遺物(2)



第264図 95-41号住居跡出土遺物(3)

55cm程で深さは約20cmである。底部には焼土が見られる。

柱穴 主柱穴は炉の左右壁際に掘りこまれた2本と思われる。径約20cmで深さも20cm程である。また、炉の左手前側に径30cm、深さ10cm程のピットが検出されているが、柱穴とは判断できなかった。

埋裏 検出されない。 **掘方** 床下土坑等は見られない。P-3に切られたピットが検出されているが性格は不明である。

出土遺物 覆土上層から比較的多くの礫や土器片、石器等が出土しているが、下層および床面での出土は少ない。土器は器形復元できるものも見られる。石器はかなりの点数が出土している。やはり覆土上面から中位にかけて分布傾向が見られる。石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石等が出土している。

時期・所見 平坦部から谷に向かう地形の変換部に位置している。やや小型で2本柱穴と考えられる。出土土器は曾利系土器が主体。時期は中期後半である。

95-39号住居跡 (第254・255図：PL.29・194)

位置 D・E-20グリッドに位置する。 **重複** 95-60号住居跡の南東部に重複、本址が古い。

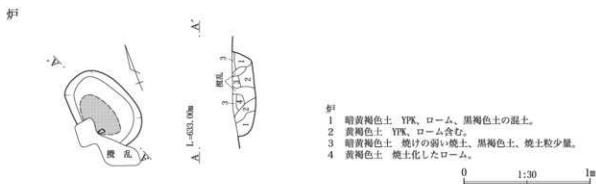
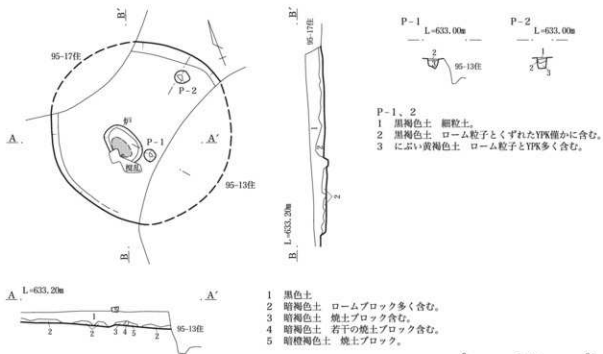
形状 小型楕円形を呈す。 **規模** 280×210×15cm。 **方位** N-2°-E。

床面 細かな凹凸が目立つが全体に良く締まっている。周溝がほぼ全周するが、南側部分は壁に沿ったものとやや内側に掘られたものが2重になっている。

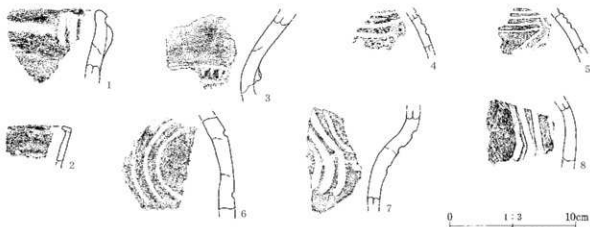
炉 方形の石組み炉であるが、規模は1辺約60cmで、深さ約15cmある。炉石の内側には煤が付着している。北側炉石の一部は上に載る95-60号住居跡の柱穴と思われる掘り込みに取り除かれたものと考えられる。炉の四隅には拳大の礫が据えられている。底面には焼土が見られる。

柱穴 炉の左右長軸上に2本が検出されている。径20cm程の長円形で深さは50cmと住居の規模に比して深く掘り込まれている。 **埋裏** 検出されない。

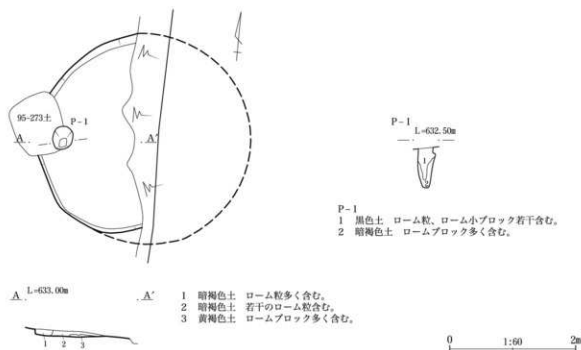
第3章 検出された遺構と遺物



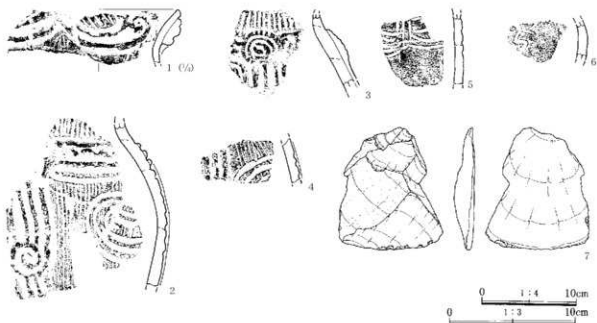
第265図 95-42号住居跡



第266図 95-42号住居跡出土遺物



第267図 95-43号住居跡



第268図 95-43号住居跡出土遺物

掘方 南側周溝の内側に平行して周溝が検出されたことから、南側への拡張も考えられる。炉の掘方時に検出された95-258号土坑は古い炉の掘方の可能性がある。

出土遺物 少ない。 **時期・所見** 95-60号住居跡に上部を削平されている。極めて小型の住居であり、東西に長い楕円形を呈す。床面は平坦で良く締まる。炉はほぼ中央に構築された方形の石組炉である。建て替え（拡張）が行われたものと見られる。時期は中期後半。

95-40号住居跡 (第256～259図・PL.29・30・194)

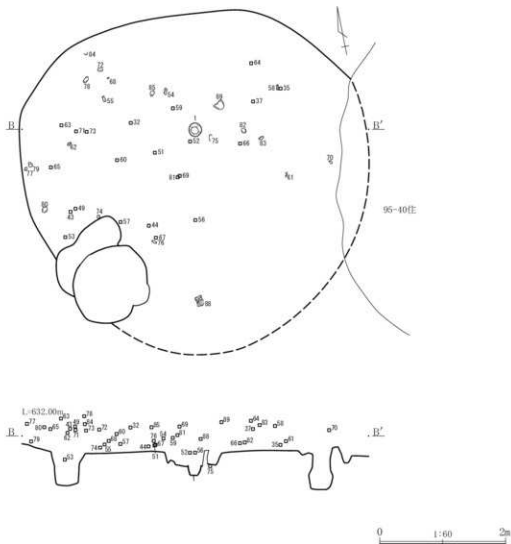
位置 D・E-21・22グリッドに位置する。**重複** 西側部分に95-47・55号住居跡が重複。95-55号住居は本址を切る。さらに、95-246号土坑が東側に、ほぼ中央に95-245号土坑が重複する。全体に上部の削平を受けている。**形状** ほぼ楕円形を呈すと思われる、南西入り口部がわずかに張り出す形状。

規模 710×(600)×15cm。**方位** N-37°-W。

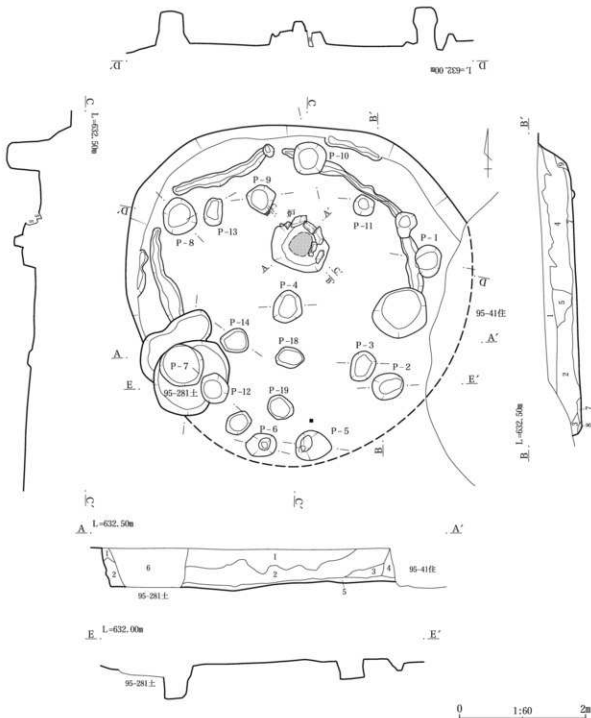
床面 やや凹凸が見られるが、比較的平坦で締まりは良い。特に炉の周囲は硬質である。壁下には上幅20～30cm、深さ5cm程の周溝が一部途切れるものの、ほぼ全周している。なお、内側には一回り小さく部分的ながら、円形に廻る周溝が検出されている。

炉 中央やや奥に作られる。方形に石を組んだ石組み炉で、大きさは150×110cmである。南西の炉石は抜かれ、北西の炉石は約半分が残っていた。残った石はいずれもかなり大きく、長さ70～85cmを測り被熱によるひび割れが顕著であった。また、手前側の炉石は平置きされた状態で、表面に作業台として使用した痕跡が窺えた。炉の内部底面は良く焼けている。

柱穴 周溝に重なって9本が検出されている。(P-1～5、P-8・10および95-261号土坑) それぞれの



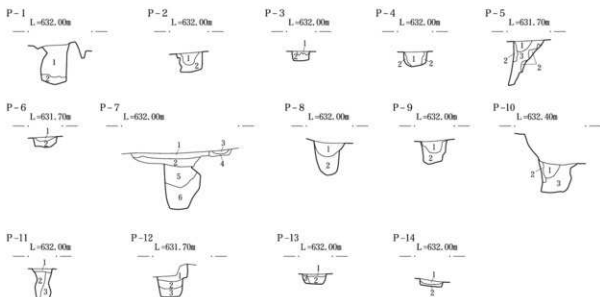
第269図 95-44号住居跡(1)



- 1 暗黒褐色土 小角礫、褐色粒、淡黄軽石層かを含む。
- 2 黒褐色土 綿まり弱く褐色粒、淡黄軽石、炭化物層かを含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒少々、淡黄軽石、ローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 白色粒少量、褐色粒やや多く炭化物層かを含む。
- 5 暗褐色土 白色粒、淡黄軽石少量、褐色粒やや多くローム細粒混入。
- 6 黒褐色土 褐色粒、淡黄軽石層かを含む。
- 7 黒褐色土 淡黄軽石、ローム粒、ロームブロック層かを含む。
- 8 黒褐色土 7と似るがやや明るい色調。
- 9 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石層かを含む。

第270図 95-44号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



- P-1
 1 黒褐色土 大小のロームブロック含む。
 2 黒褐色土 粗粒で締まりやや弱い、ローム粒やや多く含む。

- P-2~4
 1 黒褐色土 ローム粒、褐色粒、炭化物層かに含む。
 2 暗褐色土 硬化ローム粒、褐色粒、炭化物層かに含む。

- P-5
 1 黒褐色土 ローム粒、YPK、白色粒僅かに含む。
 2 黒褐色土とローム粒、ロームブロックの混土。
 3 暗褐色土 黒褐色土とローム粗粒との混土。

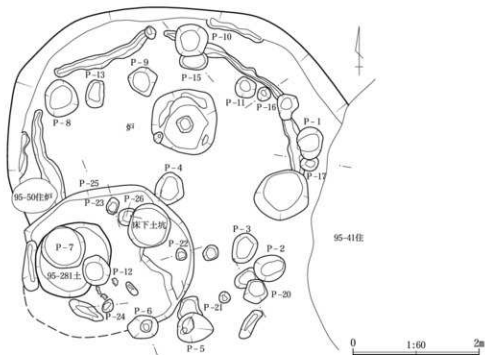
- P-6
 1 黒褐色土 ローム粒、褐色粒少量、炭化物層かに含む。
 2 暗褐色土 ロームブロックやや多く、炭化物層かに含む。

- P-7
 1 暗黄褐色土 ローム主体で締まりあり。
 2 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。
 3 黄褐色土 ロームブロック主体。
 4 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 5 黒褐色土 ローム粒やや多くロームブロック、YPK少量含む。
 6 黒褐色土 ローム粒、YPK共に僅かに含む。

- P-8、9
 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、炭化物層かに含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多くYPK少量。

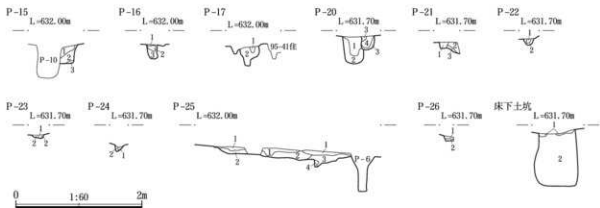
- P-10~14
 1 黒褐色土 やや締まり、ローム粒、褐色粒少量含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック多い。
 3 暗褐色土 ロームブロック多くローム粒少量含む。

掘方



第271図 95-44号住居跡(3)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



- P-15
1 にぶい黄褐色土 人為的に埋めたローム。
2 暗褐色土 ロームブロックを主体とし黒色土層かを含む。
3 にぶい黄褐色土 崩落ローム。
- P-16
1 黒褐色土 黒色土に少量のローム粒含む。
2 暗褐色土 黒色土、くずれたYPK、ローム粒を含む。
3 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とし黒色土層かを含む。
- P-17
1 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とし黒色土層かを含む。
2 黒褐色土 黒色土にローム粒含む。
- P-20
1 暗褐色土 ローム粒と黒褐色土の混土。
2 暗褐色土 硬化ロームブロックや多く含む。
3 暗褐色土 ロームブロックや多く含む。
4 暗褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。

- P-21
1 暗褐色土 淡いロームブロック、YPK層かを含む。
2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック層かを含む。
3 暗褐色土 ロームブロックに黒褐色土が層かに混入。

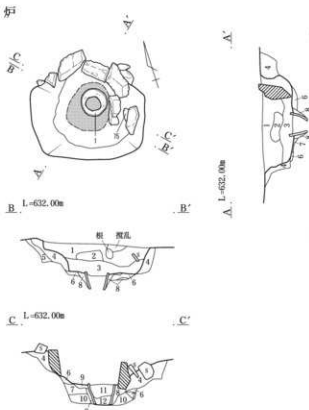
- P-22
1 暗褐色土 締まり弱くローム粒少量含む。
2 暗褐色土 締まり弱くロームブロック少量含む。

- P-23, 24
1 黒褐色土 締まり弱くローム粒層かを含む。
2 黒褐色土 締まり弱くローム粒、ロームブロック少量。

- P-25
1 黄褐色土 ロームブロックによる貼り床、上面硬く締まる。
2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒や多く含む。
4 暗褐色土 ロームブロックより多く含む。

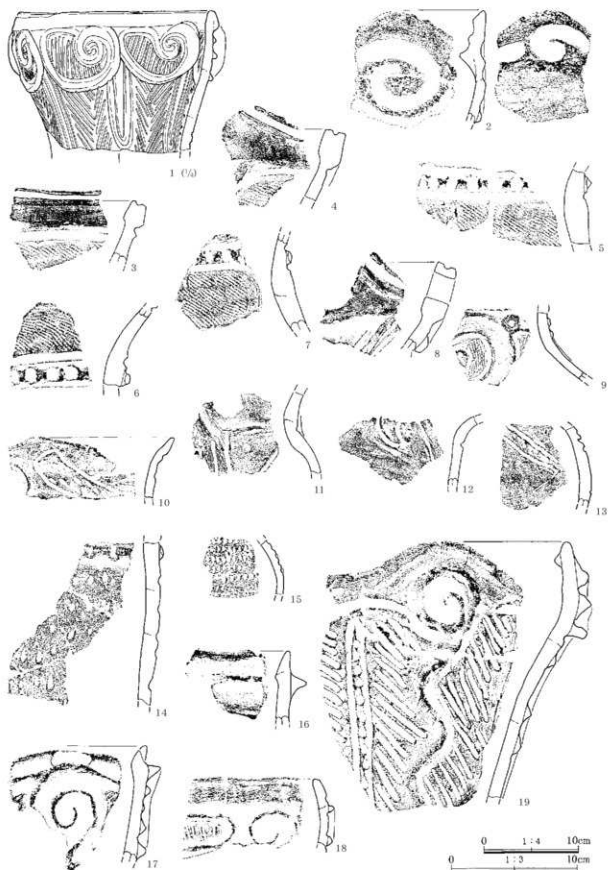
- P-26
1 黒褐色土 ローム粒層かを含む。
2 黒褐色土 ロームブロックや多く含む。

- 床下土坑
1 にぶい黄褐色土 ロームに黒色土の混土。(貼り床)
2 黒色土 ローム粒子、褐色粒、YPKを層かに含む。

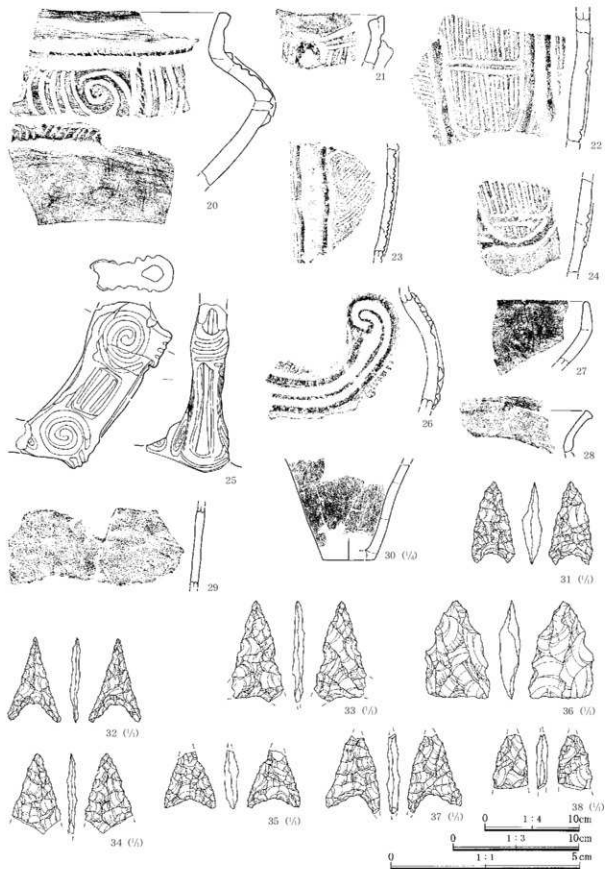


- が
1 黒褐色土 ローム粒、YPK、炭化物、焼土粒層かを含む。
2 黒褐色土 ローム粒や多く褐色粒、YPK少量。
3 黒褐色土 ローム粒、明赤褐色粒、焼土粒、YPK少量含む。
4 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒や多く混入。
5 黒褐色土 ローム粒や多く明赤褐色粒少量含む。
6 白黄褐色土 熱を受けたローム。
7 暗褐色土 橙色の焼土粒、炭化物、ローム含む。
8 橙色土 硬化した焼土。
9 黒褐色土 締まり弱く炭化物や多く含む。
10 黒褐色土 YPKの上部に黒褐色土混入、埋設土器の下には炭化物多い。
11 黒褐色土 硬くYPK少量、炭化物、褐色粒層かを含む。
12 黒褐色土 硬くYPKや多く炭化物少ない。

第272図 95-44号住居跡(4)

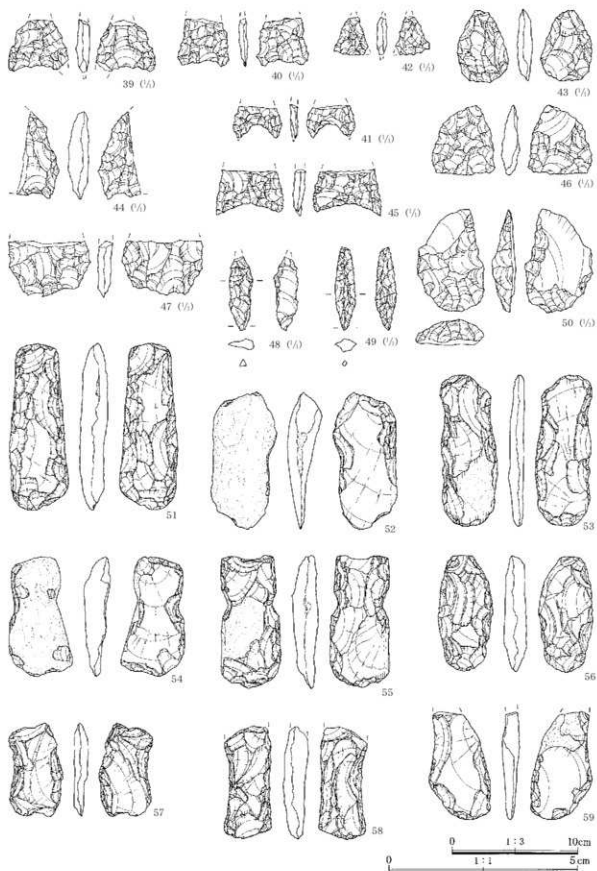


第273図 95-44号住居跡出土遺物(1)

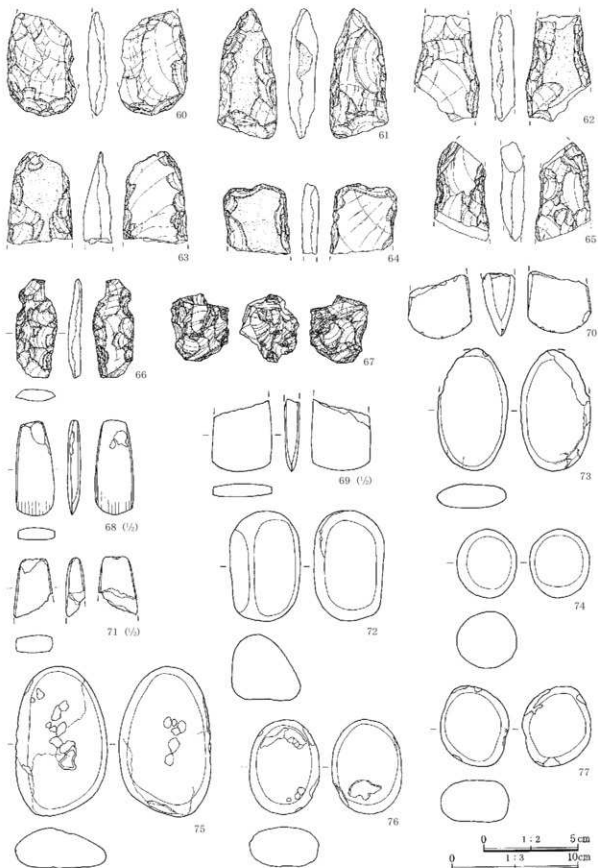


第274図 95-44号住居跡出土遺物(2)

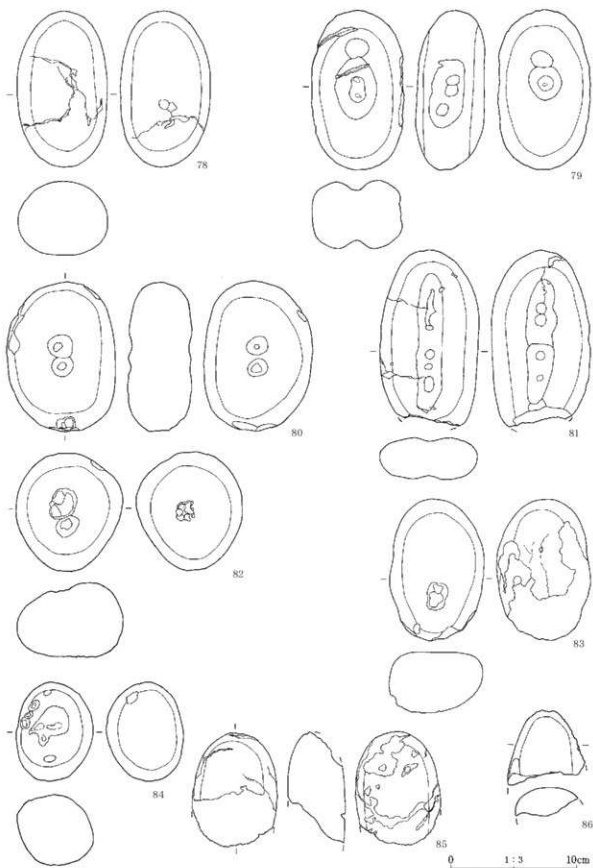
第3章 検出された遺構と遺物



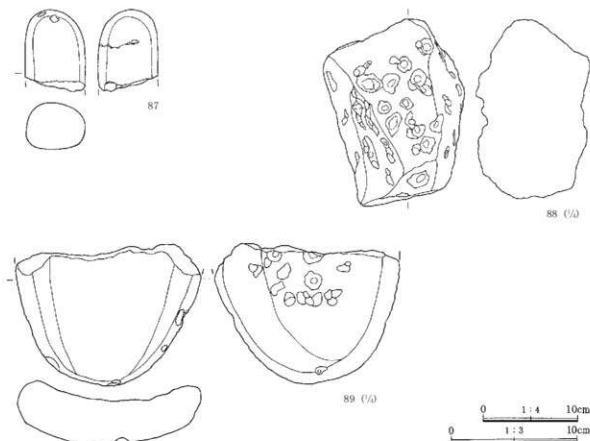
第275図 95-44号住居跡出土遺物(3)



第276図 95-44号住居跡出土遺物(4)



第277図 95-44号住居跡出土遺物(5)



第278図 95-44号住居跡出土遺物(6)

大きさは径40～50cmの円形で、深さは40～50cmである。なお、東側に重複する95-246号土坑内に1本が位置していたものと考えられる。 **埋裏** 検出されない。

掘方 炉の手前95-245号土坑に重なって径80cm、深さ35cmの床下土坑が検出されている。最上面にはロームの貼り床が認められた。出土遺物は無かった。

出土遺物 上部をかなり削平されており少ない。土器は10点ほどの小破片が、石器は石鏃、磨石の他にやや大型の礫器が2点見られる。

時期・所見 やや南北に長い楕円形で比較的大型の住居である。上面が削平されていたことや他の遺構との重複も多く、遺存状態はあまり良好ではなかった。内側に周溝が一部2重に検出されたり、小さく廻る部分も見られたことから拡張された可能性が考えられる。拡張前の住居はほぼ円形と思われ、径は約5m程と想定される。炉に関しては作り替え等の痕跡は見られなかったが、ほぼ同位置で大きく作り直されたと考えられる。時期は中期後半である。

95-41号住居跡 (第260～264図：PL.30・194・195)

位置 南側は谷地となる、E・F-19・20グリッドに位置する。 **重複** 西側に95-44号住居跡が、北側に5-60号住居跡が僅かに重複。 **形状** ほぼ円形。 **規模** (600)×605×60cm。 **方位** N-35°-W。

床面 中央部分は細かい凹凸が見られるがほぼ平坦で硬く締まっていた。所々に焼けた跡が見られる。壁周

第3章 検出された遺構と遺物

溝が北から西側部にかけて半周する。おそらく南側にも廻っていたものと考えられるが、削平されてしまったものと思われる。

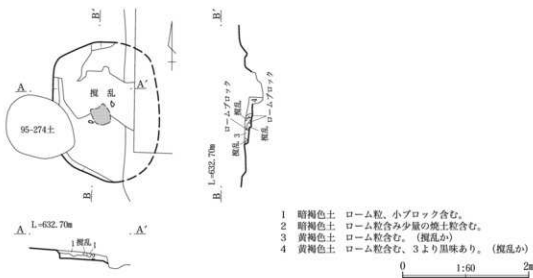
炉 中央やや奥に作られる。四ないしは五角形に石で囲った石囲い炉である。手前の石は低く、他の石はやや高く据えられている。規模は110cm×100cmで深さは約30cmである。炉石は被熱によりひび割れているものも見られた。

柱穴 壁下に沿って廻る7本と考えられる。径約50～60cmで深さは50～90cmを測る。

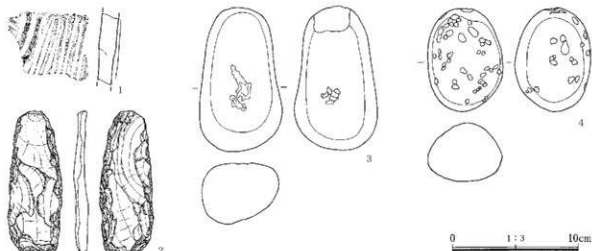
埋篋 検出されない。 **掘方** 貼り床は確認されなかった。炉の北側に床下土坑が検出された。長径80cmの不定形を呈し、深さは25cm程である。出土遺物は見られない。

出土遺物 覆土中上位から中位層中にかけて多くの土器片、石器片が出土している。土器は器形を復元できるようなものは少なかった。石器は石鎌、打製石斧、磨石等が見られた。2箇所の穴を有す円盤状の軽石製品や多孔石が出土している。

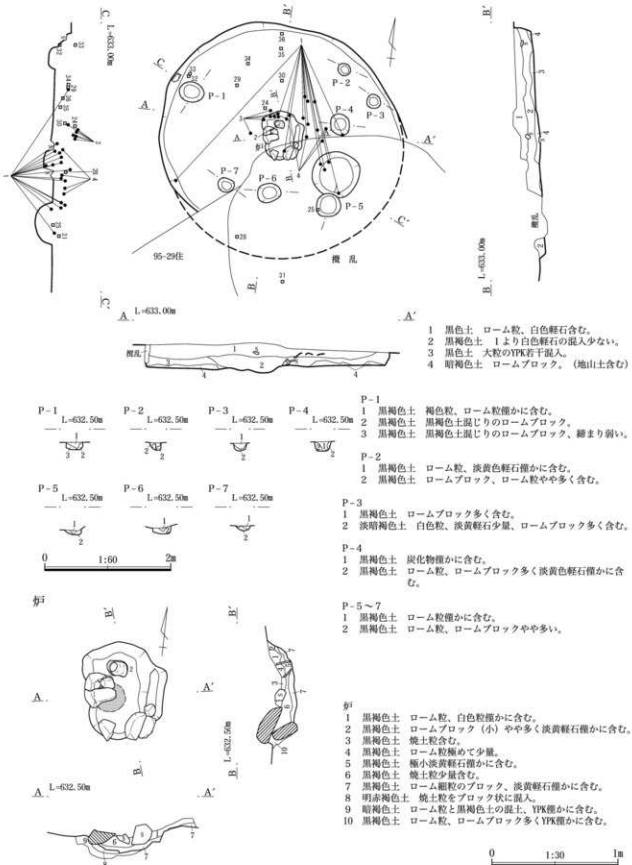
時期・所見 住居は谷に傾斜する地形変換点に作られ、南側が明確に確認できなかった。西側は95-44号住居跡の一部を壊している。時期は中期後半である。



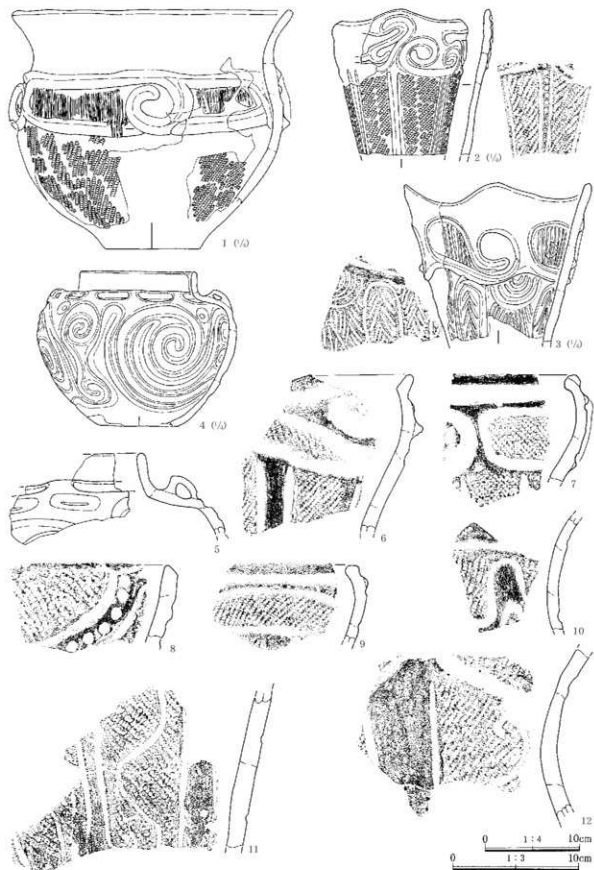
第279図 95-45号住居跡



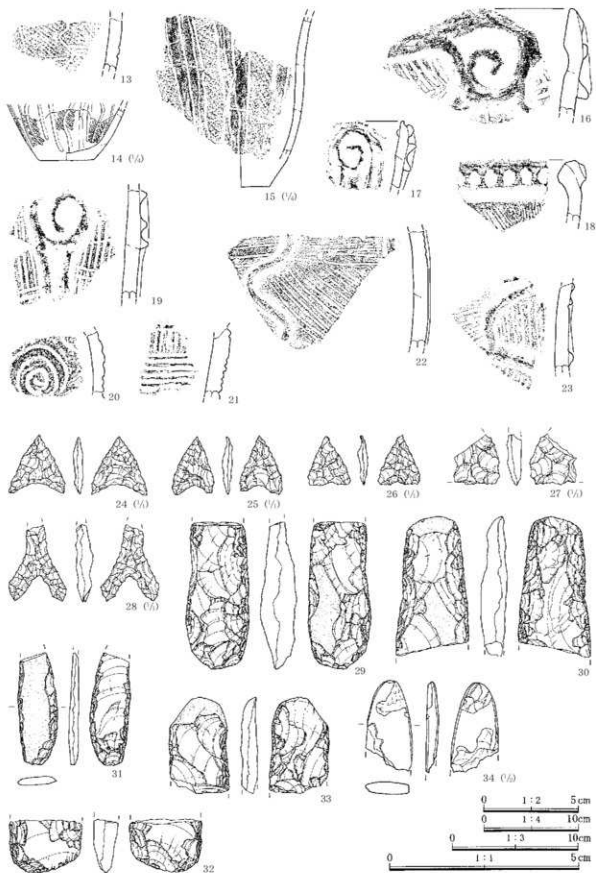
第280図 95-45号住居跡出土遺物



第281図 95-46号住居跡

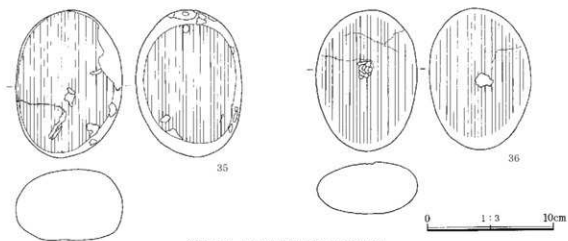


第282図 95-46号住居跡出土遺物(1)

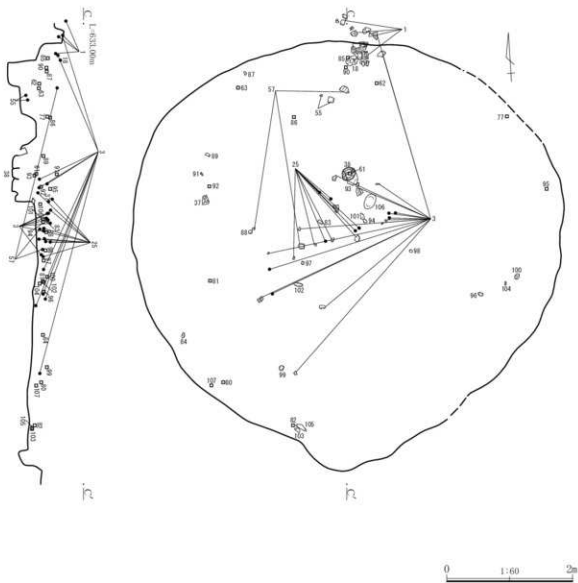


第283図 95-46号住居跡出土遺物(2)

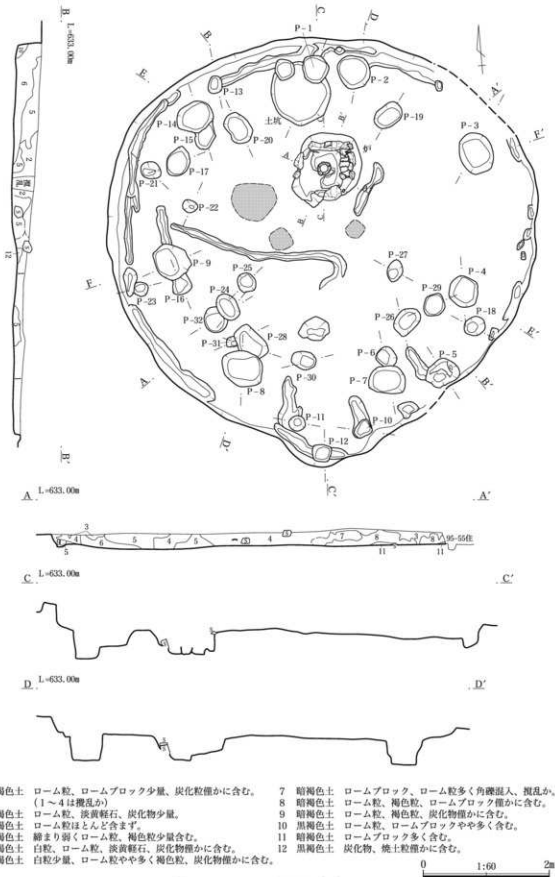
第3章 検出された遺構と遺物



第284図 95-46号住居跡出土遺物(3)

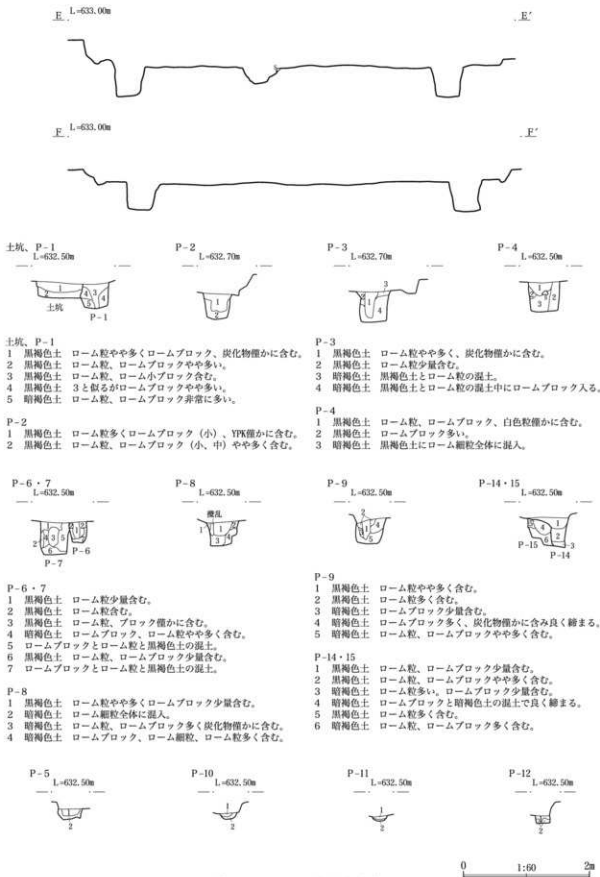


第285図 95-47号住居跡(1)



第286図 95-47号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



- 土坑、P-1
- 1 黒褐色土 ローム粒やや多くロームブロック、炭化物僅かに含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多い。
 - 3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。
 - 4 黒褐色土 3と似るがロームブロックやや多い。
 - 5 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック非常に多い。

- P-2
- 1 黒褐色土 ローム粒多くロームブロック(小)、YPK僅かに含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック(小、中)やや多く含む。

- P-3
- 1 黒褐色土 ローム粒やや多く、炭化物僅かに含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。
 - 3 暗褐色土 黒褐色土とローム粒の混土。
 - 4 暗褐色土 黒褐色土とローム粒の混土中にロームブロック入る。

- P-4
- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、白色粒種かに含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック多い。
 - 3 暗褐色土 黒褐色土にローム細粒全体に混入。

- P-6・7
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒含む。
 - 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック僅かに含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒やや多く含む。
 - 5 ロームブロックとローム粒と黒褐色土の混土。
 - 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
 - 7 ロームブロックとローム粒と黒褐色土の混土。

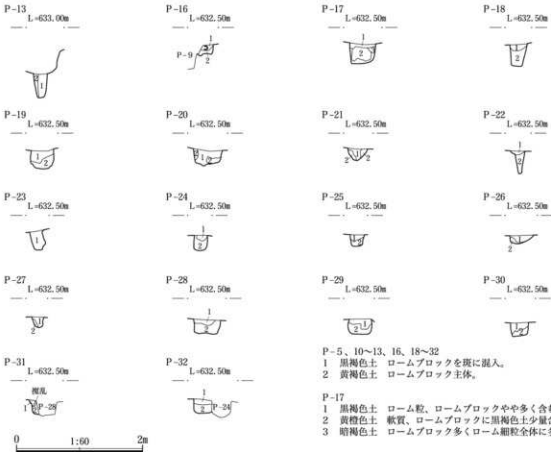
- P-8
- 1 黒褐色土 ローム粒やや多くロームブロック少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム細粒全体に混入。
 - 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く炭化物僅かに含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒、ローム粒多く含む。

- P-9
- 1 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多く、炭化物僅かに含み良く締まる。
 - 5 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く含む。

- P-14・15
- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多い、ロームブロック少量含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土の混土で良く締まる。
 - 5 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 - 6 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。

第287図 95-47号住居跡(3)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



P-5、10~13、16、18~32

1 黒褐色土 ロームブロックを底に混入。

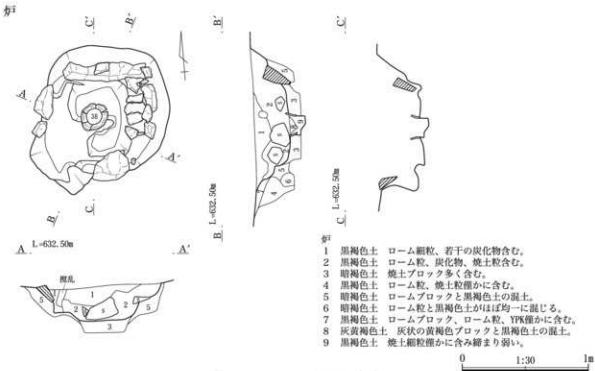
2 黄褐色土 ロームブロック主体。

P-17

1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く含む。

2 黄褐色土 軟質、ロームブロックに黒褐色土少量含む。

3 暗褐色土 ロームブロック多くローム細粒全体に多く混入。



方

1 黒褐色土 ローム細粒、若干の炭化物含む。

2 黒褐色土 ローム粒、炭化物、焼土粒含む。

3 暗褐色土 焼土ブロック多く含む。

4 黒褐色土 ローム粒、焼土粒僅かに含む。

5 暗褐色土 ロームブロックと黒褐色土の混土。

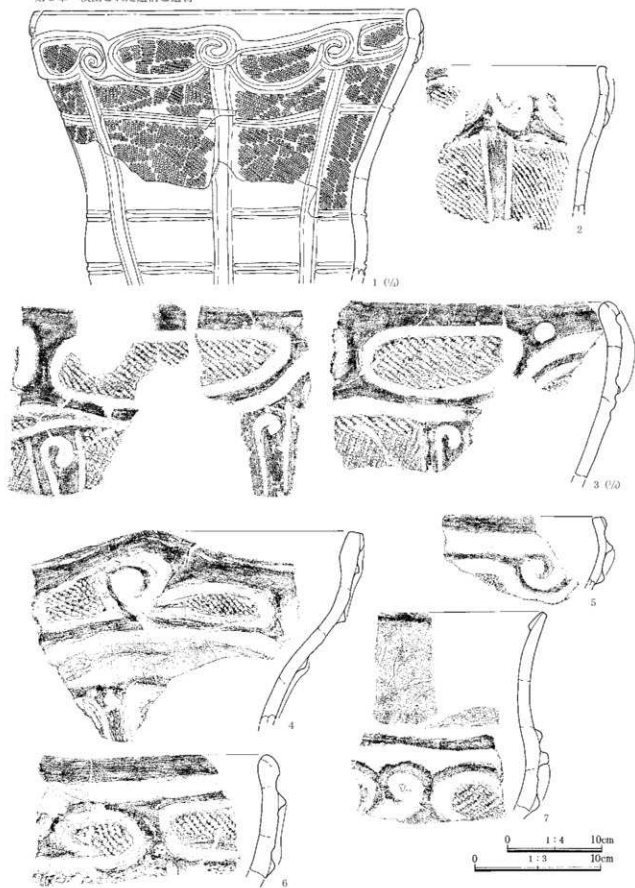
6 暗褐色土 ローム粒と黒褐色土がほぼ均一に混じる。

7 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒、YPK僅かに含む。

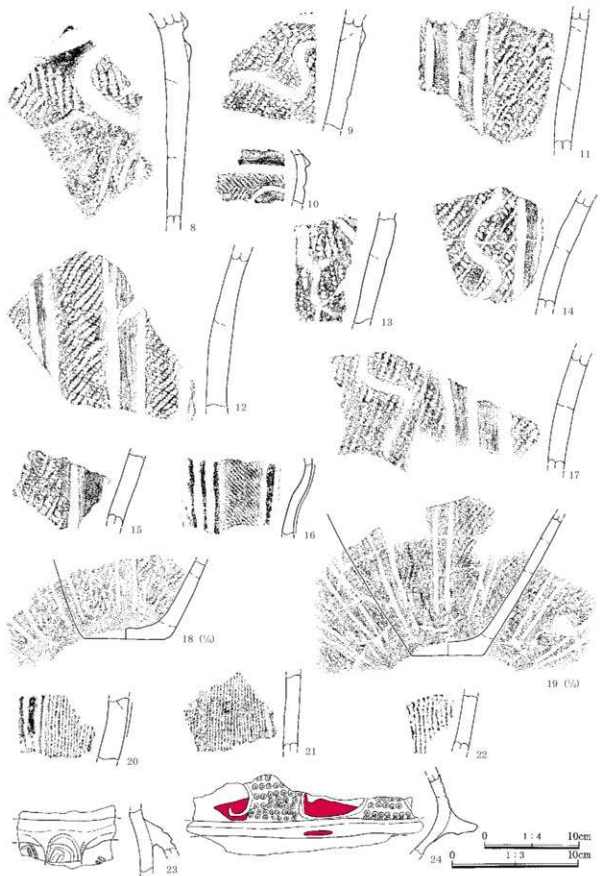
8 灰黄褐色土 灰状の黄褐色ブロックと黒褐色土の混土。

9 黒褐色土 焼土細粒僅かに含み締まり弱い。

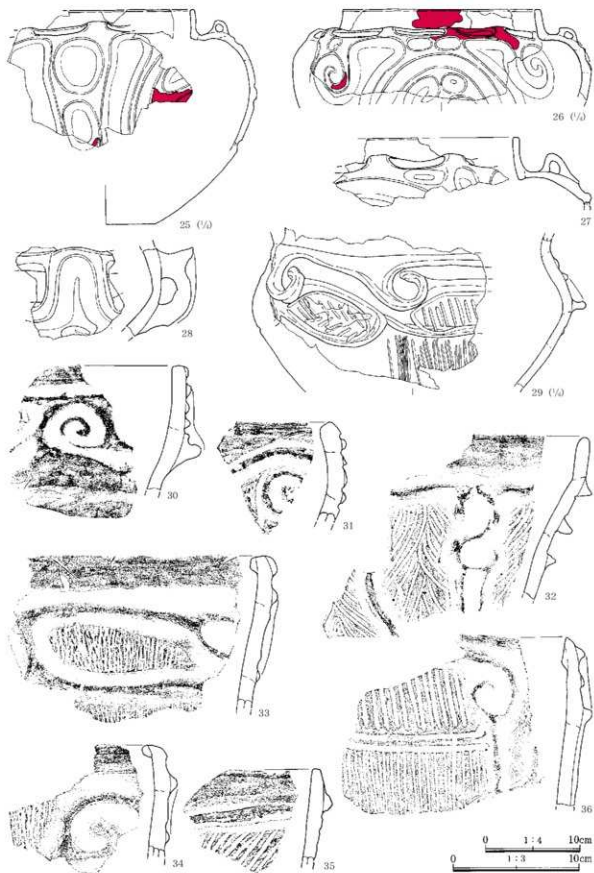
第288図 95-47号住居跡(4)



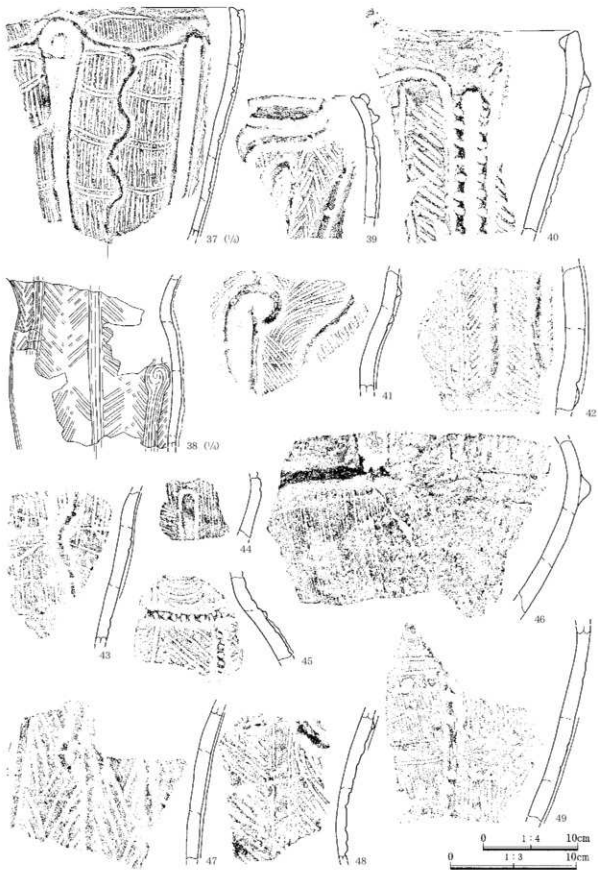
第289図 95-47号住居跡出土遺物(1)



第290図 95-47号住居跡出土遺物(2)

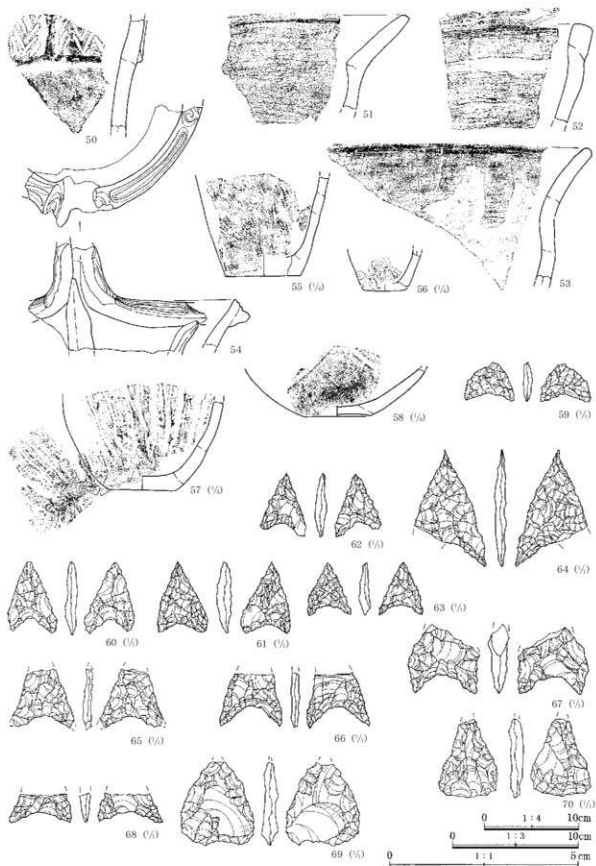


第291図 95-47号住居跡出土遺物(3)

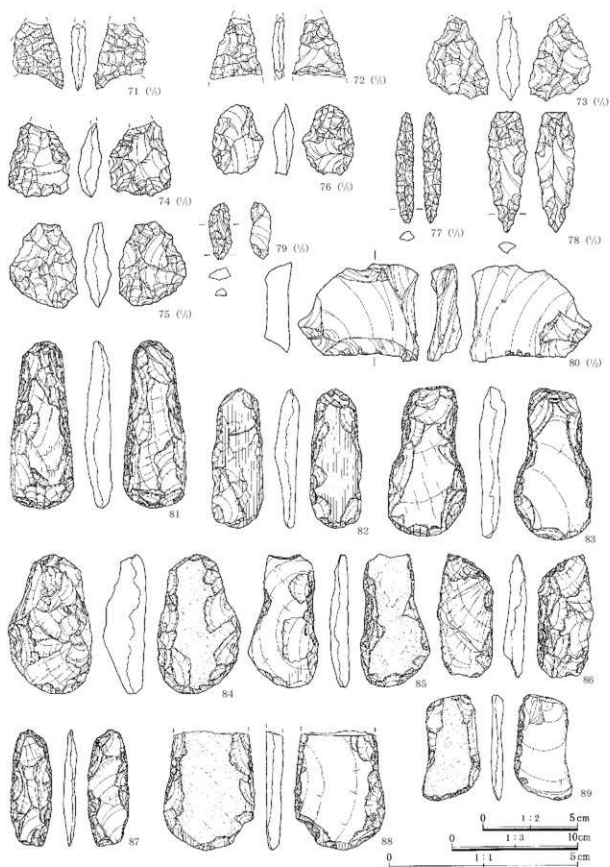


第292図 95-47号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物

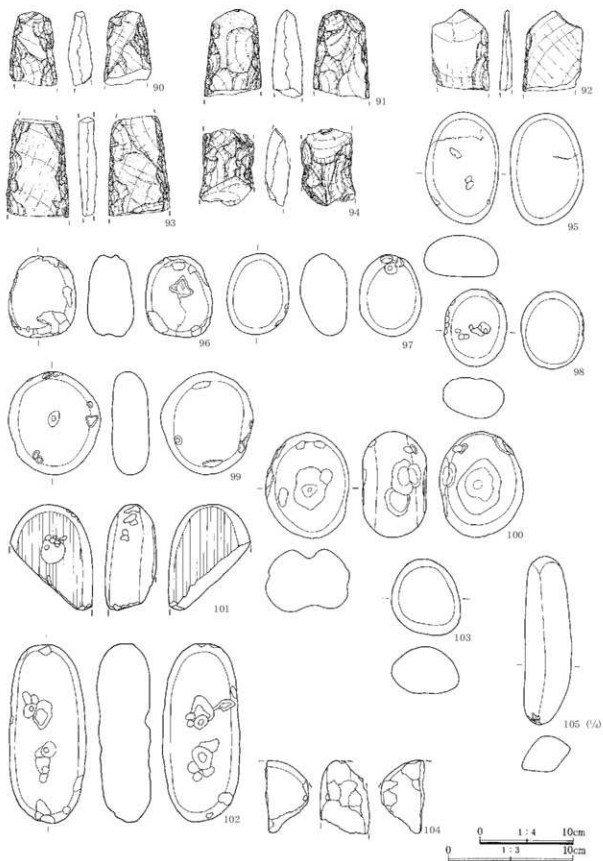


第293図 95-47号住居跡出土遺物(5)

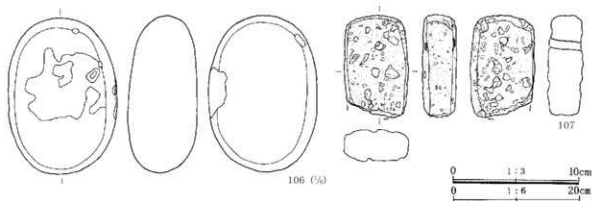


第294図 95-47号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物



第295図 95-47号住居跡出土遺物(7)



第296図 95-47号住居跡出土遺物(8)

95 - 42 号住居跡 (第265・266図:PL.31・195)

位置 K-23グリッドに位置する。 **重複** 南東側に95-13号、北西側に95-17号住居跡と重複。

形状 円形か。 **規模** (290) × (290) × 25cm。 **方位** 不明。

床面 平坦だがあまり締まりは無い。周溝等は見られない。 **炉** 中央やや西寄りに検出、長径70cm、短径50cm程の長円形を呈す、深さ約20cmの浅い落ち込みで、下部に若干の焼土が残る地床炉と思われる。西側が部分的に根によるものと考えられる攪乱を受けている。

柱穴 2本の小ピットを検出、壁際のもは柱穴と思われるが炉の脇にあるもの不明である。

埋壘 検出されない。 **掘方** 特に掘り込み等は見られない。

出土遺物 若干の土器小片が出土しているが石器については製品類の出土は見られなかった。いずれも床面より浮いた状態である。

時期・所見 北側は95-17号住居跡と重複し、南側には95-13号住居跡と重複、本址が切る形と考えられるが、重複関係が掴めない状況での調査であったため、結果的に僅かな部分のみが残った状況である。小型で床も不鮮明であった。また、残った部分の壁の立ち上がりで中央に位置する炉の存在から、住居として調査を行ったものである。ただし、炉については地床炉としたが、不確定要素もある。時期は出土土器から後期前半か。

95 - 43 号住居跡 (第267・268図:PL.31・196)

位置 調査区の東端、C-23グリッドに位置する。 **重複** 東側半分は南北に走る1号石列(近世以降)の溝に壊されており、東側の半分以上が失われている。西側には浅い95-273号土坑が重複する。

形状 (楕)円形か。 **規模** (350) × (350) × 10cm。 **方位** 不明。

床面 残った部分については、僅かな凹凸が在るが比較的平坦で締まりも見られた。周溝は確認されなかった。 **炉** 検出されなかった。近世の溝により削平されてしまったものと考えられる。

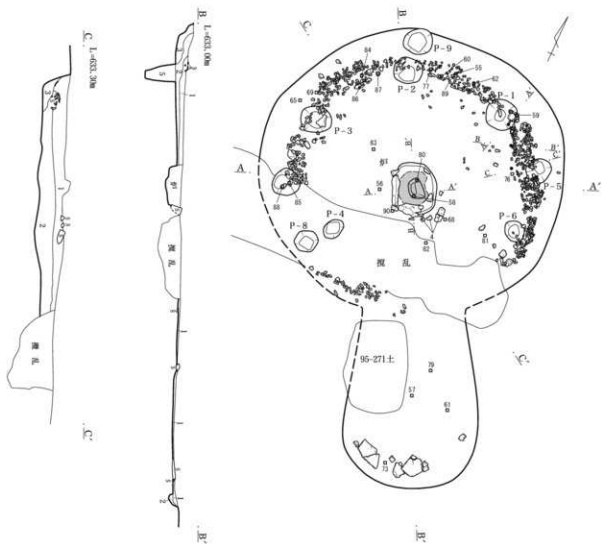
柱穴 西側に1本を検出、径30cm、深さ65cmを測る。 **埋壘** 検出されない。

掘方 貼り床や、掘り込み等は見られなかった。

出土遺物 住居の西寄りに大きな礫および扁平な角礫が出土している。その他、数点の石器片が見られたが製品は1点のみである。土器は僅かに破片が出土している。

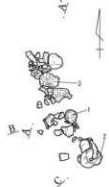
時期・所見 炉を含め東半分を近世の溝により大きく壊されており、全体像は不明である。小型の住居で、2本柱穴と思われ、推定形状は楕円形になる可能性もある。時期は中期後半と推定される。

第3章 検出された遺構と遺物



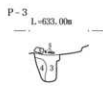
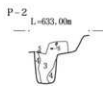
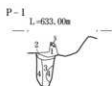
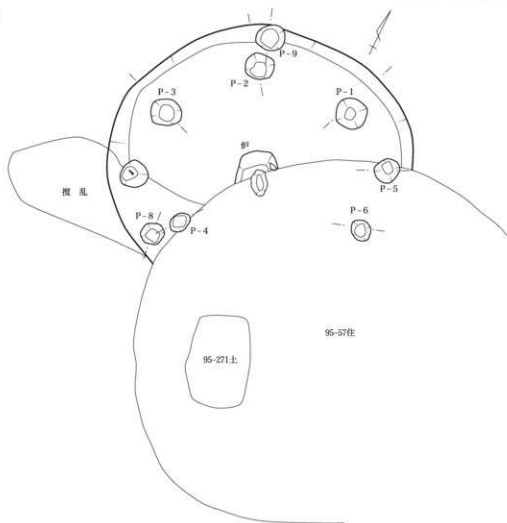
- 1 黒色土 少量のローム粒含む。
- 2 黒色土 ローム粒、少量の炭化物、ローム
層移土ブロック若干含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒小ブロック含み軟質。
- 5 黄褐色土 4と似るがやや締まる。

遺物出土状況



第297図 95-48号住居跡(1)

掘方



- P-1～4
 1 黒色土
 2 暗褐色土 ローム粒含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
 4 暗褐色土 ローム小ブロック若干混入。

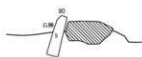
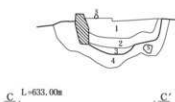
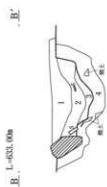
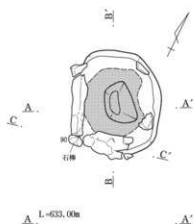
- P-5、6、8、9
 1 黒褐色土 若干のローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム小ブロック若干含む。
 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:60 2m

第298図 95-48号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

炉



炉

- 1 黒褐色土 ローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒多く含む。
- 3 黒褐色土 焼土、炭化物ロームブロックの混土。
- 4 暗褐色土 僅かに焼土粒含む。

0 1:30 1m

第299図 95-48号住居跡(3)

95 - 44 号住居跡 (第269 ~ 278 図 : PL.31・196 ~ 198)

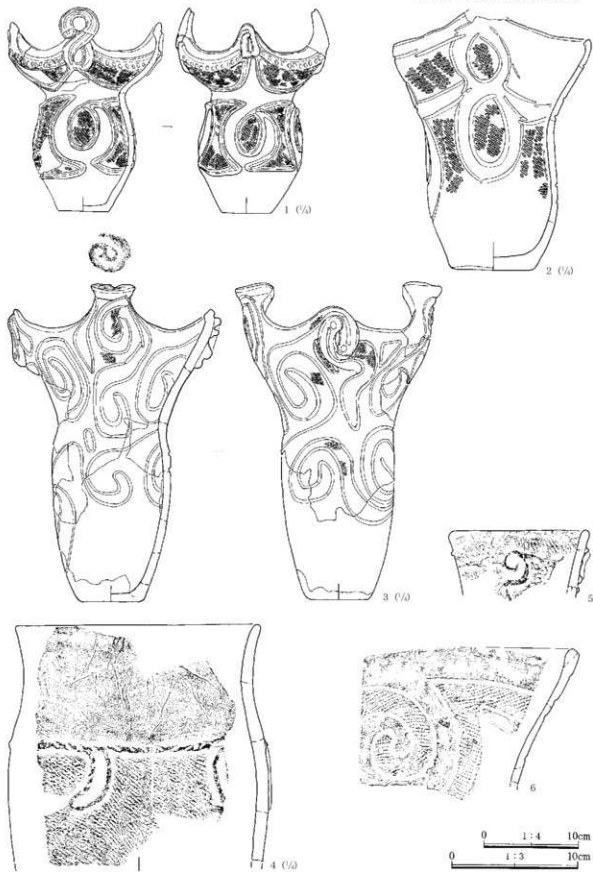
位置 F・G-19・20 グリッドに位置する。 **重複** 東側に95-41号・西側には95-50号住居跡が重複する。41号住は本址を切り、50号住は本址が切っている。 **形状** 円形と思われるが、南側がやや張り出すタイプか。 **規模** (540) × 550 × 60cm。 **方位** N-5°-E。

床面 炉周辺部はほぼ平らで堅く締まるが、南から南西部は重複や攪乱等で凹凸が顕著である。また南西部には部分的に貼り床が見られる。北側半分には柱穴を繋ぐように、やや直線的に掘られた周溝が検出されている。

炉 中央やや奥に作られている。石を組んだ石囲い炉であるが、西側、南側は石が抜かれていた。掘方が深く炉石は縦に直立するように据えられている。炉の中央部には深鉢の口縁から胴部を利用した炉体土器1が検出されている。 **柱穴** 主柱穴は6本と見られ、入り口部にある2本を含め計8本か。径約50cm、深さも50cm前後である。入り口部のP-5・6は入り口施設に対応するものと思われ、やや入り口部分が突出する形態の住居と考えられる。 **埋壘** 検出されなかった。

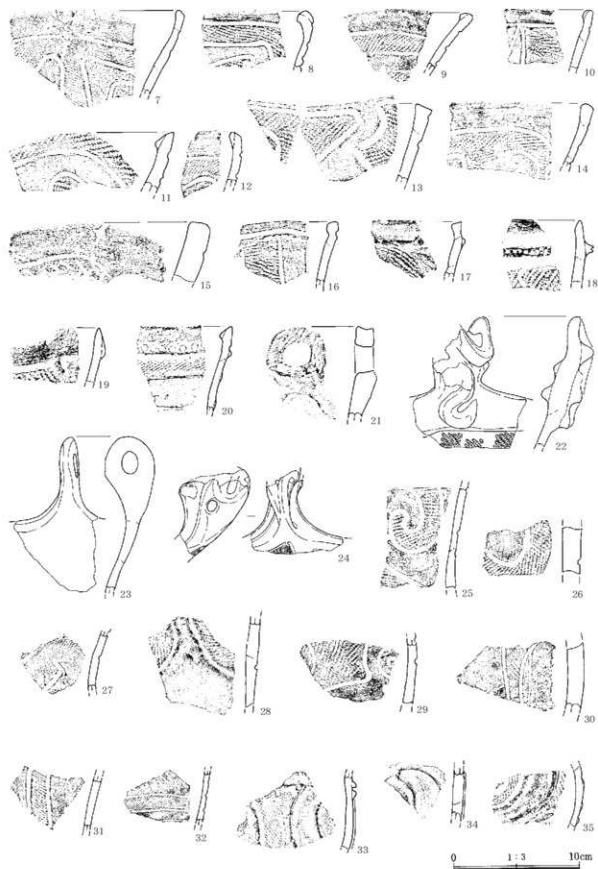
掘方 住居の南西部床下に検出されたP-25とした浅い落ち込みは、形状や大きさから明確な炉こそ見られなかったものの、楕円形を呈す小型住居の可能性もある。95-281号土坑は上面にロームの貼り床が載ることから本址と同時期か旧く考えられる。またその直ぐ東にも床下土坑が検出されている。いずれも径60cm程で深さは1m、断面がやや袋状を呈す。95-53・54号住居内に掘り込まれていた柱穴状の土坑に袋状を呈すなど形態が似る。

出土遺物 比較的多くの土器や石器が出土している。覆土上位から中位にかけて比較的多くの遺物が出土し

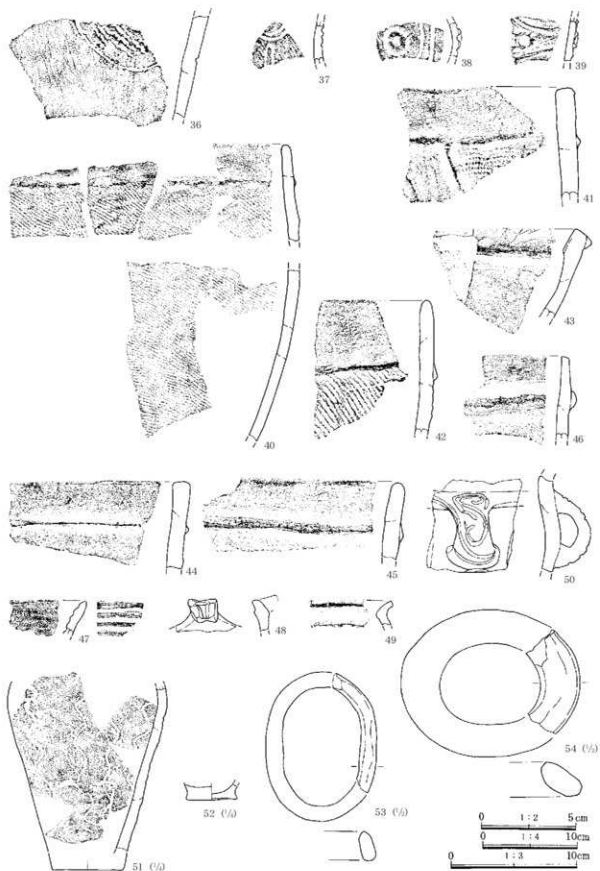


第300図 95-48号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

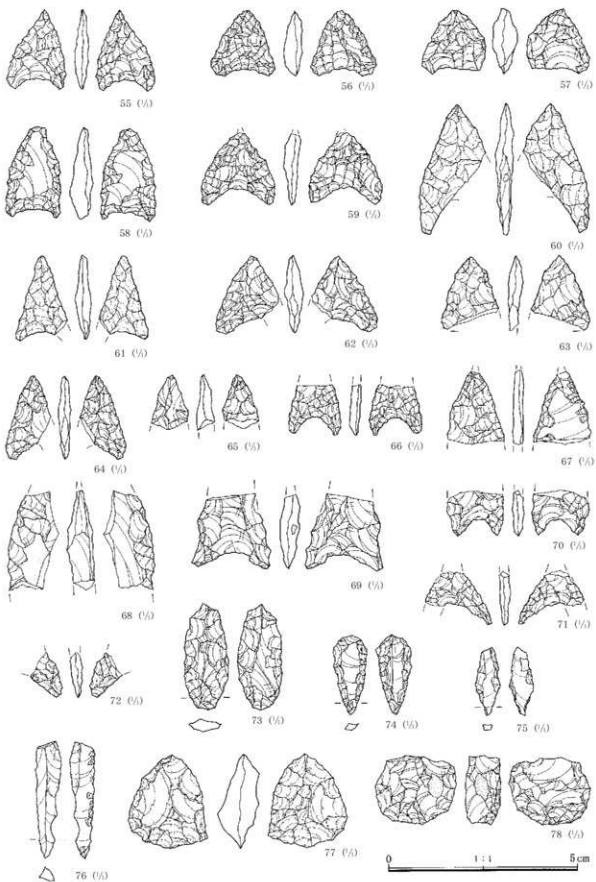


第301図 95-48号住居跡出土遺物(2)

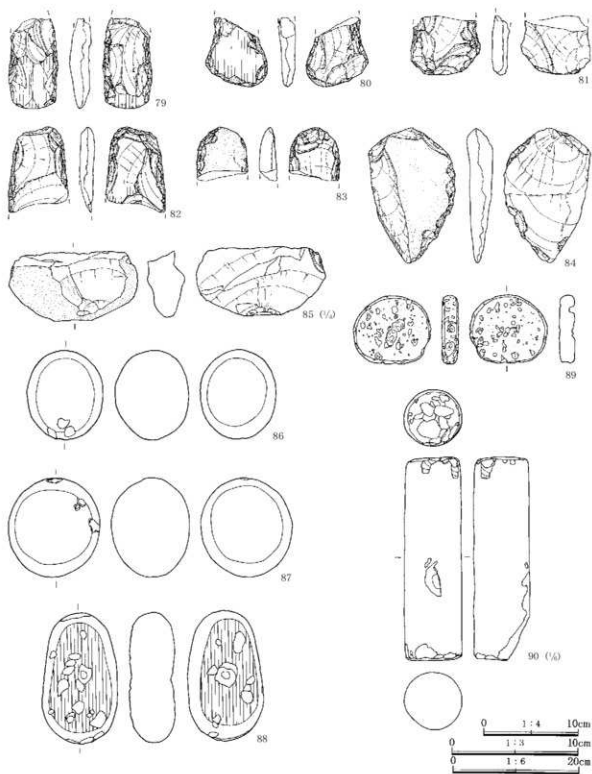


第302図 95-48号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第303図 95-48号住居跡出土遺物(4)



第304図 95-48号住居跡出土遺物(5)

ている。石器は石鏃や打製石斧が多く、磨製石斧、磨石、凹石類多く見られる。その他多孔石、石皿の破片も見られる。

時期・所見 東に並ぶ95-41号住居跡に一部を切られており、南側は谷に掛かっているため、削平された

第3章 検出された遺構と遺物

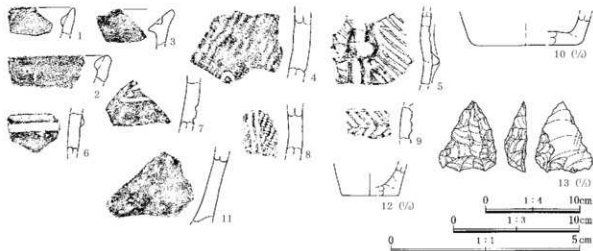
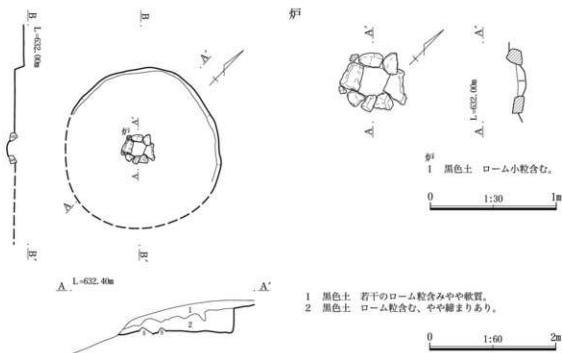
状況である。炉体土器から時期は中期後半と考えられる。住居南西部分検出された土坑状の浅い掘り込みは、重複する土坑や柱穴により状況は良くないものの、住居の可能性も残る。

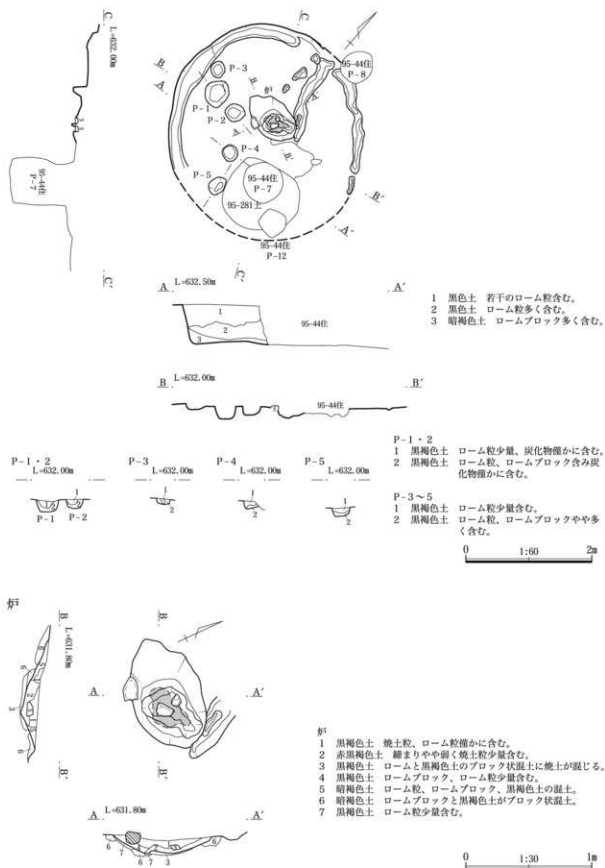
95 - 45 号住居跡 (第279・280図：PL.32・198)

位置 調査区東端、C-22グリッドに位置する。重複 西側には95-274号土坑が重複し、東側を95-1号石列の溝により大きく壊されている。形状 小型楕円形か。

規模 (230) × (170) × 10cm。方位 不明。

床面 上層からの攪乱が一部床面にまで及んでいたために検出面は僅かである。比較的平坦であるが根によるものか攪乱も受けており軟質である。西側の壁に沿って部分的に落ち込みが廻る。





- 1 黒色土 若干のローム粒含む。
2 黒色土 ローム粒多く含む。
3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

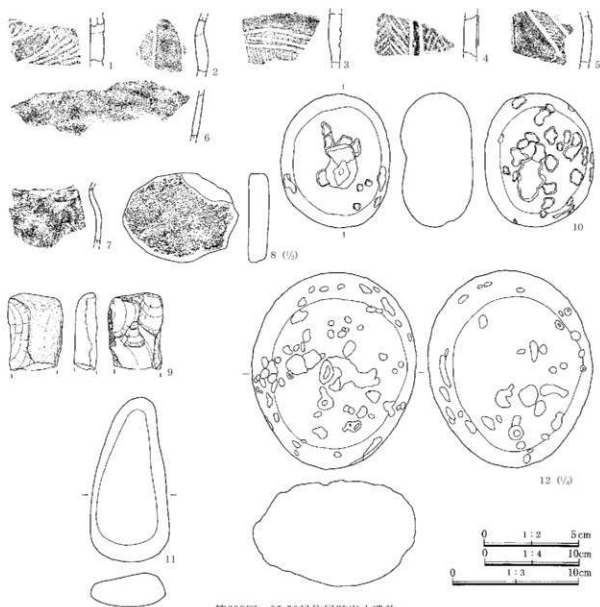
- P-1・2
1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物僅かに含む。
2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック含み炭化物僅かに含む。

- P-3～5
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く含む。

- 95
1 黒褐色土 焼土粒、ローム粒僅かに含む。
2 赤黒褐色土 締まりやや弱く焼土粒少量含む。
3 黒褐色土 ロームと黒褐色土のブロック状凝土に焼土が混じる。
4 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒少量含む。
5 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、黒褐色土の凝土。
6 暗褐色土 ロームブロックと黒褐色土がブロック状凝土。
7 黒褐色土 ローム粒少量含む。

第307図 95-50号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第308図 95-50号住居跡出土遺物

炉 明確なものは検出できなかったものの、ほぼ中央に僅かな落ち込みと焼土の広がりを認めており、炉の痕跡と考えられる。

柱穴 検出されなかった。 **埋壘** 検出されなかった。

掘方 下位のローム面は凹凸が顕著であった。人為的な掘り込みかどうかは不明、攪乱か。

出土遺物 僅かに土器片1点、打製石斧および磨石が出土している。

時期・所見 攪乱と削平で東側半分を失っており、残りは極めて悪い。小型で楕円形を呈すと思われ、95-36・55号住と類似する住居の可能性が高い。時期は中期後半と考えられる。

95-46号住居跡 (第281～284図：PL.32・198・199)

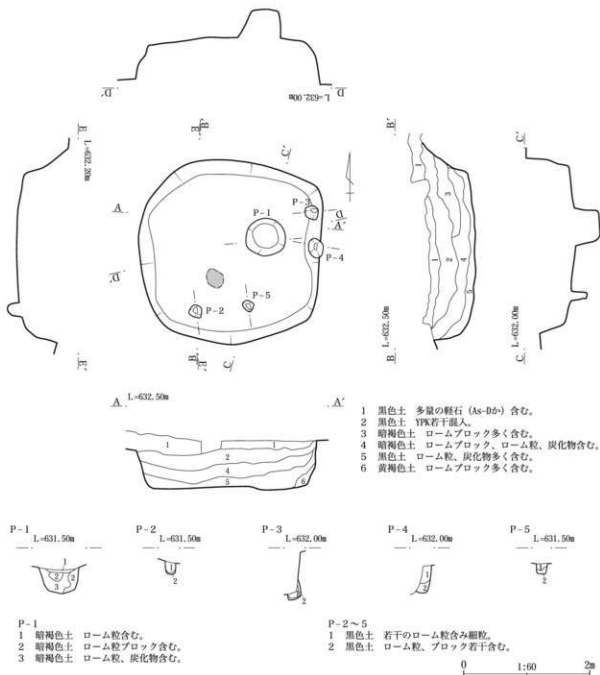
位置 H・I-21グリッドに位置する。 **重複** 南東側は近代の耕作溝により攪乱を受けている。また95-279号土坑および95-29号住居跡が南側に一部重複している。 **形状** 円形。

規模 380 × (380) × 30cm。 **方位** N-12°-W。 **床面** ほぼ平坦であるが硬化面はほとんど見られず。周溝も確認できなかった。

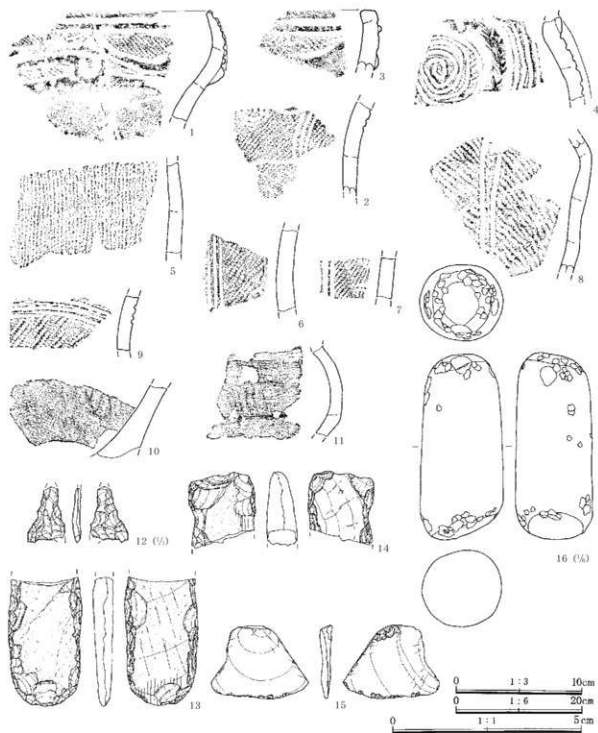
炉 ほぼ中央に作られている。石囲い炉であるが、人為的に壊された状況が窺え、被熱で割れた炉石が落ち込んで検出されている。規模は75cm × 65cm、深さは15cm程である。底部には若干の焼土と北寄りに炉体土器が検出されている。

柱穴 壁下に沿って数本が検出されているが、いずれも浅く明確な対応関係は不明である。

埋篋 検出されなかった。 **掘方** 貼り床は確認されなかった。炉の南東に円形の落ち込みを確認したが、



第309図 95-51号住居跡



第310図 95-51号住居跡出土遺物

浅く床下土坑と確認できなかった。

出土遺物 中央部、炉の周辺部に集中して土器や石器類が出土している。炉の上に短頸の壺型土器が潰れた状態で出土している。石器は石鏃、打製石斧、磨製石斧、および磨石類である。

時期・所見 攪乱や他の遺構の重複により、南東部分の状況は不明である。比較的小型の円形住居である。炉は検出状況から住居廃絶時に壊されたものと思われる。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

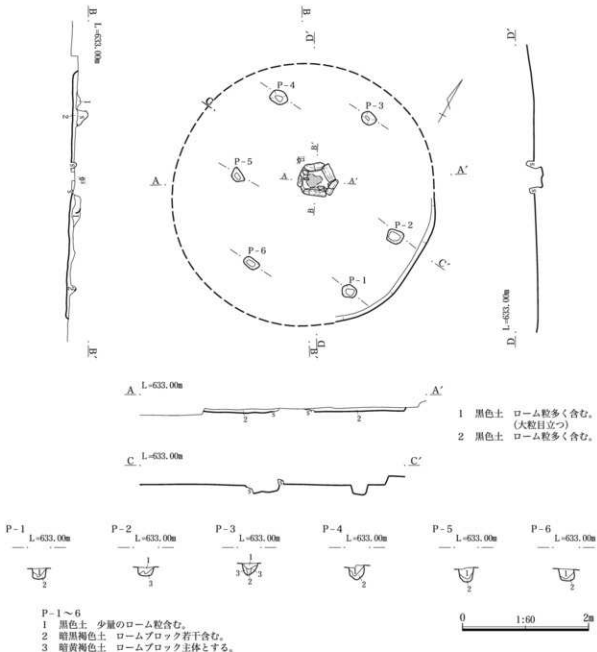
95 - 47 号住居跡 (第 285 ~ 296 図 : PL.33・34・199 ~ 203)

位置 E・F-19 ~ 21 グリッドに位置する。重複 南東部に 95 - 60 号・東側には 95 - 40 号住居跡が重複。炉の南には 95 - 267 号土坑が重複する。

形状 大型の住居ではほぼ円形、南側入り口部が僅かに張り出す形状。規模 690 × 680 × 30cm。

方位 N - 7° - E。

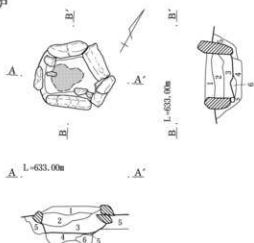
床面 周囲がやや高まっている。若干の凹凸が見られるが炉の周辺部を中心に硬く締まっている。周溝とは異なった、部分的に溝状の掘り込みなども見られる。壁周溝がほぼ全周していたものと思われる。東側については重複や、削平などで部分的な検出であった。また、入り口部には平行する溝状の掘り込みとこれに伴うピットが検出されている。



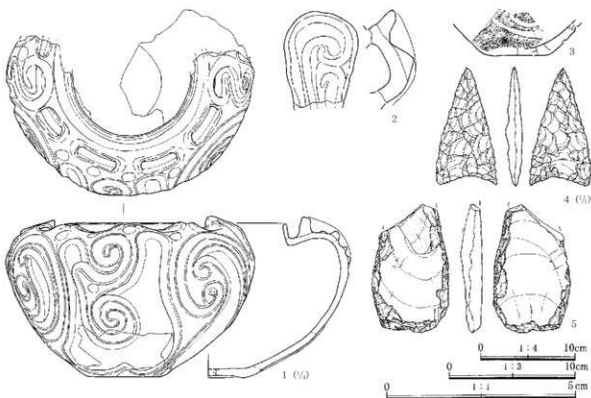
第311図 95-52号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

炉



第312図 95-52号住居跡(2)



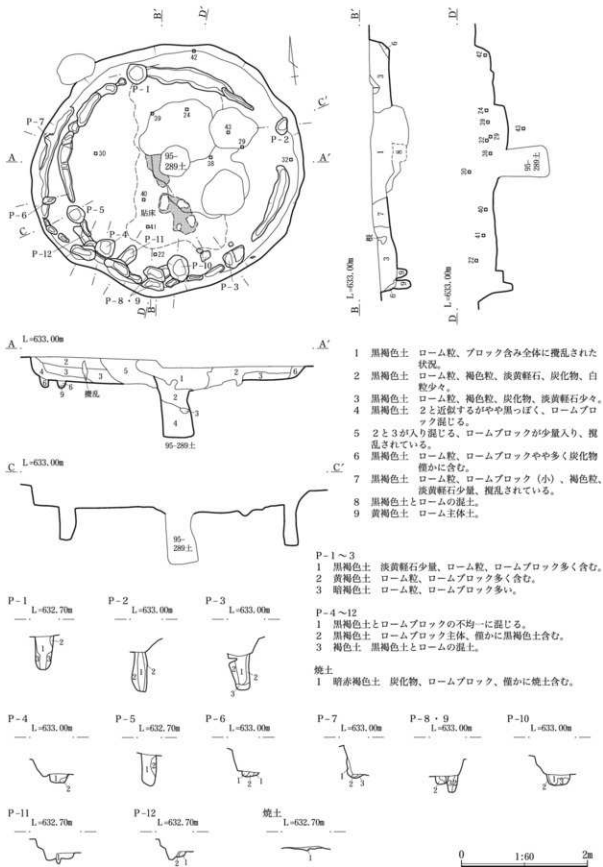
第313図 95-52号住居跡出土遺物

炉 中央やや北に作られていた。石を方形に組んだ石組み炉である。炉石は割れて炉内に落ち込んだ状態であった。規模は一辺約1mの方形を呈す。内部には礫が落ち込んだ状態で検出されている。中央には炉体土器が据えられている。炉の手前側の床面には焼土が点在する。

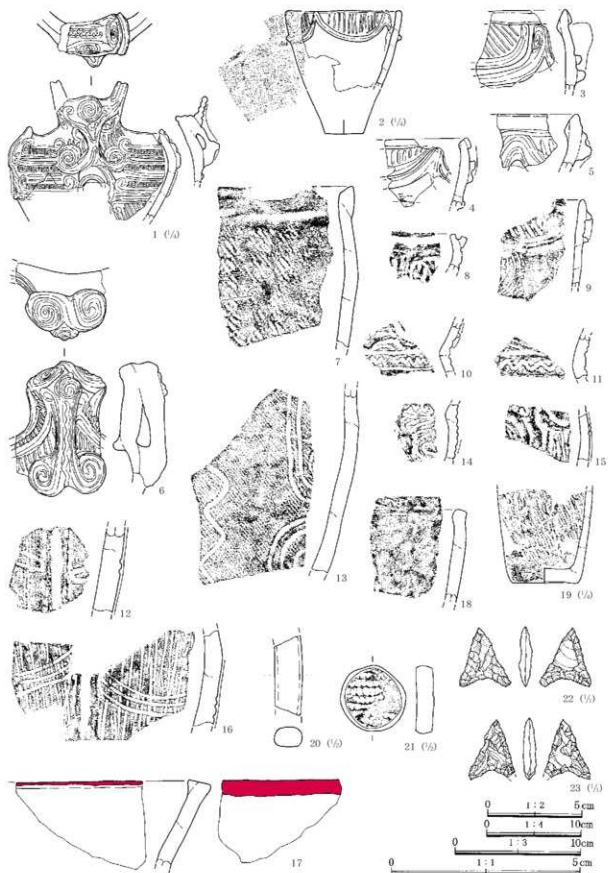
柱穴 廃棄時の柱穴は、壁に沿って廻る8本と考えられる。径50～60cmで深さは50cm前後である。P-1～4・P-7～9・P-14が想定される。

埋裏 検出されなかった。

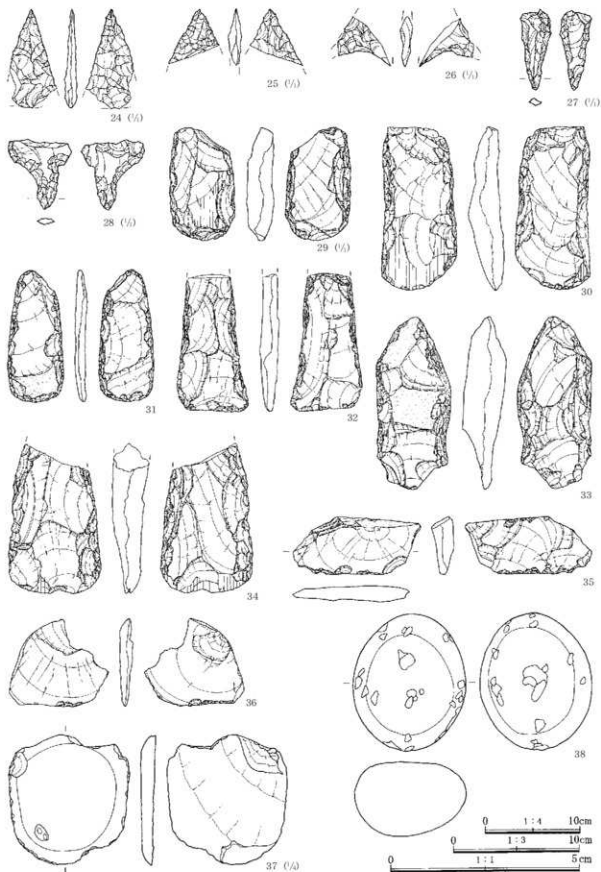
掘方 奥壁寄りに径約1m、深さ25cmの床下土坑が検出された。上面にローム主体の貼り床が見られた。



第314図 95-53号住居跡

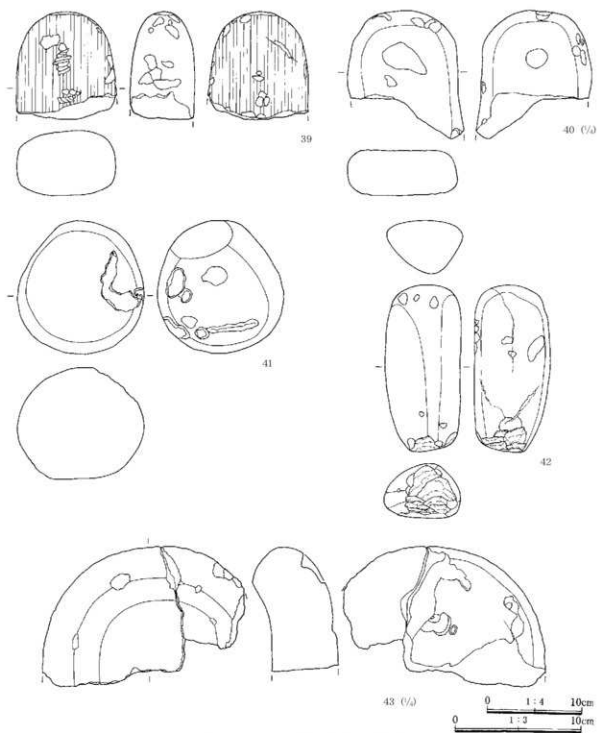


第315図 95-53号住居跡出土遺物(1)



第316図 95-53号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第317図 95-53号住居跡出土遺物(3)

若干の土器片が出土している。

出土遺物 住居全体から土器片、石器類が出土している。覆土の上層部分に比較的大型の土器片が見られた。

時期・所見 大型の住居である。入り口部に若干の張り出しが見られるタイプで、平行する溝と浅いピット等の施設が見られる。主柱穴の内側に沿うように小ピットが検出されており、拡張の可能性もある。埴土器から時期は中期後半である。

95-48号住居跡（第297～304図：PL.34・35・203～205）

位置 D・E-24・25グリッドに位置する。**重複** 95-57・58号住居跡に重複しこれらを切って構築されている。張り出し部には95-271号土坑（陥し穴）が重複し、西側主体部との接合部西側には近代の攪乱溝があり、部分的に本址を壊している。**形状** 柄鏡型敷石住居。

規模 720×460×50cm。**方位** N-23°-W

床面 主体部については、周礫以外には敷石はほとんど見られない。僅かに周礫近くに平らな石が点在するのみである。張り出し部は95-57号住居跡の上に乗っている形であったが、手前部分には比較的大きい平らな石が敷かれた状態で検出されている。

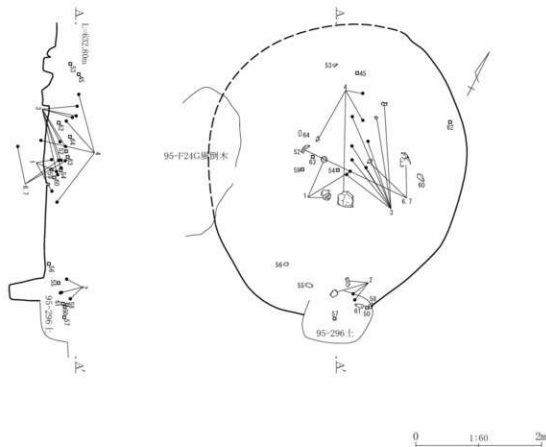
炉 主体部のほぼ中央に作られた石囲い炉である。90×70cmとやや南北に長い長方形を呈す。炉石は南と西側のみ残り、角には頭部を欠く棒状の礫が埋め込まれていた。

柱穴 掘方調査時に主体部壁に沿って8本が検出された。径約40cm、深さは40～70cmを測る。周礫が部分的に途切れる位置に掘り込まれている。張り出し部については明確なものは検出できなかった。

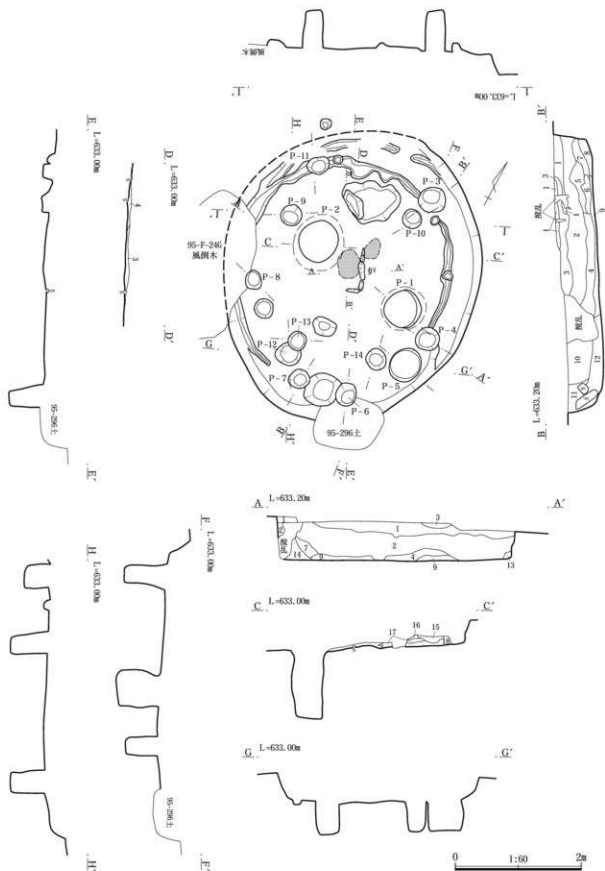
埋壘 検出されない。

掘方 柱穴を確認したのみで他の施設は見られない。

出土遺物 土器片、石器等が出土している。住居主体部の北東部、周礫脇に小型の深鉢が並んだ状態で3個体1・2・3が出土している。いずれも割れてはいるものの、ほぼ完形で原位置を留めているものと考えら



第318図 95-54号住居跡(1)

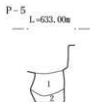


第319図 95-54号住居跡(2)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

- 1 黒褐色土 白色粒、褐色粒、淡黄軽石、ローム粒、炭化物僅かに含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒、ローム粒、淡黄軽石、白色軽石、炭化物僅かに含む。
- 3 黒褐色土にローム小ブロック多く混じる。炭化物僅かに含む。覆瓦か？
- 4 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、白色軽石やや多く含む。
- 5 黒褐色土 4と似るが炭化物やや目立つ。
- 6 黒褐色土 白色軽石のブロックに黒褐色土が混入、全体に脆弱。
- 7 黒褐色土 ローム粒、白色軽石、炭化物僅かに含む。

- 8 黒褐色土 ローム粒やや目立ち、白色軽石僅かに含む。
- 9 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックやや多く含む。
- 10 黒褐色土 軽石、ローム粒、ロームブロックやや多く炭化物僅かに含む。
- 11 黒褐色土 ローム粒やや多い、淡黄軽石、白色軽石僅かに含む。
- 12 黒褐色土 ローム粒多く、淡黄軽石、炭化物僅かに含む。
- 13 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 14 黒褐色土 9に似るが軽石粒少ない。
- 15 軽石層 (YPKか) 二次堆積、人為的に入れられたもの。
- 16 暗褐色土 軽石含む。
- 17 暗褐色土 軽石、焼土粒炭化物多く含む。
- 18 暗赤褐色土 焼土ブロック、炭化物(材)多く含む。

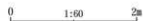


P-3~13

- 1 黒褐色土 白色軽石(大粒) YPK含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック主体とする。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む。(周溝覆土)
- 5 黒色土 ローム粒含む。(周溝覆土)

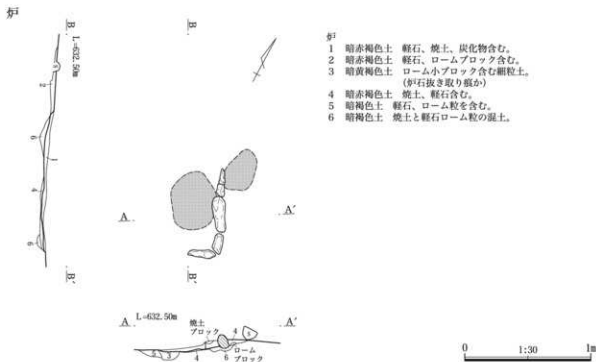
P-14

- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く締まり弱い。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。



第320図 95-54号住居跡(3)

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 暗赤褐色土 軽石、焼土、炭化物含む。
 2 暗赤褐色土 軽石、ロームブロック含む。
 3 暗黄褐色土 ローム小ブロック含む細粒土。
 (※石抜き取り痕か)
 4 暗赤褐色土 焼土、軽石含む。
 5 暗褐色土 軽石、ローム粒を含む。
 6 暗褐色土 焼土と軽石ローム粒の混土。

第321図 95-54号住居跡(4)

れる。その他は破片類が多かった、また土製の腕輪片が出土している。石器は石鏃、石錐が多く見られ、若干の打製石斧や磨石が見られる。その他円盤状の軽石製品と大型の石棒が出土している。

時期・所見 主体部が円形を呈す柄鏡型住居跡である。攪乱や重複などで南半分は不明瞭である。主体部には壁の内側に小礫が小山状になった周礫が円形に廻らされている。95-19号住居跡に見られた方形のものと同所的である。時期はほぼ同時期の後期初頭と考えられる。

95-49号住居跡 (第305・306図：PL.36・205)

位置 I-19グリッドに位置する。 **重複** 95-51号住居跡と西側で重複する。南側は斜面部に掛かり削平されている。 **形状** 円形。 **規模** (260) × 250 × 15cm。 **方位** N-43°-W。

床面 南側は斜面に位置しており、明確な面は確認できなかった。

炉 ほぼ中央に作られる。7個の礫をほぼ円形に据えて構築する。規模は約50 × 50cmである。炉内は焼土はほとんど見られなかった。 **柱穴** 確認できなかった。 **埋壜** 検出されない。

掘方 貼り床、床下土坑は見られない。 **出土遺物** 礫や土器片が見られたが床面よりやや浮いた状態のものが多かった。

時期・所見 やや小型の住居である。黒色土を掘り下げる中で炉が検出されたことから存在が確認された。床や柱穴に関しては明確にし得なかった。時期は中期後半か。

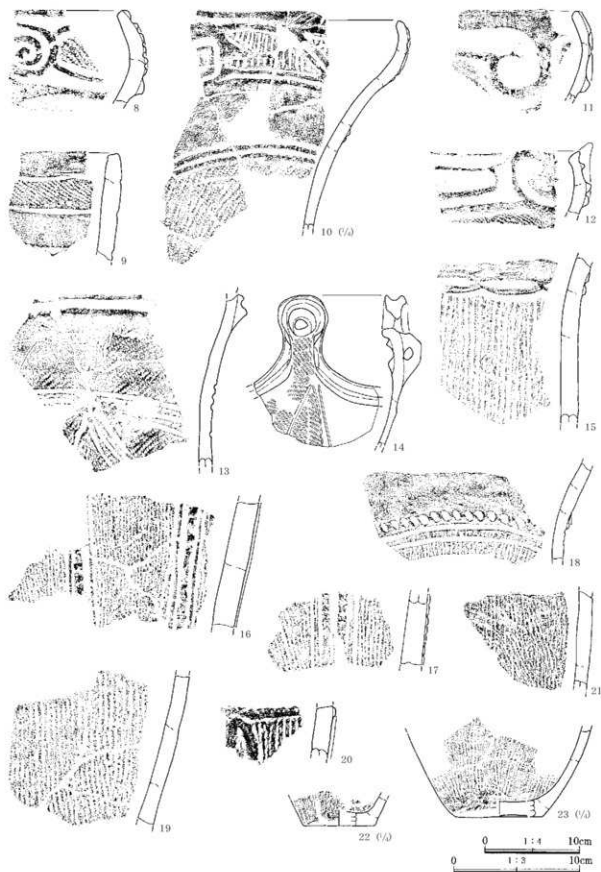
95-50号住居跡 (第307・308図：PL.36・205・206)

位置 G・H-19・20グリッドに位置する。 **重複** 95-44号住居跡に東側を壊される。また、炉の南には95-281号土坑が重複する。本址を切って掘り込まれていると思われるが、下部のみの検出である。

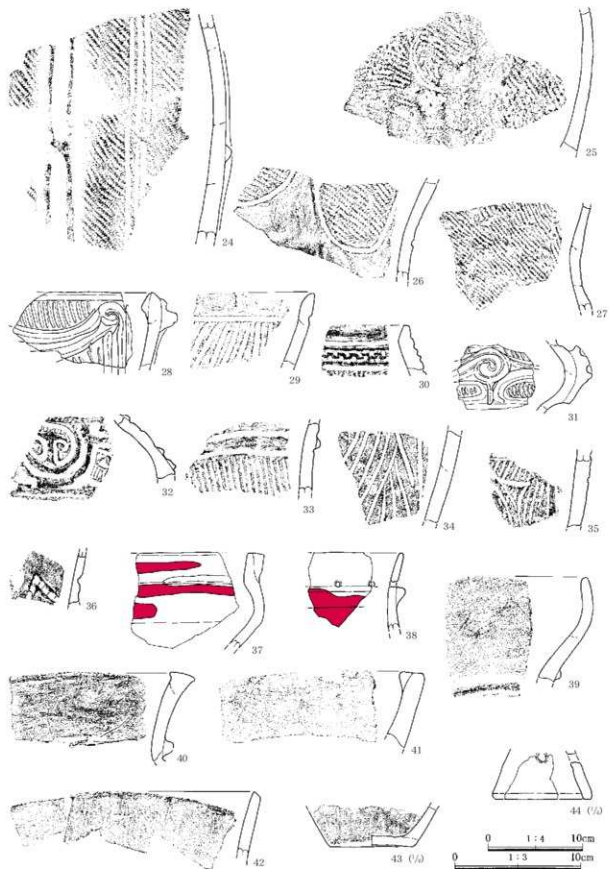


第322図 95-54号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

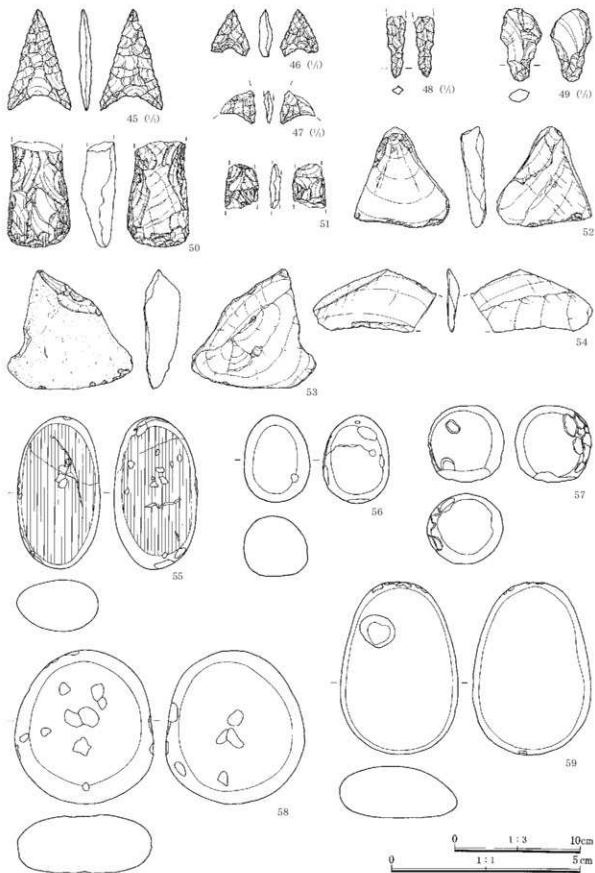


第323図 95-54号住居跡出土遺物(2)

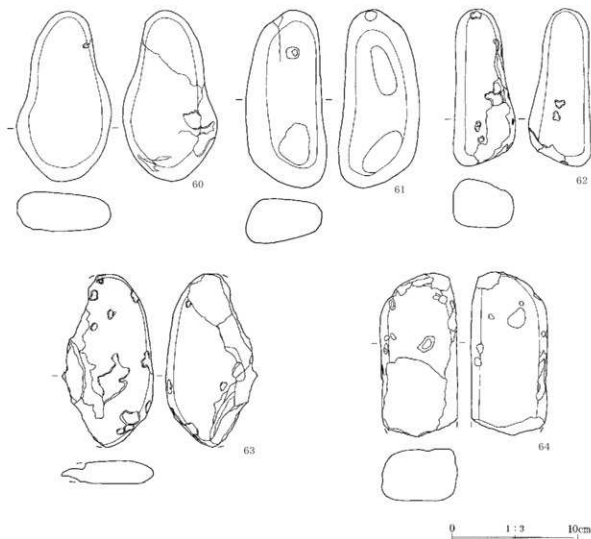


第324図 95-54号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第325図 95-54号住居跡出土遺物(4)



第326図 95-54号住居跡出土遺物(5)

形状 楕円形か。 **規模** (350) × 310 × 20cm。 **方位** 不明。

床面 東側は95-44号住居跡に切られており不明である西側に関しては、ほぼ平坦で硬く締まった状態である。 **炉** ほぼ中央に位置するが、95-44号住居跡の周溝に切られている。このため炉石の一部が転石として検出されているのみである。ほぼ方形の掘方と下面には焼土が見られた。

柱穴 95-44号住居跡のP-23・26は95-50号住居跡の柱穴の可能性が高い。4本柱穴か、前者の2本とP3、P5が相当か。北東部の柱穴は明確ではないが、周溝脇の小ピットが考えられる。柱穴の深さは15～20cmと浅い。 **埋壘** 検出されない。 **掘方** 炉の西側に幾つかの小ピットが検出された。

出土遺物 数点の礫及び土器片が見られたがかなり少ない。

時期・所見 半分を他の住居に切られており、遺存状態はあまり良くない。比較的小型の住居である。時期は中期後半と考えられる。

95-51号住居跡 (第309・310図：PL.36・206)

位置 I・J-19グリッドに位置する。 **重複** 東側に95-49号住居跡が重複するがレベル差がかな

第3章 検出された遺構と遺物

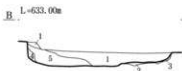
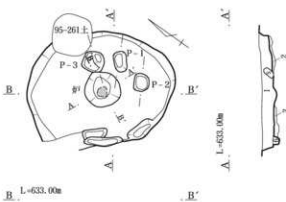
りある。形状 隅丸方形。規模 290×290×80cm。方位 不明。

床面 中央部分が僅かに低くなっている。硬く締まっている。

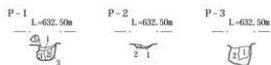
炉 中央からやや南西側に径30cm程に床面が焼土化した部分が認められ、炉と判断した。石や土器などの出土は見られなかった。柱穴 4本の柱穴を検出したが、位置的に対応関係が不明である。P3・4は東壁に掛かって彫り込まれている。P1は大きき的に柱穴とは思えない。埋嚢 検出されない。

掘方 P1が床下土坑の可能性がある。径は約60cm、深さ40cmで覆土中に炭化物が含まれる。

出土遺物 かなり上層より土器が出土しているが、これらの土器類は、本址埋没後の遺物であって関連は無いと考えられる。住居の時期に近いと思われる床面に近い遺物は比較的少なく、若干の土器片および石器類が見られる。



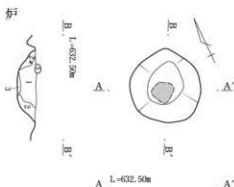
- 1 黒褐色土 ローム粒、褐色粒、炭化物層に含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック層に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒やや多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒多く含むやや軟質。
- 5 黒褐色土 ローム粒、褐色粒やや多く淡黄軽石、炭化物層に含む。
- 6 黒褐色土 白粒、ローム粒、淡黄軽石、炭化物層に含む。



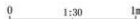
- P-1
- 1 褐色土 ローム細粒と黒褐色土の混土。
 - 2 黄褐色土 1にロームブロックと黒褐色土ブロック層に含む。
 - 3 黄褐色土 1に黒褐色土ブロック混入。

- P-2
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、締まりやや弱い。
 - 2 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。

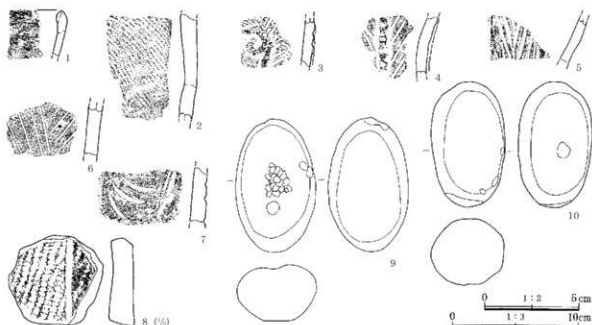
- P-3
- 1 黄褐色土 やや締まる、ロームブロック、ローム粒と黒褐色土の混土。
 - 2 黄褐色土 ローム粒と黒褐色土の混土にロームブロック少量混じる。



- P-1
- 1 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石、炭化物層に含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒少々、淡黄軽石層に含む。
 - 3 黒褐色土 焼土粒と焼土小ブロック混入。



第327図 95-55号住居跡



第328図 95-55号住居跡出土遺物

時期・所見 やや斜面部に掛かる位置に在り、埋没後に黒色土が厚く堆積している。小型の住居で隅丸方形を呈すが、各辺が僅かに外に膨らむ。床面は平坦で、明確な炉は見られなかったが、中央からやや南西に径30cm程の焼土の広がりを認めた。出土土器から時期は中期中葉と思われ比較的古くに位置付けられる。

95 - 52号住居跡 (第311～313図：PL.36・206)

位置 F・G-22・23グリッドに位置する。 **重複** 北に95-327号・西側に120号土坑の一部が重複する。 **形状** 円形と推定される。 **規模** (420) × (420) × 15cm。 **方位** N-30°-W。

床面 平坦であるが硬さは見られない。 **炉** ほぼ中央に作られる。五角形に石を組んでいる。手前側と思われる炉石はやや低く据えられている。 **柱穴** 6本を検出、長径20cm程の長円形を呈し深さは20cm前後である。 **埋塞** 検出されない。 **掘方** 特に見られなかった。

出土遺物 炉の周囲に大きな礫が点在し、炉の近くに広口の壺型土器の大型片が出土している。石器は石鏃および打製石斧が各1点のみである。

時期・所見 上部を削平されており掘り込み面は明瞭ではなく、遺存状況は悪い。時期は中期後半である。

95 - 53号住居跡 (第314～317図：PL.37・206・207)

位置 E・F-22・23グリッドに位置する。 **重複** 中央に95-289号土坑が重複する。

形状 ほぼ円形を呈し、南側入り口部が僅かに張り出す。 **規模** 400 × 430 × 30cm。

方位 炉が検出されなかったことから入り口部の方向から推定、N-18°-E。 **床面** 中央部に95-289号土坑が重複し、やや荒れた状況を呈す。土坑周辺に焼土混じりの炭化物の層が広がる。中には多くの炭化種実が見られた。炭化物層の下には硬く締まった床面が存在する。壁下には周溝が一部途切れる部分もあるがほぼ全周している。

炉 中央部に在ったものと思われるが、95-289号土坑により壊されている。

第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 周溝が途切れる部分に4本の支柱穴および入り口部に2本の計6本が。支柱穴は径約30cm、深さは50～60cmである。 **埋壁** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床、床下土坑等は見られなかった。

出土遺物 土坑の重複もあり、土器、石器等の出土はあまり多くはなかった。奥壁に卵形の大きな石が据えられた状態で出土している。

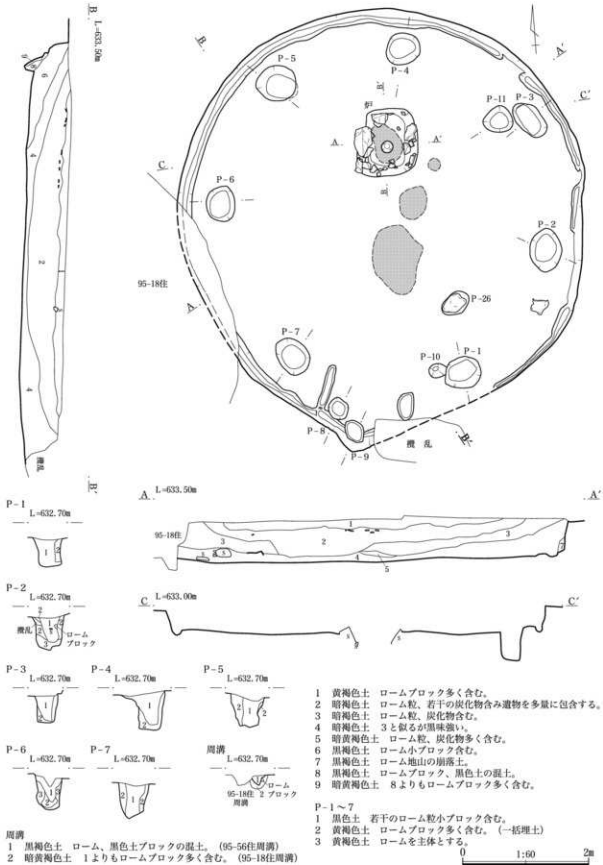
時期・所見 中央に土坑が重複し、葺が失われているが他の部分については残りは良かった。床面には厚く焼土、炭化物が堆積し炭化種実が検出されている。中央に検出された95-289号土坑は住居廃棄後に掘り込まれたもので柱穴と考えられる。土器の出土は少なく、廃棄後焼土、炭化物が投げ込まれたか、火が焚かれたものと考えられる。住居奥に出土した大型礫は何らかの祭祀行為を想定させる。時期は中期後葉。

95-54号住居跡 (第318～326図：PL.37～39・208～210)

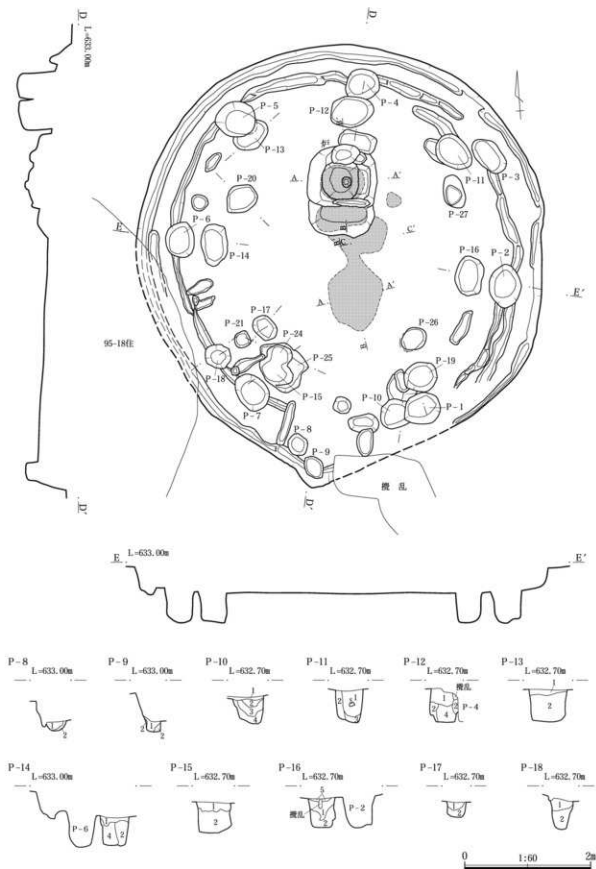
位置 E・F-23・24グリッドに位置する。 **重複** 北側で95-56号住居跡と僅かに重複しこれを切っ



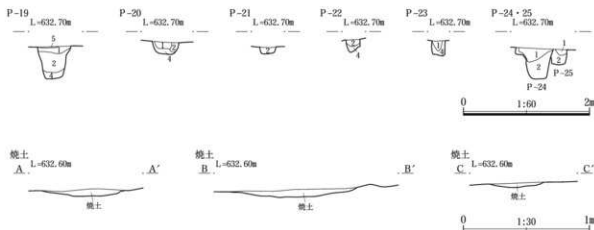
第329図 95-56号住居跡(1)



第330図 95-56号住居跡(2)



第331図 95-56号住居跡(3)



第332図 95-56号住居跡(4)

ている。また、南には95-296号土坑が重複している。さらに、西側には風倒木が在り壁の一部が壊される。

形状 南北にやや長い楕円形を呈す。 **規模** (470) × 400 × 50cm。

方位 N-27°-W。 **床面** かなり凹凸が見られるものの、硬く踏み固められている。床面上には焼土、炭化物が目立ち、さらに壁寄りには白色の軽石が大量にドーナツ状に出土している。住居の中心に横に並んだ径60cm程の土坑(P1・2)が検出された。いずれも本址よりは新しく、右側のP2は深さ70cm、左側のP1は150cmと極めて深い。いずれも掘方がやや袋状を呈す。

炉 ほぼ中央に検出された。川原石がL字状に据えられていたが石は西側にも据えられていたものと考えられる。炉内下面は良く焼けていた。炉の北東側に浅い落ち込みと焼土が検出されている。建て替え前の炉の可能性もある。 **柱穴** 周溝に沿って8本を検出した。この他にやや内側にも4本が検出されている。

埋裏 検出されない。 **掘方** 貼り床や床下土坑等は見られない。

出土遺物 遺物はやや住居の北に寄った部分に多く見られた。また、土器の下位に厚く堆積した軽石層が見られた。ほぼ完形の小型の壺1は軽石に覆われた状態で出土している。

時期・所見 住居の床面上に厚く堆積した軽石が見られる。おそらく住居廃棄時に投げ入れたものと考えられる。土器の多くはこの軽石層の上から出土している。なお、本址の南東約10m程離れた場所に検出された95-246号土坑は、径約2mで軽石層を掘り抜いており、上層には炉状の石組みが検出されている。この軽石は住居内に検出されたものと色や粒径などが酷似しており、供給源の可能性が高い。出土土器の多くが中期後半古期に比定されるもので、信州系のものが多く見られる。

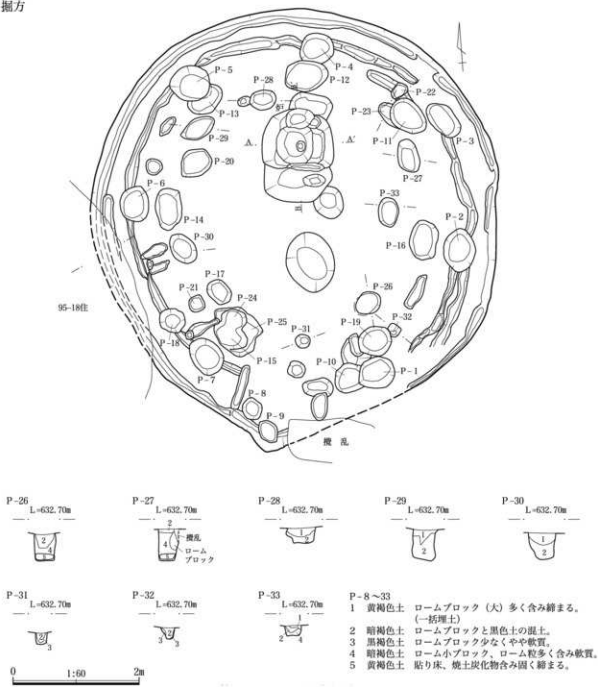
95-55号住居跡 (第327・328図: PL.39・210)

位置 E-22グリッドに位置する。 **重複** 95-40号住居跡の北西部に収まる形で重複し、西側は95-47号住居跡と重複、さらに北壁側には95-261号土坑が重複する。

形状 小型の楕円形を呈す。 **規模** 240 × 180 × 35cm。 **方位** N-50°-E。

床面 細かな凹凸が顕著であるが、比較的硬く締まっている。周溝は見られないが、南側に細長いビット状の掘り込みを認めた。ただ、重複する95-47号住居の周溝とも重なった位置であり、本址に帰属するかは不明である。 **炉** ほぼ中央に作られたており地床炉か、径約60cm、深さ約15cmの円形の掘り込みで、下面に焼土が残る。炉の脇に大型礫が検出されているが炉石ではない。

掘方

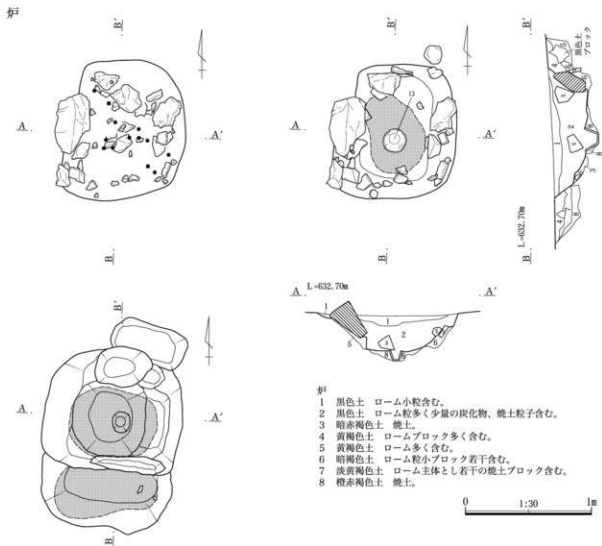


柱穴 明確なもの不明で、炉の周囲に3基のピット検出されている。 **埋壘** 検出されない。

掘方 貼り床、床下土坑等は見られない。

出土遺物 出土遺物は少なかった。土器は小破片が数点と土製円盤が1点出土している。石器については磨石が2点見られる。

時期・所見 95 - 40号住居跡の中にすっぽりと収まり、上部はやや削平されている。小型の楕円形を呈し、95 - 36・39号住居跡に近似する。当初土坑と考え調査を行っていたが、比較的平坦で良く締まった床面様の底面と焼土を伴う落ち込みが確認されたことから住居と判断した。時期は中期後半と考えられる。



第334図 95-56号住居跡(6)

95 - 56 号住居跡 (第329 ~ 347 図 : PL.39・40・210 ~ 216)

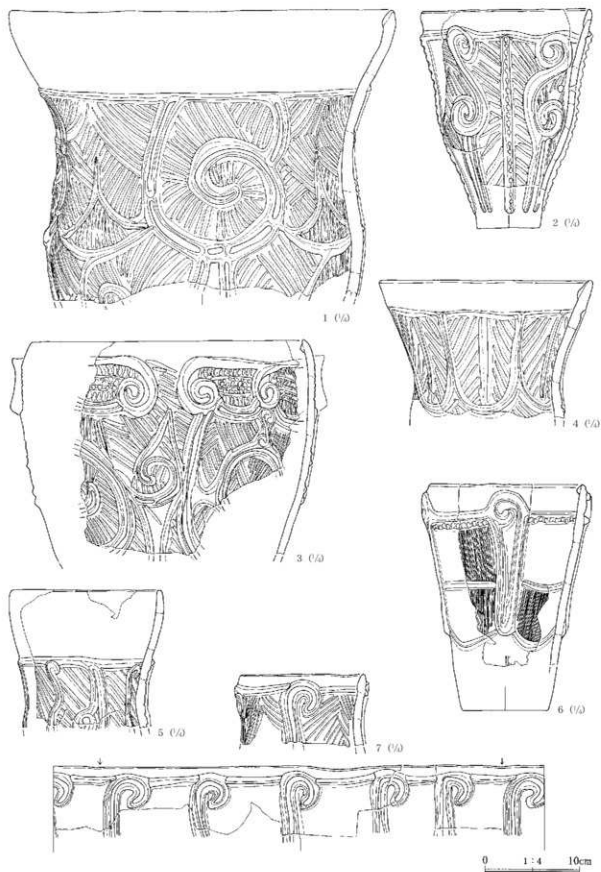
位置 F・G-24・25グリッドに位置する。**重複** 南東側が95-54号住居跡に一部壊され、南西側には95-18・20号住居跡が僅かに重複する。**形状** 大型で円形を呈す。南側入り口部分が僅かに突出する。**規模** 710×650×45cm。**方位** N-8°-E。

床面 平坦で硬く締まる。炉部分からやや南に向かって傾斜が窺える。壁下に周溝がほぼ全周する。上幅20cm、深さは10~15cm程である。南側には入り口施設に関連すると思われるピットや、壁から内側に伸びる長さ70cm程の掘り込みが検出されている。炉の前には部分的に焼土が点在していた。

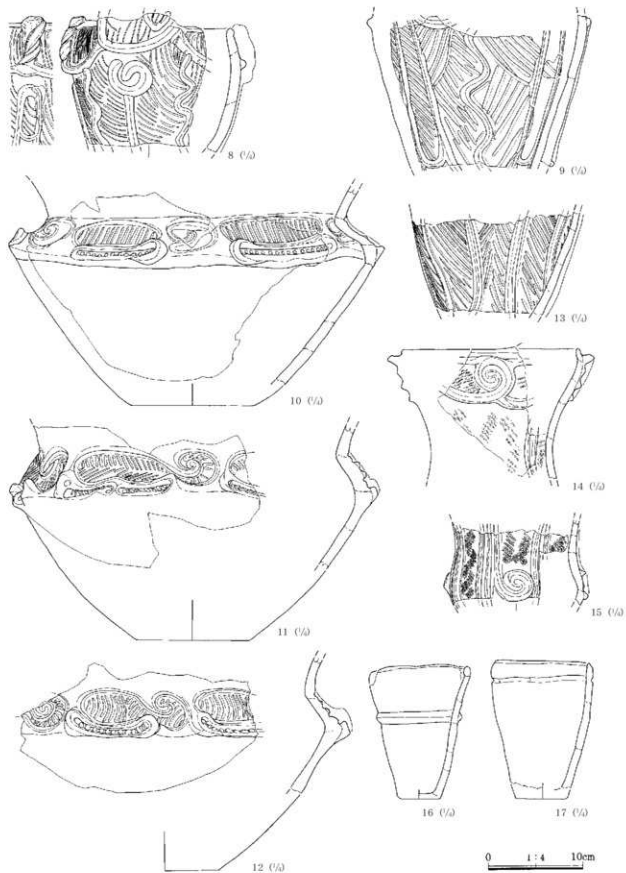
炉 中央やや奥寄りに作られる。一辺約1mの方形石組み炉である。炉石は一部抜き取られていると思われる。残ったものも被熱により割れた状態であった。炉底部中央には炉体土器13が据えられていた。なお、南側には掘方調査時に古い炉の跡が確認されており、住居拡張時に炉を北側に作り直したことが判る。

柱穴 壁に沿って廻らされた7本(P-1~7)を検出した。長径60~70cm、深さは60cm前後である。

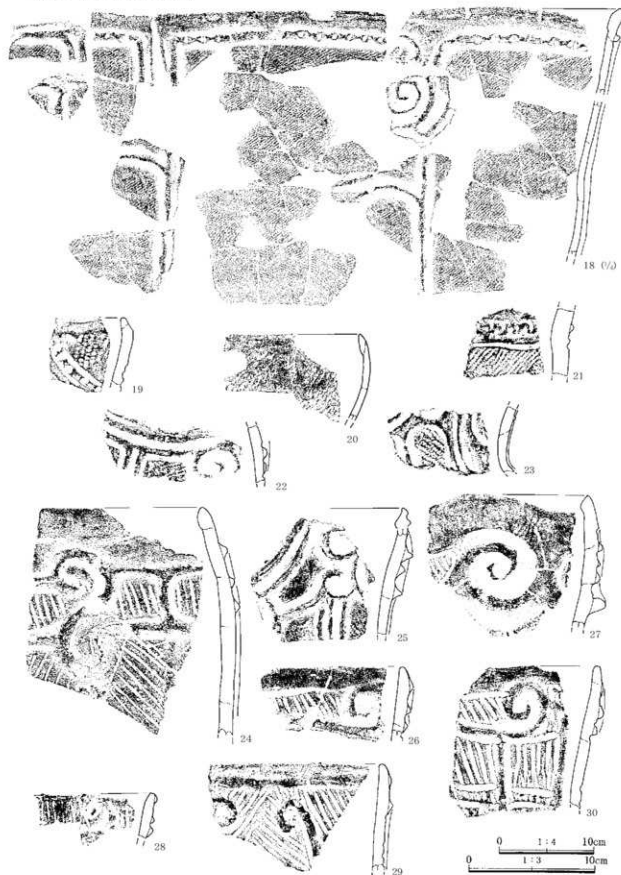
埋裏 検出されなかった。**掘方** 炉の南側にほぼ方形の古い炉の掘方が検出されたほか、古い住居のものと思われる周溝が、廃絶時の柱穴の直ぐ内側に廻っているのが検出された。この周溝のさらに内側にもの



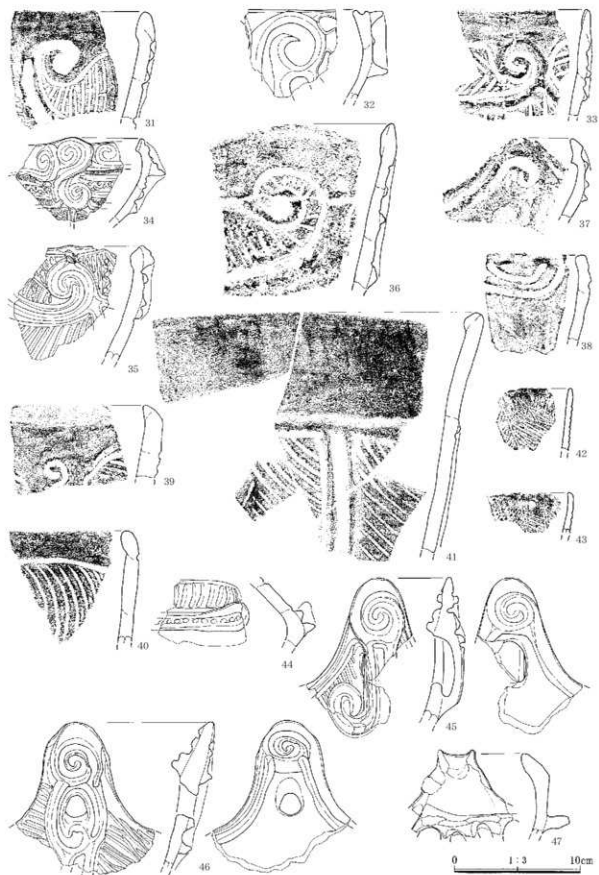
第335図 95-56号住居跡出土遺物(1)



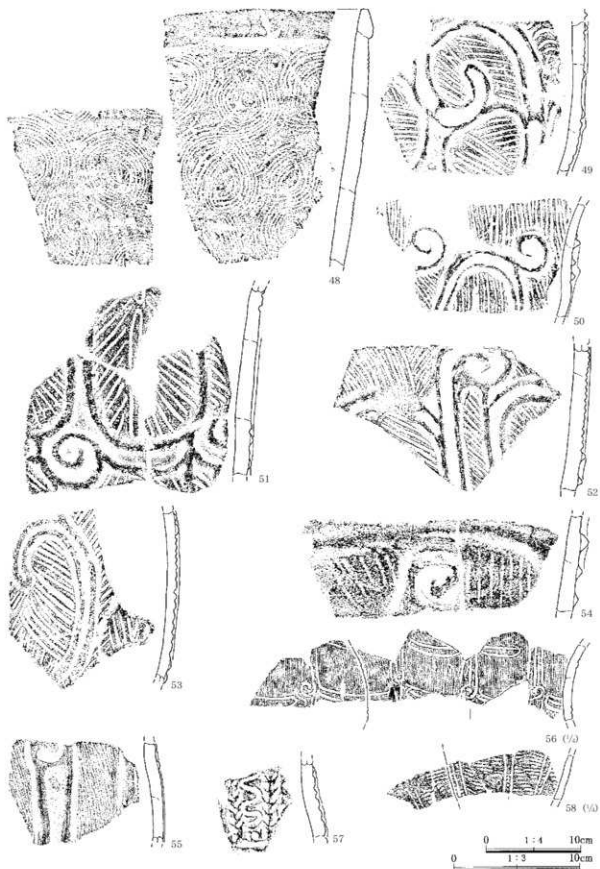
第336図 95-56号住居跡出土遺物(2)



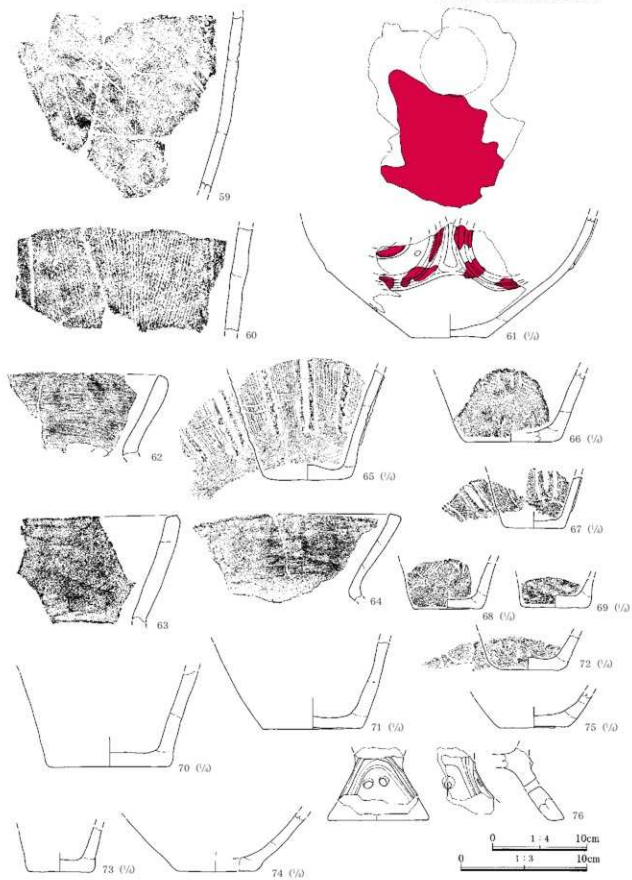
第337図 95-56号住居跡出土遺物(3)



第338図 95-56号住居跡出土遺物(4)

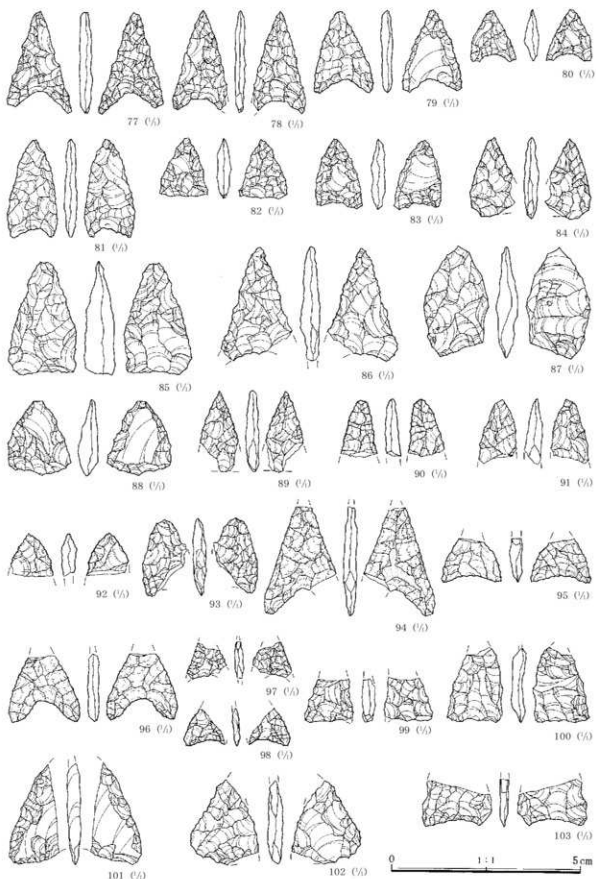


第339図 95-56号住居跡出土遺物(5)

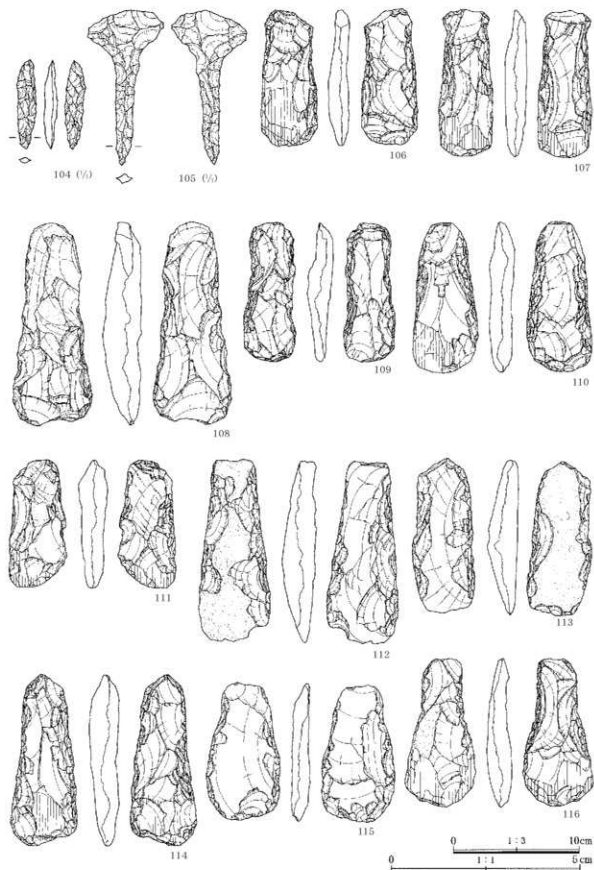


第340図 95-56号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

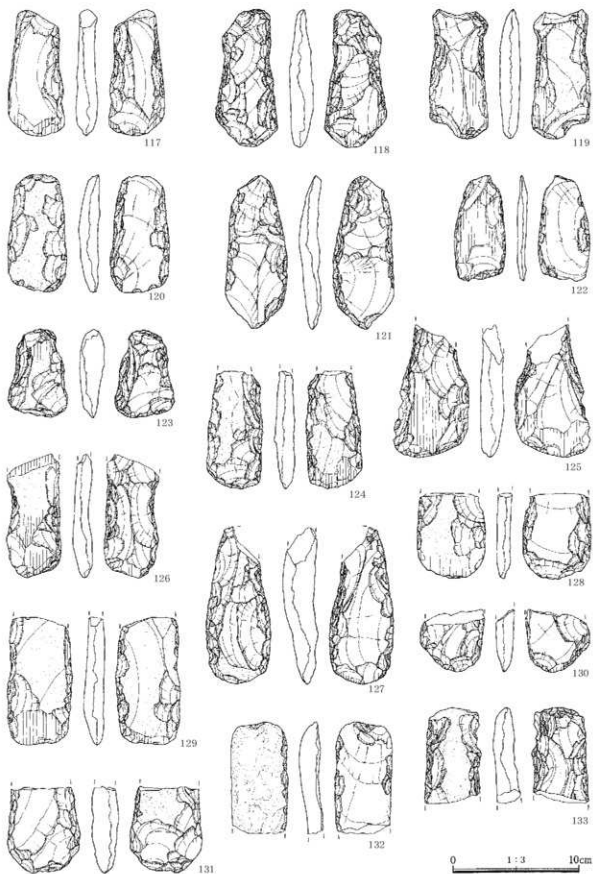


第341図 95-56号住居跡出土遺物(7)

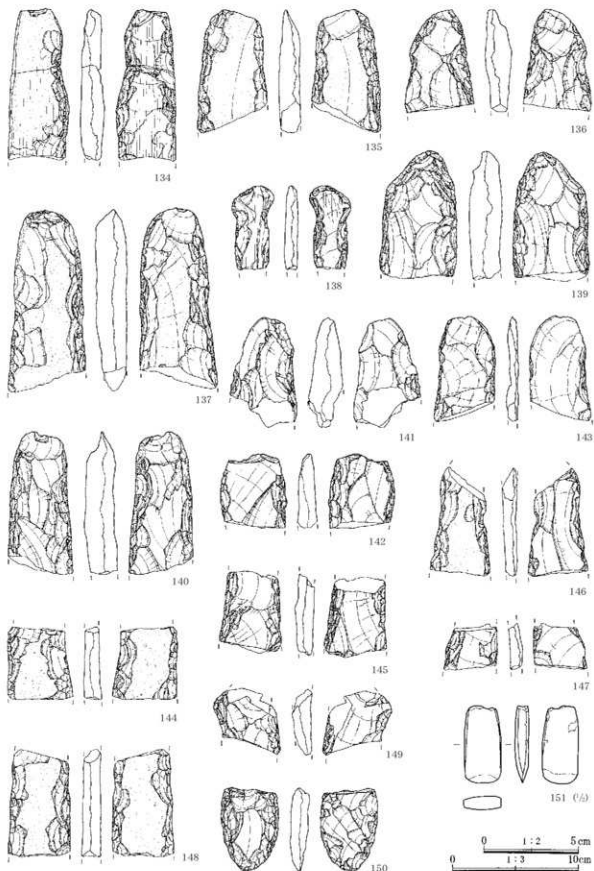


第342図 95-56号住居跡出土遺物(8)

第3章 検出された遺構と遺物

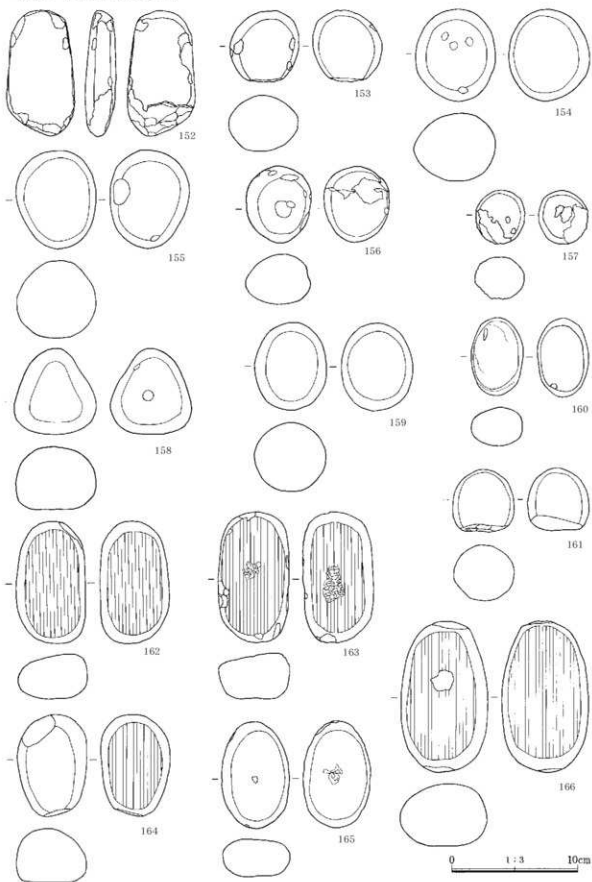


第343図 95-56号住居跡出土遺物(9)

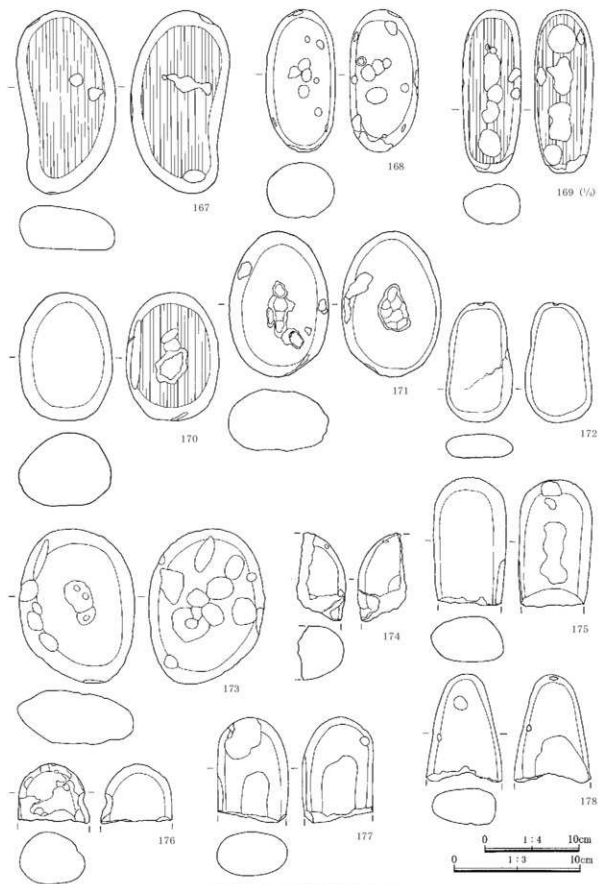


第344図 95-56号住居跡出土遺物(10)

第3章 検出された遺構と遺物

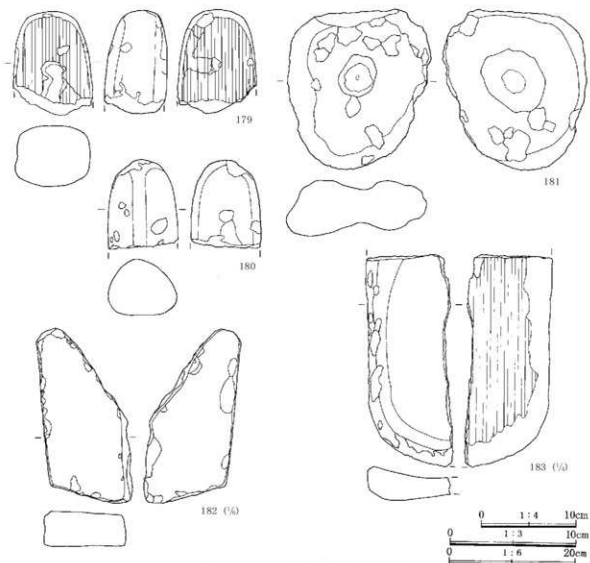


第345図 95-56号住居跡出土遺物(II)



第346図 95-56号住居跡出土遺物(12)

第3章 検出された遺構と遺物



第347図 95-56号住居跡出土遺物(13)

本の柱穴が検出されている。さらに内側にも、ごく部分的にはあるが周溝が見られ、柱穴らしき掘り込みが検出されていることから、少なくとも3回の建て替え(拡張)が想定される。

古い柱穴は上層にローム主体の土が厚く載ることから人為的に埋めていることが窺える。なお、P-26と27の底には平らな石が置かれた状態で検出されている。

出土遺物 覆土中ほぼ全域より多くの土器や石器が出土、特に北西部分に多く集中した状況であった。覆土上層部分から下層にいたるまで多く見られ、大型の破片類も目立った。石器は石鎌、石鎌をはじめ、多くの打製石斧、磨石が出土している。石皿183は半分に分れており、住居南側において下の部分が僅かに埋められ、直立した状態で検出されている。

時期・所見 大型で遺存状態の良い住居である。掘方調査により炉の手に前に古い炉跡が検出され、これに伴う柱穴、周溝も検出されたことから少なくとも3回の建て替えあるいは拡張が確認された。

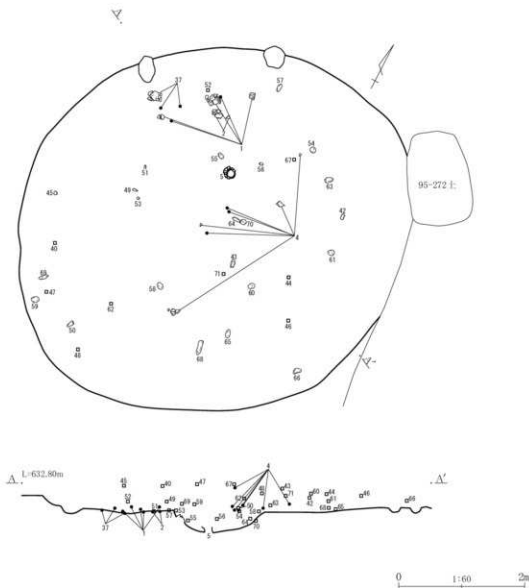
出土遺物は極めて多い。石器特に打製石斧、磨石の多いことが注意される。南側入り口部右に縦に割れた石皿が立った状態で検出されている、おそらく人為的なものと思われるが、性格は不明である。時期は出土土器から中期後半と判断される。

95-57号住居跡 (第348～358図: PL.41・42・216～218)

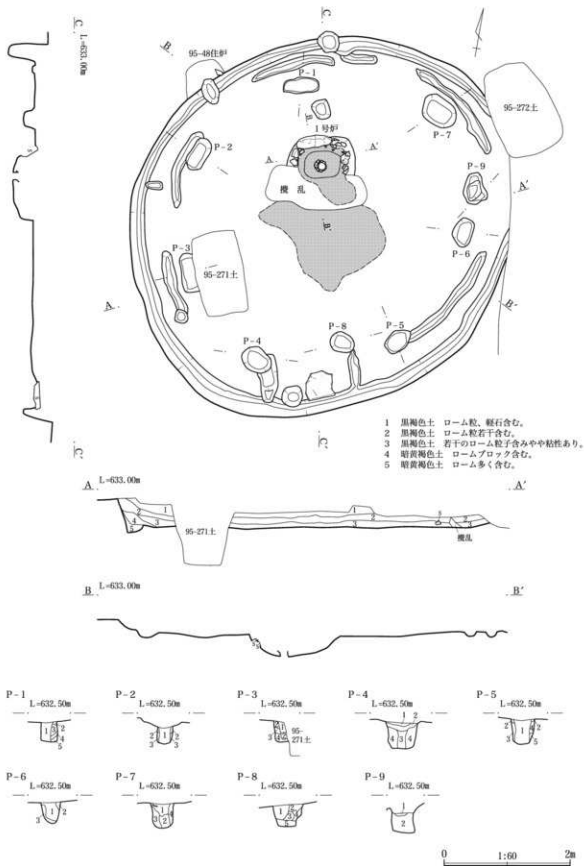
位置 調査区東端、C～E-24・25グリッドに位置する。**重複** 西側部分に大きく柄鏡型住居95-48号住居跡が重なり大きく壊されている。また東側には95-59号住居跡が、北西には95-58号住居跡が重複する。さらに、住居内南西には95-271号土坑(陥し穴)が掘り込まれており、中央部分には近世以降の攪乱坑があり、炉の一部を壊している。**形状** 僅かに東西が長いが、ほぼ円形を呈す。

規模 580×(640)×40cm。**方位** N-12°-W。

床面 掘り込んだローム地山を踏み固め床面としている。比較的平坦で良く締まっている。壁下には幅20cm、深さ20cm程の周溝がほぼ全周している。炉の前面部に大きく広がった焼土層が検出されている。南側入り口部には壁寄りに大きな平石が据えられた状態で出土している。石の両脇には内側に平行に延びる溝状の掘り込みとピットが検出された。

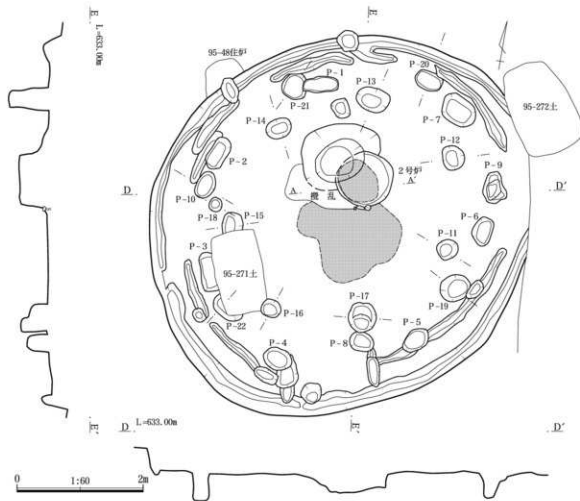


第348図 95-57号住居跡(1)



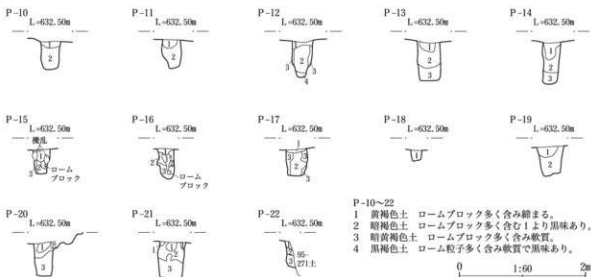
第349図 95-57号住居跡(2)

- P-1
 1 黒褐色土 黄色軽石、ブロックやや多く含む。柱痕か。
 2 暗褐色土 黄色軽石少量、ローム細粒、ロームブロック多く含む。
 3 暗褐色土 締まり弱く黄色軽石、ローム細粒、ロームブロック含む。
 4 黒褐色土 ローム小ブロック、ローム細粒少量含む。
 5 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒僅かに含む。
- P-2
 1 黒褐色土 黄色軽石、ローム細粒、炭化物少量含む。柱痕か。
 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒少量含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒やや多く含む。
- P-3
 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム細粒、炭化物含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック少量、ローム細粒やや多く含む。
 3 暗褐色土 黄色軽石少量、ローム細粒、ロームブロック含む。
 4 暗褐色土 ロームブロック(中)やや多く含む。
- P-4
 1 黒褐色土 黄色軽石、ローム細粒、ロームブロック(小)、白色粒少量混じる。
 2 黒褐色土 ローム細粒やや多くロームブロック(小)、白色粒少量含む。
 3 暗褐色土 黄色軽石、ロームブロック、ローム細粒、白色粒少量含む。柱痕か。
 4 暗褐色土 黄色軽石、ロームブロック(小、中)やや多く含む。
- P-5
 1 黒褐色土 黄色軽石、ローム細粒、白色粒少量含む。柱痕か。
 2 暗褐色土 ロームブロック(小)、ローム細粒やや多く含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック(小、中)やや多くローム細粒少量含む。
 4 暗褐色土 黄色軽石少量、ロームブロック、ローム細粒やや多く含む。
 5 暗褐色土 ロームブロック混在。
- P-6
 1 黒褐色土 黄色軽石、ローム細粒、白色粒、炭化物僅かに含む。柱痕か。
 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒やや多く含む。
 3 暗褐色土 黄色軽石、ローム細粒少量、ロームブロック含む。
- P-7
 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム細粒、白色粒僅かに含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック(小、中)、ローム細粒少量含む。
 3 暗褐色土 ローム細粒やや多く白色粒含む。
 4 にぶい黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- P-8
 1 暗褐色土 黄色軽石やや多くロームブロック(大)混在。
 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム細粒やや多く含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック(小)、ローム細粒多く含む。
 4 暗褐色土 ロームブロック(小、中)少量 ローム細粒多く含む。
 5 暗褐色土 黄色軽石少量 ロームブロック、ローム細粒多く含む。
- P-9
 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム細粒少量含む。
 2 にぶい黄褐色土 黄色軽石少量、ロームブロックやや多く含む。

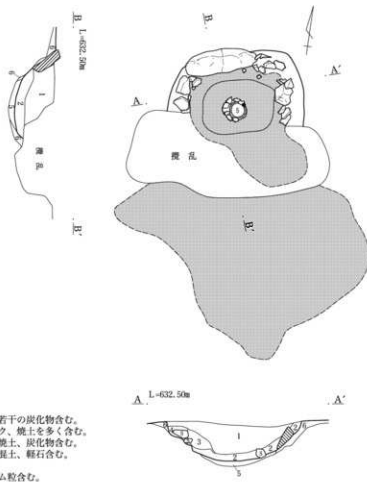


第350図 95-57号住居跡(3)

第3章 検出された遺構と遺物

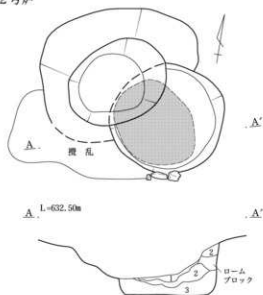


1号炉



第351図 95-57号住居跡(4)

2号炉



- 2号炉(旧)
- | | |
|--------|---------------------|
| 1 赤褐色土 | 焼土層、炉の火床面。 |
| 2 黄褐色土 | ローム土主体土。(一括埋土) |
| 3 黒褐色土 | ローム小ブロック多く含む、焼土含まず。 |

第352図 95-57号住居跡(5)

炉 中央やや奥に作られる。方形の石組み炉と思われるが南側部分は、近世以降の掘り込みで壊されており、北側大型の炉石以外はほとんど残っていなかった。掘方の大きさはほぼ方形で推定110×120cm程である。炉の手前側の床面には炉から続く焼土が広がっていた。炉内中央底部には炉体土器5が据えられていた。掘方を行ったところ、手前右側にほぼ円形で径85cm、深さ約50cmの土坑が検出された。断面中位に厚さ数cmの良く焼けた焼土層が在り、その下には一括埋土のローム主体土が見られた。底面は平らに掘られている。建て替え前の炉と考えられるが、通常の炉の掘方とは形状が異なる。

柱穴 周溝内側に廻る7本と思われる。平面形は長円を呈するものが多かった。長径50～60cm、深さは30～40cmを測る。さらに拡張前の柱穴も検出されている。

埋篋 検出されなかった。

掘方 炉は手前側に古い円形の掘方が検出され、厚い焼土層も認められた。周溝の内側に廻る柱穴も7本が検出された。さらに部分的に途切れた周溝も検出されている。少なくとも2回以上の立て替えが行われたものと考えられる。

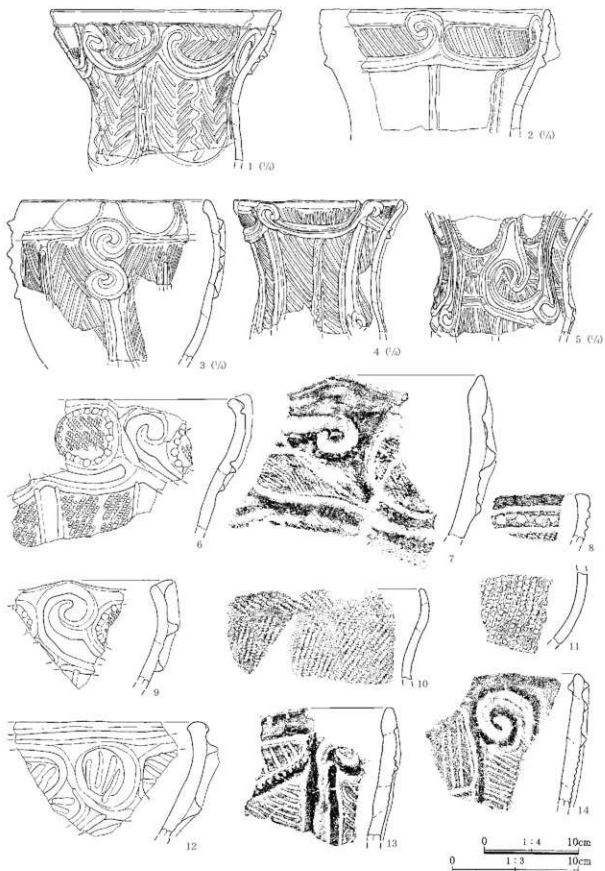
出土遺物 重複もありそれほど多くはなかったものの、土器に関しては覆土中から比較的良好な資料が得られている。石器類は石鎌、打製石斧、磨製石斧、磨石等が出土している。

時期・所見 掘方調査において、建て替え前の炉や柱穴、周溝が確認されたことから建て替え(拡張)が確認されている。廃絶時の住居は比較的大きく、入り口部には平行する2本の溝が見られ、それぞれに浅い掘り込みを伴っていた。さらに、南側入り口部には壁寄りに扁平な大型の石が敷かれ、入り口施設と考えられる。時期は出土土器から中期後半と判断される。

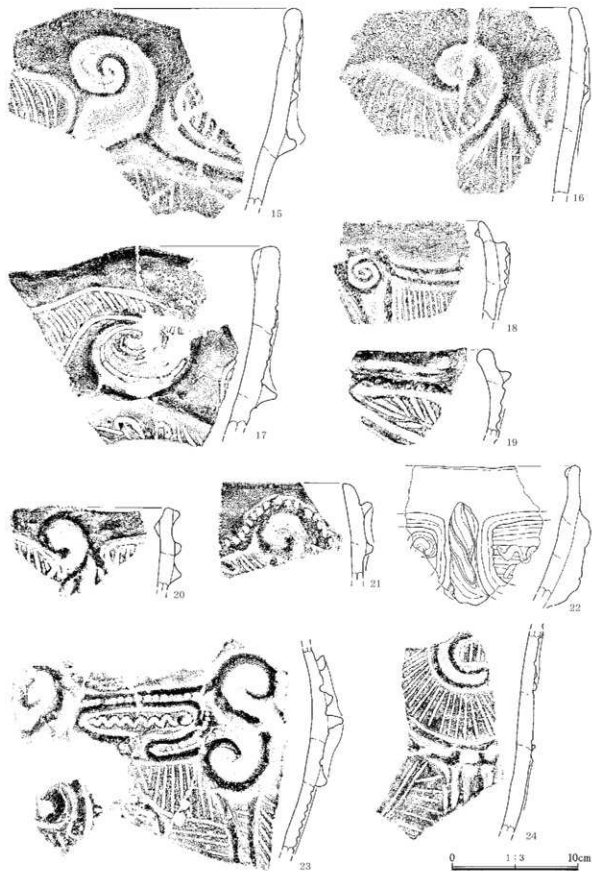
95-58号住居跡(第359～362図:PL.42・219)

位置 E-24・25グリッドに位置する。 **重複** 95-48・57号住居跡に東および南側を大きく壊されている。また、中央部分は近代の耕作溝によりかなりの攪乱を受けている。中央やや北寄りの覆土中に95-7号焼土が確認されている。

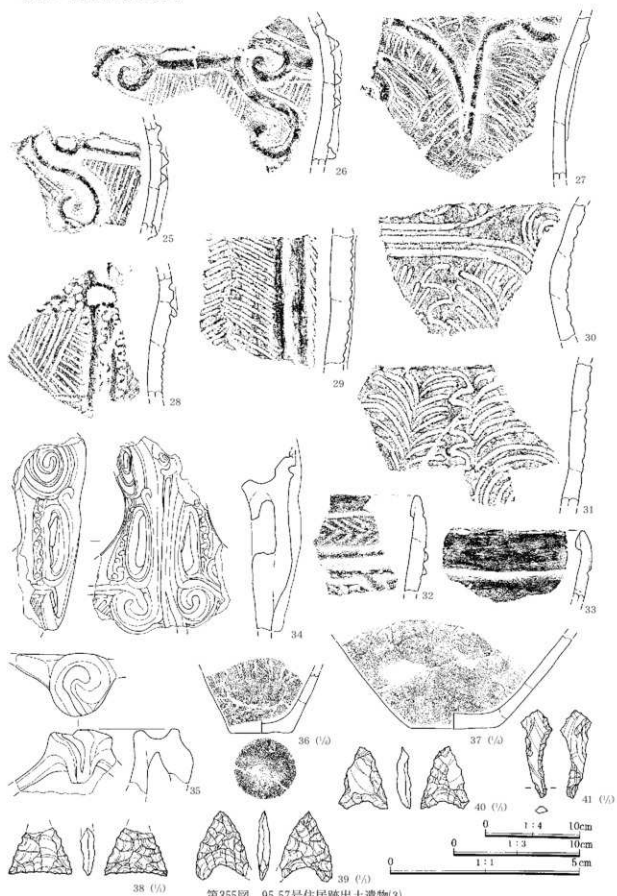
第3章 検出された遺構と遺物



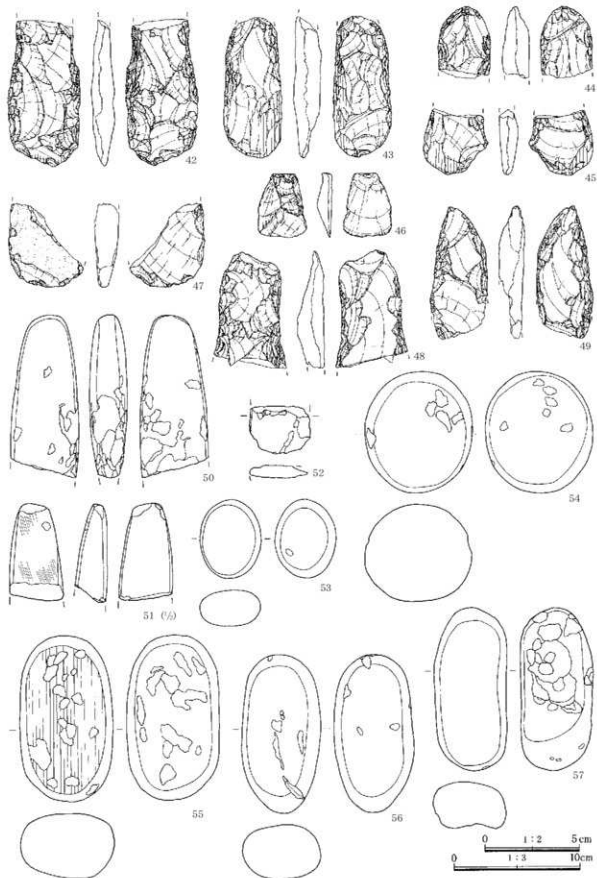
第353図 95-57号住居跡出土遺物(1)



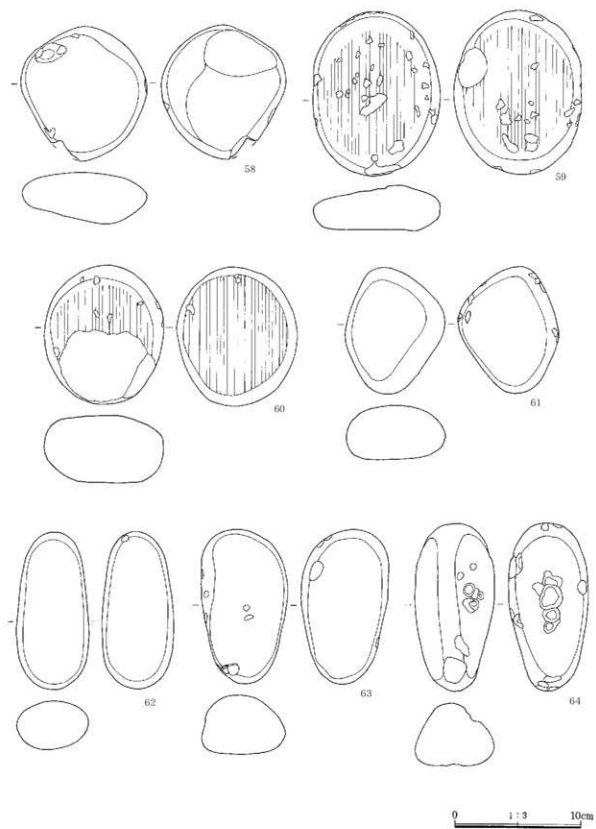
第354図 95-57号住居跡出土遺物(2)



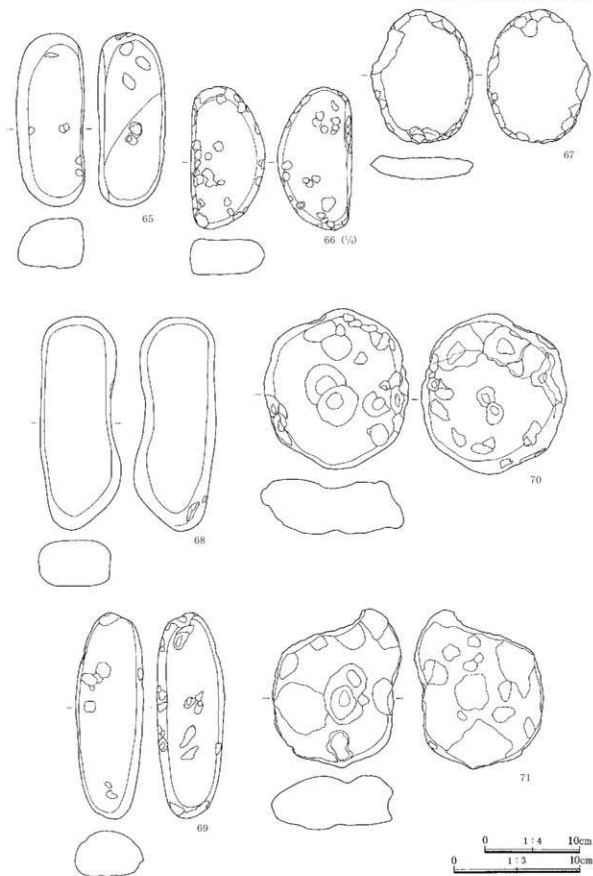
第355図 95-57号住居跡出土遺物(3)



第356図 95-57号住居跡出土遺物(4)

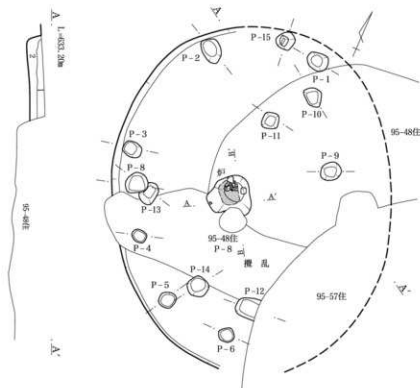


第357図 95-57号住居跡出土遺物(5)

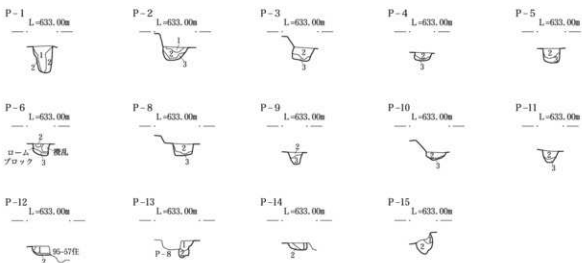


第358図 95-57号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 黒色土 ローム粒含む。
- 2 黒色土 ローム粒、炭化物若干含む。



P-1 ~ 6, 8 ~ 13

- 1 黒褐色土 白色粒子混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック若干含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とする。

P-14

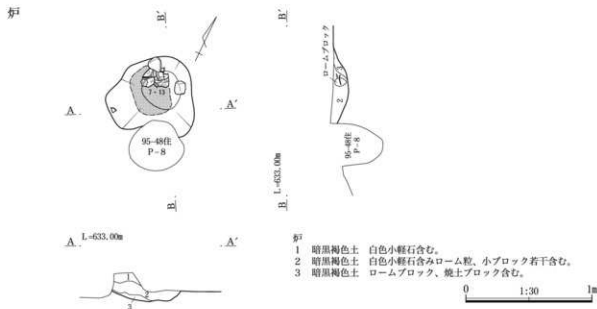
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、締まりやや弱い。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック(小)やや目立つ。

P-15

- 1 黒褐色土 白色粒、黄色粒子微かに含む。
- 2 黒褐色土 YPK、ローム粒、ロームブロック少量含む。

0 1:60 2m

第359図 95-58号住居跡(1)



第360図 95-58号住居跡(2)

形状 南北に長軸を持つ楕円形を呈すか。 **規模** (550) × (440) × 20cm。 **方位** N - 25° - W。

床面 東及び南側は攪乱および重複により削られている。残存する西側部分については、床面として確定できる面は不明瞭で、あまり硬質な感じは無かった。 **炉** ほぼ中央に位置するが、5 - 48号住居により上部をほとんど削られており、僅かに下部の落ち込みが確認された。南側に重複する95 - 48住の柱穴が掘り込まれ一部を壊している。炉石等は見られない。炉内より礫および若干の土器片が出土している。底部には焼土が確認された。

柱穴 壁に沿って8 ~ 10本が配されていたものと思われる。比較的遺存状態の良かった西側では、径30cm前後、深さは20 ~ 40cmを測る。 **埋壘** 検出されなかった。

掘方 床下土坑等は見られなかった。 **出土遺物** 重複により大きく削られていたことから、少なかった。土器類は点在して見られ、炉内からは7・13が出土している。石器類も少なく、僅かに打製石斧片、磨石および石皿片が出土している。

時期・所見 南東部分を大きく失っており、遺存状態は良くない。形状は残存する西側壁の形状および柱穴の位置等から楕円形と想定される。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

95 - 59号住居跡 (第363・364図: PL.42・219)

位置 5C・D - 25・5C・D - 1グリッドに位置する。 **重複** 南側に95 - 57号住居跡が重複し、東側は大きく1号石列(近世)により壊されている。 **形状** 円形か。

規模 不明。 **方位** 不明。 **床面** 残っている範囲については平坦であるがあまり硬化してはいない。

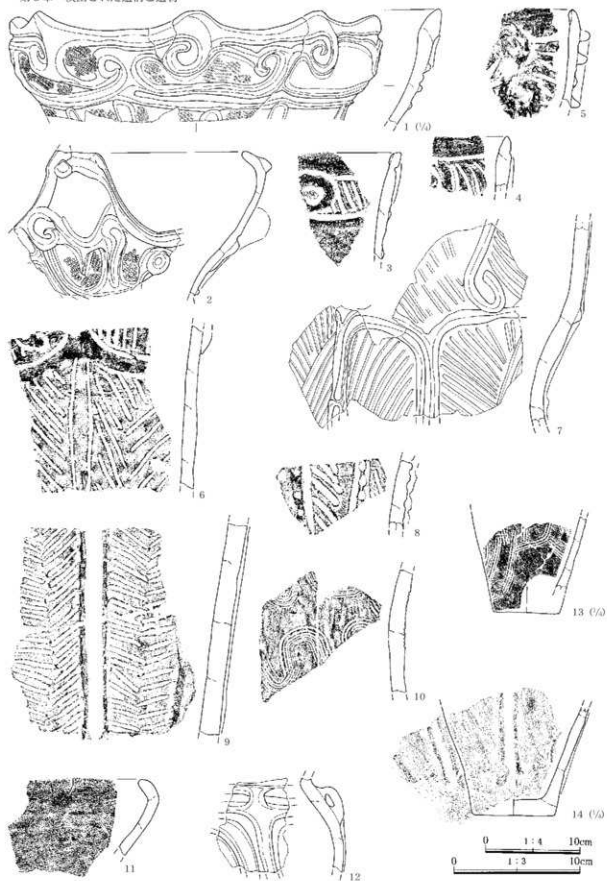
炉 検出されなかった。 **柱穴** 北西部に1本を検出したのみである。径約20cm、深さ25cmである。

埋壘 検出されない。 **掘方** 特に掘り込み等は見られない。

出土遺物 少量の土器片と礫が出土している。

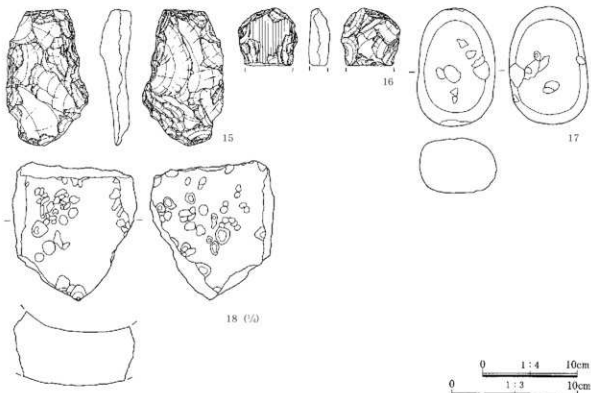
時期・所見 重複する遺構に壊され、確認されたのは北西の4分の1程である。時期は中期後半か。

第3章 検出された遺構と遺物

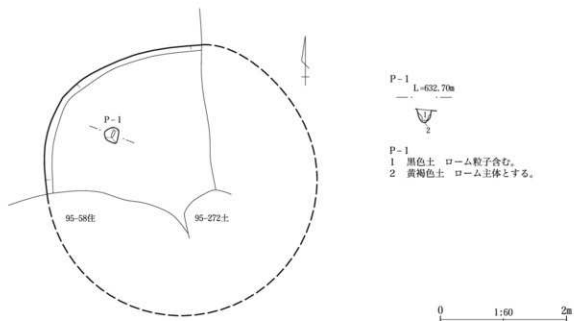


第361図 95-58号住居跡出土遺物(1)

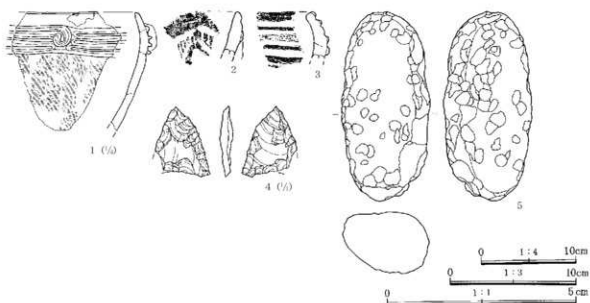
第2節 縄文時代の遺構と遺物



第362図 95-58号住居跡出土遺物(2)



第363図 95-59号住居跡



第364図 95-59号住居跡出土遺物

95 - 60号住居跡 (第365・366図: PL.43・219)

位置 調査区の南端、台地の縁辺部、D・E-20・21グリッドに位置する。**重複** 南に95-41号、北側に95-47号住居跡と重複し、南東部には95-39号住居跡が重複する。これらの遺構をすべて切って構築されたものと思われる。

形状 柄鏡型と思われるが、南側柄部分についてはやや傾斜部分に位置しているために、遺構としては確認されなかった。**規模** 主体部推定(500)×(500)×0cm。**方位** N-0°。

床面 全体がかなり削平されているが、残存面はほぼ平らである。北東に周溝の一部と見られる掘り込みが残るが95-40号住居の周溝の可能性はある。

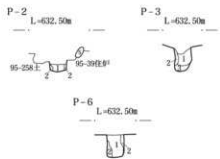
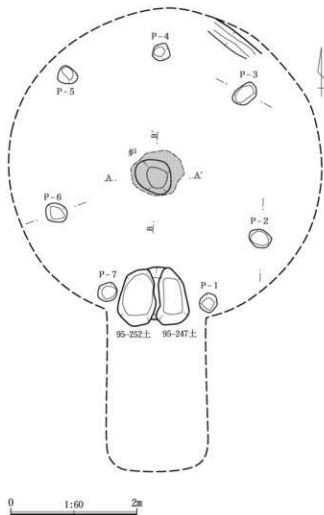
炉 推定主体部のほぼ中央に位置する。径約60cm、深さ10cm程の円形の落ち込みが確認され、落ち込み内底部および周囲に焼土が検出された。炉自体大きく削平されており、炉石や石を据えた掘方等は確認できなかった。炉掘方の下部のみの残存である。

柱穴 炉を円く囲むように7本を検出した。それぞれの径30cm程で、深さは30~40cmを測る。また、南側には対になった土坑(95-247・252号土坑)が検出されている。それぞれ長さ約1mで深さは30cm程である。いわゆる対ビットか。

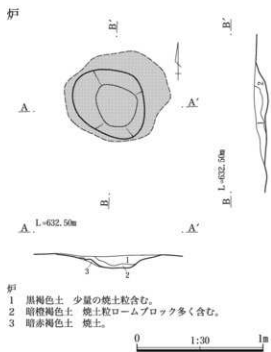
埋壁 検出されなかった。**掘方** 推定の対ビットのみの他は特に無い。**出土遺物** 大きく削平を受けていたことから、本址に帰属すると考えられるものはほとんど見られない。僅かに土器1片と磨石が1点のみである。

時期・所見 上部を大きく削られている。重複する遺構の掘方を行い、周囲を精査したところ、炉の痕跡と円形に廻る柱穴が検出されたことから住居とした。接合部に位置する対ビットと考えられる土坑も、柄鏡型住居と推定した根拠でもある。長軸を南北にとり2穴が接して位置する。掘方もしっかりとしており深さも40cm程ある。柄鏡型の敷石住居であった可能性が高い。時期は後期前半か。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

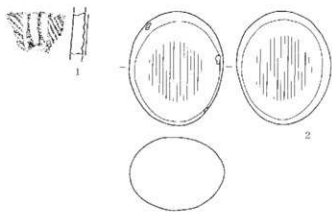


- P-2, 3, 6
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
3 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。



- ♯1
1 黒褐色土 少量の焼土粒含む。
2 暗橙褐色土 焼土粒ロームブロック多く含む。
3 暗赤褐色土 焼土。

第365図 95-60号住居跡



第366図 95-60号住居跡出土遺物

2. 掘立柱建物跡

今回の調査においては、5区の2・3・4・5・8号、95区の3・4号の計7棟を検出した。なお、全体図には95-22号住居跡が記載してあるが、いわゆる平地式住居である。広義に見れば掘立柱建物跡と呼べることから含めておくこととした。遺構の説明に関しては他の竪穴住居跡の中で扱っている。

調査区の北側、遺跡の載る台地の谷地寄りに在る。5区から95区の北側において、径約30mの円内に収まるように配列されている。いわゆる亀甲型のもの（5-2・5号）が2棟、その他は長方形で柱の数は6～10本である。柱は基本的には6本であるが、5-2号は棟持ち柱を除いて8本である。また、95-3号は長方形で中央にも心柱を持つ9本である。

規模は5-3・8号が梁行き長4.8m程で、他のものは棟持ち柱を除いた梁行き長は6m前後を測る。柱穴については、5-2・3・8号はやや小さく、径30～40cm前後で深さが50cm前後であるのに対して、5-4・5、95-3・4号は径70～100cm、深さは80～100cmを超えるものも多く見られる。柱穴規模から、径が50cm程のものと、径約1m前後の大型のものに大別される。

建物の配置を見ると、前述した様に、円形を意識した配置であることが判る。95-3号を除いて、長軸を方向を変えて、円陣を組むような形状を示している。軸方向を同じにするものは無く、僅かずつ向きを変えて建てられている。5-4号と5号のように、近接するものがあることから、これら総てが同時に存在していたものとは考えられないが、複数棟の同時存在が考えられる。

検出されたこれらの掘立柱建物跡は、住居と重複しているものが多いが、建物により囲まれた中については住居、土坑の分布が希薄となっているように思われる。集落内において何かしらの規制が働いていた事を想起させるものである。

さらに、建物の施設について特記される事象として、建物内に検出された炉の存在である。5-4号および95-3号には明らかに建物に伴うものと考えられる炉が検出されている。5-4号では長軸に沿ってほぼ中央に3基の焼土が並び、95-3号では北西寄りに炉石を持つ大型の炉が検出されている。

平成14年度の調査において検出されている掘立柱建物跡にも、2棟の建物内に焼土が確認され、報告では確定できなかったが、今回の調査において明らかに伴う形で検出されたことから、本遺跡においても炉を持つ掘立柱建物跡の存在が確認されたことになる。

さらに、5-4号、95-3号では、建物の南側の柱寄りに埋裏が検出されている。建物に帰属する可能性が高いと考えられる。両者共に炉を伴っており、通常の住居と同様の施設が作られていたことは重要視されるものである。これら掘立柱建物跡の構築時期は、時期は中期後半から後期にかけて構築されたものと考えられる。

5-2号掘立柱建物跡（第368・369・371図：PL.43・44・220）

位置 K・L-2～4グリッドに位置する。 **重複** P-8と9はそれぞれ5-147・148号住居跡と重複し、これらを切っている。また、P-10は5-1122号土坑（陥し穴）に西半分を壊されている。

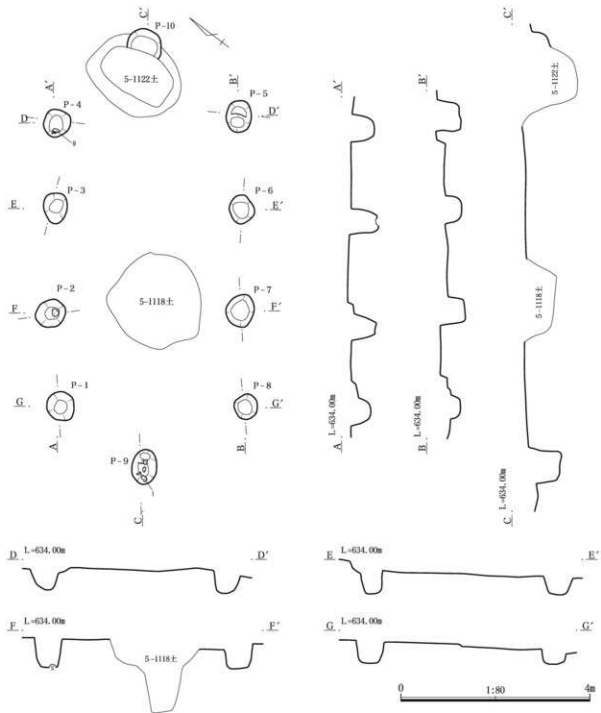
形状 亀甲型。 **規模** 桁行（棟持ち間）900cm、梁行390cm。 **方位** N-54°-E。

床面 - 炉 無し。 **柱穴** 10本。 **埋裏** 無し。 **出土遺物** ほとんど見られなかった。

時期・所見 棟持ち柱が外に張り出す、いわゆる亀甲型である。それぞれの柱穴はあまり大きくはなく、径50cm前後、深さは50～60cmである。断面に一部柱痕が観察されている。

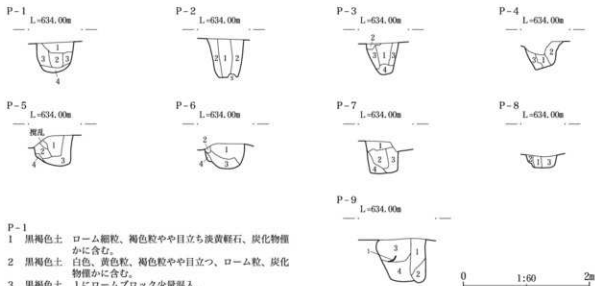
5-2号掘立 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10
径(cm)	65	70	70	60	70	70	70	60	80	75
深さ(cm)	50	60	50	50	50	40	50	20	70	40
備考		柱痕	柱痕					柱痕	棟持柱	棟持柱



第368図 5-2号掘立柱建物跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



P-1

- 1 黒褐色土 ローム細粒、褐色粒やや目立ち淡黄軽石、炭化物層かに含む。
- 2 黒褐色土 白色、黄色粒、褐色粒やや目立つ、ローム粒、炭化物層かに含む。
- 3 黒褐色土 1にロームブロック少量混入。
- 4 黒褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ロームブロック(小)、淡黄軽石少々。

P-2～5・8

- 1 黒褐色土 白色、黄色、褐色粒やや目立ち淡黄軽石、ロームブロック層かに含む。
- 2 黒褐色土 1似るが、ロームブロックの混入目立つ。
- 3 暗褐色土 ローム細粒、ローム粒やや多く淡黄軽石少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

P-6

- 1 黒褐色土 軽石粒、炭化物、ローム粒、小角礫層かに含む。
- 2 黒褐色土 1似るが、ロームブロックの混入目立つ。
- 3 黒褐色土 ローム粒、小角礫(小) 淡黄軽石層かに含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

P-7

- 1 黒褐色土 白色粒、黄色粒、褐色粒、淡黄軽石、炭化物層かに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物層かに含む。
- 3 黒褐色土 2に似るがローム粒がやや目立つ。
- 4 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

P-9

- 1 黒褐色土 白粒、黄粒、褐色粒やや多い、ローム粒、ローム細粒、淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ローム細粒やや多く淡黄軽石層かに含む。
- 3 暗褐色土 白色粒、黄色粒、褐色粒少量、ローム粒、ローム細粒、ロームブロック多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム細粒、ローム粒、小ブロック少量含む。

第369図 5-2号掘立柱建物跡(2)

5-3号掘立柱建物跡(第370・371図:PL.44・45・220)

位置 K・L-1グリッドに位置する。**重複** 確認面は耕作溝に壊され荒れていた。5-147号住居跡と重複。**形状** 長方形。**規模** 桁行450cm、梁行230cm(西)・210cm(東)である。

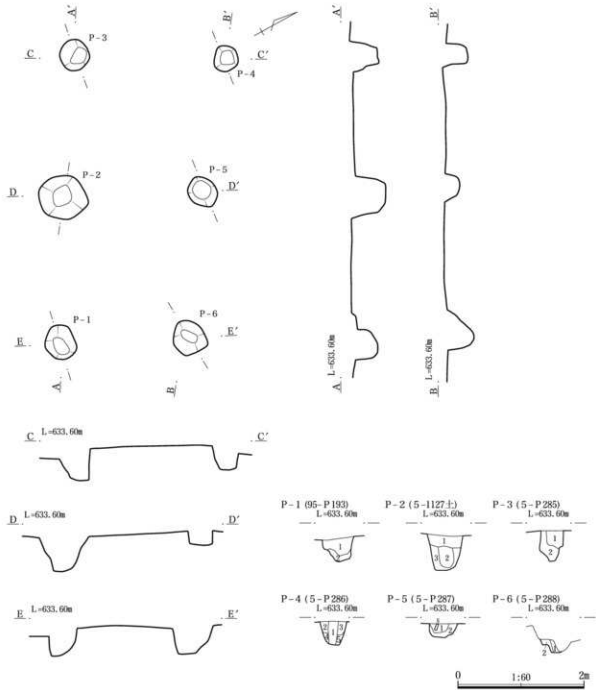
方位 N-58°-W。**床面** 確認されず。**炉** 建物中央やや西寄りに径70cm程の焼土を検出して、本址に付帯する可能性を指摘しておく。また、焼土下に土坑(5-1130号土坑)が検出されているが断面の観察で直接的な関連は確認できなかった。**柱穴** 6本。最大径80cm、最小は40cm、深さは約50cmである。いずれも浅い掘り込みである。**埋塞** 無し。

出土遺物 柱穴内より僅かな土器片等が出土しているが、本址の時期を決定するには至っていない。

時期・所見 各柱穴の径はP2を除き50cm前後で深さは30～50cmとあまり深くはない。また、柱痕はP2・4において確認された。時期は明確には確認できないが縄文後期か。

5-3号掘立柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
径(cm)	50	75	50	40	45	50
深さ(cm)	45	55	50	40	25	50
遺構番号	95-193ビット	5-1127土	5-285ビット	5-286ビット	5-287ビット	5-288ビット
備考		柱痕		柱痕	やや浅い	



P-1

- 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックやや多く淡黄軽石少量含む。

P-2

- 1 暗褐色土 白色、褐色粒、ローム粒、淡黄軽石含む。
- 2 暗褐色土 ローム細粒、ローム粒多く含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックと黒褐色土の混入。

P-3

- 1 黒褐色土 白色、褐色粒、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 1にロームブロック多く混入。

P-4

- 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒少々。淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土 白色粒少々。ローム粒、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石、ローム粒少量。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(小)多い。淡黄軽石混入。
- 5 黒褐色土 1にローム細粒ブロック混入。

P-5、6

- 1 黒褐色土 白色粒、褐色粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1に淡黄軽石混入。

第370図 5-3号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物



第371図 5-2・3号掘立柱建物跡出土遺物

5-4号掘立柱建物跡 (第372~375図; PL.46~48・220・221)

位置 G・H-2~4グリッドに位置する。 **重複** 5-152・154号住居跡と重複しこれを切って構築されている。 **形状** 長方形。 **規模** 梁行600cm、桁間320cmであるが、南側柱穴間は僅かに広がる形状を呈す。

方位 N-8°-E。 **床面** 中央に長軸に沿って南北に並ぶ焼土を主体とした炉が検出されていることから、平地式の建物と考えられる。炉の周囲は比較的平坦で、やや締まりも認められた。

炉 中央部に縦位方向にブロック状の焼土(7・8・9号焼土)が検出され、本址に伴う炉であると考えられる。7号焼土中央には礫が据えられている。7・8号焼土は近接するが、9号焼土は北側に2m程離れて位置する。いずれも、不定形に焼土が広がり、中央部分が厚く良く焼けている。掘り込みは見られない。

柱穴 検出した6本中5-145号土坑を除いた総てに柱痕が確認されている。柱痕径は20~30cmで、柱穴のほぼ中央に黒色土柱として観察された。柱穴の径は最大が約1mで最小が約70cmである。深さは90~130cmを測る。

埋裏 南端の柱穴間に深鉢の下半部が埋められた状態で検出されている。(5-16号埋裏)。当初単独の埋裏として調査を行ったが、本址南側の柱穴間に位置しており、本掘立柱建物跡に帰属する可能性があるものと判断した。

出土遺物 炉内および柱穴内から若干の土器片が出土している。

時期・所見 確認面が表土下約30cmと浅い。柱穴の径は最大が1.3m、最小が0.7mで、深さは90~130cmである。6本中5本に柱痕が見られた。時期は埋設土器から中期後半と判断される。95-3号掘立柱建物跡と共に、炉を有す例として特筆される。

5-4号掘立 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
径(cm)	95	80	70	80	100	100
深さ(cm)	120	105	90	90	90	130
遺構番号	5-1141土	5-1146土	5-1147土	5-1148土	5-1149土	5-1145土
備考	柱痕	柱痕	柱痕	柱痕	柱痕	

5-5号掘立柱建物跡 (第376~378図; PL.48~50・221)

位置 F・G-1~3グリッドに位置する。 **重複** 5-4号掘立柱建物跡の東に近接、5-154号住居跡と重複し、これを切って構築されている。 **形状** 亀甲型。 **規模** 880cm×330cm。

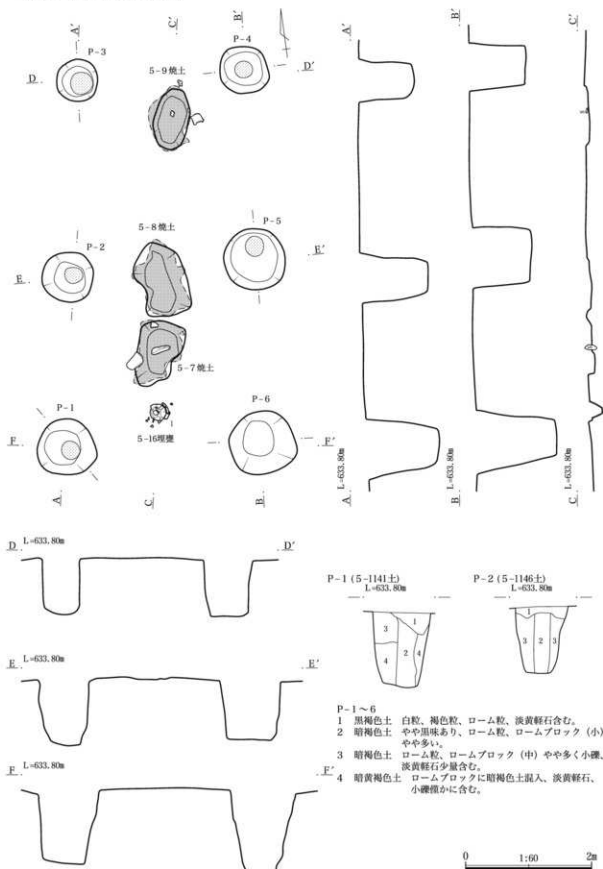
方位 N-21°-E。 **床面** - 炉 検出されなかった。

柱穴 棟持ち柱を入れ計8本である。一覧表にある、5-1140・1215・1216・1222・1218・1217・1219・1144号土坑が相当する。各柱穴の規模は径75~90cm、深さは80~100cmを測り、底面は平らになっている。比較的大型の柱穴である。多くの断面に計20cm程の柱痕が確認されている。棟持ち柱のP4およびP8はそれぞれ40、70cmと掘り込みがやや浅くなっており、柱痕も見られなかった。P7には上層部に根巻き石と思われる大型の角礫が、柱を囲うように配されていた。

埋裏 検出されなかった。 **出土遺物** 柱穴から僅かに土器の破片が見られているに過ぎない。

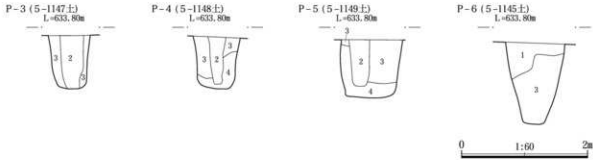
時期・所見 中期後半代の住居埋没後に構築されていることから、時期はこれ以降と考える。切り合い関係などから中期後半末としておきたい。

第3章 検出された遺構と遺物



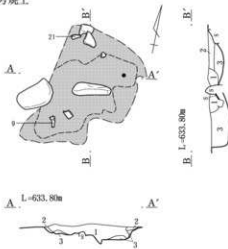
第372図 5-4号掘立柱建物跡(1)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

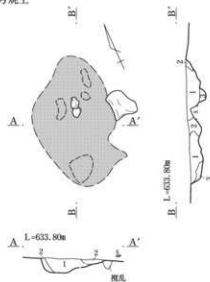


5¹

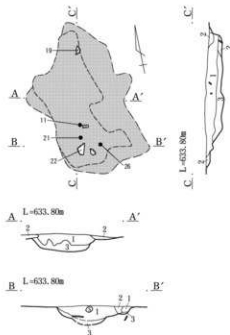
5-7号焼土



5-9号焼土



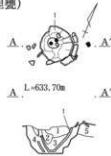
5-8号焼土



5¹ (5-7~9号焼土)

- 1 暗褐色土 焼土ブロック多く含み、締まり弱い。
- 2 暗褐色土 淡黄褐色軽石層かを含む。
- 3 暗褐色土 2に似るが橙色の焼土を層かに混入。

埋壺 (5-16号埋壺)

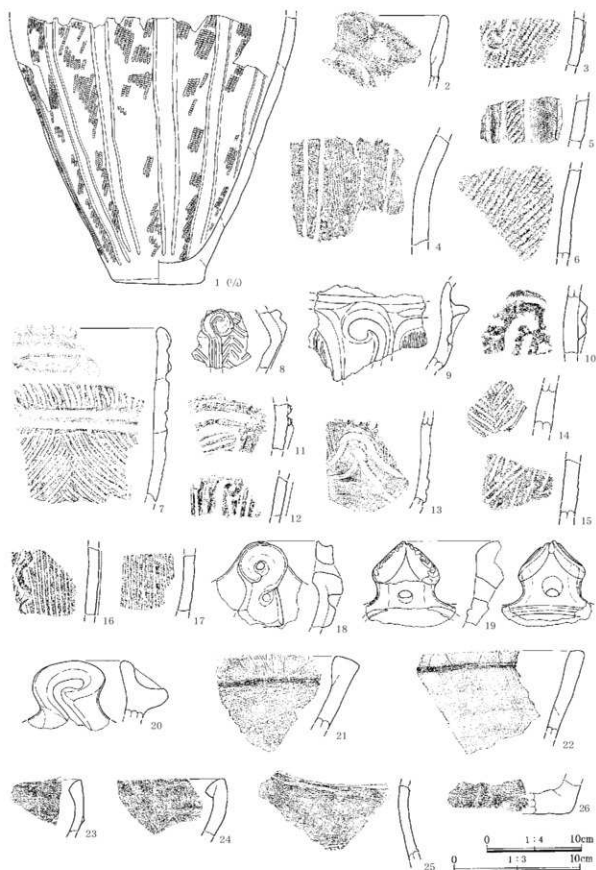


埋壺 (5-16号埋壺)

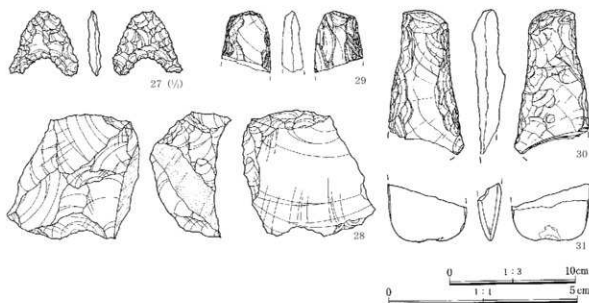
- 1 黒褐色土 ローム粒、軽石含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、軽石含む。
- 4 黒色土 軽石含む。
- 5 暗褐色土 若干の焼土粒含む。



第373図 5-4号掘立柱建物跡(2)



第374図 5-4号掘立柱建物跡出土遺物(1)



第375図 5-4号掘立柱建物跡出土遺物②

5-5号掘立 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8
径(cm)	80	90	80	75	80	80	80	75
深さ(cm)	100	90	80	40	85	90	90	70
遺構番号	5-1140土	5-1215土	5-1216土	5-1222土	5-1218土	5-1217土	5-1219土	5-1144土
備考		柱痕	柱痕	やや浅い	柱痕	柱痕	柱痕	

5-8号掘立柱建物跡 (第379図: PL.51)

位置 H・I-4・5グリッドに位置する。重複 5-146号住居跡に重複し、これを切って作られる。

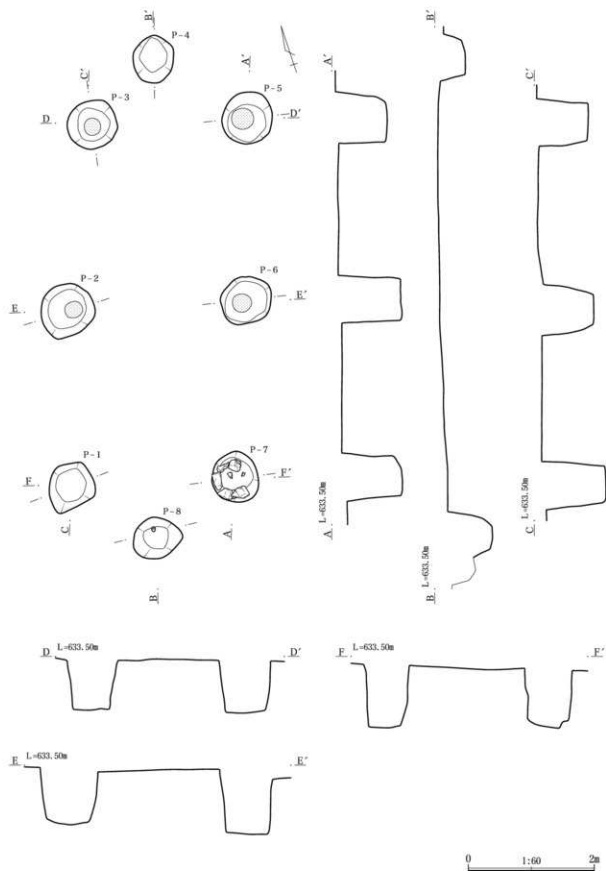
形状 長方形 規模 桁行480cm、桁間220cm。方位 N-30°-W。

床面 - 炉 検出されなかった。柱穴 6本。5-1162・(1163)・1166・1171・1175・1181・1185号土坑が相当する。出土遺物 柱穴内からの出土は見られなかった。

時期・所見 調査時には認定できなかったものである。柱穴の径は30~60cmで、深さは30~55cmとかなり浅い。おそらく上面を削られているものと考えられる。P1とP5の断面には柱痕状に縦方向の層が見られた。規模および柱穴の大きさなどから、他掘立柱建物跡比して、やや小型の建物が想定される。また、周辺部には多くのピットが検出されており、他にも建物の存在が想定されるが、明確なものは認定されなかった。時期は後期か。

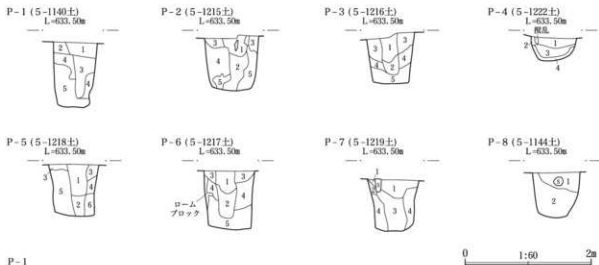
5-8号掘立 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
径(cm)	50	50	60	30	60	30
深さ(cm)	55	45	40	40	55	45
遺構番号	5-1185土	5-1175土	5-1166土	5-1162土	5-1171土	5-1181土
備考	柱痕				柱痕	



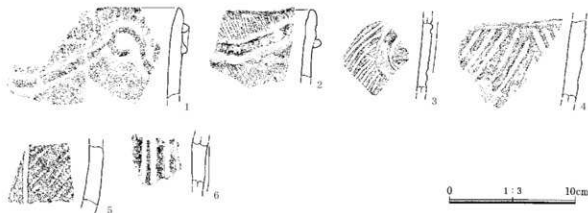
第376図 5-5号掘立柱建物跡(1)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



- P-1
 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、褐色粒、黄色粒、淡黄軽石含む。
 2 黒褐色土 1に似るがローム粒、淡黄軽石がやや多く含む。
 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック(小)、淡黄軽石少量含む。
 4 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多く淡黄軽石少量含む。
 5 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、ローム細粒多く含む。
- P-2、3、5~7
 1 黒褐色土 ローム粒少々、淡黄軽石僅かに含む。(柱頭)
 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック(小)やや多く黒味帯びる。(柱頭)
 3 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒やや多く淡黄軽石僅かに含む。
 5 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロックと黒褐色土の混土、ロームブロック多く含む。
 6 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- P-4
 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、YPK少量含む。
 2 黒褐色土 炭化物、ローム細粒僅かに含む。攪乱か。
 3 黒褐色土 1とほぼ近似、白色粒少量、ローム粒やや多く含む。
 4 黒褐色土 ロームブロック、YPK少量含む。
- P-8
 1 黒褐色土 褐色粒、淡黄軽石、ローム粒僅かに含む。
 2 黒褐色土 ローム小ブロック、ローム粒多く淡黄軽石少量含む。

第377図 5-5号掘立柱建物跡②



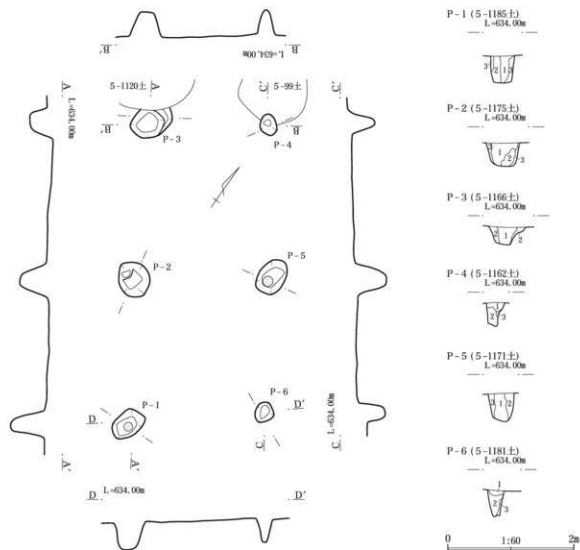
第378図 5-5号掘立柱建物跡出土遺物

95-3号掘立柱建物跡 (第380~389図: PL.52~55・221~224)

位置 I~K-23・24グリッドに位置する。重複 95-13・27号住居跡と重複。95-85号土坑(陥し穴)が重複。さらに複数の土坑を切って構築されている。本址確認時、炉の周辺部には土器片や比較的大型の礫が囲むように、一部列を為して検出されていた。これらの礫は柱穴の周囲を部分的に取り巻くような状況が看取された。形状 長方形。規模 610×430(470)cm。方位 N-18°-W。

床面 炉が存在していることからこの面が使用面と想定される。全体的にはあまり硬化した状況は認められ

第3章 検出された遺構と遺物



- P-1
 1 黒褐色土 締まり弱く白色、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒や多く淡黄軽石、褐色粒少量。
 3 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量含む。

- P-2
 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒、ロームブロック多い。
 3 黒褐色土 ロームブロック多く混入。

- P-3
 1 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 2 黒褐色土 ローム小ブロック含む。

- P-4
 1 暗褐色土 締まり弱くローム粒多く白色、淡黄軽石少量。
 2 暗褐色土 締まり弱くローム粒、ロームブロックやや多い。
 3 ロームブロックに黒褐色土混入。

- P-5
 1 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒、淡黄軽石含む。
 2 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石、ロームブロック、炭化物塊かに含む。
 3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。

- P-6
 1 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石僅かに含む。
 2 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石少量含む。
 3 黒褐色土 ロームブロック含む。

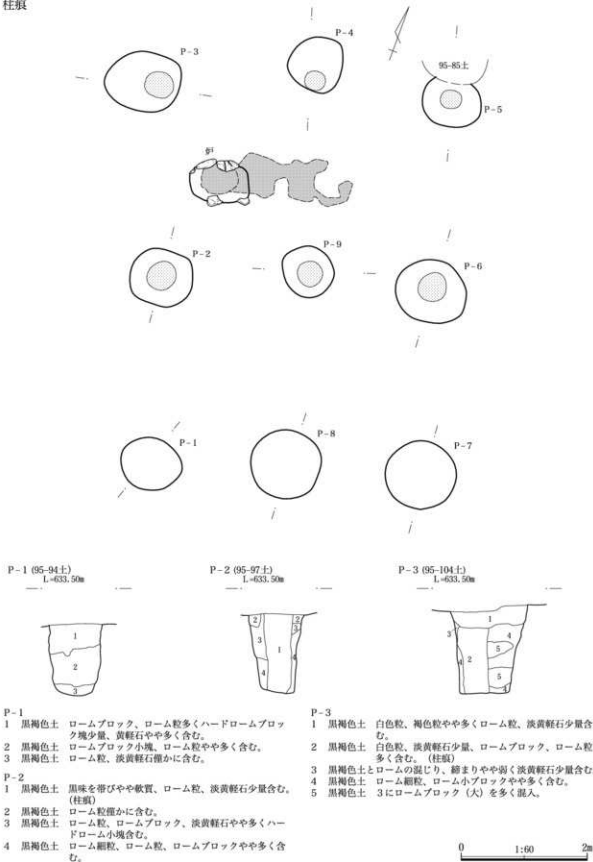
第379図 5-8号掘立柱建物跡

なかったが、炉の周囲には部分的にはあるが、踏みしめられた状況も看取された。

炉 北側に炉石を据えたかなり大型の炉が検出されており、本址の伴うものと考えられる。長軸を東西にとり、長さ約95cm、幅は70cmで東側に焼土が長さ160cm程帯状に広がっている。

柱穴 当初柱穴については土坑として調査を行った。P1（95-94号土坑）、P2（95-97号土坑）P3

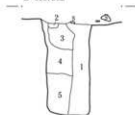
柱痕



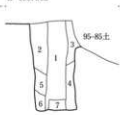
第380図 95-3号掘立柱建物跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

P-4 (95-103土)
L=633.50m



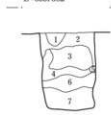
P-5 (95-101土)
L=633.50m



P-6 (95-100土)
L=633.50m



P-7 (95-96土)
L=633.50m



P-8 (95-95土)
L=633.50m



P-9 (95-105土)
L=633.50m



P-4

- 1 黒褐色土 黒味を帯び軟質、ローム、ロームブロック、淡黄軽石層かに含む。(柱痕)
- 2 黒褐色土 締まりやや弱い、淡黄軽石、ローム細粒少量含む。
- 3 明黄褐色土 ロームブロック中に黒褐色土少量、淡黄軽石多く含む。
- 4 黒褐色土 締まり弱くローム小ブロック多く含む。
- 5 明黄褐色土 3と黒褐色土が互層を呈す。

P-5

- 1 黒褐色土 淡黄軽石、ローム粒、ローム細粒少量含む。(柱痕)
- 2 黒褐色土 淡黄軽石、ローム粒、ロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 淡黄軽石、ローム粒、ローム細粒、ロームブロックやや多い。
- 4 黄褐色土 全体がローム細粒で黒褐色土が少量混じる、軟質でローム粒多く含む。
- 5 黄褐色土 黒褐色土が斑状を呈す、淡黄軽石少量含む。
- 6 褐色土 比較的締まったローム主体土。
- 7 黄褐色土 やや軟質で淡黄軽石少量含む。

P-6

- 1 黒褐色土 軟質で黒味あり、白色粒や多く淡黄軽石、褐色粒少量含む。(柱痕)
- 2 黒褐色土 1と近似するがやや色調が異なる。
- 3 黒褐色土 黒褐色土、ロームブロックの混土、黒褐色土やや多く含まれる。
- 4 黒褐色土 2と同質土層だが黒褐色土よりロームブロックがやや多い。

P-7

- 1 黒褐色土 ローム粒、ローム細粒、淡黄軽石少量、ローム小ブロックやや多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少々、淡黄軽石層かに含む。
- 3 黄褐色土に黒褐色土が少量混入、ロームブロック非常に多く含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含む、淡黄軽石やや多く含む。
- 5 褐色土 淡黄軽石層かに含む。
- 6 黒褐色土 ローム小ブロック、淡黄軽石少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム細粒、ローム粒多く淡黄軽石、ロームブロック少量含む。

P-8

- 1 黒褐色土 ロームブロックやや多く含む淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、淡黄軽石、ローム粒、ハードローム粒少量含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック塊、淡黄軽石やや多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒やや多くローム細粒多い。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ローム細粒やや多く淡黄軽石、ローム小ブロック層かに含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多く、淡黄軽石少量含む。

P-9

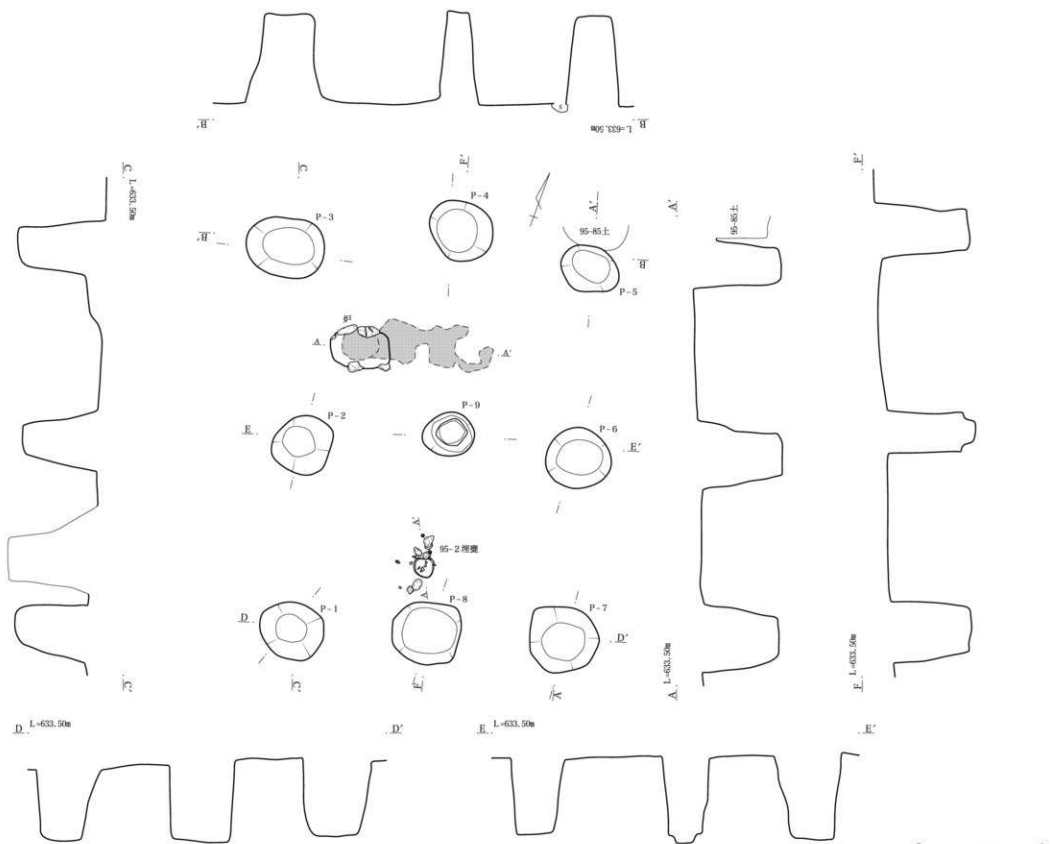
- 1 黒褐色土 褐色粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 やや軟質で黒味あり、ローム粒、ブロックやや多く淡黄軽石少量、下層にロームが層状に入る。(柱痕)
- 3 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含むやや締まりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ローム細粒やや多く淡黄軽石少量含む。

0 1:60 2m

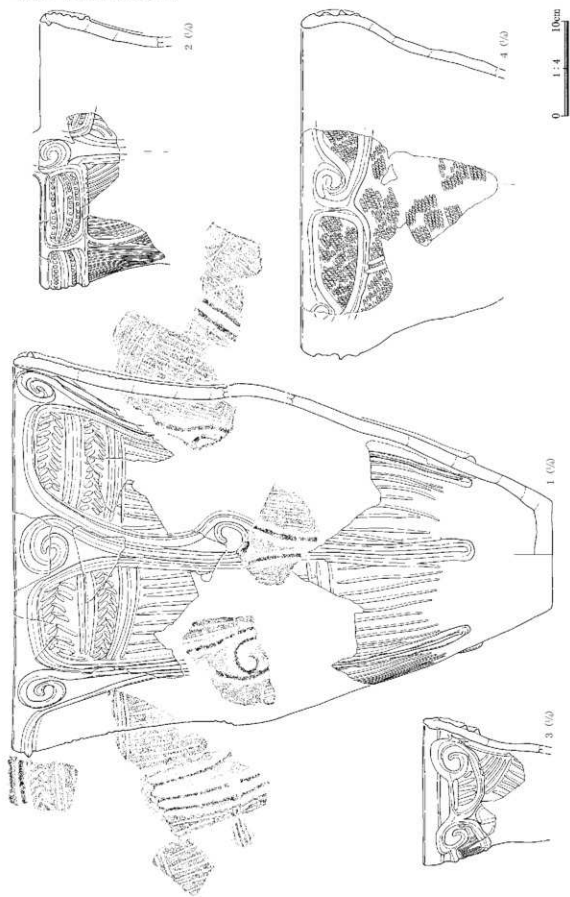
第381図 95-3号掘立柱建物跡(2)

(95-104号土坑)、P 4 (95-103号土坑)、P 5 (95-101号土坑)、P 6 (95-100号土坑)、P 7 (95-96号土坑)、P 8 (95-95号土坑)、P 9 (95-105号土坑)の9本である。ほぼ円形で径は1m前後、深さは120~150cmを測る。また、P 2、3、4、5、6、9には垂直に残る柱痕が確認されている。

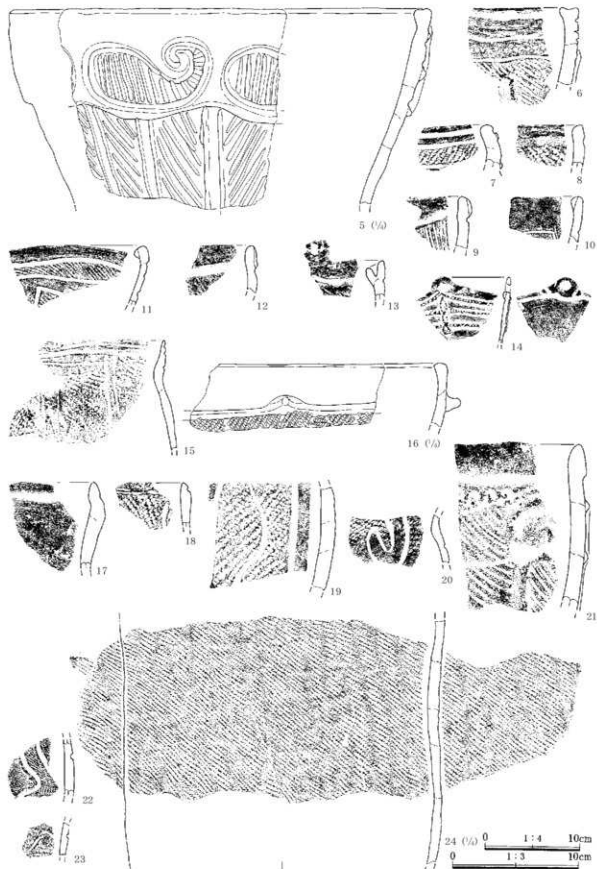
柱痕の位置を見ると必ずしも中央に在るわけではなく、P 3はやや東寄りに、P 4は南端に位置している。なお、南側の3本、P 1、7、8については柱痕は確認されず、土層の観察から人為的に埋め戻した状況が伺えた。柱を抜いた後に埋め戻す必要があったものと考えられ、北側の6本の掘立柱建物跡が規模を縮小して機能していたことも考えられる。 埋壘 南列中央P 8の北に近接し95-2号埋壘が検出されてお



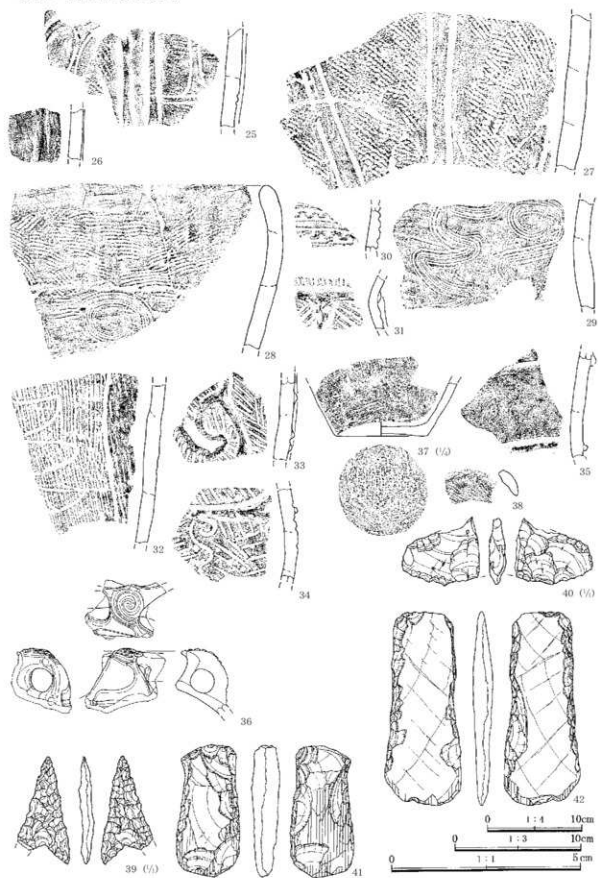
第382图 95-3号掘立柱建物迹(3)



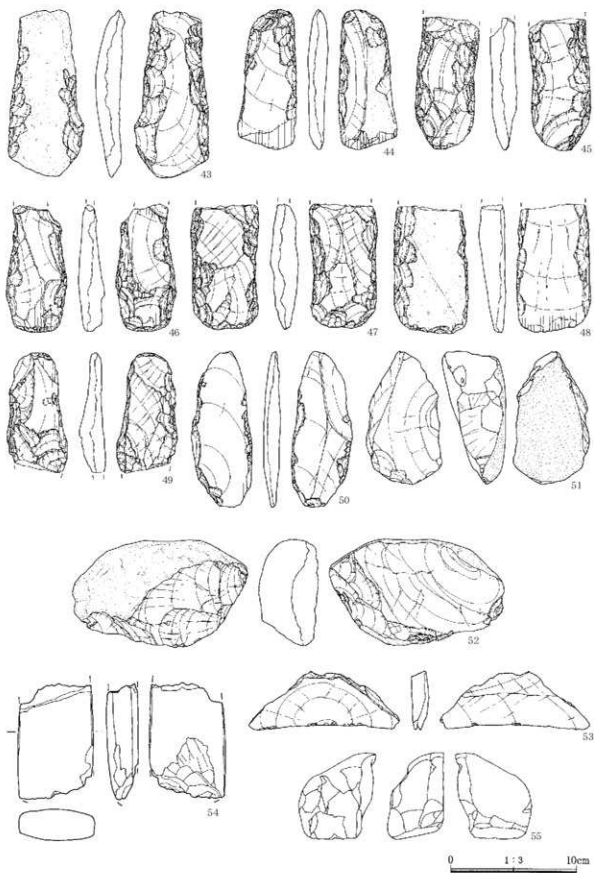
第384図 95-3号獨立柱建物跡出土遺物(1)



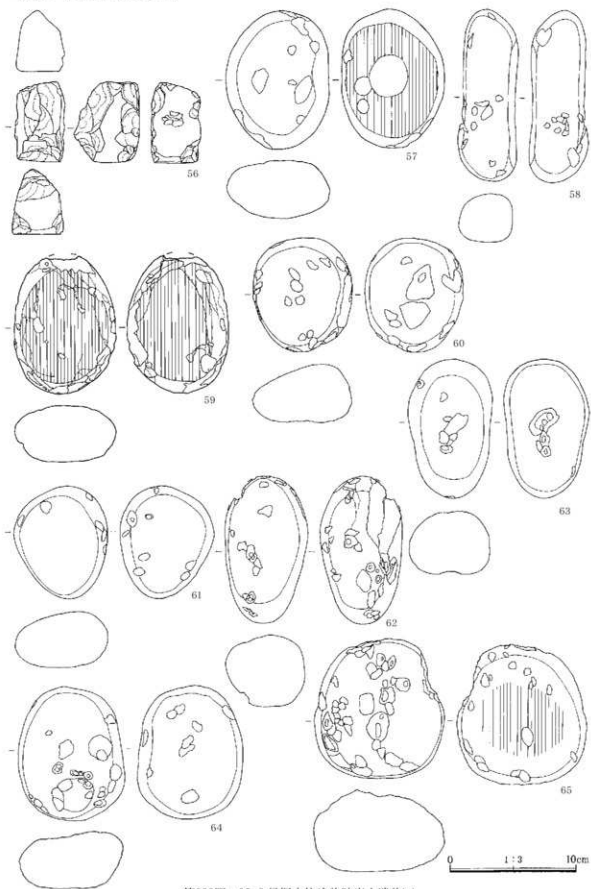
第385図 95-3号掘立柱建物跡出土遺物(2)



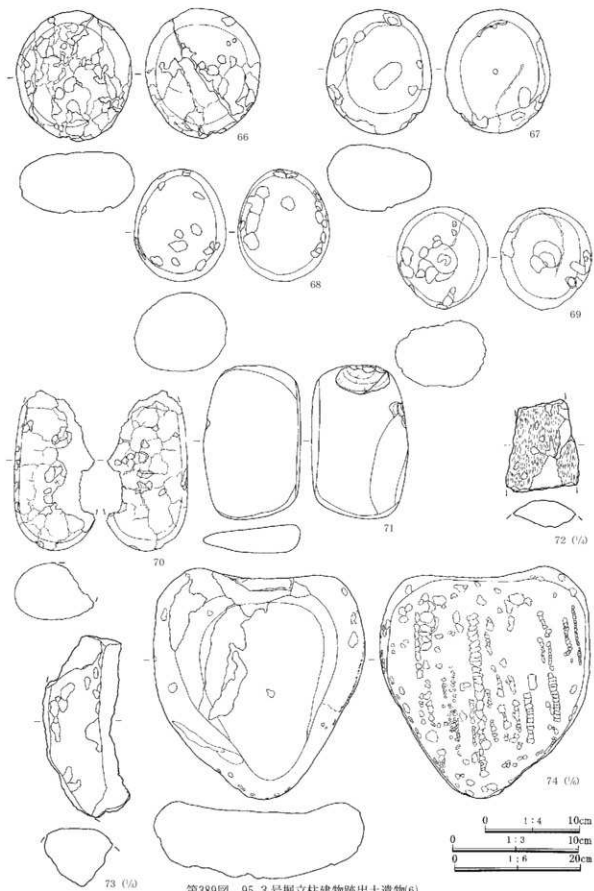
第386図 95-3号掘立柱建物跡出土遺物(3)



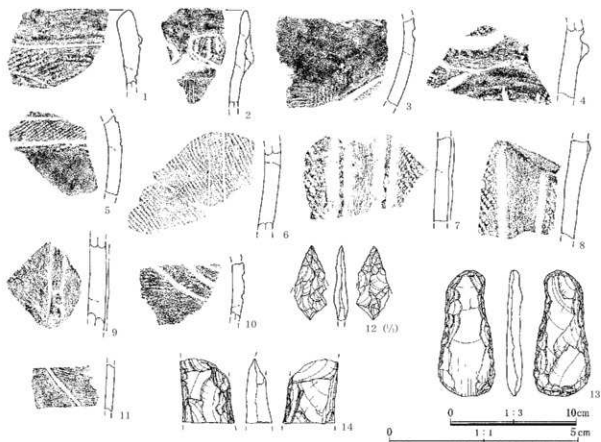
第387図 95-3号掘立柱建物跡出土遺物(4)



第388図 95-3号掘立柱建物跡出土遺物(5)



第389図 95-3号掘立柱建物跡出土遺物(6)



第391図 95-4号掘立柱建物跡出土遺物

95-4号掘立柱建物跡 (第390・391図: PL.56・224)

位置 95-H・I-25, 5H・I-1グリッドに位置する。**重複** 東側の3本が5-150号住居跡と重複し、北東隅の柱穴は住居覆土中に在ったと考えられるが、後世に掘り込まれた5-1116号土坑(陥し穴)によって壊されてしまったため、位置については確認できていない。**形状** 長方形。

規模 540×290cm。**方位** N-52°-E。**柱穴** 推定6本柱である。P1(95-98号土坑)、P2(95-109号土坑)、P3(5-1116号土坑に壊されたものと思われる)、P4(95-110号土坑)、P5(95-265号土坑)、P6(95-99号土坑)の6本が想定される。柱穴は径70~80cm、深さが75~100cmである。P2・4・5には柱痕が認められる。**出土遺物** 見られなかった。

時期・所見 95-3号掘立柱建物の東側に近接し、長軸方向を北東方向に持つ。重複等もあったために調査時には認定に至らなかったが、整理時に確認されたものである。炉等の施設については確認されなかった。時期は中期末から後期か。

95-4号掘立 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3(想定)	P-4	P-5	P-6
径(cm)	100	90	—	80	90	75
深さ(cm)	100	85	—	90	75	95
遺構番号	95-98土	95-109土	—	95-110土	95-265土	95-99土
備考		柱痕	5-1116土内	柱痕	柱痕	

3. 埋裏

単独の埋裏は5区において2基、95区において3基を検出したが、このうち5-16号および95-2号埋裏はそれぞれ5-4号掘立柱建物、95-3号掘立柱建物に帰属するものと判断される。

5-15号埋裏 (第392・393図：PL.57・224)

L・M-1・2グリッド、調査区の南端にやや浮いた状態で深鉢胴部を検出した。単独の埋裏である。

掘方は径30cm、深さ10cm程の落ち込みを確認しているが、掘り込み面はさらに上からであったと考えられる。土器は深鉢の口縁部および下部を欠いた状態で正位に据えられている。土器は西側部分が割れて内側に落ち込んでいた。内部からは土器片以外のものは検出されなかった。時期は加曾利E 4式期である。

95-1号埋裏 (第392・393図：PL.57・224)

H-25グリッドに位置する。95-18号住居内の北寄りに位置し、住居埋没後に埋められている。東側を一部95-89号土坑（陥し穴）に切られているが、下部についてはかろうじて残存していた。口縁部及び底部を欠いた円筒状を呈す大型の深鉢が、やや南に傾いた正位の状態で出土。時期は中期後半である。曾利系。

95-3号埋裏 (第392・394図：PL.57・225)

I-22グリッドに位置する。95-19号住居跡の北側に小型深鉢胴部が埋設された状態で検出された。上位部分は割れた状態で地表面に露出しており、深く埋められた状況は見られなかった。内部に径1～2cmの純層に近い軽石が入り込んだ状態で検出されており、注目される。時期は中期後半である。曾利系。

95-4号埋裏 (PL.57)

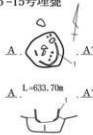
出土状態の写真のみ。深鉢の胴部が横倒しの状態で検出されたため、埋裏としたが、不手際により図化、および遺物の取り上げができなかったものである。

4. 焼土

表土下の黒色土面を精査する時点で、複数の焼土遺構が確認された。当初は比較的新しい（平安以降～近世）に帰属するものと考えて調査を進めていたが、一部確認面がやや下がった場所では、焼土の堆積状況や出土遺物などから、縄文時代まで遡ると考えられるものが見られた。これらは礫を伴ったり焼土の焼け込みが強く、明らかに分別されるものである。このうちいくつかの焼土は、後に検出された掘立柱建物の炉である可能性が高い。（5-7～9号焼土は5-4号掘立柱建物跡の炉とした）

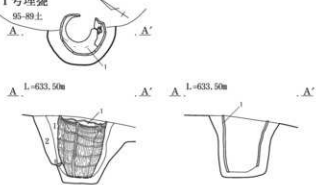
95区の南西側に東西に、直線的に並んで確認された95-10～16号焼土は、大小の差は見られるが比較的焼土層が厚く、縄文土器片が出土するものや、下部に掘り込みを持つものが見られた。このうち幾つかは中期後半の住居内に位置し、埋没後に作られていることも確認している。さらに95-15号焼土の西に隣接して検出された95-217号土坑は、掘り込みは浅く、中央に立てられた石棒は、火を受けた状況が看取された。また、これらの焼土が点在する北側部分は、平成14年度に調査を行っており、数基の焼土（報告では炉としている）が検出されている。焼土が検出された場所は台地の南縁部分にあたり、住居密度が薄く、この時期のいわゆる広場的な場所と見ることもでき、火を用いた何らかの生活に伴う作業あるいは、祭祀的行為が行

5-15号埋裏



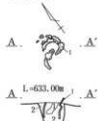
1 黒色土 ローム小粒、白色粒子含む。

95-1号埋裏



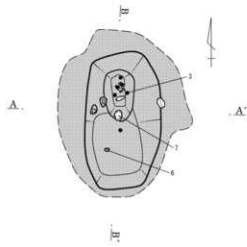
1 黒褐色土 白色粒層かにも締まり弱い。
2 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石層かにも含む。

95-3号埋裏

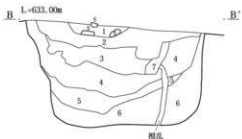
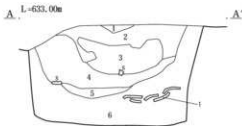
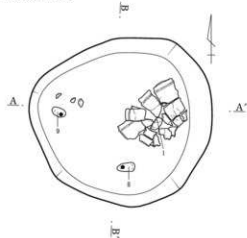


1 軽石層 やや大粒で発泡良い、As-Bか。
2 黒褐色土 軽石粒含みや中黒味あり。

95-1号焼土



1号焼土下部遺物出土状況



断面

1 黒褐色土 白色粒、焼土粒層かにも含む。
2 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石少量、焼土小塊斑状に多く混入。
3 明赤褐色土 焼土層、締まりあり、淡黄軽石層かにも混入。
4 黒褐色土 焼土粒やや多く混入し、淡黄軽石少量含む。
5 黒褐色土 ローム粒、ローム細粒がやや多く混じった土層、締まりやや弱く淡黄軽石含む。
6 黒褐色土 ローム粒。ロームブロック多く炭化物層かにも含む。
7 黒褐色土 ローム粒、焼土粒含みや中散質。

0 1:30 1m

第392図 5-15号埋裏、95-1・3号埋裏、95-1号焼土

第3章 検出された遺構と遺物

われていたことも考えられよう。なお、5-15号、95-1号焼土下にはしっかりとした掘方を持った土坑が検出されている。95-1号焼土は極めて厚く、焼土下土坑からは、底部が抜かれた後期的大型土器が潰れた状態で出土している。なお、95-8・9号焼土は欠番である。

95-1号焼土 (第392・397図：PL.57～59・225)

I-22グリッドに位置し、95-19号住居跡(敷石住居)の北東角に重複、これを切る。楕円形に広がる焼土を検出、掘り下げたところ、焼土が厚く堆積、土坑内に落ち込んだ状態で検出された。焼土厚は中央部分で確認面から約30cmを測る。焼土中より若干の土器片、磨石等が出土。焼土下に検出された土坑は円形で径約1m、深さは約90cmを測り底面はほぼ平らである。焼土下数cmの黒色土の間層を挟んで底からは約20cm浮いた状態で大型深鉢が押しつぶされた状態で出土。土坑墓の可能性もある。時期は後期初頭か。

95-7号焼土 (第397図：PL.59・225)

E-25グリッドに位置する。95-48号住居跡の西側壁部分に検出、重複する住居覆土中に位置する。長円形に広がる焼土が在り、下層からは若干の土器が出土、礫等は見られなかった。新しくなる可能性もある。

95-10号焼土 (第395・398図：PL.59・225)

X-20グリッドに位置する。調査区の西端に位置、95-168号土坑の北に僅かに重なる。不定形な焼土の広がりが見られる、レンズ上に堆積し、厚さは10cm程である。焼土内に若干の土器片が混入。

95-11号焼土 (第395・398図：PL.59・225)

W-20グリッドに位置する。調査区の西端に検出された。長さ2m、幅1m程の範囲に焼土が点在する。焼土の色はややにぶく、焼け方は弱い。焼土に混じって土器片、礫が点在。

95-12号焼土 (第395図：PL.59)

T-19グリッドに位置する。台形を呈し、ブロック状の焼土が集中する。出土遺物は少ない。

95-13号焼土 (第395・398図：PL.59・225)

R-18グリッドに位置する。長さ1.5m、最大幅70cm程の範囲で不定形に焼土が広がる。焼土はブロック状に点在し、焼け方は弱い。僅かに土器片、礫が出土、焼土下に土坑が検出されている。

95-14号焼土 (第396・398図：PL.60・226)

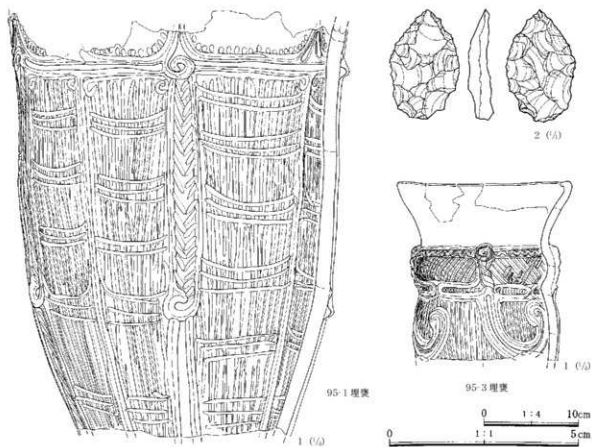
P-18グリッドに位置する。東西2.5m、南北1.0m程の広がりを持つ。東側半分以上が、95-23号住居跡に重なる。厚さは30cm程あり、下層に良く焼けた面が検出された。ほぼ平坦で住居の埋没後に火が焚かれたものか。焼土内より土器片がやや多く出土している。深鉢底部が据えられた状態で出土。

95-15号焼土 (第396・398図：PL.60・226)

N-17グリッドに位置する。95-5号住居跡の南端上層に重複。焼土は縦横50cm程で不定形に広がる。ブロック状に残る焼土は少量で、根による攪乱も見られた。出土遺物は土器片が僅かに見られたのみである。



第393図 5-15号埋甕出土遺物



第394図 95-1・3号埋甕出土遺物

95-16号焼土 (第396・398図: PL.60・226)

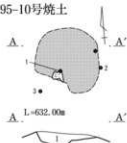
M-17グリッドに位置する。95-5号土坑の東に接して検出された。縦横1m程の広がりを持つ焼土で、土器片が多く含まれていた。焼土下に掘り込みが検出されている。

5. 炉

ここで炉として扱ったものは住居等に伴わない、いわゆる屋外炉である。礫で円形または方形に囲った炉状の遺構を指している。調査時に番号を付与したものに、他の遺構に伴うと思われるものに関しては当該遺構の中で記述した。

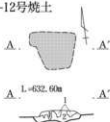
第3章 検出された遺構と遺物

95-10号焼土



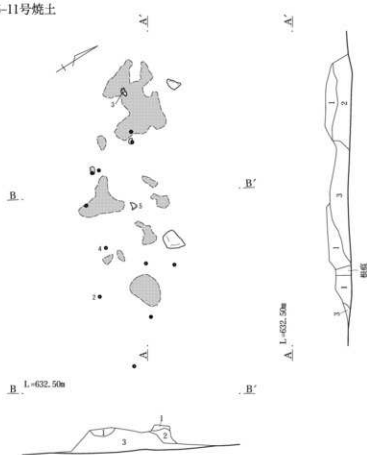
1 淡赤褐色 焼土粒、黒褐色土を含む。

95-12号焼土



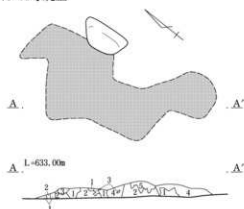
1 にぶい橙色 焼きのよくない焼土ブロック。
2 黒褐色土 焼土粒を含む、熱を受け、さらさらした砂粒土。

95-11号焼土



1 赤褐色土 焼土層。
2 暗褐色土 ローム粒、白色粒を含む。
3 黒褐色土 ローム粒僅かに含む。

95-13号焼土



1 黒色土
2 暗褐色土 黒色土に焼土粒が混入。
3 にぶい橙色 くずれた焼土。
4 黒褐色土 熱を受けさらさらしている。
5 橙色 よく焼けた焼土。

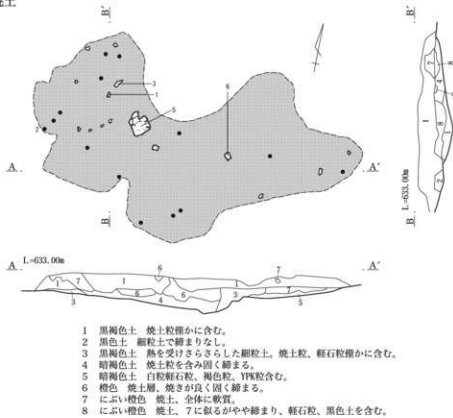


第395図 95-10～13号焼土

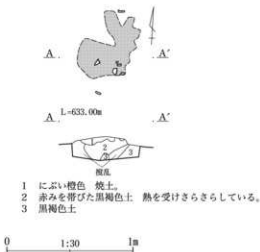
95-17号炉 (第399・400図: PL.60・226)

I-24グリッドに位置。被熱により割れた比較的大きな礫に接して、浅い楕円形の落ち込み内に焼土が検出されたことから炉とした。本来は石囲い炉であったものが、かなり破壊されたものと考えられる。周囲には住居状の掘り込みや柱穴などは見られず、単独の屋外炉であった可能性が高い。出土遺物は無い。

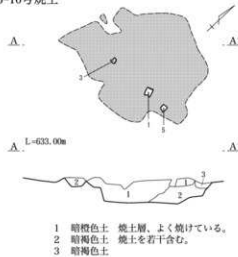
95-14号焼土



95-15号焼土



95-16号焼土



第396図 95-14～16号焼土

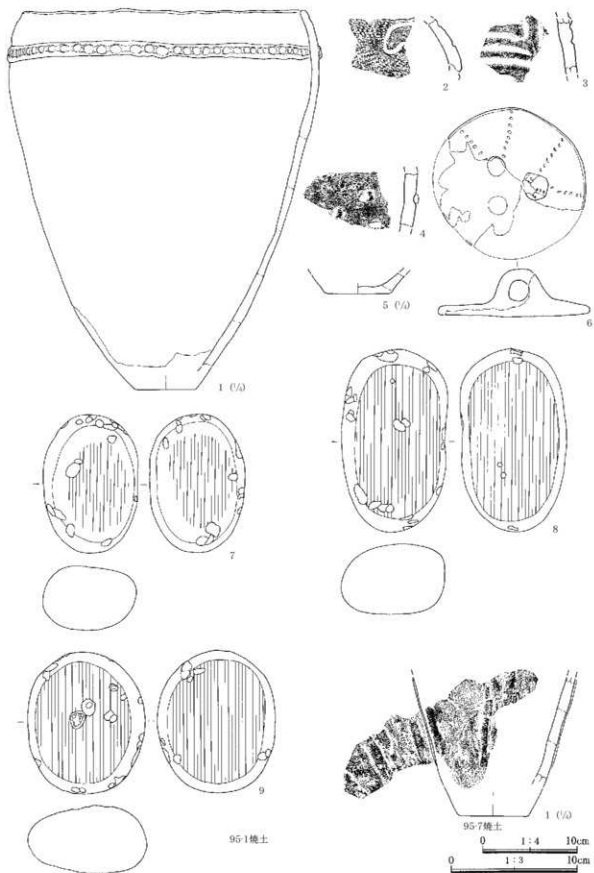
6. 配石

2基を検出。95-1号配石は円形に据えられた石の内側の煤の付着から炉の可能性もある。

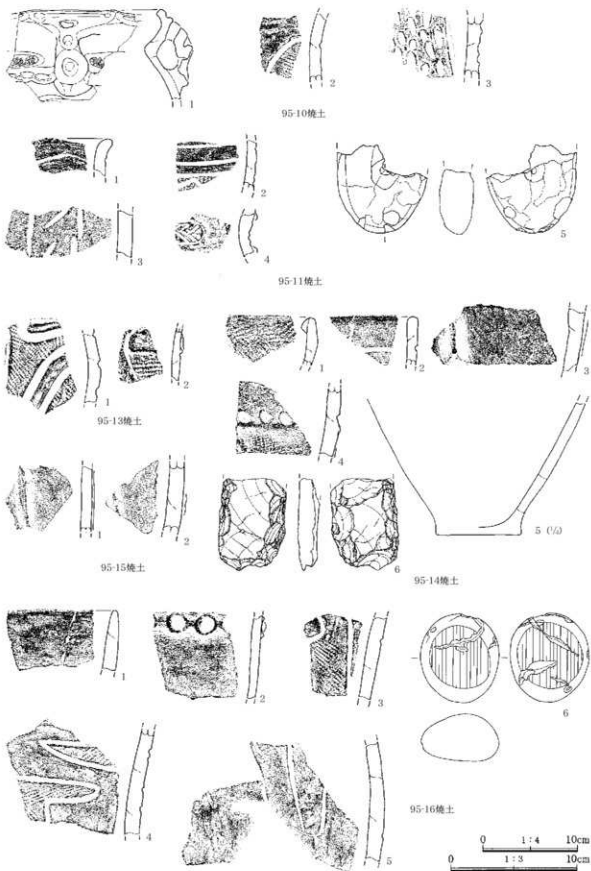
95-1号配石 (第399・401図: PL.60・226)

U-20グリッドに位置。8個の礎を立てた状態で丸く配す。内部に焼土は見られなかったが、礎の内側に

第3章 検出された遺構と遺物



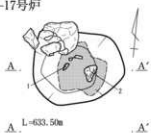
第397図 95-1・7号焼土出土遺物



第398図 95-10・11・13～16号焼土出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

95-17号炉

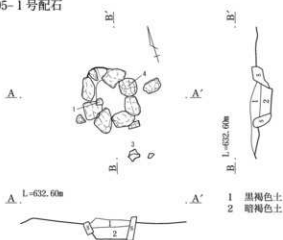


L=633.50m



- 1 黒褐色土 若干の焼土粒含む。
 2 黒褐色土 若干の焼土粒、炭化物含む。
 3 赤褐色土 汚れた焼土ブロックを主体とする。

95-1号配石

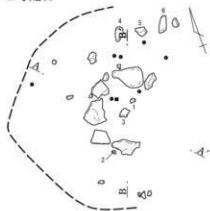


L=632.60m

L=632.60m

- 1 黒褐色土
 2 暗褐色土

95-2号配石

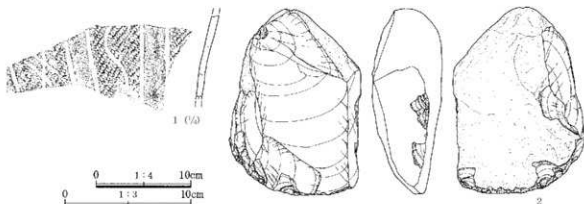


L=630.60m

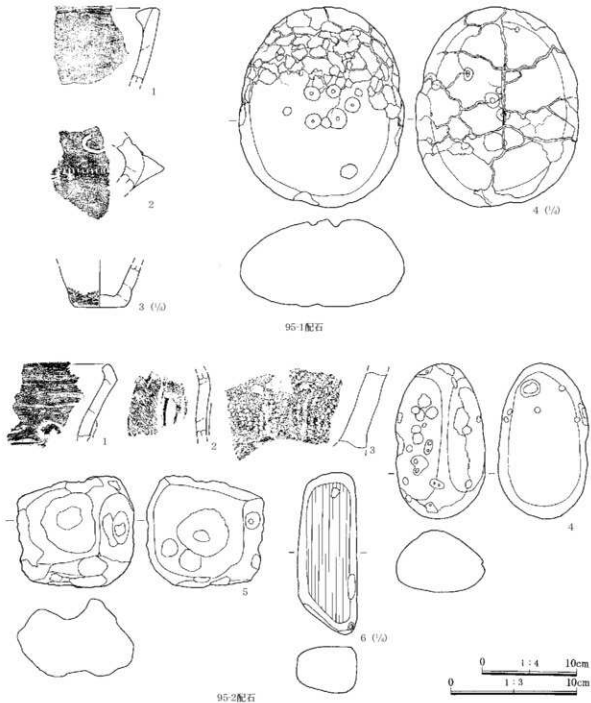
- 1 黒色土 小ローム粒含む。
 2 黒色土 細粒でやや粘性あり。



第399図 95-17号炉、1・2号配石



第400図 95-17号炉出土遺物



第401図 95-1・2号配石出土遺物

煤の付着が見られた。内部および周囲に若干の土器片出土。周囲に掘り込みなどは確認できなかった。

95-2号配石 (第399・401図: PL.60・226)

1-16・17グリッドに位置する。調査区南東の斜面部に検出された。数個の礫が円形に配されていたものと考えられるが、南側の石は見られない。石はほぼ平らに置かれたものが多かった。また、配石の周囲には小礫が点在していた。礫以外に掘り込み等は見られなかった、配石内および周囲から僅かに土器片出土。

7. 土坑 (第403～474図; PL.61～106・227～244)

今回の調査で検出した総数は421基である。(5区161基、8区1基、17区1基、18区6基、19区3基、95区249基)埋没土、出土遺物などから判断して平安時代以降のもの(第3章、第3節2)と縄文時代に分けて記載し説明を行う。縄文時代の土坑の数は5区150基、95区129基の総数279基である。(穴番を除く)

平面形はほぼ円形ないしは長円形を呈するものが多く、径は50cm～1m前後のものが主体となる。深さは掘立柱建物の柱穴と考えられるものは1m以上であるが、多くは50cm前後である。形状に関しては長さ3mを超える長円形のものが僅かに検出されているがいずれも浅い。

注目されるものとしては長さ1.5mで中央の横幅が70～80cm、深さ80cm程の土坑で、調査区の北西から南東に向かい10基が弧状に並ぶ一群(5-1121・1133・1131・1128・95-102・118・214・250・256・293土)がある。掘り込み面や覆土の様子から、明らかに平安時代以降の陥し穴とは異なっていた。縄文時代に帰属する土坑(陥し穴)の可能性があり、その規則的な並び方が特筆される一群であり、何らかの意図を持って構築されたものと考えられる。

また、径が数十cmで、深さが1m近い円形の土坑(95-245・282・289等)が調査区の南東部に数基確認された。柱痕は確認されていないが、その形状から明らかに柱穴と見られる。建物となるような規則的な配置には無く、単独なあり方を示しており標柱等が想起される。

また、土坑の分布の様子を見ると、南に落ちる谷頭に向かう部分を除き、濃淡の差は見られるものの、ほぼ全域に検出されている。以下、遺物が出土している主な土坑は以下のようである。器形復元が可能な土器が出土しているものや、土器片や石器などが多量に投げ込まれたように出土しているもの、また石器に関しては、石鏃をはじめ石棒、石皿、多孔石などが見られる。石棒は下部が埋められ直立するものも見られる。

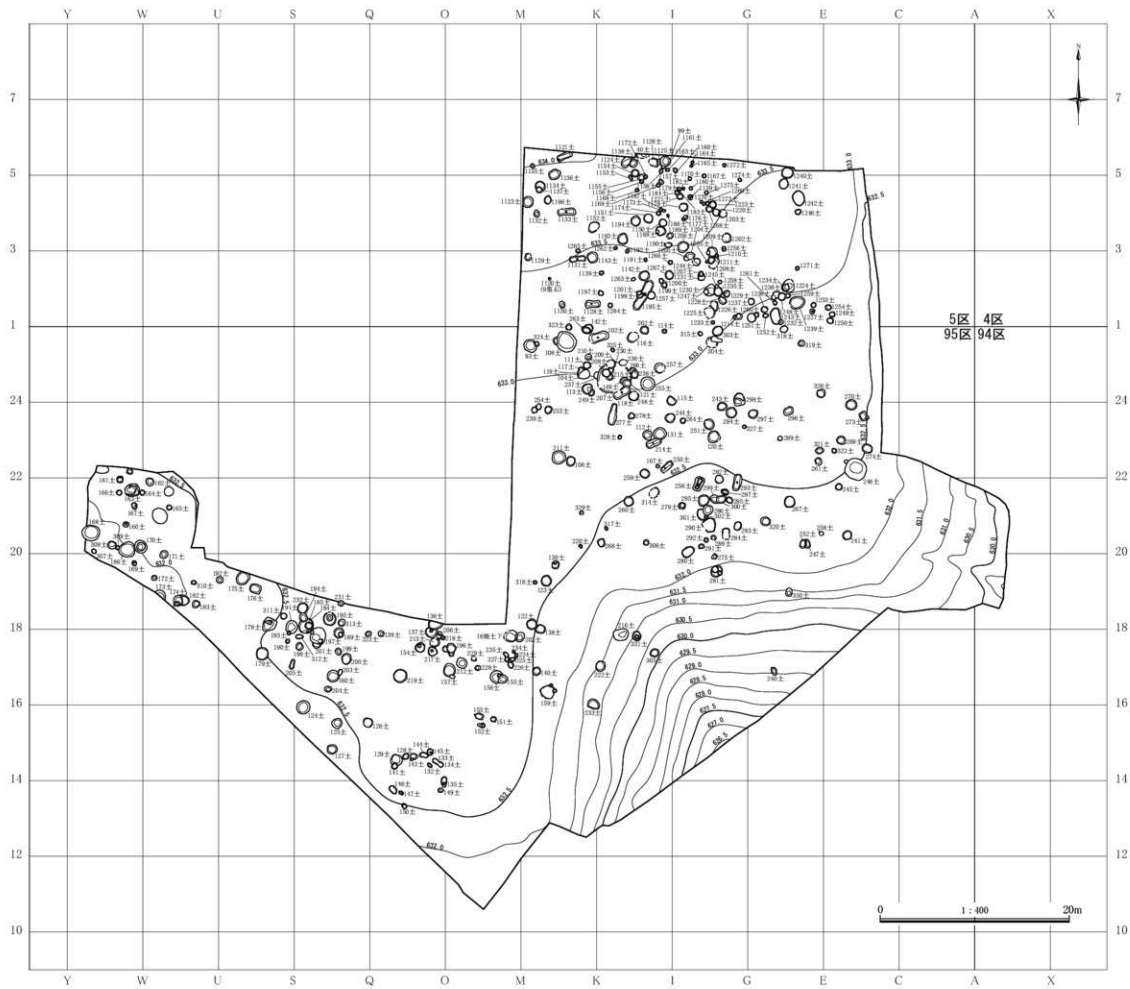
以下、区毎に遺物を出土した主な土坑を列記する。

5区

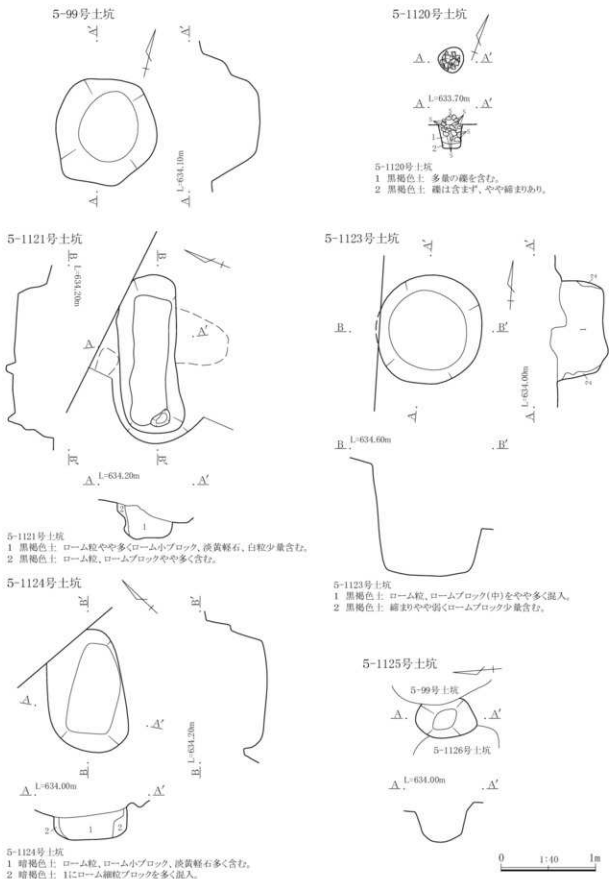
1132号土坑—壁際に大型の礫、土器、石器の出土は見られず。 1151号土坑—土製円盤、礫、石皿片。
1152号土坑—土器片、礫(後期)。 1174号土坑—石鏃。 1208号土坑—石鏃(後期)。 1209号土坑—石皿片2点含む礫、土器片。 1224号土坑—下部に大型礫、土器片多数。 1225号土坑—石皿、礫複数。 1234号土坑—大型土器片、礫。 1241号土坑—土器片、礫(後期)。 1242号土坑—土器片(後期)。 1248号土坑—土器片、打製石斧、大型礫。 1259号土坑—上層に磨石3点。 1273号土坑—直立した大型礫、土器、石器の出土無し。

95区

93号土坑—上層に礫、多孔石(後期)。 113号土坑—土器片多数。 123号土坑—大型礫が重層状態で出土、土器片少。 124号土坑—礫、石皿片、磨石、土器片。 131号土坑—上層礫に混じって半完形品含む土器片多数、磨石、多孔石(後期)。 137号土坑—上層に土器片。 142号土坑—ほぼ中心に大型礫が組まれた状態で検出、少数の土器片、複数の打製石斧、磨石と石皿が出土。 143号土坑—上層に大型の川原石、土器、石器の出土無し。 156号土坑—石鏃、多孔石。 168号土坑—ほぼ器形を復元できる土器1点、多数の土器片および石鏃、多孔石等(後期)。 178号土坑—上層に土器片、礫。 180号土坑—底部含む土器片(後期)。 183号土坑—赤彩土器片。 184・185号土坑—両耳壺片。 186号土坑—石棒?丸石含む大型礫、土器片(越



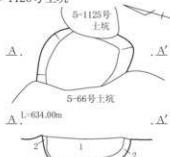
第402图 5·95区土坑全体图 (縄文時代)



第403図 5区土坑(1)

第3章 検出された遺構と遺物

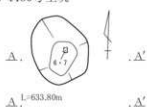
5-1126号土坑



5-1126号土坑

- 1 暗褐色土 締まりやや弱い、ローム粒、ローム小ブロック、淡黄軽石多く含む。
- 2 暗褐色土 1にローム細粒ブロックをやや多く混入。

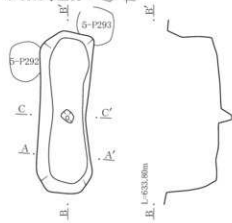
5-1130号土坑



L=633.80m



5-1131号土坑



L=633.80m

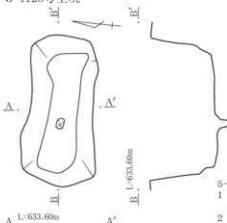
5-1131号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、白色粒、ローム淡黄軽石やや多く含む。
- 2 黒褐色土 1にローム細粒を全体に少量混入。
- 3 黒褐色土 1にローム細粒、ローム小ブロック全体に少量含む。

5-1131号土坑内1層

- 1 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土とロームブロックの混土、締まり弱い。

5-1128号土坑



L=633.60m

5-1128号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱く褐色粒少々、淡黄軽石やや多く含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、褐色粒、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土とロームブロックの混土、締まり弱い。

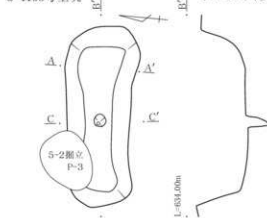
5-1130号土坑

- 1 黒褐色土 締まり弱く焼土粒含む。
- 2 暗赤褐色土 締まりやや弱く焼土が全体に混入。
- 3 赤褐色土の焼土粒ブロック主体とする。
- 4 黒褐色土 締まりやや弱くローム粒、淡黄軽石含む。

5-1130号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱くローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量、ローム小ブロックやや多く含む。

5-1133号土坑



L=634.00m

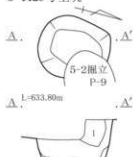
5-1133号土坑

- 1 黒褐色土 締まりやや弱い、黄粒、褐色粒やや多く淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、ローム粒や多く淡黄軽石少量含む。

5-1133号土坑内1層

- 1 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土とロームブロックの混土、締まり弱い。

5-1129号土坑



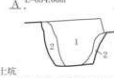
5-1129号土坑

- 1 ロームブロック(大)が多く、黒褐色土少量混入。
- 2 黒褐色土 締まり弱く白色粒少量、ローム粒、ローム小ブロックやや多い。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

5-1132号土坑



L=634.00m



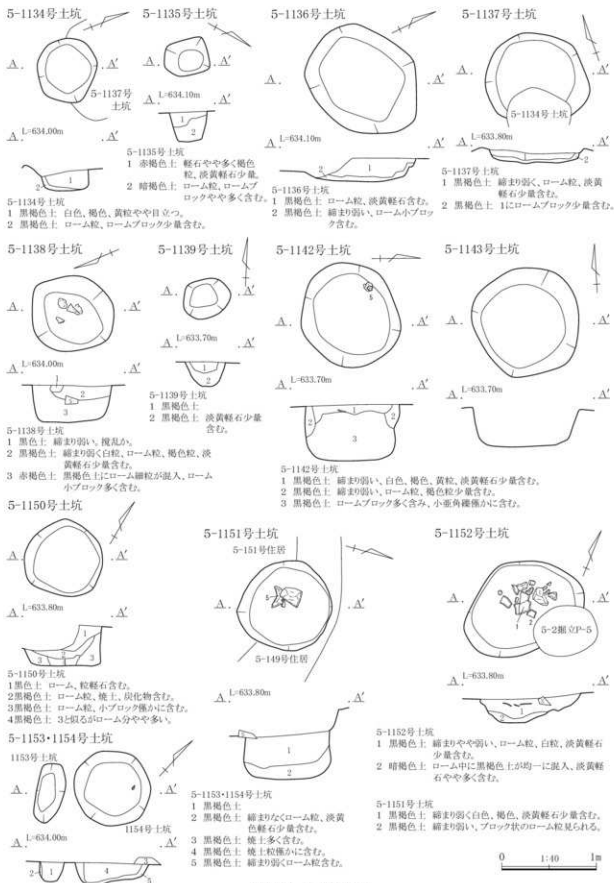
5-1132号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量、ローム小ブロックやや多く含む。

0 1:10 1m

第404図 5区土坑(2)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

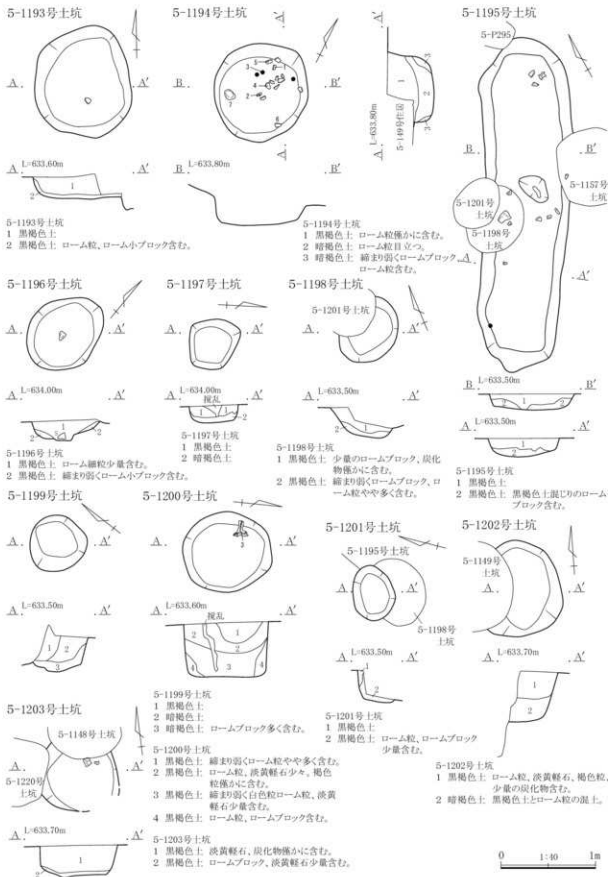


第405図 5区土坑(3)



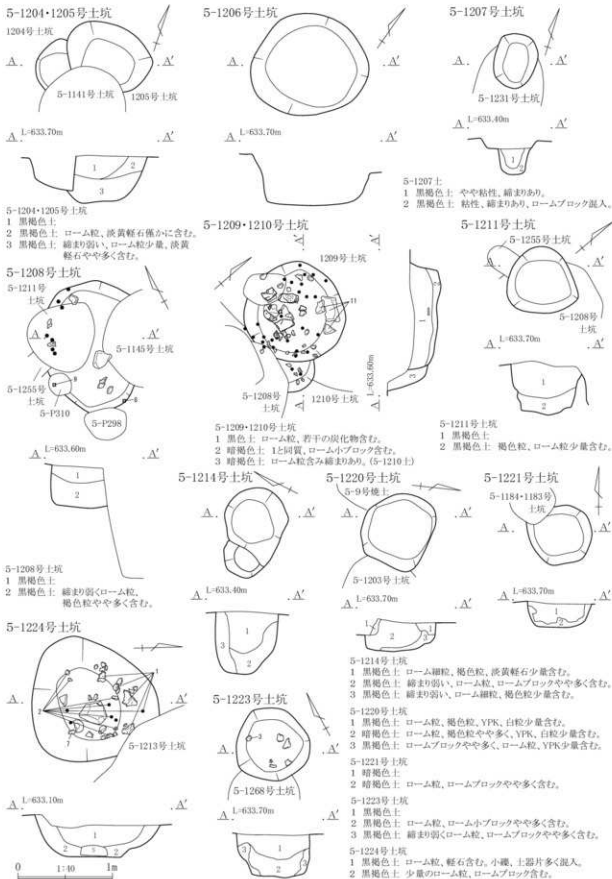
第407図 5区土坑(5)

第3章 検出された遺構と遺物



第408図 5区土坑(6)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



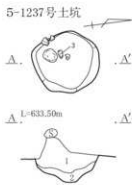
第409図 5区土坑(7)

第3章 検出された遺構と遺物

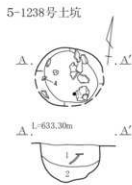


第410図 5区土坑(8)

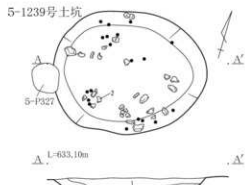
第2節 縄文時代の遺構と遺物



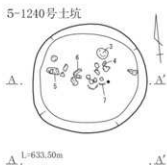
5-1237号土坑
1 黒褐色土 砂質でやや締まりあり。
2 黒褐色土 締まりあり、ロームブロック少量含む。



5-1238号土坑
1 黒褐色土 砂質で炭化物少量含む。
2 黒褐色土 黄色軽石、ローム細粒少量含む。



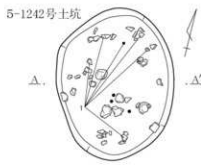
5-1239号土坑
1 黒褐色土 砂質でやや締まりあり、黄色、茶色軽石、ローム細粒をブロック状、炭化物少量含む。
2 暗褐色土 やや締まりあり、黄色軽石、茶色粒およびロームブロック含む。



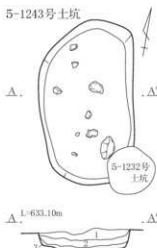
5-1240号土坑
1 黒褐色土 小礫、土器、炭化物含み締まり弱い。
2 暗褐色土 細粒、YPK1より多くローム土混入。



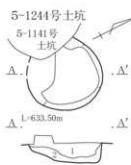
5-1241号土坑
1 黒褐色土 締まりあり、細粒。
2 暗褐色土 粘性ない細粒。



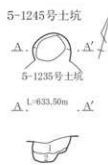
5-1242号土坑
1 黒褐色土 締まりあり、細粒。
2 暗褐色土 粘性なく細粒。



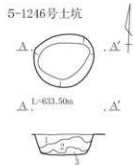
5-1243号土坑
1 黒褐色土 砂質で黄色軽石、茶色粒、ローム細粒僅かに含む。
2 黒褐色土 締まりあり、黄色軽石、ローム細粒、茶色粒少量含む。
3 黒褐色土 黄色軽石、ロームブロック少量、ローム細粒やや多く含む。



5-1244号土坑
1 黒褐色土 細粒、やや粘性、締まりなし。
2 暗褐色土 YPK少量、ローム混入し粘性あり。



5-1245号土坑
1 黒褐色土 粘性、締まりあり、黄色軽石、ローム細粒、白色、茶色粒少量含む。
2 黒褐色土 締まりあり、黄色軽石、炭化物僅かに含む。

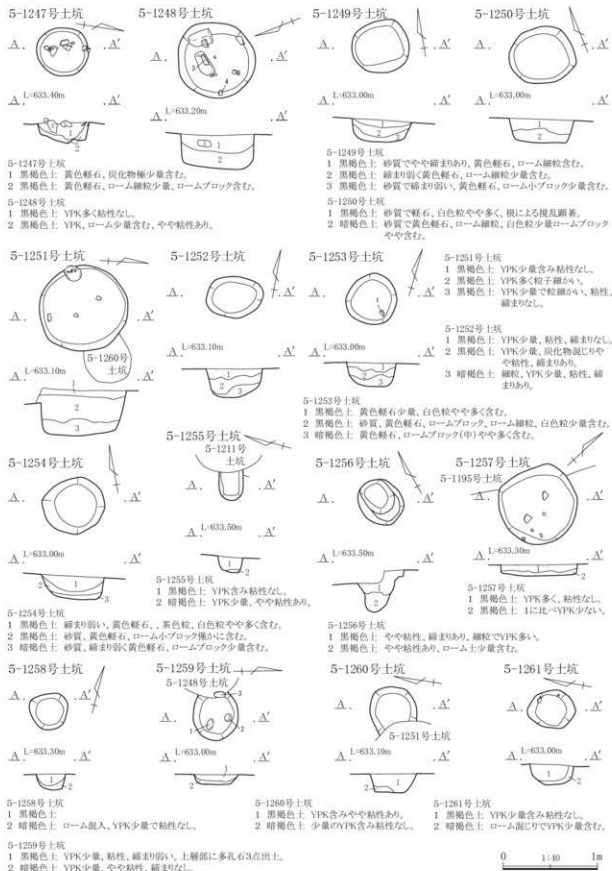


5-1246号土坑
1 黒褐色土 砂質、黄色軽石、茶色粒、ローム細粒僅かに含む。
2 黒褐色土 やや締まりあり、黄色軽石、ローム細粒、茶色粒少量含む。
3 黒褐色土 やや粘性、締まりあり、黄色軽石、ロームブロック少量含む。

0 1:40 1m

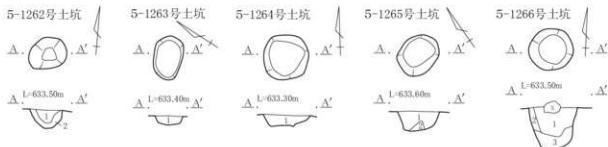
第411図 5区土坑(9)

第3章 検出された遺構と遺物



第412図 5区土坑(10)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



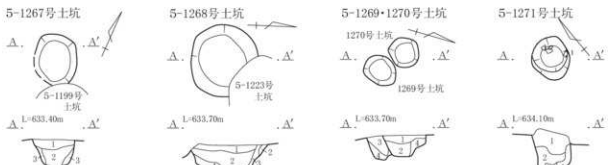
- 5-1262号土坑
 1 黒褐色土：砂質、黄色軽石、白色粒、ローム細粒少量含む。
 2 暗褐色土：砂質、黄色軽石、ローム小ブロック少量含む。

- 5-1265号土坑
 1 黒褐色土：YPK少量、ローム少量含む。
 2 暗褐色土：ローム土多い、YPK少量、粘性あり。

- 5-1263号土坑
 1 黒褐色土：砂質、やや細まりあり黄色軽石、ロームブロック含む。

- 5-1266号土坑
 1 暗褐色土：YPK、褐色、白色粒含む。
 2 暗褐色土：粘性あり。
 3 暗褐色土：ロームブロック含む。

- 5-1264号土坑
 1 黒褐色土：黄色軽石、ローム小ブロック、炭化物少量含む。

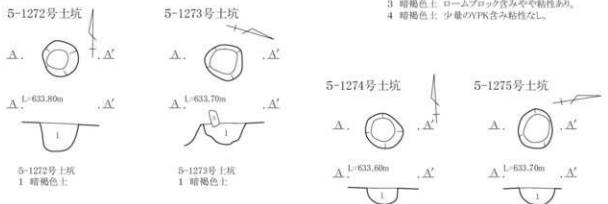


- 5-1267号土坑
 1 黒色細粒土：褐色粒、白色粒含む。
 2 暗褐色土：褐色粒、白色粒、YPK含む。
 3 暗褐色土：2にロームを含む。

- 5-1268号土坑
 1 黒褐色土：軽石含む。
 2 黒色細粒土：褐色粒、白色粒含む。
 3 暗褐色土：褐色粒、白色粒、YPK含む。
 4 暗褐色土：2にロームを含む。

- 5-1269・1270号土坑
 1 黒色細粒土：褐色粒、白色粒含む。
 2 暗褐色土：褐色粒、白色粒、YPK含む。
 3 暗褐色土：ロームを少量含む。
 4 暗褐色土：2にロームを含む。

- 5-1271号土坑
 1 黒褐色土：YPK少量含む粘性なし。
 2 黒褐色土：細粒で少量のYPK含む粘性なし。
 3 暗褐色土：ロームブロック含むやや粘性あり。
 4 暗褐色土：少量のYPK含む粘性なし。



- 5-1272号土坑
 1 暗褐色土

- 5-1273号土坑
 1 暗褐色土

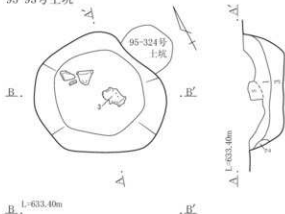
- 5-1274号土坑
 1 黒褐色土：やや細まりあり。
- 5-1275号土坑
 1 黒褐色土：ロームブロック、YPK含む粘性あり。

0 1:40 1m

第413図 5区土坑(III)

第3章 検出された遺構と遺物

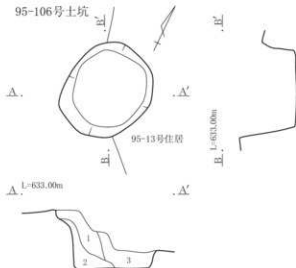
95-93号土坑



95-93号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム細粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石少量含む。

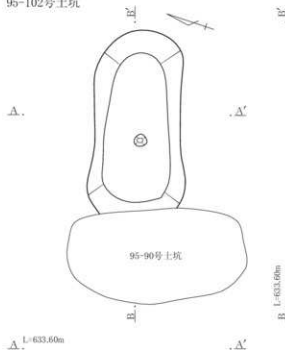
95-106号土坑



95-106号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、粘性少ない。
- 2 暗褐色土 大粒なローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土 大粒なローム粒多くロームブロック少量。

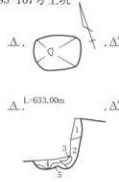
95-102号土坑



95-102号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石少々 埴土ブロック多く含む。
- 2 黒褐色土 白色粒、淡黄軽石、褐色粒やや多く炭化物含む。
- 3 黒褐色土上ロームブロックの混土、淡黄軽石少量含む。
- 4 黒褐色土上ローム細粒ブロック混じり、淡黄軽石少量含む。

95-107号土坑



95-107号土坑

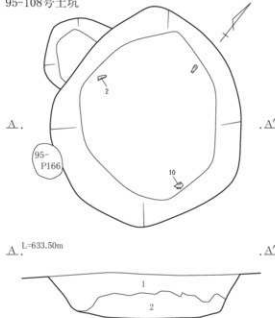
- 1 黒褐色土 白色粒、黄粒、褐色粒、淡黄軽石僅かに含む。
- 2 1にロームブロックとローム粒や多く混入。
- 3 ロームブロック 淡黄軽石多く含む。
- 4 褐色土 ローム粒に黒褐色土が混じり、淡黄軽石少量含む。
- 5 黄褐色土 ロームに僅か黒褐色土混入。

0 1:40 1m

第414図 95区土坑(1)

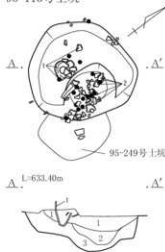
第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-108号土坑



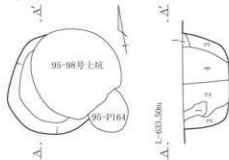
- 95-108号土坑
 1 暗褐色土：ローム粒、ローム小ブロック、淡黄軽石少量含む。
 2 暗褐色土：ロームブロック、淡黄軽石多く含む。

95-113号土坑



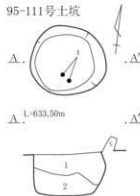
- 95-113号土坑
 1 黒色土：軽石、ローム粒若干含む。
 2 黒色土：1と同質だが軽石の混入少ない。
 3 黒褐色土：ロームを含む。

95-116号土坑



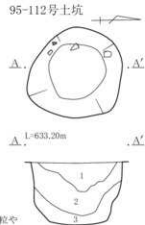
- 95-116号土坑
 1 黒褐色土：白色粒、ローム粒、淡黄軽石やや多く含む。
 2 暗褐色土：白色粒、淡黄色軽石、ローム粒多く含む。
 3 黒褐色土：白色粒、淡黄色軽石、ロームブロック少量含む。
 4 黒褐色土：ローム粒含む。

95-111号土坑



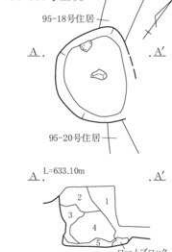
- 95-111号土坑
 1 暗褐色土：黒褐色土にローム細粒、ローム粒やや多く混入。
 2 暗褐色土：1より多くローム細粒、ローム粒混入。

95-112号土坑



- 95-112号土坑
 1 黒色土：ローム細粒、白色軽石含む。
 2 黒色土：ローム細粒、大粒若干含む。
 3 黒色土：ローム粒やや多く含む。

95-115号土坑



- 95-115号土坑
 1 黒褐色土：95-20号住居土。
 2 黒色土：ローム粒含む。
 3 黒色土：ローム粒2より多く含む。
 4 黒褐色土：ロームブロック若干混入。
 5 暗黄褐色土：ロームブロック多く含む。



第415図 95区土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

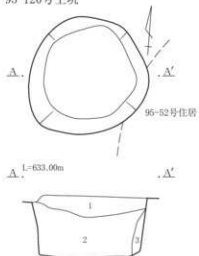
95-117・119号土坑



95-117・119号土坑

- 1 暗褐色土：ロームブロック、ローム粒多く白色粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土：白色粒、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 3 1にロームブロック多くに混入。
- 4 暗褐色土：ロームブロック、ローム粒多く含む。

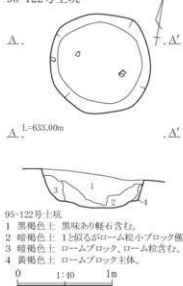
95-120号土坑



95-120号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、小ブロック若干含む。
- 2 暗褐色土：1よりローム小ブロック多く含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック多く含む。

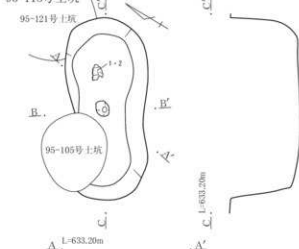
95-122号土坑



95-122号土坑

- 1 黒褐色土：黒味あり軽石含む。
- 2 暗褐色土：1と似るがローム粒小ブロック僅かに含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック、ローム粒含む。
- 4 黄褐色土：ロームブロック主体。

95-118号土坑

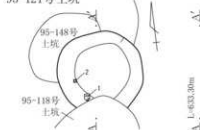


95-118号土坑

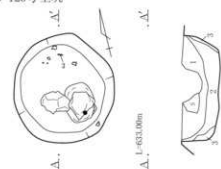
95-118号土坑

- 1 黒褐色土：YPK多く含む。
- 2 黒褐色土：YPK1より少なく黒味あり。
- 3 黄褐色土：ロームブロック多く含む。
- 4 黒褐色土：YPK、ローム多く含む。
- 5 黄褐色土：ロームブロック主体とする。
- 6 黒褐色土：ローム粒僅かに含む締まり弱い。
- 7 黒褐色土：ローム小ブロック僅かに含む。

95-121号土坑



95-123号土坑



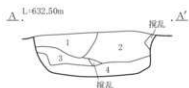
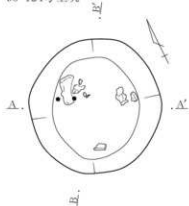
第416図 95区土坑(3)

95-123号土坑

- 1 黒色土：ローム粒僅かに含む。
- 2 黒色土：1よりローム粒多く含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック含む。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

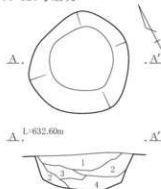
95-124号土坑



95-124号土坑

- 1 黒色土：黄白色の軽石を含む。
- 2 黒褐色土：黄白色の軽石を含む。
- 3 明赤褐色土：黄白色の軽石、焼土含む。
- 4 黒褐色土：黄白色の軽石を含む。

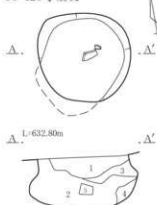
95-125号土坑



95-125号土坑

- 1 褐色土：粘土ブロック多く含み良く締まり、黄白色軽石少量含む。
- 2 暗褐色土：黄白色軽石を1より多く含み良く締まる。
- 3 灰褐色土：白色粒多く含み黄白色軽石少量含む。良く締まる。
- 4 暗黄褐色土：黄白色軽石多く、小礫混入。

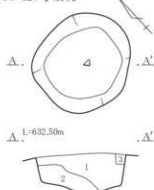
95-126号土坑



95-126号土坑

- 1 暗黄褐色土：粘性ややあり。
- 2 黒褐色土：黄白色の大粒軽石少量含む。
- 3 黄色土。
- 4 黄褐色土。

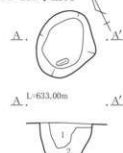
95-127号土坑



95-127号土坑

- 1 暗褐色土：黄白色軽石多く含む。
- 2 褐色土：黄白色軽石多く含み小粘土塊少量含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック。

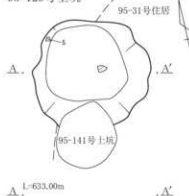
95-128号土坑



95-128号土坑

- 1 暗黄褐色土：ローム粒僅かに含む。
- 2 黄褐色土。

95-129号土坑

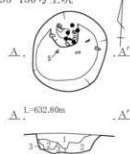


95-129号土坑

95-129号土坑

- 1 暗褐色土：大粒ローム粒少量含む。
- 2 褐色土：大粒ローム粒僅かに含み締まりなし。

95-130号土坑



95-130号土坑

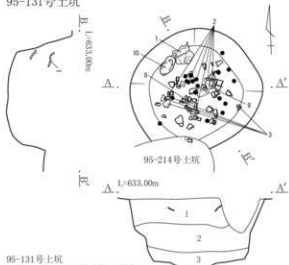
- 1 黒色土：ローム、軽石粒含む。
- 2 黒色土：ローム粒子含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック多く含む。

第417図 95区土坑(4)



第3章 検出された遺構と遺物

95-131号土坑



95-131号土坑

- 1 黒色土 ローム粒軽石少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 2よりローム粒、ブロック共に多く含む。

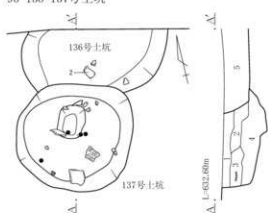
95-133・134号土坑



95-133号土坑

- 1 暗褐色土 黄白色軽石少量含む。
- 2 黄褐色土 黄白色軽石少量含む。

95-136・137号土坑



95-136・137号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、白色粒含み良く締まる。(95-23号住居跡)
- 2 暗褐色土 小ロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 締まりなし。
- 4 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒、軽石粒目立つ。

95-132号土坑



95-132号土坑

- 1 暗褐色土 粘性、締まりなし。
- 2 黄褐色土 締まりなし。

95-135号土坑



95-135号土坑

- 1 暗褐色土 粘性、締まりなし。
- 2 黄褐色土 粘性、締まりなく色調明るい。

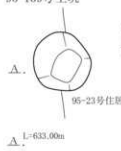
95-138号土坑



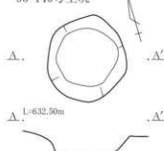
95-138号土坑

- 1 暗褐色土 黄色ロームブロック混入、締まりあり、細粒で軽石粒含む。
- 2 黄褐色土 締まり強く、細粒。

95-139号土坑



95-140号土坑

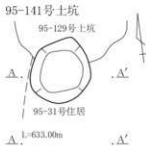


95-139号土坑

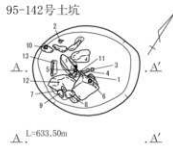
- 1 暗褐色土 ローム粒、白色粒含み固く締まる。
- 2 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。

0 1:40 1m

第418図 95区土坑(5)



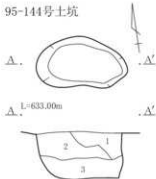
95-141号土坑
1 黒褐色土 若干のローム粒含む。



95-142号土坑
1 黒色土 ローム、YPK含む。
2 暗黒褐色土 YPK及びロームブロック若干含む。
3 暗褐色土 ロームブロック含む。



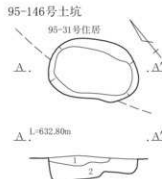
95-143号土坑
1 黒褐色土 白色粒少量、大形土塊含みや粘性あり。
2 暗褐色土 粘性あり。
3 暗黄褐色土 黄白色大粒の軽石少量、粘性少。



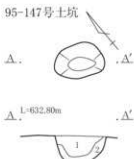
95-144号土坑
1 黒褐色土 黄白色の軽石少量含み大粒粘土塊含む。
2 暗黄褐色土 黄白色の軽石少量含む。
3 黄褐色土 黄白色の軽石少量含む。



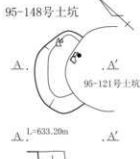
95-145号土坑
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。



95-149号土坑
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロック含む。



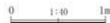
95-146, 147号土坑
1 暗褐色土 粘性、締まりなし。
2 黄褐色土 粘性、締まりなし。



95-148号土坑
1 黒色土 若干のローム粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

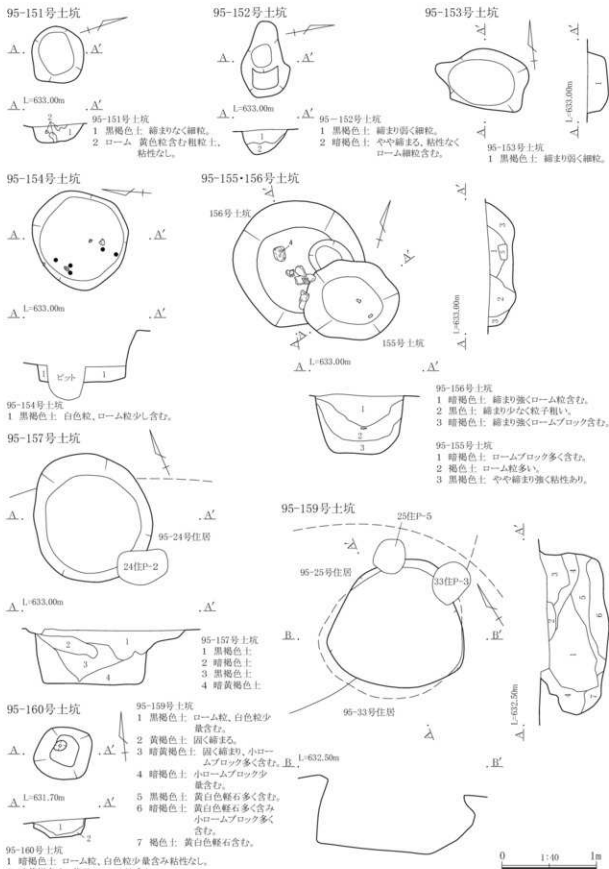


95-150号土坑
1 暗黄褐色土 ローム粒多く含み、粘土塊少量含む。
2 黄褐色土

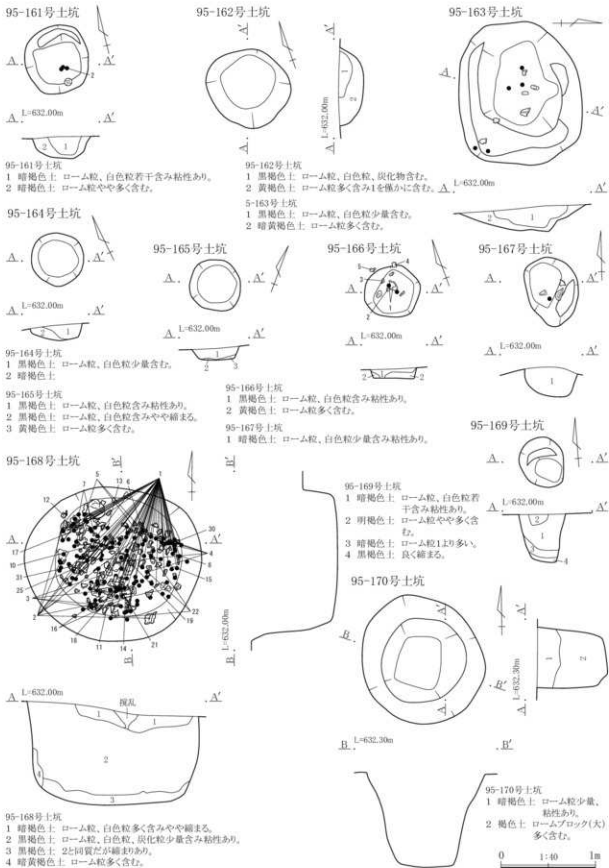


第419図 95区土坑(6)

第3章 検出された遺構と遺物



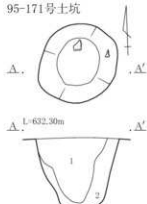
第420図 95区土坑(7)



第421図 95区土坑(8)

第3章 検出された遺構と遺物

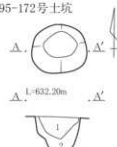
95-171号土坑



95-171号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、ローム小ブロック、炭化物少量含む。
2 暗黄褐色土：ローム粒、ローム小ブロック多く含む。

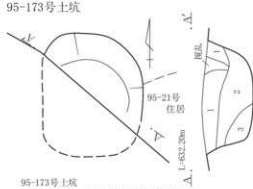
95-172号土坑



95-172号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、白色粒少量含む。
2 暗黄褐色土：ローム粒多く含む。

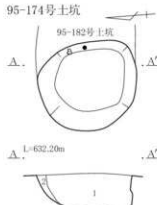
95-173号土坑



95-173号土坑

- 1 褐色土：ローム粒、白色粒少量含む。縮まり。
2 褐色土：ローム粒多く、小ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土：ローム粒多く含み小ロームブロック少量含む、縮まり弱い。

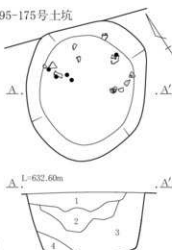
95-174号土坑



95-174号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒多く白色粒少量含み粘性弱い。
2 暗黄褐色土。

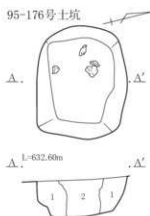
95-175号土坑



95-175号土坑

- 1 黒褐色土：縮まりあり、ローム粒やや含む。
2 暗褐色土：ロームブロック含む。
3 暗褐色土：2よりロームブロック、ローム粒多く含む。
4 褐色土：粒粗、ローム粒、ロームブロック多く含む。

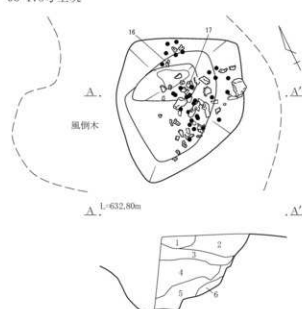
95-176号土坑



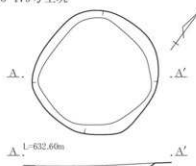
95-176号土坑

- 1 褐色土：粘性、縮まりなし。
2 明褐色土（規尺）

95-178号土坑



95-179号土坑



95-178号土坑

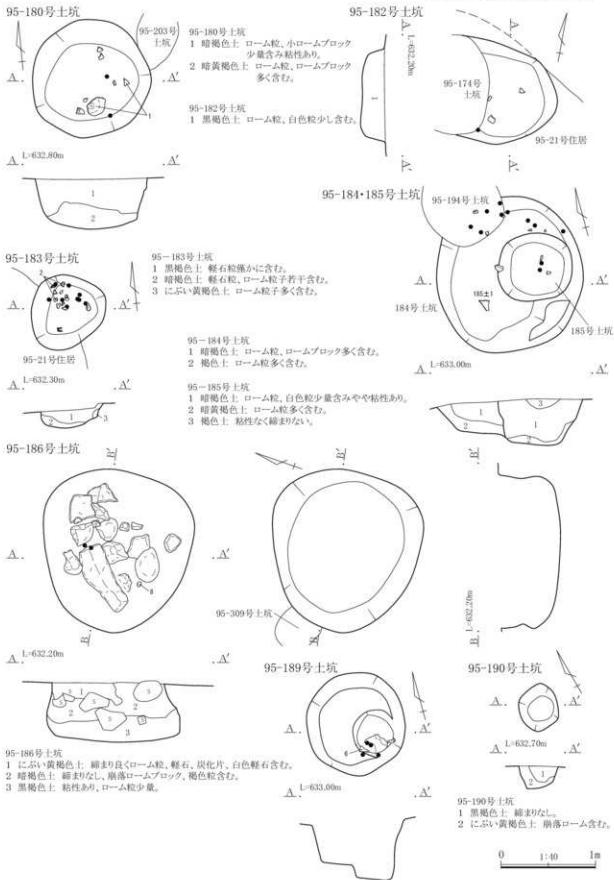
- 1 暗黄褐色土：ローム粒多く含みやや縮まりあり。
2 褐色土：ローム粒多く含みやや縮まりあり、白色粒少。
3 暗褐色土：ローム粒、小粒ロームブロック含む。
4 黒色土：ローム粒、大粒ロームブロック含む。
5 黒色土：ローム粒、大粒ロームブロック少量含む。
6 黄褐色土：ローム粒多く含む。

95-179号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒少量、粘性少。

0 1:40 1m

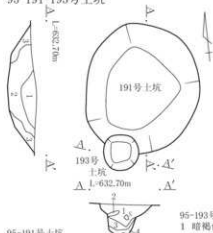
第422図 95区土坑(9)



第423図 95区土坑(10)

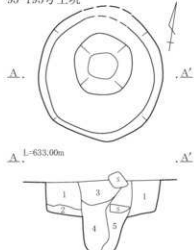
第3章 検出された遺構と遺物

95-191・193号土坑



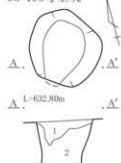
- 95-191号土坑
 1 暗褐色土 褐色粒,炭化物含む。
 2 暗褐色土 褐色粒,ローム粒子含む。
 3 暗褐色土 すぐれたローム含む。

95-195号土坑



- 95-195号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒,白色粒少量含む。
 2 褐色土 ローム粒多く含む。
 3 暗褐色土 ローム粒少し含みや締まる。
 4 暗褐色土 ローム粒,小ロームブロック多く含む。
 5 黄褐色土 ローム粒,ロームブロック多く含む。

95-198号土坑

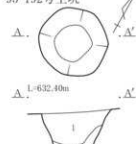


- 95-198号土坑
 1 にぶい黄褐色土 白色軽石粒,黒色土,多くのローム粒含む。
 2 にぶい黄褐色土 ロームブロックの中に黒色土が混入。

95-199号土坑

- 95-199号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒,白色粒を含む。
 2 暗黄褐色土 ローム粒多く,白色粒少量含む。

95-192号土坑

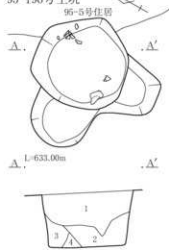


- 95-192号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒,白色粒含みや粘りあり。
 2 黒褐色土 ローム粒含み良く締まる。
 3 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。

95-193号土坑

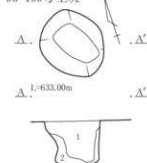
- 95-193号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 2 にぶい黄褐色土 ローム粒多く含む。
 3 黒褐色土 白色粒,褐色粒含む。
 4 にぶい黄褐色土 脆弱なローム含む。

95-196号土坑



- 95-196号土坑
 1 暗褐色土 細粒土で白色軽石粒,ローム粒,褐色粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒,ロームブロック含む。
 3 暗褐色土 2にやや多くローム粒子が混入,粘りあり。
 4 暗褐色土 締まりなくローム粒多く含む。

95-199号土坑



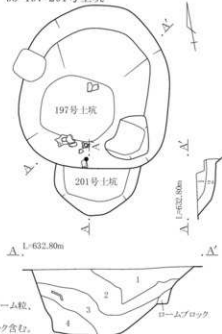
- 95-199号土坑
 1 にぶい黄褐色土 白色軽石粒,黒色土,多くのローム粒含む。
 2 にぶい黄褐色土 ロームブロックの中に黒色土が混入。

95-194号土坑



- 95-194号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒,白色粒少量,粘性弱い。
 2 暗褐色土 ローム粒,白色粒少量,小ロームブロック含む。

95-197・201号土坑



95-197号土坑

- 95-197号土坑
 1 暗褐色土 細粒土で白色軽石粒,褐色粒含む。
 2 暗褐色土 1にロームブロック僅かに含む。
 3 暗褐色土 1にローム粒混入。
 4 にぶい黄褐色土 粘りあり,ローム粒,ブロック多く混入。

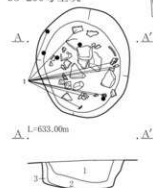
95-201号土坑

- 95-201号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒,軽石,褐色粒含む。
 2 暗褐色土 1にローム粒少量含む。

95-200号土坑

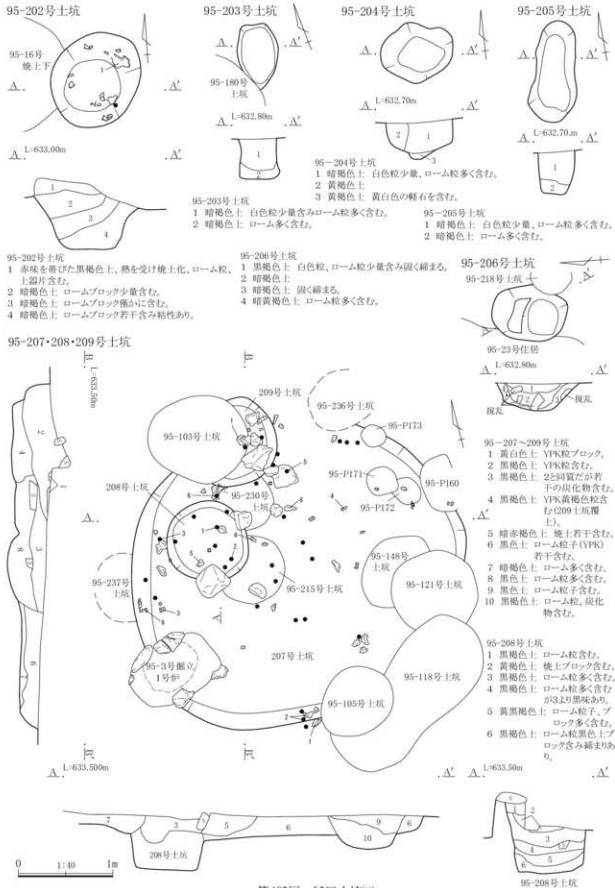
- 95-200号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒,白色粒少量含む。
 2 褐色土 ローム粒多く含む。
 3 黒褐色土 ローム粒少量含む。

95-200号土坑



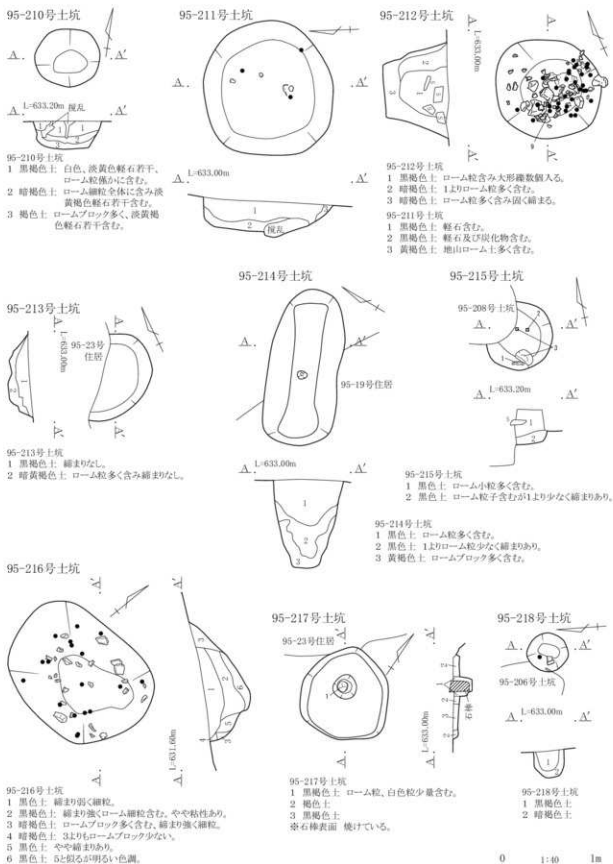
第424図 95区土坑(II)

第2節 縄文時代の遺構と遺物



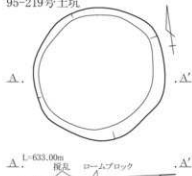
第425図 95区土坑(12)

第3章 検出された遺構と遺物



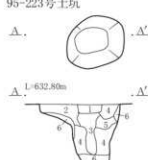
第426図 95区土坑(3)

95-219号土坑



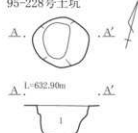
- 95-219号土坑
1 黒褐色土 粘性少し、締まりなし。
2 暗褐色土 やや固く締まる。
3 暗黄褐色土

95-223号土坑



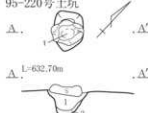
- 95-223号土坑
1 黒褐色土 固く締まる。
2 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。
3 黒褐色土 小さなロームブロック少し含み締まりなし。(柱痕か?)
4 褐色土 固く締まる。
5 黒褐色土 小ロームブロック多く含む。
6 黄褐色土

95-228号土坑



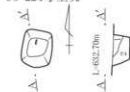
- 95-228号土坑
1 黒褐色土 粘性、締まりなし、小ロームブロック少量含む。

95-220号土坑



- 95-220号土坑
1 黒色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。

95-224号土坑



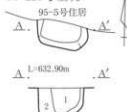
- 95-224号土坑
1 暗褐色土 固く締まる。
2 暗黄褐色土 ローム粒、小ロームブロック多く含む。

95-226号土坑



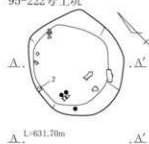
- 95-226号土坑
1 黒褐色土 やや固く締まる。
2 暗黄褐色土
3 黄褐色土

95-229号土坑



- 95-229号土坑
1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。
2 黒褐色土 1より締まりローム粒多く含む。

95-222号土坑



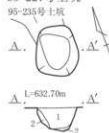
- 95-222号土坑
1 黒褐色土 ローム粒含むやや軟弱。
2 黒褐色土 ローム粒、若干のロームブロック含む。
3 暗褐色土 ロームブロックやや含む。

95-225号土坑



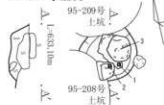
- 95-225号土坑
1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少し含む。
2 黒褐色土 ローム粒1より多く含む。
3 褐色土 大きなロームブロック含む。

95-227号土坑



- 95-227号土坑
1 暗褐色土 大粒ロームブロック、白色粒少し含む。
2 黄褐色土

95-230号土坑



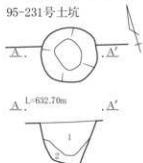
- 95-230号土坑
1 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。



第427図 95区土坑(14)

第3章 検出された遺構と遺物

95-231号土坑



95-231号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム小ブロック含む。

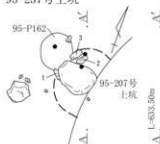
95-234号土坑



95-234号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。

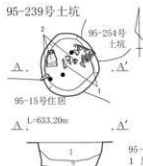
95-237号土坑



95-237号土坑

- 1 黒色土 ローム粒若干含む。
- 2 暗褐色土 ローム多く含む。

95-239号土坑



95-239号土坑

- 1 黒色土 ローム粒含む。
- 2 黒色土 ローム粒多く含む。

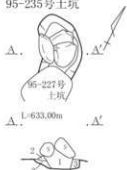
95-232号土坑



95-232号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒含む。
- 2 暗褐色土

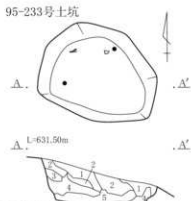
95-235号土坑



95-235号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量、固く締まる。
- 2 暗褐色土 1と異なるがやや明るい色調。
- 3 黄褐色土

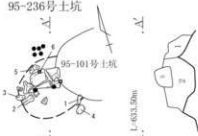
95-233号土坑



95-233号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒混入しやや軟質。
- 2 黒褐色土 1と近似するがややロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒、ブロックを含む。

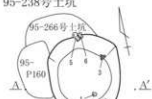
95-236号土坑



95-236号土坑

- 1 黒色土
- 2 黒色土 ローム粒、軽石含む。

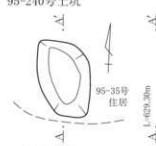
95-238号土坑



95-238号土坑

- 1 黒色土 ローム粒多く含む。
- 2 黒色土 ローム粒若干、少量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック若干含む。

95-240号土坑



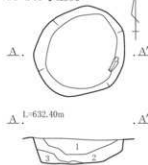
95-240号土坑

- 1 黒褐色土 黒褐色土、ロームブロック、YFK粒含む。
- 2 に近い黄褐色土 ロームに黒色土少量混入。
- 3 に近い黄褐色土 2に納落ロームブロック混入。

第428図 95区土坑(四)

0 1:40 1m

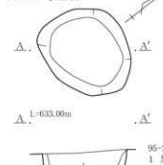
95-241号土坑



95-241号土坑

- 1 明褐色土 小ロームブロック少量含む。
- 2 明褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 黄褐色土

95-243号土坑



95-243号土坑

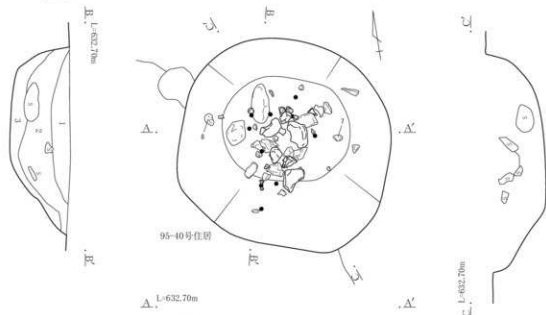
95-244号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒目立つ、ローム粒、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 明黒褐色土、白粒、ローム粒、褐色粒、淡黄軽石少量含む。
- 3 黒褐色土 1と近似、色調明るく、白色粒、ローム、褐色粒、淡黄軽石含む。
- 4 黒褐色土とロームブロックの混土、黒褐色土多く淡黄軽石少量含む。

95-243号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、黄粒、褐色粒、ローム粒、淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ブロック、淡黄軽石少量、褐色粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック、黒褐色土混土、淡黄軽石少量含む。

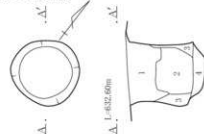
95-246号土坑



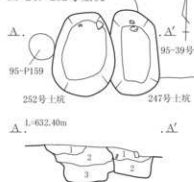
95-245号土坑

- 1 黒褐色土 YPK(大粒)含む締まりあり。
- 2 黄褐色土 YPK多量を含む。
- 3 黄褐色土 YPK比較的多く含む。
- 4 黄褐色土 ローム粘性土。

95-245号土坑



95-247・252号土坑



95-246号土坑

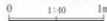
- 1 黒色土 若干のローム粒含む。
- 2 黒色土 若干のYPK(大粒)混入。
- 3 暗黒褐色土 汚れたYPK多く混入し締まりあり。

95-247号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。
- 2 明褐色土 ローム粒多く、ローム大ブロック少量含む。

95-252号土坑

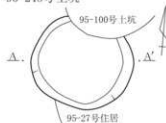
- 1 暗褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒多く含む締まりあり。
- 3 明褐色土 ローム粒多く含む5cm大のロームブロック少量含む。



第429図 95区土坑(画)

第3章 検出された遺構と遺物

95-248号土坑



95-249号土坑

- 1 黒褐色土と暗褐色土の混土。締まり弱く白色粒、褐色粒、炭化物、淡黄軽石種かに含む。
- 2 黒褐色土 1と近似するが、各粒の混入少ない。

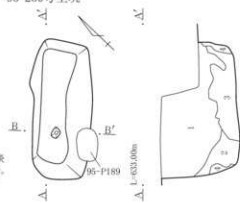
95-248号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、淡黄軽石少量。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多く、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒、淡黄軽石少量。
- 5 暗褐色土 ローム粒、ブロック小と黒褐色土の混土。

95-249号土坑



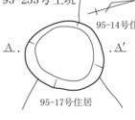
95-250号土坑



95-251号土坑



95-253号土坑



95-250号土坑

- 1 暗褐色土 軟質でローム粒少量、大小淡黄軽石やや多い。
- 2 黒褐色土 1に似るが白粒含まず。
- 3 暗褐色土 軟質、ローム粒少量、中小淡黄軽石やや多い。
- 4 暗褐色土 軟質、ロームブロック(小)混入、淡黄軽石少量。
- 5 暗褐色土 締まり弱く黒褐色土、ロームブロック含む。
- 6 褐色土 締まり弱い、ローム粒と黒褐色土の混土でローム粒目立つ。

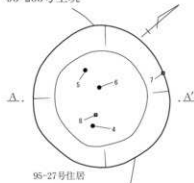
95-251号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く混入、淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土 白粒、淡黄軽石、ローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く、淡黄軽石少量。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック種かに含む。

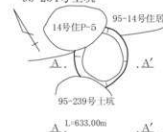
95-253号土坑

- 1 黒褐色土 白粒、淡黄軽石少々、ローム粒少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石少量。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石少量。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒、淡黄軽石含む。

95-255号土坑



95-254号土坑



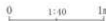
95-254号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、淡黄軽石やや多くローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多、淡黄軽石やや多い。

95-255号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒多く淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒、淡黄軽石、褐色粒種かに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、淡黄軽石やや多い。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石少量。
- 5 黒褐色土 ローム粒やや多く淡黄軽石種かに含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、淡黄軽石、炭化物少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒やや多く褐色粒種か、淡黄軽石少量。
- 8 黒褐色土 ローム粒やや多くローム小ブロック、淡黄軽石少量。
- 9 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く混入、淡黄軽石少量。

第430図 95区土坑(17)



第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-256号土坑



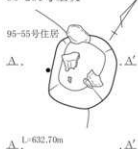
95-256号土坑

- 1 黒褐色土：白色粒、黄粒、褐色粒、ローム粒やや目立つ。
- 2 黒褐色土：ローム粒、褐色粒、淡黄軽石少量。
- 3 暗褐色土：汚れたロームブロック多く淡黄軽石少量含む。
- 4 暗褐色土：ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土：軟質でローム粒、ローム小ブロック含む。

95-259号土坑

- 1 に近い黄褐色土：扇形床、黒褐色土ブロック、YPK粒含む。
- 2 黒褐色土：扇形床、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土：YPK粒少量、崩れたローム少量含む。
- 4 黒褐色土：細まり弱い、YPK粒、ローム小ブロック含む。
- 5 暗褐色土：YPK粒、ローム粒子少量含む。
- 6 黒褐色土：粘性あり、YPK粒僅かに含む。

95-261号土坑



95-261号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒、小ブロック、淡黄軽石、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土：ロームブロック、ローム細粒多く含む。

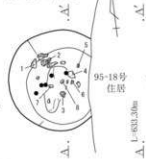
95-266号土坑



95-267号土坑

- 1 黒色土：ローム粒少量含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック含む。

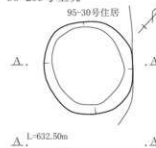
95-257号土坑



95-257号土坑

- 1 暗褐色土：白色粒少量、黄粒、ローム粒、淡黄軽石含む。
- 2 黒褐色土：白色粒多く黄粒、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 3 黒褐色土：ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 4 暗褐色土：淡いロームブロック僅かに含む。

95-259号土坑



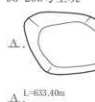
95-262号土坑



95-262号土坑

- 1 黒褐色土：白色粒や多い、ローム粒、淡黄軽石少量含む。
- 2 黒褐色土：黒褐色土混じりの淡いロームブロックやや多く含む。

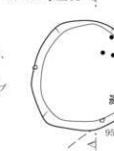
95-263号土坑



95-263号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒、黒褐色土混じりロームブロック、淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土：1に炭化物と白色粒僅かに混じる。
- 3 暗褐色土：淡いロームブロックやや多い。

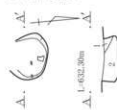
95-267号土坑



95-267号土坑

- 1 黒色土：ローム粒少量含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック含む。

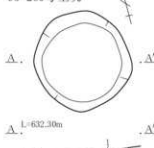
95-258号土坑



95-258号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、白色粒少し含み細まりあり。
- 2 暗黄褐色土：ロームブロック大含み細まる。

95-260号土坑



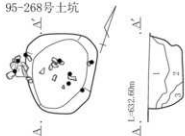
95-260号土坑

- 1 床(に近い黄褐色土)：黒褐色土ブロック、YPK粒含む。
- 2 暗褐色土：YPK粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土：ローム小ブロック、YPK粒含む。

第431図 95区土坑(8)

第3章 検出された遺構と遺物

95-268号土坑



95-268号土坑

- 1 黒色土：ローム小粒含む。
- 2 暗黄褐色土：ローム粒、ブロック若干含む。
- 3 暗黄褐色土：ロームブロック多く含む。縮まりあり。

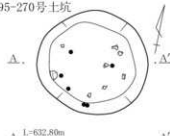
95-269号土坑



95-269号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、小ブロック含む。
- 2 暗褐色土：1よりロームブロック多く縮まりあり。

95-270号土坑



95-270号土坑

- 1 黒色土：ローム粒、小ブロック含む。

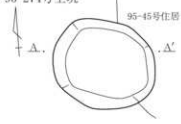
95-273号土坑



95-273号土坑

- 1 黒褐色土：ローム小粒若干含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック含む。

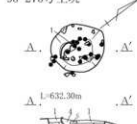
95-274号土坑



95-274号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒子含む。
- 2 暗黄褐色土：ロームブロック多く含む。

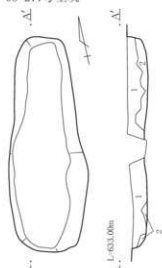
95-275号土坑



95-275号土坑

- 1 黒褐色土：褐色粒、焼土粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土：淡黄軽石、焼土粒少々、褐色粒、僅かに含む。
- 3 黒褐色土：焼土粒やや多い。淡黄軽石僅かに含む。
- 4 黒褐色土：褐色粒僅かに含む。
- 5 3に焼土ブロックやや多く混入。

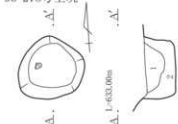
95-277号土坑



95-277号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒若干含む。
- 2 黄褐色土：ローム主体。

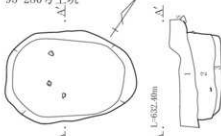
95-278号土坑



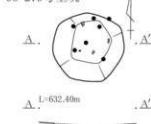
95-278号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒、ブロック多く含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒、若干の炭化物含む。

95-280号土坑



95-279号土坑



95-279号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒、褐色粒、白粒、淡黄、淡黄軽石含む。
- 2 黒褐色土：ロームブロック少量、褐色粒、ローム粒少量含む。

95-280号土坑

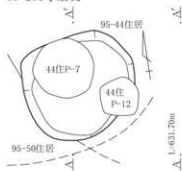
- 1 黒褐色土：白色粒、褐色粒、淡黄軽石少量。
- 2 黒褐色土：白色粒、褐色粒、ローム粒、淡黄軽石少量。
- 3 暗褐色土：黒褐色土とロームブロックの混上。

0 1:40 1m

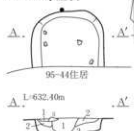
第432図 95区土坑(9)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

95-281号土坑



95-284号土坑



95-294号土坑

- 1 黒褐色土 白粒、ローム粒僅少。
- 2 黒褐色土 ローム粒、褐色粒少々。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック少量含む。

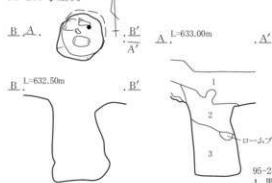
95-287号土坑



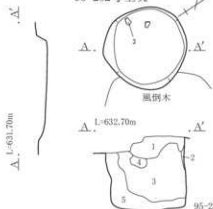
95-287号土坑

- 1 黒色土 ローム粒含む。
- 2 黒色土 ローム粒L10多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。

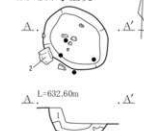
95-289号土坑



95-282号土坑



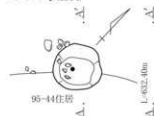
95-285号土坑



95-285号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白粒、褐色粒、YPK少量。
- 2 黒褐色土 ローム粒やや多い、褐色粒、炭化物少量。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多く、ローム粒少量含む。

95-288号土坑



95-44住居

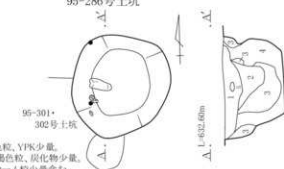
95-283号土坑



95-283号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、ローム粒、YPK少々。
- 2 黒褐色土 ローム粒、YPK僅少。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック多く、炭化物少量含む。
- 4 黒褐色土 3に焼土粒少々混じる。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ブロックやや多く含む。

95-286号土坑



95-286号土坑

- 1 黒色土 ローム粒若干含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、若干のローム小ブロック含む。

95-288号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、YPK少量。
- 2 黒褐色土 YPK、炭化物、褐色粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、YPK少量。

95-290号土坑



95-290号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム分多く含む。

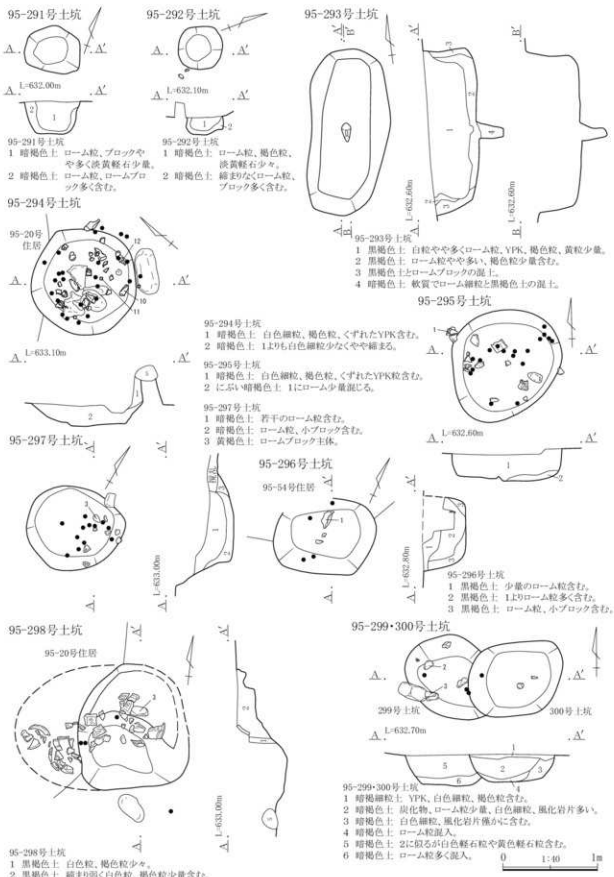
95-289号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物、淡黄軽石、褐色粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多い。
- 3 黒褐色土 ローム粒多い。

第433図 95区土坑(20)



第3章 検出された遺構と遺物



第434図 95区土坑(2)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

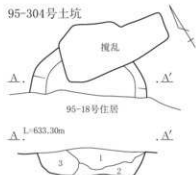
95-301・302号土坑



95-301・302号土坑

- 1 暗褐色: 細粒で締まりに欠ける、VPK、白色細粒、褐色粒含む。
- 2 暗褐色土: ローム粒子少量含む。
- 3 暗褐色土: 1に比し褐色粒多く、ローム粒子も含む、締まりあり。
- 4 暗黄褐色土: くだれたローム多く含む褐色粒、白色細粒僅か。
- 5 暗褐色土: 1に似るが褐色粒が多く、ローム粒子含む。
- 6 暗褐色土: 3に似るが白色細粒多い。

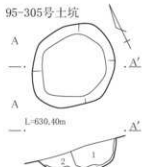
95-304号土坑



95-304号土坑

- 1 黒褐色土: 黄色軽石少量、ローム細粒、白色粒多めに含む。
- 2 黒褐色土: 黄色軽石やや多くロームブロック小、白色粒僅か。
- 3 黒褐色土: 黄色軽石、ローム細粒、白色粒やや多く含む。

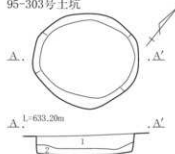
95-305号土坑



95-305号土坑

- 1 黒褐色土: 締まり弱く白色、淡黄軽石若干含む。
- 2 黒褐色土: ローム粒少量、淡黄軽石僅か含む。
- 3 黒褐色土: ローム粒、ロームブロック多い。

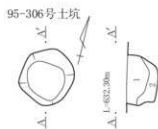
95-303号土坑



95-303号土坑

- 1 黒褐色土: 砂質、黄色軽石少量、ローム細粒やや多く白色粒少量含む。
- 2 黒褐色土: 砂質、黄色軽石、ローム細粒、白色粒、茶色粒僅かに含む。

95-306号土坑



95-306号土坑

- 1 黒褐色土: 黄色軽石、白色粒、茶色粒少量含む。
- 2 黒褐色土: 1よりも黄色軽石やや多く含む。

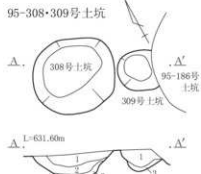
95-307号土坑



95-307号土坑

- 1 黒褐色土: ローム粒含む。
- 2 黒色土: ローム粒、白色粒少量含む。

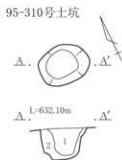
95-308・309号土坑



95-308・309号土坑

- 1 黒色土: ローム粒、VPK少し含む。
- 2 黒褐色土: ローム粒、VPK少し含む。
- 3 暗黄褐色土: ローム粒多く含む。

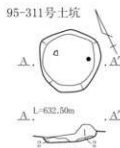
95-310号土坑



95-310号土坑

- 1 黒褐色土: ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土: ローム粒より多く含む。

95-311号土坑



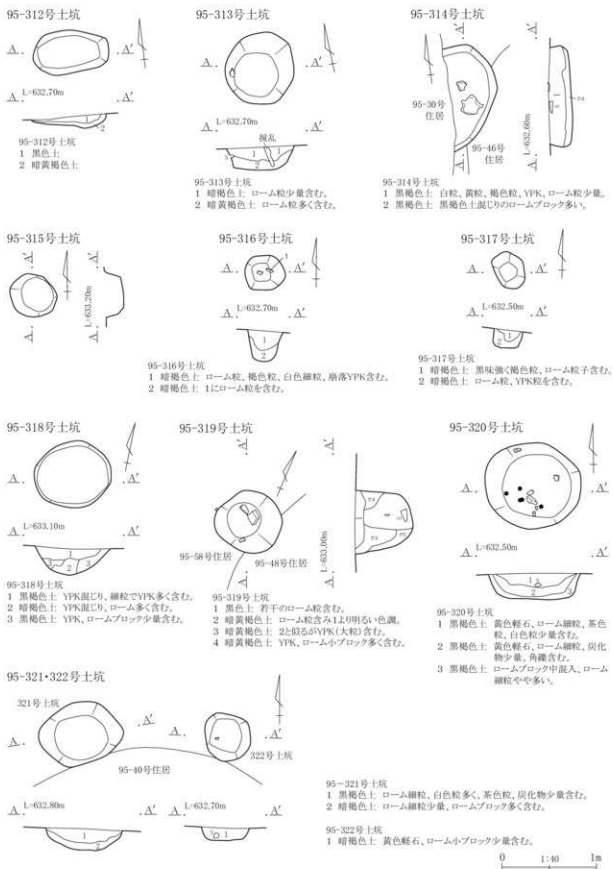
95-311号土坑

- 1 黒色土
- 2 暗黄褐色土



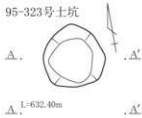
第435図 95区土坑②

第3章 検出された遺構と遺物



第436図 95区土坑図

第2節 縄文時代の遺構と遺物



95-323号土坑
1 黒褐色土 YPK、炭化物少量、やや粘性あり。
2 暗褐色土 YPK少量、やや粘性あり。



95-324号土坑
1 黒褐色土 YPK含み粘性なし。
2 暗褐色土 YPK少量含み粘性、締まりなし。



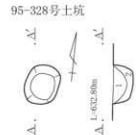
95-325号土坑
1 黒褐色土 黄色軽石、白色粒少量含む。



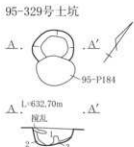
95-326号土坑
1 黒褐色土 ローム粒若干含む
2 黒褐色土 ローム粒、小ブロック及び少量の炭化物含む。



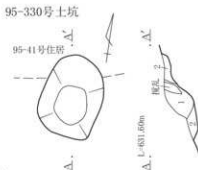
95-327号土坑
1 黒褐色土 YPK少量、やや締まりあり。
2 黒褐色土 ロームブロック状混じり、YPK少量含む。
3 暗褐色土 ローム混じり、YPK少量で粘性あり。



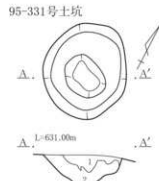
95-328号土坑
1 黒褐色土 黄色軽石、白色粒少量、ローム細粒僅か。
2 暗褐色土 黄色軽石僅か、ロームブロックや多く、ローム細粒少量含む。



95-329号土坑
1 黒褐色土 大小のYPK少量、ロームブロック含みやや締まりあり。
2 暗褐色土 YPK若干含み粘性あり。
3 暗褐色土 ローム多く含む、YPK若干混入し粘性あり。



95-330号土坑
1 黒褐色土 YPK、風化岩片含む。
2 暗黄褐色土 ローム粒子、YPK含む。



95-331号土坑
1 黒褐色土 締まり弱くローム粒少量含む。
2 黒褐色土 ローム、黒褐色土をブロック状に含む。

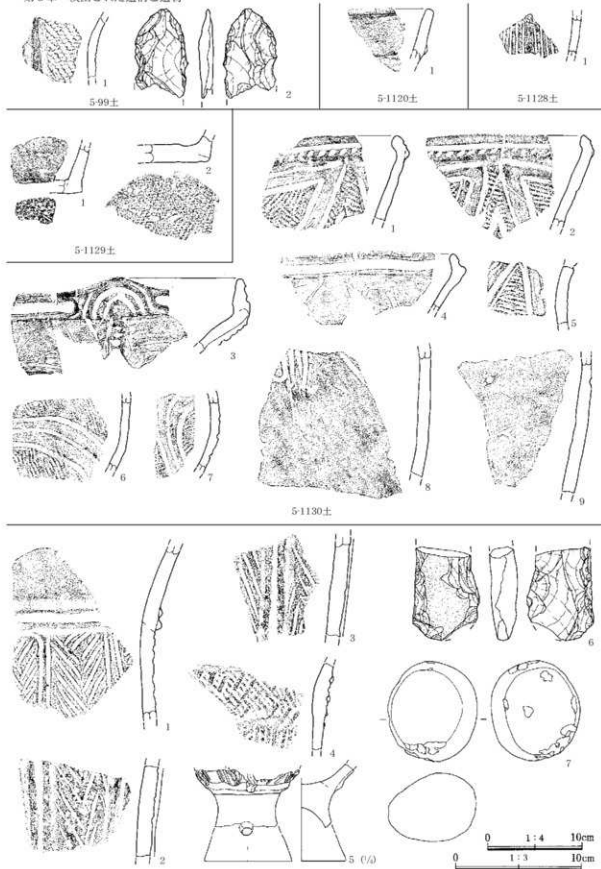


第437図 95区土坑図

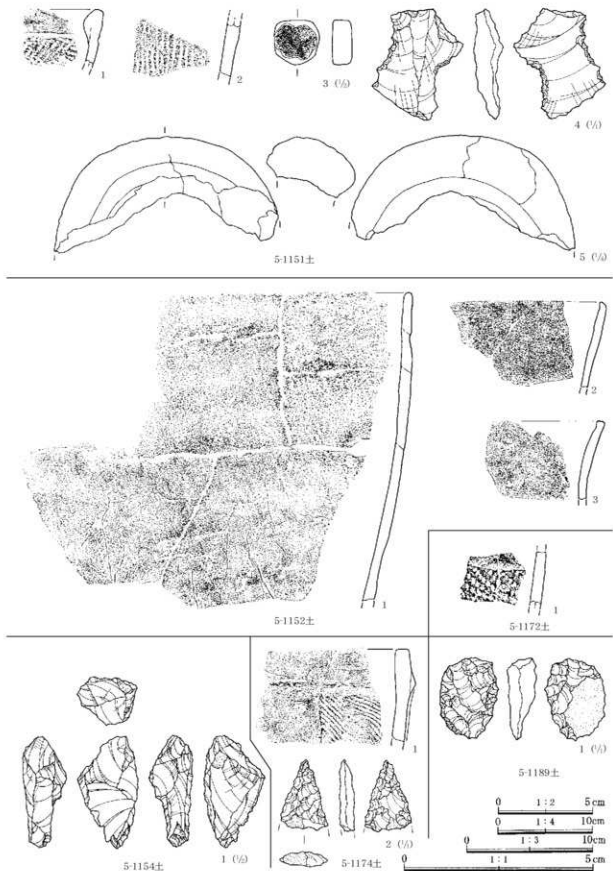
後系)。 189号土坑—土器片、石皿片（後期）。 194号土坑—土器片、石鏃。

197号土坑—石鏃。 200号土坑—土器片、大型礫多数（後期）。 202号土坑—土器片（後期）。 212号土坑—礫、土器片多数が上層に集中、多孔石2点（後期）。 215号土坑—打製石斧、石皿2点。 216号土坑—上層に土器片。 217号土坑—被熱した石棒が直立して出土。 220号土坑—石皿が蓋状に置かれる。 230号土坑—石皿と平石が重なって出土、下からは磨石2点。 232号土坑—土器片、石鏃（後期）。

第3章 検出された遺構と遺物

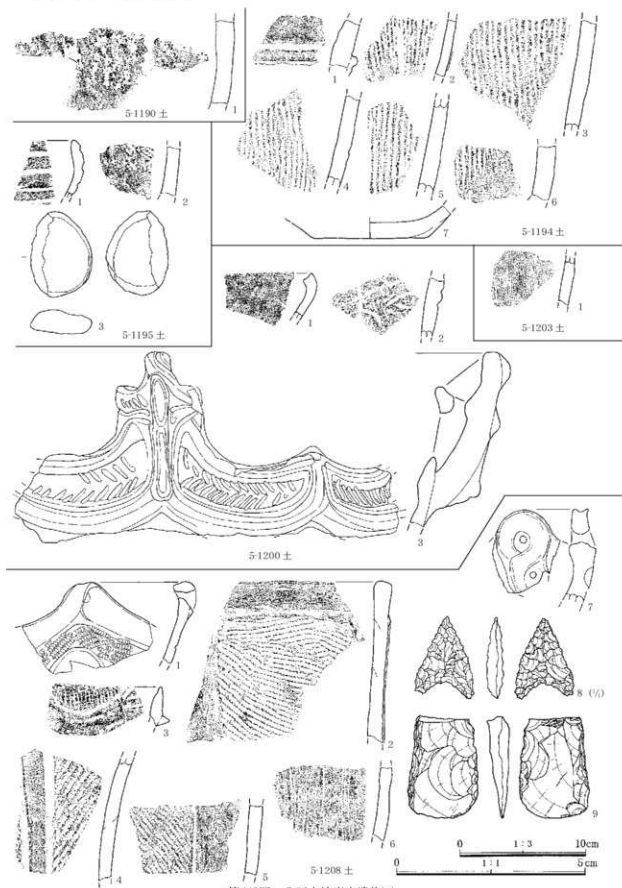


第438図 5区上坑出土遺物(1)

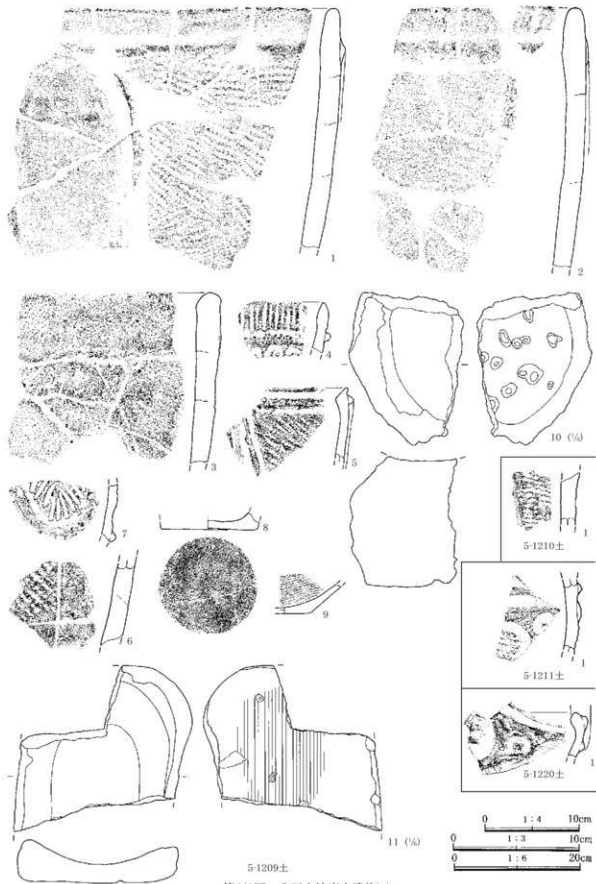


第439図 5区土坑出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

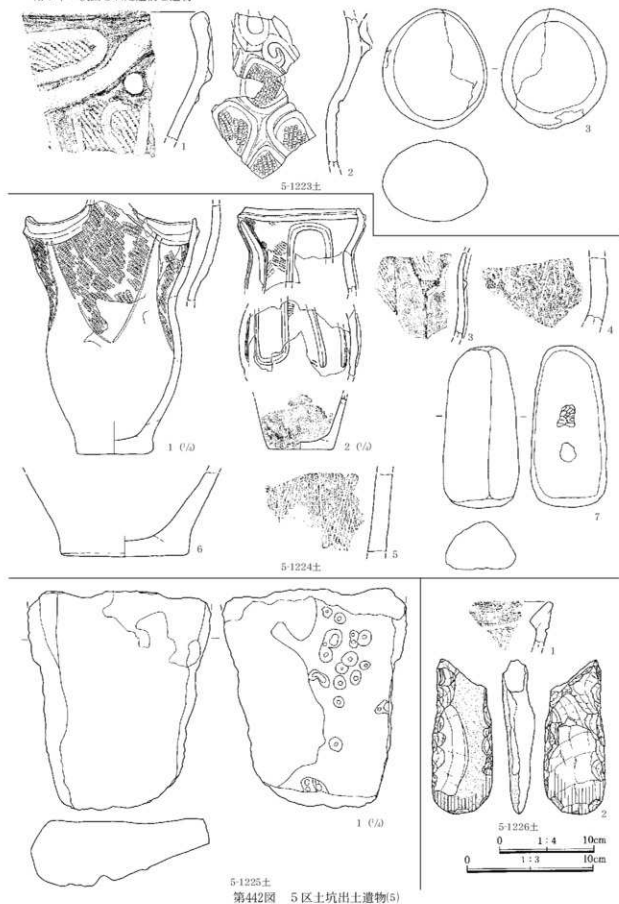


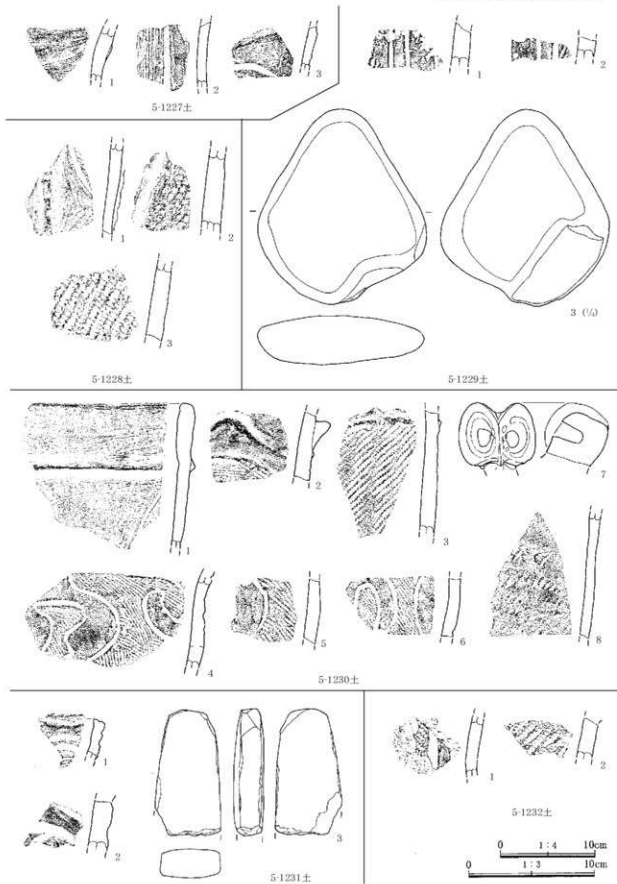
第440図 5区土坑出土遺物(3)



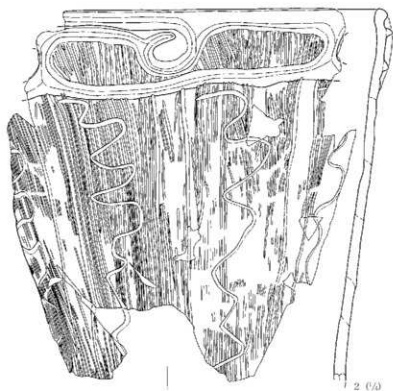
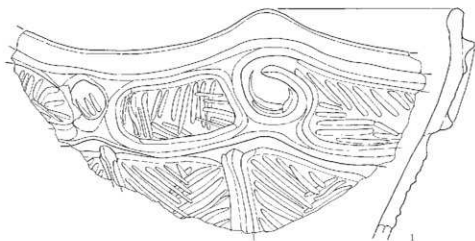
第441図 5区土坑出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



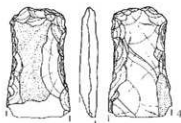


第443図 5区土坑出土遺物(6)



5-1234土

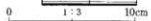
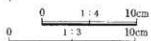
2 (A)



5-1235土

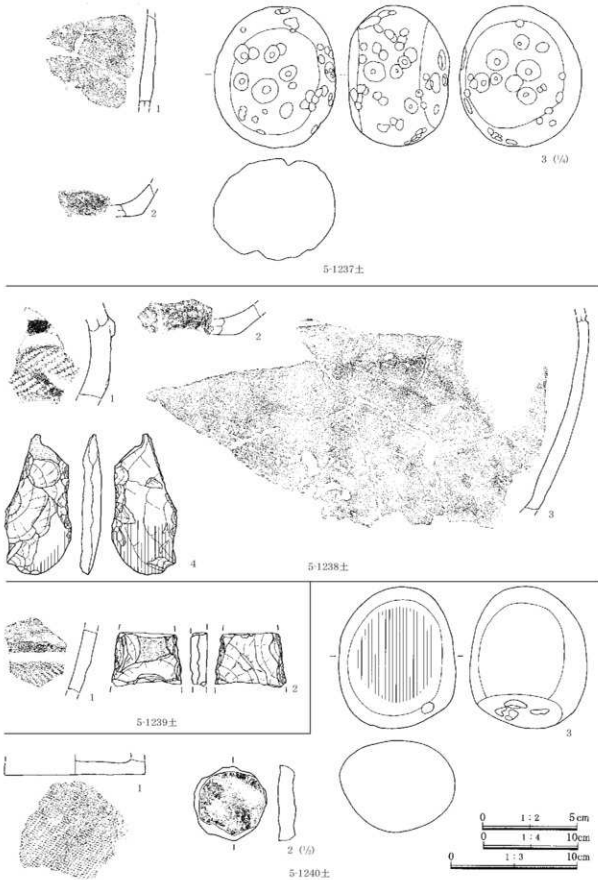


5-1236土



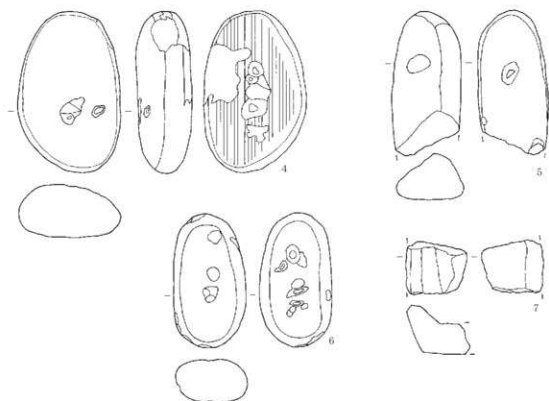
第444図 5区土坑出土遺物(7)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

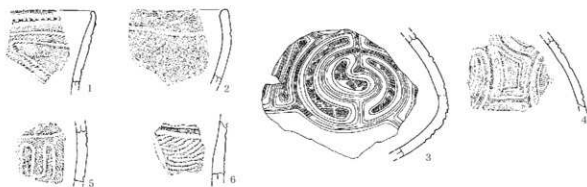


第445図 5区土坑出土遺物(8)

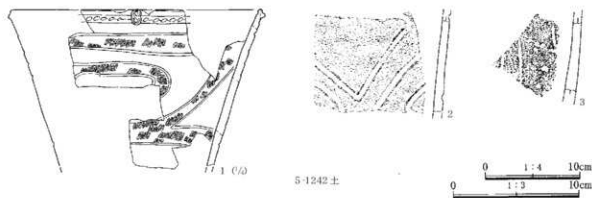
第3章 検出された遺構と遺物



5-1240 土

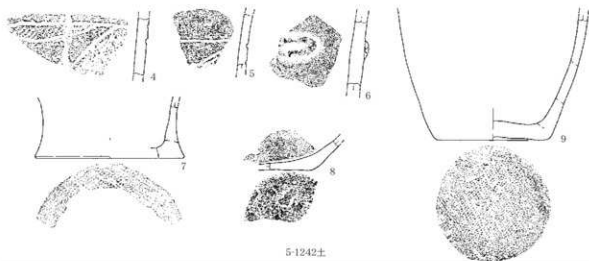


5-1241 土

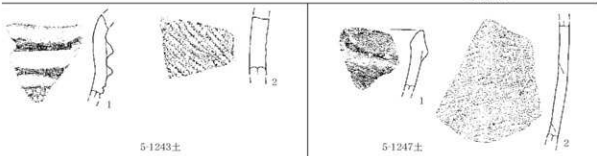


5-1242 土

第446図 5区土坑出土遺物(9)

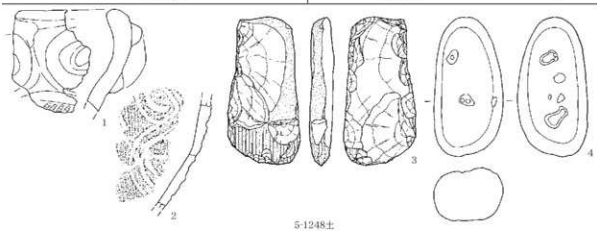


5-1242土

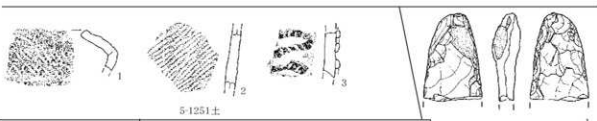


5-1243土

5-1247土



5-1248土



5-1251土

5-1253土



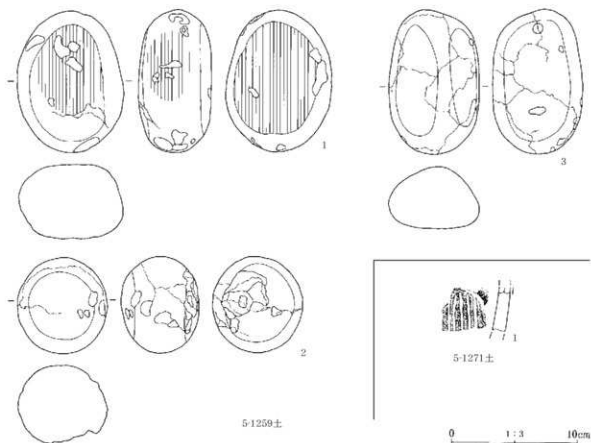
5-1256土

5-1257土

0 1:3 10cm

第447図 5区上坑出土遺物(10)

第3章 検出された遺構と遺物



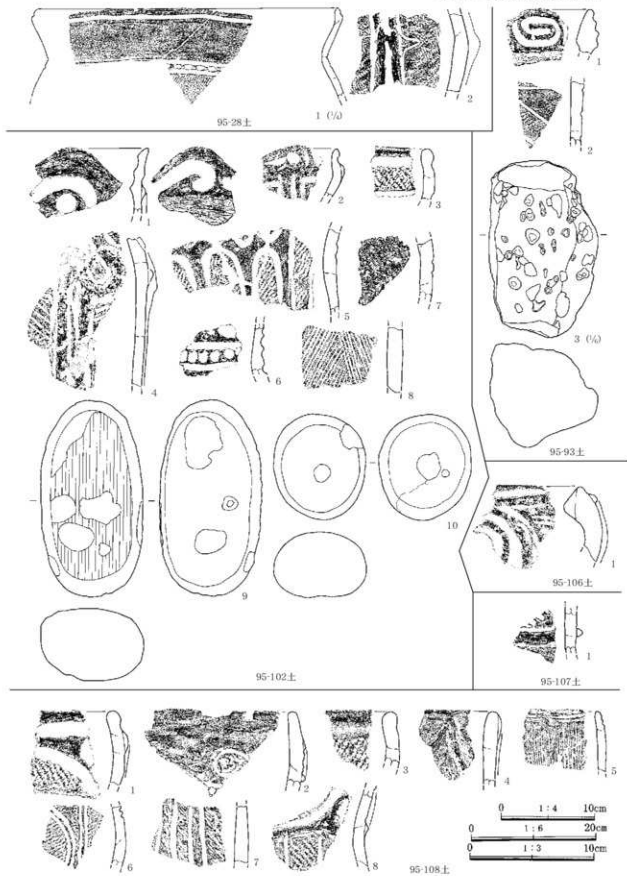
第448図 5区土坑出土遺物(II)

234・235号土坑—大型の川原石直立状態で出土。土器、石器の出土は無し。 236号土坑—打製石斧、磨石、石皿片2点。 238号土坑—土器片、打製石斧、磨石。 239号土坑—大型土器片出土、2点復元。
 246号土坑—上層中央に炉状の石組みあり、若干の土器片と磨石2点。 255号土坑—中層に角礫複数、土器片、磨石。 261号土坑—中層に土器片、大型礫。 268号土坑—上層に土器片多数(後期)。
 275号土坑—半完形土器(後期)。 283号土坑—土器片、石鏃。 285号土坑—壁に大型礫、多孔石。
 289号土坑—下位に大型礫、土器片1。 294号土坑—大型礫、土器片、打製石斧、磨石。
 295号土坑—土器片複数。 297号土坑—土器片、磨石2点。 299号土坑—磨石。 326号土坑—上層に礫、土器片、多孔石(後期)。 329号土坑—石鏃1点。

8. ピット (第475～480図：PL.107～111・244)

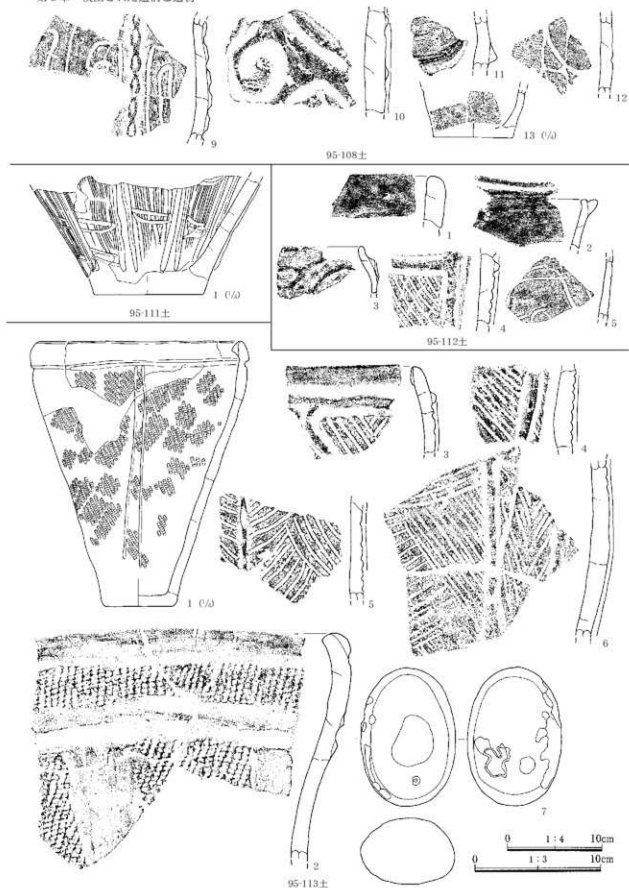
土坑状で径が小さいものをピットとした。径はおよそ50cm以下で深さも50cm以下が多い。検出数は、5区43基、95区44基の計87基である。出土遺物は第480図に示すように、若干の土器片および、磨石1点と僅かである。

時期は概ね縄文時代のもものと判断されるが、時期が確定できないものもある。その分布状況を見ると、5区調査区の北寄りに多く集中している状況があり、ここでは、整理作業を行う中で5～8号掘立柱建物跡の存在を確認している。他にも比較的深さを有し、断面に柱痕を持つものもあることから、掘立柱建物跡の存在は否定できない。

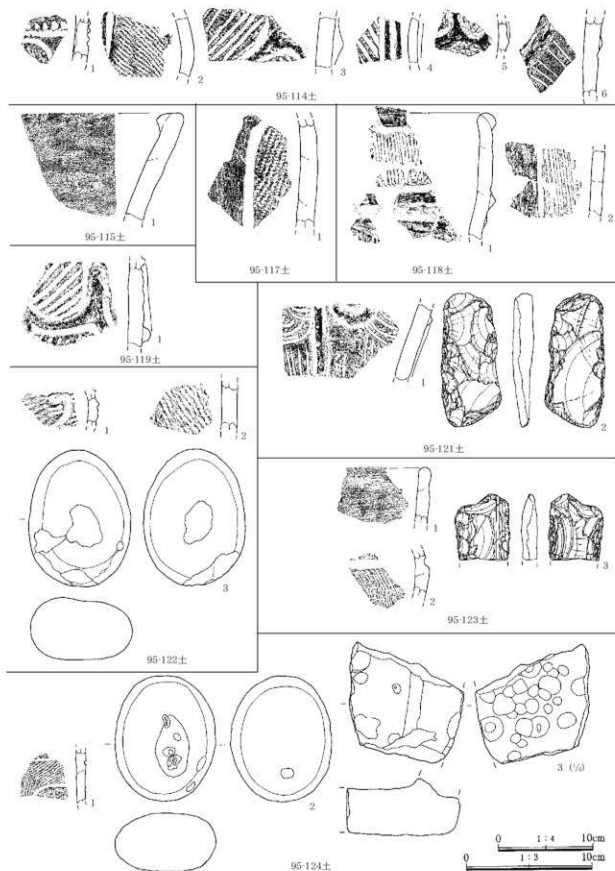


第449図 95区土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

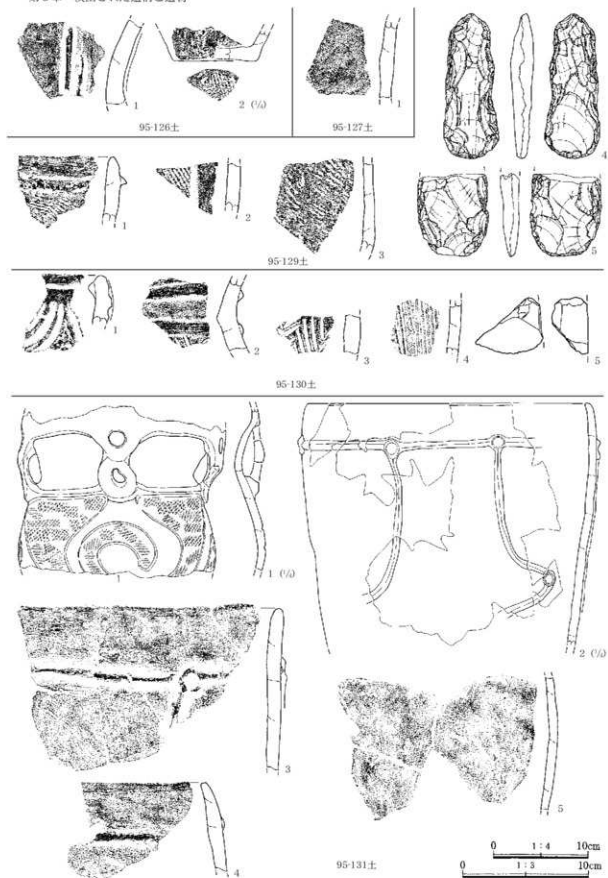


第450図 95区土坑出土遺物(2)

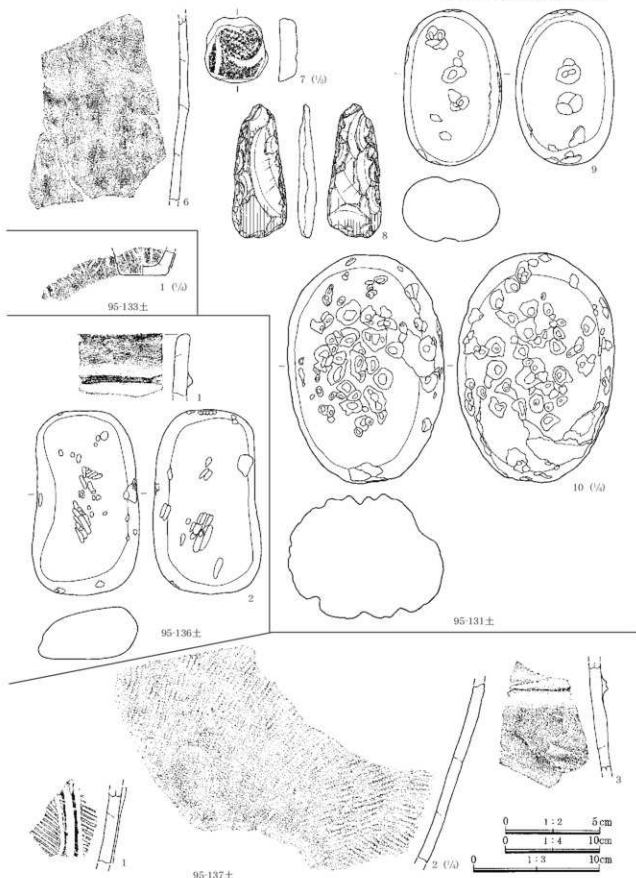


第451図 95区土坑出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

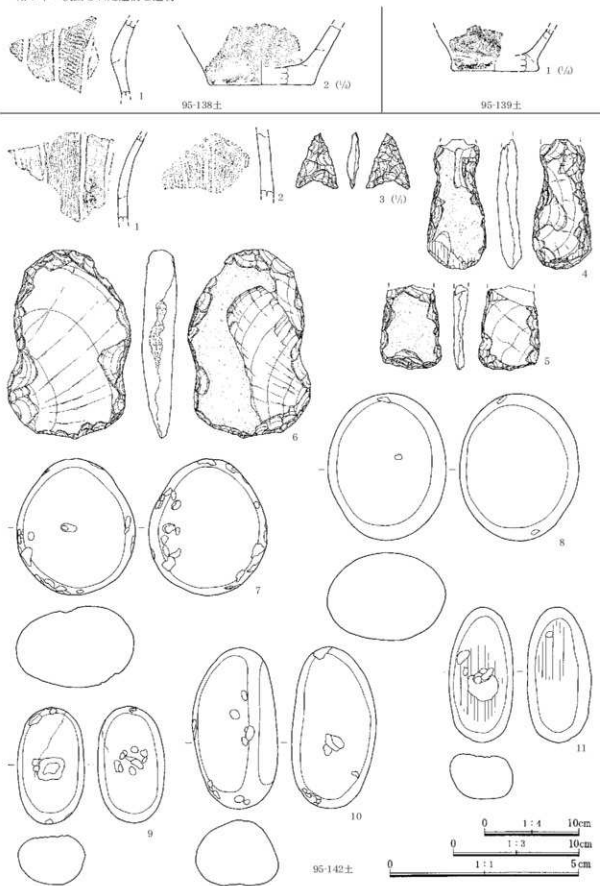


第452図 95区土坑出土遺物(4)

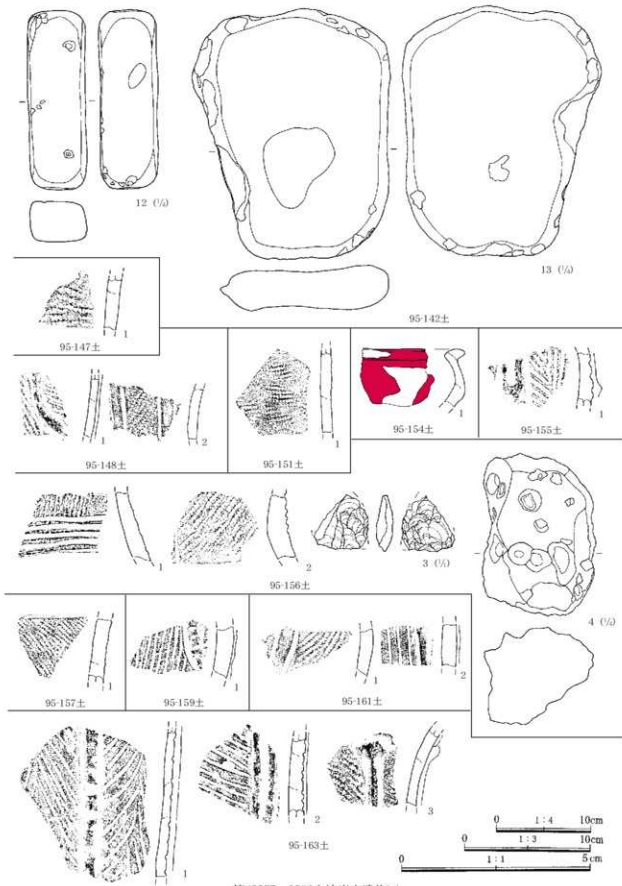


第453図 95区土坑出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

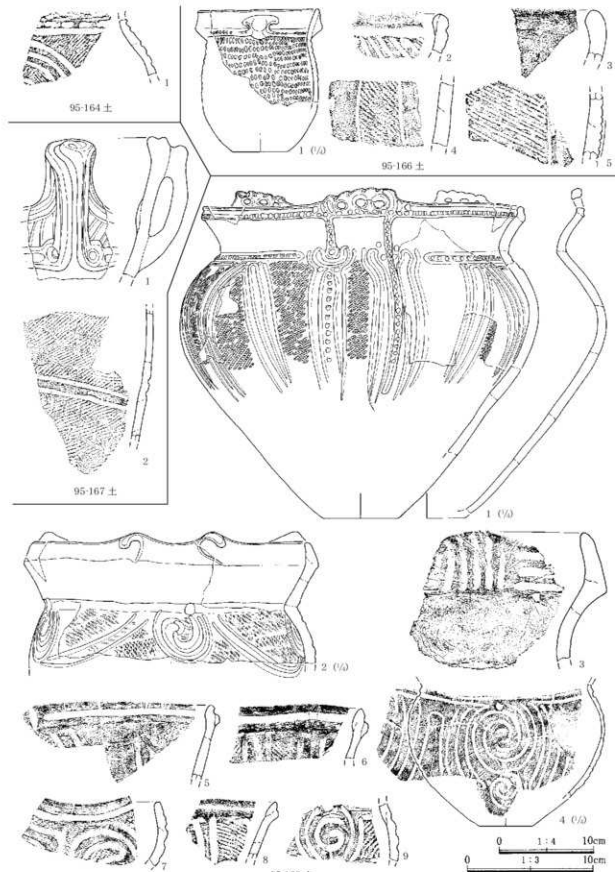


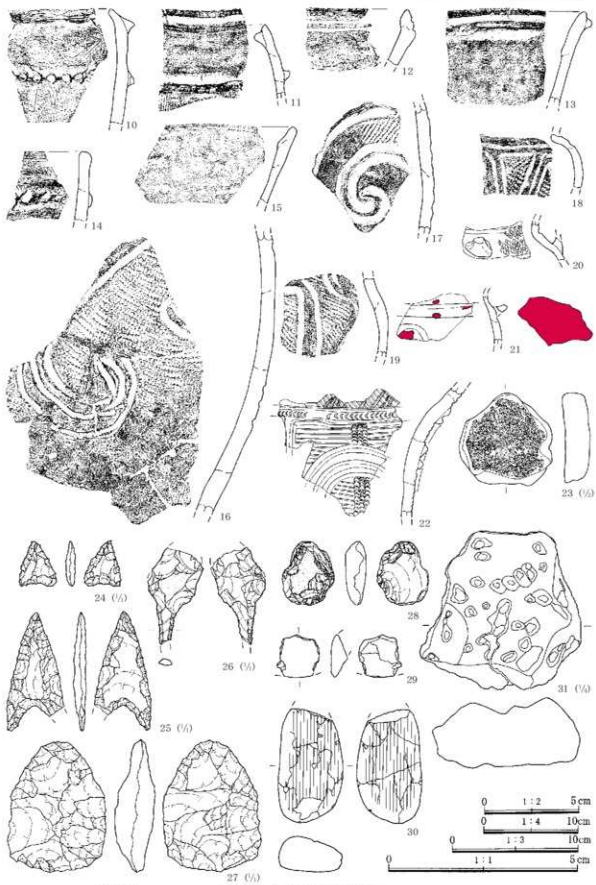
第454図 95区土坑出土遺物(6)



第455図 95区土坑出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物

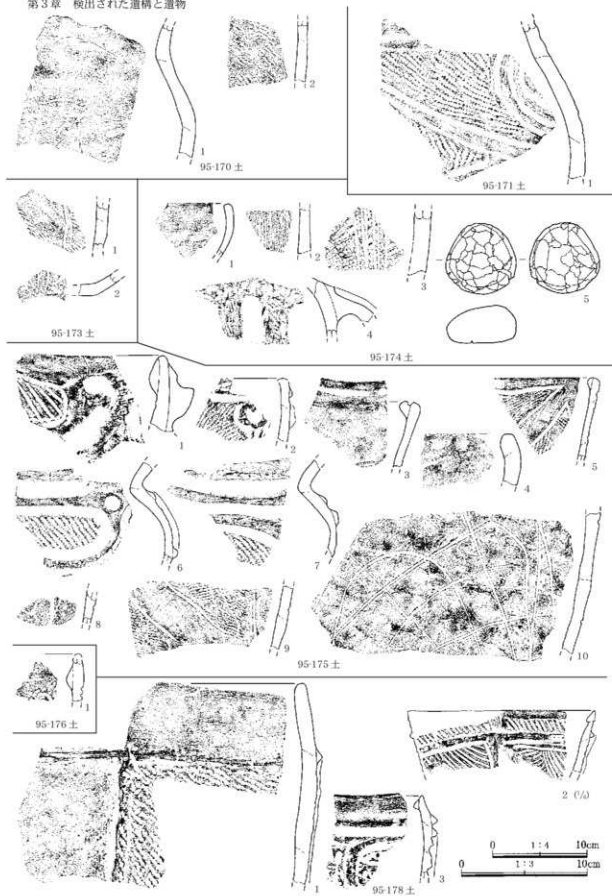




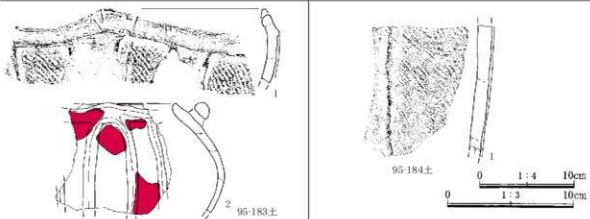
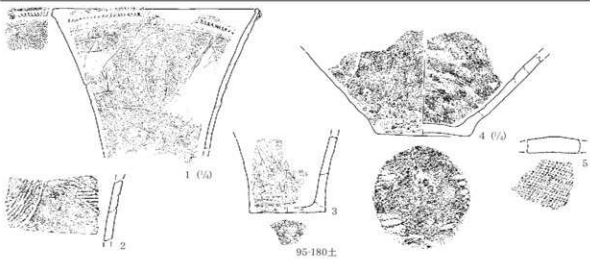
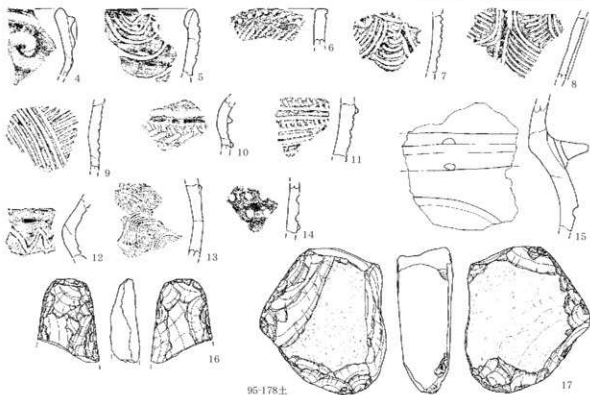
95-168土

第457図 95区土坑出土遺物(9)

第3章 検出された遺構と遺物

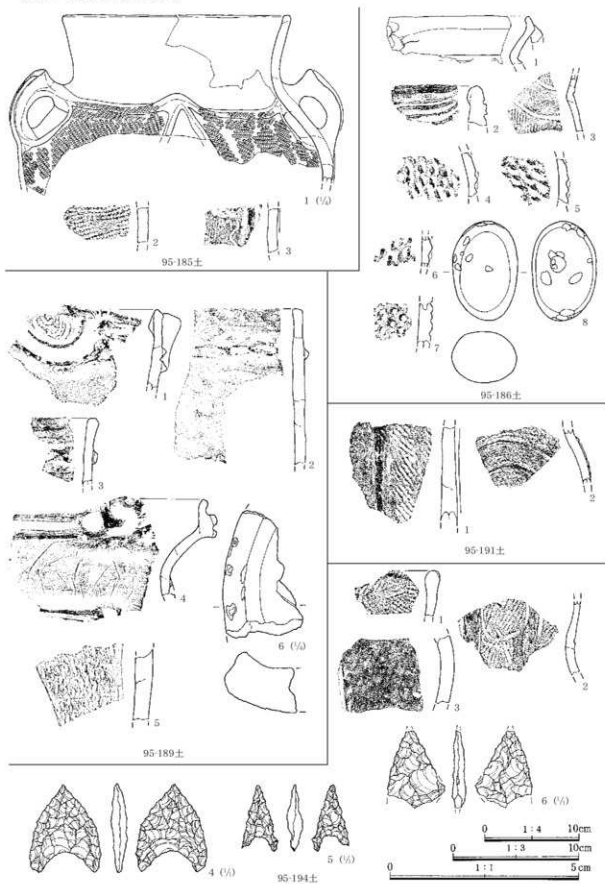


第458図 95区土坑出土遺物(10)



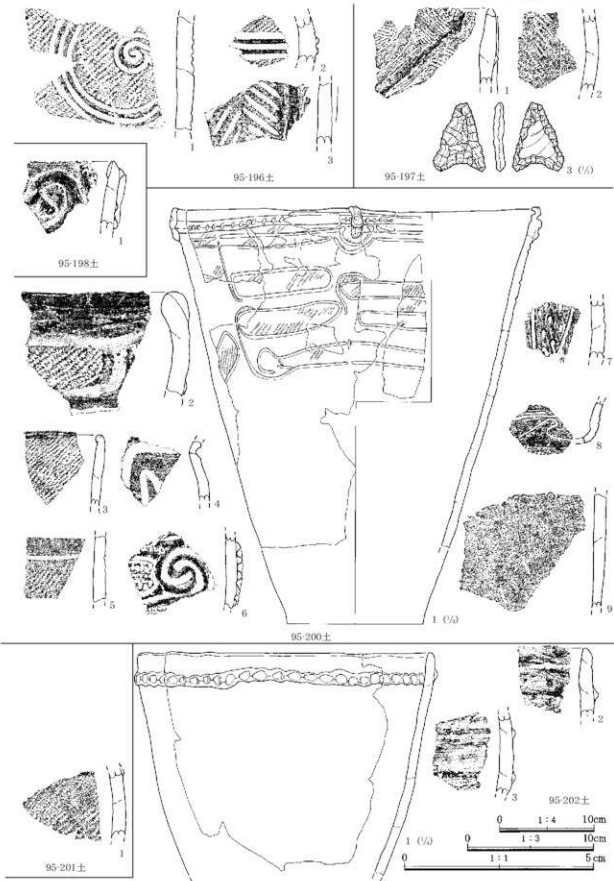
第459図 95区土坑出土遺物(II)

第3章 検出された遺構と遺物



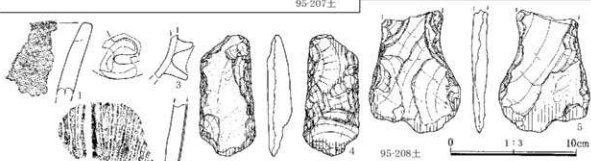
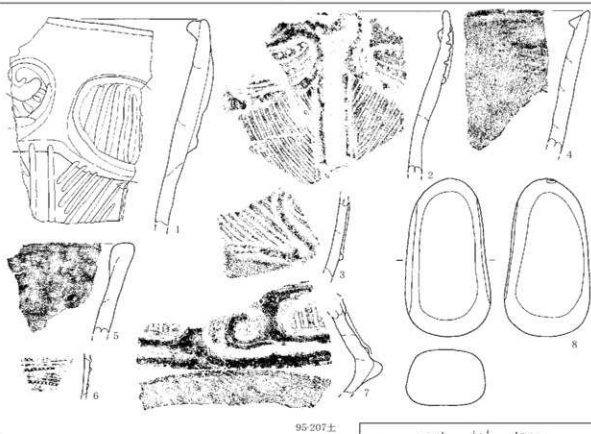
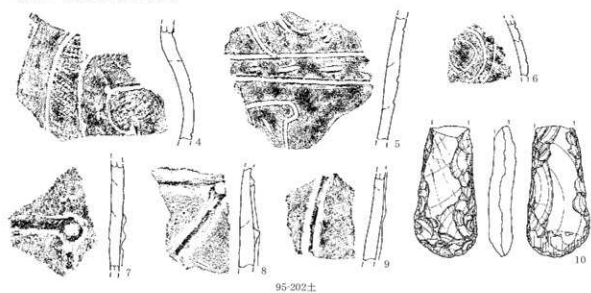
第460図 95区土坑出土遺物(2)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

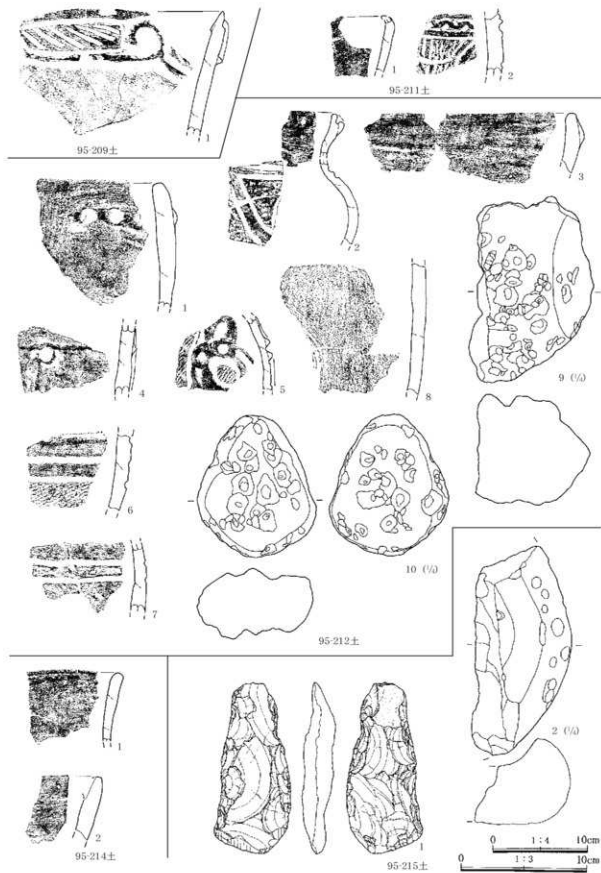


第461図 95区土坑出土遺物(13)

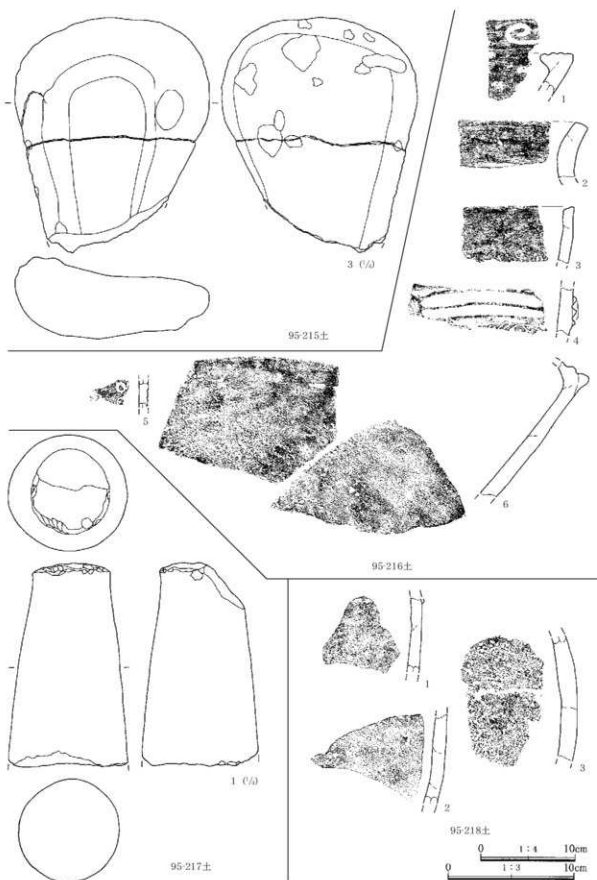
第3章 検出された遺構と遺物



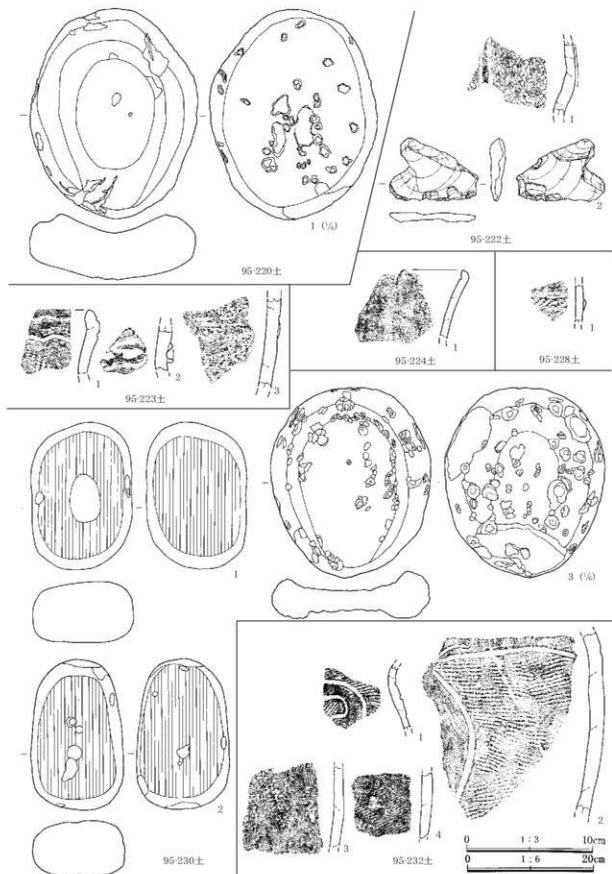
第462図 95区土坑出土遺物(4)



第463図 95区土坑出土遺物(5)

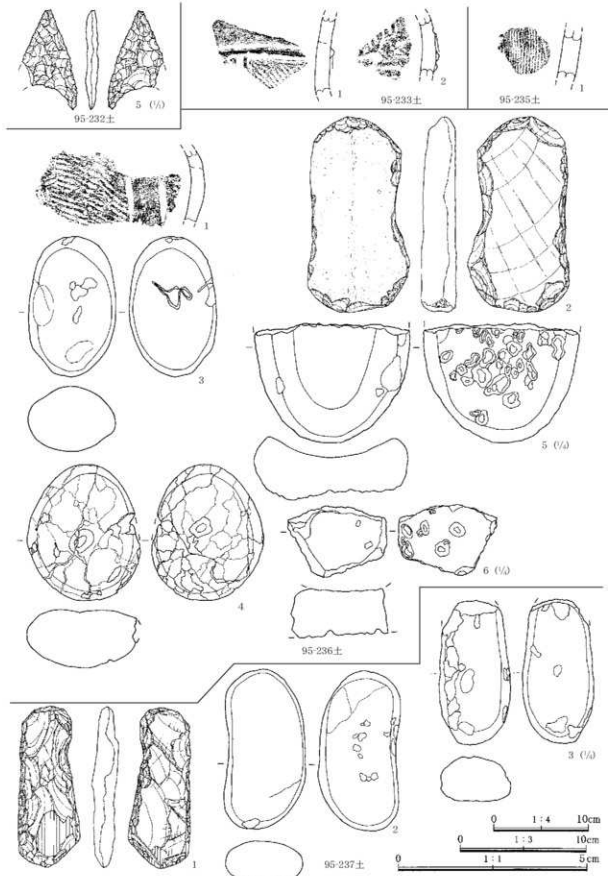


第464図 95区土坑出土遺物(6)

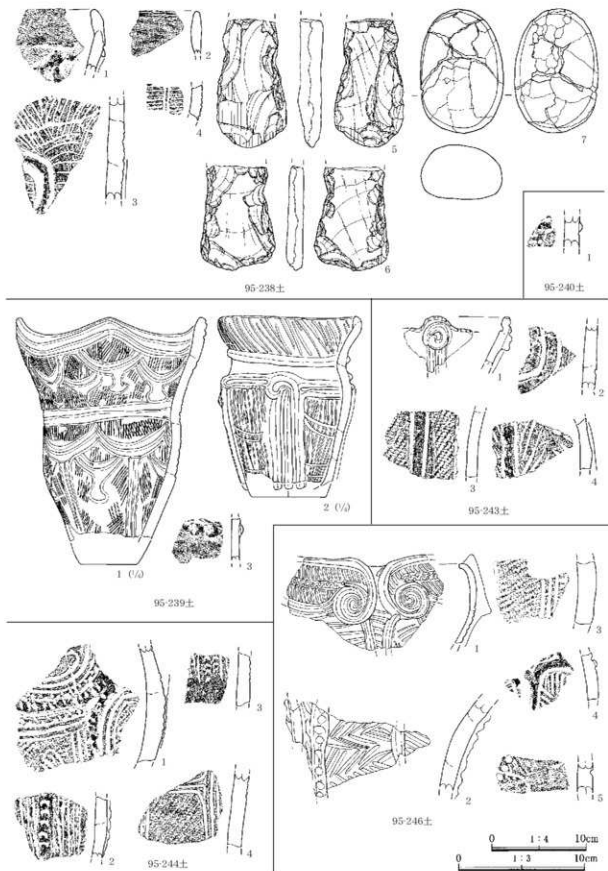


第465図 95区土坑出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物

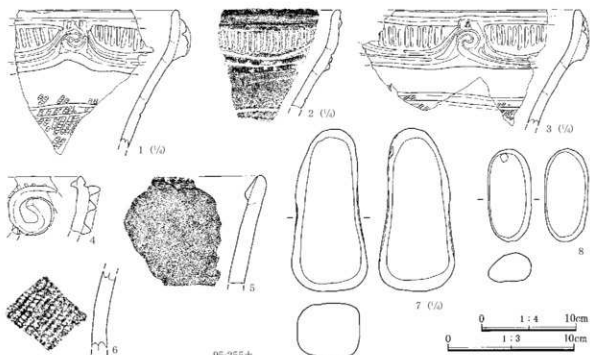
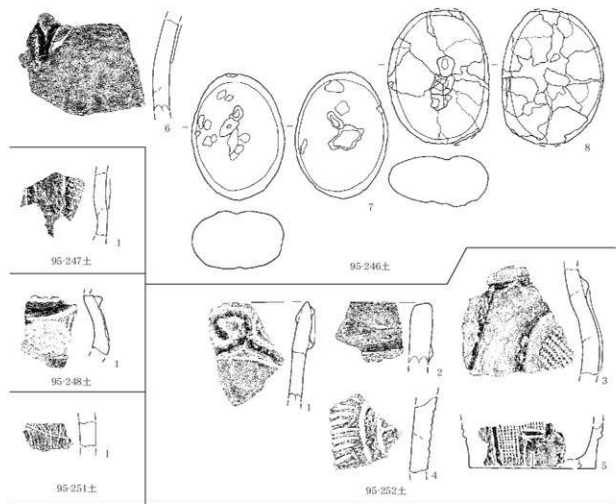


第466図 95区土坑出土遺物(8)

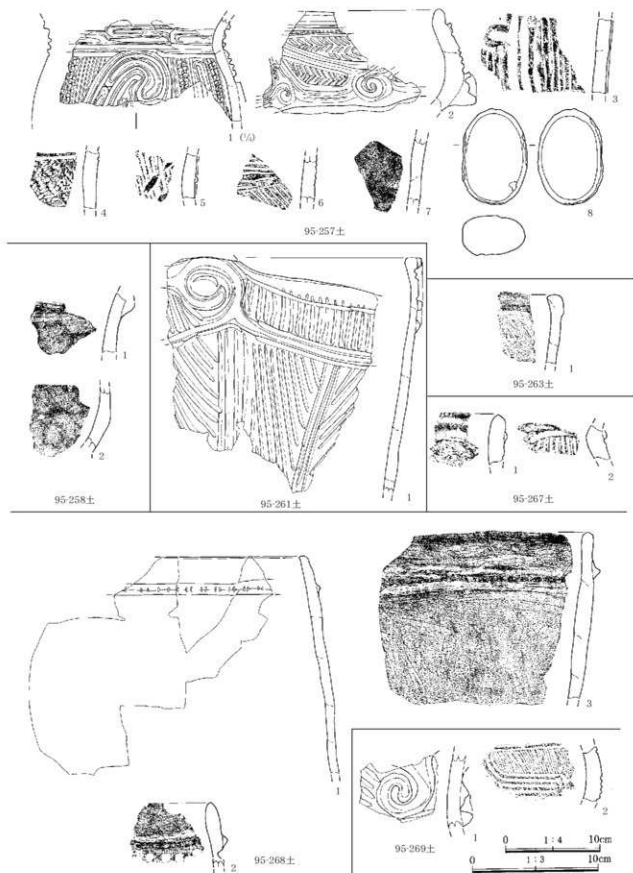


第467図 95区土坑出土遺物(19)

第3章 検出された遺構と遺物

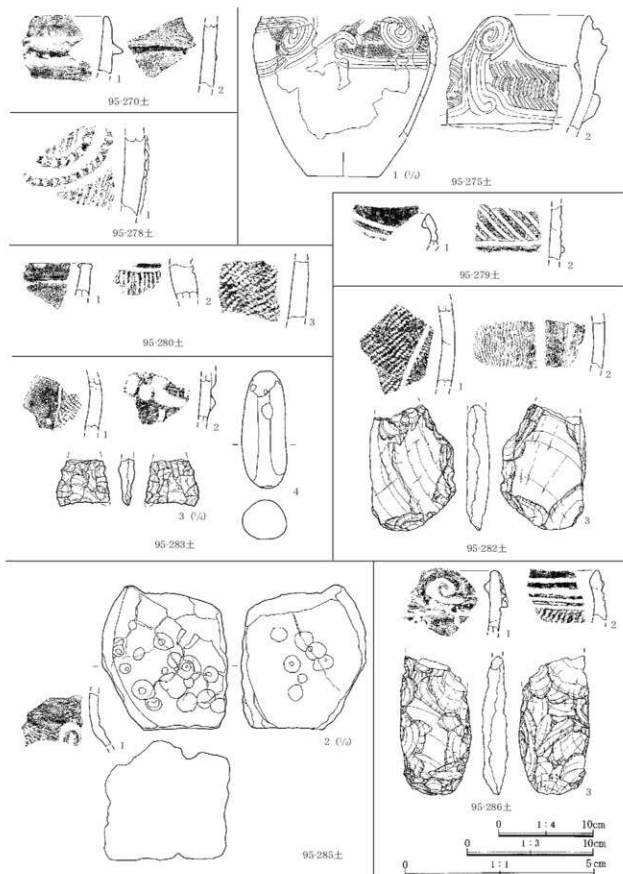


95-255土
第468図 95区土坑出土遺物(20)

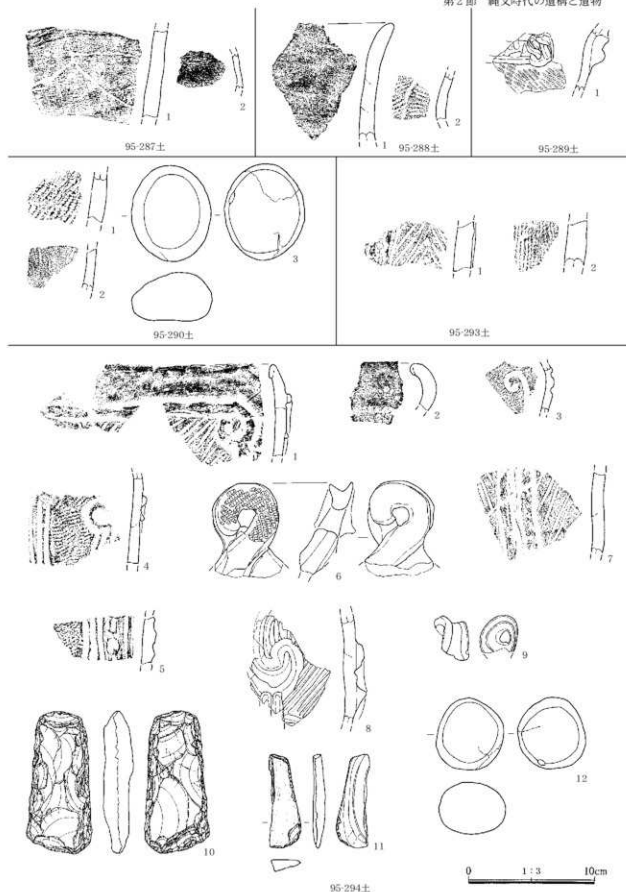


第469図 95区土坑出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

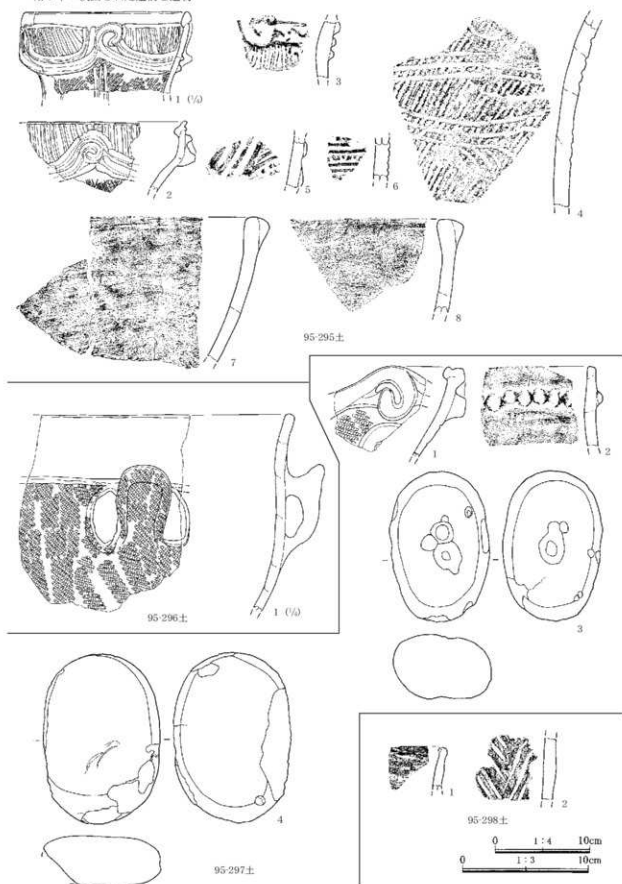


第470図 95区土坑出土遺物(2)

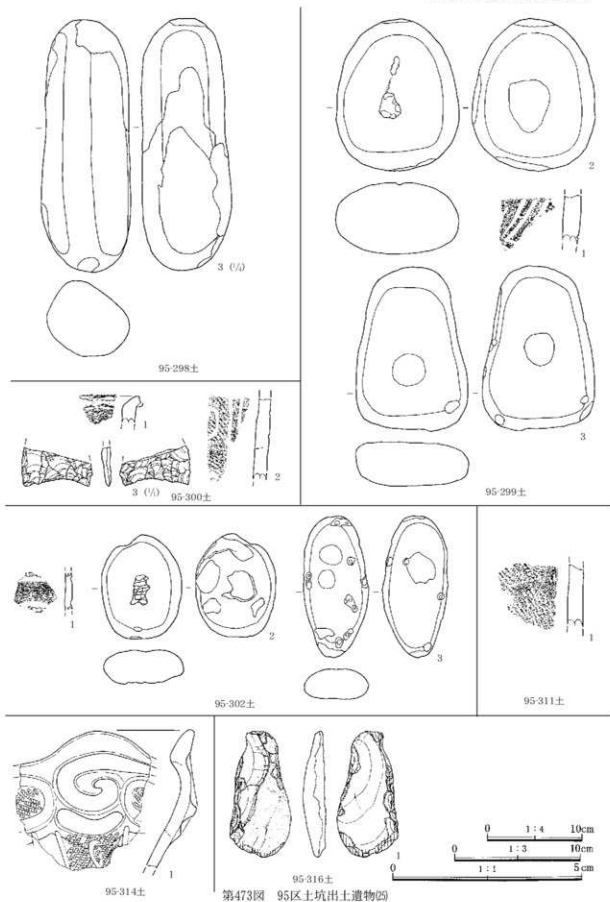


第471図 95区土坑出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

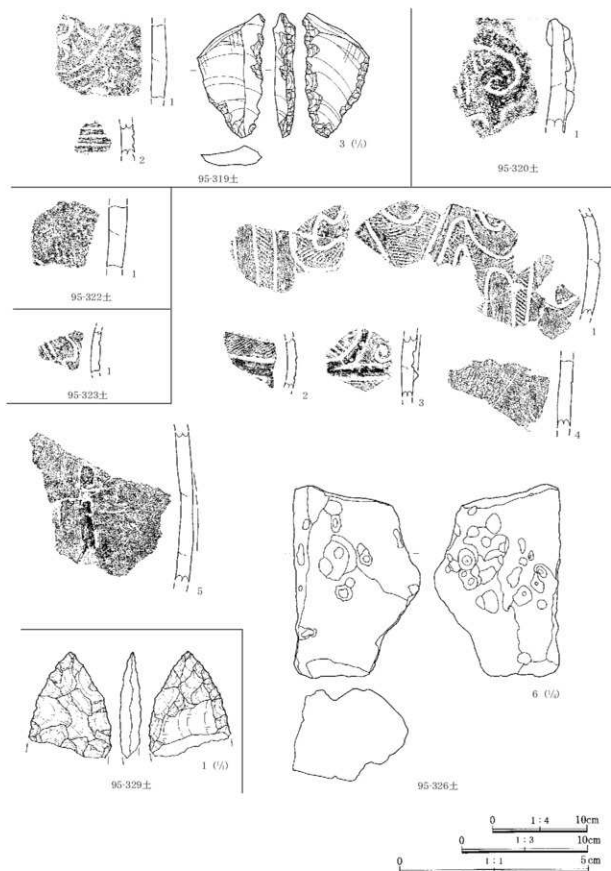


第472図 95区土坑出土遺物(2)



第473図 95区土坑出土遺物図

第3章 検出された遺構と遺物

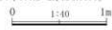
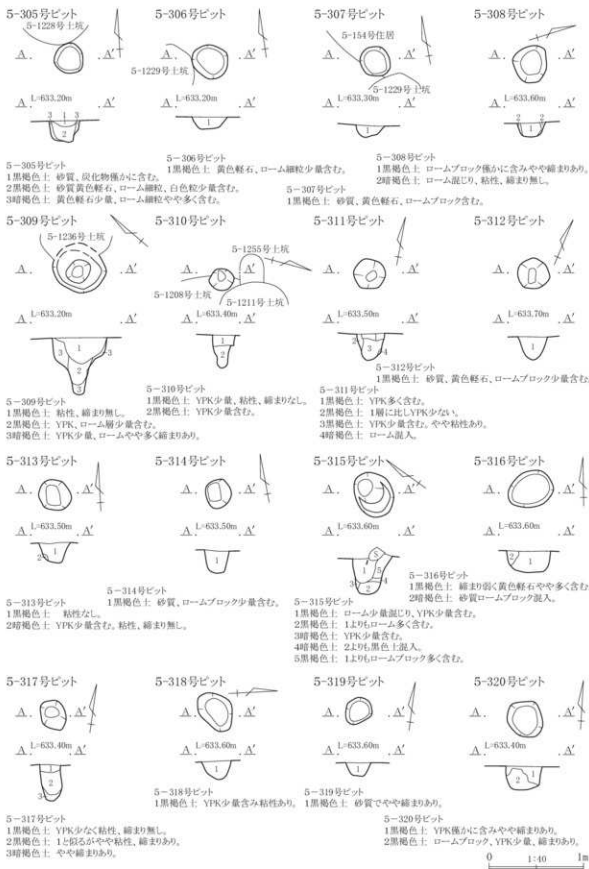


第474図 95区土坑出土遺物(2)

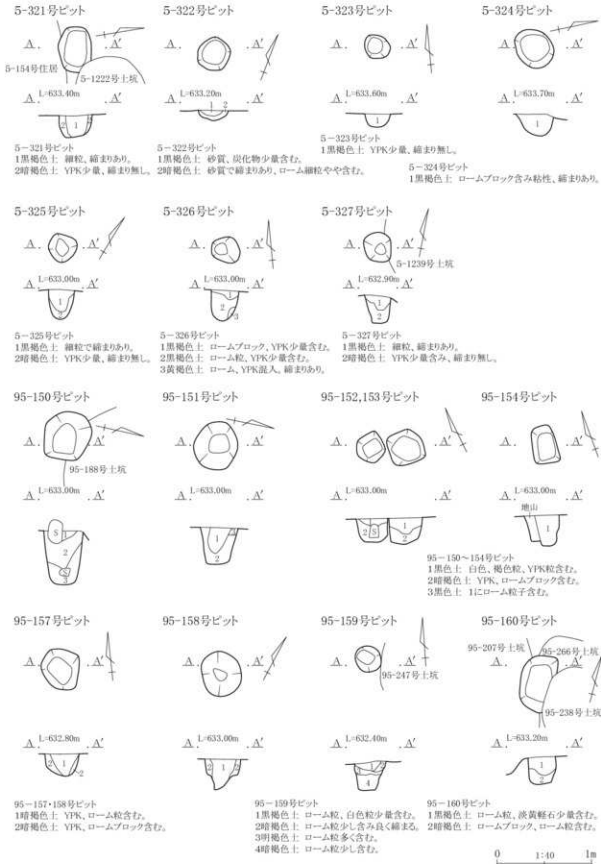


第475図 5区ピット(1)

第3章 検出された遺構と遺物



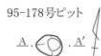
第476図 5区ピット(2)



0 1:40 1m

第477図 5・95区ピット(3)

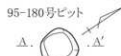
第2節 縄文時代の遺構と遺物



95-178号ピット
1黒褐色土：黄色軽石、白色粒含む。
2暗褐色土：ローム細粒や多く含む。
3黄褐色土：ロームブロック主体。



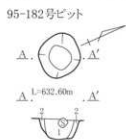
95-179号ピット
1黒褐色土



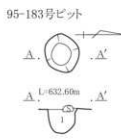
95-180号ピット
1黒褐色土：ローム解ブロック土少量含む。
2黒褐色土：YPK少量含む。
3黄褐色土：ロームブロック混入。



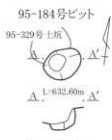
95-181号ピット
1黒褐色土：ロームブロック状に含む。
2黒褐色土：YPK少量含む。



95-182号ピット
1黒褐色土：YPK、ローム少量含む。
2暗褐色土：炭化物塊かに含む。



95-183号ピット
1黒褐色土：ローム塊かに含み結まりあり。



95-184号ピット
1黒褐色土：YPK少量。



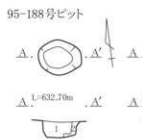
95-185号ピット
1黒褐色土：ローム小ブロック、炭化物塊かに含む。



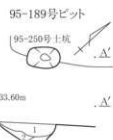
95-186号ピット
1黒褐色土：新色粒子、ローム細粒含む。



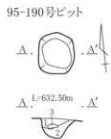
95-187号ピット
1暗褐色土
2に5に1黄褐色土：YPK粒、ローム粒含む。
3に5に1黄褐色土：ロームブロックに黒色土混入。
4黒褐色土



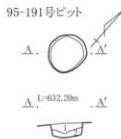
95-188号ピット
1黒色土
2暗黄褐色土：ロームブロック。



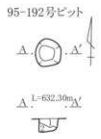
95-189号ピット
1黒褐色土：黄色軽石、白色粒少量含む。
2黒褐色土：黄色軽石、ローム細粒少量含む。
3暗褐色土
4褐色土



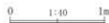
95-190号ピット
1黒褐色土：黄色軽石、白色粒少量含む。
2黒褐色土：黄色軽石、ローム細粒少量含む。
3褐色土



95-191号ピット
1黒褐色土
2暗褐色土：ロームブロック少量含む。



95-192号ピット
1黒褐色土：ロームブロック塊かに含む。
2黒褐色土：YPK、ローム少量含む。



第479図 95区ピット(5)